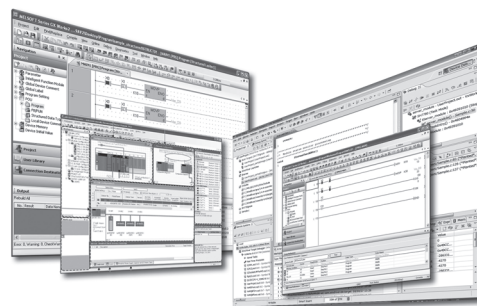


MELSOFT

エンジニアリングソフトウェア

MX Component Version 5 リファレンスマニュアル

-SW5DND-ACT-J



安全上のご注意

(ご使用前に必ずお読みください)

本製品のご使用に際しては、本マニュアルをよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って、正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。製造業者が指定していない方法で機器を用いると、機器が備えている保護が損なわれることがあります。

本マニュアルで示す注意事項は、本製品に関するもののみについて記載したものです。シーケンサシステムとしての安全上のご注意に関しては、使用するユニットのユーザーズマニュアルおよびMELSEC iQ-R ユニット構成マニュアルを参照してください。

この「安全上のご注意」では、安全注意事項のランクを「 警告」, 「 注意」として区分してあります。

 警告	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。
 注意	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に、必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

[設計上の注意事項]

警告

- パソコンから運転中のシーケンサに対するデータ変更、状態制御は常にシステム全体が安全側に働くようにシーケンサシステムの外部でインタロック回路を構成してください。
また、周辺機器からCPUユニットへのオンライン操作において、ケーブルの接続不良などによる交信異常発生時のシステムとしての処置方法を取り決めておいてください。

[設計上の注意事項]

注意

- パソコンを運転中のCPUユニットに接続して行うオンライン操作(特に強制出力、運転状態の変更)については、マニュアルを熟読し十分に安全を確認の上実施してください。
操作ミスにより機械の破損や事故の原因になります。

[セキュリティ上の注意事項]

警告

- ネットワーク経由による外部機器からの不正アクセス、DoS攻撃、コンピュータウイルスその他のサイバー攻撃に対して、シーケンサ、およびシステムのセキュリティ(可用性、完全性、機密性)を保つため、ファイアウォールやVPNの設置、コンピュータへのアンチウイルスソフト導入などの対策を盛り込んでください。

製品の適用について

- (1) 当社シーケンサをご使用いただくにあたりましては、万一シーケンサに故障・不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること、および故障・不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部でシステム的に実施されていることをご使用の条件とさせていただきます。
- (2) 当社シーケンサは、一般工業などへの用途を対象とした汎用品として設計・製作されています。
したがって、以下のような機器・システムなどの特殊用途へのご使用については、当社シーケンサの適用を除外させていただきます。万一使用された場合は当社として当社シーケンサの品質、性能、安全に関する一切の責任（債務不履行責任、瑕疵担保責任、品質保証責任、不法行為責任、製造物責任を含むがそれらに限定されない）を負わないものとさせていただきます。
 - ・ 各電力会社殿の原子力発電所およびその他発電所向けなどの公共への影響が大きい用途
 - ・ 鉄道各社殿および官公庁殿など、特別な品質保証体制の構築を当社にご要求になる用途
 - ・ 航空宇宙、医療、鉄道、燃焼・燃料装置、乗用移動体、有人搬送装置、娯楽機械、安全機械など
生命、身体、財産に大きな影響が予測される用途ただし、上記の用途であっても、具体的に用途を限定すること、特別な品質（一般仕様を超えた品質等）をご要求されないこと等を条件に、当社の判断にて当社シーケンサの適用可とする場合もございますので、詳細につきましては当社窓口へご相談ください。
- (3) DoS攻撃、不正アクセス、コンピュータウイルスその他のサイバー攻撃により発生するシーケンサ、およびシステムトラブル上の諸問題に対して、当社はその責任を負わないものとさせていただきます。

はじめに

このたびは、エンジニアリングソフトウェア MELSOFTシリーズをお買い上げいただきまことにありがとうございました。
本マニュアルは、MX Componentについてご理解いただくためのマニュアルです。

ご使用前に本マニュアルや関連マニュアルをよくお読みいただき、MX Componentの機能・性能を十分ご理解のうえ、正しくご使用くださるようお願いいたします。

なお、ご使用のOSとOSバージョンによってはメニュー名や操作手順が異なる場合があります。本マニュアルをお読みいただく際は、必要に応じてご使用のOSとOSバージョンに読み替えてください。

目次

安全上のご注意.....	1
製品の適用について.....	2
はじめに.....	3
関連マニュアル.....	12
用語.....	12
総称/略称.....	13

第1部 基本と開発の流れ

第1章 MX Componentの基本	16
1.1 ご使用の前に.....	16
MX Componentの活用.....	16
1.2 コントロールの種類.....	21
コントローラー一覧.....	21
1.3 ラベルの種類.....	22
グローバルラベル名を指定したデータ取得.....	22
1.4 ユーティリティの種類.....	27
第2章 システム構成	29
2.1 動作環境.....	29
2.2 サポートする通信経路.....	29
2.3 システム構成一覧.....	30
各通信経路のシステム構成例.....	30
2.4 使用可能な機種一覧.....	32
CPUユニット.....	32
ユニット.....	34
2.5 各通信経路の詳細内容.....	35
第3章 ユーザプログラムの開発手順	41
3.1 MX Componentのインストール.....	41
バージョンの確認.....	41
マニュアルを開く.....	41
3.2 使用するコントロールの把握.....	42
3.3 通信設定方法の選択.....	42
3.4 ユーザプログラムへのコントロールの追加.....	43
3.5 ユーザプログラムの新規作成.....	43
3.6 通信設定.....	43
3.7 プログラミング.....	43
第4章 ユーザプログラムへのコントロールの追加	44
4.1 VBAを使用する場合.....	44
4.2 Visual Basic .NET, Visual C#を使用する場合.....	48
4.3 Visual C++を使用する場合.....	51
第5章 通信設定	56
5.1 ユーティリティを使った設定.....	56

通信設定ユーティリティの起動.....	56
[通信設定]タブ	57
[一覧表示]タブ	62
[通信テスト]タブ.....	63
通信設定のエクスポートとインポート	64
作成した論理局番をプログラムの中で指定する	66
5.2 プログラムで設定する.....	67
通信設定ユーティリティでプロパティを確認する	67
ユーザプログラムの中で必要なプロパティを設定する.....	69
第6章 通信設定例(ユーティリティ使用時)	70
6.1 シリアルコミュニケーション通信	70
アクセスまでの手順.....	70
論理局番の設定例	71
シリアルコミュニケーションユニットの設定.....	72
6.2 Ethernet通信(Ethernetユニット使用時).....	77
アクセスまでの手順.....	77
論理局番の設定例	78
ユニットの設定	79
6.3 Ethernet通信(Ethernet内蔵形CPU使用時).....	81
アクセスまでの手順.....	81
論理局番の設定例	82
ユニットの設定	83
6.4 Ethernet通信(Ethernetアダプタユニット使用時)	84
アクセスまでの手順.....	84
論理局番の設定例	84
6.5 Ethernet通信(Ethernetアダプタ使用時).....	85
アクセスまでの手順.....	85
論理局番の設定例	86
6.6 CPU COM通信.....	87
アクセスまでの手順.....	87
論理局番の設定例	87
6.7 CPU USB通信	88
アクセスまでの手順.....	88
論理局番の設定例	88
6.8 CC-Link通信	89
アクセスまでの手順.....	89
論理局番の設定例	90
ユニットの設定	91
6.9 CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信.....	92
アクセスまでの手順.....	92
論理局番の設定例	92
6.10 GX Simulator2通信	93
アクセスまでの手順.....	93
論理局番の設定例	93
6.11 GX Simulator3通信	94
アクセスまでの手順.....	94
論理局番の設定例	95
6.12 MT Simulator2通信.....	96
アクセスまでの手順.....	96

	論理局番の設定例	96
6.13	MELSOFT Mirror通信	97
	アクセスまでの手順	97
	論理局番の設定例	98
6.14	MELSECNET/H通信	99
	アクセスまでの手順	99
	論理局番の設定例	99
6.15	CC-Link IEコントローラネットワーク通信	101
	アクセスまでの手順	101
	論理局番の設定例	101
6.16	CC-Link IEフィールドネットワーク通信	104
	アクセスまでの手順	104
	論理局番の設定例	104
6.17	CC-Link IE TSN通信	106
	アクセスまでの手順	106
	論理局番の設定例	106
6.18	GOTゲートウェイデバイス通信	108
	アクセスまでの手順	108
	論理局番の設定例	109
6.19	GOTトランスペアレント通信	110
	アクセスまでの手順	110
	論理局番の設定例	111
6.20	インバータCOM通信	112
	アクセスまでの手順	112
	論理局番の設定例	112
6.21	インバータUSB通信	113
	アクセスまでの手順	113
	論理局番の設定例	113
6.22	ロボットコントローラCOM通信	114
	アクセスまでの手順	114
	論理局番の設定例	114
6.23	ロボットコントローラUSB通信	115
	アクセスまでの手順	115
	論理局番の設定例	115
6.24	ロボットコントローラEthernet通信	116
	アクセスまでの手順	116
	論理局番の設定例	116
第7章 プログラミング		117
7.1	ラベル管理ユーティリティを使ったラベルの作成	117
	ラベル管理ユーティリティの起動	117
	ラベル管理画面	117
	論理局番の登録/削除	119
	システムラベルリスト	120
	構造体設定	125
	ワークスペースの参照登録/解除	126
	変更通知	127
	システムラベルデータの最新化	128
	ラベルスペースのエクスポートとインポート	129
	システムラベルについて	130

7.2	コーディング	144
7.3	デバッグ.....	145
	シーケンサモニタユーティリティを使って値の確認をする	145

第2部 プログラムの詳細仕様

第8章 アクセス可能デバイスおよびデバイスタイプ 156

8.1	アクセス可能デバイス.....	156
	アクセス先がCPUユニット(モーションCPUおよびWinCPU以外).....	157
	アクセス先がモーションCPU	159
	アクセス先がWinCPU.....	160
	アクセス先がRnSFCPUおよびRnPSFCPU(安全デバイス).....	160
	アクセス先がCC-Link通信時の自ボード	161
	アクセス先がMELSECNET/H通信時の自ボード.....	161
	アクセス先がCC-Link IEコントローラネットワーク通信時の自ボード	161
	アクセス先がCC-Link IEフィールドネットワーク通信時の自ボード.....	161
	アクセス先がCC-Link IE TSN通信時の自ボード.....	162
	アクセス先がインバータ.....	163
	アクセス先がロボットコントローラ	164
8.2	デバイスタイプ	165

第9章 コントロールのプロパティ 172

9.1	プロパティ一覧.....	172
9.2	プロパティの詳細	174

第10章 各通信経路で設定するプロパティ 183

10.1	シリアルコミュニケーション通信	183
	接続局がMELSEC iQ-Rシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(1)	183
	接続局がMELSEC iQ-Rシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(2)	186
	接続局がQシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(1)	188
	接続局がQシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(2)	191
	接続局がLシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(1).....	193
	接続局がLシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(2).....	196
	接続局がFX拡張ポートのシリアルコミュニケーション通信	198
10.2	Ethernet通信	200
	接続局がMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のEthernet通信(TCP)	200
	接続局がMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のEthernet通信(UDP).....	203
	接続局がQシリーズ対応E71のEthernet通信(TCP)	206
	接続局がQシリーズ対応E71のEthernet通信(UDP).....	209
	接続局がLシリーズ対応E71のEthernet通信(TCP).....	212
	接続局がLシリーズ対応E71のEthernet通信(UDP)	215
	接続局がMELSEC iQ-RシリーズCPUユニットのEthernet通信(TCP)	218
	接続局がMELSEC iQ-RシリーズCPUユニットのEthernet通信(UDP).....	222
	接続局がLHCPUのEthernet通信(TCP).....	226
	接続局がLHCPUのEthernet通信(UDP)	228
	接続局がFX5CPUのEthernet通信(TCP).....	230
	接続局がFX5CPUのEthernet通信(UDP)	232
	接続局がEthernetポート内蔵QCPUのEthernet通信(TCP)	234
	接続局がEthernetポート内蔵QCPUのEthernet通信(UDP).....	238
	接続局がEthernetポート内蔵LCPUのEthernet通信(TCP).....	242

接続局がEthernetポート内蔵LCPUのEthernet通信(UDP)	245
接続局がEthernetアダプタユニットのEthernet通信(TCP)	248
接続局がEthernetアダプタユニットのEthernet通信(UDP)	251
接続局がEthernetアダプタのEthernet通信(TCP)(1)	254
接続局がEthernetアダプタのEthernet通信(TCP)(2)	255
接続局がEthernetアダプタのEthernet通信(UDP)(1)	257
接続局がEthernetアダプタのEthernet通信(UDP)(2)	258
接続局がEthernetアダプタのEthernet通信(UDP)(3)	260
接続局がロボットコントローラのEthernet通信	262
接続局がCC-Link IE TSNユニットのEthernet通信(TCP)	263
接続局がCC-Link IE TSNユニットのEthernet通信(UDP)	266
10.3 CPU COM通信	269
接続局がFX5CPUのCPU COM通信	269
接続局がQCPU(Qモード)のCPU COM通信	271
接続局がLCPUのCPU COM通信	274
接続局がQモーションCPUのCPU COM通信	277
接続局がFXCPUのCPU COM通信	279
接続局がインバータのCPU COM通信	281
接続局がロボットコントローラのCPU COM通信	282
10.4 CPU USB通信	283
接続局がRCPUのCPU USB通信	283
接続局がRモーションCPUのCPU USB通信	286
接続局がLHCPUのCPU USB通信	288
接続局がFX5CPUのCPU USB通信	290
接続局がQCPU(Qモード)のCPU USB通信	292
接続局がLCPUのCPU USB通信	295
接続局がQSCPUのCPU USB通信	298
接続局がQモーションCPUのCPU USB通信	299
接続局がFXCPUのCPU USB通信	300
接続局がインバータのCPU USB通信	301
接続局がロボットコントローラのCPU USB通信	302
10.5 MELSECNET/H通信	303
10.6 CC-Link IEコントローラネットワーク通信	306
接続局がRCPUのCC-Link IEコントローラネットワーク通信	306
接続局がQシリーズのCC-Link IEコントローラネットワーク通信	308
10.7 CC-Link IEフィールドネットワーク通信	311
接続局がRCPUのCC-Link IEフィールドネットワーク通信	311
接続局がQCPU(Qモード)またはLCPUのCC-Link IEフィールドネットワーク通信	313
10.8 CC-Link IE TSN通信	315
接続局がRCPUのCC-Link IE TSN通信	315
10.9 CC-Link通信	317
接続局がRCPUのCC-Link通信	317
接続局がLCPUのCC-Link通信	319
接続局がQシリーズのCC-Link通信	320
10.10 CC-Linkシステム RS-232Cインタフェース通信	323
10.11 GX Simulator2通信	326
10.12 GX Simulator3通信	326
10.13 MT Simulator2通信	327
10.14 MELSOFT Mirror通信	327
10.15 GOTゲートウェイデバイス通信	328
10.16 GOTトランスペアレント通信	329

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: 直結(1).....	329
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: 直結(2).....	331
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: 直結(3).....	333
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: 直結(4).....	336
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: バス	338
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(1)	341
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(2)	344
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(3)	346
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(4)	348
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(5)	350
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(6)	352
パソコン側ポート: シリアル, GOT2000側ポート: シリアル, CPU側ポート: MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71 .	354
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71	357
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Qシリーズ対応E71	360
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Lシリーズ対応E71.....	363
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetポート(1).....	366
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetポート(2).....	369
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetポート(3).....	371
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetポート(4).....	375
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetアダプタユニット	378
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetアダプタ/Ethernetユニット	382
パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetユニット	384
パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアル(1)	386
パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアル(2)	388
パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアル(3)	390
パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアル(4)	392
パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(1).....	393
パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(2).....	396
パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(3).....	398
パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: バス	400
パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: Ethernetポート	403
パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: Qシリーズ対応E71 ..	405

第11章 関数

407

11.1 プログラミング時の注意事項	407
11.2 関数一覧.....	411
11.3 関数の詳細(Actコントロール用).....	413
Open(通信回線のオープン)	413
Close(通信回線のクローズ)	415
ReadDeviceBlock(デバイスの一括読出し)	416
WriteDeviceBlock(デバイスの一括書込み)	419
ReadDeviceRandom(デバイスのランダム読出し).....	423
WriteDeviceRandom(デバイスのランダム書込み)	427
SetDevice(デバイスデータの設定)	430
GetDevice(デバイスデータの取得)	432
ReadBuffer(バッファメモリ読出し)	435
WriteBuffer(バッファメモリ書込み)	439

GetClockData(時計データ読出し)	443
SetClockData(時計データ書込み)	448
GetCpuType(CPUユニット形名読出し)	452
SetCpuStatus(リモートコントロール)	454
EntryDeviceStatus(デバイスの状態監視登録)	457
FreeDeviceStatus(デバイスの状態監視登録解除)	461
OnDeviceStatus(イベント告知)	462
ReadDeviceBlock2(デバイスの一括読出し)	465
WriteDeviceBlock2(デバイスの一括書込み)	468
ReadDeviceRandom2(デバイスのランダム読出し)	471
WriteDeviceRandom2(デバイスのランダム書込み)	474
SetDevice2(デバイスデータの設定)	477
GetDevice2(デバイスデータの取得)	480
GetErrorMessage(エラー内容と処置方法の取得)	483
11.4 関数の詳細(Actコントロール用(ロギングファイル転送))	485
Open(通信回線のオープン)	485
Close(通信回線のクローズ)	487
ReadFirstFile(ファイル名/ディレクトリ名の検索)	488
ReadNextFile(ファイル名/ディレクトリ名の検索)	490
ReadClose(検索の終了)	492
GetFile(ロギングファイルの転送)	493
11.5 関数の詳細(.Netコントロール用)	495
Open(通信回線のオープン)	495
Close(通信回線のクローズ)	496
ReadDeviceBlock(デバイスの一括読出し)	497
WriteDeviceBlock(デバイスの一括書込み)	503
ReadDeviceRandom(デバイスのランダム読出し)	509
WriteDeviceRandom(デバイスのランダム書込み)	520
SetDevice(デバイスデータの設定)	531
GetDevice(デバイスデータの取得)	535
ReadBuffer(バッファメモリ読出し)	539
WriteBuffer(バッファメモリ書込み)	541
GetClockData(時計データ読出し)	543
SetClockData(時計データ書込み)	545
GetCpuType(CPUユニット形名読出し)	547
SetCpuStatus(リモートコントロール)	548
EntryDeviceStatus(デバイスの状態監視登録)	549
FreeDeviceStatus(デバイスの状態監視登録解除)	553
OnDeviceStatus(イベント告知)	554
ReadDeviceBlock2(デバイスの一括読出し)	556
WriteDeviceBlock2(デバイスの一括書込み)	560
ReadDeviceRandom2(デバイスのランダム読出し)	565
WriteDeviceRandom2(デバイスのランダム書込み)	574
SetDevice2(デバイスデータの設定)	585
GetDevice2(デバイスデータの取得)	589
Dispose(メモリの解放)	592
第12章 サンプルプログラム	593
12.1 Visual Basic.NET, Visual C#, Visual C++	595
Act_2019.sln, Dot_2019.sln	595

ActDatalogging_2019.sln.....	598
12.2 VBA	599
Access用(ActTest_EarlyBind.accdb, ActTest_LateBind.accdb, ActTest64.accdb).....	599
Excel用(ActUtilType.xlsm, ActUtilType64.xlsm, ActProgType.xlsm, ActProgType64.xlsm).....	603
第13章 エラーコード	607
13.1 エラーコード一覧.....	607
13.2 CPU, ユニット, ネットワークボードが返すエラーコード.....	634
13.3 HRESULT型のエラーコード.....	635
13.4 イベントビューアに表示されるエラーコード.....	635
付録	636
付1 以前のバージョンからの変更点.....	636
付2 ルーチングパラメータの考え方.....	638
付3 マルチCPUシステムについて.....	640
付4 Q00UJCPU, Q00UCPU, Q01UCPU使用時のネットワークユニットの装着可能台数について.....	641
付5 二重化CPUへの対応について.....	642
RnPCPU(二重化モード)またはRnPSFCPUの場合.....	642
QnPRHの場合.....	645
付6 ラベル名で使えない文字列.....	653
付7 性能.....	655
MX Component(コントロール)の性能.....	655
ラベル管理サービスの性能.....	656
ラベル管理ユーティリティの性能.....	657
付8 USBドライバのインストール.....	659
付9 ワードデバイスを状態監視する場合のプログラミング例.....	660
付10 タイムアウト時間について.....	663
タイムアウトエラーでリトライする場合.....	663
受信データエラーでリトライする場合.....	663
Actコントロール内部の固定時間でタイムアウトが発生する場合.....	663
付11 トラブルシューティング.....	664
Visual C++でフォームに貼り付けて使用する際に、ヘッダファイルが正しく作成されない場合.....	666
Visual Studio .NET を使用して、コントロールを使用するための設定でエラーが発生した場合.....	667
Visual C++を使用して、ユーザプログラムを作成するときにリンクエラーが発生した場合.....	668
GX Simulator3との通信時に未起動エラーが発生した場合.....	669
付12 従来品との相違点および互換性.....	670
MX Component Version 4との比較.....	671
コントロールの比較.....	674
置き換えについて.....	677
関数索引	678
改訂履歴.....	680
保証について.....	681
サービスのお問い合わせ.....	682
商標.....	682
著作権.....	682

関連マニュアル

本製品に関連するマニュアルには、下記のものがあります。
最新のマニュアルは、三菱電機FAサイトからダウンロードできます。
www.MitsubishiElectric.co.jp/fa

マニュアル名称[マニュアル番号]	内容
MX Component Version 5 リファレンスマニュアル [SH-082394](本マニュアル)	MX Component Version 5の操作方法、プログラミング手順、およびエラーコードなどについて記載しています。

用語

本マニュアルでは、特に明記する場合を除き、下記の用語を使用して説明します。

用語	内容
A系	二重化システムにおいて、2つのシステムを判別するため、A系に設定したシステムです。 A系およびB系があり、接続した2つのシステムを判別するために使用します。
B系	二重化システムにおいて、2つのシステムを判別するため、B系に設定したシステムです。 A系およびB系があり、接続した2つのシステムを判別するために使用します。
Ethernetポート直結接続	シーケンサとパソコンを、ハブを使用せずに直接接続することです。
MELSOFT Navigator	MELSOFT iQ Worksの中の統合開発環境を示します。
インテリジェント機能ユニット	A/D、D/A変換ユニットなど入出力以外の機能を持つユニットです。
エンジニアリングツール	シーケンサの設定、プログラミング、デバッグ、保守までを行うためのツールです。
シーケンスプログラム	有接点シーケンスを、そのままシーケンサの言語に対応できるように考案されたプログラム方式です。縦2本の制御母線を描き、母線と母線の間に接点などを記述してプログラミングします。
プロセスCPU	プロセス制御とシーケンス制御を行うCPUユニットです。プロセス制御FBやオンラインユニット交換などができます。 二重化機能ユニットと組み合わせて使用し、二重化システムを構成できます。
マスタ局	ネットワーク全体を制御する局です。すべての局とサイクリック伝送およびトランジェント伝送ができます。1ネットワークに1台のみ存在します。
マルチCPUシステム	複数台(2~4台)のCPUユニットで、それぞれが管理する入出力ユニットやインテリジェント機能ユニットを制御するシステムです。
安全CPU	安全機能ユニットと組み合わせて使用し、一般制御と安全制御を行うCPUユニットです。
管理CPU	各入出力ユニット、インテリジェント機能ユニットを制御するCPUユニットです。マルチCPUシステムでは、ユニットごとに管理CPUを設定します。
管理局	ネットワークを管理する局で、1ネットワークに1台のみ存在します。管理局に、サイクリック伝送の各局送信範囲を割り付けます。
系切替え	二重化システム構成時、制御系の故障または異常時にシステムの運転を継続させるために、制御系と待機系を切り替えます。
自系	二重化システム構成時に制御の対象となっているCPUユニットの系です。
制御系	二重化システム構成時に制御やネットワークの通信を行っているシステムです。
待機系	二重化システム構成時のバックアップ用のシステムです。
他局	接続局(自局)と接続しているネットワーク上の局を示します。
他系	トラッキングケーブルで自系に接続されているもう一方のシステムです。A系が自系の場合はB系が、B系が自系の場合はA系が他系になります。
中継局	1台のシーケンサに複数のネットワークユニットを装着し、他ネットワークへのデータリンクを中継する局です。
二重化システム	CPUユニット、電源ユニット、ネットワークユニットなどの基本システムを二重化し、一方のシステムで異常が発生しても、もう一方のシステムで制御を継続できるシステムです。

総称/略称

本マニュアルでは、特に明記する場合を除き、下記の総称/略称を使用して説明します。

総称/略称	内容
Actコントロール	MX Componentが提供するActiveXコントロールを示します。
CC-Link IE TSNボード	CC-Link IE TSNインタフェースボードを示します。
CC-Link IEコントローラネットワークボード	CC-Link IEコントローラネットワークインタフェースボードを示します。
CC-Link IEフィールドネットワークボード	CC-Link IEフィールドネットワークインタフェースボードを示します。
CC-Link Ver.2ボード	CC-Linkシステムマスタ・ローカルインタフェースボードを示します。
C言語コントローラ	R12CCPU-V, Q12DCCPU-V(基本機能モード), Q12DCCPU-V(機能拡張モード), Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSを示します。
Ethernetアダプタユニット	NZ2GF-ETB形CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタユニットを示します。
Ethernetポート内蔵QCPU	Ethernetポートを有するQシリーズのCPUを示します。
Ethernetユニット	MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71, Qシリーズ対応E71, Lシリーズ対応E71を示します。
Ethernet内蔵形CPU	Ethernetポートを有するCPUを示します。
GOT	三菱電機グラフィックオペレーションターミナルGOT2000シリーズを示します。
GT SoftGOT	GT SoftGOT2000 Version1を示します。
MELSECNET/Hボード	MELSECNET/Hインタフェースボードを示します。
Q12DCCPU-V(機能拡張モード)	Q12DCCPU-Vを機能拡張モードで初期化した状態です。 Q12DCCPU-V(機能拡張モード)については、下記を参照してください。  MELSEC-Q C言語コントローラユニットユーザーズマニュアル
Q12DCCPU-V(基本機能モード)	Q12DCCPU-Vを基本機能モードで初期化した状態です。 Q12DCCPU-V(基本機能モード)については、下記を参照してください。  C言語コントローラユニットユーザーズマニュアル(ハードウェア設計・機能解説編)
QnPRH	Q12PRHCPU, Q25PRHCPUを示します。
シリアルコミュニケーションユニット	MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24, Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24, FX拡張ポートを示します。
二重化CPU	QnPRH, RnPCPU, RnPSFCPUを示します。
二重化増設ベースユニット	Q65WRB形CPU・電源二重化システム用増設ベースユニットを示します。
ハイパフォーマンスモデルQCPU	Q02CPU, Q02HCPU, Q06HCPU, Q12HCPU, Q25HCPUを示します。
ベーシックモデルQCPU	Q00JCPU, Q00CPU, Q01CPUを示します。
ロボットコントローラ	CR750-Dシリーズ, CRnD-700シリーズを示します。

MEMO

第1部 基本と開発の流れ

基本と開発の流れを説明します。

- 1 MX Componentの基本
- 2 システム構成
- 3 ユーザプログラムの開発手順
- 4 ユーザプログラムへのコントロールの追加
- 5 通信設定
- 6 通信設定例(ユーティリティ使用時)
- 7 プログラミング

1 MX Componentの基本

1.1 ご使用の前に

MX Componentは、パソコンからシーケンサへの通信を簡単に実現するためのライブラリです。

MX Componentが提供するコントロールを使用することで、シーケンサからデバイス情報を取得してアプリケーションの開発を行うことができます。

また、ユーティリティを利用することでシーケンサへの通信経路を詳細に設定することが可能になります。

本マニュアルで紹介するプログラム例を実際のシステムへ流用する場合は、対象システムにおける制御に問題がないことを十分検証ください。

MX Componentの活用

シーケンサに対する通信経路を幅広くサポート

シーケンサへの通信経路を幅広くサポートしていますので、お客様に合わせたシステム構築が可能です。

ユーザの開発効率を大幅に向上

ユーザプログラムを作成するときには、ユーティリティ設定タイプまたはプログラム設定タイプのどちらかを選択します。
( 42ページ 通信設定方法の選択)

ユーティリティ設定タイプでは、ウィザード形式の通信設定ユーティリティを用意しています。

画面上で対話形式の設定を行うだけで、通信を行いたいCPUユニットにアクセスするための通信設定が実現できます。

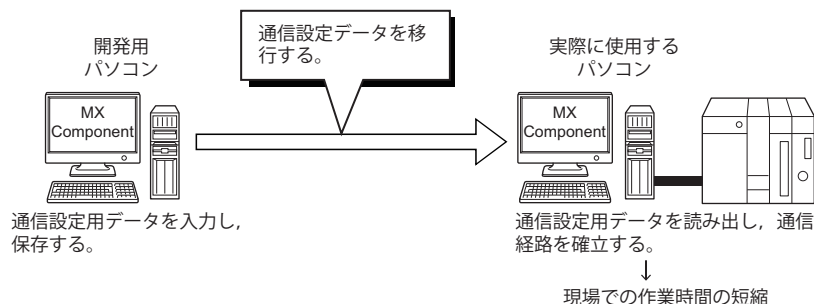
また、一度通信設定を実施すれば、通信設定ユーティリティにて記憶したCPUユニットの論理局番を指定するだけでアクセスすることが可能です。

通信設定の内容の保存、読出しが可能

通信設定ユーティリティで設定した通信設定の内容をファイルに保存、読出しを行う機能を持っています。

開発用のパソコンから実際に使用するパソコンへ、設定データの移行が行えます。

開発用パソコンおよび実際に使用するパソコンには、MX Componentがインストールされている必要があります。



ラベルを使用したプログラミングが可能

ラベル機能を使用して、デバイスNo.を意識することなくプログラムが作成できます。
ラベル名を使用してデバイスを読み書きできます。

'ReadDeviceRandom2関数処理の実行

iReturnCode=

DotUtilType.ReadDeviceRandom2(

"生産量",

3,

objData)

ラベル名を指定

構造体ラベル

D0

ワード

CN200

ワード

D1

ワード

'ReadDeviceRandom2関数処理の実行

iReturnCode=

DotUtilType.ReadDeviceRandom2(

"AlarmArray",

3,

objectValue)

配列型ラベル

[0] : D0

ワード

[1] : D1

ワード

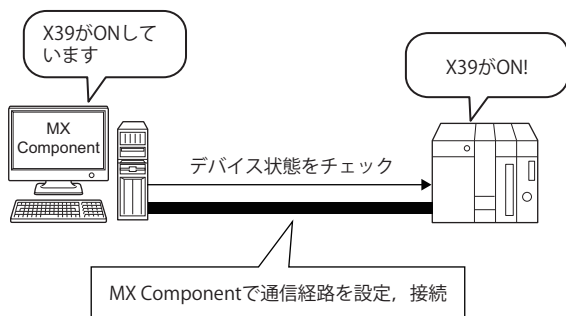
[2] : D2

ワード

データ型により使用するメソッドの使い分けが必要ない

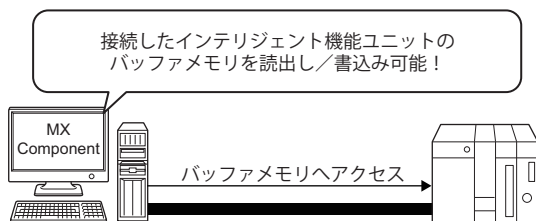
デバイスの監視やデータ変更が可能

シーケンサモニタユーティリティを利用することで、指定したデバイスの状態の監視やデータ変更が可能です。



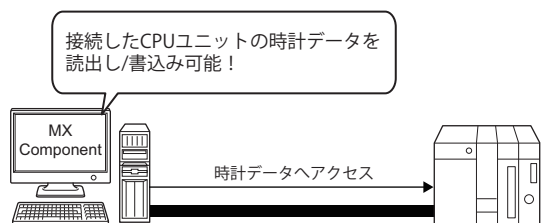
インテリジェント機能ユニットのバッファメモリにもアクセス可能

CPUユニットのデバイスのみでなく、インテリジェント機能ユニットのバッファメモリへアクセスすることもできます。



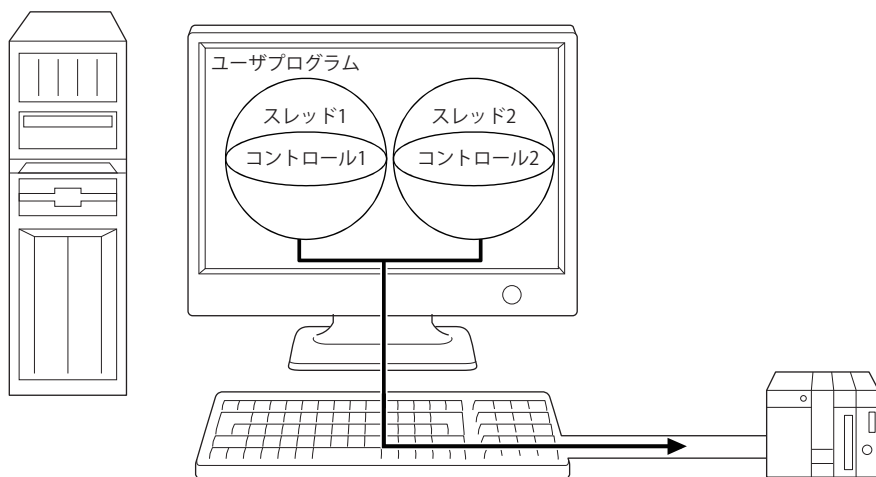
CPUユニットの時計データ読み出し/書き込みが可能

パソコンと接続したCPUユニットの時計データを読み出す/書き込むことができます。



マルチスレッド通信が可能

複数のスレッドから同時に同じ通信経路に対してアクセスが可能です。

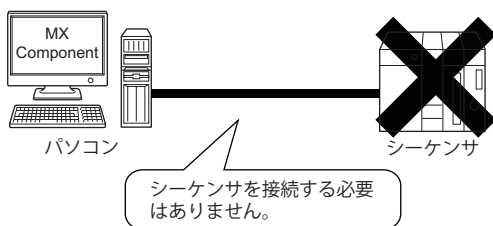


シミュレーション機能を使用したオフラインでのデバッグが可能

各種シミュレータ(GX Simulator2, GX Simulator3, MT Simulator2)との通信が可能です。

シミュレーション機能を使用することにより、シーケンサを接続せずに、1台のパソコン上でデバッグできます。

QSCPUは本機能に対応していません。



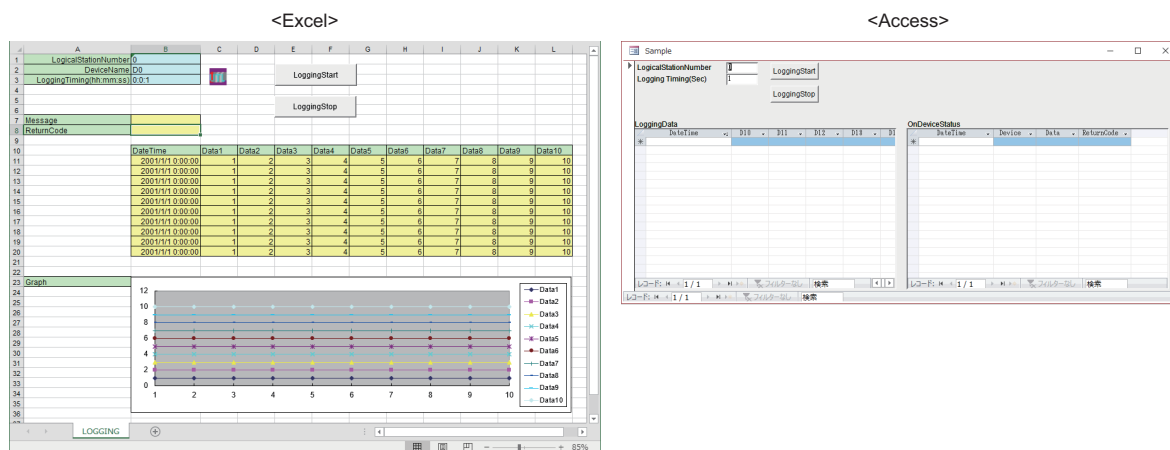
多彩なプログラミング言語をサポート

Visual Basic .NET, Visual C++, Visual C#およびVBAをサポートしています。

■VBAによるデータ収集、モニタリング機能

VBAでプログラミングを行うことにより、Excel®およびAccess®の機能を利用し、リアルタイムなグラフ表示を行うアプリケーションが作成できます。

シーケンサのデバイスデータをロギングし、リアルタイムにデバイスデータの収集・保存を行うことが可能です。



QCPU(Qモード)のマルチCPUシステムをサポート

通信設定ユーティリティまたはコントロールのプロパティを設定することにより、QCPU(Qモード)のマルチCPUシステムにアクセスできます。

ロギングファイルをパソコンに転送可能

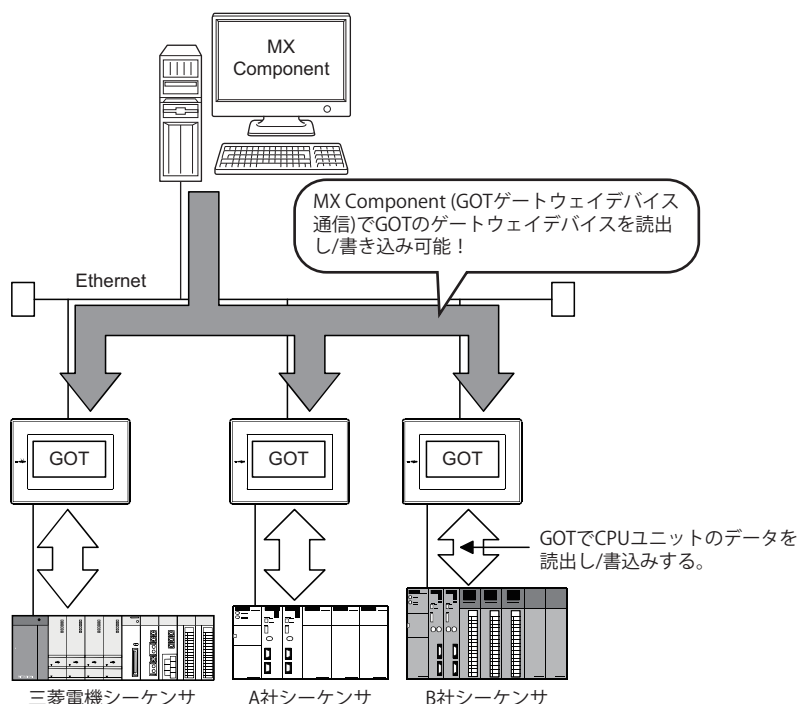
RCPUに装着されているSDメモ리카ード内のロギングファイルをパソコンに転送できます。

ロギングファイル転送用のコントロールについては下記を参照してください。

📄 21ページ Actコントロール(ロギングファイル転送用)

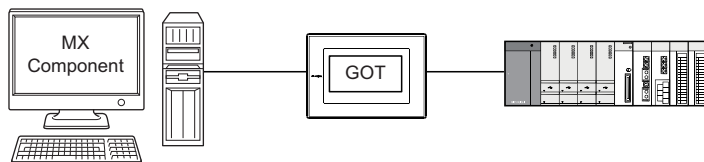
GOTのゲートウェイデバイス読出し/書き込み可能

GOTのゲートウェイデバイスを読み出す/書き込むことにより、GOTがモニタしているCPUユニットのデバイスを間接的に読み出す/書き込むことができます。



GOTトランスペアレント通信をサポート

GOTのトランスペアレント機能を使用することにより、GOTを経由してCPUユニットにアクセスできます。

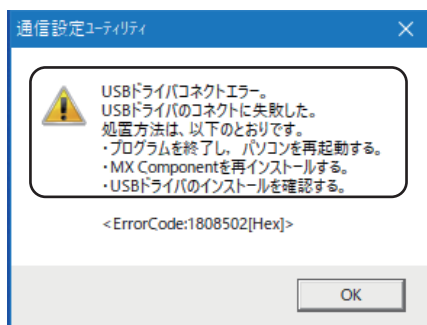


エラー内容検索時間の短縮

トラブルシュート機能用コントロール「ActSupportMsg」を使用することで、エラーコードを指定するだけで、エラー内容や処置方法をユーザプログラム内に表示できます。

コントロールにてエラーが発生した場合、マニュアルでエラー内容、処置方法を探す必要がありません。

- メッセージボックスにエラー内容、処置方法を表示させた例



1.2 コントロールの種類

MX Componentが提供するコントロールについて説明します。

本コントロールはCPUユニットに対して通信を行うユーザプログラムを作成する際に使用します。これにより、相手先のハードウェア、通信プロトコルを意識することなく通信が可能です。

MX Componentが提供するコントロールには下記の3種類があります。

- Actコントロール
- Actコントロール(ロギングファイル転送用)
- .Netコントロール

各コントロールの一覧を下記に示します。

コントロール一覧

Actコントロール

Actコントロールは、デバイスおよびグローバルラベルを使用してデータにアクセスできます。グローバルラベルでアクセスする場合は下記を参照してください。

☞ 22ページ グローバルラベル名を指定したデータ取得

ラベルでアクセスする場合は、.Netコントロールを使用してください。(☞ 21ページ .Netコントロール)

MX Componentが提供するActiveXコントロールを下記に示します。

コントロール名	使用用途	対応言語
32ビット用	ActUtilType	Visual C# Visual Basic .NET Visual C++ VBA
64ビット用	ActUtilType64	
32ビット用	ActProgType	
64ビット用	ActProgType64	
32ビット用	ActSupportMsg	
64ビット用	ActSupportMsg64	

*1 インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

■Actコントロール(ロギングファイル転送用)

MX Componentが提供するロギングファイル転送用のActiveXコントロールを下記に示します。

本コントロールはCPUユニットのロギング機能が動作していない状態で使用してください。

コントロール名	使用用途	対応言語
32ビット用	ActUtilDataLogging	Visual C# Visual Basic .NET Visual C++
64ビット用	ActUtilDataLogging64	
32ビット用	ActProgDataLogging	
64ビット用	ActProgDataLogging64	

.Netコントロール

.Netコントロールは、ラベルを使用してデータにアクセスできます。ラベルはラベル管理ユーティリティで作成してください。(☞ 117ページ ラベル管理ユーティリティを使ったラベルの作成)

グローバルラベルでアクセスする場合は、Actコントロールを使用してください。(☞ 21ページ Actコントロール)

MX Componentが提供する.Netコントロールを下記に示します。

コントロール名	使用用途	対応言語
32ビット用	DotUtilType	Visual C# Visual Basic .NET
64ビット用	DotUtilType64	

1.3 ラベルの種類

MX Componentでは下記のラベルを使用できます。

種類	機能
ラベル	ラベル管理ユーティリティで作成したラベルです。.Netコントロールを使用してアクセスします。 ラベル管理ユーティリティを使ったラベルの作成方法は下記を参照してください。 ☞ 117ページ ラベル管理ユーティリティを使ったラベルの作成
グローバルラベル	シーケンサプログラム内に作成されたラベルです。Actコントロールを使用してアクセスします。 ☞ 22ページ グローバルラベル名を指定したデータ取得

グローバルラベル名を指定したデータ取得

グローバルラベルに対応している機種では、MX ComponentのActコントロールからグローバルラベル名を指定してデータを取得できます。

グローバルラベル名でのデータ取得が可能なActコントロールは下記のとおりです。

- ActUtilType
- ActUtilType64
- ActProgType
- ActProgType64

外部機器からのアクセス設定

MX Componentからグローバルラベル名を指定してデータを取得する場合、対象のグローバルラベルには外部機器からのアクセス設定が必要です。

外部機器からのアクセスの設定方法は、使用するユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

外部機器からのアクセス設定に対応していない機種の場合、グローバルラベルにはアクセスできません。

データ取得可能な関数および使用可能なデータ型

グローバルラベル名を指定してデータ取得可能な関数および使用可能なデータ型については下記のとおりです。

○: 使用可能, ×: 使用不可

関数名	グローバルラベル設定(デバイス割付け有無およびデータ型)			
	デバイス割付けあり		デバイス割付けなし	
	ビット ワード(符号なし) ワード(符号付き) タイマ カウンタ 積算タイマ	ダブルワード(符号なし) ダブルワード(符号付き) 単精度実数 倍精度実数 時間 文字列 文字列[Unicode] ロングタイマ ロングカウンタ ロング積算タイマ	ビット ワード(符号なし) ワード(符号付き) タイマ カウンタ 積算タイマ	ダブルワード(符号なし) ダブルワード(符号付き) 単精度実数 倍精度実数 時間 文字列 文字列[Unicode] ロングタイマ ロングカウンタ ロング積算タイマ
ReadDeviceRandom	○	○	○	○
WriteDeviceRandom	○	○	○	○
SetDevice	○	×	○	×
GetDevice	○	×	○	×
ReadDeviceRandom2	○	×	○	×
WriteDeviceRandom2	○	×	○	×
SetDevice2	○	×	○	×
GetDevice2	○	×	○	×

グローバルラベル指定方法

グローバルラベルの指定方法を、下記に示します。

プログラム内でグローバルラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可

グローバルラベルの定義		プログラム内でのラベル指定方法	指定可否
型分類	配列要素	ラベル名の書式	
基本データ	なし	グローバルラベル名	○
	要素数(1次元)	グローバルラベル名	×
		グローバルラベル名[n1]	○
	要素数(2次元)	グローバルラベル名	×
		グローバルラベル名[n1,n2]	○
	要素数(3次元)	グローバルラベル名	×
		グローバルラベル名[n1,n2,n3]	○
構造体	なし	グローバルラベル名	×
		グローバルラベル名.構造体メンバ名	○ ^{*1}
	要素数(1次元)	グローバルラベル名	×
		グローバルラベル名[n1]	×
		グローバルラベル名[n1].構造体メンバ名	○ ^{*1}
	要素数(2次元)	グローバルラベル名	×
		グローバルラベル名[n1,n2]	×
		グローバルラベル名[n1,n2].構造体メンバ名	○ ^{*1}
	要素数(3次元)	グローバルラベル名	×
		グローバルラベル名[n1,n2,n3]	×
		グローバルラベル名[n1,n2,n3].構造体メンバ名	○ ^{*1}

*1 構造体メンバが配列の場合は、構造体メンバの配列も指定してください。

構造体型ラベル指定方法

下記データ型のグローバルラベルは、ラベル名の末尾に読み出す対象(接点「.S」/コイル「.C」/現在値「.N」)を結合して指定してください。

- ・ タイマ
- ・ ロングタイマ
- ・ カウンタ
- ・ ロングカウンタ
- ・ 積算タイマ
- ・ ロング積算タイマ

読出し/書込み点数

関数で指定する読出し点数および書込み点数は、アクセス対象のグローバルラベルの設定(グローバルラベルのデータ型および割り付けるデバイスの種類)によって異なります。

点数にはグローバルラベルのデータ型によって、各要素に関する下記の値の和を設定してください。

—: 非対応

グローバルラベルのデータ型	指定する読出し/書込み点数					
	デバイス割付けあり					デバイス割付けなし
	ビット	ワード	ダブルワード	タイマ カウンタ 積算タイマ	ロングタイマ ロングカウンタ ロング積算タイマ	
ビット	1	—	—	—	—	1
ワード(符号付き)	—	1	—	—	—	1
ダブルワード(符号付き)	—	2	—	—	—	2
ワード(符号なし)	—	1	—	—	—	1
ダブルワード(符号なし)	—	2	—	—	—	2
単精度実数	—	2	—	—	—	2
倍精度実数	—	4	—	—	—	4
文字列	—	取得する文字数+1	—	—	—	取得する文字数+1
文字列[Unicode]	—	取得する文字数+1	—	—	—	取得する文字数+1
時間	—	2	—	—	—	2
タイマ	—	—	—	1	—	1
ロングタイマ	—	—	—	1	1	2
カウンタ	—	—	—	1	—	1
ロングカウンタ	—	—	—	1	1	2
積算タイマ	—	—	—	1	—	1
ロング積算タイマ	—	—	—	1	1	2

各デバイスのデバイスタイプについては下記を参照してください。

📖 165ページ デバイスタイプ

■読出し点数が2点以上の場合

読出し点数が2点以上のグローバルラベルを読み出す場合、1つのラベルデータが複数の配列要素に分割されて値が格納されます。

読出し点数が2点のグローバルラベルを読み出した場合、配列要素には下記の値が格納されます。

配列要素	上位2バイト	下位2バイト
iData[0]	0	読み出す値の下位2バイト
iData[1]	0	読み出す値の上位2バイト

例

ReadDeviceRandomを使用して、現在値が「0x000F4240」で読出し点数が2点のグローバルラベルを読み出す場合の配列要素の値

・ 読出し方法

```
int iData[2]
```

```
ReadDeviceRandom("LABEL",2,iData)
```

・ 読み出したデバイス値

```
iData[0]: 0x00004240
```

```
iData[1]: 0x0000000F
```

■書き込み点数が2点以上の場合

書き込み点数が2点以上のグローバルラベルに書き込む場合は、書き込み対象のデータを複数の配列要素に分割して格納します。書き込み点数が2点のグローバルラベルに書き込む場合に、配列要素に格納する値は下記のとおりです。

配列要素	上位2バイト	下位2バイト
iData[0]	0	書き込む値の下位2バイト
iData[1]	0	書き込む値の上位2バイト

例

WriteDeviceRandomを使用して、書き込み点数が2点のグローバルラベルに「0x000F4240」を書き込む場合の配列要素の値

- 書き込み方法

```
int iData[2]
```

```
WriteDeviceRandom("LABEL",2,iData)
```

- 書き込むデバイス値

```
iData[0]: 0x00004240
```

```
iData[1]: 0x0000000F
```

■複数グローバルラベルを読み出す場合

ReadDeviceRandomおよびReadDeviceRandom2を使用して複数のグローバルラベルを読み出す場合、読み出したデバイス値は、下記のように格納されます。

ビットデバイス、ワードデバイス、およびダブルワード指定時

- グローバルラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	ビット	M0
LABEL2	ワード	D0
LABEL3	ダブルワード	デバイス割付けなし
LABEL4	ワード	D10

- 読出し点数: 5

- 読出し方法

```
int iData[5]
```

```
string stLabelList[4] = {"LABEL1", "LABEL2", "LABEL3", "LABEL4"}
```

```
ReadDeviceRandom(stLabelList,5,iData)
```

- 読み出したデバイス値

配列要素	上位2バイト	下位2バイト
iData[0]	0	M0の値
iData[1]	0	D0の値
iData[2]	0	LABEL3の下位2バイト ^{*1}
iData[3]	0	LABEL3の上位2バイト ^{*1}
iData[4]	0	D10の値

*1 格納されるデータの詳細は下記を参照してください。

☞ 24ページ 読出し点数が2点以上の場合

■複数グローバルラベルに書き込む場合

WriteDeviceRandomおよびWriteDeviceRandom2を使用して複数のグローバルラベルに書き込む場合、書き込むデバイス値は下記のように設定します。

ビットデバイス、ワードデバイス、およびダブルワード指定時

- グローバルラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	ビット	M0
LABEL2	ワード	D0
LABEL3	ダブルワード	デバイス割付けなし
LABEL4	ワード	D10

- 書き込み点数: 5
- 書き込み方法

int iData[5]

string stLabelList[4] = {"LABEL1", "LABEL2", "LABEL3", "LABEL4"}

WriteDeviceRandom(stLabelList,5,iData)

- 書き込むデバイス値

配列要素	上位2バイト	下位2バイト
iData[0]	0	M0の値
iData[1]	0	D0の値
iData[2]	0	LABEL3の下位2バイト* ¹
iData[3]	0	LABEL3の上位2バイト* ¹
iData[4]	0	D10の値

*1 格納するデータの詳細は下記を参照してください。

📄 25ページ 書き込み点数が2点以上の場合

1.4 ユーティリティの種類

MX Componentには、下記のユーティリティが同梱されています。

項目	内容	参照
通信設定ユーティリティ	ウィザード形式で通信設定可能なユーティリティです。	56ページ ユーティリティを使った設定
ラベル管理ユーティリティ	システムラベルの登録および流用するためのユーティリティです。	117ページ ラベル管理ユーティリティを使ったラベルの作成
シーケンサモニタユーティリティ	論理局番を用いて接続先を設定し、シーケンサのデバイスおよびバッファメモリをモニタするためのユーティリティです。	145ページ シーケンサモニタユーティリティを使って値の確認をする

管理者権限

ラベル管理ユーティリティ実行時は、管理者権限で動作します。

通信設定ユーティリティおよびシーケンサモニタユーティリティ実行時は、ユーザーアカウント制御(UAC)の設定により動作が異なります。

■ユーザーアカウント制御(UAC)が有効の場合

管理者を含むすべてのユーザが既定で、「標準ユーザ」として動作します。

管理者権限でプログラムを実行するためには、[管理者として実行]を指定してください。

■ユーザーアカウント制御(UAC)が無効の場合

ログインユーザの権限でプログラムを実行できます。

■Windowsで表示される警告メッセージについて

ユーティリティを管理者として実行するときに、警告メッセージが表示されます。



Point

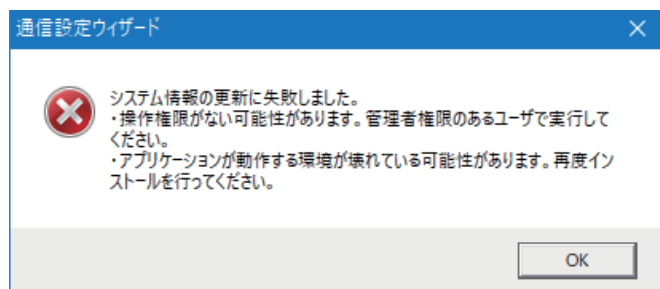
ユーティリティを常に管理者として実行するには、[プロパティ]の[互換性]タブで"管理者としてこのプログラムを実行する"にチェックします。

■Administrator権限のないユーザでMX Componentを動作させる場合

Administrator権限のないユーザでMX Componentを動作させる場合、下記の制約があります。

項目	制約事項
通信設定ユーティリティ	論理局番の作成、変更、および削除が行えません。 通信設定のインポートが行えません。 MX Component Version 3.00Aより前のバージョンで通信設定を行っている場合、起動できません。 ^{*1}
シーケンサモニタユーティリティ	MX Component Version 3.00Aより前のバージョンで通信設定を行っている場合、起動できません。 ^{*1}

^{*1} 下記のエラーメッセージが表示された場合、一度Administrator権限のあるユーザでユーティリティを起動または終了してください。その後はAdministrator権限のないユーザでも、ユーティリティが起動できるようになります。



2 システム構成

MX Componentの動作環境，通信経路，使用可能な機器などのシステム構成について説明します。

2.1 動作環境

MX Componentの動作環境は，下記を参照してください。

📖MX Component Version 5インストール手順書(BCN-P5999-1383)

2.2 サポートする通信経路

MX Componentは，下記の通信経路をサポートしています。

通信経路	内容	参照先
シリアルコミュニケーション通信	シリアルコミュニケーションユニットを使用して，CPUユニットと通信します。	35ページ シリアルコミュニケーション通信
Ethernet通信	パソコンとEthernetユニットまたはEthernet内蔵形CPUを接続して通信します。	36ページ Ethernet通信
CPU COM通信	パソコンをCPUユニットのRS-232コネクタまたはRS-422コネクタに接続して通信します。	36ページ CPU COM通信
CPU USB通信	パソコンをCPUユニットのUSBコネクタに接続して通信します。	39ページ CPU USB通信
MELSECNET/H通信 ^{*1}	MELSECNET/Hボードを使用して，CPUユニットと通信します。	39ページ MELSECNET/H通信
CC-Link IEコントローラネットワーク通信 ^{*1}	CC-Link IEコントローラネットワークボードを使用して，CPUユニットと通信します。	39ページ CC-Link IEコントローラネットワーク通信
CC-Link IEフィールドネットワーク通信 ^{*1}	CC-Link IEフィールドネットワークボードを使用して，CPUユニットと通信します。	39ページ CC-Link IEフィールドネットワーク通信
CC-Link IE TSN通信 ^{*1}	CC-Link IE TSNボードを使用して，CPUユニットと通信します。	39ページ CC-Link IE TSN通信
CC-Link通信 ^{*1}	CC-Link Ver.2ボードを使用して，CPUユニットと通信します。	39ページ CC-Link通信
CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信	AJ65BT-R2Nユニットを使用して，CPUユニットと通信します。	40ページ CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信
GX Simulator2通信	GX Works2のシミュレーション機能を使用して通信します。	40ページ GX Simulator2通信
GX Simulator3通信	GX Works3のシミュレーション機能を使用して通信します。	40ページ GX Simulator3通信
MT Simulator2通信	MT Developer2のシミュレーション機能を使用して通信します。	40ページ MT Simulator2通信
MELSOFT Mirror通信	MELSOFT Mirrorのシミュレーション機能を使用して通信します。	40ページ MELSOFT Mirror 通信
GOTゲートウェイデバイス通信	GOTのゲートウェイ機能を使用して，CPUユニットおよび各社シーケンサと通信します。	40ページ GOTゲートウェイデバイス通信
GOTトランスペアレント通信	GOTのトランスペアレント機能を使用して，CPUユニットと通信します。	40ページ GOTトランスペアレント通信
インバータCOM通信	インバータをパソコンのCOMポートに接続して通信します。	40ページ インバータ(COM/USB)通信
インバータUSB通信	インバータをパソコンのUSBポートに接続して通信します。	
ロボットコントローラCOM通信	ロボットコントローラをパソコンのCOMポートに接続して通信します。	40ページ ロボットコントローラ(COM/USB/Ethernet)通信
ロボットコントローラUSB通信	ロボットコントローラをパソコンのUSBポートに接続して通信します。	
ロボットコントローラEthernet通信	ロボットコントローラとパソコンをEthernetに接続して通信します。	

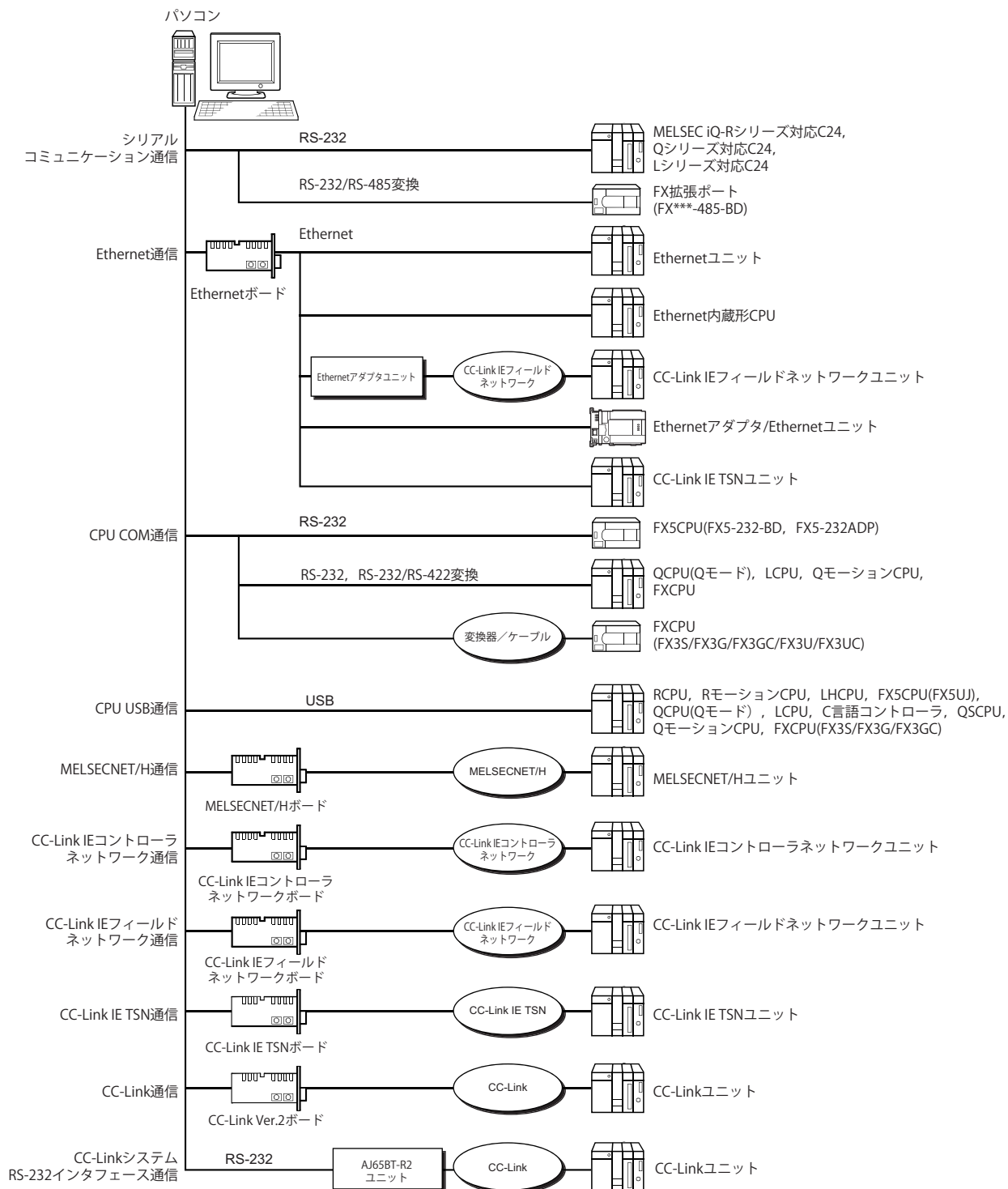
^{*1} Windows 10 Education使用時は未サポートです。

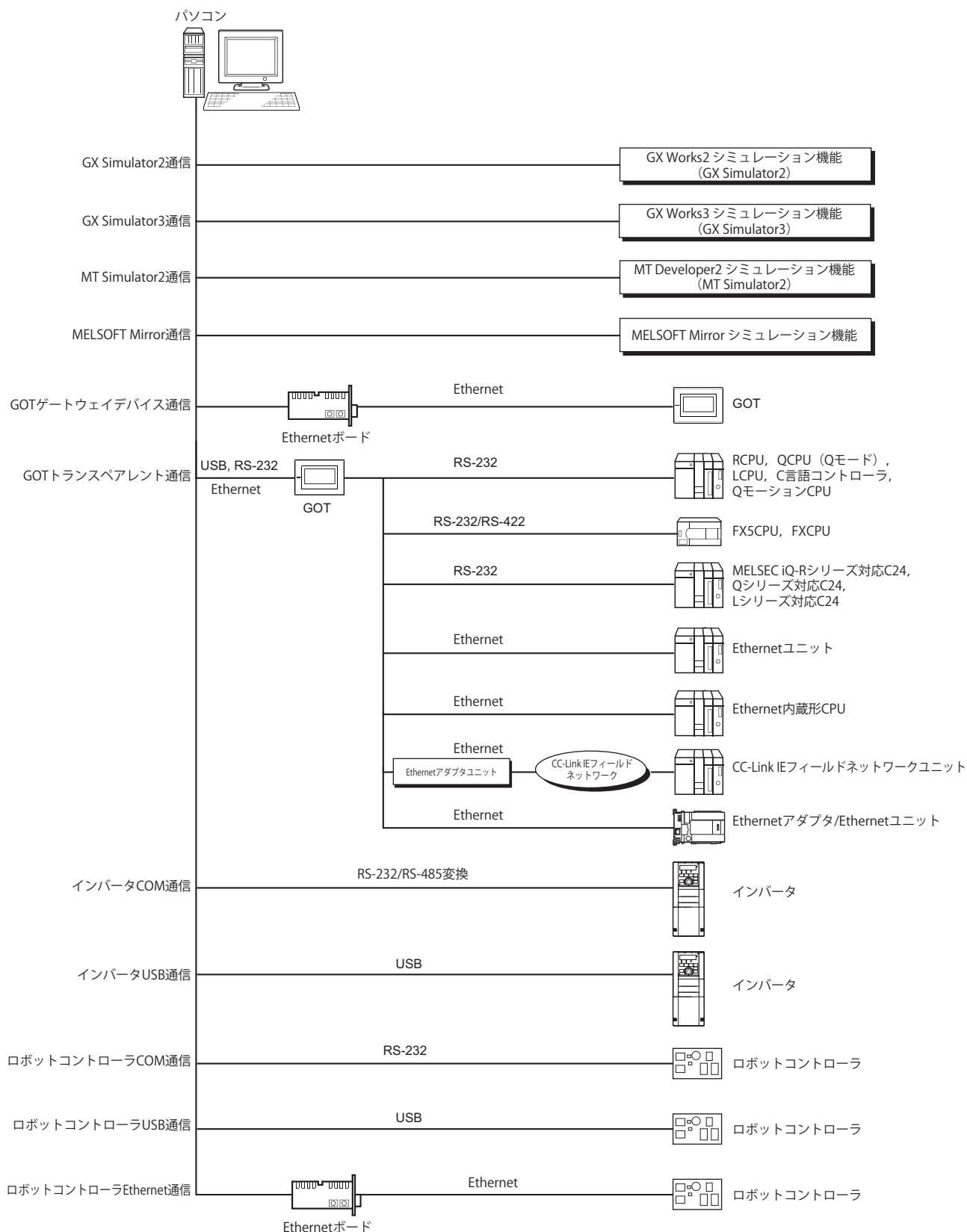
2.3 システム構成一覧

Point

使用可能なケーブルおよび通信時の注意事項などの詳細は、各ユニットのマニュアルを参照してください。

各通信経路のシステム構成例





2.4 使用可能な機種一覧

MX Componentで使用可能な機種を示します。

CPUユニット

使用可能なCPUユニットを一覧で示します。

分類		形名
RCPU	RnCPU	R00CPU, R01CPU, R02CPU, R04CPU, R04ENCPU, R08CPU, R08ENCPU, R16CPU, R16ENCPU, R32CPU, R32ENCPU, R120CPU, R120ENCPU
	RnPCPU	R08PCPU, R16PCPU, R32PCPU, R120PCPU
	RnSFCPU	R08SFCPU, R16SFCPU, R32SFCPU, R120SFCPU
	RnPSFCPU	R08PSFCPU, R16PSFCPU, R32PSFCPU, R120PSFCPU
RCCPU		R12CCPU-V
RモーションCPU		R16MTCPU, R32MTCPU, R64MTCPU
WinCPU		R102WCPU-W
LHCPU		L04HCPU, L08HCPU, L16HCPU, L32HCPU
FX5CPU		FX5UCPU, FX5UCCPU, FX5UJCPU, FX5SCPU
QCPU(Qモード)		Q00UJCPU, Q00UCPU, Q01UCPU, Q02UCPU, Q03UDCPU, Q03UDECPU, Q03UDVCPU, Q04UDHCPU, Q04UDEHCPU, Q04UDVCPU, Q04UDPVCPU, Q06UDHCPU, Q06UDEHCPU, Q06UDVCPU, Q06UDPVCPU, Q10UDHCPU, Q10UDEHCPU, Q12PRHCPU, Q13UDHCPU, Q13UDEHCPU, Q13UDVCPU, Q13UDPVCPU, Q20UDHCPU, Q20UDEHCPU, Q25PRHCPU, Q26UDHCPU, Q26UDEHCPU, Q26UDVCPU, Q26UDPVCPU, Q50UDEHCPU, Q100UDEHCPU
LCPU		L02SCPU, L02CPU, L06CPU, L26CPU, L26CPU-BT
QCCPU		Q12DCCPU-V(基本機能モード)*1, Q12DCCPU-V(機能拡張モード), Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LS
QSCPU		QS001CPU
QモーションCPU		Q172DCPU, Q173DCPU, Q172DSCPU, Q173DSCPU
FXCPU		FX3SCPU, FX3GCPU, FX3GCCPU, FX3UCPU, FX3UCCPU

*1 シリアルNo.の上5桁が"12042"以降品のみ対応しています。

注意事項

■RnSFCPU

安全シーケンサシステムを保護するため、セーフティモードでの、バッファメモリに対する書込み、安全デバイスに対する書込みを行う関数は実行できません。

■FX5CPU

- Ethernet直結接続で使用するアダプタを指定し通信する場合は、異なるアダプタを指定した経路で複数同時に通信することはできません。
- 通信設定のパソコン側アダプタの情報は、パソコン環境の変化や他のMELSOFTアプリケーションの設定により、再設定が必要になる場合があります。

■Q00UJ/Q00U/Q01U/Q02UCPU

Q00UJ/Q00U/Q01U/Q02UCPUをシリアルコミュニケーション機能対応CPUと記載します。

下記の条件をすべて満たすときは、パソコン-シリアルコミュニケーション機能対応CPU間の通信速度は9600bpsです。

- 接続CPUのシリアルコミュニケーション機能が有効になっている。
- パソコン側伝送速度設定とシリアルコミュニケーション機能対応CPU側伝送速度設定が異なっている。

なお、通信速度を向上させたい場合は、パソコン側伝送速度とシリアルコミュニケーション機能対応CPU側伝送速度を一致させてください。

■QSCPU

安全シーケンサシステムを保護するため、セーフティモードでの、バッファメモリに対する書込み、安全デバイスに対する書込みを行う関数は実行できません。

■Ethernet内蔵形CPU

- MX Componentを使用してTCP/IPコネクション確立中(Open中)にCPUユニットをリセットすると、それ以降の通信時に通信エラーや受信エラーが発生します。
その場合は、MX Componentを使用するアプリケーション内でクローズ処理をしたあと、再度オープン処理を行ってください。
- 別のパソコンでEthernet直結接続で通信していたCPUに対して、Ethernet直結接続を行う場合に通信エラーとなる場合があります。この場合は、CPUをリセットし再度通信を実行してください。

■FXCPU

- FXCPU使用時のTNデバイス(タイマ現在値)およびCNデバイス(カウンタ現在値)へのアクセスは、デバイス番号199以前からデバイス番号200を越えてアクセスすることはできません。
- FXCPUは、CPUユニットとしてPAUSEスイッチを持たないため、SetCpuStatusでリモートPAUSEを指定するとエラーを返します。
- ユニットが存在しない先頭I/O番号を指定してWriteBuffer()メソッドを実行しても、エラーは返りませんので注意してください。
- FXCPUのインデックスレジスタ(Z, V)に対して、WriteDeviceBlock()で2点以上を連続して書き込むことはできません。(1点のみ書込み可能です。)

ユニット

各通信形態でCPUユニットと通信する場合に使用可能なユニットおよびボードを一覧で示します。

通信形態	分類	形名
シリアルコミュニケーション通信	MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24	RJ71C24, RJ71C24-R2, RJ71C24-R4
	Qシリーズ対応C24	QJ71C24, QJ71C24N, QJ71C24N-R2, QJ71C24N-R4
	Lシリーズ対応C24	LJ71C24, LJ71C24-R2
	FX拡張ポート	FX3G-485-BD, FX3U-485-BD
Ethernet通信	MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71	RJ71EN71
	Qシリーズ対応E71	QJ71E71, QJ71E71-B2, QJ71E71-B5, QJ71E71-100
	Lシリーズ対応E71	LJ71E71
	Ethernetアダプタユニット	NZ2GF-ETB
	Ethernetアダプタ/Ethernetユニット	FX3U-ENET-ADP, FX3U-ENET-L, FX5-CCLGN-MS, FX5-ENET, FX5-ENET/IP
MELSECNET/H通信	MELSECNET/Hユニット	RJ71LP21
		QJ71LP21
	MELSECNET/Hボード*1	Q80BD-J71LP21-25, Q80BD-J71LP21S-25, Q81BD-J71LP21-25, Q80BD-J71LP21G, Q80BD-J71BR11
CC-Link通信	CC-Linkユニット	RJ61BT11
		QJ61BT11N
		LJ61BT11
		FX3U-64CCL
	CC-Link Ver.2ボード*2	Q80BD-J61BT11N, Q81BD-J61BT11
CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信	AJ65BT-R2Nユニット	AJ65BT-R2N
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	CC-Link IEコントローラネットワークユニット	RJ71GP21-SX
		QJ71GP21S-SX, QJ71GP21-SX
		LJ71GP21-SX
	CC-Link IEコントローラネットワークボード*3	Q80BD-J71GP21-SX, Q80BD-J71GP21S-SX, NZ81GP21-SX
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	CC-Link IEフィールドネットワークユニット	RJ71GF11-T2
		QJ71GF11-T2
		LJ71GF11-T2
	CC-Link IEフィールドネットワークボード*4	Q81BD-J71GF11-T2
CC-Link IE TSN通信	CC-Link IE TSNユニット	RJ71GN11-T2, RJ71GN11-SX
	CC-Link IE TSNボード*5	NZ81GN11-T2, NZ81GN11-SX
GOTトランスペアレント通信	GOT2000	GT27, GT25
インバータ通信	A800	—
ロボットコントローラ通信	CR750	CR750-DCR751-D
	CRnD-700	CR1DA-7xx, CR2DA-7xx, CR3DA-7xx

*1 使用可能ドライバ: SW0DNC-MNETH-B(バージョン30G)以降

*2 使用可能ドライバ: SW1DNC-CCBD2-B(バージョン1.19V)

*3 使用可能ドライバ: SW1DNC-MNETG-B(バージョン1.22Y)以降

*4 使用可能ドライバ: SW1DNC-CCIEF-B(バージョン1.10L)

*5 使用可能ドライバ: SW1DNN-CCIBTDM-B(バージョン1.000A)以降

2.5 各通信経路の詳細内容

各通信経路の詳細および注意事項などを説明します。

シリアルコミュニケーション通信

シリアルコミュニケーションユニットへの接続方法は、ご使用のシリアルコミュニケーションユニットのマニュアルを参照してください。

■シリアルコミュニケーション通信について

- ・シリアルコミュニケーションユニットでは、すべての接続でリモート操作"PAUSE"がエラーとなります。
- ・FX3S, FX3G(C), FX3U(C)CPUでシリアルコミュニケーション通信をする場合は、FX拡張ポートが必要です。

■使用可能ユニットの接続について

パソコンからシリアルコミュニケーションユニット経由でCPUユニットにアクセスする場合、パソコンと直接接続できるユニットが限定されますので注意してください。

また、パソコンと直接接続できない場合でも、マルチドロップ接続のn台目として使用できることがあります。

○: 接続可能, ×: 接続不可

形名	インタフェース	1:1接続	マルチドロップ接続	
			1台目	n台目
RJ71C24	RS-232(CH1)	○	○	×
	RS-422/485(CH2)	×	×	○
RJ71C24-R2	RS-232(CH1)	○	×	×
	RS-232(CH2)	○	×	×
RJ71C24-R4	RS-422/485(CH1)	×	×	○
	RS-422/485(CH2)	×	×	○
QJ71C24 QJ71C24N	RS-232(CH1)	○	○	×
	RS-422/485(CH2)	×	×	○
QJ71C24N-R2	RS-232(CH1)	○	×	×
	RS-232(CH2)	○ (機能バージョンB以降品)	×	×
QJ71C24N-R4	RS-422/485(CH1)	×	×	○
	RS-422/485(CH2)	×	×	○
LJ71C24	RS-232(CH1)	○	○	×
	RS-422/485(CH2)	×	×	○
LJ71C24-R2	RS-232(CH1)	○	×	×
	RS-232(CH2)	○	×	×
FX3G-485-BD FX3U-485-BD	RS-422/485	○	○	○

Ethernet通信

- Ethernetユニットへの接続方法は、ご使用のEthernetユニットのマニュアルを参照してください。
- FXシリーズ用のEthernetユニットについては、FXシリーズのユーザーズマニュアルを参照してください。
- Ethernet内蔵形CPUへの接続方法は、ご使用のEthernet内蔵形CPUのマニュアルを参照してください。
- Ethernetアダプタユニットへの接続方法は、ご使用のEthernetアダプタユニットのマニュアルを参照してください。
- Ethernetアダプタへの接続方法は、ご使用のEthernetアダプタのマニュアルを参照してください。
- CC-Link IE TSNユニットへの接続方法は、ご使用のCC-Link IE TSNユニットのマニュアルを参照してください。

CPU COM通信

■QCPU(Qモード), LCPU接続時のケーブル

パソコンとQCPU(Qモード)間で交信を行うためには、下記のケーブルが必要です。

RS-232ケーブル

QC30R2(パソコンのコネクタがDサブ9ピン)

LCPUと接続する場合は、RS-232アダプタ(L6ADP-R2)が必要です。

■FX5CPU接続時のケーブル

パソコンとFX5CPU間で交信を行うためには、下記のケーブルが必要です。

必要になる機能拡張ボードおよび拡張アダプタ	RS-232ケーブル
• FX5-232ADP • FX5-232-BD	FX-232CAB-1

詳細は下記を参照してください。

📖 MELSEC iQ-F FX5Uユーザーズマニュアル(ハードウェア編)

■FXCPU接続時のケーブル

パソコンとFXCPU間で交信を行うためには、下記のケーブルが必要です。

パソコン側(RS-232ケーブル)	RS-232/RS-422変換器	CPUユニット側(RS-422ケーブル)
• F2-232CAB(Dサブ25ピン↔Dサブ25ピン) • F2-232CAB-1(Dサブ9ピン↔Dサブ25ピン) • F2-232CAB-2(ハーフピッチ↔Dサブ25ピン) • AC30N2A(25ピン↔25ピン)	• FX-232AW • FX-232AWC • FX-232AWC-H	FX-422CAB0 (1.5m)

■QモーションCPU接続時のケーブル

パソコンとQモーションCPU間で交信を行う場合、下記と同様のケーブルを使用してください。

📖 36ページ QCPU(Qモード), LCPU接続時のケーブル

■パソコン側USB接続時の変換器/ケーブル(FXCPU対応)

システム構成

- FX-USB-AW
- USBケーブル(同梱)

Point

- USBケーブルを初めて使用する場合
FX-USB-AWまたは、FX3U-USB-BDに同梱しているCDのドライバをインストールしてください。
- 注意事項、制約事項について
FX-USB-AW使用時の注意事項、制約事項は、同梱しているマニュアルを参照してください。

■USBケーブルと機能拡張ボード(FX3U/FX3UCCPU対応)

システム構成

- FX3U-USB-BD
- USBケーブル(同梱)

Point

- USBケーブルを初めて使用する場合
FX-USB-AWまたは、FX3U-USB-BDに同梱しているCDのドライバをインストールしてください。
- 注意事項、制約事項について
FX3U-USB-BD使用時の注意事項、制約事項は、同梱しているマニュアルを参照してください。
- PCパラメータについて
GX Works2で、PCパラメータの[PCシステム設定(2)]タブの"通信設定をする"にチェックを入れると、このポートによるCPUユニットとの通信ができなくなります。この場合は、CPUユニット内蔵のプログラミングポートよりこの設定をはずした設定を書き込んでください。
PCパラメータの設定方法については、下記のマニュアルを参照してください。
 GX Works2 Version 1 オペレーティングマニュアル (共通編)

■USBケーブル(FX3S/FX3G/FX3GCCPU対応)

ケーブルの詳細は下記を参照してください。

-  FX3Sシリーズ ユーザーズマニュアル[ハードウェア編]
-  FX3Gシリーズ ユーザーズマニュアル[ハードウェア編]
-  FX3GCシリーズ ユーザーズマニュアル[ハードウェア編]

Point

- USBケーブルを初めて使用する場合
USBドライバをインストールしてください。( 659ページ USBドライバのインストール)

■FXCPUのRS-422機能拡張ボード

シリーズ	機能拡張ボード
FX3U, FX3UC(FX3UC-32MT-LT, FX3UC-32MT-LT-2のみ)	FX3U-422-BD
FX3S, FX3G	FX3G-422-BD

Point

- PCパラメータについて
GX Works2で、PCパラメータの[PCシステム設定(2)]タブの"通信設定をする"にチェックを入れると、このポートによるCPUユニットとの通信ができなくなります。
この場合は、CPUユニット内蔵のプログラミングポートよりこの設定をはずした設定を書き込んでください。
PCパラメータの設定方法については、下記を参照してください。
 GX Works2 Version 1 オペレーティングマニュアル (共通編)

■FXCPUのRS-232ケーブルと機能拡張ボード(特殊アダプタ)

パソコンのシリアルポートの形状	シリーズ	必要になる機能拡張ボードおよび特殊アダプタ	RS-232ケーブル
Dサブ9ピン	FX3U, FX3UC	FX3U-232-BD ^{*1}	FX-232CAB-1
		機能拡張ボード(FX3U-***-BD) ^{*2} + FX3U-232ADP	
	FX3G, FX3GC	FX3G-232-BD ^{*3}	FX-232CAB-1
		FX3G-CNV-ADP ^{*4} + FX3U-232ADP	
	FX3S	FX3G-232-BD	FX-232CAB-1
		FX3S-CNV-ADP + FX3U-232ADP	
ハーフピッチ14ピン	FX3U, FX3UC	FX3U-232-BD	FX-232CAB-2
		機能拡張ボード(FX3U-***-BD) ^{*2} + FX3U-232ADP	
	FX3G, FX3GC	FX3G-232-BD ^{*3}	FX-232CAB-2
		FX3G-CNV-ADP ^{*4} + FX3U-232ADP	
	FX3S	FX3G-232-BD	FX-232CAB-2
		FX3S-CNV-ADP + FX3U-232ADP	
Dサブ25ピン	FX3U, FX3UC	FX3U-232-BD	F2-232CAB-1
		機能拡張ボード(FX3U-***-BD) ^{*2} + FX3U-232ADP	
	FX3G, FX3GC	FX3G-232-BD ^{*3}	F2-232CAB-1
		FX3G-CNV-ADP ^{*4} + FX3U-232ADP	
	FX3S	FX3G-232-BD	F2-232CAB-1
		FX3S-CNV-ADP + FX3U-232ADP	

*1 FX3UCシリーズは、FX3UC-32MT-LT、FX3UC-32MT-LT-2のみ使用可能です。

*2 機能拡張ボード(FX3U-***-BD)の***には、232, 485, 422, USB, CNV, 8AVが入ります。

機能拡張ボード(FX3U-***-BD)は、FX3UC(D, DS, DSS)シリーズには不要です。

なお、FX3U-485-BDについては、シリアルコミュニケーション通信も行えます。シリアルコミュニケーション通信時の設定については、下記を参照してください。

📖 74ページ FX拡張ポート

*3 FX3GCシリーズは、使用できません。

*4 FX3Uアダプタ接続用ADP(FX3G-CNV-ADP)は、FX3GCシリーズには不要です。

Point

• PCパラメータについて

GX Works2で、PCパラメータの[PCシステム設定(2)]タブの"通信設定をする"にチェックを入れると、このポートによるCPUユニットとの通信ができなくなります。この場合は、CPUユニット内蔵のプログラミングポートよりこの設定をはずした設定を書き込んでください。

PCパラメータの設定方法については、下記を参照してください。

📖 GX Works2 Version 1 オペレーティングマニュアル (共通編)

CPU USB通信

使用可能なUSBケーブルを示します。

製品名	形名
USBケーブル(USB Aタイプ—USB Bタイプ)	AU230
USBケーブル(USB Aタイプ—USB miniBタイプ)	KU-AMB530
	U2C-M30BK
	MR-J3USBCBL3M
	GT09-C30USB-5P

Point

- USBケーブルを初めて使用する場合
USBドライバをインストールしてください。インストール方法は、下記を参照してください。
📖 659ページ USBドライバのインストール
- 注意事項・制約事項について
CPUユニットにアクセスする場合の注意事項・制約事項については、下記を参照してください。
📖 664ページ CPUユニット関連

MELSECNET/H通信

- MELSECNET/H ボードが使用できます。
- 通信ドライバは、SW0DNC-MNETH-B以降を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。
- 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細は、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。

CC-Link IEコントローラネットワーク通信

- CC-Link IEコントローラネットワークボードが使用できます。
- 通信ドライバは、SW1DNC-MNETG-B以降を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。
- 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細は、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。

CC-Link IEフィールドネットワーク通信

- CC-Link IEフィールドネットワークボードが使用できます。
- 通信ドライバは、SW1DNC-CCIEF-B以降を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。
- 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細は、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。

CC-Link IE TSN通信

- CC-Link IE TSNボードが使用できます。
- 通信ドライバは、SW1DNN-CCIETBDM-B以降を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。
- 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細は、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。

CC-Link通信

- CC-Link Ver.2 ボードが使用できます。
- 通信ドライバは、SW1DNC-CCBD2-B以降を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。
- 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細は、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。
- CC-Linkマスタ局のユニットは、ソフトウェアバージョン"N"以降を使用してください。
"M"以前のソフトウェアバージョンのユニットでは、正常に動作しません。

CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信

- CC-Linkマスタ局のユニットは、ソフトウェアバージョン"N"以降を使用してください。
"M"以前のソフトウェアバージョンのユニットでは、正常に動作しません。
- AJ65BT-R2Nユニットとの接続の詳細は、CC-LinkシステムRS-232インタフェースユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

GX Simulator2通信

GX Simulator2通信を行う場合は、GX Works2が必要です。

GX Simulator3通信

GX Simulator3通信を行う場合は、GX Works3が必要です。

MT Simulator2通信

MT Simulator2通信を行う場合は、MT Developer2が必要です。
QモーションCPUの場合のみ本機能に対応しています。

■MT Simulator2通信時の注意事項

MX Componentをインストール後に、MT Developer2をインストールしてください。

MELSOFT Mirror 通信

MELSOFT Mirror通信を行う場合は、バージョン1.001B以降のMELSOFT Mirrorが必要です。

GOTゲートウェイデバイス通信

ゲートウェイ機能に対応しているGOTおよび設定の詳細は、ご使用になるGOTのマニュアルを参照してください。

GOTトランスペアレント通信

接続および設定の詳細は、下記を参照してください。

📖 使用するGOTの各接続マニュアル

インバータ(COM/USB)通信

使用可能なケーブルは、ご使用になるインバータのマニュアルを参照してください。

ロボットコントローラ(COM/USB/Ethernet)通信

使用可能なケーブルは、下記を参照してください。

📖 CR750/700/500シリーズRT ToolBox2/RT ToolBox2 mini取扱説明書

■ロボットコントローラをUSBで接続する場合の注意事項

ロボットコントローラをUSBで接続する場合の注意事項は下記を参照してください。

📖 CR750/700/500シリーズRT ToolBox2/RT ToolBox2 mini取扱説明書

ロボットコントローラをUSBで接続した場合、ロボットコントローラが使用できない状態でもコントロールのOpenメソッドではエラーが発生しません。

Openを実行後に使用するメソッドでエラーコード106(接続が切断された)が発生した場合は、Closeを実行後、再度Openを実行してください。

■多重通信について

1台のロボットコントローラに対して多重通信は行わないでください。

3 ユーザプログラムの開発手順

ユーザプログラムの作成手順を示します。

1. MX Componentのインストール
2. 使用するコントロールの把握
3. 通信設定方法の選択
4. ユーザプログラムの新規作成
5. ユーザプログラムへのコントロールの追加
6. 通信設定
7. プログラミング(ラベルの作成, コーディング, デバッグ)

3.1 MX Componentのインストール

MX Componentをパソコンにインストールしてください。インストール方法については、下記を参照してください。

📖MX Component Version 5 インストール手順書

注意事項

- ・上書きインストールを行う場合は、すでにインストールされているフォルダと同じフォルダにインストールしてください。
- ・インストーラをダウンロードして使用する場合、スペースを含まないディレクトリに保存し実行してください。
- ・MX Componentをアンインストールした場合に、スタートメニューに項目が残ることがあります。その場合は、パソコンを再起動してください。

バージョンの確認

各ユーティリティのヘルプからバージョンを確認できます。

操作手順

[ヘルプ]⇒[バージョン情報]を選択します。

マニュアルを開く

各ユーティリティのヘルプからe-Manualが開けます。

操作手順

[ヘルプ]⇒[ヘルプ]を選択します。

3.2 使用するコントロールの把握

MX Componentを使用してユーザプログラムを開発する場合、処理の内容や通信設定方法によって使用するコントロールが異なります。

開発の内容にあったコントロールを確認してください。

処理の内容	対応言語	通信設定	コントロールの種類	コントロール名 (上段: 32ビット用, 下段: 64ビット用)
デバイスデータの読書き	• Visual Basic .NET • Visual C# • Visual C++ • VBA	通信設定ユーティリティで設定	Actコントロール	ActUtilType ActUtilType64
		プログラムで設定		ActProgType ActProgType64
トラブルシュート処理		通信設定方法に関わらず同一のコントロールを使用		ActSupportMsg ActSupportMsg64
ロギングファイルの転送		通信設定ユーティリティで設定	Actコントロール(ロギングファイル 転送用)	ActUtilDataLogging ActUtilDataLogging64
		プログラムで設定		ActProgDataLogging ActProgDataLogging64
ラベルデータの読書き*1	• Visual Basic .NET • Visual C#	通信設定ユーティリティでの設定のみ可能	.Net コントロール	DotUtilType DotUtilType64

*1 ラベル管理ユーティリティで作成したラベルでアクセスします。グローバルラベルでアクセスする場合は、「デバイスデータの読書き」のActコントロールを使用してください。

「通信設定」として通信設定ユーティリティを使用する場合またはプログラムで設定する場合の違いについては下記を参照してください。

☞ 42ページ 通信設定方法の選択

Actコントロールおよび.Netコントロールを開発環境に組み込む方法については下記を参照してください。

☞ 44ページ ユーザプログラムへのコントロールの追加

3.3 通信設定方法の選択

通信設定方法(開発タイプ)として通信設定ユーティリティを使用する方法(ユーティリティ設定タイプ)またはプログラムを使用する方法(プログラム設定タイプ)のどちらかを選択してください。

ユーティリティ設定タイプとプログラム設定タイプの違いについて示します。

開発タイプ	特長	ユーザプログラム内での指定方法	使用可能なコントロール
ユーティリティ設定タイプ	通信設定ユーティリティを使用して、各通信の複雑なパラメータを意識することなくユーザプログラムが作成できます。通信設定は、通信設定ウィザードに従って設定します。各通信設定は論理局番を付与してパソコン内に保存されます。	通信設定ウィザードで設定した論理局番を、Actコントロールおよび.Netコントロールのプロパティ、またはユーザプログラム内部で指定します。	• ActUtilType • ActUtilDataLogging • ActSupportMsg • DotUtilType • ActUtilType64 • ActUtilDataLogging64 • ActSupportMsg64 • DotUtilType64
プログラム設定タイプ	通信設定ユーティリティを使用しないで、ユーザプログラムを作成します。ユーザプログラムにて、柔軟に通信設定が変更できます。	Actコントロールのプロパティウィンドウに直接入力またはユーザプログラム内部で設定します。 なお、設定が必要となるプロパティは、各Actコントロールにより異なります。	• ActProgType • ActProgDataLogging • ActSupportMsg • ActProgType64 • ActProgDataLogging64 • ActSupportMsg64

3.4 ユーザプログラムへのコントロールの追加

MX Componentを使用したユーザプログラムを開発するためには、ユーザプログラムにMX Componentのコントロールを追加する必要があります。

開発言語、使用するコントロールの種類によって追加方法が異なります。詳細は下記を参照してください。

📖 44ページ ユーザプログラムへのコントロールの追加

3.5 ユーザプログラムの新規作成

使用する開発言語に従ってユーザプログラムを作成してください。

開発言語	作成方法
VBA	ExcelまたはAccessでファイルを作成し、Visual Basic Editorを起動してください。
Visual Basic .NET Visual C# Visual C++	Visual Studioを起動し、プロジェクトファイルを作成してください。

3.6 通信設定

ユーティリティ設定タイプでの設定については下記を参照してください。

📖 56ページ ユーティリティを使った設定

プログラム設定タイプでの設定については下記を参照してください。

📖 67ページ プログラムで設定する

3.7 プログラミング

コントロールのプロパティおよび関数を使用してシーケンサと通信するプログラムを作成します。

また、プログラム内で使用するラベルをラベルユーティリティを使用して作成します。

作成したユーザプログラムをデバッグする際には、シーケンサモニタユーティリティを使用することでデバイスおよびバッファメモリの確認が容易にできます。

詳細は下記を参照してください。

📖 117ページ プログラミング

4 ユーザプログラムへのコントロールの追加

ユーザプログラムの中でMX Componentの関数、プロパティを使用するにはユーザプログラムにコントロールを追加する必要があります。

コントロールの追加方法は開発言語、コントロールの種類により異なります。

開発言語	コントロールの種類	コントロールの使用方法	詳細
VBA	Actコントロール(32ビット用, 64ビット用)	オブジェクトを生成して使用する	44ページ オブジェクトを生成して使用する場合
	Actコントロール(32ビット用)	コントロールをフォームに貼り付けて使用する	45ページ コントロールをフォームに貼り付けて使用する場合
Visual Basic .NET Visual C#	Actコントロール(32ビット用, 64ビット用)	オブジェクトを生成して使用する	48ページ オブジェクトを生成して使用する場合
	Actコントロール(32ビット用)*1	コントロールをフォームに貼り付けて使用する	50ページ コントロールをフォームに貼り付けて使用する場合
	.Netコントロール(32ビット用, 64ビット用)	オブジェクトを生成して使用する	48ページ オブジェクトを生成して使用する場合
Visual C++	Actコントロール(32ビット用, 64ビット用)	オブジェクトを生成して使用する	51ページ オブジェクトを生成して使用する場合
	Actコントロール(32ビット用)*1	コントロールをフォームに貼り付けて使用する	53ページ コントロールをフォームに貼り付けて使用する場合

*1 Visual Studio 2019のみサポートしています。

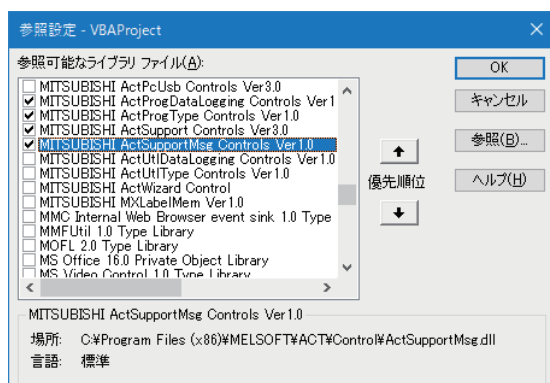
4.1 VBAを使用する場合

VBAを使用する場合の設定操作を下記に示します。

オブジェクトを生成して使用する場合

操作手順

1. Visual Basic Editorを起動します。
 - Microsoft® Excel 2019を使用する場合: [開発]タブの[Visual Basic]を選択します。
 - Microsoft Access 2019を使用する場合: [データベースツール]タブの[Visual Basic]を選択します。
2. Visual Basic Editorの[ツール]タブの"参照設定"を選択します。
3. "参照可能なライブラリファイル"画面から、使用する"開発タイプ"のコントロール(45ページ 使用可能なコントロール(オブジェクトを生成して使用する場合))を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



■使用可能なコントロール(オブジェクトを生成して使用する場合)

使用可能なコントロールを開発タイプ別に示します。

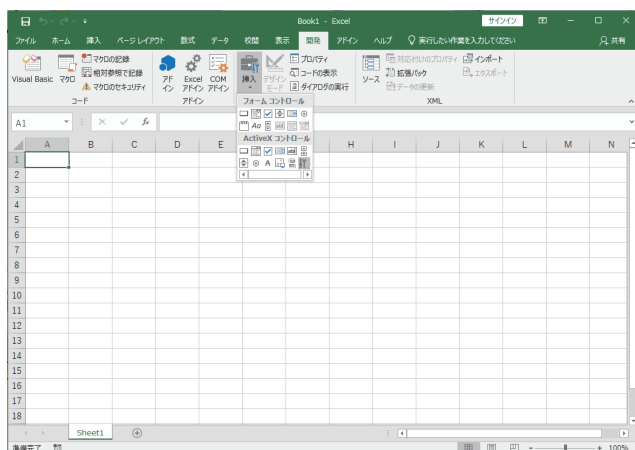
開発タイプ	使用可能なコントロール
ユーティリティ設定タイプ(32ビット用)	MITSUBISHI ActUtilType Controls Ver1.0 MITSUBISHI ActSupportMsg Controls Ver1.0
ユーティリティ設定タイプ(64ビット用)	ActUtilType64 Control ActSupportMsg64 Control
プログラム設定タイプ(32ビット用)	MITSUBISHI ActProgType Controls Ver1.0 MITSUBISHI ActSupportMsg Controls Ver1.0
プログラム設定タイプ(64ビット用)	ActProgType64 Control ActSupportMsg64 Control

コントロールをフォームに貼り付けて使用する場合

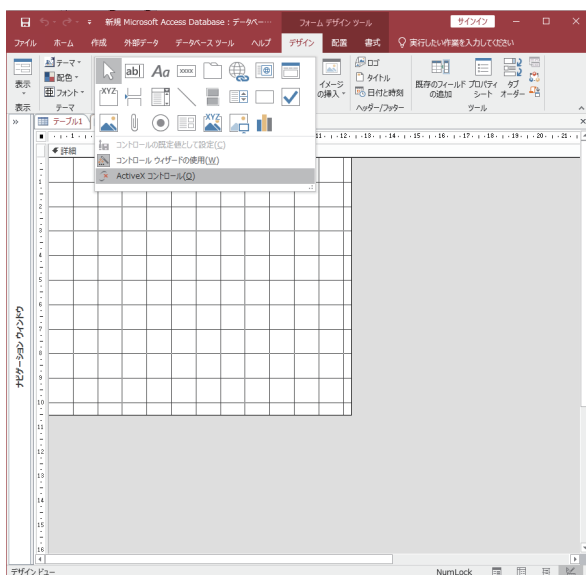
操作手順

1. 画面にActiveXコントロールを追加します。

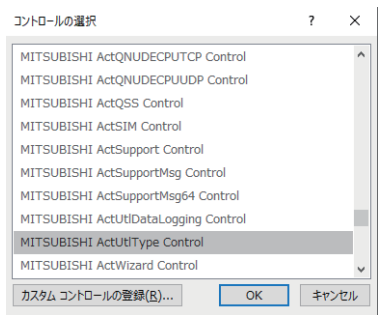
- Microsoft Excel 2019を使用する場合: [開発]タブの[挿入]から  を選択します。



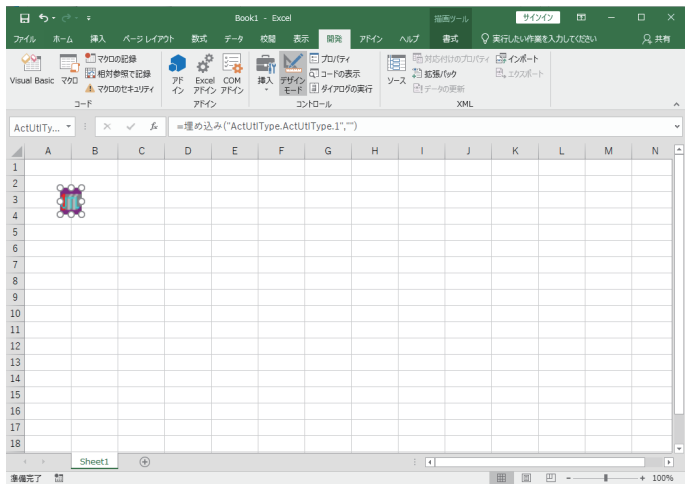
- Microsoft Access 2019を使用する場合: [デザイン]タブの[コントロール]⇒[ActiveXコントロール]を選択します。



2. "コントロールの選択"画面で、使用する"開発タイプ"のコントロール(46ページ 使用可能なコントロール(フォームに貼り付けて使用する場合))を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



3. 選択したActコントロールをシートに貼り付けます。



4. Visual Basic Editorを起動します。
- Microsoft Excel 2019を使用する場合: [開発]タブの[Visual Basic]を選択します。
 - Microsoft Access 2019を使用する場合: [デザイン]タブの[コードの表示]を選択します。

■使用可能なコントロール(フォームに貼り付けて使用する場合)

使用可能なコントロールを開発タイプ別に示します。

開発タイプ	使用可能なコントロール
ユーティリティ設定タイプ(32ビット用)	MITSUBISHI ActUtilType Control MITSUBISHI ActSupportMsg Control
プログラム設定タイプ(32ビット用)	MITSUBISHI ActProgType Control MITSUBISHI ActSupportMsg Control

Microsoft Excel使用時の注意事項

■Excelにコントロールの貼付けを行っても、貼り付かない場合

この現象は、Excelのキャッシュファイル(一時ファイル)が残っている場合に発生します。

その場合は、下記の手順にて操作してください。

操作手順

1. Excelを終了します。
2. tempフォルダのExcel8.0フォルダにある "*.exd" を削除します。
 - tempフォルダは、OSによって場所が異なります。
 - 該当フォルダ、ファイルが表示されていない場合は、フォルダオプションの設定ですべてのファイルとフォルダを表示するように設定してください。
3. Excelを再起動します。

■Actコントロールのサイズ変更について

ExcelではActコントロールのサイズ変更ができますが、MX Componentの動作には影響ありません。

サイズを元に戻す場合は、ActコントロールのHeightプロパティとWidthプロパティを"24"に設定し直してください。

■Excel VBA使用時の注意事項

Excel VBAを使用したアプリケーションに、改ページプレビュー機能を設定しないでください。

メモリリークの発生、OS基本操作(ファイル操作、印刷など)の異常といった現象が発生するおそれがあります。

Microsoft Access使用時の注意事項

■ActコントロールをAccessフォームに貼り付けて、Actコントロールのダブルクリックまたはプロパティ中のカスタムコントロールを選択すると下記のエラーメッセージが表示される

下記のエラーメッセージが表示されますが、Actコントロールの動作には影響はありません。

(その他のエラーメッセージが表示される場合もあります。)



■Actコントロールを貼り付けてプロパティの表示を行った場合に、プロパティ名が途切れて表示される

この現象は、表示だけの問題であり、プロパティの機能には問題ありません。

■Actコントロールのサイズ変更について

AccessではActコントロールのサイズ変更ができますが、MX Componentの動作には影響ありません。

サイズを元に戻す場合は、ActコントロールのHeightプロパティとWidthプロパティを"24"に設定し直してください。

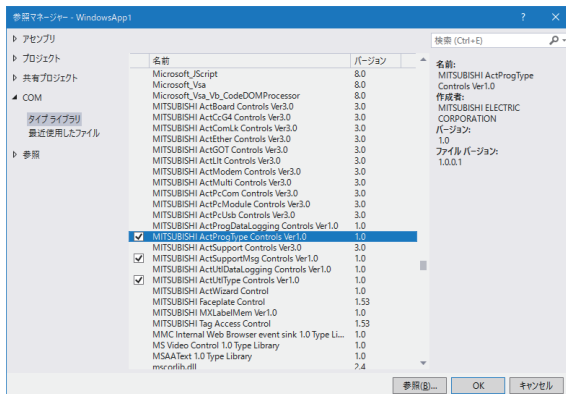
4.2 Visual Basic .NET, Visual C#を使用する場合

Visual Basic .NET, Visual C#を使用する場合の設定操作を下記に示します。

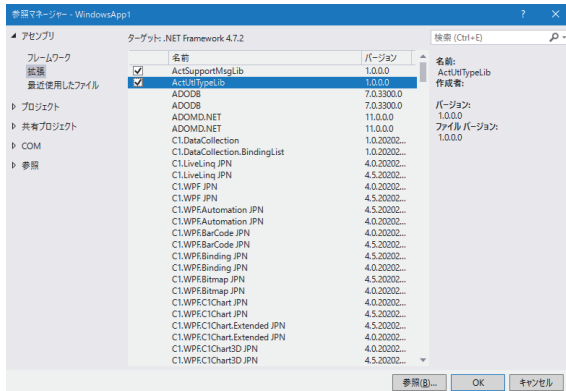
オブジェクトを生成して使用する場合

操作手順

1. Visual Studioを起動します。
2. [プロジェクト]⇒[参照の追加]を選択します。
3. 使用する"開発タイプ"のコントロール(49ページ 使用可能なコントロール(オブジェクトを生成して使用する場合))を追加します。
 - Actコントロールを使用する場合: "参照マネージャー"画面の"COM"からコントロールを選択します。



- .Netコントロールを使用する場合: "参照マネージャー"画面の"アセンブリ"内の"拡張"からコントロールを選択します。



4. プログラム設定タイプで開発を行う場合, [プロジェクト]⇒[既存項目の追加]を選択し, インクルードファイル(49ページ インクルードファイル(Visual Basic .NET, Visual C#の場合))を追加します。インクルードファイルはインストール時, 下記に格納されています。
(ユーザ指定フォルダ)\Act\Include
5. 使用するコントロールごとにクラスのインスタンスを作成してください。(49ページ コントロールごとに生成するクラス)

■使用可能なコントロール(オブジェクトを生成して使用する場合)

使用可能なコントロールを開発タイプ別に示します。

開発タイプ	コントロールの種類	使用可能なコントロール
ユーティリティ設定タイプ(32ビット用)	Actコントロール	MITSUBISHI ActUtilType Controls Ver1.0 MITSUBISHI ActUtilDataLogging Controls Ver1.0 MITSUBISHI ActSupportMsg Controls Ver1.0
	.Netコントロール	MITSUBISHI DotUtilType Component
ユーティリティ設定タイプ(64ビット用)	Actコントロール	ActUtilType64 Control ActUtilDataLogging64 Control ActSupportMsg64 Control
	.Netコントロール	DotUtilType64 Control
プログラム設定タイプ(32ビット用)	Actコントロール	MITSUBISHI ActProgType Controls Ver1.0 MITSUBISHI ActProgDataLogging Controls Ver1.0 MITSUBISHI ActSupportMsg Controls Ver1.0
	.Netコントロール	ActProgType64 Control ActProgDataLogging64 Control ActSupportMsg64 Control

■コントロールごとに生成するクラス

コントロール	クラス
ActUtilType Control	ActUtilTypeLib.ActUtilTypeClass
ActUtilDataLogging Control	ActUtilDataLoggingLib.ActUtilDataLoggingClass
ActSupportMsg Control	ActSupportMsgLib.ActSupportMsgClass
MITSUBISHI DotUtilType Component	MITSUBISHI.Component.DotUtilType
ActUtilType64 Control	ActUtilType64Lib.ActUtilType64Class
ActUtilDataLogging64 Control	ActUtilDataLogging64Lib.ActUtilDataLogging64Class
ActSupportMsg64 Control	ActSupportMsg64Lib.ActSupportMsg64Class
DotUtilType64 Control	DotUtilType64Lib.DotUtilType64
ActProgType Control	ActProgTypeLib.ActProgTypeClass
ActProgDataLogging Control	ActProgDataLoggingLib.ActProgDataLoggingClass
ActSupportMsg Control	ActSupportMsgLib.ActSupportMsgClass
ActProgType64	ActProgType64Lib.ActProgType64Class
ActProgDataLogging64	ActProgDataLogging64Lib.ActProgDataLogging64Class
ActSupportMsg64	ActSupportMsg64Lib.ActSupportMsg64Class

■インクルードファイル(Visual Basic .NET, Visual C#の場合)

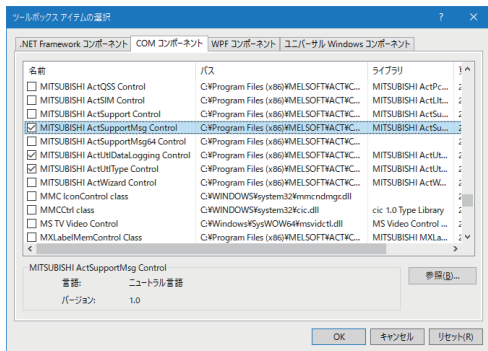
開発言語	インクルードファイル
Visual Basic .NET	ActDefine.vb
Visual C#	ActDefine.cs

コントロールをフォームに貼り付けて使用する場合

本機能はWindows®フォームにのみ対応しています。WPF, UWPには対応していません。
また、Visual Studio 2022には対応していません。

操作手順

1. Visual Studioを起動します。
2. "ツールボックス"内で右クリックし、[アイテムの選択...]を選択します。
3. "ツールボックス アイテムの選択"画面の[COMコンポーネント]タブから、使用する"開発タイプ"のコントロール(50 ページ 使用可能なコントロール(フォームに貼り付けて使用する場合))を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



4. ツールボックスに追加されたコントロールをフォームに貼り付けます。
5. [プロジェクト]⇒[既存項目の追加]を選択し、インクルードファイル(49 ページ インクルードファイル(Visual Basic .NET, Visual C#の場合))を追加します。インクルードファイルはインストール時、下記に格納されています。
(ユーザ指定フォルダ)\Act\Include

■使用可能なコントロール(フォームに貼り付けて使用する場合)

使用可能なコントロールを開発タイプ別に示します。

開発タイプ	使用可能なコントロール
ユーティリティ設定タイプ(32ビット用)	MITSUBISHI ActUtilType Controls MITSUBISHI ActUtilDataLogging Controls MITSUBISHI ActSupportMsg Controls
プログラム設定タイプ(32ビット用)	MITSUBISHI ActProgType Controls MITSUBISHI ActProgDataLogging Controls MITSUBISHI ActSupportMsg Controls

4.3 Visual C++を使用する場合

Visual C++でコントロールを使用する場合、あらかじめMFCをインストールしておく必要があります。
Visual C++を使用する場合の設定操作を下記に示します。

オブジェクトを生成して使用する場合

操作手順

1. Visual Studioを起動します。
2. 下記を参照し、使用する"開発タイプ"で必要なインクルードファイルを設定します。(52ページ インクルードファイルの設定(Visual C++の場合))インクルードファイルはインストール時、下記に格納されています。
(ユーザ指定フォルダ)\Act\Include

開発タイプ	必要なインクルードファイル
ユーティリティ設定タイプ(32ビット用)	ActUtilType_i.c ActUtilType_i.h ActUtilDataLogging_i.c ActUtilDataLogging_i.h ActSupportMsg_i.c ActSupportMsg_i.h
ユーティリティ設定タイプ(64ビット用)	ActUtilType64_i.c ActUtilType64_i.h ActUtilDataLogging64_i.c ActUtilDataLogging64_i.h ActSupportMsg64_i.c ActSupportMsg64_i.h
プログラム設定タイプ(32ビット用)	ActProgType_i.c ActProgType_i.h ActProgDataLogging_i.h ActProgDataLogging_i.c ActSupportMsg_i.c ActSupportMsg_i.h ActDefine.h
プログラム設定タイプ(64ビット用)	ActProgType64_i.c ActProgType64_i.h ActProgDataLogging64_i.h ActProgDataLogging64_i.c ActSupportMsg64_i.c ActSupportMsg64_i.h ActDefine.h

3. 使用するコントロールごとにインスタンスを作成してください。インスタンスの作成方法はVisual C++用のサンプルプログラムを参照してください

操作手順

-
- The screenshot shows the 'Visual Studio Project Properties' window for a project named 'プロジェクトA'. The 'プラットフォーム(P)' tab is active, showing search paths for different architectures. The left pane lists project properties, with 'VC++ ディレクトリ' highlighted. The right pane shows a table of search paths:
- | 名前 | パス |
|--------------------|--|
| 実行可能ファイル ディレクトリ | \$(VC_ExecutablePath_x86) \$(CommonExecutablePath) |
| インクルード ディレクトリ | \$(VC_IncludePath_x86) \$(WindowsSDK_IncPath) |
| 参照ディレクトリ | \$(VC_ReferencePath_x86) |
| ライブラリ ディレクトリ | \$(VC_LibraryPath_x86) \$(WindowsSDK_LibraryPath_x86) |
| ライブラリ WinRT ディレクトリ | \$(WindowsSDK_MetadataPath) |
| ソースディレクトリ | \$(VC_SourcePath); |
| 除外ディレクトリ | \$(CommonExcludePath_x86) \$(VC_ExecutablePath_x86) \$(VC_LibraryPath_x86) |
- At the bottom, there are three buttons: 'OK', 'キャンセル', and '適用(A)'.

全般	
実行可能ファイル ディレクトリ	\$(VC_ExecutablePath_x86);\$(CommonExecutablePath)
インクルードディレクトリ	\$(VC_IncludePath);\$(WindowsSDK_IncludePath);
参照ディレクトリ	<編集>
ライブラリ ディレクトリ	\$(VC_LibraryPath_xoo);\$(WindowsSDK_LibraryPath_xoo)

-
- インクルードディレクトリ
- 新しい行 (Ctrl+Ins)
- 評価された値:
- C:\Program Files (x86)\Microsoft Visual Studio\2019\Professional\VC\Tools\MSVC\14.29.30133\include
- C:\Program Files (x86)\Microsoft Visual Studio\2019\Professional\VC\Tools\MSVC\14.29.30133\include\x64
- 継承の値:
- \$(VC_IncludePath)
- \$(WindowsSDK_IncludePath)
- ☒ 親またはプロジェクトの既定値から継承(I)
- マクロ(M) >>
- OK
- キャンセル

-

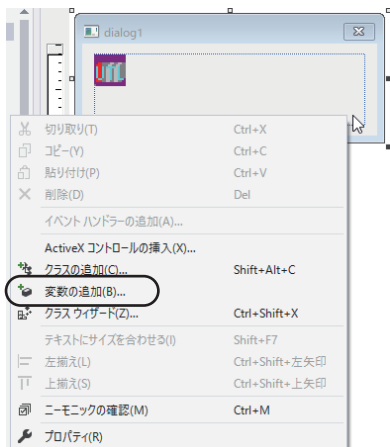
- 52

コントロールをフォームに貼り付けて使用する場合

Visual Studio 2022には対応していません。

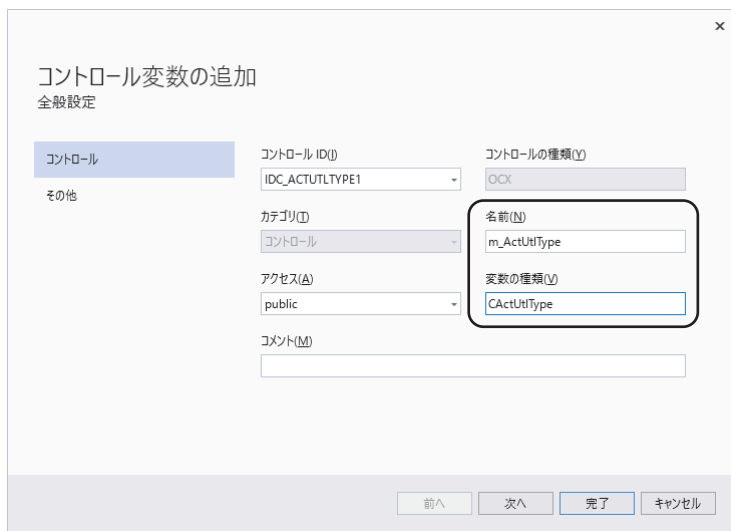
操作手順

1. Visual Studioを起動します。
2. フォームを右クリックして、[ActiveXコントロールの挿入]を選択します。
3. 使用する"開発タイプ"のコントロール(55ページ 使用可能なコントロール(フォームに貼り付けて使用する場合))を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
4. フォームを右クリックして、[変数の追加]を選択します。



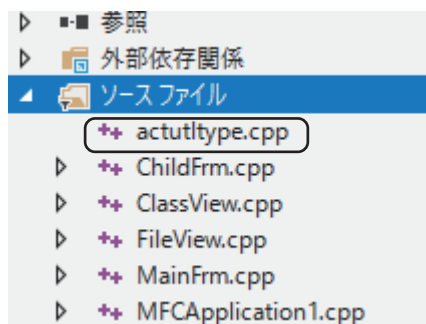
5. "コントロール変数の追加"画面の"全般設定"で、"名前"と"変数の種類"(55ページ 変数の種類)を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

"名前"にはプログラム内で使用するオブジェクト名を入力します。



6. "コントロール変数の追加"画面の"その他の設定"で, ".hファイル"と".cppファイル"([55ページ](#) .hファイルと.cppファイル)を入力し, [完了]ボタンをクリックします。

7. ソリューションエクスプローラーで, 手順6にて設定した".hファイル"と".cppファイル"が作成されていることを確認します。



8. ActProgTypeまたはActProgDataLoggingを使用する場合, [プロジェクト]⇒[既存項目の追加]を選択し, インクルードファイル"ActDefine.h"を追加します。インクルードファイルはインストール時, 下記に格納されています。
(ユーザ指定フォルダ)\Act\Include

Point

コントロールをフォームに貼り付けて使用する場合([53ページ](#) コントロールをフォームに貼り付けて使用する場合)の手順6で作成される".hファイル"が, 正しく作成されない場合があります。([666ページ](#) Visual C++でフォームに貼り付けて使用する際に, ヘッダファイルが正しく作成されない場合)

■使用可能なコントロール(フォームに貼り付けて使用する場合)

使用可能なコントロールを開発タイプ別に示します。

開発タイプ	使用可能なコントロール
ユーティリティ設定タイプ(32ビット用)	MITSUBISHI ActUtilType Controls MITSUBISHI ActUtilDataLogging Controls MITSUBISHI ActSupportMsg Controls
プログラム設定タイプ(32ビット用)	MITSUBISHI ActProgType Controls MITSUBISHI ActProgDataLogging Controls MITSUBISHI ActSupportMsg Controls

■変数の種類

"コントロール変数の追加"画面に入力する, コントロール別の"変数の種類"について下記に示します。

コントロール	変数の種類
ActUtilType	CActUtilType
ActUtilDataLogging	CActUtilDataLogging
ActSupportMsg	CActSupportMsg
ActProgType	CActProgType
ActProgDataLogging	CActProgDataLogging

■.hファイルと.cppファイル

"コントロール変数の追加"画面に入力する, コントロール別の".hファイル"および".cppファイル"について下記に示します。

コントロール	.hファイル	.cppファイル
ActUtilType	actutltype.h	actutltype.cpp
ActUtilDataLogging	actutldatalogging.h	actutldatalogging.cpp
ActSupportMsg	actsupportmsg.h	actsupportmsg.cpp
ActProgType	actprogtype.h	actprogtype.cpp
ActProgDataLogging	actprogdatalogging.h	actprogdatalogging.cpp

5 通信設定

5.1 ユーティリティを使った設定

通信設定ユーティリティを使って通信を行う手順や通信設定ユーティリティの操作、設定方法について説明します。

作業の流れ

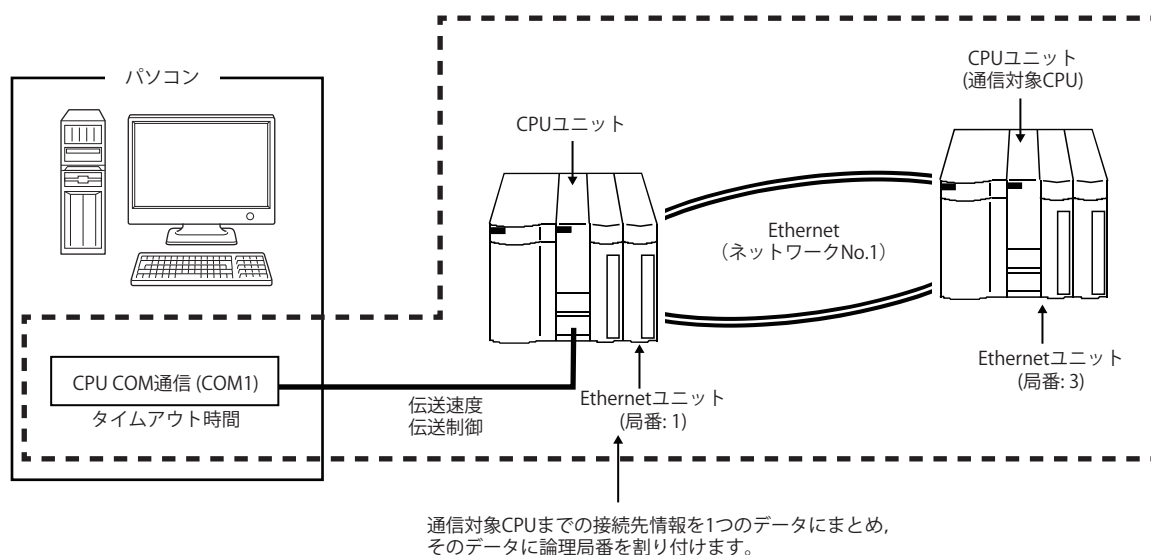
1. 通信設定ユーティリティを使って論理局番ごとの設定を作成する
2. ユーザプログラムの中のActLogicalStationNumberプロパティに論理局番を指定する

論理局番について

論理局番とは、通信回線をオープンさせるために必要な接続先情報を、通信設定ユーティリティを使用し1つのデータにまとめ、そのデータに論理的な番号を付けたものです。

例

CPU COM通信時



通信設定ユーティリティの起動

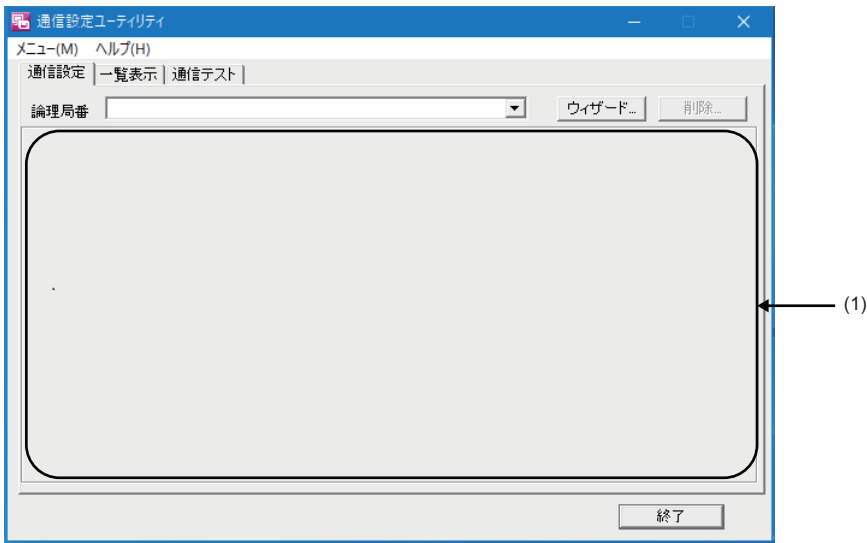
操作手順

Windowsのスタートで"MELSOFT"から通信設定ユーティリティを起動します。

[通信設定]タブ

通信設定ウィザードにて設定した論理局番の設定内容の詳細表示および編集を行います。

画面表示



項目	内容
論理局番	通信設定ウィザードで設定した内容の詳細表示や、編集を行う論理局番を選択します。
[ウィザード]ボタン	通信設定ウィザードを起動し、論理局番の設定を行います。
[削除]ボタン	設定した論理局番を削除します。
(1)接続イメージ図	選択した論理局番の接続イメージ図を表示します。 接続イメージ図の絵(パソコン/ユニット)をクリックすると通信設定ウィザードが起動し、設定内容が変更できます。

Point

通信設定ウィザードの詳細は、下記を参照してください。

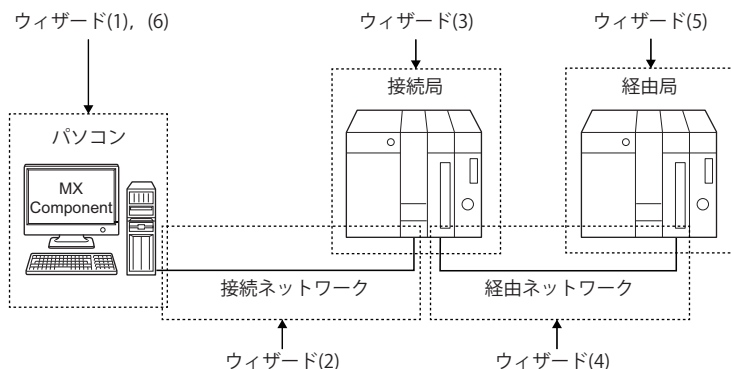
👉 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

通信設定ウィザード画面の操作

ユーティリティ設定タイプで通信するために必要な論理局番の設定をします。

■通信設定ウィザードの概要

ユーティリティ設定タイプで通信するのに必要な論理局番を、ウィザード形式で設定します。



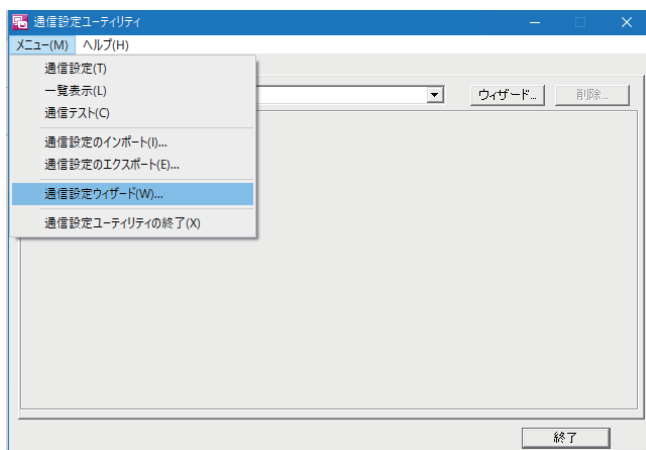
通信設定ウィザードの各画面で設定する内容は下記のとおりです。

通信設定ウィザード	画面名	内容
ウィザード(1)	はじめに	論理局番を設定します。
ウィザード(2)	パソコン側	パソコン・接続局(CPUユニットおよびユニット)間の接続ネットワークを設定します。
ウィザード(3)	シーケンサ側	接続局(CPUユニットおよびユニット)を設定します。
ウィザード(4)	ネットワーク	接続局(CPUユニットおよびユニット)・経由局(CPUユニットおよびユニット)間の経由ネットワークを設定します。
ウィザード(5)	相手先設定	経由局CPUを設定します。
ウィザード(6)	完了	論理局番にコメントを付けます。

■通信設定ウィザード画面の表示方法

画面表示

- ・ [メニュー]⇒[通信設定ウィザード]を選択します。
- ・ ユーティリティ画面の[ウィザード]ボタンをクリックします。



■通信設定ウィザード画面の表示の流れ

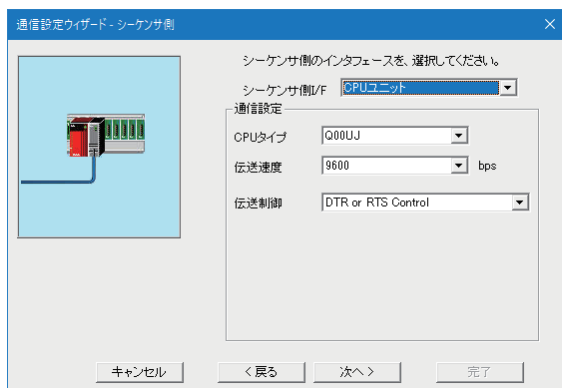
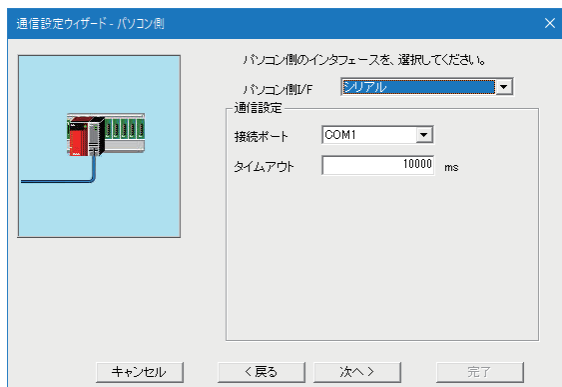
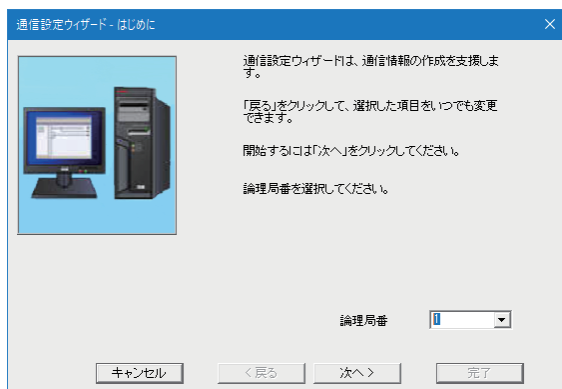
通信設定ウィザード画面は、ウィザード(1)から順にウィザード(6)まで表示されます。

通信設定ウィザード画面が表示される順に沿って説明します。

Point

- 通信設定ウィザード画面は、設定内容によって表示または設定可能項目の内容が異なります。表示されている設定可能項目をすべて設定してください。
- 通信設定ウィザード画面は、設定内容によって表示されない画面もあります。

操作手順



ウィザード(1) - はじめに

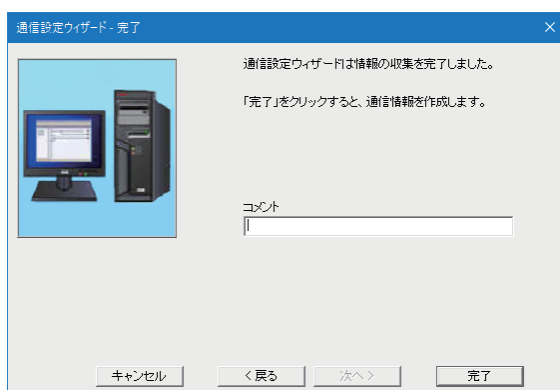
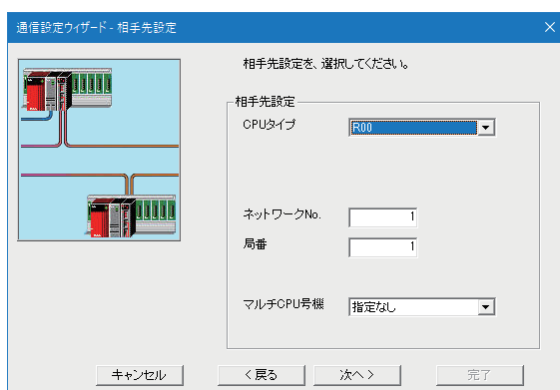
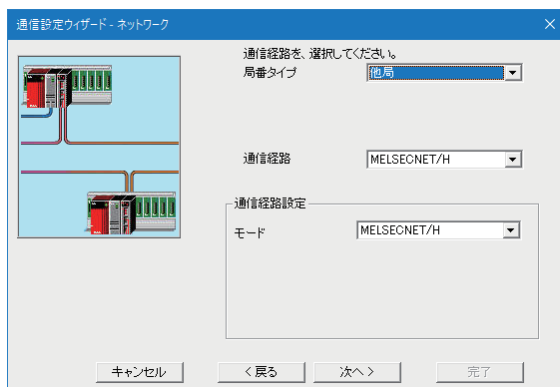
1. 論理局番を入力または選択します。
論理局番は、0～1023まで登録可能です。

ウィザード(2) - パソコン側

2. パソコン側のインタフェースを選択します。
"パソコン側I/F"の選択項目(➡ 61ページ パソコン側I/Fの各通信に対応した選択項目)

ウィザード(3) - シーケンサ側

3. シーケンサ側のインタフェースを選択します。
GOT経路を選択した場合(➡ 60ページ GOT経路を選択した場合)



ウィザード(4) - ネットワーク

4. 通信経路を選択します。

ウィザード(5) - 相手先設定

5. 相手先設定を選択します。

ウィザード(6) - 完了

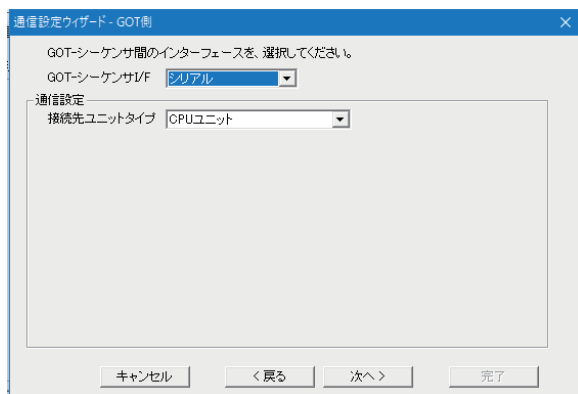
6. コメントを入力し、[完了]ボタンをクリックします。

コメントは半角で32文字まで入力可能です。

通信設定ウィザードで論理局番の登録が完了すると、通信設定画面に設定内容が表示されます。

■GOT経由を選択した場合

下記の画面が表示されます。



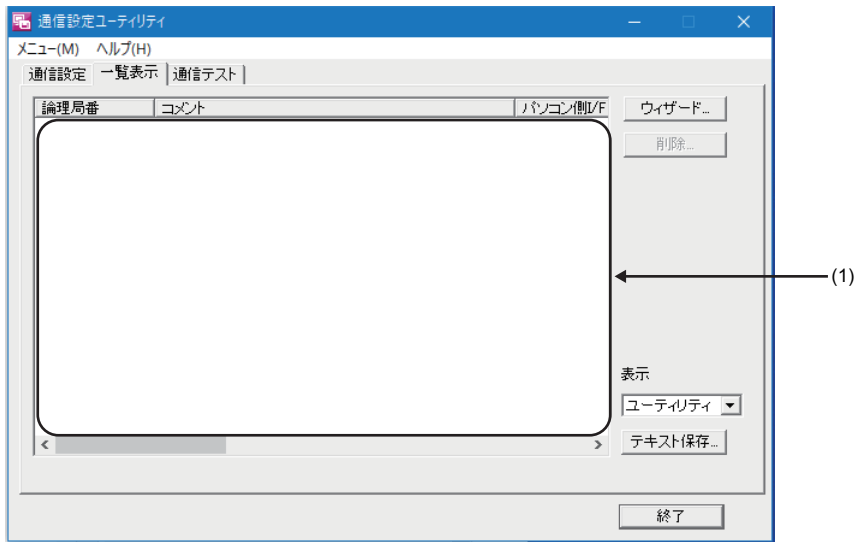
■パソコン側I/Fの各通信に対応した選択項目

設定項目	通信名
USB	USB通信
USB(GOT経由)	GOTトランスペアレント通信
シリアル	シリアルコミュニケーション通信, CPU COM通信, CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信
シリアル(GOT経由)	GOTトランスペアレント通信
Ethernetボード	Ethernet通信, GOTゲートウェイデバイス通信
Ethernetボード(GOT経由)	GOTトランスペアレント通信
CC IE Controlボード	CC-Link IEコントローラネットワーク通信
MELSECNET/Hボード	MELSECNET/H通信
CC IE TSNボード	CC-Link IE TSN通信
CC IE Fieldボード	CC-Link IEフィールドネットワーク通信
CC-Linkボード	CC-Link通信
GX Simulator3	GX Simulator3通信
GX Simulator2	GX Simulator2通信
MT Simulator2	MT Simulator2通信
MELSOFT Mirror	MELSOFT Mirror通信

[一覧表示]タブ

登録されている論理局番の一覧表示，論理局番の編集およびプログラム設定タイプにて必要なプロパティの一覧表示を行います。

画面表示



項目	内容
プロパティ一覧	登録されている論理局番の設定内容を表示します。 論理局番をダブルクリックすると，通信設定ウィザードが起動します。
[ウィザード]ボタン	通信設定ウィザードを起動し，論理局番の設定を行います。
[削除]ボタン	設定した論理局番を削除します。
表示	ユーティリティ：論理局番で設定した内容をプロパティ一覧に表示します。 プログラム：プログラム設定タイプで設定に必要なプロパティ一覧を表示します。
[テキスト保存]ボタン	プロパティ一覧の内容を.txt形式でファイルに保存します。

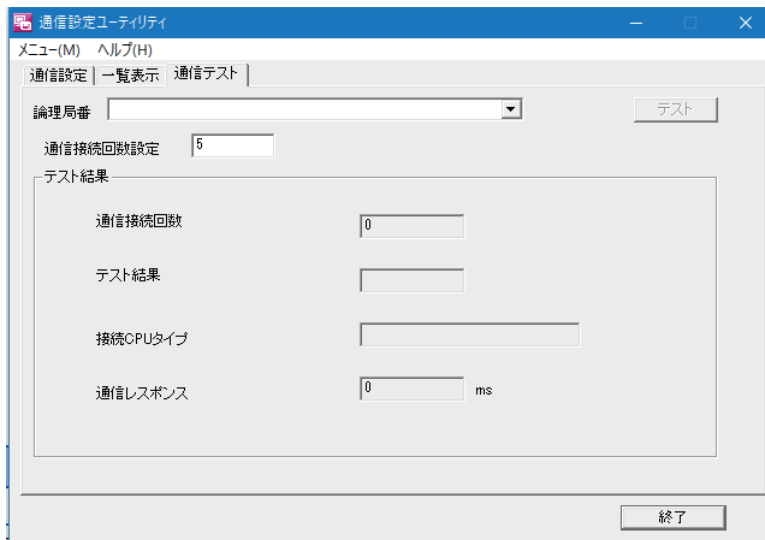
Point

- 通信設定ウィザードの詳細は，下記を参照してください。
📖 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作
- PC側のアダプタ選択を行う通信経路の場合，[一覧表示]タブのActHostAddressプロパティの表記は，「"接続先IPアドレス"+タブ文字+"パソコン側IPアドレス"」になります。
プログラム設定タイプでActHostAddressプロパティの値を設定するときは，タブ文字を正しいタブの文字コードに置き換えてから使用してください。

[通信テスト]タブ

登録されている論理局番の通信テストをします。

画面表示



項目		内容
論理局番		通信テストを行う論理局番を選択します。
通信接続回数設定		指定した論理局番に対し、通信テストを何回(1～32767)繰り返すか設定します。
[テスト]ボタン([キャンセル]ボタン)		通信テストを開始(中止)します。
テスト結果	通信接続回数	通信テスト中の接続回数を表示します。
	テスト結果	テスト結果を表示します。エラー発生時はエラーコードを表示します。正常終了時は0、異常終了時は0以外を表示します。
	接続CPUタイプ	接続CPUタイプを表示します。
	通信レスポンス	1回の通信テストが成立するまでの平均時間(単位: ms)を表示します。

操作手順

1. 論理局番を選択します。
2. [テスト]ボタンをクリックします。
 - ・エラーコードはテスト結果に表示されます。(正常終了時は、テスト結果に"0x00000000"と表示されます。)
 - ・エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。(607ページ エラーコード)

Point

正常な通信を確認した論理局番を使用して、ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティでデバイスデータの収集を行ってください。

通信設定のエクスポートとインポート

エクスポート

パソコンに設定中の通信設定をファイルに保存します。(保存したファイルはACT登録ファイルと呼びます。)
別のパソコンに通信設定を反映したい場合に使用します。

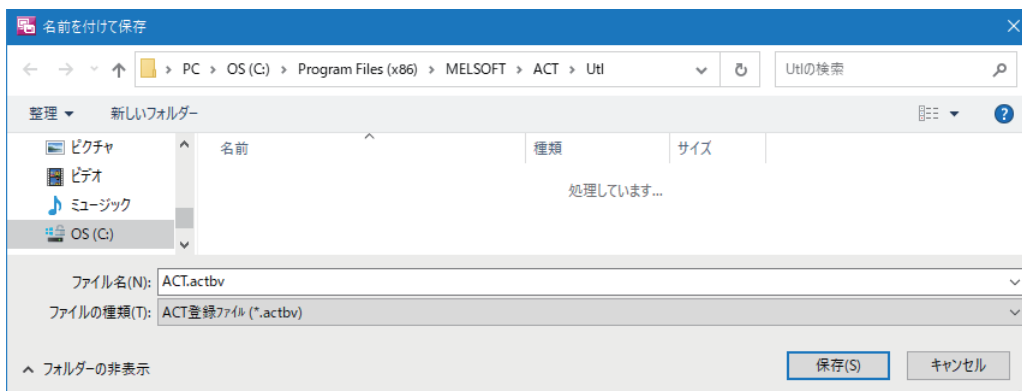
Point

- 通信設定ユーティリティの設定内容は、アンインストールを行うとすべて消去されます。
- 通信設定ユーティリティの設定内容を保存しておきたい場合、ファイルのエクスポートを行ってください。
- MX Component Version 4.11M以前の通信設定ユーティリティでインポートする場合はファイルの種類で*.actを選択し、保存したファイルを使用します。

操作手順

[メニュー]⇒[通信設定のエクスポート]を選択します。

画面表示



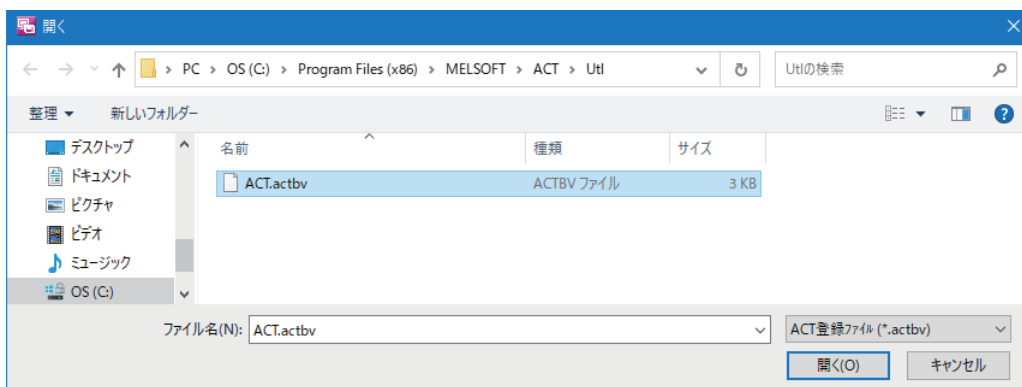
インポート

通信設定のエクスポート(64ページ エクスポート)でファイルに保存した設定をユーティリティに反映します。
別のパソコンで設定した通信設定を、使用しているパソコンに反映する場合に使用します。

操作手順

[メニュー]⇒[通信設定のインポート]を選択します。

画面表示



Point

通信設定のインポートを行う場合は、エクスポート時のバージョン以降のMX Componentを使用してください。

エクスポート時のMX Componentのバージョンより前のバージョンを使用した場合、正しくインポートされないことがあります。

作成した論理局番をプログラムの中で指定する

オープン関数用プロパティであるActLogicalStationNumber(LONG)に通信設定ユーティリティで設定した論理局番を指定し、Open関数を実行することで通信できます。

5.2 プログラムで設定する

プログラム設定タイプで通信するためには、各Actコントロールのプロパティを設定する必要があります。

各Actコントロールのプロパティは、プロパティウィンドウで直接入力、またはユーザプログラム内部でプロパティを設定変更します。

各Actコントロールで設定必要なプロパティについての詳細は、下記を参照してください。

☞ 174ページ プロパティの詳細

また、MX Componentを使用する際のユニットの設定については、下記を参照してください。

項目	参照
シリアルコミュニケーション通信	29ページ システム構成
Ethernet通信(Ethernetユニット使用時)	
CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信	

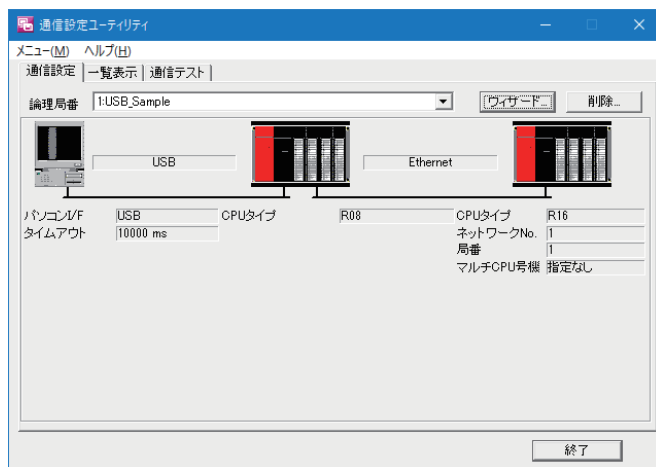
作業の流れ

1. 通信設定ユーティリティを使って必要なプロパティを確認する
2. ユーザプログラムの中で必要なプロパティを設定する

通信設定ユーティリティでプロパティを確認する

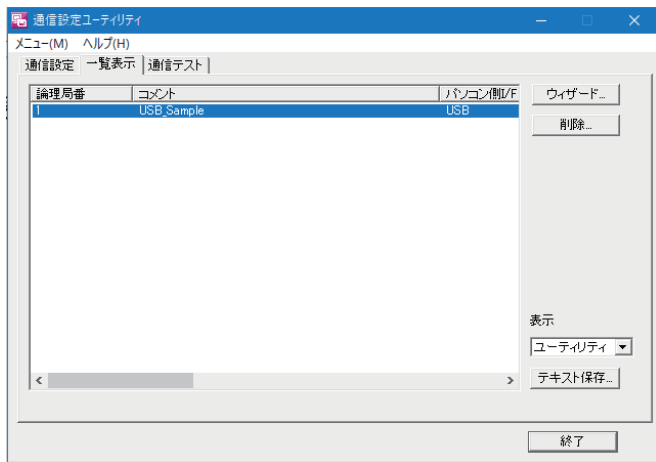
プロパティは、下記の手順で確認します。

操作手順

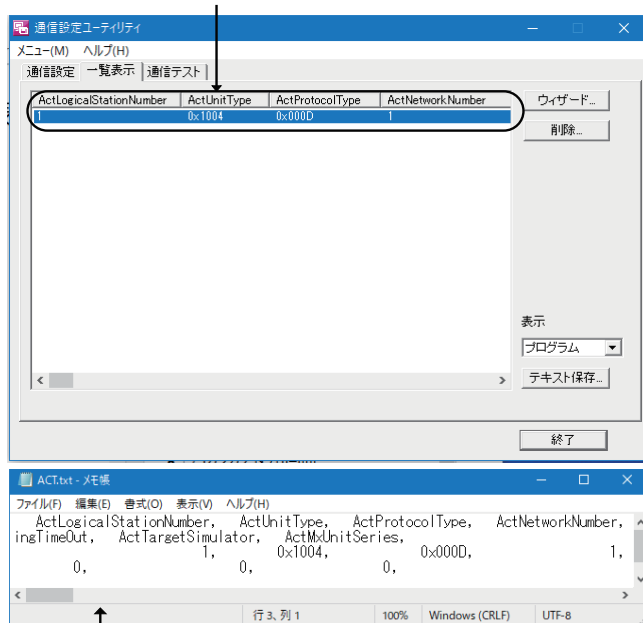


1. 通信設定ユーティリティの"通信設定ウィザード"で、通信経路を設定します。
通信設定ウィザードの詳細は、下記を参照してください。

☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作



使用すべきコントロール名と、設定が必要なプロパティを表示します。



.txt形式でファイルに保存します。

2. [一覧表示]タブをクリックします。
一覧表示画面の詳細は、下記を参照してください。
62ページ [一覧表示]タブ
3. 表示を"プログラム"に設定します。

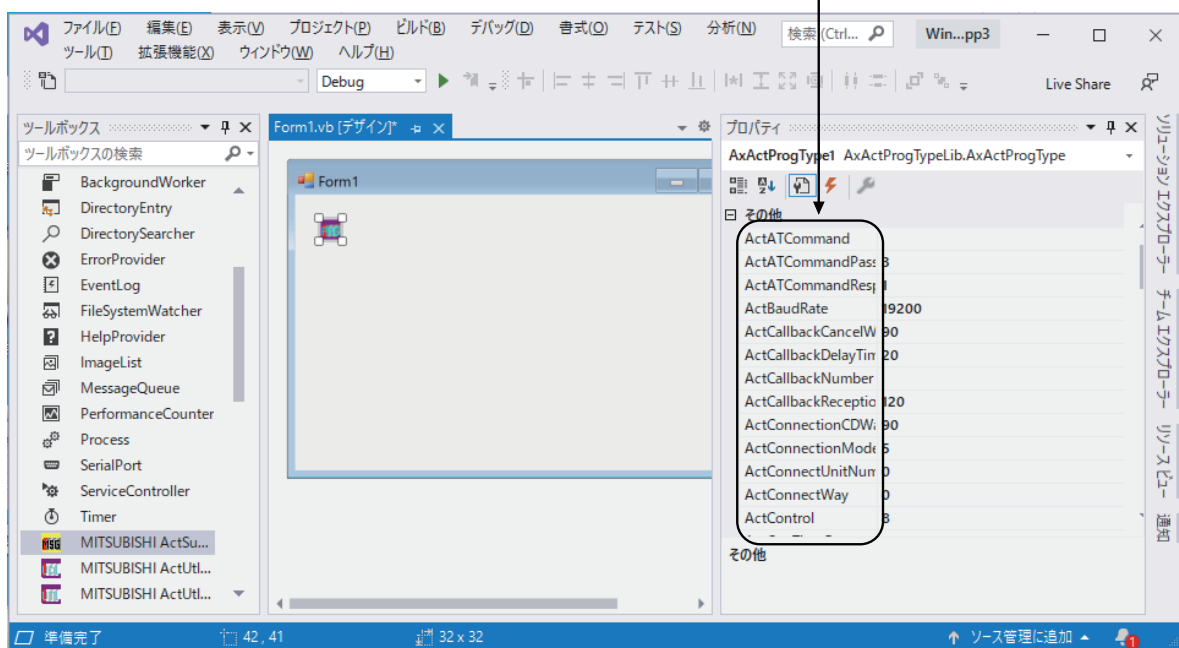
4. スクロールバーを操作し、プロパティを確認します。
[テキスト保存]ボタンをクリックすると、.txt形式でファイルを保存できます。

ユーザプログラムの中で必要なプロパティを設定する

通信設定ユーティリティから出力したテキストファイルでプロパティ値を確認し、プロパティウィンドウのプロパティ値に直接入力します。

例) Visual Basic .NET

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	ActLogicalStationNumber	ActUnitType	ActProtocolType	ActNetworkNumber	ActStationNumber	ActUnitNumber	ActConnectUnitNumber	ActIONumber	ActCPUType
2	1	0x1004	0x000D	1	1	0	0	0x03E0	0x1003
3	2	0x0013	0x0013	0	255	0	0	0x03FF	0x0072
4	3	0x0013	0x0004	0	255	0	0	0x03E0	0x00D3



ソースコードでもプロパティの設定を変更できます。

6 通信設定例(ユーティリティ使用時)

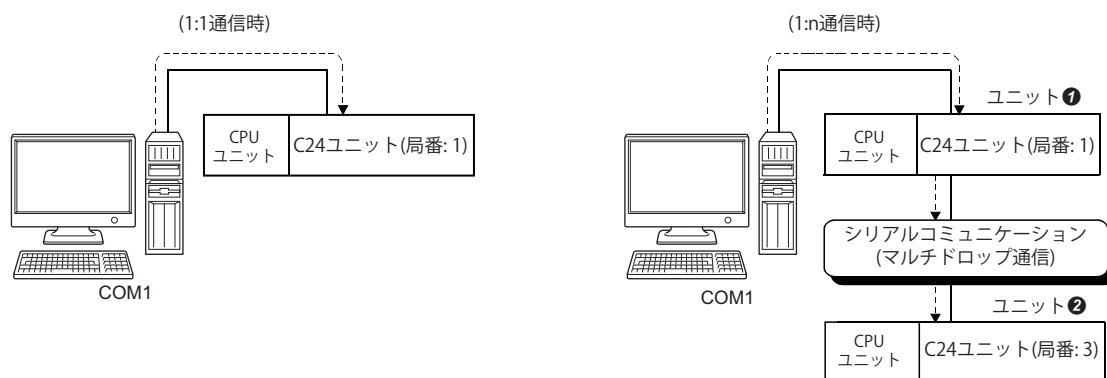
各通信経路に対して、ユーティリティ設定タイプでプログラミングを行う際の設定手順、および設定例について説明します。

Point

- MX Componentでは、ユーティリティ設定タイプで簡単に通信設定の登録や変更が行えます。
- 表中の"ユーザ任意"以外の設定は、表中の値を設定してください。
- MX Componentではじめて通信設定を確認する場合は、あらかじめ各エンジニアリングツールで各通信経路が正常に通信できることを確認しておいてください。通信できない場合の原因をあらかじめ容易に発見できます。
- ユニットの設定に関する詳細な説明については、各ユニットのマニュアルを参照してください。

6.1 シリアルコミュニケーション通信

ユーティリティ設定タイプで、シリアルコミュニケーション通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

CPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. ユニットの設定をします。
📖 72ページ シリアルコミュニケーションユニットの設定
2. ユニットとパソコンを接続します。
📖 29ページ システム構成
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
📖 71ページ 論理局番の設定例
4. 通信テストをして、通信を確認します。
📖 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

■1:n通信時

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	シリアル
	接続ポート	COM1
	タイムアウト	10000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	C24ユニット
	ユニットタイプ	使用するC24ユニットを選択
	局番	1
	伝送速度	19200
	パリティ	Odd
	伝送制御	DTR or RTS Control
ネットワーク	局番タイプ	他局
	通信経路	C24
	ネットワーク種別	Multidrop(combine)
相手先設定	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	局番	3
完了	コメント	(任意)

シリアルコミュニケーションユニットの設定

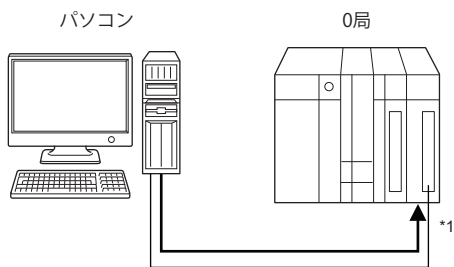
MX Componentを使用する際の、シリアルコミュニケーションユニットの設定について説明します。
MX Component側の設定はユニット側の設定に合わせます。

MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24

詳細は、下記を参照してください。
📖 MELSEC iQ-R シリアルコミュニケーションユニットユーザーズマニュアル(応用編)

Qシリーズ対応C24，Lシリーズ対応C24

■1:1通信時
下記構成の設定例です。



*1 CH1を使用します。

Point

Q/LシリーズのC24と1対1で接続する場合、Q/LシリーズのC24のスイッチ設定を行うことなく通信ができます。スイッチ設定を行わない場合は、下記のGX Developer接続/MELSOFT接続として動作します。

項目	設定内容		設定値
	b15～b8	b7～b0	
スイッチ1	CH1通信速度	CH1伝送設定	0000H
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0000H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	0000H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0000H
スイッチ5	ユニット局番		0000H

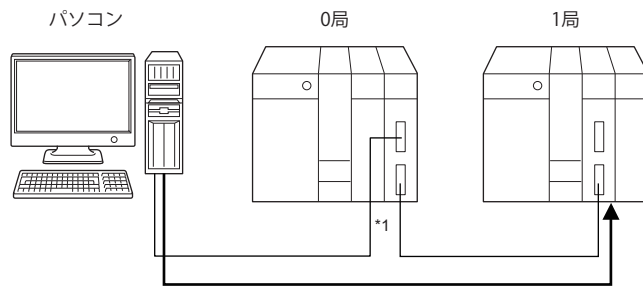
交信プロトコルを00H(GX Developer接続/MELSOFT接続)に設定すると、下記の設定値で動作します。
詳細は、下記を参照してください。

📖 Q対応シリアルコミュニケーションユニットユーザーズマニュアル(基本編)
📖 MELSEC-L シリアルコミュニケーションユニットユーザーズマニュアル (基本編)

伝送設定	設定内容
データビット	8
パリティビット	あり
奇数/偶数パリティ	奇数
ストップビット	1
サムチェックコード	あり
RUN中書込	許可

■1:n通信時

下記構成の設定例です。



*1 CH1およびCH2両方を使用します。

①0局

項目	設定内容		設定値
	b15～b8	b7～b0	連動動作
スイッチ1	CH1通信速度	CH1伝送設定	07E6H
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0008H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	07E7H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0000H
スイッチ5	ユニット局番		0000H(ユーザ任意)

②1局

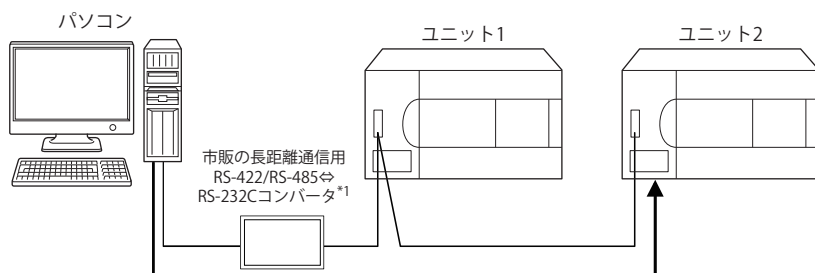
項目	設定内容		設定値
	b15～b8	b7～b0	独立動作
スイッチ1	CH1通信速度	CH1伝送設定	CH1の用途に合わせる
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	07E6H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0005H
スイッチ5	ユニット局番		0000H(ユーザ任意)

下記の設定値で動作します。

伝送設定		設定内容
動作設定	0局	連動
	1局	独立
データビット		8
パリティビット		あり
奇数/偶数パリティ		奇数
ストップビット		1
サムチェックコード		あり
RUN中書込		許可
伝送速度設定		19200bps

FX拡張ポート

下記構成の設定例です。



*1 詳細はテクニカルニュース(姫テ-シ-0202)を参照してください。

FX拡張ポートを使用して通信する前に、GX Works2でFXCPUのパラメータを設定します。

設定方法には、下記の2通りがあります。参照先に従って操作してください。

- PCパラメータにより設定する(74ページ PCパラメータ設定)
- シーケンスプログラムで特殊データレジスタ(D8120, D8121, D8129)に値を書き込む(75ページ シーケンスプログラムで特殊データレジスタに値を書き込む設定)

■PCパラメータ設定

操作手順

1. GX Works2を起動します。
2. プロジェクト一覧の[パラメータ]⇒[PCパラメータ]をクリックします。
3. "FXパラメータ設定"画面の[PCシステム設定(2)]タブをクリックします。

FXパラメータ設定

特殊ユニット設定 | 内蔵位置決め設定 | Ethernetポート設定

メモリ容量設定 | デバイス設定 | PCネーム設定 | PCシステム設定(1) | PCシステム設定(2)

CH1

☒ 通信設定をする

チェックをはずすと設定内容はクリアされます。
(FX用オプションボード等を使用しGX Works2やGOT等とシーケンサで通信する場合は、
チェックをはずした状態でシーケンサ側の特殊レジスタD8120は0にクリアしておきます。)

プロトコル: 無手続通信

データ長: 7bit

パリティ: 奇数

ストップビット: 1bit

伝送速度: 9600 (bps)

☐ ヘッダ

☐ ターミネータ

☐ 制御線

H/Wタイプ: 通常/RS-232C

制御モード: 無効

☐ サムチェック

伝送制御手順: 形式1(CR, LFなし)

局番設定: 00 H (00H~0FH)

タイムアウト判定時間: 1 ×10ms (1~255)

表示画面印刷... 表示画面プレビュー

デフォルト チェック 設定終了 キャンセル

4. 画面上の項目を設定します。

項目	内容
通信設定をする	チェックボックスにチェックを入れます。
プロトコル* ¹	通信プロトコルを設定します。
データ長* ¹	7bit/8bit
パリティ* ¹	なし/奇数/偶数
ストップビット* ¹	1bit/2bit
伝送速度* ¹	300bps/600bps/1200bps/2400bps/4800bps/9600bps/19200bps
H/Wタイプ* ¹	通信を行うケーブルの種類を設定します。
サムチェック* ¹	なし/あり
伝送制御手順* ¹	伝送制御する形式を設定します。
局番設定* ¹	局番を設定します。
タイムアウト判定時間* ¹	タイムアウト時間を設定します。

*¹ "通信設定をする"がOFFのときは、設定できません。

Point

- 通信設定を行った場合、PC書込を行った後にFXCPUの電源を再投入してください。
- マルチドロップ接続する場合、各機器の通信設定は同じ内容にしてください。
ただし、局番設定は重複しないように設定してください。

■シーケンスプログラムで特殊データレジスタに値を書き込む設定

①D8120(通信フォーマット)

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
D8120																

ビット	内容	設定内容
b0	データ長	0: 7ビット 1: 8ビット
b1	パリティ	なし: b2=0, b1=0 奇数: b2=0, b1=1 偶数: b2=1, b1=1
b2		
b3	ストップビット	0: 1ビット 1: 2ビット
b4	伝送速度	伝送速度を設定します。* ¹
b5		
b6		
b7		
b8	—	0
b9		0
b10	H/Wタイプ	RS-485: b11=0, b10=0
b11		
b12	—	0
b13	サムチェック	0: なし 1: あり
b14	通信プロトコル	1: シリアルコミュニケーション
b15	伝送制御手順	0: 形式1

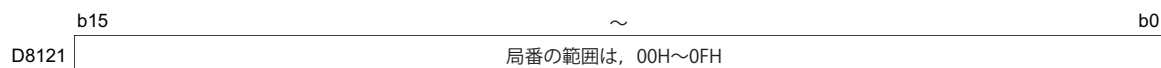
*¹ 伝送速度の設定内容を下記に示します。

伝送速度	b7	b6	b5	b4
300bps	0	0	1	1
600bps	0	1	0	0
1200bps	0	1	0	1
2400bps	0	1	1	0
4800bps	0	1	1	1
9600bps	1	0	0	0
19200bps	1	0	0	1

②D8121(局番指定)

使用する局番号を設定します。

局番号の範囲は、00H～0FHです。

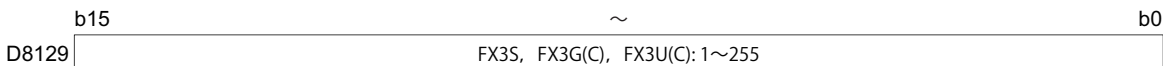


③D8129(タイムアウト判定時間設定)

FXCPUのタイムアウト判定時間を10ms単位で指定します。

FX3S, FX3G, FX3GC, FX3U, FX3UCは、1～255(10～2550ms)となります。

0が格納されている場合は、100msとなります。

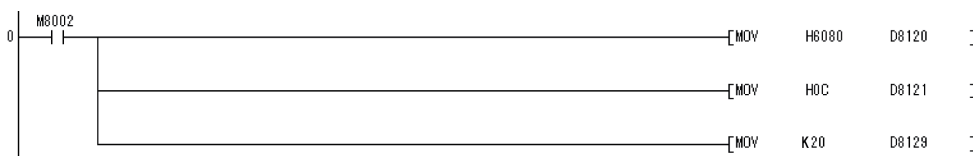


Point

- 通信設定を行った場合、PC書込を行った後にFXCPUの電源を再投入してください。
- マルチドロップ接続する場合、各機器の通信設定は同じにしてください。
ただし、局番設定は重複しないように設定してください。

Point

特殊データレジスタに値を設定するシーケンスプログラムの例を下記に示します。

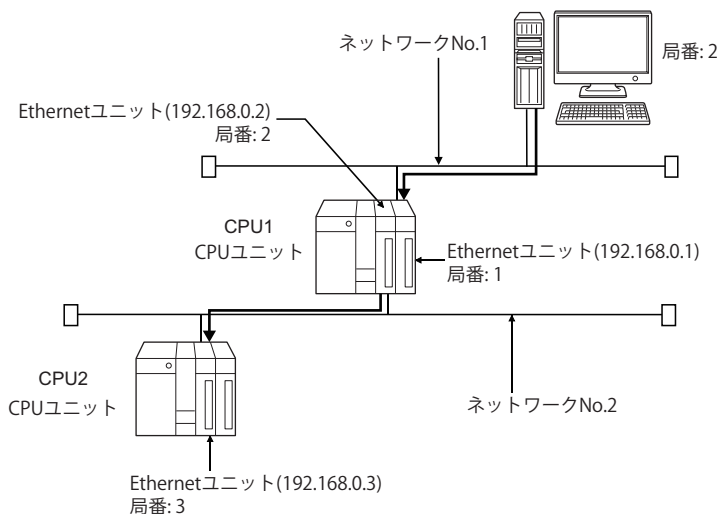


上記プログラムの各特殊データレジスタの設定内容を示します。

- D8120
伝送制御手順: 形式1
通信プロトコル: シリアルコミュニケーション
サムチェック: あり
H/Wタイプ: RS-485
転送速度: 9600bps
ストップビット: 1ビット
パリティ: なし
データ長: 7ビット
- D8121
局番: 12
- D8129
タイムアウト時間: 200ms

6.2 Ethernet通信(Ethernetユニット使用時)

ユーティリティ設定タイプで、Ethernetユニットを使用してEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

CPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. ユニットのパラメータを設定します。

☞ 79ページ ユニットの設定

2. ユニットとパソコンを接続します。

☞ 29ページ システム構成

3. HOSTSファイルを編集します。

通信設定ユーティリティのホスト名(IPアドレス)およびActHostAddressプロパティにIPアドレスを入力する場合は、HOSTSファイルを編集する必要はありません。

4. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。

☞ 78ページ 論理局番の設定例

5. 通信テストをして、通信を確認します。

☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	Ethernetボード
	接続先ユニットタイプ	使用するEthernetボードを選択
	プロトコル	TCP
	ネットワークNo.	1
	局番	2
	タイムアウト	60000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	Ethernetユニット
	ユニットタイプ	使用するEthernetユニットを選択
	ホスト名(IPアドレス)	192.168.0.1
	局番	1
ネットワーク	局番タイプ	他局
	通信経路	Ethernet
相手先設定	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	ネットワークNo.	2
	局番	3
	マルチCPU号機	指定なし
完了	コメント	(任意)

ルーチングパラメータ設定

GX Works2のネットワークパラメータEthernet/CC IE/MELSECNETルーチング情報設定画面にて、下記の設定を行います。
ルーチングパラメータについては、下記を参照してください。

📖 638ページ ルーチングパラメータの考え方

設定を行うCPU	設定画面例																
CPU 1	<table><tr><th></th><th>転送先 ネットワークNo.</th><th>中継先 ネットワークNo.</th><th>中継先 局No.</th></tr><tr><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.	1	1	2	2	2	2	1	1	3			
	転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.														
1	1	2	2														
2	2	1	1														
3																	
CPU 2	<table><tr><th></th><th>転送先 ネットワークNo.</th><th>中継先 ネットワークNo.</th><th>中継先 局No.</th></tr><tr><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.	1	1	2	2	2				3			
	転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.														
1	1	2	2														
2																	
3																	

Point

RCPUの場合、GX Works3でルーチング設定を行います。

ルーチング設定の詳細は、下記を参照してください。

📖 MELSEC iQ-R Ethernetユーザズマニュアル(応用編)

交信確認

Ethernet通信を行うための準備が完了したら、MX Componentで交信を行う前にMS-DOSモードでpingを実行して接続を確認してください。

- 正常時

C:\>ping 192.168.0.2

Reply from 192.168.0.2:bytes=32 time<10ms TTL=32

- 異常時

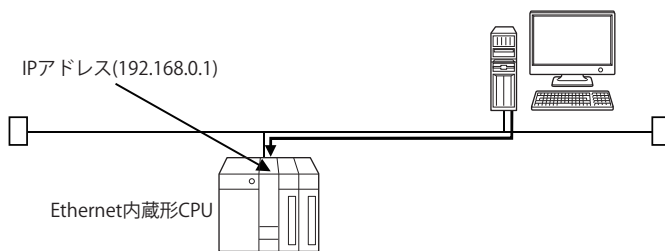
C:\>ping 192.168.0.2

Request timed out.

pingが通らない場合は、ケーブルおよびユニットの接続や、Windows側のIPアドレスなどの設定をチェックしてください。

6.3 Ethernet通信(Ethernet内蔵形CPU使用時)

ユーティリティ設定タイプで、Ethernet内蔵形CPUを使用してEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

CPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

■Ethernetポート直結接続時

1. ユニットとパソコンを接続します。
☞ 29ページ システム構成
2. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 82ページ Ethernetポート直結接続時
3. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

■ホスト名(IPアドレス)指定時

1. ユニットとパソコンを接続します。
☞ 29ページ システム構成
2. ユニットのパラメータを設定します。
☞ 83ページ パラメータ設定(ホスト名(IPアドレス)指定の場合のみ), ☞ 83ページ 交信確認
3. HOSTSファイルを編集します。
通信設定ユーティリティのホスト名(IPアドレス)およびActHostAddressプロパティにIPアドレスを入力する場合は、HOSTSファイルを編集する必要はありません。
4. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 82ページ ホスト名(IPアドレス)指定時
5. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

■Ethernetポート直結接続時

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	Ethernetボード
	接続先ユニットタイプ	CPUユニット
	プロトコル	UDP
	タイムアウト	60000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	CPUユニット
	Ethernetポート直結接続	チェックボックスにチェックを入れる
ネットワーク	局番タイプ	自局
	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	マルチCPU号機	指定なし
完了	コメント	(任意)

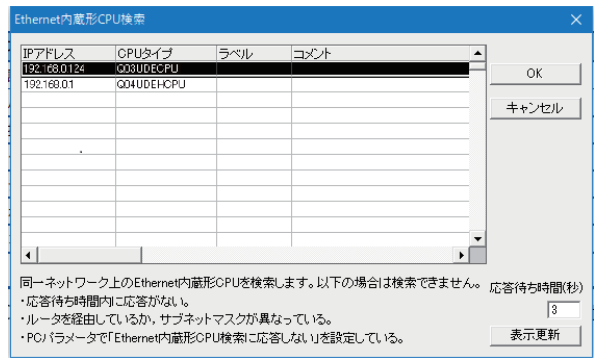
■ホスト名(IPアドレス)指定時

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	Ethernetボード
	接続先ユニットタイプ	CPUユニット
	プロトコル	TCP
	タイムアウト	60000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	CPUユニット
	ホスト名(IPアドレス)	192.168.0.1
ネットワーク	局番タイプ	自局
	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	マルチCPU号機	指定なし
完了	コメント	(任意)

Point

Ethernet内蔵形CPU検索を使用する場合、[ネットワーク上のEthernet内蔵形CPUを検索]ボタンをクリックしてください。

検索対象は、同一ネットワーク上のEthernet内蔵形CPUです。



表示一覧の中から対象のCPUを選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。

「通信設定ウィザード - シーケンサ側」設定にIPアドレスを反映させることができます。

ユニットの設定

MX Componentを使用する際の、ユニット側の設定を示します。

MX Component側の設定はユニット側の設定に合わせます。

パラメータ設定(ホスト名(IPアドレス)指定の場合のみ)

GX Works2のPCパラメータから行います。

PCパラメータの[内蔵Ethernetポート設定]タブをクリックし、IPアドレスなどの通信設定を行います。

6

Point

RCPUおよびLHCPUの場合、GX Works3でパラメータ設定を行います。

パラメータ設定の詳細は、下記を参照してください。

📖 MELSEC iQ-R Ethernetユーザーズマニュアル(応用編)

通信確認

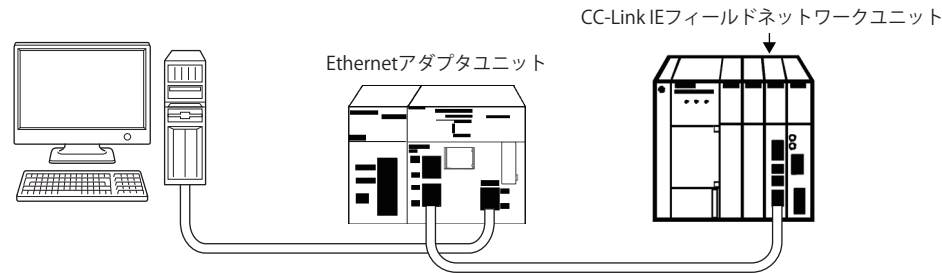
Ethernet通信を行うための準備が完了したら、MX Componentで通信を行う前にMS-DOSモードでpingを実行して接続を確認してください。

- 正常時
C:\>ping 192.168.0.1
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=1ms TTL=64
- 異常時
C:\>ping 192.168.0.1
Request timed out.

pingが通らない場合は、ケーブルおよびユニットの接続や、Windows側のIPアドレスなどの設定をチェックしてください。

6.4 Ethernet通信(Ethernetアダプタユニット使用時)

ユーティリティ設定タイプで、Ethernetアダプタユニットを使用してEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

CPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. ユニットとパソコンを接続します。
☞ 29ページ システム構成
2. EthernetアダプタユニットをCC-Link IEフィールドネットワークに接続します。
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 87ページ 論理局番の設定例
4. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

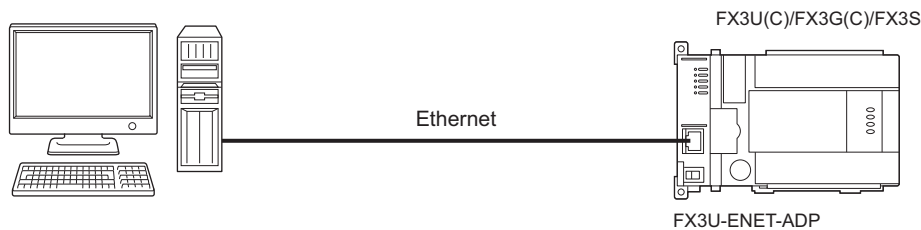
☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

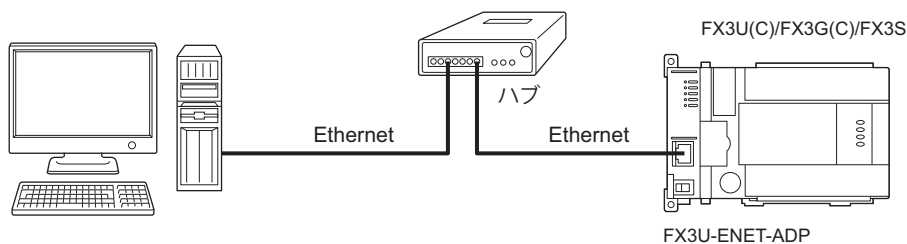
通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0~1023
パソコン側	パソコン側I/F	Ethernetボード
	接続先ユニットタイプ	CC IE Field Ethernetアダプタ
	プロトコル	TCP
	タイムアウト	60000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	CC IE Field Ethernetアダプタ
	ホスト名(IPアドレス)	192.168.3.30
ネットワーク	局番タイプ	他局(単一ネットワーク)
相手先設定	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	ネットワークNo.	1
	局番	0
	マルチCPU号機	指定なし
完了	コメント	(任意)

6.5 Ethernet通信(Ethernetアダプタ使用時)

ユーティリティ設定タイプで、Ethernetアダプタを使用してEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。
<直結通信時>



<IP指定通信時>



アクセスまでの手順

CPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

■Ethernetポート直結接続時

1. Ethernetアダプタとパソコンを接続します。
☞ 29ページ システム構成
2. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 86ページ 直結通信時
3. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

■ホスト名(IPアドレス)指定時

1. Ethernetアダプタとパソコンを接続します。
☞ 29ページ システム構成
2. HOSTSファイルを編集します。
通信設定ユーティリティのホスト名(IPアドレス)およびActHostAddressプロパティにIPアドレスを入力する場合は、HOSTSファイルを編集する必要はありません。
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 86ページ IP指定通信時
4. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

■直結通信時

通信設定ウィザード	項目	設定例(直結通信時)
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	Ethernetボード
	接続先ユニットタイプ	FX3U-ENET-ADP
	タイムアウト	60000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	FX3U-ENET-ADP
	Ethernetポート直結接続	チェックボックスにチェックを入れる
ネットワーク	局番タイプ	自局
	CPUタイプ	使用するFXCPUを選択
完了	コメント	(任意)

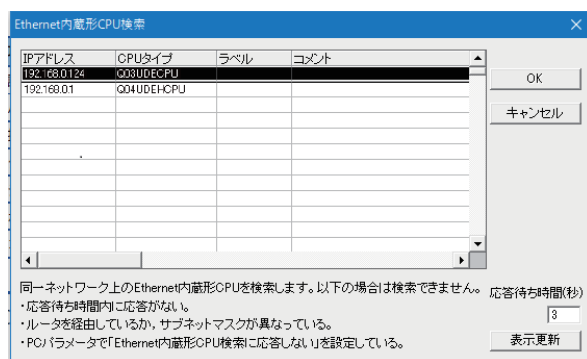
■IP指定通信時

通信設定ウィザード	項目	設定例(IP指定通信時)
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	Ethernetボード
	接続先ユニットタイプ	FX3U-ENET-ADP
	タイムアウト	60000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	FX3U-ENET-ADP
	ホスト名(IPアドレス)	192.168.0.1
完了	コメント	(任意)

Point

Ethernet内蔵形CPU検索を使用する場合、[ネットワーク上のEthernet内蔵形CPUを検索]ボタンをクリックしてください。

検索対象は、同一ネットワーク上のEthernet内蔵形CPUです。

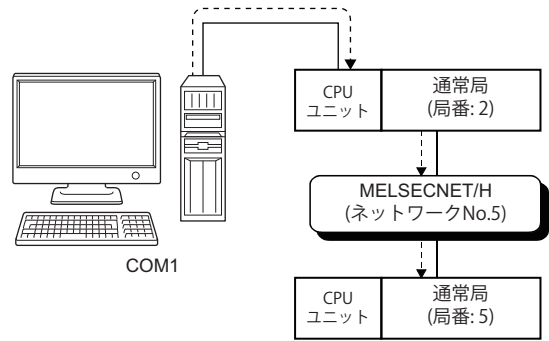


表示一覧の中から対象のCPUを選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。

「通信設定ウィザード - シーケンサ側」設定にIPアドレスを反映させることができます。

6.6 CPU COM通信

ユーティリティ設定タイプで、CPU COM通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

CPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. ユニットとパソコンを接続します。
☞ 29ページ システム構成
2. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 87ページ 論理局番の設定例
3. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

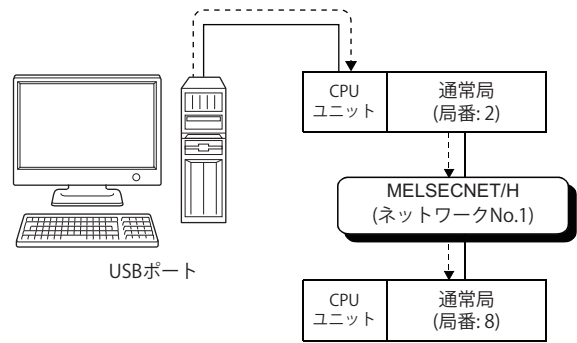
☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	シリアル
	接続ポート	COM1
	タイムアウト	10000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	CPUユニット
	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	伝送速度	19200
	伝送制御	DTR or RTS Control
ネットワーク	局番タイプ	他局
	通信経路	MELSECNET/10(H)
	モード	MELSECNET/H
相手先設定	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	ネットワークNo.	5
	局番	5
	マルチCPU号機	指定なし
完了	コメント	(任意)

6.7 CPU USB通信

ユーティリティ設定タイプで、CPU USB通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

CPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. ユニットとパソコンを接続します。
☞ 29ページ システム構成
2. USBドライバをインストールします。
☞ 659ページ USBドライバのインストール
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 88ページ 論理局番の設定例
4. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

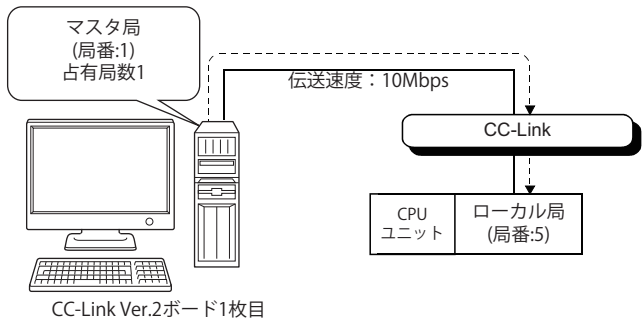
☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	USB
	タイムアウト	10000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	CPUユニット
	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
ネットワーク	局番タイプ	他局
	通信経路	MELSECNET/10(H)
	モード	MELSECNET/H
相手先設定	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	ネットワークNo.	1
	局番	8
	マルチCPU号機	指定なし
完了	コメント	(任意)

6.8 CC-Link通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link通信を行う手順、および設定例について説明します。



RCPUのパソコンボード経由のCC-Link接続において、サポートするCPUおよびユニットは下記のとおりです。

CC-Linkユニット	対応CPU	局番
RJ61BT11	RCPU	0~64

FXCPUのCC-Link接続においてサポートするCPUおよびユニットは下記のとおりです。

CC-Linkユニット	対応CPU	局番
FX3U-64CCL	FX3G, FX3GC, FX3U, FX3UC	1~63

・FXCPUのCC-Link接続は、QCPUのシリアル・USB経由、またはQシリーズ対応C24経由のみアクセス可能です。

アクセスまでの手順

CC-Link通信を使用してCPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. CC-Link Ver.2ボードの設定を行います。
2. パソコンをCC-Linkに接続します。
☞ 29ページ システム構成, ☞ 91ページ CC-Link Ver.2ボードの確認
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 90ページ 論理局番の設定例
4. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

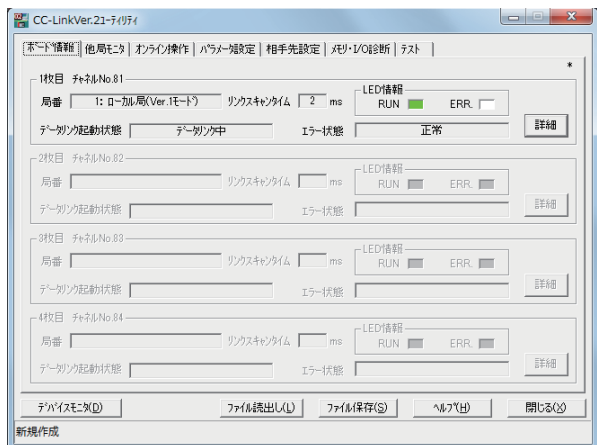
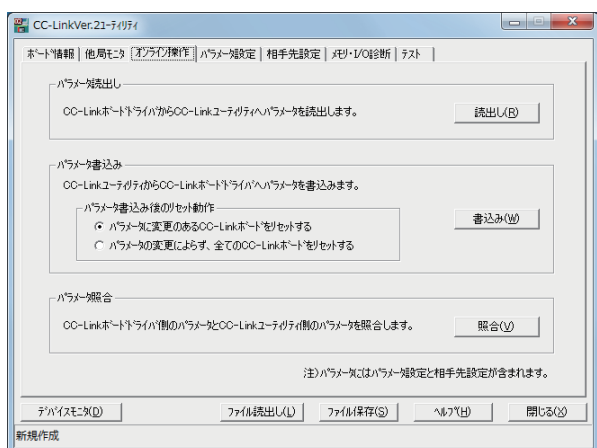
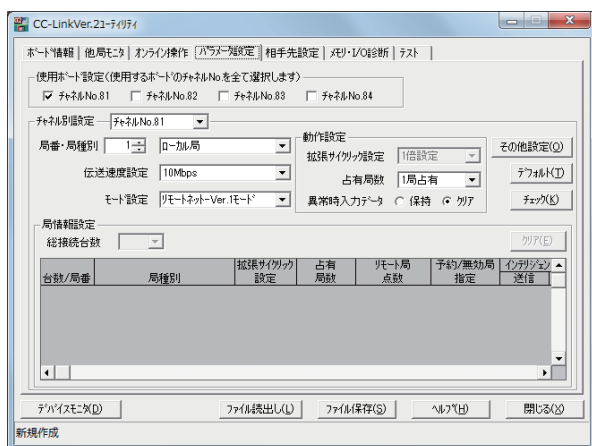
通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	CC-Linkボード
	ボード番号	1st unit
ネットワーク	局番タイプ	他局(単一ネットワーク)
相手先設定	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	局番	5
	マルチCPU号機	指定なし
完了	コメント	(任意)

ユニットの設定

CC-Link Ver.2ボードの確認

パソコンがCC-Linkに正しく接続されているか確認します。

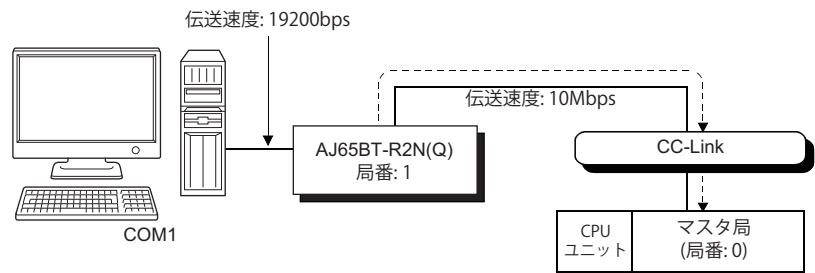
操作手順



1. Windowsのスタートで"MELSEC"からMELSEC CC-Link Ver.2 Utilityを起動します。
2. [パラメータ設定]タブをクリックし、下記のように設定を行います。
チャンネル別設定: チャンネルNo.81
局番: 1
局種別: ローカル局
伝送速度設定: 10Mbps
モード設定: リモートネット-Ver.1モード
占有局数: 1局占有
異常時入力データ: クリア
3. [オンライン操作]タブをクリックし、[書込み]ボタンをクリックします。
4. [ボード情報]タブをクリックします。
自局の回線が正常であることを確認してください。
5. [閉じる]ボタンをクリックし、CC-Linkユーティリティを終了します。

6.9 CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信を使用してCPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. AJ65BT-R2Nユニットの動作設定用ディップスイッチを設定します。
📖 CC-Linkシステム RS-232インタフェースのユーザズマニュアル
2. AJ65BT-R2NユニットをCC-Linkユニットに接続します。
📖 CC-Linkシステム RS-232インタフェースのユーザズマニュアル
3. パソコンをAJ65BT-R2Nユニットに接続します。
📖 CC-Linkシステム RS-232インタフェースのユーザズマニュアル
4. ネットワークパラメータを設定します。
📖 CC-Linkシステム RS-232インタフェースのユーザズマニュアル
5. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
🔗 92ページ 論理局番の設定例
6. 通信テストをして、通信を確認します。
🔗 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

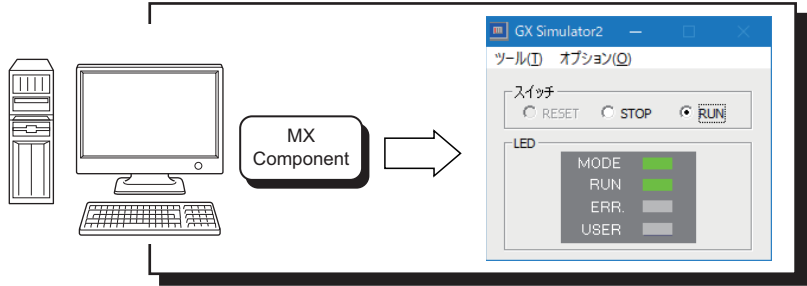
🔗 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0~1023
パソコン側	パソコン側I/F	シリアル
	接続ポート	COM1
	タイムアウト	10000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	AJ65BT-R2N
	モード	Q
	伝送速度	19200
	伝送制御	DTR or RTS Control
ネットワーク	局番タイプ	自局
	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	CC-Linkユニット局番	0
完了	コメント	(任意)

6.10 GX Simulator2通信

ユーティリティ設定タイプで、GX Simulator2通信を行う手順、および設定例について説明します。



Point

MX Componentと接続中はGX Works2からシミュレーションの停止を行っても、GX Works2のシミュレーション機能は終了しません。
(GX Works2を終了してもGX Works2のシミュレーション機能は終了しません。)
MX Componentとの接続を切断したときに終了します。

アクセスまでの手順

GX Simulator2通信を使用してGX Works2のシミュレーション機能にアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. GX Works2を起動し、シミュレーションを開始します。
☞ 29ページ システム構成
2. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 93ページ 論理局番の設定例
3. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

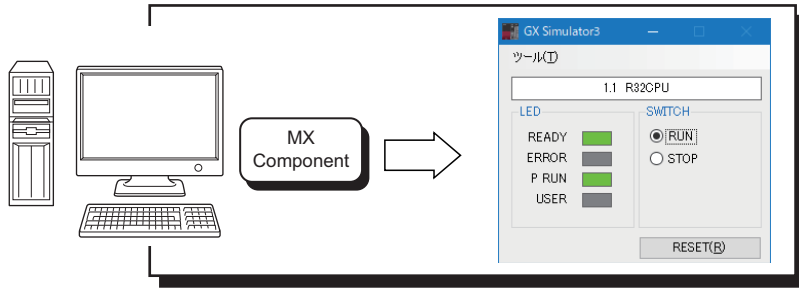
☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	GX Simulator2
	対象シミュレータ	シミュレータA
	CPUシリーズ	使用するCPUシリーズを選択
完了	コメント	(任意)

6.11 GX Simulator3通信

ユーティリティ設定タイプで、GX Simulator3通信を行う手順、および設定例について説明します。



Point

GX Simulator3では、MX Component接続中に、GX Works3のシミュレーション機能を停止できます。ただし、GX Works3のシミュレーション機能を再開するには、MX Componentの通信回線でクローズ後にオープンする必要があります。MX Componentの通信回線でクローズしないまま、GX Works3のシミュレーション機能を開始してもエラーが発生します。

アクセスまでの手順

GX Simulator3通信を使用してGX Works3のシミュレーション機能にアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. GX Works3を起動し、シミュレーションを開始します。
📖 29ページ システム構成
2. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
📖 95ページ 論理局番の設定例
3. 通信テストをして、通信を確認します。
📖 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	GX Simulator3
	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	ポート番号設定*1	チェックなし
	システム番号	1
	号機番号*2	1
	タイムアウト	10000
完了	コメント	(任意)

*1 ポート番号を指定する場合はチェックボックスにチェックを入れ、ポート番号を指定してください。

対象先のポート番号は、下記の計算式で算出します。

ポート番号=5500+システムNo.×10+号機No.

<例>システムNo.=1, 号機No.=1の場合

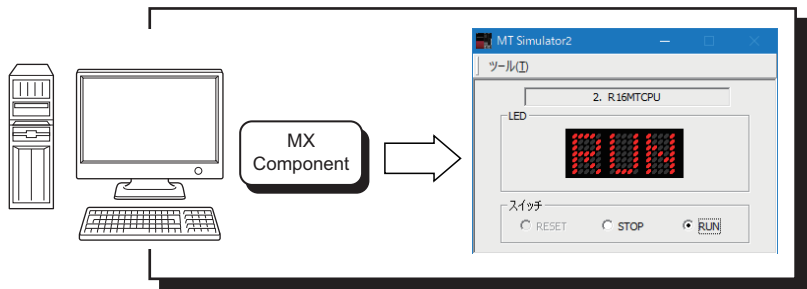
5511=5500+1×10+1

*2 システム番号および号機番号については、下記を参照してください。

📖 GX Works3 オペレーティングマニュアル

6.12 MT Simulator2通信

ユーティリティ設定タイプで、MT Simulator2通信を行う手順、および設定例について説明します。



Point

MX Componentと接続中にMT Developer2からシミュレーションの停止を行うと接続が切断されます。

アクセスまでの手順

MT Simulator2通信を使用してMT Developer2のシミュレーション機能にアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. MT Developer2を起動し、シミュレーションを開始します。
☞ 29ページ システム構成
2. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 96ページ 論理局番の設定例
3. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

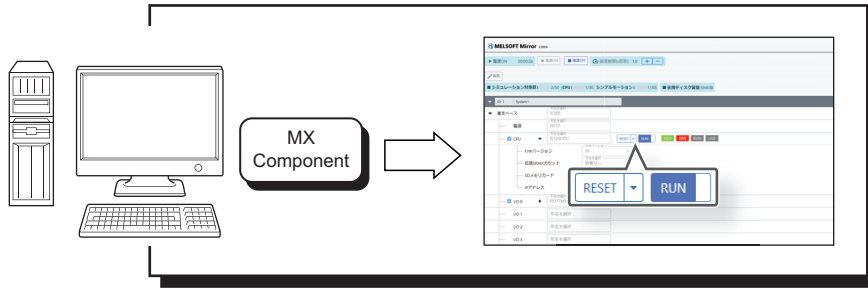
☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	MT Simulator2
	対象シミュレータ	使用する対象シミュレータを選択
完了	コメント	(任意)

6.13 MELSOFT Mirror通信

ユーティリティ設定タイプで、MELSOFT Mirror通信を行う手順、および設定例について説明します。



Point

MX Component接続中に、MELSOFT Mirrorのシミュレーション機能を停止できます。

ただし、MELSOFT Mirrorのシミュレーション機能を再開するには、MX Componentの通信回線でクローズ後にオープンする必要があります。

MX Componentの通信回線でクローズしないまま、MELSOFT Mirrorのシミュレーション機能を開始するとエラーが発生することがあります。

アクセスまでの手順

MELSOFT Mirror通信を使用してMELSOFT Mirrorのシミュレーション機能にアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. MELSOFT Mirrorを起動し、シミュレーションを開始します。

☞ 29ページ システム構成

2. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。

☞ 98ページ 論理局番の設定例

3. 通信テストをして、通信を確認します。

☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

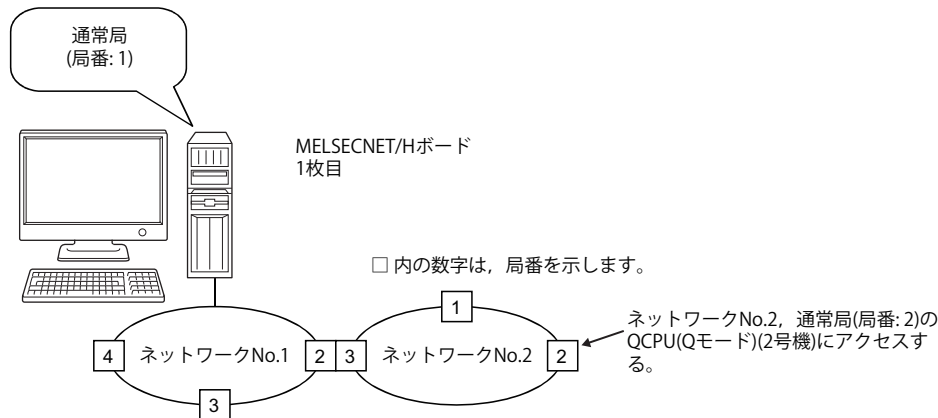
設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	MELSOFT Mirror
	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	URL*1	http://127.0.0.1:80
	システムID.	1
	スロットNo.	0
	タイムアウト	10000
完了	コメント	(任意)

*1 MELSOFT MirrorのURLを指定します。最大文字数は半角1024文字です。

6.14 MELSECNET/H通信

ユーティリティ設定タイプで、MELSECNET/H通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

MELSECNET/H通信を使用してCPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. MELSECNET/Hボードの設定を行います。
2. パソコンをMELSECNET/Hに接続します。
☞ 29ページ システム構成, ☞ 100ページ MELSEC/Hボードの確認
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 99ページ 論理局番の設定例
4. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

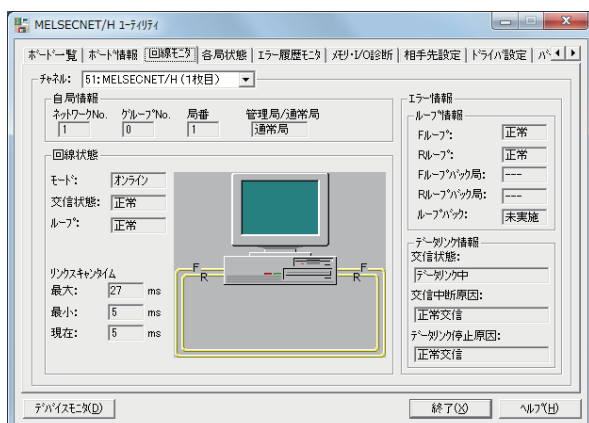
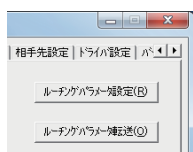
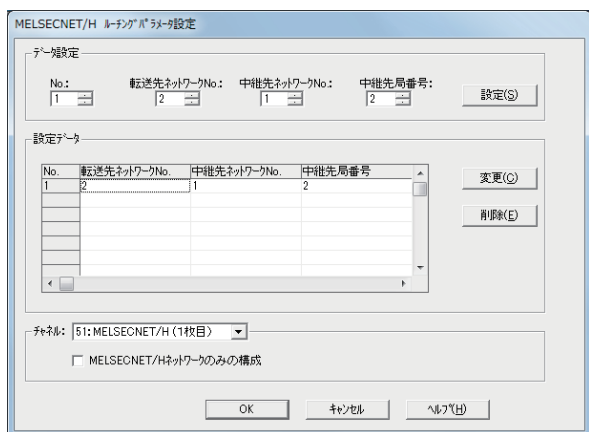
設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0~1023
パソコン側	パソコン側I/F	MELSECNET/Hボード
	ボード番号	1st unit
ネットワーク	局番タイプ	他局(単一ネットワーク)
相手先設定	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	ネットワークNo.	2
	局番	2
	マルチCPU号機	2号機
完了	コメント	(任意)

MELSEC/Hボードの確認

パソコンがMELSECNET/Hに正しく接続されているか確認します。

操作手順



1. Windowsのスタートで"MELSEC"からMELSECNET_H Utilityを起動します。
2. [ボード情報]タブをクリックし、下記のように設定を行い、[更新]ボタンをクリックします。
チャンネル: 51:MELSECNET/H(1枚目)
モード: オンライン自動復列有り
ボーレート: 任意(ここでは10Mbps)
NETモード: MNET/Hモード
その後、[ルーチングパラメータ設定]ボタンをクリックします。

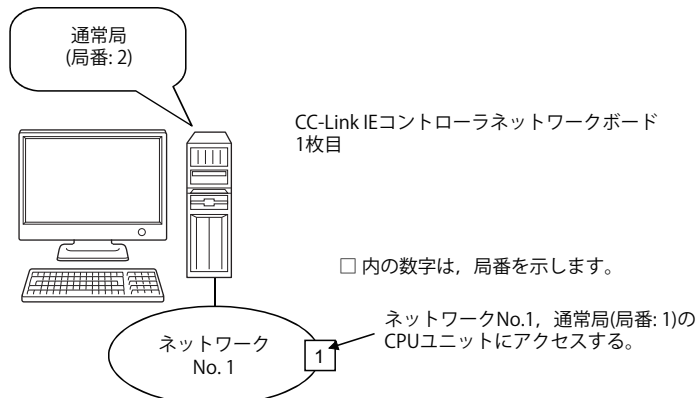
3. 下記のように設定を行い、[設定]ボタンをクリックします。
転送先ネットワークNo.: 2
中継先ネットワークNo.: 1
中継先局番号: 2
その後、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。

4. [ルーチングパラメータ転送]ボタンをクリックして、MELSECNET/Hボードにルーチングパラメータを転送します。

5. [回線モニタ]タブをクリックします。
回線が正常であることを確認してください。
6. [終了]ボタンをクリックし、MELSECNET/Hユーティリティを終了します。

6.15 CC-Link IEコントローラネットワーク通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link IEコントローラネットワーク通信を行う手順、および設定例について説明します。



RCPUのパソコンボード経由のCC-Link IEコントローラネットワーク接続において、サポートするCPUおよびユニットは下記のとおりです。

ユニット	対応CPU	局番
RJ71GP21-SX	RCPU	使用するユニットのマニュアルを参照してください。
RJ71EN71 ^{*1}	RCPU	

*1 CCIEC設定またはCCIEC+Ether設定のみ

アクセスまでの手順

CC-Link IEコントローラネットワーク通信を使用してCPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. CC-Link IEコントローラネットワークボードの設定を行います。
2. パソコンをCC-Link IEコントローラネットワークに接続します。
[☞ 29ページ システム構成](#), [☞ 102ページ CC-Link IEコントローラネットワークボードの確認](#)
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
[☞ 101ページ 論理局番の設定例](#)
4. 通信テストをして、通信を確認します。
[☞ 63ページ \[通信テスト\]タブ](#)

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

[☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作](#)

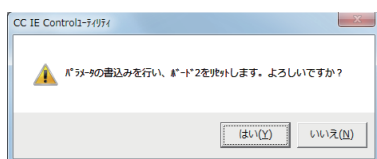
設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	CC IE Controlボード
	ボード番号	1st unit
ネットワーク	局番タイプ	自局
完了	コメント	(任意)

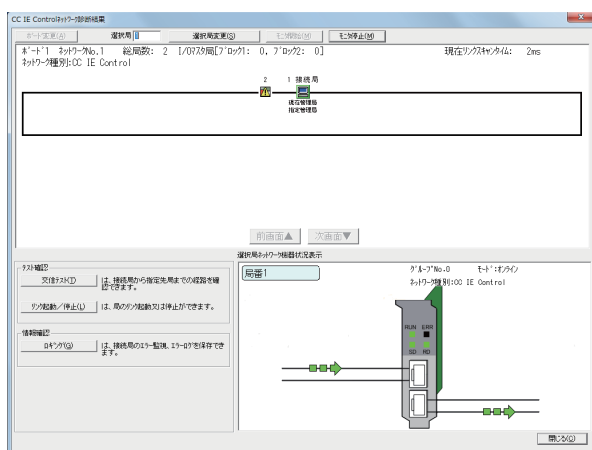
CC-Link IEコントローラネットワークボードの確認

パソコンがCC-Link IEコントローラネットワークに正しく接続されているか確認します。

操作手順



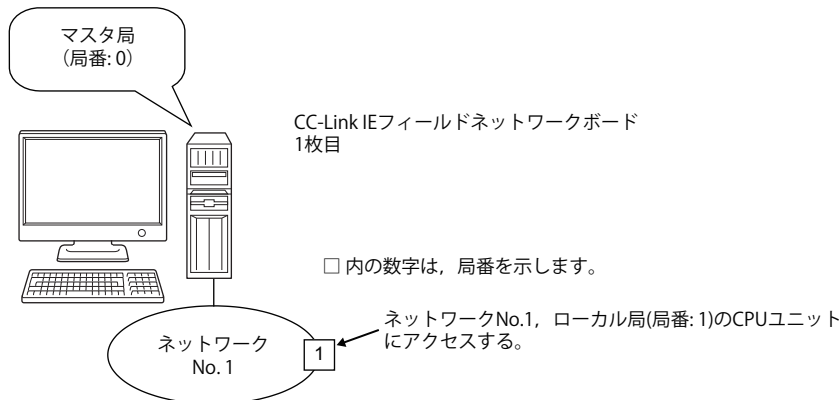
1. Windowsのスタートで"MELSEC"からCC IE Control Utilityを起動します。
2. [設定]ボタンをクリックします。
3. 下記のように設定を行い、[設定終了]ボタンをクリックします。
チャンネルNo.: 151
ネットワーク種別: CC IE Control(通常局)
モード: オンライン
ネットワークNo.: 1
グループNo.: 0
局番: 2
4. [はい]ボタンをクリックして、CC-Link IEコントローラネットワークボードにルーチングパラメータを転送します。



5. CC IE Controlユーティリティ画面の[診断]ボタンをクリックします。
回線が正常であることを確認してください。
6. [閉じる]ボタンをクリックし、CC IE Controlユーティリティを終了します。

6.16 CC-Link IEフィールドネットワーク通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link IEフィールドネットワーク通信を行う手順、および設定例について説明します。



RCPUのパソコンボード経由のCC-Link IEフィールドネットワーク接続において、サポートするCPUおよびユニットは下記のとおりです。

ユニット	対応CPU	局番
RJ71GF11-T2	RCPU	使用するユニットのマニュアルを参照してください。
RJ71EN71*1	RCPU	

*1 CCIEF設定またはCCIEF+Ether設定のみ

アクセスまでの手順

CC-Link IEフィールドネットワーク通信を使用してCPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. CC-Link IEフィールドネットワークボードの設定を行います。
2. パソコンをCC-Link IEフィールドネットワークに接続します。
📖 29ページ システム構成, 📖 105ページ CC-Link IEフィールドネットワークボードの確認
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
📖 104ページ 論理局番の設定例
4. 通信テストをして、通信を確認します。
📖 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

📖 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

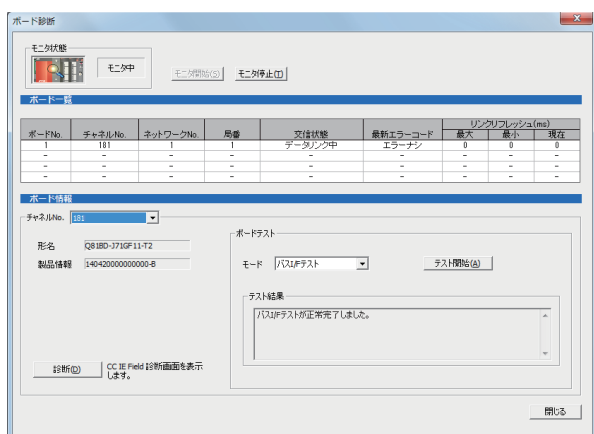
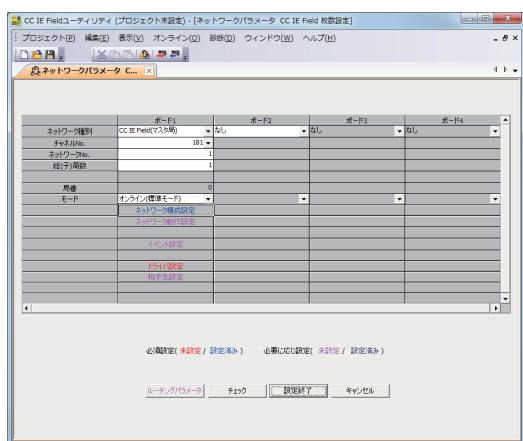
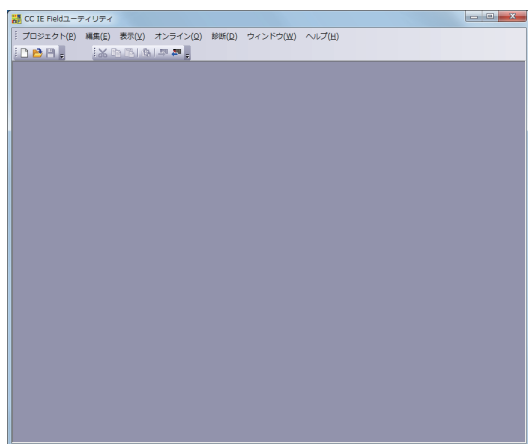
設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0~1023
パソコン側	パソコン側I/F	CC IE Fieldボード
	ボード番号	1st unit
ネットワーク	局番タイプ	他局(単一ネットワーク)
相手先設定	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	ネットワークNo.	1
	局番	1
	マルチCPU号機	指定なし
完了	コメント	(任意)

CC-Link IEフィールドネットワークボードの確認

パソコンがCC-Link IEフィールドネットワークに正しく接続されているか確認します。

操作手順



1. Windowsのスタートで"MELSEC"からCC IE Field BoardのCC IE Fieldユーティリティを起動します。
2. [プロジェクト]⇒[プロジェクトの新規作成]を選択します。

3. 下記のように設定を行い、[設定終了]ボタンをクリックします。

ネットワーク種別: CC IE Field(マスター局)

チャネルNo.: 181

ネットワークNo.: 1

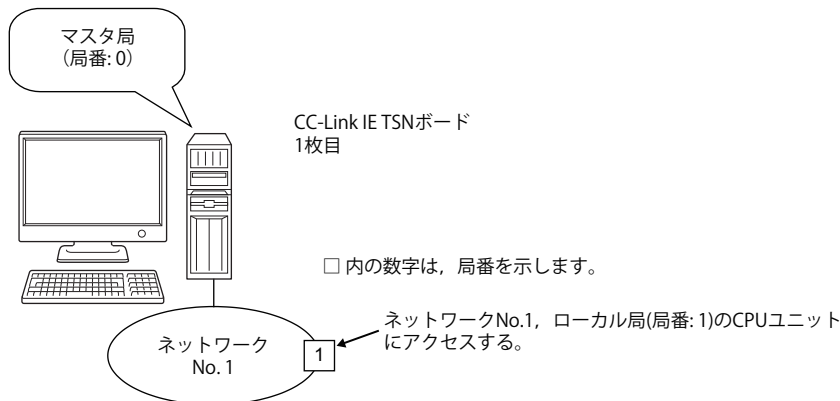
総(子)局数: 1

モード: オンライン(標準モード)

4. [オンライン]⇒[ボード書込]を選択します。
プロジェクトのパラメータ設定をCC-Link IEフィールドネットワークボードに書き込みます。
5. [診断]⇒[ボード診断]を選択します。
回線が正常であることを確認してください。
6. [閉じる]ボタンをクリックし、CC IE Fieldユーティリティを終了します。

6.17 CC-Link IE TSN通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link IE TSN通信を行う手順、および設定例について説明します。



RCPUのパソコンボード経由のCC-Link IE TSN接続において、サポートするCPUおよびユニットは下記のとおりです。

ユニット	対応CPU	局番
RJ71GN11-T2	RCPU	使用するユニットのマニュアルを参照してください。
RJ71GN11-SX	RCPU	

アクセスまでの手順

CC-Link IE TSN通信を使用してCPUユニットにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. CC-Link IE TSNボードの設定を行います。
2. パソコンをCC-Link IE TSNに接続します。
☞ 29ページ システム構成
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 106ページ 論理局番の設定例
4. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	CC IE TSNボード
	ボード番号	1st unit
ネットワーク	局番タイプ	他局(単一ネットワーク)
相手先設定	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	ネットワークNo.	1
	局番	1
	マルチCPU号機	指定なし
完了	コメント	(任意)

CC-Link IE TSNボードの確認

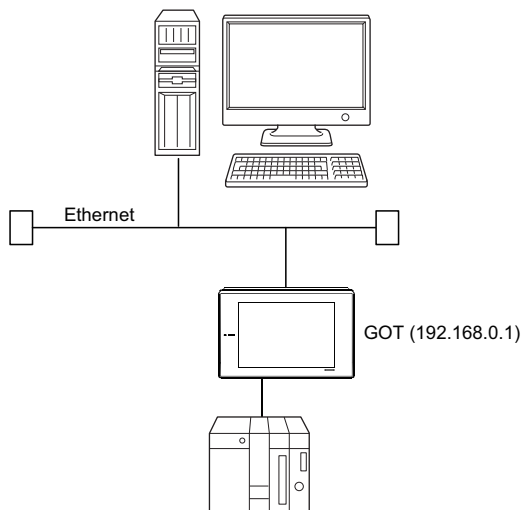
パソコンがCC-Link IE TSNに正しく接続されているか確認します。

確認方法の詳細は下記を参照してください。

 CC-Link IE TSNインタフェースボードユーザズマニュアル

6.18 GOTゲートウェイデバイス通信

ユーティリティ設定タイプで、GOTゲートウェイデバイス通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

GOTゲートウェイデバイス通信を使用してGOTにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. GOTの設定を行います。
📖 使用するGOTのオペレーティングマニュアル
2. GOTをEthernetに接続します。
📖 使用するGOTのオペレーティングマニュアル
3. パソコンをEthernetに接続します。
📖 使用するGOTのオペレーティングマニュアル

4. HOSTSファイルを編集します。

通信設定ユーティリティのホスト名(IPアドレス)およびActHostAddressプロパティにIPアドレスを入力する場合は、HOSTSファイルを編集する必要はありません。

5. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。

📖 109ページ 論理局番の設定例

6. 通信テストをして、通信を確認します。

📖 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	Ethernetボード
	接続先ユニットタイプ	GOT
	ポート番号	5011
	タイムアウト	60000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	Ethernetユニット
	ユニットタイプ	GOT
	ホスト名(IPアドレス)	192.168.0.1
完了	コメント	(任意)

交信確認

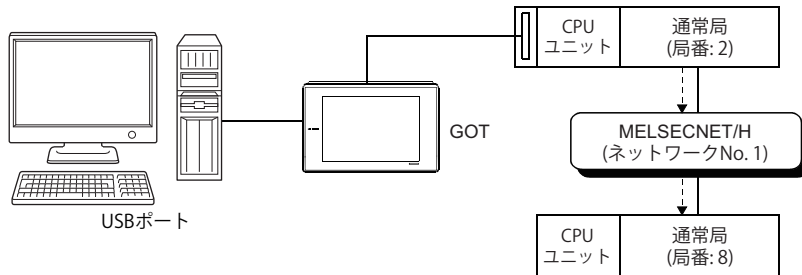
GOTゲートウェイデバイス通信を行うための準備が完了したら、MX Componentで交信を行う前にMS-DOSモードでpingを実行して接続を確認してください。

- 正常時
C:\>ping 192.168.0.1
Reply from 192.168.0.1:bytes=32 time<10ms TTL=32
- 異常時
C:\>ping 192.168.0.1
Request timed out.

pingが通らない場合は、ケーブルおよびユニットの接続や、Windows側のIPアドレスなどの設定をチェックしてください。

6.19 GOTトランスペアレント通信

ユーティリティ設定タイプで、GOTトランスペアレント通信を行う手順、および設定例について説明します。



Point

使用可能なシステム構成については、下記を参照してください。

📖 使用するGOTの各接続マニュアル

アクセスまでの手順

GOTのトランスペアレント機能を使用してGOTにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. GOTの設定を行います。
📖 使用するGOTのオペレーティングマニュアル
2. GOTとパソコンを接続します。
📖 使用するGOTのオペレーティングマニュアル
3. GOTとCPUユニットを接続します。
📖 使用するGOTのオペレーティングマニュアル
4. USBドライバをインストールします。
📖 659ページ USBドライバのインストール
5. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
📖 111ページ 論理局番の設定例
6. 通信テストをして、通信を確認します。
📖 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

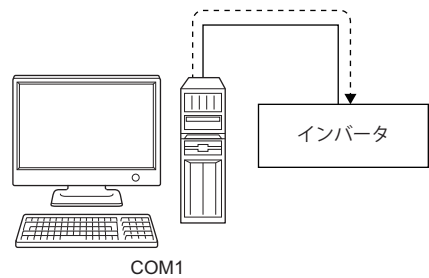
☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	USB(GOT経由)
	タイムアウト	10000
GOT側	GOT - シーケンサI/F	シリアル
	接続先ユニットタイプ	CPUユニット
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	CPUユニット
	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
ネットワーク	局番タイプ	他局
	通信経路	MELSECNET/10(H)
	モード	MELSECNET/H
相手先設定	CPUタイプ	使用するCPUユニットを選択
	ネットワークNo.	1
	局番	8
	マルチCPU号機	指定なし
完了	コメント	(任意)

6.20 インバータCOM通信

ユーティリティ設定タイプで、インバータCOM通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

インバータCOM通信を使用してインバータにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. インバータとパソコンを接続します。
☞ 29ページ システム構成
2. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 112ページ 論理局番の設定例
3. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

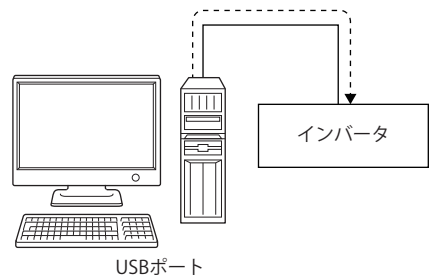
☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	シリアル
	接続ポート	COM1
	タイムアウト	10000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	インバータ
	インバータ	A800
	局番	0
	伝送速度	19200
	パリティ	Even
	データビット	8
	ストップビット	1
	デリミタ	CR
	送信待ち時間	0
	コメント	(任意)
完了		

6.21 インバータUSB通信

ユーティリティ設定タイプで、インバータUSB通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

インバータUSB通信を使用してインバータにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. インバータとパソコンを接続します。
☞ 29ページ システム構成
2. USBドライバをインストールします。
☞ 659ページ USBドライバのインストール
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 113ページ 論理局番の設定例
4. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

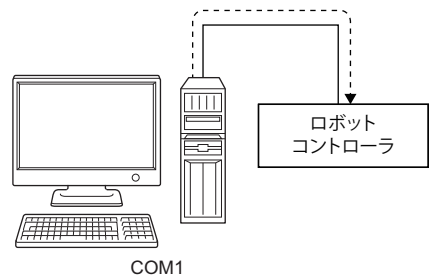
☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0～1023
パソコン側	パソコン側I/F	USB
	タイムアウト	10000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	インバータ
	インバータ	A800
	局番	0
	送信待ち時間	0
完了	コメント	(任意)

6.22 ロボットコントローラCOM通信

ユーティリティ設定タイプで、ロボットコントローラCOM通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

ロボットコントローラCOM通信を使用してロボットコントローラにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. ロボットコントローラとパソコンを接続します。
☞ 29ページ システム構成
2. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
☞ 114ページ 論理局番の設定例
3. 通信テストをして、通信を確認します。
☞ 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

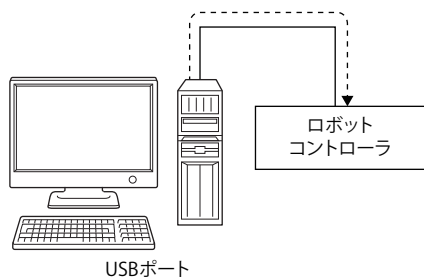
☞ 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0~1023
パソコン側	パソコン側I/F	シリアル
	接続ポート	COM1
	タイムアウト	10000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	ロボットコントローラ
	コントローラ	CRnD-7xx/CR75x-D
	伝送速度	19200
	パリティ	Even
	文字サイズ	8
	ストップビット	1
	送信タイムアウト時間	5000
	受信タイムアウト時間	30000
	リトライ回数	3
	使用プロトコル	Procedural
完了	コメント	(任意)

6.23 ロボットコントローラUSB通信

ユーティリティ設定タイプで、ロボットコントローラUSB通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

ロボットコントローラUSB通信を使用してロボットコントローラにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. ロボットコントローラとパソコンを接続します。
📖 29ページ システム構成
2. USBドライバをインストールします。
📖 659ページ USBドライバのインストール
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
📖 115ページ 論理局番の設定例
4. 通信テストをして、通信を確認します。
📖 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

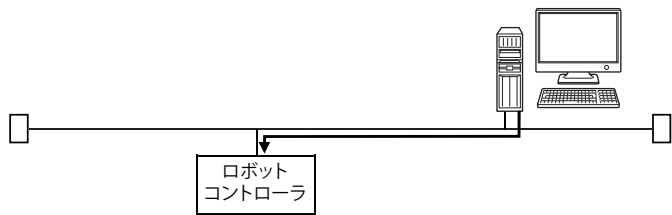
📖 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0~1023
パソコン側	パソコン側I/F	USB
	タイムアウト	10000
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	ロボットコントローラ
	コントローラ	CRnD-7xx/CR75x-D
	送信タイムアウト時間	5000
	受信タイムアウト時間	30000
	リトライ回数	3
完了	コメント	(任意)

6.24 ロボットコントローラEthernet通信

ユーティリティ設定タイプで、ロボットコントローラEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。



アクセスまでの手順

ロボットコントローラEthernet通信を使用してロボットコントローラにアクセスするまでの手順を示します。

操作手順

1. ロボットコントローラをEthernetに接続します。
📖使用するロボットコントローラのマニュアル
2. パソコンをEthernetに接続します。
3. 通信設定ユーティリティで論理局番を設定します。
🔑 116ページ 論理局番の設定例
4. 通信テストをして、通信を確認します。
🔑 63ページ [通信テスト]タブ

論理局番の設定例

通信設定ウィザード画面の操作手順は、下記を参照してください。

🔑 58ページ 通信設定ウィザード画面の操作

設定データ

通信設定ウィザード	項目	設定例
はじめに	論理局番	0~1023
パソコン側	パソコン側I/F	Ethernetボード
	接続先ユニットタイプ	ロボットコントローラ
	ポート番号	10001
シーケンサ側	シーケンサ側I/F	ロボットコントローラ
	コントローラ	CRnD-7xx/CR75x-D
	ホスト名(IPアドレス)	192.168.0.1
	送信タイムアウト時間	5000
	受信タイムアウト時間	30000
	リトライ回数	3
完了	コメント	(任意)

7 プログラミング

プログラム内で使用するラベルの作成方法、コーディング、シーケンサモニタユーティリティを活用してのデバッグ方法について説明します。

工程	概要	参照
ラベルの作成	ラベル作成時に使用するラベル管理ユーティリティについて説明します。	117ページ ラベル管理ユーティリティを使ったラベルの作成
コーディング	コントロールが提供する関数、プロパティを使用してコーディングする方法について説明します。	144ページ コーディング
デバッグ	デバッグ時に使用するシーケンサモニタユーティリティについて説明します。	145ページ デバッグ

7.1 ラベル管理ユーティリティを使ったラベルの作成

プログラム内でラベルを使用する場合、はじめにラベル管理ユーティリティを使用してラベルを作成します。ラベル管理ユーティリティの操作、設定方法について説明します。

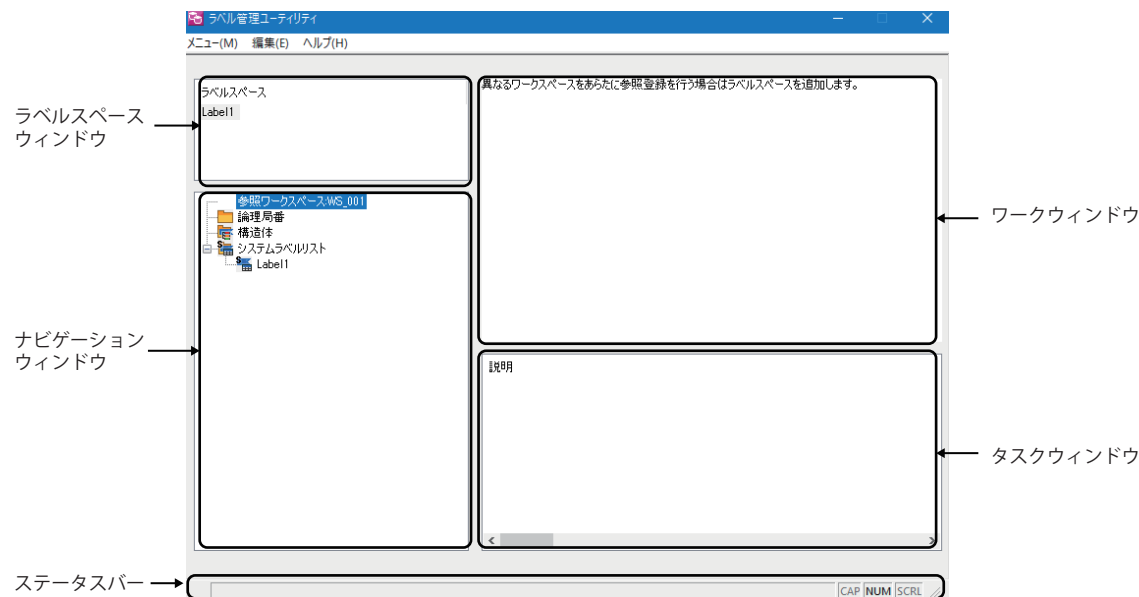
ラベル管理ユーティリティの起動

操作手順

Windowsのスタートで"MELSOFT"からラベル管理ユーティリティを起動します。

ラベル管理画面

画面表示



項目	内容	参照
ラベルスペースウィンドウ	ラベルスペースの一覧を表示します。 リストには、作成日時の昇順にラベルスペース名を表示します。	—
ナビゲーションウィンドウ	ラベルスペースに対する論理局番、構造体およびシステムラベルリストをツリー形式で表示します。	—
ワークウィンドウ	システムラベルリストおよび構造体設定画面を表示します。	120ページ システムラベルリスト 125ページ 構造体設定
タスクウィンドウ	処理結果をリスト形式で表示します。	—
ステータスバー	現在の情報を表示します。	127ページ 変更通知

基本操作

操作手順

■新規追加

- [メニュー]⇒[ラベルスペースの追加]を選択します。
- ラベルスペースウィンドウを選択して右クリックし、[ラベルスペースの追加]を選択します。

システムラベルVer.1時は[ラベルスペースの追加]、システムラベルVer.2時は[ラベルスペースの追加Ver.2]を選択します。

Point

ラベルスペースは、最大8個まで追加できます。ただし、参照するワークスペースと合わせて16個までです。

■名前変更

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[ラベルスペースの名前変更]を選択します。
- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択して右クリックし、[ラベルスペースの名前変更]を選択します。

Point

ラベルスペース名で利用できる文字数は32文字以内です。

■保存

- [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。
- ラベル管理ユーティリティを終了します。

■削除

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[ラベルスペースの削除]を選択します。
- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択して右クリックし、[ラベルスペースの削除]を選択します。

論理局番の登録/削除

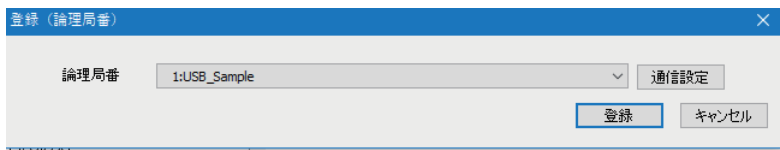
登録

ラベルスペースに論理局番を登録します。

操作手順

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[論理局番]⇒[登録]を選択します。
- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、ナビゲーションウィンドウの"論理局番"を選択して右クリックし、[論理局番]⇒[登録]を選択します。

画面表示



項目	内容
論理局番	通信設定ユーティリティで定義されている論理局番をリストボックスから選択します。 他のラベルスペースに登録済みの論理局番は表示されません。
[通信設定]ボタン	通信設定ユーティリティを起動します。
[登録]ボタン	論理局番を登録し、画面を閉じます。
[キャンセル]ボタン	論理局番を登録せず、画面を閉じます。

削除

ラベルスペースに登録されている論理局番を削除します。

操作手順

- ナビゲーションウィンドウ内の削除する局番を選択し、[メニュー]⇒[論理局番]⇒[登録削除]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウ内の削除する局番を選択して右クリックし、[論理局番]⇒[登録削除]を選択します。

Point

- 論理局番の登録後はラベルスペースの保存を実施してください。
- 論理局番とラベルスペースは1対1で登録します。
他のラベルスペースに登録済みの論理局番を登録する場合、登録済みの論理局番をラベルスペースから削除したあと、新たに登録してください。

システムラベルリスト

システムラベルの登録、編集および閲覧を行います。

画面表示

<システムラベルVer.1時>

	削除	システムラベル名 ▲	データ型 ▲	デバイス
1	☐	LABEL11	ビット	D0
2	☐	LABEL12	ワード[符号付き]	
3	☐	LABEL13	ダブルワード[符号付き]	
4	☐	LABEL14	単精度実数	
5				

<システムラベルVer.2時>

	削除	システムラベル名 ▲	データ型 ▲	ラベル名
1	☐	LABEL5	ビット	SLABEL5
2	☐	LABEL6	ダブルワード[符号付き]	SLABEL6
3	☐	LABEL7	ロングタイム	SLABEL7
4	☐	LABEL8	文字列[UNICODE]	
5				

項目	内容	最大文字数	
		Ver.1	Ver.2
削除	削除するシステムラベルにチェックします。	—	
システムラベル名	任意のシステムラベル名を入力します。 使用できない文字については、(653ページ ラベル名で使用できない文字列)を参照してください。	32文字	256文字
データ型	データ型を[...]で表示される"データ型選択"画面で設定します。(121ページ データ型を選択する) 直接入力することもできます。	128文字	512文字
デバイス	システムラベルVer.1に割り付けるデバイスを設定します。 ワードデバイスのビット指定(D0.1)も可能です。 データ型に構造体を設定している場合、"詳細設定"と表示されます。 "詳細設定"をクリックすると表示される"構造体デバイス設定"画面で設定します。 (123ページ 構造体型のラベルにデバイスを割り付ける、124ページ 構造体配列型のラベルにデバイスを割り付ける)	32文字	—
ラベル名	システムラベルVer.2として管理するラベル名を入力します。	—	1763文字

基本操作

操作手順

■新規作成

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[システムラベル]⇒[システムラベルリスト]⇒[新規作成]を選択します。
- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、ナビゲーションウィンドウの"システムラベルリスト"を選択して右クリックし、[新規作成]を選択します。

■名前の変更

- ナビゲーションウィンドウのシステムラベルリスト名を選択し、[メニュー]⇒[システムラベル]⇒[システムラベルリスト]⇒[名前の変更]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウのシステムラベルリスト名を選択して右クリックし、[システムラベルリスト]⇒[名前の変更]を選択します。

Point

ラベルスペース名で使用できる文字数は32文字以内です。

■削除

- ・ナビゲーションウィンドウ内の削除するシステムラベルリスト名を選択し、[メニュー]⇒[システムラベル]⇒[システムラベルリスト]⇒[削除]を選択します。
- ・ナビゲーションウィンドウ内の削除するシステムラベルリスト名を選択して右クリックし、[システムラベルリスト]⇒[削除]を選択します。
- ・ナビゲーションウィンドウ内の削除するシステムラベルリスト名を選択し、Delete キーを押します。

データ型を選択する

使用可能なデータ型を下表に示します。

○: 対応, —: 非対応

データ型	MELSOFT Navigator		MX Component	
	システムラベルVer.2	システムラベルVer.1	ラベルスペースVer.2 ^{*4} 基本データ/配列	ラベルスペースVer.1 基本データ/配列
ビット	○	○	○	○
ワード[符号付き]	○	○	○	○
ダブルワード[符号付き]	○	○	○	○
ワード[符号なし]/ビット列[16ビット]	○	○	○	○
ダブルワード[符号なし]/ビット列[32ビット]	○	○	○	○
単精度実数	○	○	○	○
倍精度実数	○	○	○	○
文字列	○	○	○	○
文字列[Unicode] ^{*1}	○	—	○	—
時間	○	○	○	○
タイマ ^{*1}	—	○	—	○
タイマ[符号なし] ^{*1*3}	○	—	○	—
ロングタイマ ^{*1*3}	○	—	○	—
カウンタ ^{*1}	—	○	—	○
カウンタ[符号なし] ^{*1*3}	○	—	○	—
ロングカウンタ ^{*1*3}	○	—	○	—
積算タイマ ^{*1}	—	○	—	○
積算タイマ[符号なし] ^{*1*3}	○	—	○	—
ロング積算タイマ ^{*1*3}	○	—	○	—
構造体 ^{*2}	○	○	○	○

*1 配列化する場合は、"基本データ"を選択してください。

"構造体"を選択した場合、使用時にエラーが発生します。

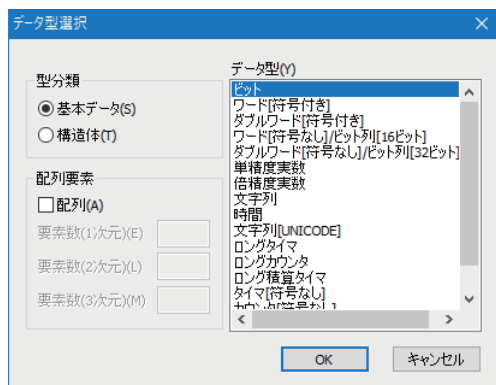
*2 システムラベルVer.2でデバイスを割付けないラベルの場合は、5階層の構造体まで使用できます。
それ以外は1階層の構造体のみとなります。

*3 システムラベルVer.2で読み出しする場合は、読み出す対象を明示的に指定する必要があります。
ラベル名の末尾に読み出す対象(接点「.S」/コイル「.C」/現在値「.N」)を結合して登録します。
例)現在値「.N」を結合する場合: (ラベル名).N

*4 デバイスを割付けないラベル(ラベルメモリを使用するラベル)の場合は、データ型に関わらずワードデバイスを割付けた場合と同等の動作になります。
ビット型の場合は、ワードデバイスのビット指定と同等の動作になります。

画面表示

システムラベルリストおよび構造体設定のデータ型入力欄で, [...]をクリックします。



操作手順

1. "型分類"を選択します。

項目	内容
基本データ	ビット, ワードなどの基本型からデータ型を選択する場合に指定します。
構造体	定義された構造体からデータ型を選択する場合に指定します。 (構造体設定では表示されません。)

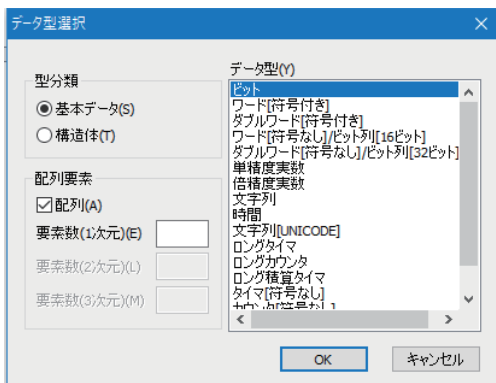
2. "データ型"欄で, データ型や構造体を選択します。

3. [OK]ボタンをクリックします。
設定した内容が"データ型"欄に表示されます。

■データ型に配列を設定する

データ型を配列として定義します。

データ型を配列として定義する場合は, "データ型選択"画面で"配列要素"欄を入力します。



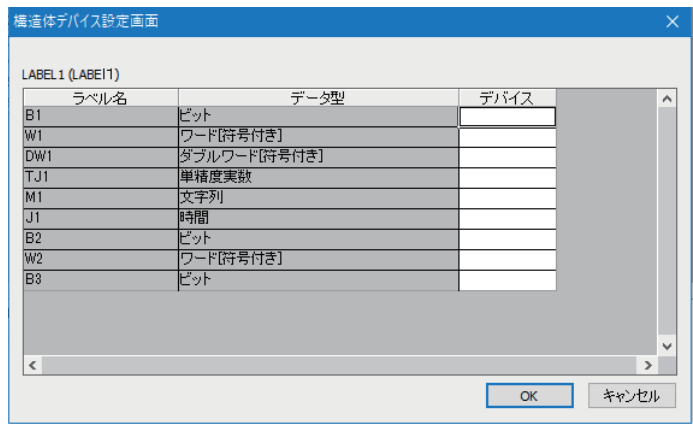
操作手順

1. システムラベルリストおよび構造体設定のデータ型入力欄で, [...]をクリックします。
2. "配列要素"欄のチェックボックスをチェックします。
3. "要素数(1次元)", 必要に応じて"要素数(2次元)"および"要素数(3次元)"を設定します。
4. 配列要素のデータ型を, 通常のデータ型設定と同様に設定します。

構造体型のラベルにデバイスを割り付ける

画面表示

システムラベルリストのデバイス欄で"詳細設定"をクリックします。



操作手順

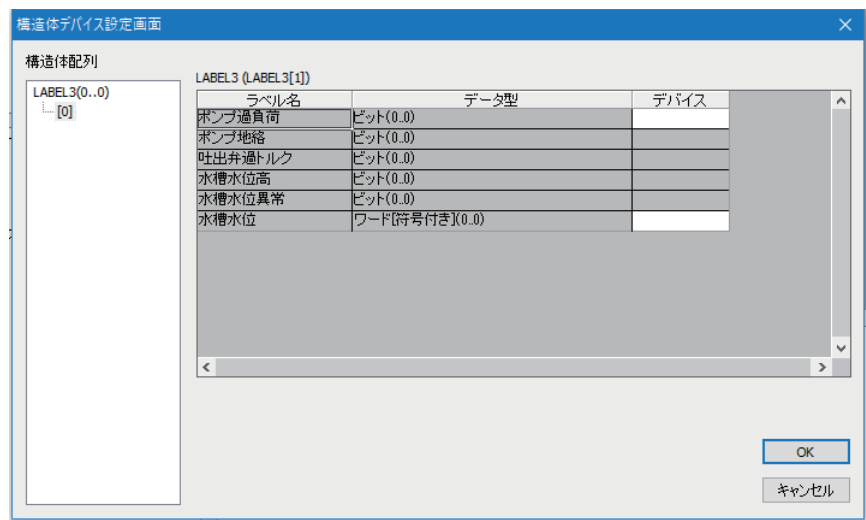
画面の項目を設定します。

項目	内容
ラベル名	構造体に定義されているラベル名を表示します。
データ型	ラベル名に設定されているデータ型を表示します。
デバイス	割り付けるデバイス名を設定します。

構造体配列型のラベルにデバイスを割り付ける

画面表示

システムラベルリストのデバイス欄で"詳細設定"をクリックします。



操作手順

画面の項目を設定します。

項目	内容
構造体配列	構造体の配列の要素がツリー表示されます。 ツリーで選択した要素に関するデバイス設定が画面右に表示されます。
ラベル名	構造体に定義されているラベル名を表示します。
データ型	ラベル名に設定されているデータ型を表示します。
デバイス	割り付けるデバイス名を設定します。 配列の先頭要素でのみ、デバイス名が入力できます。

構造体設定

ラベルスペースで管理する構造体の構成する各データ(要素)の登録，編集および閲覧を行います。

画面表示

	ラベル名	データ型
1	ST_data1	ビット
2	ST_data2	ビット
3	ST_data3	ビット
4	ST_data4	ビット
5	ST_data5	ビット
6	ST_data6	ビット
7	ST_data7	ビット
8	ST_data8	ビット
9	ST_data9	ビット
10	ST_data10	ビット
11		

項目	内容	参照
ラベル名	ラベル名を表示します。	—
データ型	ラベルのデータ型を表示します。 [...]で表示される"データ型選択"画面で設定できます。	121ページ データ型を選択する

基本操作

操作手順

■新規作成

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し，[メニュー]⇒[システムラベル]⇒[構造体]⇒[新規作成]を選択します。
- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し，ナビゲーションウィンドウの"構造体"を選択して右クリックし，[構造体]⇒[新規作成]を選択します。

■名前の変更

- ナビゲーションウィンドウの構造体名を選択し，[メニュー]⇒[システムラベル]⇒[構造体]⇒[名前の変更]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウの構造体名を選択して右クリックし，[構造体]⇒[名前の変更]を選択します。

Point

ラベルスペース名で使用できる文字数は32文字以内です。

■削除

- ナビゲーションウィンドウ内の削除する構造体名を選択し，[メニュー]⇒[システムラベル]⇒[構造体]⇒[削除]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウ内の削除する構造体名を選択して右クリックし，[構造体]⇒[削除]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウ内の削除する構造体名を選択し，Deleteキーを押します。

ワークスペースの参照登録/解除

参照登録

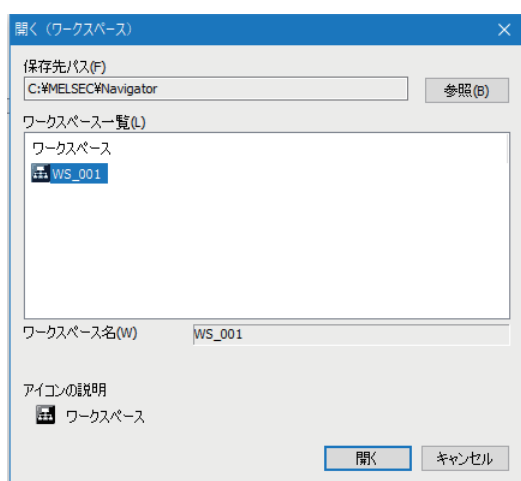
システムラベルを取り込む場合、参照するワークスペースを登録します。

- 参照を解除し、MX単独でシステムラベルを使用できます。
- 参照を解除後に再度参照登録した場合、新規に参照登録されます。(参照の復旧はありません。)
- 参照登録後、ラベルスペース内のラベル情報は編集できません。(論理局番の登録は可能です。)

操作手順

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[ワークスペース]⇒[参照登録]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウの"参照ワークスペース"を選択して右クリックし、[ワークスペース]⇒[参照登録]を選択します。

画面表示



項目	内容
保存先/パス	[参照]ボタンをクリックし、"フォルダの参照"画面でフォルダを選択します。
ワークスペース一覧	ワークスペースの一覧を表示します。

Point

- 自動デバイス割付、ビット指定を行っている構造体配列のラベルは正常に参照登録できません。システムラベルリストで新規に登録してください。
- ネットワークドライブ、リムーバブルメディアなどに保存されたワークスペースは対応していません。

解除

システムラベルを取り込む場合に登録したワークスペースの参照を解除します。

- 参照登録を解除後、ラベルスペース内のラベル情報が編集可能になります。

操作手順

- ラベルスペースウィンドウのラベルスペース名を選択し、[メニュー]⇒[ワークスペース]⇒[参照登録の解除]を選択します。
- ナビゲーションウィンドウの"参照ワークスペース"を選択して右クリックし、[ワークスペース]⇒[参照登録の解除]を選択します。

変更通知

変更通知

ワークスペースの参照登録を行っている場合、変更確認を行った際に影響を受けたラベルがあるとき、システムラベル通知アイコンがステータスバーに表示されます。

操作手順

[メニュー]⇒[システムラベル]⇒[システムラベルデータベースの変更確認]を選択します。
(ラベル管理ユーティリティ起動時に変更確認を行います。)

画面表示



Point

- ・変更通知機能を使用する場合は、MELSOFT Navigator Version 1.39R以降品を使用してください。
- ・参照先のワークスペースで下記の操作が行われた場合に、変更通知を受信します。
(システムラベルの新規作成時には通知されません。)
 - ・システムラベルに対する変更(コメントおよび備考の変更を含みます。)
 - ・システムラベルの削除

変更内容の反映

ワークスペースの参照登録を行っている場合、変更確認を行った際に影響を受けたラベル情報を反映します。
複数のワークスペースを参照している場合は、ラベルスペースごとに反映されます。

操作手順

- ・ [メニュー]⇒[システムラベル]⇒[システムラベルデータベースの変更内容]を選択します。
- ・ システムラベル通知アイコン()を右クリックし、[システムラベルデータベースの変更内容]を選択します。

システムラベルデータの最新化

システムラベルデータを最新の状態に更新します。

操作手順

[メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。

ラベルスペースのエクスポートとインポート

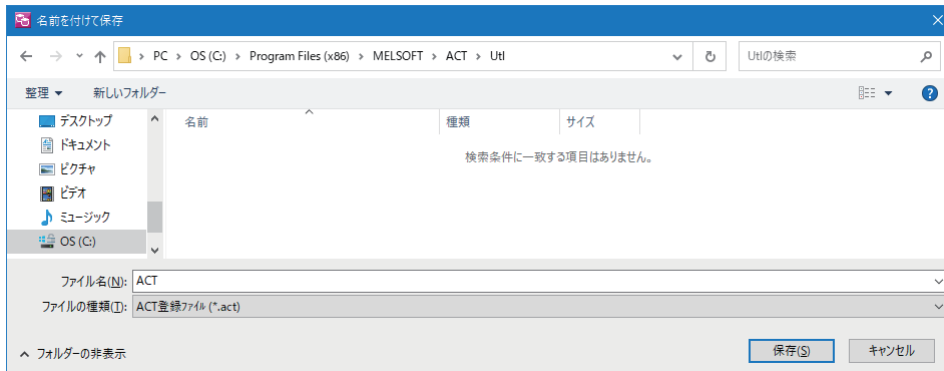
エクスポート

ラベル管理ユーティリティで使用する情報をファイルに保存します。

操作手順

[メニュー]⇒[エクスポート]を選択します。

画面表示



7

Point

エクスポートした情報には論理局番の割り付け情報は含まれていません。
エクスポートした情報をインポートして使用する際には、論理局番の割り付けを行う必要があります。

インポート

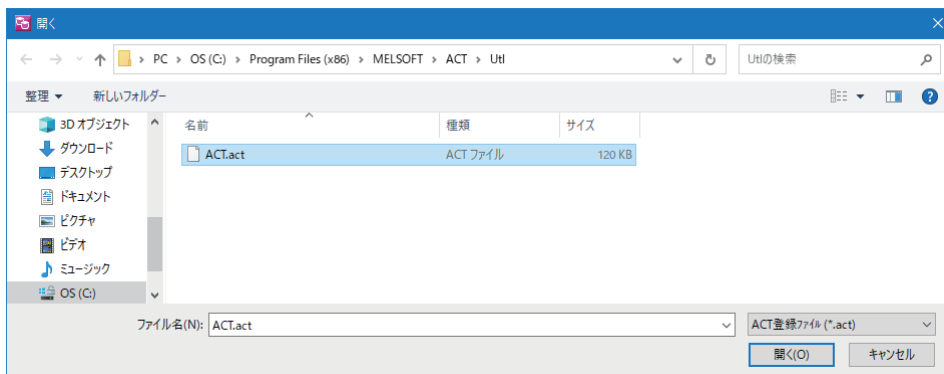
ラベルスペースのエクスポート(129ページ ラベルスペースのエクスポートとインポート)でファイルに保存した情報をラベル管理ユーティリティに反映します。

MX Component Version 4のラベルスペースをMX Component Version 5にインポートする場合は、ラベルスペース名で使用する文字数を32文字以内に変更してください。

操作手順

[メニュー]⇒[インポート]を選択します。

画面表示



システムラベルについて

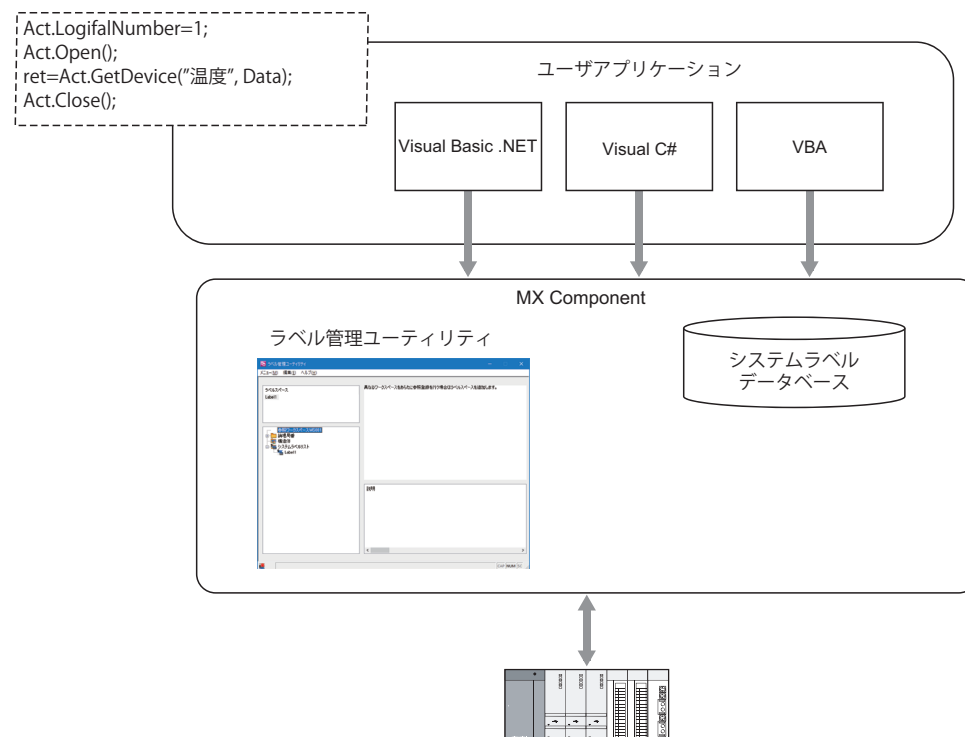
システムラベルとは、シーケンサやモーションコントローラのデバイスをシステムラベルとして公開することにより、複数のアプリケーションで共有して使用することができるラベルです。

これにより、プログラミング効率が向上します。

また、デバイスの設定が一括して変更されるため、アプリケーションでのデバイスの変更は不要です。

システムラベルを使用する

MX Componentのラベル管理ユーティリティを使用してラベルを登録し、コントロールから使用します。



Point

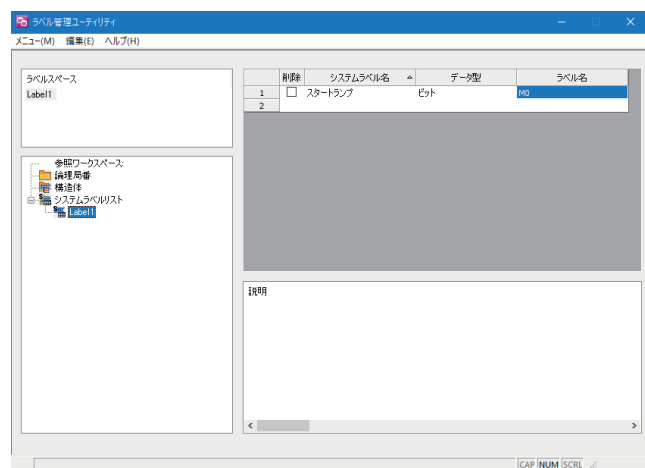
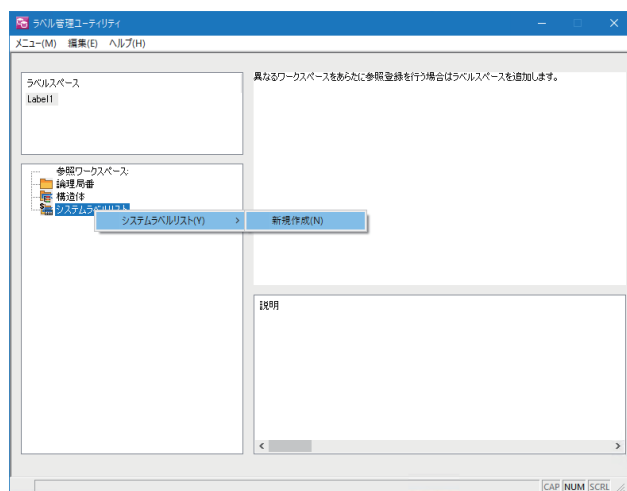
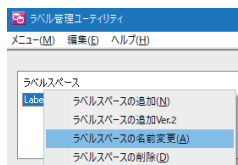
- システムラベルについて
デバイスと1対1で定義し、登録します。
構造体を使用できます。構造体とは、いろいろなデバイスを1つの集合体にまとめたものです。
データ型を設定します。データ型は、すべて配列にすることができます。
MELSOFT Navigatorで使用するシステムラベルを流用することができます。
- システムラベルデータベースについて
システムラベルデータベースは、システムラベルを管理するためのデータベースです。
- システムラベルVer.2について
MX Component Version 4.07H以降にて、システムラベルVer.2へ登録できます。
構造体型、配列型のシステムラベルも登録できます。
構造体型のシステムラベルは、MX Component Version 4.11M以降にて、5階層の構造体まで使用できます。

MX Componentでシステムラベルを登録して使用する

ラベル管理ユーティリティでシステムラベルを登録します。

■システムラベルを登録する

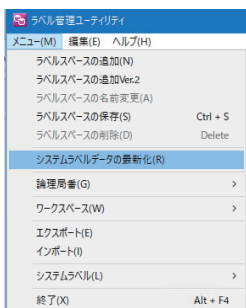
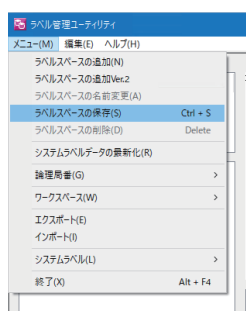
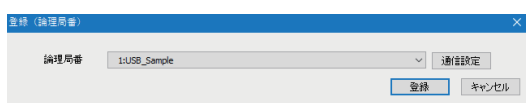
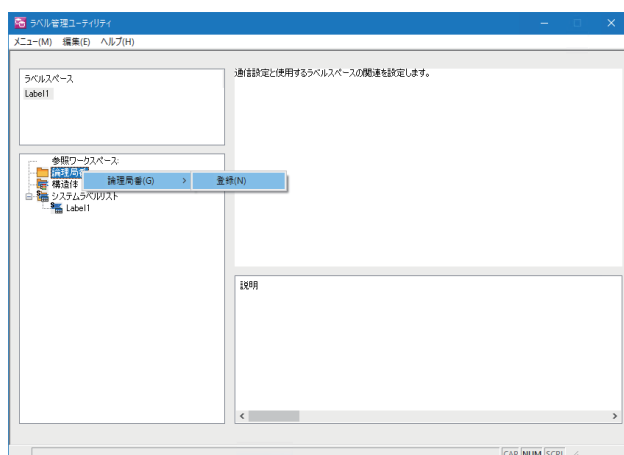
操作手順



1. ラベル管理ユーティリティを起動します。
2. ラベルスペース一覧の"名称未定義"を選択して右クリックし、[ラベルスペースの名前変更]を選択します。ラベルスペース名を変更します。
3. ナビゲーションウィンドウの"システムラベルリスト"を選択して右クリックし、[システムラベルリスト]⇒[新規作成]を選択します。システムラベルリスト名を設定します。

設定したシステムラベルリスト名を選択すると、システムラベルリストが表示されます。

4. システムラベル名，データ型，デバイス名を設定します。(120ページ システムラベルリスト)



5. ナビゲーションウィンドウの"論理局番"を選択して右クリックし、[論理局番]⇒[登録]を選択します。

6. 論理局番を選択し、[登録]ボタンをクリックします。通信設定を行う場合は、[通信設定]ボタンをクリックし、通信設定ウィザードで設定を行ってください。
(58ページ 通信設定ウィザード画面の操作)

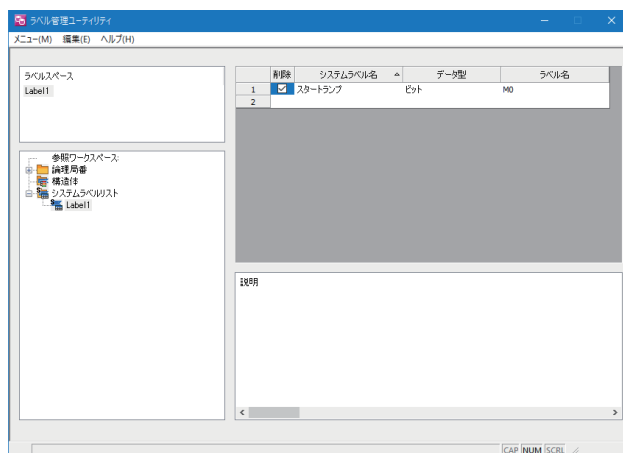
論理局番がナビゲーションウィンドウに表示されます。

7. [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。システムラベルが登録されます。

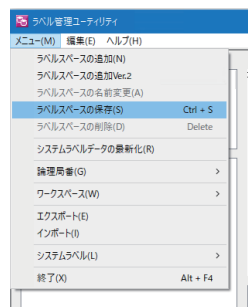
8. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。

■システムラベルを削除する

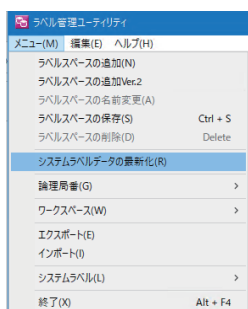
操作手順



1. 削除するシステムラベルの"削除"にチェックを入れます。



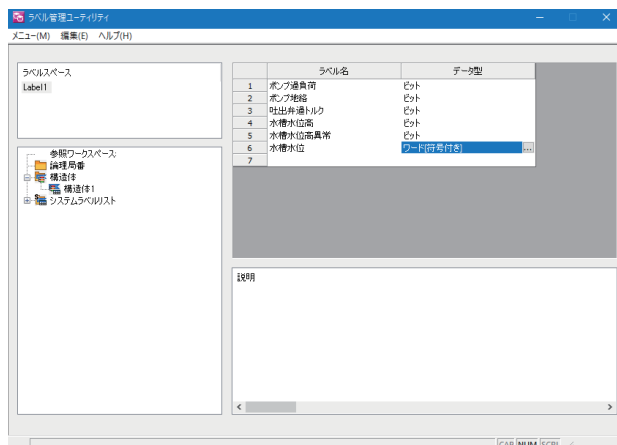
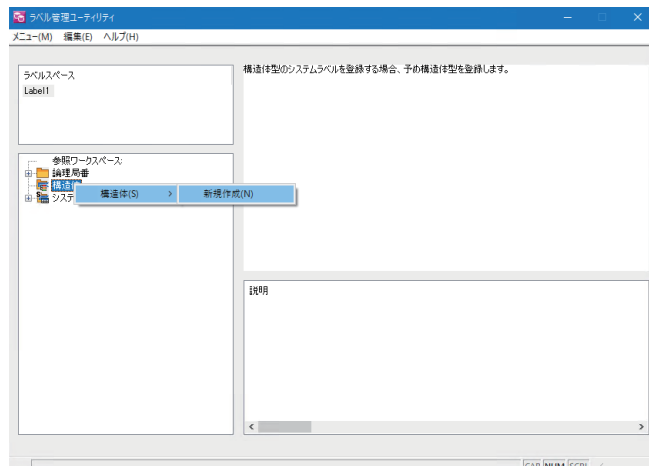
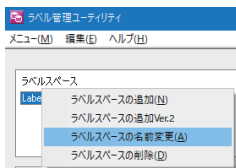
2. [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。
システムラベルが削除されます。



3. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。
コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。

■システムラベルを登録する(構造体型)

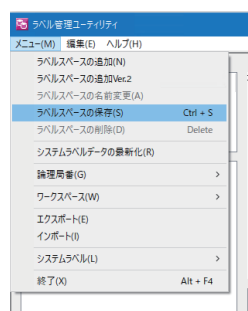
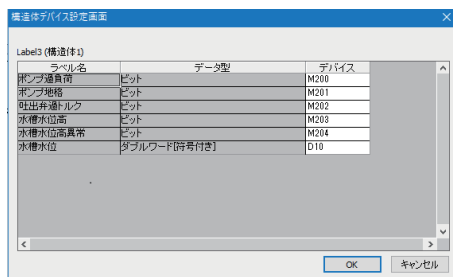
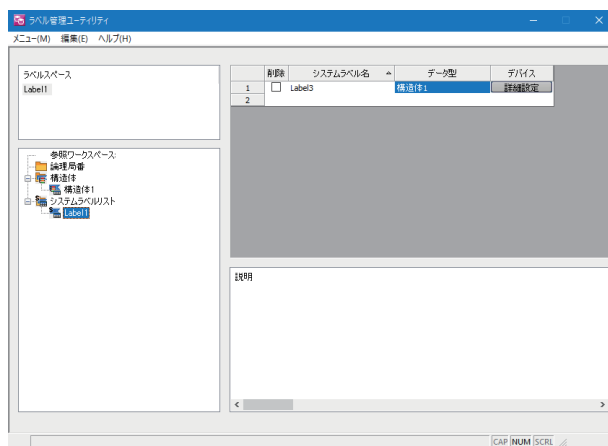
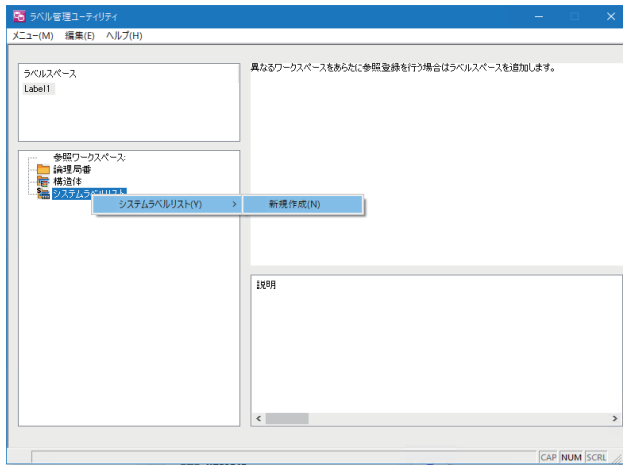
操作手順



1. ラベル管理ユーティリティを起動します。
2. ラベルスペース一覧の"名称未定義"を選択して右クリックし, [ラベルスペースの名前変更]を選択します。ラベルスペース名を変更します。
3. ナビゲーションウィンドウの"構造体"を選択して右クリックし, [構造体]⇒[新規作成]を選択します。構造体名を設定します。

設定した構造体名を選択すると, 構造体設定の一覧が表示されます。

4. 構造体メンバのラベル名, データ型を設定します。
(125ページ 構造体設定)



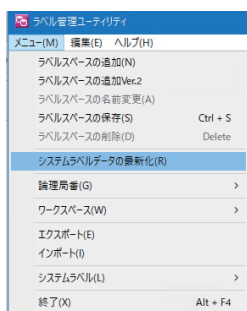
5. ナビゲーションウィンドウの"システムラベルリスト"を選択して右クリックし、[システムラベルリスト]⇒[新規作成]を選択します。
システムラベルリスト名を設定します。

設定したシステムラベルリスト名を選択すると、システムラベルリストが表示されます。

6. システムラベル名，データ型を設定します。
(120ページ システムラベルリスト)
システムラベルリストのデバイス欄で"詳細設定"をクリックします。

7. デバイスを指定します。

8. [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。
システムラベルが登録されます。

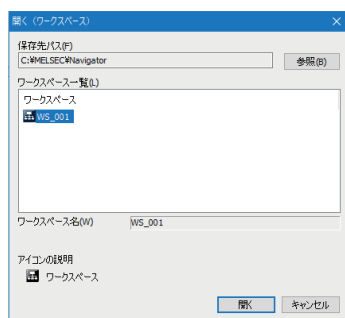
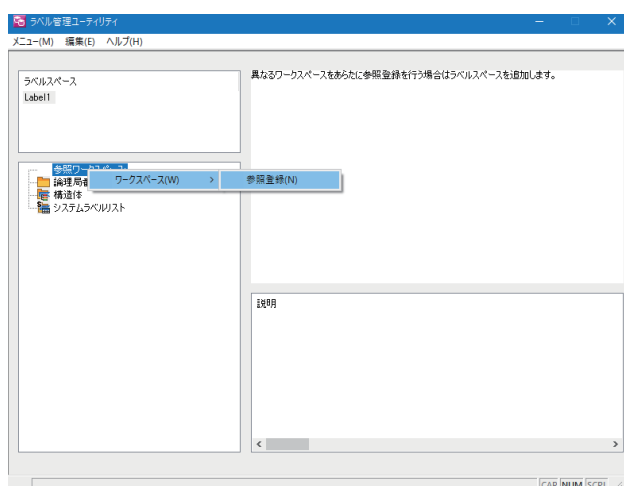
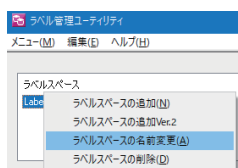


9. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。
コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。

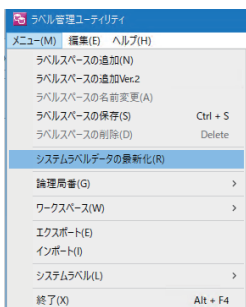
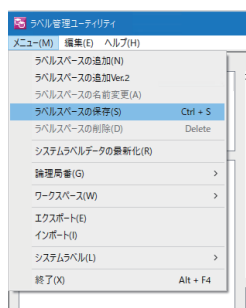
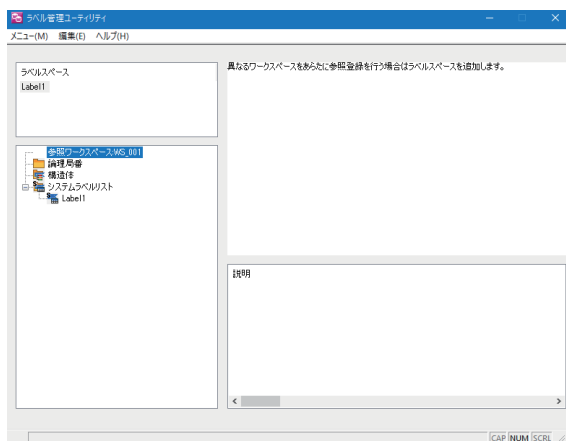
MELSOFT Navigatorで使用するラベルを流用する

ラベル管理ユーティリティで、既存のワークスペースからシステムラベルを参照し登録します。

操作手順



1. ラベル管理ユーティリティを起動します。
2. ラベルスペース一覧の"名称未定義"を選択して右クリックし、[ラベルスペースの名前変更]を選択します。ラベルスペース名を変更します。
3. ナビゲーションウィンドウの"参照ワークスペース"を選択して右クリックし、[ワークスペース]⇒[参照登録]を選択します。
4. 参照登録するワークスペースを選択します。
(126ページ ワークスペースの参照登録/解除)



ナビゲーションウィンドウに参照登録したワークスペース名が表示されます。

システムラベルリスト名を選択すると、参照しているシステムラベルの一覧が表示されます。

5. [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。システムラベルが登録されます。

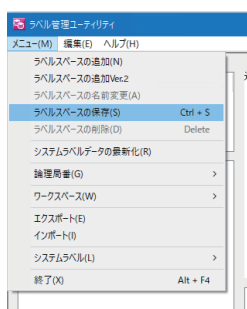
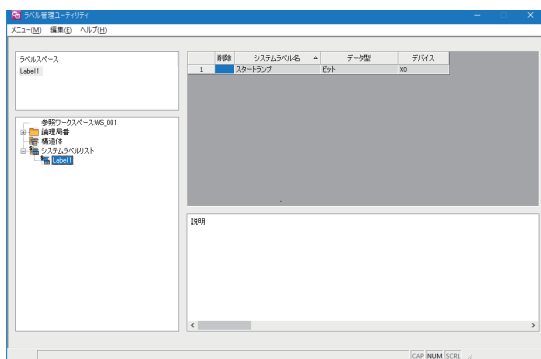
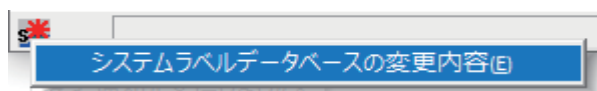
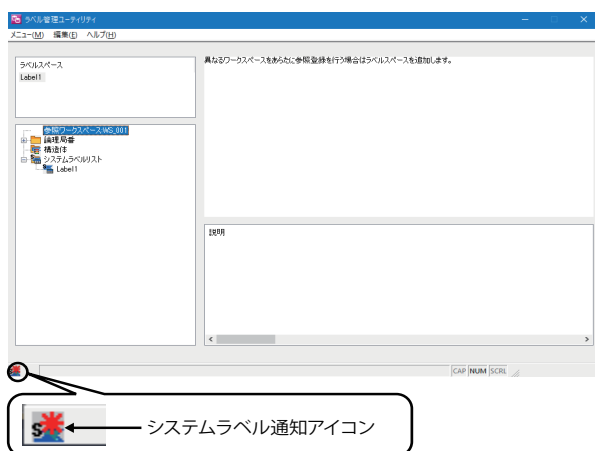
複数のワークスペースを参照する場合は、ラベルスペースを追加後、手順2.~4.を行ってください。

6. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。

GX Works2でのデバイス変更をMX Componentへ反映する

参照登録したシステムラベルのデバイス割付をGX Works2で変更後、ラベル管理ユーティリティで変更内容を反映します。

操作手順

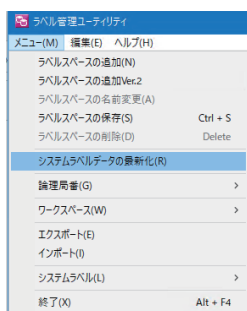
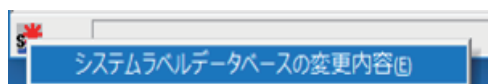


1. ラベル管理ユーティリティを起動します。
ラベル管理ユーティリティのステータスバーにシステムラベル通知アイコンが表示されます。
2. ラベルスペース名を選択します。

3. システムラベル通知アイコンを右クリックし、[システムラベルデータベースの変更内容]を選択します。
(127ページ 変更通知)

4. 変更内容の取り込みを確認する画面で[はい]ボタンをクリックします。
システムラベルリスト名を選択すると、システムラベルリストが表示されます。

5. [メニュー]⇒[ラベルスペースの保存]を選択します。
システムラベルが登録されます。
複数のワークスペースを参照する場合は、ラベルスペース一覧よりほかのラベルスペース名を選択後、手順2.~4.を行ってください。



複数のワークスペースを参照している場合は、システムラベル通知アイコンが表示されたままとなります。

6. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。
コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。

Point

ワークスペースの参照登録を行わずにシステムラベルを使用している場合、変更通知は表示されません。

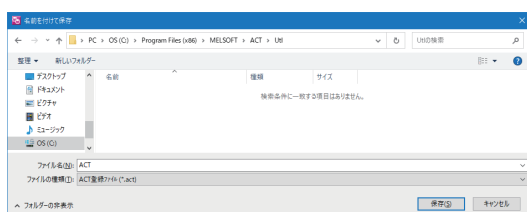
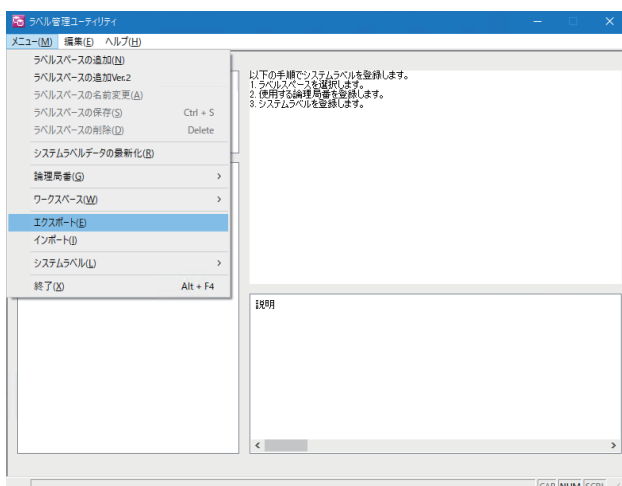
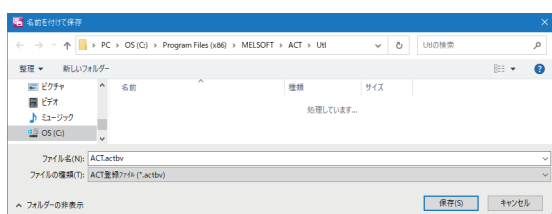
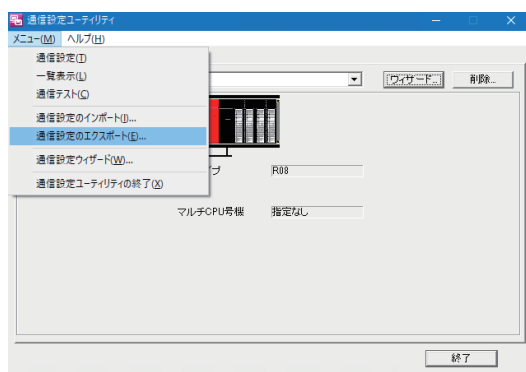
別のパソコンでシステムラベルを使用する

エクスポートを行うパソコンとは別のパソコンでシステムラベルを使用します。

■ラベルスペースのエクスポート

ラベルスペースのエクスポートを行い、ファイルを作成します。

操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動します。
2. [メニュー]⇒[通信設定のエクスポート]を選択します。

3. 保存するファイル名を入力します。

4. ラベル管理ユーティリティを起動します。
5. [メニュー]⇒[エクスポート]を選択します。

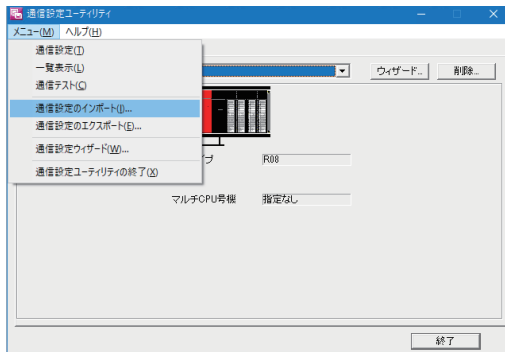
6. 保存するファイル名を入力します。

■ラベルスペースのインポート

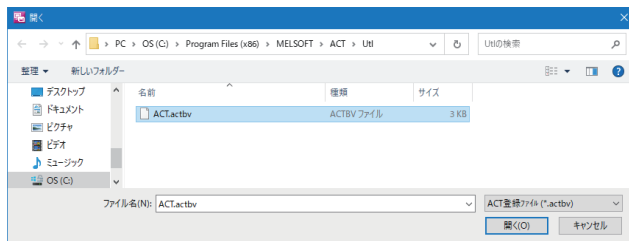
インポート先のパソコンで、ラベルスペースのインポートを行います。

通信設定のエクスポートファイルとラベルスペースのエクスポートファイルを、あらかじめインポート先のパソコンにコピーしておいてください。

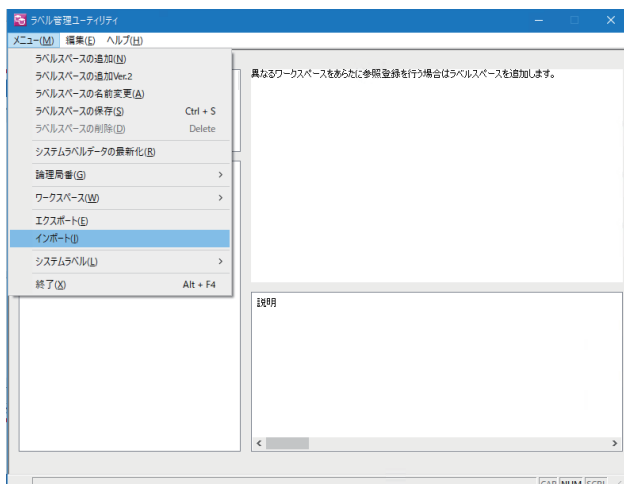
操作手順



1. 通信設定ユーティリティを起動します。
2. [メニュー]⇒[通信設定のインポート]を選択します。

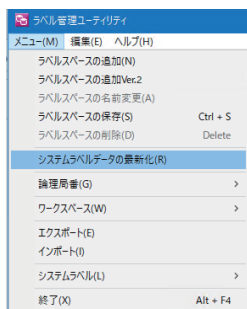
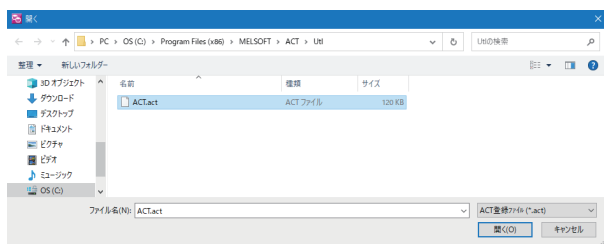


3. インポートする通信設定のファイル名を指定します。



4. ラベル管理ユーティリティを起動します。
5. [メニュー]⇒[インポート]を選択します。





6. インポートするラベルスペースのファイル名を指定します。

7. [メニュー]⇒[システムラベルデータの最新化]を選択します。
コントロールから参照するラベルが最新に更新されます。

7.2 コーディング

コントロールが提供するプロパティおよび関数を使用してアクセス先の機器とデバイスやラベルを読み書きする処理を作成します。

アクセス可能なデバイス、コントロールのプロパティ、関数については下記を参照してください。

📖 156ページ アクセス可能デバイス

📖 172ページ コントロールのプロパティ

📖 407ページ 関数

7.3 デバッグ

デバイスの値を確認する際、シーケンサモニタユーティリティを使用することで効率よくデバッグができます。
シーケンサモニタユーティリティの操作、設定方法について説明します。

シーケンサモニタユーティリティを使って値の確認をする

シーケンサモニタユーティリティの操作や設定方法について説明します。

起動

操作手順

Windowsのスタートで"MELSOFT"からシーケンサモニタユーティリティを起動します。

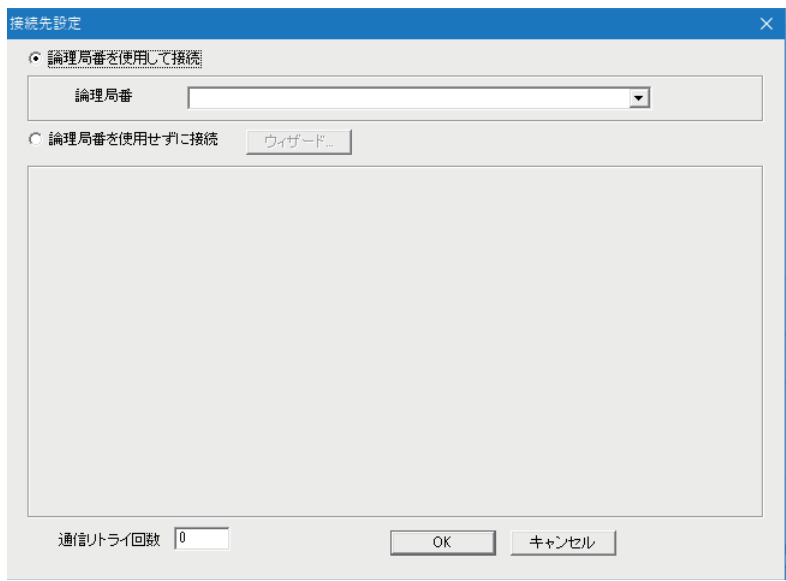
接続先設定画面

パソコンからシーケンサまでの接続設定を行います。

操作手順

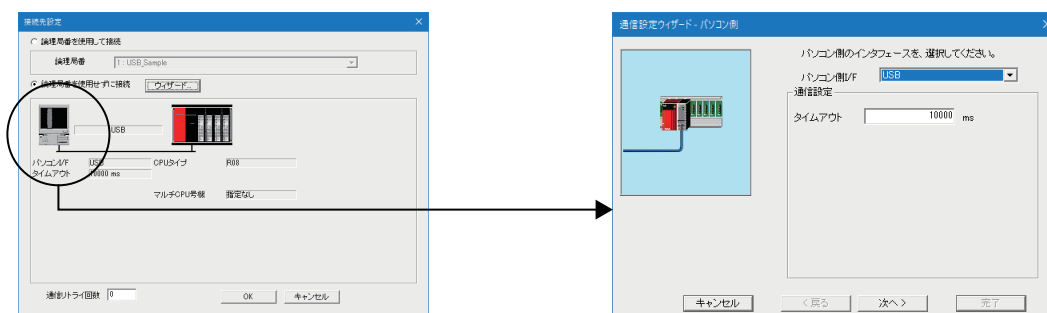
[オンライン]⇒[接続先設定]を選択します。
(シーケンサモニタユーティリティ起動時にも表示されます。)

画面表示



項目	内容
論理局番を使用して接続	論理局番を使用するときに選択します。
論理局番	通信設定ユーティリティにて設定した論理局番を選択します。
論理局番を使用せずに接続	論理局番を使用しないときに選択します。
[ウィザード]ボタン	通信設定ウィザードを起動し、接続先設定を行います。
通信リトライ回数	シーケンサモニタユーティリティでモニタ中にエラーが発生した際に行うリトライ回数(0～9)を設定します。

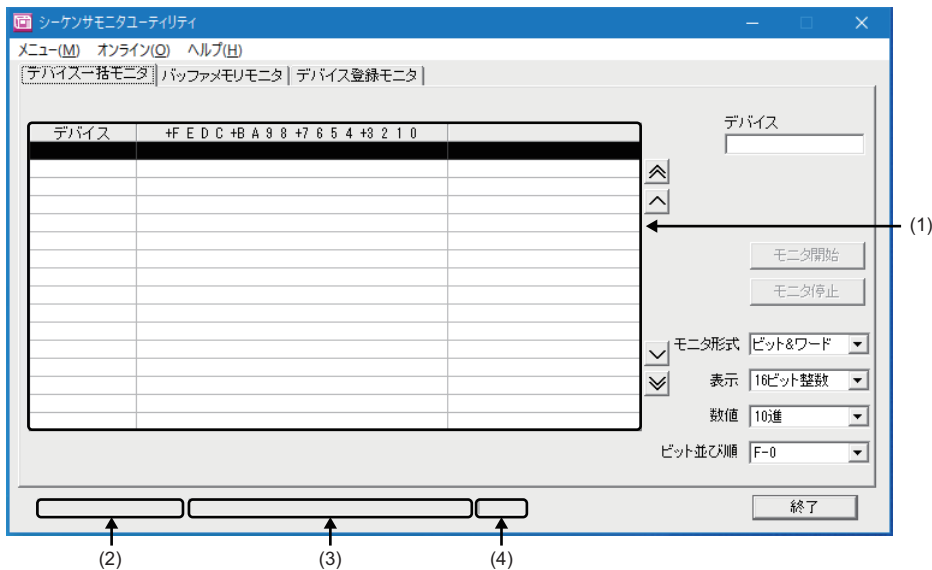
- 論理局番を指定する際は、通信設定ユーティリティにてCPUタイプ、局番などの論理局番の設定内容を確認してから行ってください。
- プログラム設定タイプ選択時、画面のシーケンサまたはパソコン図をクリックすることにより、接続先設定の詳細を変更することができます。



デバイス一括モニタ画面

指定した1種類のデバイスのみをモニタします。

画面表示



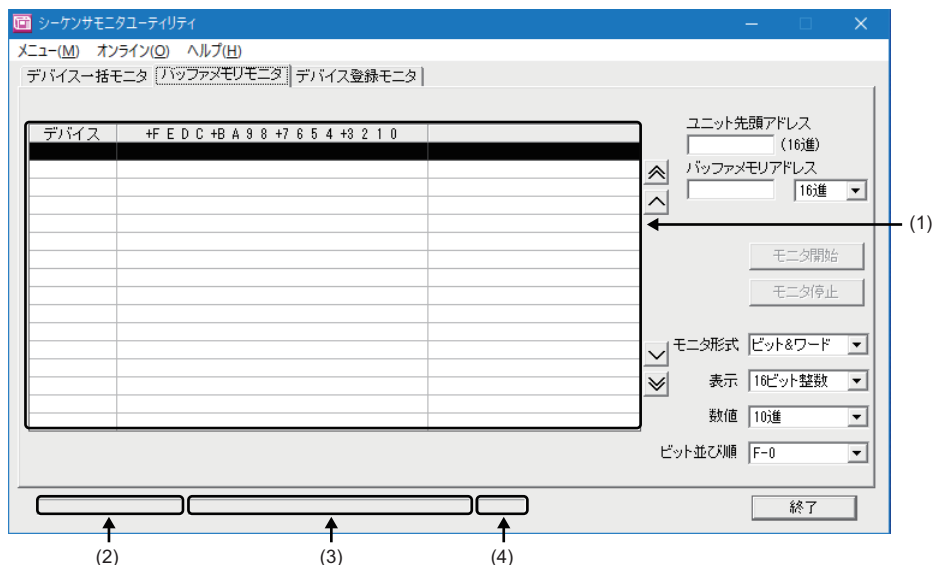
項目	内容
デバイス	デバイス一括モニタを行うデバイス名を入力します。 FXCPU, FX5CPUのX, Yデバイスは、デバイス番号を8進数で入力してください。
[モニタ開始]ボタン([モニタ停止]ボタン)	モニタの開始(停止)を行います。
モニタ形式	モニタ形式を設定します。 ■項目 ビット&ワード: モニタ画面をビットおよびワード表示に設定します。 ビット多点: モニタ画面をビット表示のみに設定します。 ワード多点: モニタ画面をワード表示のみに設定します。
表示	モニタ形式が"ビット&ワード"または"ワード多点"時に、表示するデバイス値の表示形式を設定します。 ■項目 16ビット整数: 16ビット整数表示に設定します。 32ビット整数: 32ビット整数表示に設定します。 実数(単精度): 実数(単精度)表示に設定します。 実数(倍精度): 実数(倍精度)表示に設定します。 ASCII文字列: ASCII文字列表示に設定します。
数値	表示が"16ビット整数"または"32ビット整数"時の基数を設定します。 ■項目 10進: 10進数表示に設定します。 16進: 16進数表示に設定します。
ビット並び順	モニタ中のビットデバイスの並び順を設定します。 ■項目 F-0: 左からF, E, ...1, 0の順に並びます。 0-F: 左から0, 1, ...E, Fの順に並びます。
(1)モニタ画面	デバイスの状態を表示します。 ・ビットデバイスの状態は、1がON状態、0がOFF状態として表示されます。 ・ビットデバイスは、16点単位でモニタを行います。 16点単位中にCPUユニットがサポートする範囲外のデバイスが含まれる場合、値は"0"と表示されます。 ・FXCPUのCデバイスは、C0～C199(16ビット)とC200以降(32ビット)に分かれて表示されます。 デバイス名をクリックすることにより、"デバイス書き込み"画面(152ページ デバイス書き込み画面)を表示します。 モニタ中は、スクロールボタンの下に"*"が点滅表示されます。
(2)対象CPU名	通信設定ウィザードにて指定した通信相手先のCPU名を表示します。
(3)通信経路情報	ネットワーク種別、ネットワーク番号、先頭I/Oアドレス、局番などの情報を表示します。
(4)論理局番	ユーティリティ設定タイプにて設定した論理局番が表示されます。 プログラム設定タイプを使用している場合は表示されません。

- Un¥G□形式でデバイスメモリを指定すると、バッファメモリのモニタが可能になります。
- タイムおよびカウンタの設定値をモニタする場合、データレジスタを間接指定してください。
- 接続先が確立されていない場合、モニタを行うことはできません。
- モニタ中に接続先設定を行うことはできません。
- QSCPUのデバイスデータを変更することはできません。

バッファメモリモニタ画面

指定した1種類のバッファメモリのみをモニタします。

画面表示



項目	内容
ユニット先頭アドレス	モニタを行うユニットの先頭アドレスを入力します。 FXCPUへのアクセス時は、特殊増設機器のブロックNo.を入力してください。
バッファメモリアドレス	モニタを行うバッファメモリのアドレスを16進数または10進数で入力します。
[モニタ開始]ボタン([モニタ停止]ボタン)	モニタの開始(停止)を行います。
モニタ形式	モニタ形式を設定します。 ■項目 ビット&ワード: モニタ画面をビットおよびワード表示に設定します。 ビット多点: モニタ画面をビット表示のみに設定します。 ワード多点: モニタ画面をワード表示のみに設定します。
表示	モニタ形式が"ビット&ワード"または"ワード多点"時に、表示するデバイス値の表示形式を設定します。 ■項目 16ビット整数: 16ビット整数表示に設定します。 32ビット整数: 32ビット整数表示に設定します。 実数(単精度): 実数(単精度)表示に設定します。 実数(倍精度): 実数(倍精度)表示に設定します。 ASCII文字列: ASCII文字列表示に設定します。
数値	表示が"16ビット整数"または"32ビット整数"時の基数を設定します。 ■項目 10進: 10進数表示に設定します。 16進: 16進数表示に設定します。
ビット並び順	モニタ中のビットデバイスの並び順を設定します。 ■項目 F-0: 左からF, E, ..., 1, 0の順に並びます。 0-F: 左から0, 1, ..., E, Fの順に並びます。
(1)モニタ画面	バッファメモリの状態を表示します。 ビットデバイスの状態は、1がON状態、0がOFF状態として表示されます。 モニタ中は、スクロールボタンの下に"*"が点滅表示されます。
(2)対象CPU名	通信設定ウィザードにて指定した通信相手先のCPU名を表示します。

項目	内容
(3)通信経路情報	ネットワーク種別, ネットワーク番号, 先頭I/Oアドレス, 局番などの情報を表示します。
(4)論理局番	ユーティリティ設定タイプにて設定した論理局番が表示されます。 プログラム設定タイプを使用している場合は表示されません。

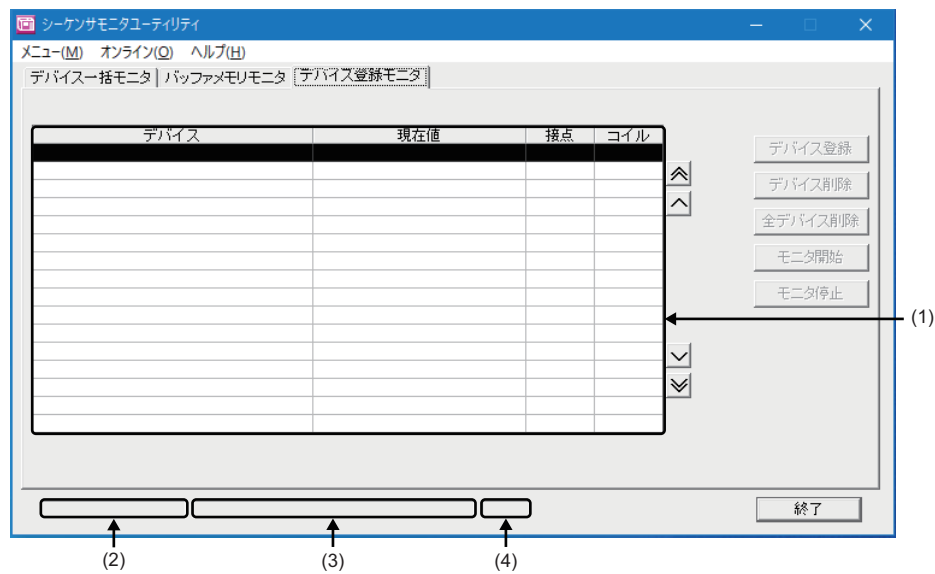
Point

- 接続先が確立されていない場合, モニタを行うことはできません。
- モニタ中に接続先設定を行うことはできません。
- FX5CPUに対してのモニタは, サポートしていません。
- GOTゲートウェイデバイス通信時は, モニタを行うことはできません。

デバイス登録モニタ画面

指定したデバイスを1画面で同時にモニタします。

画面表示



項目	内容
[デバイス登録]ボタン	モニタを行うデバイスを登録します。 [デバイス登録]ボタンをクリックすると、下記の画面が表示されます。 📄 151ページ デバイス登録画面
[デバイス削除]ボタン	モニタを行うデバイスを削除します。
[全デバイス削除]ボタン	デバイス登録モニタに登録されているすべてのデバイスをモニタ画面から削除します。
[モニタ開始]ボタン([モニタ停止]ボタン)	モニタの開始(停止)行います。
(1)モニタ画面	登録されているデバイスの状態を表示します。 デバイス名をクリックすることにより、"デバイス書き込み"画面(📄 152ページ デバイス書き込み画面)を表示します。 モニタ中は、スクロールボタンの下に"*"が点滅表示されます。
(2)対象CPU名	通信設定ウィザードにて指定した通信相手先のCPU名を表示します。
(3)通信経路情報	ネットワーク種別、ネットワーク番号、先頭I/Oアドレス、局番などの情報を表示します。
(4)論理局番	ユーティリティ設定タイプにて設定した論理局番が表示されます。 プログラム設定タイプを使用している場合は表示されません。

■デバイス登録画面

[デバイス登録]ボタンをクリックすると表示されます。
モニタを行うデバイスを登録します。

画面表示

項目	内容
デバイス	登録するデバイスを入力します。
数値	ワードデバイス指定時の入力する数値を設定します。 ■項目 10進: 10進数に設定します。 16進: 16進数に設定します。
表示	ワードデバイス指定時の表示形式を設定します。 ■項目 16ビット整数: 16ビット整数表示に設定します。 32ビット整数: 32ビット整数表示に設定します。 実数(単精度): 実数(単精度)表示に設定します。 実数(倍精度): 実数(倍精度)表示に設定します。 ASCII文字列: ASCII文字列表示に設定します。
[登録]ボタン	デバイスを登録します。
[閉じる]ボタン	ダイアログボックスを閉じます。

Point

- ・タイマおよびカウンタの設定値をモニタする場合、データレジスタを間接指定してください。
- ・接続先が確立されていない場合、モニタを行うことはできません。
- ・モニタ中に接続先設定を行うことはできません。

デバイス書き込み画面

ビットデバイスのON/OFFおよびワードデバイスやバッファメモリの現在値を変更します。

操作手順

- ・ [オンライン]⇒[デバイス書き込み]を選択します。
- ・ シーケンサモニタユーティリティの各タブのモニタ画面上をダブルクリックします。

画面表示

デバイス書き込み

ビットデバイス

デバイス

強制 ON

強制 OFF

強制 ON/OFF反転

閉じる

ワードデバイス/バッファメモリ

デバイス

バッファメモリ

ユニット先頭

アドレス

(16進)

16進

設定する値

16ビット整数

10進

実行

項目		内容
ビットデバイス	デバイス	デバイス名を入力します。
	[強制ON]ボタン	指定したデバイスを強制的にON状態に変更します。
	[強制OFF]ボタン	指定したデバイスを強制的にOFF状態に変更します。
	[強制ON/OFF反転]ボタン	指定したデバイスを強制的にON→OFF/OFF→ON状態に変更します。
ワードデバイス/バッファメモリ	デバイス	"デバイス"を選択することにより、書き込みを行うワードデバイスを入力できます。
	バッファメモリ	"バッファメモリ"を選択することにより、ユニットの先頭アドレスおよびバッファメモリのアドレスを入力できます。
	設定する値	書き込みを行う値を入力します。 入力範囲を下記に示します。 ■項目 16ビット整数: -32768～32767 32ビット整数: -2147483648～2147483647 実数(単精度), 実数(倍精度): -9999999999999999～9999999999999999 小数点以下有効桁数13桁
	[実行]ボタン	設定したデータを書き込みます。

Point

- ・ RnSFCPUを使用した場合、セーフティモードでは安全デバイスへの書き込みはできません。 160ページ
アクセス先がRnSFCPUおよびRnPSFCPU(安全デバイス)
- ・ QSCPUの場合は、[デバイス書き込み]を選択することはできません。
- ・ QSCPUの場合は、バッファメモリの書き込みを行うことはできません。

時計設定画面

シーケンサの時計データ読出しおよび変更を行います。

操作手順

[オンライン]⇄[時計設定]を選択します。

画面表示

項目	内容
パソコン時刻	パソコンの時刻を表示します。(書き込みはできません。)
シーケンサ時刻	CPUユニットの時刻を表示します。
[設定]ボタン	"シーケンサ時刻"の情報をCPUユニットに書き込みます。
[閉じる]ボタン	"時計設定"画面を終了します。

7

Point

下記の通信を選択している場合、時刻設定は使用できません。

- GOTゲートウェイデバイス通信(エラーが発生します。)

QSCPUでは時計データの変更はできません。

第2部 プログラムの詳細仕様

プログラムの中で使用するプロパティや関数の詳細を説明します。

8 アクセス可能デバイスおよびデバイスタイプ

9 コントロールのプロパティ

10 各通信経路で設定するプロパティ

11 関数

12 サンプルプログラム

13 エラーコード

8 アクセス可能デバイスおよびデバイスタイプ

各通信経路におけるアクセス可能デバイスおよび関数で指定できるデバイスタイプを説明します。

Point

下記は、MX Componentでサポートしていません。指定しないようにしてください。

- ・アクセス可能デバイスの一覧表に記載されていないデバイス
- ・アクセス可能範囲の一覧表に記載されていない接続局CPUおよび経路局CPU(183ページ 各通信経路で設定するプロパティ)

8.1 アクセス可能デバイス

アクセス可能デバイスについてアクセス先ごとに説明します。

アクセス可能デバイスは、GX Simulator2通信、GX Simulator3通信、MT Simulator2通信、MELSOFT Mirror通信、GOTゲートウェイデバイス通信を除き、通信経路に依存しません。ただし、アクセスできない経路のデバイスにはアクセスできません。

各通信経路における経路ネットワークを使用したアクセス可否表は、下記を参照してください。

183ページ 各通信経路で設定するプロパティ

通信経路に依存するアクセス可能デバイス

■GX Simulator2通信時

GX Simulator2通信時における他局のアクセス可能デバイスは、GX Simulator2がサポートするデバイスに依存します。

詳細については、下記のマニュアルを参照してください。

1 GX Works2 Version 1 オペレーティングマニュアル (共通編)

■GX Simulator3通信時

GX Simulator3通信時における他局のアクセス可能デバイスは、GX Simulator3がサポートするデバイスに依存します。

詳細については、下記のマニュアルを参照してください。

1 GX Works3 オペレーティングマニュアル

■MT Simulator2通信時

MT Simulator2通信時における他局のアクセス可能デバイスは、MT Simulator2がサポートするデバイスに依存します。

QモーションCPUのアクセス可能デバイス一覧は、下記を参照してください。

159ページ アクセス先がモーションCPU

■MELSOFT Mirror通信時

MELSOFT Mirror通信時における他局のアクセス可能デバイスは、MELSOFT Mirrorがサポートするデバイスに依存します。

詳細については、下記のマニュアルを参照してください。

1 MELSOFT Mirror オペレーティングマニュアル

■GOTゲートウェイデバイス通信時

GOTゲートウェイデバイス通信時は、下記のデバイスのみアクセス可能です。

デバイス: ゲートウェイデバイス

デバイス名: EG

アクセス先がCPUユニット(モーションCPUおよびWinCPU以外)

○: アクセス可能, ×: アクセス不可

デバイス(デバイス名)		アクセス先								
		RCPU	RCCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU*1	FXCPU
ファンクション入力(FX)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクション出力(FY)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
ファンクションレジスタ(FD)		×	×	×	×	○	×	○	×	×
特殊リレー (SM)		○	○	○	○	○	○	○	○	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○	○	○	○	○	○	×
入力リレー (X)		○	○	○	○	○	○	○	○	○
出力リレー (Y)		○	○	○	○	○	○	○	○	○
内部リレー (M)		○	○	○	○	○	○	○	○	○
ラッチリレー (L)		○	×	○	○	○	×	○	×	×
アナンシェータ(F)		○	×	○	○	○	×	○	○	×
エッジリレー (V)		○	×	○	×	○	×	○	○	×
リンクリレー (B)		○	○	○	○	○	○*2	○	○	×
データレジスタ(D)		○	○	○	○	○	○	○	○	○
リンクレジスタ(W)		○	○	○	○	○	○*2	○	○	×
タイマ(T)	接点(TS)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	コイル(TC)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	現在値(TN)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
カウンタ(C)	接点(CS)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	コイル(CC)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
	現在値(CN)	○	×	○	○	○	×	○	○	○
積算タイマ(ST)	接点(STS/SS)	○	×	○	○	○	×	○	○	×
	コイル(STC/SC)	○	×	○	○	○	×	○	○	×
	現在値(STN/SN)	○	×	○	○	○	×	○	○	×
ロングタイマ(LT)	接点(LTS)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	コイル(LTC)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	現在値(LTN)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
ロングカウンタ(LC)	接点(LCS)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
	コイル(LCC)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
	現在値(LCN)	○	×	○	○	×	×	×	×	×
ロング積算タイマ (LST)	接点(LSTS/LSS)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	コイル(LSTC/LSC)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	現在値(LSTN/LSN)	○	×	○	×	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー (SB)		○	×	○	○	○	×	○	○	×
リンク特殊レジスタ(SW)		○	×	○	○	○	×	○	○	×
ステップリレー (S)		×	×	×	○	×	×	×	×	○
ダイレクト入力(DX)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
アキュムレータ(A)		×	×	×	×	×	×	×	×	×
インデックスレジスタ	(Z)	○	×	○	○	○	×	○	×	○*3
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	×	○*3
ロングインデックスレジスタ(LZ)		○	×	○	○	×	×	×	×	×
ファイルレジスタ	(R)	○	×	○	○	○*4	×	○	×	○*5
	(ZR)	○	○	○	×	○*4	×	○	×	×
ユニット用リフレッシュデバイス(RD)		○	×	○	×	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ERn¥R)		×	×	×	×	×	×	×	×	×

デバイス(デバイス名)		アクセス先								
		RCPU	RCCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU ^{*1}	FXCPU
ダイレクトリンク	リンク入力(Jn¥X)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク出力(Jn¥Y)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンクリレー (Jn¥B)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊リレー (Jn¥SB)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンクレジスタ(Jn¥W)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
	リンク特殊レジスタ (Jn¥SW)	○	○	×	×	○	○	○	×	×
ユニットアクセスデバイス(Un¥G)		○	○	○	○	○ ^{*6}	○	○	×	○

*1 書き込むことはできません。

*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)使用時はアクセスできません。

*3 WriteDeviceBlockまたはWriteDeviceBlock2で2点以上を連続して書き込むことはできません。(1点のみ書き込み可能)

*4 Q00UJCPU使用時はアクセスできません。

*5 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPU以外のFXCPUでファイルレジスタを指定する場合、データレジスタ(D)を指定するようにしてください。
FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみ、拡張レジスタ(R)指定ができます。

*6 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。
また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書込みは行えません。

アクセス先がモーションCPU

○: アクセス可能, ×: アクセス不可

デバイス(デバイス名)		アクセス先		
		R16MT/R32MT/R64MT	Q172D/Q173D	Q172DS/Q173DS
入力リレー (X)		○	○	○
出力リレー (Y)		○	○	○
内部リレー (M)		○	○	○
ラッチリレー (L)		×	×	×
アナンシェータ(F)		○	○	○
リンクリレー (B)		○	○	○
データレジスタ(D)		○	○	○
リンクレジスタ(W)		○	○	○
デバイス特殊M(SPM)		×	×	×
デバイス特殊D(SPD)		×	×	×
モーションデバイス(#)		○	○	○
フリーランタイム(FT)		×	×	×
特殊レジスタ(SD)		○	○	○
特殊リレー (SM)		○	○	○
CPUバッファメモリ アクセスデバイス	マルチCPU間共有デバイス (U3En¥G)	×	○ ^{*1}	○ ^{*1}
	CPUバッファメモリ (U3En¥G)	○	×	×
	CPUバッファメモリ定周期 通信エリア(U3En¥HG)	○	×	×
ユニットアクセスデバイス(Un¥G)		○	×	×

*1 マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。
また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書込みは行えません。

アクセス先がWinCPU

○: アクセス可能

デバイス(デバイス名)		アクセス先
		WinCPU
入力リレー (X)		○
出力リレー (Y)		○
内部リレー (M)		○
データレジスタ(D)		○
リンクリレー (B)		○
リンクレジスタ(W)		○
特殊レジスタ(SD)		○
特殊リレー (SM)		○
特殊レジスタ(SD)		○
特殊リレー (SM)		○
ダイレクトリンク	リンク入力(Jn¥X)	○
	リンク出力(Jn¥Y)	○
	リンクリレー (Jn¥B)	○
	リンク特殊リレー (Jn¥SB)	○
	リンクレジスタ(Jn¥W)	○
	リンク特殊レジスタ(Jn¥SW)	○
CPUバッファメモリアクセスデバイス	CPUバッファメモリ(U3En¥G)	○
	CPUバッファメモリ定周期通信エリア(U3En¥HG)	○
ユニットアクセスデバイス(Un¥G)		○

アクセス先がRnSFCCPUおよびRnPSFCCPU(安全デバイス)

RnSFCCPUおよびRnPSFCCPUは、下記の安全デバイスにもアクセス可能です。

セーフティモードでは、読出しのみ可能です。書込みはできません。エラーが発生します。

○: アクセス可能

デバイス(デバイス名)	アクセス先
	RnSFCCPU, RnPSFCCPU
安全入力(SA¥X)	○
安全出力(SA¥Y)	○
安全内部リレー (SA¥M)	○
安全リンクリレー (SA¥B)	○
安全タイマ(SA¥T)	○
安全積算タイマ(SA¥ST)	○
安全カウンタ(SA¥C)	○
安全データレジスタ(SA¥D)	○
安全リンクレジスタ(SA¥W)	○
安全特殊リレー (SA¥SM)	○
安全特殊レジスタ(SA¥SD)	○

アクセス先がCC-Link通信時の自ボード

自ボードアクセス時のみ、下記のデバイスが使用可能です。

デバイス	デバイス名	備考
リンク特殊リレー (CC-Link用)	SB	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ(CC-Link用)	SW	自ボードのリンク特殊レジスタ
リモート入力	X	RX
リモート出力	Y	RY
リモートレジスタ(CC-Link用書き込みエリア)	WW	RWw
リモートレジスタ(CC-Link用読出しエリア)	WR	RWr
バッファメモリ	ML	自局CC-Linkユニットのバッファメモリ
ランダムアクセスバッファ	MC	自局CC-Linkユニットのバッファメモリにあるランダムアクセスバッファ

アクセス先がMELSECNET/H通信時の自ボード

自ボードアクセス時のみ、下記のデバイスが使用可能です。

デバイス	デバイス名	備考
リンクリレー	B	自ボードのリンクリレー
リンクレジスタ	W	自ボードのリンクレジスタ
リンク特殊リレー	SB	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ	SW	自ボードのリンク特殊レジスタ
リンク入力	X	LX
リンク出力	Y	LY

アクセス先がCC-Link IEコントローラネットワーク通信時の自ボード

自ボードアクセス時のみ、下記のデバイスが使用可能です。

デバイス	デバイス名	備考
リンクリレー	B	自ボードのリンクリレー
リンクレジスタ	W	自ボードのリンクレジスタ
リンク特殊リレー	SB	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ	SW	自ボードのリンク特殊レジスタ
リンク入力	X	LX
リンク出力	Y	LY
バッファメモリ	ML	自ボードのバッファメモリ

アクセス先がCC-Link IEフィールドネットワーク通信時の自ボード

自ボードアクセス時のみ、下記のデバイスが使用可能です。

デバイス	デバイス名	備考
リモートレジスタ	W	W0000~W1FFF=RWw0~RWw1FFF 自ボードのリモートレジスタ(送信用) W2000~W3FFF=RWr0~RWr1FFF 自ボードのリモートレジスタ(受信用)
リンク特殊リレー	SB	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ	SW	自ボードのリンク特殊レジスタ
リモート入力	X	RX
リモート出力	Y	RY
バッファメモリ	ML	自ボードのバッファメモリ

アクセス先がCC-Link IE TSN通信時の自ボード

自ボードアクセス時のみ、下記のデバイスが使用可能です。

デバイス	デバイス名	備考
リモート入力	X	RX
リモート出力	Y	RY
リンクリレー	B	自ボードのリンクリレー
リンクレジスタ	W	自ボードのリンクレジスタ
リモートレジスタ	WW	自ボードのリモートレジスタ(送信用)
リモートレジスタ	WR	自ボードのリモートレジスタ(受信用)
リンク特殊リレー	SB	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ	SW	自ボードのリンク特殊レジスタ

アクセス先がインバータ

インバータ通信時のアクセス可能モニタタイプを示します。

モニタタイプ(10進)	内容
1	出力周波数/回転速度
2	出力電流
3	出力電圧
5	周波数設定値/回転速度設定
6	運転速度
7	モータトルク
8	コンバータ出力電圧
9	回生ブレーキ使用率
10	電子サーマル負荷率
11	出力電流ピーク値
12	コンバータ出力電圧ピーク値
13	入力電力
14	出力電力
17	ロードメータ
18	モータ励磁電流
19	位置パルス
20	積算通電時間
22	オリエンステータス
23	実稼働時間
24	モータ負荷率
25	積算電力
32	トルク指令
33	トルク電流指令
34	モータ出力
35	フィードバックパルス
40	シーケンス機能ユーザモニタ1
41	シーケンス機能ユーザモニタ2
42	シーケンス機能ユーザモニタ3
50	省電力効果
51	省電力積算
52	PID目標値
53	PID測定値
61	モータサーマル負荷率
62	インバータサーマル負荷率
64	PTCサーミスタ抵抗値
67	PID測定値2
87	リモート出力値1
88	リモート出力値2
89	リモート出力値3
90	リモート出力値4
91	PID操作量
92	第2PID目標値
93	第2PID測定値
94	第2PID偏差
95	第2PID測定値2
96	第2PID操作量
97	ダンサ主速設定値

アクセス先がロボットコントローラ

ロボットコントローラ通信時のアクセス可能モニタタイプについて説明します。

モニタタイプは、(要求ID).(データタイプ).(引数)の形式で指定します。

モニタタイプ			取得される値
要求ID	データタイプ	引数	
231	1	(1)入力信号読み出し開始番号	入力信号情報(16点分)
	2	(1)出力信号読み出し開始番号	出力信号情報(16点分)
237	1	(1)レジスタ番号	入力レジスタ内容
238	1	(1)レジスタ番号	出力レジスタ内容

8.2 デバイスタイプ

関数で指定できるデバイスについて説明します。

Point

- 下記関数で指定するデバイスの指定方法は、"デバイス名+デバイス番号"で指定してください。
デバイス番号については、8進数、10進数および16進数の違いに注意してください。
(対象関数)
ReadDeviceBlock, ReadDeviceBlock2, WriteDeviceBlock, WriteDeviceBlock2, ReadDeviceRandom, ReadDeviceRandom2, WriteDeviceRandom, WriteDeviceRandom2, SetDevice, SetDevice2, GetDevice, GetDevice2
- ReadDeviceBlock, ReadDeviceBlock2, WriteDeviceBlock, およびWriteDeviceBlock2でビットデバイスを指定する場合、デバイス番号は16の倍数で指定してください。
- CPUユニットのローカルデバイスとプログラムごとのファイルレジスタは、プログラム名を指定してアクセスできません。
- 本節で示すデバイス以外はサポートしていません。未サポートのデバイスについては使用しないでください。

共通

アクセス先がFX5CPU時、GOTゲートウェイデバイス通信、インバータ通信、ロボットコントローラ通信を除くすべての通信経路における共通のデバイスタイプです。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号
ファンクション入力	FX	ビットデバイス	10進数
ファンクション出力	FY	ビットデバイス	10進数
ファンクションレジスタ	FD	ワードデバイス ^{*1}	10進数
特殊リレー	SM	ビットデバイス	10進数
特殊レジスタ	SD	ワードデバイス	10進数
入力リレー	X	ビットデバイス	16進数 ^{*2}
出力リレー	Y	ビットデバイス	16進数 ^{*2}
内部リレー	M	ビットデバイス	10進数
ラッチリレー	L	ビットデバイス	10進数
アナンシェータ	F	ビットデバイス	10進数
エッジリレー	V	ビットデバイス	10進数
リンクリレー	B	ビットデバイス	16進数
データレジスタ	D	ワードデバイス	10進数
リンクレジスタ	W	ワードデバイス	16進数
タイマ ^{*11}	接点	TS	ビットデバイス
	コイル	TC	ビットデバイス
	現在値	TN	ワードデバイス
カウンタ ^{*11}	接点	CS	ビットデバイス
	コイル	CC	ビットデバイス
	現在値 ^{*3}	CN	ワードデバイス
積算タイマ ^{*11}	接点	STS/SS	ビットデバイス
	コイル	STC/SC	ビットデバイス
	現在値	STN/SN	ワードデバイス
リンク特殊リレー	SB	ビットデバイス	16進数
リンク特殊レジスタ	SW	ワードデバイス	16進数
アキュムレータ	A ^{*4}	ワードデバイス	10進数
インデックスレジスタ	Z ^{*4}	ワードデバイス	10進数
	V ^{*4}	ワードデバイス	10進数
ファイルレジスタ	R ^{*5}	ワードデバイス	10進数
	ZR	ワードデバイス	10進数

デバイス		デバイス名	デバイス種別	デバイス番号
ダイレクトリンク*7*12	リンク入力	Jn¥X*6	ビットデバイス	16進数
	リンク出力	Jn¥Y*6	ビットデバイス	16進数
	リンクリレー	Jn¥B*6	ビットデバイス	16進数
	リンク特殊リレー	Jn¥SB*6	ビットデバイス	16進数
	リンクレジスタ	Jn¥W*6	ワードデバイス	16進数
	リンク特殊レジスタ	Jn¥SW*6	ワードデバイス	16進数
特殊ダイレクトバッファメモリ*8*9		Un¥G□*6*10	ワードデバイス	16進数/10進数

*1 1点4ワードです。一括操作の場合:1ワード単位で連続して操作します。ランダム操作の場合:先頭の1ワードのみ読み出します。

*2 FXCPUの場合8進数です。

*3 FXCPUの場合200以上は32ビットデータです。

*4 E71経由の場合、使用できません。

*5 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPU以外のFXCPUでファイルレジスタを指定する場合、データレジスタ(D)を指定するようにしてください。
FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみ、拡張レジスタ(R)指定ができます。

*6 ダイレクト指定は、ダイレクト指定部とデバイス指定部の間に"¥"を記述してください。

*7 Jnはネットワーク番号を指定します。

*8 Unは特殊ユニットI/O番号(16進数)を、G□はバッファメモリアドレス(10進数)を指定します。
(例: 特殊ユニットI/O番号が200H, バッファメモリアドレスが100を指定する場合、「U20¥G100」となります。)

*9 QCPUのマルチCPU構成時に、自号機QCPUの共有メモリを指定するとエラーが発生します。
また、自号機/他号機にかかわらず、共有メモリへの書き込みを行うとエラーが発生します。

*10 FXCPUの場合は、FX3U(C)CPUのみ使用できます。

*11 システムラベルVer.2のラベルを使用してアクセスする場合は、接点/コイル/現在値のそれぞれのデバイスに対応するシステムラベル
Ver.2のラベルを定義する必要があります。

*12 LHCPUでは、使用できません。

アクセス先がRCPUおよびLHCPU時

アクセス先がRCPUおよびLHCPUの場合、下表のデバイスが使用できます。

デバイス		デバイス名	デバイス種別	デバイス番号
ロングタイム*1	接点	LTS	ビットデバイス	10進数
	コイル	LTC	ビットデバイス	10進数
	現在値	LTN	ダブルワードデバイス	10進数
ロングカウンタ*1	接点	LCS	ビットデバイス	10進数
	コイル	LCC	ビットデバイス	10進数
	現在値	LCN	ダブルワードデバイス	10進数
ロング積算タイム*1	接点	LSTS/LSS	ビットデバイス	10進数
	コイル	LSTC/LSC	ビットデバイス	10進数
	現在値	LSTN/LSN	ダブルワードデバイス	10進数
ロングインデックスレジスタ		LZ	ダブルワードデバイス	10進数
ユニット用リフレッシュデバイス		RD	ワードデバイス	10進数

*1 システムラベルVer.2のラベルを使用してアクセスする場合は、接点/コイル/現在値のそれぞれのデバイスに対応するシステムラベルVer.2のラベルを定義する必要があります。

アクセス先がRnSFCCPUおよびRnPSFCCPU時(安全デバイス)

アクセス先がRnSFCCPUおよびRnPSFCCPUの場合、下表の安全デバイスが使用できます。

セーフティモードでは、読出しのみ可能です。書込みはできません。エラーが発生します。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号
安全入力	SA¥X	ビットデバイス	16進数
安全出力	SA¥Y	ビットデバイス	16進数
安全内部リレー	SA¥M	ビットデバイス	10進数
安全リンクリレー	SA¥B	ビットデバイス	16進数
安全タイム	SA¥T	ビットデバイス/ワードデバイス	10進数
安全積算タイム	SA¥ST	ビットデバイス/ワードデバイス	10進数
安全カウンタ	SA¥C	ビットデバイス/ワードデバイス	10進数
安全データレジスタ	SA¥D	ワードデバイス	10進数
安全リンクレジスタ	SA¥W	ワードデバイス	16進数
安全特殊リレー	SA¥SM	ビットデバイス	10進数
安全特殊レジスタ	SA¥SD	ワードデバイス	10進数

アクセス先がRモーションCPUおよびQモーションCPU時

アクセス先がRモーションCPUおよびQモーションCPUの場合、下表のデバイスが使用できます。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号
モーションレジスタ	#	ワードデバイス	10進数

アクセス先がFX5CPU時

アクセス先がFX5CPUの場合、下表のデバイスが使用できます。

デバイス		デバイス名	デバイス種別	デバイス番号
特殊リレー		SM	ビットデバイス	10進数
特殊レジスタ		SD	ワードデバイス	10進数
入力リレー		X	ビットデバイス	8進数
出力リレー		Y	ビットデバイス	8進数
内部リレー		M	ビットデバイス	10進数
ラッチリレー		L	ビットデバイス	10進数
アナンシェータ		F	ビットデバイス	10進数
リンクリレー		B	ビットデバイス	16進数
データレジスタ		D	ワードデバイス	10進数
リンクレジスタ		W	ワードデバイス	16進数
タイマ	接点	TS	ビットデバイス	10進数
	コイル	TC	ビットデバイス	10進数
	現在値	TN	ワードデバイス	10進数
カウンタ	接点	CS	ビットデバイス	10進数
	コイル	CC	ビットデバイス	10進数
	現在値	CN	ワードデバイス	10進数
積算タイマ	接点	STS/SS	ビットデバイス	10進数
	コイル	STC/SC	ビットデバイス	10進数
	現在値	STN/SN	ワードデバイス	10進数
ロングカウンタ	接点	LCS	ビットデバイス	10進数
	コイル	LCC	ビットデバイス	10進数
	現在値	LCN	ビットデバイス	10進数
リンク特殊リレー		SB	ビットデバイス	16進数
リンク特殊レジスタ		SW	ワードデバイス	16進数
ステップリレー		S	ビットデバイス	10進数
インデックスレジスタ		Z	ワードデバイス	10進数
ファイルレジスタ		R	ワードデバイス	10進数
ロングインデックスレジスタ		LZ	ダブルワードデバイス	10進数
ユニットアクセスデバイス		Un¥G	ワードデバイス	10進数

CC-Link通信時

CC-Link通信で自ボードアクセス時に下表のデバイスが使用できます。
他の通信経路では使用できません。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号	備考
リンク特殊リレー (CC-Link用)	SB	ビットデバイス	16進数	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ(CC-Link用)	SW	ワードデバイス	16進数	自ボードのリンク特殊レジスタ
リモート入力	X	ビットデバイス	16進数	RX
リモート出力	Y	ビットデバイス	16進数	RY
リモートレジスタ(CC-Link用書込みエリア)	WW	ワードデバイス	16進数	RWw
リモートレジスタ(CC-Link用読出しエリア)	WR	ワードデバイス	16進数	RWr
バッファメモリ	ML	ワードデバイス	16進数	自局CC-Linkユニットのバッファメモリ
ランダムアクセスバッファ	MC	ワードデバイス	16進数	自局CC-Linkユニットのバッファメモリにあるランダムアクセスバッファ

MELSECNET/H通信時

MELSECNET/H通信で自ボードアクセス時に下表のデバイスが使用できます。
他の通信経路では使用できません。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号	備考
リンクリレー	B	ビットデバイス	16進数	自ボードのリンクリレー
リンクレジスタ	W	ワードデバイス	16進数	自ボードのリンクレジスタ
リンク特殊リレー	SB	ビットデバイス	16進数	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ	SW	ワードデバイス	16進数	自ボードのリンク特殊レジスタ
リンク入力	X	ビットデバイス	16進数	LX
リンク出力	Y	ビットデバイス	16進数	LY

CC-Link IEコントローラネットワーク通信時

CC-Link IEコントローラネットワーク通信で自ボードアクセス時に下表のデバイスが使用できます。
他の通信経路では使用できません。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号	備考
リンクリレー	B	ビットデバイス	16進数	自ボードのリンクリレー
リンクレジスタ	W	ワードデバイス	16進数	自ボードのリンクレジスタ
リンク特殊リレー	SB	ビットデバイス	16進数	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ	SW	ワードデバイス	16進数	自ボードのリンク特殊レジスタ
リンク入力	X	ビットデバイス	16進数	LX
リンク出力	Y	ビットデバイス	16進数	LY
バッファメモリ	ML	ワードデバイス	16進数	自ボードのバッファメモリ

CC-Link IEフィールドネットワーク通信時

CC-Link IEフィールドネットワーク通信で自ボードアクセス時に下表のデバイスが使用できます。
他の通信経路では使用できません。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号	備考
リモートレジスタ	W	ワードデバイス	16進数	W0000～W1FFF=RWw0～RWw1FFF 自ボードのリモートレジスタ(送信用) W2000～W3FFF=RWr0～RWr1FFF 自ボードのリモートレジスタ(受信用)
リンク特殊リレー	SB	ビットデバイス	16進数	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ	SW	ワードデバイス	16進数	自ボードのリンク特殊レジスタ
リモート入力	X	ビットデバイス	16進数	RX
リモート出力	Y	ビットデバイス	16進数	RY
バッファメモリ	ML	ワードデバイス	16進数	自ボードのバッファメモリ

CC-Link IE TSN通信時

CC-Link IE TSN通信で自ボードアクセス時に下表のデバイスが使用できます。
他の通信経路では使用できません。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号	備考
リモート入力	X	ビットデバイス	16進数	RX
リモート出力	Y	ビットデバイス	16進数	RY
リンクリレー	B	ビットデバイス	16進数	自ボードのリンクリレー
リンクレジスタ	W	ワードデバイス	16進数	自ボードのリンクレジスタ
リモートレジスタ	WW	ワードデバイス	16進数	自ボードのリモートレジスタ(送信用)
リモートレジスタ	WR	ワードデバイス	16進数	自ボードのリモートレジスタ(受信用)
リンク特殊リレー	SB	ビットデバイス	16進数	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ	SW	ワードデバイス	16進数	自ボードのリンク特殊レジスタ
バッファメモリ	ML	ワードデバイス	16進数	自ボードのバッファメモリ

GOTゲートウェイデバイス通信時

GOTゲートウェイデバイス通信で使用するデバイス名の指定方法について示します。

デバイス	デバイス名	デバイス種別	デバイス番号
ゲートウェイデバイス*1	EG	ワードデバイス	10進数

*1 CPUユニットのデバイスを割り付けていないゲートウェイデバイスを読み出した場合、読み出したデータは0となります。

インバータ通信/ロボットコントローラ通信時

インバータ通信/ロボットコントローラ通信で使用するモニタタイプは、下記を参照してください。

- ☞ 163ページ アクセス先がインバータ
- ☞ 164ページ アクセス先がロボットコントローラ

デバイス拡張表現について

デバイス拡張表現の可否表を下記に示します。
ReadDeviceBlockおよびWriteDeviceBlockでは使用できません。
○: 使用可能 ×: 使用不可

デバイス拡張表現	対象CPU				
	RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
桁指定(例: K4M0)	○*1	○*6	×	○*1	○
ビット指定(例: D0.1)	○*2	○	○	○*2	○
インデックス修飾(例: M100Z0)	○*3	×	×	○*3	○

デバイス拡張表現	対象CPU						GOT	インバータ	ロボット コントローラ
	QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	FXCPU	QモーションCPU			
桁指定(例: K4M0)*4	○	○*6	○	○	○	×	×	×	×
ビット指定(例: D0.1)	○*7	○	○*7	○*7	○*7	×	○	×	×
インデックス修飾(例: M100Z0)*5	○	×	○	×	×	×	×	×	×

*1 FX/FY, FD/SD, V, T/C/ST, LT/LC/LST, W/SW, G, Z, R/ZR, LZは指定できません。

*2 Z, T/C/ST, LT/LC/LST, LZは指定できません。

*3 FX/F, Z, LZは指定できません。

*4 FX/FY, DX/DY, T/C/ST(接点, コイル)は指定できません。

*5 FX/FY, DX/DY, T/C/ST(接点, コイル), ZおよびSは指定できません。

*6 桁指定できるデバイスは、デバイス番号が16の倍数のビットデバイスのみです。
(リンクダイレクトデバイスは、K4, K8の桁指定のみ対応しています。)

*7 Z, V, T/C/ST(現在値)は指定できません。

9 コントロールのプロパティ

コントロールが保有するプロパティ一覧，およびそれぞれのプロパティの詳細について説明します。

9.1 プロパティ一覧

各コントロールが保有するプロパティを下記に示します。

コントロール名		プロパティ名
ACT Control	ActUtilType	ActLogicalStationNumber
	ActUtilType64	ActPassword
	ActUtilDataLogging ^{*1*2}	
	ActUtilDataLogging64 ^{*1*2}	
	ActProgType	ActBaudRate
	ActProgType64	ActConnectUnitNumber
	ActProgDataLogging ^{*1*2}	ActControl
	ActProgDataLogging64 ^{*1*2}	ActCpuTimeOut
		ActCpuType
		ActDataBits
		ActDestinationIONumber
		ActDestinationPortNumber
		ActDidPropertyBit
		ActDsidPropertyBit
		ActHostAddress
		ActIntelligentPreferenceBit
		ActIONumber
		ActMirrorSlotNumber
		ActMirrorSystemID
		ActMirrorURL
		ActMultiDropChannelNumber
		ActMxUnitSeries ^{*3}
		ActNetworkNumber
		ActPacketType
		ActParity
		ActPassword
		ActPortNumber
		ActProtocolType
		ActSourceNetworkNumber
		ActSourceStationNumber
		ActStationNumber
		ActStopBits
		ActSumCheck
		ActTargetSimulator
		ActThroughNetworkType
		ActTimeOut
		ActUnitNumber
		ActUnitType

コントロール名		プロパティ名
ACT Control	ActProgType ActProgType64 ActProgDataLogging ^{*1*2} ActProgDataLogging64 ^{*1*2}	ActATCommand ^{*4}
		ActATCommandPasswordCancelRetryTimes ^{*4}
		ActATCommandResponseWaitTime ^{*4}
		ActCallbackCancelWaitTime ^{*4}
		ActCallbackDelayTime ^{*4}
		ActCallbackNumber ^{*4}
		ActCallbackReceptionWaitingTimeOut ^{*4}
		ActConnectionCDWaitTime ^{*4}
		ActConnectionModemReportWaitTime ^{*4}
		ActConnectWay ^{*4}
		ActDialNumber ^{*4}
		ActDisconnectionCDWaitTime ^{*4}
		ActDisconnectionDelayTime ^{*4}
		ActLineType ^{*4}
		ActOutsideLineNumber ^{*4}
		ActPasswordCancelResponseWaitTime ^{*4}
		ActTransmissionDelayTime ^{*4}
	ActSupportMsg ActSupportMsg64	—
.NET Control	DotUtilType DotUtilType64	ActLogicalStationNumber
		ActPassword
	DotSupportMsg DotSupportMsg64	—

*1 RCPUのみ対応しています。

*2 GX Simulator3には対応していません。

*3 プロパティ値は自動で設定され、変更できません。

*4 モデム通信用プロパティです。MX Component Version 4からの互換性のためのプロパティになります。MX Component Version 5以降で使用することはできません。

9.2 プロパティの詳細

ユーザプログラムを作成する際に設定するプロパティの詳細を下記に示します。

ユーティリティ設定タイプのコントロールのプロパティ

ActUtilTypeコントロールおよびDotUtilTypeコントロールのプロパティを下記に示します。

プロパティ名(型)	内容	デフォルト値
ActLogicalStationNumber(LONG)	通信設定ユーティリティにて設定した論理局番です。(設定可能範囲: 0~1023)	0(0x00)
ActPassword(BSTR)	パスワードロック可能なユニットに設定されたパスワードロックを解除するために、パスワードを指定します。 ^{*1} パスワードロック可能なユニットを使用しない場合は無視されます。	あき

^{*1} パスワードの最大文字数を超過して入力した文字は無視されます。
英数字以外の文字を指定した場合は、Open時に文字コード変換エラー (0xF1000001)となります。

プログラム設定タイプのコントロールのプロパティ

ActProgTypeコントロールのプロパティを下記に示します。

プロパティ名(型)	内容	デフォルト値
ActMxUnitSeries(LONG)	接続対象となるユニットのシリーズを指定します。 プロパティ値は自動で設定され、変更できません。 ■プロパティ値 0(0x00): シーケンサ/モーションコントローラ/GOT指定 1(0x01): インバータ指定 2(0x02): ロボットコントローラ指定	0(0x00)
ActNetworkNumber(LONG)	MELSECNET/Hでのネットワーク番号を指定します。(自局指定時は"0"(0x00)を指定) マルチドロップ接続(Qシリーズ対応C24経由)時に指定した場合は下記のとおりです。 ■ActIntelligentPreferenceBitのプロパティ値 0(0x00): 自ネットワーク指定 1(0x01): マルチドロップ先の他ネットワーク指定	0(0x00)
ActStationNumber(LONG)	MELSECNET/H, CC-Linkでの局番号を指定します。(自局指定時は"255"(0xFF)を指定) GX Simulator3におけるシステム番号を指定します。 マルチドロップ接続(Qシリーズ対応C24経由)時に指定した場合は下記のとおりです。 ■ActIntelligentPreferenceBitのプロパティ値 0(0x00): 自ネットワーク指定 1(0x01): マルチドロップ先の他ネットワーク指定 インバータ通信時は、接続するインバータの局番(0~31)を指定します。	255(0xFF)
ActUnitNumber(LONG)	シリアルコミュニケーションユニットのユニット番号およびQシリーズ対応のインテリジェント機能ユニット対象時の局番を指定します。 シリアルコミュニケーション通信およびQシリーズ対応のインテリジェント機能ユニットを対象としていない場合は無効です。 マルチドロップリンク時は対象先のシリアルコミュニケーションユニットのユニット番号を指定します。	0(0x00)
ActConnectUnitNumber(LONG)	シリアルコミュニケーションユニット, Qシリーズ対応E71のユニット番号を指定します。 マルチドロップリンク時は、要求元のシリアルコミュニケーションユニットのユニット番号を指定します。 ただし、CPU COM通信経由のマルチドロップリンクの場合、要求元局のユニット番号は不要です。("0"(0x00)を指定) マルチドロップリンク以外の場合は、"0"(0x00)を指定します。 Qシリーズ対応E71の場合は、中継先局番を指定します。(自ネットワーク内アクセスの場合は"0"(0x00)固定) MELSECNET/10経由で他のネットワークへアクセスする場合は、接続Ethernetユニットのパラメータで設定した局番を指定します。	0(0x00)
ActIONumber(LONG)	ユニットI/O番号を指定します。 マルチドロップリンクおよびインテリジェント機能ユニットアクセス時は、対象となるシリアルコミュニケーションユニットおよびインテリジェント機能ユニットの実入出力No.(先頭入出力番号÷16)を指定します。(マルチドロップリンク時は、経由する局、要求元局のI/O番号を指定) 自局CPUやネットワーク経由で他局へアクセスする場合は、"992"(0x3E0)~"1023"(0x3FF)を指定します。	1023(0x3FF)

プロパティ名(型)	内容	デフォルト値
ActCpuType(LONG)	ActMxUnitSeries プロパティが0(シーケンサ/モーションコントローラ)の場合 通信を行う対象CPUを指定します。 パラメータには、下記のCPUタイプを指定します。 ☞ 178ページ ActCpuType(LONG): ActMxUnitSeries プロパティが0(シーケンサ/モーションコントローラ)の場合 ActMxUnitSeries プロパティが1(インバータ)の場合 通信を行う対象インバータを指定します。 パラメータには、下記のCPUタイプを指定します。 ☞ 179ページ ActCpuType(LONG): ActMxUnitSeries プロパティが1(インバータ)の場合 ActMxUnitSeries プロパティが2(ロボット)の場合 通信を行う対象ロボットを指定します。 パラメータには、下記のCPUタイプを指定します。 ☞ 179ページ ActCpuType(LONG): ActMxUnitSeries プロパティが2(ロボット)の場合	34(CPU_Q02CPU)
ActPortNumber(LONG)	パソコンの接続ポート番号を指定します。 Ethernetユニット接続時は、要求元(パソコン)のポート番号として任意値を設定します。 ポート番号として"=0"を指定した場合、局番↔IP関連情報設定方式は自動応答方式となります。 (自動応答方式以外を選択時は、固定値"5001"を設定) Ethernet通信のTCP/IP経由で通信時、ポート番号に"0"以外を指定すると、Close関数実行直後にOpen関数の実行に失敗します。Close関数実行後にOpen関数が正常終了しない場合は、時間を置いてから再度Open関数を実行する、またはポート番号に"0"(ポート番号の自動割り当て)を設定してください。 また、ネットワークボード使用時は、ボード1枚目をPORT_1、2枚目以降はPORT_2、PORT_3...の順に指定します。 ☞ 180ページ ActPortNumber(LONG)	1(PORT_1)
ActBaudRate(LONG)	シリアルコミュニケーション通信時の伝送速度を指定します。 ■プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値) BAUDRATE_300 (300): 300bps BAUDRATE_600 (600): 600bps BAUDRATE_1200 (1200): 1200bps BAUDRATE_2400 (2400): 2400bps BAUDRATE_4800 (4800): 4800bps BAUDRATE_9600 (9600): 9600bps BAUDRATE_19200 (19200): 19200bps BAUDRATE_38400 (38400): 38400bps BAUDRATE_57600 (57600): 57600bps BAUDRATE_115200 (115200): 115200bps インバータ通信時は、BAUDRATE_4800 (4800)以上を指定します。	19200(BAUDRATE_19200)
ActDataBits(LONG)	シリアルコミュニケーション通信時の送信および受信されるバイトデータのビット数を指定します。 ■プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値) DATABIT_7 (7): 7ビット DATABIT_8 (8): 8ビット ロボットコントローラの場合、文字サイズを指定します。	8(DATABIT_8)
ActParity(LONG)	シリアルコミュニケーション通信時に使われるパリティ方式を指定します。 ■プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値) NO_PARITY (0): パリティなし ODD_PARITY (1): 奇数 EVEN_PARITY (2): 偶数	1(ODD_PARITY)
ActStopBits(LONG)	シリアルコミュニケーション通信時に使われるストップビットの数を指定します。 ■プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値) STOPBIT_ONE (0): 1ストップビット STOPBITS_TWO (2): 2ストップビット ロボットコントローラの場合、下記のストップビットの数を指定します。 ■プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値) ONESTOPBIT(0): 1ストップビット ONE5STOPBITS(1): 1.5ストップビット TWOSTOPBITS(2): 2ストップビット	0(STOPBIT_ONE)
ActControl(LONG)	信号線の制御設定を指定します。 ☞ 180ページ ActControl(LONG)	8(TRC_DTR_OR_RTS)
ActHostAddress(BSTR)	Ethernet通信時の接続ホスト名(IPアドレス)文字列を示すポインタです。 各オクテットの先頭を0に設定すると、その値は8進数として処理されます。	1.1.1.1
ActCpuTimeOut(LONG)	Ethernet通信時のCPU監視タイマを指定します。(単位は"×250ms") FXCPU/インバータの場合、シリアルコミュニケーション通信時の送信待ち時間を指定します。(単位は"×10ms") ロボットコントローラの場合、送信時のタイムアウト時間を指定します。(1000～30000ms)	0(0x00)

プロパティ名(型)	内容	デフォルト値
ActTimeOut(LONG)	パソコンとシーケンサ/インバータ間の、通信のタイムアウト値を設定します。(単位は"ms") ロボットコントローラの場合、受信時のタイムアウト時間を指定します。(5000~120000ms) MX Componentでは、通信経路によりタイムアウト処理を内部処理で行う場合があります。 詳細については下記を参照してください。 663ページ タイムアウト時間について	10000
ActSumCheck(LONG)	サムチェックの有無を指定します。 シリアルコミュニケーションユニットのみ有効です。 ■プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値) NO_SUM_CHECK (0): サムチェックなし SUM_CHECK (1): サムチェックあり	0(NO_SUM_CHECK)
ActSourceNetworkNumber(LONG)	Ethernetユニット指定時の要求元ネットワーク番号を指定します。 接続しているEthernetと同じネットワークNo.(ネットワークパラメータで指定するネットワークNo.)を指定します。	0(0x00)
ActSourceStationNumber(LONG)	Ethernetユニット指定時の要求元局番(パソコン側局番)を指定します。 Ethernet同一ループ内で設定したEthernetユニットの局番と重複しないように設定します。	0(0x00)
ActDestinationPortNumber(LONG)	Ethernet通信指定時に対象先のポート番号を指定します。 ほかのネットワークへのアクセス時は、中継先ポート番号を指定します。 自動応答方式以外は下表の設定とします。 ■設定 MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71(TCP/IP) - MELSOFT接続: "5002"固定 MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71(TCP/IP) - OPS接続: ネットワークパラメータによる MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71(UDP/IP): "5001"固定 Qシリーズ対応E71(TCP/IP) - 二重化CPU以外: "5002"固定 Qシリーズ対応E71(TCP/IP) - MELSOFT接続 ^{*1} : "5002"固定 Qシリーズ対応E71(TCP/IP) - OPS接続 ^{*1} : ネットワークパラメータによる Qシリーズ対応E71(UDP/IP): "5001"固定	0(0x00)
ActDestinationIONumber(LONG)	マルチドロップ接続(MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24・Qシリーズ対応C24・Lシリーズ対応C24・CC-Link経由)時、最終アクセス対象局の実入出力No.(先頭入出力+16)を指定します。(対象がインテリジェント機能ユニットの場合) 自局CPUやネットワーク経由で他局へアクセスする場合は、"992"(0x3E0)~"1023"(0x3FF)を指定します。	0(0x00)
ActMultiDropChannelNumber(LONG)	マルチドロップ接続(MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24・Qシリーズ対応C24・Lシリーズ対応C24・CC-Link経由)時、マルチドロップ接続チャネルNo.(CH1/CH2)を指定します。 ロボットコントローラの場合、通信エラー時のリトライ回数を指定します。(0~10回) 他の接続時は無効です。	0(0x00)
ActThroughNetworkType(LONG)	ネットワークを経由して他局にアクセスする場合、経由ネットワークにMELSECNET/10が含まれているかどうかを指定します。 ■プロパティ値 0(0x00): MELSECNET/10を含んでいません。 1(0x01): MELSECNET/10を含んでいます。 ロボットコントローラの場合、使用プロトコル(通信方法)を指定します。(有手順(0)/無手順(1))	0(0x00)
ActIntelligentPreferenceBit(LONG)	マルチドロップ接続(MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24・Qシリーズ対応C24・Lシリーズ対応C24・CC-Link経由)時、マルチドロップリンク先のネットワークを経由するかどうかを指定します。(自ネットワークユニットを区別するため) ■プロパティ値 0(0x00): マルチドロップ先の他のネットワークにアクセスしません。 1(0x01): マルチドロップ先の他のネットワークにアクセスします。	0(0x00)
ActDidPropertyBit(LONG)	Qシリーズ対応の自局インテリジェント機能ユニット(自局CPUに装着されているインテリジェント機能ユニット)にアクセス時、下記設定を無効にすることで"ActUnitNumber"を指定する必要がなくなります。(ユニットI/O番号"ActIONumber"のみで指定) ■プロパティ値 0(0x00): ユニット番号を有効にします。 1(0x01): ユニット番号を無効にします。	1(0x01)
ActDsidPropertyBit(LONG)	マルチドロップ接続(MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24・Qシリーズ対応C24・Lシリーズ対応C24・CC-Link経由)時、下記設定を無効にすることで"ActDestinationIONumber"を指定する必要がなくなります。 ただし、下記設定を無効とする場合は"ActDidPropertyBit"は必ず有効にします。 ("ActUnitNumber"で指定) ■プロパティ値 0(0x00): 最終アクセス対象局のI/O番号を有効にします。 1(0x01): 最終アクセス対象局のI/O番号を無効にします。	1(0x01)
ActPacketType(LONG)	CR/LFの有無を設定します。 ■プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値) CRLF_NONE (0): CR/LFなし CRLF_CR (1): CRのみあり CRLF_CRLF (2): CR/LFあり	1(CRLF_CR)

プロパティ名(型)	内容	デフォルト値
ActPassword(BSTR)* ²	パスワードロック可能なユニットに設定されたパスワードロックを解除するために、パスワードを指定します。*3*4*5 パスワードロック可能なユニットを使用しない場合は無視されます。	あき
ActTargetSimulator(LONG)	起動中の接続先GX Simulator2を指定します。 FXCPUを接続する場合は、"0"(0x00)を指定します。 ■プロパティ値 0(0x00): 指定なし (起動中のシミュレータが1台の場合は、起動中のシミュレータに接続。複数の場合は、A, B, C, Dの順で起動中のシミュレータを探し、接続。) 1(0x01): シミュレータA 2(0x02): シミュレータB 3(0x03): シミュレータC 4(0x04): シミュレータD 起動中の接続先GX Simulator3の機種番号を指定します。 起動中の接続先MT Simulator2を指定します。 ■プロパティ値 2(0x02): シミュレータ2号機 3(0x03): シミュレータ3号機 4(0x04): シミュレータ4号機	0(0x00)
ActUnitType(LONG)	物理ポートと接続しているユニットタイプを指定します。 ☞ 180ページ ActUnitType(LONG)	0x13(UNIT_QNCPU)
ActProtocolType(LONG)	接続するユニット(ボード)の通信プロトコルタイプを指定します。 ☞ 182ページ ActProtocolType(LONG)	0x04(PROTOCOL_SERIAL)
ActMirrorURL(BSTR)	接続するMELSOFT MirrorのURLを指定します。	あき
ActMirrorSystemID(LONG)	接続するMELSOFT MirrorのシステムIDを指定します。	1(0x01)
ActMirrorSlotNumber(LONG)	接続するMELSOFT MirrorのスロットNo.を指定します。 ■プロパティ値 0(0x00): CPU 1(0x01): I/O 0 2(0x02): I/O 1 3(0x03): I/O 2 4(0x04): I/O 3 5(0x05): I/O 4 6(0x06): I/O 5 7(0x07): I/O 6	0(0x00)
ActATCommand	MX Component Version 4からの互換性のためのプロパティになります。MX Component Version 5以降で使用することはできません。	—
ActATCommandPasswordCancelRetryTimes		
ActATCommandResponseWaitTime		
ActCallbackCancelWaitTime		
ActCallbackDelayTime		
ActCallbackNumber		
ActCallbackReceptionWaitingTimeOut		
ActConnectionCDWaitTime		
ActConnectionModemReportWaitTime		
ActConnectWay		
ActDialNumber		
ActDisconnectionCDWaitTime		
ActDisconnectionDelayTime		
ActLineType		
ActOutsideLineNumber		
ActPasswordCancelResponseWaitTime		
ActTransmissionDelayTime		

*1 詳細については下記のマニュアルを参照してください。

☞ Q対応Ethernetインタフェースユニットユーザズマニュアル(基本編)

*2 Ethernet通信を行う場合に使用できます。

*3 パスワードが設定されていない場合、ActPasswordの設定は必要ありません。

*4 パスワードの最大文字数を超えて入力した文字は無視されます。

*5 英数字以外の文字を指定した場合は、Open時に文字コード変換エラー (0xF1000001)となります。

■ActCpuType(LONG): ActMxUnitSeriesプロパティが0(シーケンサ/モーションコントローラ)の場合

プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値)			対象CPU
CPUタイプ	10進	16進	
CPU_R00CPU	4609	0x1201	R00CPU
CPU_R01CPU	4610	0x1202	R01CPU
CPU_R02CPU	4611	0x1203	R02CPU
CPU_R04CPU	4097	0x1001	R04CPU
CPU_R04ENCPU	4104	0x1008	R04ENCPU
CPU_R08CPU	4098	0x1002	R08CPU
CPU_R08ENCPU	4105	0x1009	R08ENCPU
CPU_R08PCPU	4354	0x1102	R08PCPU
CPU_R08PSFCPU	4369	0x1111	R08PSFCPU
CPU_R08SFCPU	4386	0x1122	R08SFCPU
CPU_R16CPU	4099	0x1003	R16CPU
CPU_R16ENCPU	4106	0x100A	R16ENCPU
CPU_R16PCPU	4355	0x1103	R16PCPU
CPU_R16PSFCPU	4370	0x1112	R16PSFCPU
CPU_R16SFCPU	4387	0x1123	R16SFCPU
CPU_R32CPU	4100	0x1004	R32CPU
CPU_R32ENCPU	4107	0x100B	R32ENCPU
CPU_R32PCPU	4356	0x1104	R32PCPU
CPU_R32PSFCPU	4371	0x1113	R32PSFCPU
CPU_R32SFCPU	4388	0x1124	R32SFCPU
CPU_R120CPU	4101	0x1005	R120CPU
CPU_R120ENCPU	4108	0x100C	R120ENCPU
CPU_R120PCPU	4357	0x1105	R120PCPU
CPU_R120PSFCPU	4372	0x1114	R120PSFCPU
CPU_R120SFCPU	4389	0x1125	R120SFCPU
CPU_R16MTCPU	4113	0x1011	R16MTCPU
CPU_R32MTCPU	4114	0x1012	R32MTCPU
CPU_R64MTCPU	4115	0x1013	R64MTCPU
CPU_R12CCPU_V	4129	0x1021	R12CCPU-V
CPU_R102WCPU_W	4136	0x1028	R102WCPU_W
CPU_L04HCPU	4625	0x1211	L04HCPU
CPU_L08HCPU	4626	0x1212	L08HCPU
CPU_L16HCPU	4627	0x1213	L16HCPU
CPU_L32HCPU	4628	0x1214	L32HCPU
CPU_Q00UJCPU	128	0x80	Q00UJCPU
CPU_Q00UCPU	129	0x81	Q00UCPU
CPU_Q01UCPU	130	0x82	Q01UCPU
CPU_Q02UCPU	131	0x83	Q02UCPU
CPU_Q03UDCPU	112	0x70	Q03UDCPU
CPU_Q03UDECPU	144	0x90	Q03UDECPU
CPU_Q03UDVCPU	209	0xD1	Q03UDVCPU
CPU_Q04UDHCPU	113	0x71	Q04UDHCPU
CPU_Q04UDEHCPU	145	0x91	Q04UDEHCPU
CPU_Q04UDVCPU	210	0xD2	Q04UDVCPU
CPU_Q04UDPVCPU	71	0x47	Q04UDPVCPU
CPU_Q06UDHCPU	114	0x72	Q06UDHCPU
CPU_Q06UDEHCPU	146	0x92	Q06UDEHCPU
CPU_Q06UDVCPU	211	0xD3	Q06UDVCPU
CPU_Q06UDPVCPU	72	0x48	Q06UDPVCPU
CPU_Q10UDHCPU	117	0x75	Q10UDHCPU

プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値)			対象CPU
CPUタイプ	10進	16進	
CPU_Q10UDEHCPU	149	0x95	Q10UDEHCPU
CPU_Q12PRHCPU	67	0x43	Q12PRHCPU
CPU_Q13UDHCPU	115	0x73	Q13UDHCPU
CPU_Q13UDEHCPU	147	0x93	Q13UDEHCPU
CPU_Q13UDVCPU	212	0xD4	Q13UDVCPU
CPU_Q13UDPVCPU	73	0x49	Q13UDPVCPU
CPU_Q20UDHCPU	118	0x76	Q20UDHCPU
CPU_Q20UDEHCPU	150	0x96	Q20UDEHCPU
CPU_Q25PRHCPU	68	0x44	Q25PRHCPU
CPU_Q26UDHCPU	116	0x74	Q26UDHCPU
CPU_Q26UDEHCPU	148	0x94	Q26UDEHCPU
CPU_Q26UDVCPU	213	0xD5	Q26UDVCPU
CPU_Q26UDPVCPU	74	0x4A	Q26UDPVCPU
CPU_Q50UDEHCPU	152	0x98	Q50UDEHCPU
CPU_Q100UDEHCPU	154	0x9A	Q100UDEHCPU
CPU_L02SCPU	163	0xA3	L02SCPU
CPU_L02CPU	161	0xA1	L02CPU
CPU_L06CPU	165	0xA5	L06CPU
CPU_L26CPU	164	0xA4	L26CPU
CPU_L26CPUBT	162	0xA2	L26CPU-BT
CPU_Q12DC_V	88	0x58	Q12DCCPU-V
CPU_Q24DHC_V	89	0x59	Q24DHCCPU-V
CPU_Q24DHC_LS	91	0x5B	Q24DHCCPU-LS
CPU_Q24DHC_VG	92	0x5C	Q24DHCCPU-VG
CPU_Q26DHC_LS	93	0x5D	Q26DHCCPU-LS
CPU_QS001CPU	96	0x60	QS001CPU
CPU_Q172DCPU	1573	0x625	Q172DCPU
CPU_Q173DCPU	1574	0x626	Q173DCPU
CPU_Q172DSCPU	1578	0x62A	Q172DSCPU
CPU_Q173DSCPU	1579	0x62B	Q173DSCPU
CPU_FX3SCPU	522	0x20A	FX3SCPU
CPU_FX3GCPU	521	0x209	FX3G(C)CPU
CPU_FX3UCCPU	520	0x208	FX3U(C)CPU
CPU_FX5UCPU	528	0x0210	FX5UCPU
CPU_FX5UJCPU	529	0x0211	FX5UJCPU
CPU_FX5SCPU	530	0x0212	FX5SCPU
CPU_BOARD	1025	0x401	自ボードアクセス時 ^{*1}

*1 CPUボード, AFボードを除きます。

■ActCpuType(LONG): ActMxUnitSeriesプロパティが1(インバータ)の場合

プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値)			対象インバータ
CPUタイプ	10進	16進	
INV_A800	7776	0x1E60	A800

■ActCpuType(LONG): ActMxUnitSeriesプロパティが2(ロボット)の場合

プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値)			対象ロボット
CPUタイプ	10進	16進	
UCPU_CRD700	77825	0x13001	CRnD-7xx/CR75x-D

■ActPortNumber(LONG)

プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値)			内容
ポート番号	10進	16進	
PORT_1	1	0x01	通信ポート1
PORT_2	2	0x02	通信ポート2
PORT_3	3	0x03	通信ポート3
PORT_4	4	0x04	通信ポート4
PORT_5	5	0x05	通信ポート5
PORT_6	6	0x06	通信ポート6
PORT_7	7	0x07	通信ポート7
PORT_8	8	0x08	通信ポート8
PORT_9	9	0x09	通信ポート9
PORT_10	10	0x0A	通信ポート10

■ActControl(LONG)

プロパティ値(プロパティウィンドウ入力値)			内容
制御設定	10進	16進	
TRC_DTR	1	0x01	DTR制御
TRC_RTS	2	0x02	RTS制御
TRC_DRT_AND_RTS	7	0x07	DTR制御かつRTS制御
TRC_DTR_OR_RTS	8	0x08	DTR制御またはRTS制御

■ActUnitType(LONG)

ユニットタイプ	接続方法	値
UNIT_RJ71C24	MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24ユニット直結	0x1000
	GOT2000シリーズ経由MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24接続	
UNIT_QJ71C24	Qシリーズ対応C24ユニット直結	0x19
	GOT2000シリーズ経由Qシリーズ対応C24接続	
UNIT_LJ71C24	Lシリーズ対応C24ユニット直結	0x54
	GOT2000シリーズ経由Lシリーズ対応C24接続	
UNIT_FX485BD	FX拡張ポート(RS-485)接続	0x24
UNIT_RJ71EN71	MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71経由接続(IP指定)	0x1001
UNIT_RJ71EN71_DIRECT	MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71経由接続(直結)	0x1005
UNIT_QJ71E71	Qシリーズ対応E71 Ethernetポート接続/直結	0x1A
UNIT_LJ71E71	Lシリーズ対応E71ユニット接続	0x5C
UNIT_REETHER	RCPU Ethernetポート接続(IP指定)	0x1002
UNIT_LHETHER	LHCPU Ethernetポート接続(IP指定)	
UNIT_REETHER_DIRECT	RCPU Ethernetポート直結	0x1003
UNIT_LHETHER_DIRECT	LHCPU Ethernetポート直結	
UNIT_FXVETHER	FX5CPU Ethernetポート接続	0x2001
UNIT_FXVETHER_DIRECT	FX5CPU Ethernetポート直結	0x2002
UNIT_LNETHER	LCPU Ethernetポート接続	0x52
UNIT_LNETHER_DIRECT	LCPU Ethernetポート直結	0x53
UNIT_QNETHER	QCPU Ethernetポート接続	0x2C
UNIT_QNETHER_DIRECT	QCPU Ethernetポート直結	0x2D
UNIT_RJ71GN11	RCPU用RJ71GN11-T2ユニットIP指定接続	0x1006
UNIT_RJ71GN11_DIRECT	RCPU用RJ71GN11-T2ユニット直結	0x1007
UNIT_NZ2GF_ETB	Ethernetアダプタユニット(NZ2GF-ETB)接続	0x59
UNIT_NZ2GF_ETB_DIRECT	Ethernetアダプタユニット(NZ2GF-ETB)直結	0x5A
UNIT_FXETHER	FXCPU Ethernetアダプタ(FX3U-ENET-ADP)ハブ経由接続	0x4A
UNIT_FXETHER_DIRECT	FXCPU Ethernetアダプタ(FX3U-ENET-ADP)直結	0x4B
UNIT_FXVENET	FX5CPU Ethernetユニット(FX5-ENET, FX5-ENET/IP)IP指定接続	0x2004
UNIT_FXVENET_DIRECT	FX5CPU Ethernetユニット(FX5-ENET, FX5-ENET/IP)直結	0x200E
UNIT_FXVCLGN	FX5-CCLGN-MSユニット経由接続	0x200D

ユニットタイプ	接続方法	値
UNIT_FXVCPU	FX5CPUシリアルポート接続	0x2000
UNIT_QNCPU	QCPU(Qモード)-RS232Cポート直結	0x13
	GOT2000シリーズ QCPU(Qモード)直結	
UNIT_LNCPU	LCPU-RS232Cポート直結	0x50
	GOT2000シリーズ LCPU直結	
UNIT_QNMOTION	QモーションCPU-RS232Cポート直結	0x1C
UNIT_FXCPU	FXCPU-RS422ポート直結	0x0F
	FXCPU USB直結	
	GOT2000シリーズ FXCPU直結	
UNIT_RUSB	RCPU USBポート直結	0x1004
UNIT_LHUSB	LHCPU USBポート直結	
UNIT_FXVUSB	FX5CPU USBポート直結	0x200C
UNIT_QNUSB	QCPU(Qモード)USBポート直結	0x16
UNIT_LNUSB	LCPU USBポート直結	0x51
UNIT_QSUSB	QSCPU(安全PLC)USBポート直結	0x29
UNIT_QNMOTIONUSB	QモーションCPU USBポート直結	0x1D
UNIT_MNETHBOARD	MELSECNET/Hボード接続	0x1E
UNIT_MNETGBOARD	CC-Link IEコントローラネットワークボード接続	0x2B
UNIT_CCIETSNBOARD	CC-Link IE TSNボード接続	0x73
UNIT_CCIEFBOARD	CC-Link IEフィールドネットワークボード接続	0x2F
UNIT_CCLINKBOARD	CC-Link Ver.2ボード接続	0x0C
UNIT_G4QNCPU	Qシリーズ対応AJ65BT-G4-S3ユニット直結	0x1B
UNIT_SIMULATOR2 ^{*1}	シミュレータ(GX Simulator2)接続	0x30
	シミュレータ(MT Simulator2)接続	
UNIT_SIMULATOR3	シミュレータ(GX Simulator3)接続	0x31
UNIT_RETHETHER_LCS	シミュレータ(MELSOFT Mirror)接続	0x1008
UNIT_A900GOT	GOT2000シリーズ接続	0x21
UNIT_GOT_RJ71EN71	GOT2000シリーズ経由MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71接続	0x1051
UNIT_GOT_QJ71E71	GOT2000シリーズ経由Qシリーズ対応E71接続	0x40
UNIT_GOT_LJ71E71	GOT2000シリーズ経由Lシリーズ対応E71接続	0x5D
UNIT_GOT_RETHETHER	GOT2000シリーズ経由RCPU Ethernetポート接続	0x1052
UNIT_GOT_QNETHER	GOT2000シリーズ経由QCPU Ethernetポート接続	0x41
UNIT_GOT_LNETHER	GOT2000シリーズ経由LCPU Ethernetポート接続	0x55
UNIT_GOT_NZ2GF_ETB	GOT2000シリーズ経由Ethernetアダプタユニット(NZ2GF-ETB)接続	0x5B
UNIT_GOT_FXETHER	GOT2000シリーズ経由FXCPU Ethernetアダプタ(FX3U-ENET-ADP)接続	0x61
UNIT_GOT_FXENET	GOT2000シリーズ経由FXCPU Ethernetユニット(FX3U-ENET)接続	0x62
UNIT_GOT_FXVENET	GOT2000シリーズ経由FX5CPU Ethernetユニット(FX5-ENET, FX5-ENET/IP)接続	0x2008
UNIT_GOT_FXVCPU	FX5CPU GOT-CPUシリアル接続	0x2005
UNIT_GOTETHER_FXVCPU	FX5CPU Ethernet-GOT接続	0x2006
UNIT_GOT_FXVETHER	FX5CPU GOT-内蔵Ethernet接続	0x2007
UNIT_GOTETHER_RJ71C24	GOT2000シリーズ経由RCPU Ethernetポート(RS422)接続	0x1061
UNIT_GOTETHER_QNCPU	GOT2000シリーズ経由QCPU(Qモード)Ethernetポート(RS422)接続	0x56
UNIT_GOTETHER_LNCPU	GOT2000シリーズ経由LCPU Ethernetポート(RS232C)接続	0x57
UNIT_GOTETHER_FXCPU	GOT2000シリーズ経由FXCPU Ethernetポート接続	0x60
UNIT_GOTETHER_QN_ETHER	GOT Ethernetトランスペアレント(Ethernet-GOT-Ethernet-QnCPU)接続	0x6F

*1 CPUタイプがQモーションCPUの場合はMT Simulator2へ、他の場合はGX Simulator2へ接続されます。

■ActProtocolType(LONG)

通信プロトコルタイプ	接続方法	値
PROTOCOL_SERIAL	シリアルポート経由	0x04(4)
PROTOCOL_USB	USBポート経由	0x0D(13)
PROTOCOL_TCPIP	TCP/IP経由	0x05(5)
PROTOCOL_UDPIP	UDP/IP経由	0x08(8)
PROTOCOL_MNETH	MELSECNET/Hボード経由	0x0F(15)
PROTOCOL_MNETG	CC-Link IEコントローラネットワークボード経由	0x14(20)
PROTOCOL_CCIETSN	CC-Link IE TSNボード経由	0x1C(28)
PROTOCOL_CCIEF	CC-Link IEフィールドネットワークボード経由	0x15(21)
PROTOCOL_CCLINK	CC-Link経由	0x07(7)
PROTOCOL_USBGOT	USBポート+GOT経由	0x13(19)
PROTOCOL_SHAREDMEMORY	共有メモリサーバ経由(シミュレータ)	0x06(6)
COMM_RS232C* ¹	インバータRS-232C通信	0x00(0)
COMM_USB * ¹	インバータUSB通信	0x01(1)
RC_PROTOCOL_SERIAL	ロボットコントローラRS-232C通信	0x01(1)
RC_PROTOCOL_USB	ロボットコントローラUSB通信	0x04(4)
RC_PROTOCOL_TCPIP	ロボットコントローラEthernet(TCP/IP)通信	0x02(2)

*1 ActMxUnitSeriesが1(0x01)の場合に使用できます。

10 各通信経路で設定するプロパティ

アクセスできる通信経路の詳細と、設定するプロパティについて説明します。

本章では、経由ネットワークを下記の名称で示します。

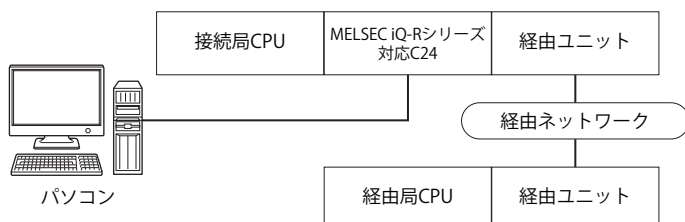
- CC-Link IE TSN: CC IE TSN
- CC-Link IEコントローラネットワーク: CC IE Control
- CC-Link IEフィールドネットワーク: CC IE Field

10.1 シリアルコミュニケーション通信

接続局がMELSEC iQ-Rシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(1)

接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24のほかに経由ユニットが存在する場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
RCPU	RモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(1)*1*3	CC IE TSN	○(2)	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)*2	○(2)	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU	RモーションCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	○(1)*1*3	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	×	○(2)*2	×	×	×
		MELSECNET/H	○(2)	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)*4	×	○(3)	×	×	×
		CC-Link	○(4)	×	○(4)	×	×	×

*1 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

*2 RCPU, LCPU は、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*3 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

*4 二重化CPUの場合、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)*1	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24の設定に合わせる			
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActIONumber*2	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニットI/Oアドレス	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber*3	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActParity	1(ODD_PARITY)	1(ODD_PARITY)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL			
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1			
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL固定			
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	8(0x08)固定			
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定			
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2) ^{*1}	○(3)	○(4)
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_RJ71C24			

*1 Ethernetユニット(MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ・ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定の「局番⇄IP 関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇄IP 関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか)を指定してください。

*2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

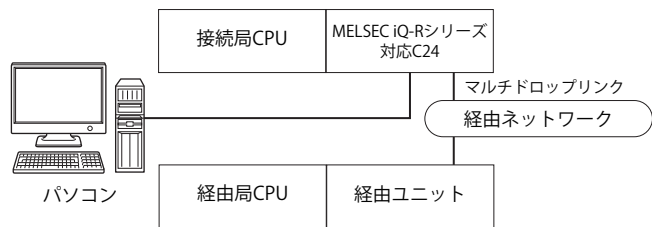
1: チャンネル1

2: チャンネル2

接続局がMELSEC iQ-Rシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(2)

接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24で経由ユニットとマルチドロップリンクを行う場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
RCPU			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
独立モード*1	○(1)	シリアルコミュニケーション	○(2)	×	×	×	×
連動モード*2	×		○(3)	×	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
独立モード*1	○(1)	シリアルコミュニケーション	○(2)*3	×	○(2)	×	×	×
連動モード*2	×		○(3)*3	×	○(3)	×	×	×

- *1 独立モードは、パラメータを下記のとおりに設定した場合を示します。
- ・CH1側: 伝送設定の動作設定= 独立(0), 交信プロトコル設定=0
 - ・CH2側: 伝送設定の動作設定= 独立(0)
- *2 連動モードは、パラメータを下記のとおりに設定した場合を示します。
- ・CH1側: 伝送設定の動作設定= 独立(0), 交信プロトコル設定=8
 - ・CH2側: 伝送設定の動作設定= 連動(1), 交信プロトコル設定=0
- *3 二重化CPUの場合、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

Point

接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24を連動モードにした場合、MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24のパラメータの伝送仕様S/Wスイッチ設定の「サムチェック(SW06)」は必ず有り(ON)に設定してください。無し(OFF)の場合、通信エラーが発生し正常に通信できなくなります。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24の設定に合わせる		
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番		対象局側ユニット局番
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる		
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	0(0x00)固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActIONumber*1	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側経由ユニットI/Oアドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActMultiDropChannelNumber*2	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActParity	1(ODD_PARITY)	1(ODD_PARITY)固定		
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL		
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1		
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL固定		
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActDataBits	8(DATABIT_8)	8(0x08)固定		
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定		
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定		
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定		
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_RJ71C24		

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

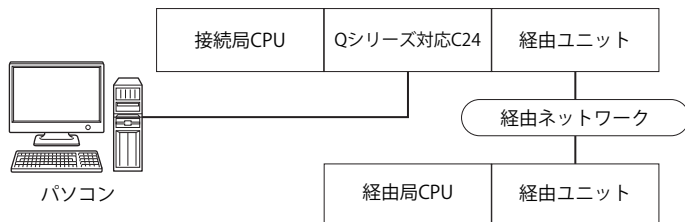
1: チャンネル1

2: チャンネル2

接続局がQシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(1)

接続局側Qシリーズ対応C24のほかに経由ユニットが存在する場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Qモード)	QCCPU	QモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(1)*6	○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU					
QCPU (Qモード)	QCCPU	QモーションCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	○(1)*6	○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	○(2)*2	○(2)*2	×
			MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)	○(2)	×
			Ethernet	○(2)	×	×	○(2)	○(2)	×
			シリアルコミュニケーション	○(3)*4	×	○(3)	×	○(3)	×
			CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	○(4)*5

*1 QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

*2 RモーションCPU, Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*4 二重化CPUの場合, 基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

*5 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUかつ自ネットワークのみサポートしています。

*6 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

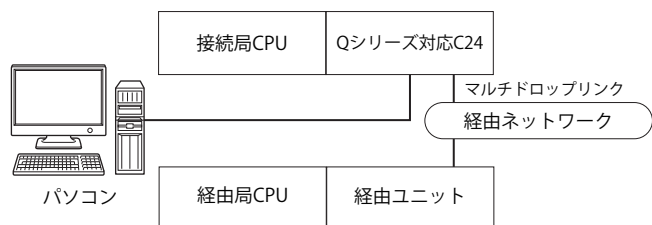
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)*1	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	Qシリーズ対応C24の設定に合わせる			
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL固定			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActIONumber*2	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber*3	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActParity	1(ODD_PARITY)	1(ODD_PARITY)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL(0x04)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QJ71C24(0x19)			

- *1 Ethernetユニット(Qシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。
 - ・ ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
 - ・ Qシリーズ対応E71のパラメータ設定の「局番⇄IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇄IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式, テーブル変換方式, 併用方式のいずれか)を指定してください。
- *2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2

接続局がQシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(2)

接続局側Qシリーズ対応C24で経由ユニットとマルチドロップリンクを行う場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU(Qモード), QCCPU*3			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
独立モード*1	○(1)*2		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×
連動モード*1	×	×		×	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
QCPU(Qモード), QCCPU*3			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
独立モード*1	○(1)*2		シリアルコミュニケーション	○(2)*2	×	○(2)	×	×
連動モード*1	×	○(3)*2		×	○(3)	×	×	×

*1 CH2側の設定を示します。(CH1側は独立モード固定)

*2 二重化CPUの場合、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

*3 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

Point

接続局側Qシリーズ対応C24を連動モードにした場合、Qシリーズ対応C24のパラメータの伝送仕様S/Wスイッチ設定の「サムチェック(SW06)」は必ず有り(ON)に設定してください。
無し(OFF)の場合、通信エラーが発生し正常に通信できなくなります。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	Qシリーズ対応C24の設定に合わせる		
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番		
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる		
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	0(0x00)固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側経由ユニットI/O アドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネル No.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActParity	1(ODD_PARITY)	Qシリーズ対応C24の設定に合わせる		
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL(0x04)		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定		
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QJ71C24(0x19)		

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

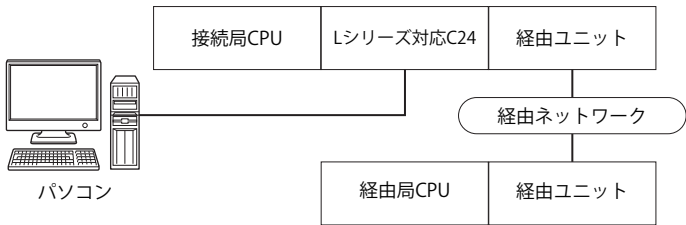
1: チャンネル1

2: チャンネル2

接続局がLシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(1)

接続局側Lシリーズ対応C24のほかに経路ユニットが存在する場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Field*1	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*1	○(4)	○(4)*2	○(4)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(4)	×	○(4)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(2)*3	×	○(2)	×	×	×
	CC-Link	○(3)	○(3)	○(3)	×	×	×

*1 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
*3 二重化CPUの場合、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200			
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる			
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	8(DATABIT_8)固定			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL固定			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	接続局側経由ユニットI/Oアドレス	接続局側経由ユニットI/Oアドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	0x01(PACKET_PLC1)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	1(ODD_PARITY)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL(0x04)			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(STOPBIT_ONE)固定			
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(NO_SUM_CHECK)固定			

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActThroughNetworkType	0(0x00)	• MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) • MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LJ71C24(0x54)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

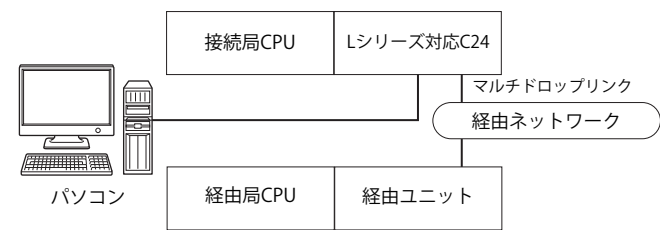
1: チャンネル1

2: チャンネル2

接続局がLシリーズ対応C24のシリアルコミュニケーション通信(2)

接続局側Lシリーズ対応C24で経路ユニットとマルチドロップリンクを行う場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
LCPU			RCPU	RCCPU	RモーシヨンCPU	LHCPU	FX5CPU
独立モード*1	○(1)*3	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
連動モード*2	×		×	×	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
LCPU			QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨンCPU	FXCPU
独立モード*1	○(1)*3	シリアルコミュニケーション	○(2)*3	×	○(2)	×	×	×
連動モード*2	×		○(3)*3	×	○(3)	×	×	×

- *1 独立モードは、パラメータを下記のとおりに設定した場合を示します。
- ・CH1側: 伝送設定の動作設定=独立(0), 交信プロトコル設定=0
 - ・CH2側: 伝送設定の動作設定=独立(0)
- *2 連動モードは、パラメータを下記のとおりに設定した場合を示します。
- ・CH1側: 伝送設定の動作設定=独立(0), 交信プロトコル設定=8
 - ・CH2側: 伝送設定の動作設定=連動(1), 交信プロトコル設定=0
- *3 二重化CPUの場合、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

Point

接続局側Lシリーズ対応C24を連動モードにした場合、Lシリーズ対応C24のパラメータの伝送仕様S/Wスイッチ設定の「サムチェック(SW06)」は必ず有り(ON)に設定してください。
無し(OFF)の場合、通信エラーが発生し正常に通信できなくなります。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	Lシリーズ対応C24の設定に合わせる		
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番		
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる		
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	0(0x00)固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	接続局側経由ユニットI/Oアドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActParity	1(ODD_PARITY)	Lシリーズ対応C24の設定に合わせる		
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL(0x04)		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定		
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LJ71C24(0x54)		

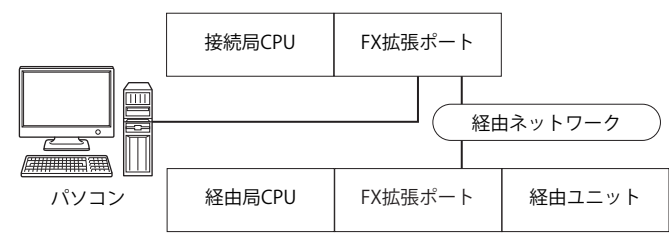
*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

- 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
- 1: チャンネル1
- 2: チャンネル2

接続局がFX拡張ポートのシリアルコミュニケーション通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	○(1)*1
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 FX0CPU, FX0SCPU, FX1CPU, FX2CPU, FX2CCPUはアクセスできません。

プロパティ一覧

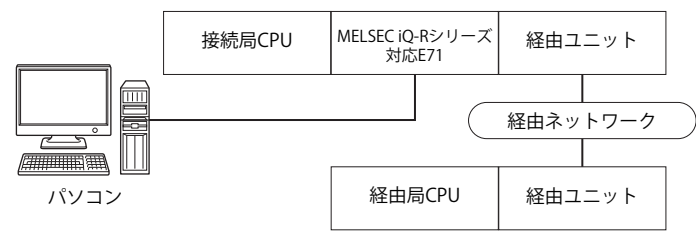
各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	FX拡張ポートの設定に合わせる
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる
ActCpuTimeOut	0(0x00)	10ms単位でユーザ任意
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDataBits	8(DATABIT_8)	FX拡張ポートの設定に合わせる
ActParity	1(ODD_PARITY)	FX拡張ポートの設定に合わせる
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL(0x04)
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	FX拡張ポートの設定に合わせる
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	FX拡張ポートの設定に合わせる
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitNumber	0(0x00)	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FX485BD(0x24)

10.2 Ethernet通信

接続局がMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のEthernet通信(TCP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU				
RCPU	RモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(1)*1*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×

接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU					
RCPU	RモーションCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	○(1)*1*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
		CC-Link	○(4)	×	○(4)	×	×	×

*1 RモーションCPUを経由して経路局CPUにアクセスできません。

*2 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

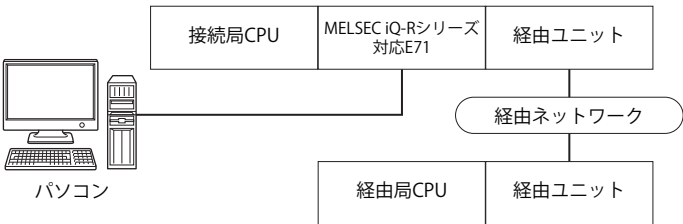
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber ^{*1}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber ^{*2}	0(0x00)	・MELSOFT接続時: 5002 ・OPS接続時: 任意のポートNo. ^{*2}			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber ^{*1*3}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*4}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*5*6}	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側MELSEC iQ-R シリーズ対応E71ネットワークNo.	接続局側MELSEC iQ-R シリーズ対応E71ネットワークNo.
ActPassword	あき	接続局側のMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71に設定されたパスワード			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActPortNumber ^{*7}	1(PORT_1)	パソコン側ポート番号			
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	パソコン側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*8}	0(0x00)	パソコン側局番			
ActStationNumber ^{*5*6}	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側MELSEC iQ-R シリーズ対応E71局番	接続局側MELSEC iQ-R シリーズ対応E71局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_RJ71EN71(0x1001)			

- *1 対象局がモーションコントローラ、ロボットコントローラなどの場合、マルチCPU時の値を設定してください。
例: ロボットコントローラが2号機として構成されている場合→"0x3E1"を設定します。
- *2 二重化CPU接続時にOPS接続の機能を使用する場合は、ネットワークパラメータに指定した任意のポートNo.を指定してください。(設定範囲は、1025≤ポートNo.≤4999または5003≤ポートNo.≤65534)
- *3 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *4 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
1: チャンネル1
2: チャンネル2
- *5 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *6 Ethernetユニット(MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。
・ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
・MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定の「局番⇔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか)を指定してください。
- *7 下記を指定してください。
0: パソコン内の空きポート番号を自動で割り当てます。
0以外の場合、Close関数実行後、再度Open関数実行時に、エラーが発生する場合があります。
エラーが発生する場合は、Close関数実行後、時間をおいてOpen関数を実行してください。
- *8 Ethernetの同一ループ内でのMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、パソコン側の局番を指定してください。

接続局がMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のEthernet通信(UDP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
RCPU	RモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*1	○(1)*2*3	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU	RモーションCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	○(1)*2*3	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
		CC-Link	○(4)	×	○(4)	×	×	×

*1 MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71と直結接続で接続している場合、経由局CPUにアクセスできません。

*2 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

*3 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

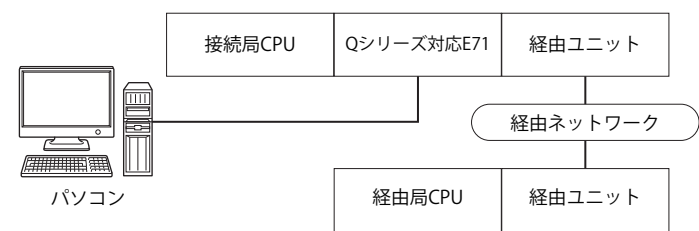
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActConnectUnitNumber ^{*1}	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	IPアドレス指定通信時: 5001 IPアドレス指定なし直結通信時: 5003			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	・ IPアドレス指定通信時: 接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス ・ IPアドレス指定なし直結通信時: 255.255.255.255			
ActIONumber ^{*2}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*3}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*1}	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71ネットワークNo.	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71ネットワークNo.
ActPassword	あき	接続局側のMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71に設定されたパスワード			
ActPortNumber	1(PORT_1)	・ IPアドレス指定通信時: パソコン側ポート番号 ・ IPアドレス指定なし直結通信時: 未使用			
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	・ IPアドレス指定通信時: 0(0x00)固定 ・ IPアドレス指定なし直結通信時: 未使用			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	パソコン側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*5}	0(0x00)	パソコン側局番			
ActStationNumber ^{*1*4}	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71局番	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ IPアドレス指定通信時: 0(0x00)固定 ・ IPアドレス指定なし直結通信時(MELSECNET/10含まない): 0(0x00) ・ IPアドレス指定なし直結通信時(MELSECNET/10含む): 1(0x01)			

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SER IAL)	PROTOCOL_UDPIP(0x08)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	・ IPアドレス指定通信時: UNIT_RJ71EN71(0x1001) ・ IPアドレス指定なし直結通信時: UNIT_RJ71EN71_DIRECT(0x1005)			

- *1 Ethernetユニット(MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。
 ・ ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
 ・ MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定の「局番⇄IP 関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇄IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか)を指定してください。
- *2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 1: チャンネル1
 2: チャンネル2
- *4 プロパティのパターンが○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *5 Ethernetの同一ループ内でのMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、パソコン側の局番を指定してください。

接続局がQシリーズ対応E71のEthernet通信(TCP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU				経路ネットワーク	経路局CPU				
QCPU (Qモード)	QCCPU	QSCPU	QモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(1)*6	○(1)*2	○(1)*1*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×
				CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
				MELSECNET/H	×	×	×	×	×
				Ethernet	×	×	×	×	×
				シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
				CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU				経路ネットワーク	経路局CPU					
QCPU (Qモード)	QCCPU	QSCPU	QモーションCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	○(1)*6	○(1)*2	○(1)*1*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
				CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*3	○(2)*4	○(2)*2*3	○(2)*3	×
				MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)*2	○(2)	×
				Ethernet	○(2)	×	×	○(2)*2	○(2)	×
				シリアルコミュニケーション	○(3)*5	×	○(3)*5	×	○(3)	×
				CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

*1 Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSのみアクセス可能です。

*2 QSCPU, QモーションCPUを経由して経路局CPUにアクセスできません。

*3 RモーションCPU, Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*4 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*5 二重化CPUの場合, 基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

*6 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

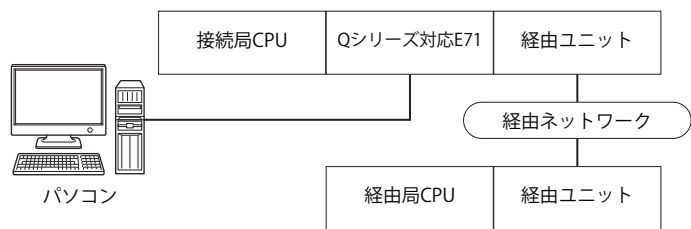
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	・ MELSOFT接続時: 5002 ・ OPS接続時: 任意のポートNo.*1			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber*2	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber*3	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber*4	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側Qシリーズ対応E71ネットワークNo.	接続局側Qシリーズ対応E71ネットワークNo.
ActPassword	あき	接続局側のQシリーズ対応E71に設定されたパスワード			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	パソコン側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber*5	0(0x00)	パソコン側局番			
ActStationNumber*4	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側Qシリーズ対応E71局番	接続局側Qシリーズ対応E71局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QJ71E71(0x1A)			

- *1 二重化CPU接続時にOPS接続の機能を使用する場合は、ネットワークパラメータに指定した任意のポートNo.を指定してください。(設定範囲は、 $1025 \leq \text{ポートNo.} \leq 4999$ または $5003 \leq \text{ポートNo.} \leq 65534$)
- *2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *4 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *5 Ethernetの同一ループ内でのQシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、パソコン側の局番を指定してください。

接続局がQシリーズ対応E71のEthernet通信(UDP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU				経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Qモード)	QCCPU	QSCPU	QモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(1)*6*7	○(1)*2	○(1)*1*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×
				CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
				MELSECNET/H	×	×	×	×	×
				Ethernet	×	×	×	×	×
				シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
				CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU				経由ネットワーク	経由局CPU					
QCPU (Qモード)	QCCPU	QSCPU	QモーションCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	○(1)*6*7	○(1)*2	○(1)*1*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
				CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*3	○(2)*4	○(2)*2*3	○(2)*3	×
				MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)*2	○(2)	×
				Ethernet	○(2)	×	×	○(2)*2	○(2)	×
				シリアルコミュニケーション	○(3)*5	×	○(3)*5	×	○(3)	×
				CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

*1 Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSのみアクセス可能です。
*2 QSCPU, QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。
*3 RモーションCPU, Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
*4 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
*5 二重化CPUの場合, 基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。
*6 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。
*7 QCCPUはMELSOFT直結接続に対応していないため, Ethernetポート直結接続ではアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

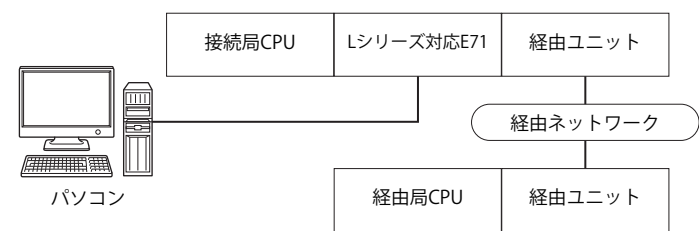
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5001			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側經由ユニット I/Oアドレス	接続局側經由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3}	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局Qシリーズ対応 E71ネットワークNo.	接続局Qシリーズ対応 E71ネットワークNo.
ActPassword	あき	接続局側のQシリーズ対応E71に設定されたパスワード			
ActPortNumber ^{*4}	1(PORT_1)	パソコン側ポート番号			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP(0x08)			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	パソコン側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*5}	0(0x00)	パソコン側局番			
ActStationNumber ^{*3}	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側Qシリーズ対応 E71局番	接続局側Qシリーズ対応 E71局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QJ71E71(0x1A)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *4 ActPortNumberの1～1024までは使用しないでください。
- *5 Ethernetの同一ループ内でのQシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、パソコン側の局番を指定してください。

接続局がLシリーズ対応E71のEthernet通信(TCP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU ^{*1}	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3) ^{*2}	×	○(3) ^{*2}	×	×	×
	CC-Link	○(4)	×	○(4)	×	×	×

*1 Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSのみアクセス可能です。

*2 二重化CPUの場合、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

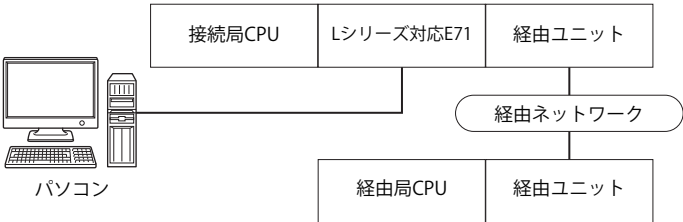
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_1 9200)	0(0x00)固定			
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	・MELSOFT接続時: 5002 ・OPS接続時: 任意のポートNo.*1			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber*2	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側經由ユニット I/Oアドレス	接続局側經由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber*3	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber*4	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側Lシリーズ対応E71ネットワークNo.	接続局側Lシリーズ対応E71ネットワークNo.
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActPassword	あき	接続局側のLシリーズ対応E71に設定されたパスワード			
ActPortNumber*5	1(PORT_1)	パソコン側ポート番号			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	パソコン側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber*6	0(0x00)	パソコン側局番			
ActStationNumber*4	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側Lシリーズ対応E71局番	接続局側Lシリーズ対応E71局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LJ71E71(0x5C)			

- *1 二重化CPU接続時にOPS接続の機能を使用する場合は、ネットワークパラメータに指定した任意のポートNo.を指定してください。(設定範囲は、1025≤ポートNo.≤4999または5003≤ポートNo.≤65534)
- *2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
1: チャンネル1
2: チャンネル2
- *4 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *5 下記を指定してください。
0: パソコン内の空きポート番号を自動で割り当てます。
0以外の場合、Close関数実行後、再度Open関数実行時に、エラーが発生する場合があります。
エラーが発生する場合は、Close関数実行後、時間をおいてOpen関数を実行してください。
- *6 Ethernetの同一ループ内でのLシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、パソコン側の局番を指定してください。

接続局がLシリーズ対応E71のEthernet通信(UDP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU*1	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)*2	×	○(3)*2	×	×	×
	CC-Link	○(4)	×	○(4)	×	×	×

*1 Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSのみアクセス可能です。

*2 二重化CPUの場合、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

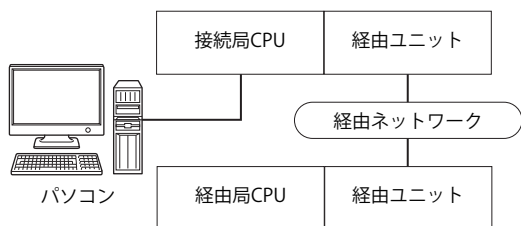
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5001			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニットI/Oアドレス	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3}	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側Lシリーズ対応E71ネットワークNo.	接続局側Lシリーズ対応E71ネットワークNo.
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActPassword	あき	接続局側のLシリーズ対応E71に設定されたパスワード			
ActPortNumber ^{*4}	1(PORT_1)	パソコン側ポート番号			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP(0x08)			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	パソコン側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*5}	0(0x00)	パソコン側局番			
ActStationNumber ^{*3}	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側Lシリーズ対応E71局番	接続局側Lシリーズ対応E71局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LJ71E71(0x5C)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *4 ActPortNumberの1～1024までは使用しないでください。
- *5 Ethernetの同一ループ内でのLシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、パソコン側の局番を指定してください。

接続局がMELSEC iQ-RシリーズCPUユニットのEthernet通信(TCP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU				
RCPU	RCCPU	RモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(1) ^{*3}	○(1) ^{*1*3}	CC IE TSN	○(2)	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	○(2) ^{*2}	○(2)	×	×	○(2) ^{*5}
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			Ethernet	○(2) ^{*4}	×	○(2) ^{*4}	×	×
			シリアルコミュニケーション	○(3) ^{*4}	×	○(3) ^{*4}	×	×
			CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU	RCCPU	RモーションCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	○(1) ^{*3}	○(1) ^{*1*3}	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	○(2) ^{*4}	×	○(2) ^{*2*4}	×	×	×
			MELSECNET/H	○(2) ^{*4}	×	×	×	×	×
			Ethernet	○(2) ^{*4}	×	○(2)	×	×	×
			シリアルコミュニケーション	○(3) ^{*4}	×	○(3) ^{*4}	×	×	×
			CC-Link	○(4) ^{*4}	×	○(4) ^{*4}	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
WinCPU	RCPU		RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)		CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

*2 RCPU, LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*3 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

*4 RCCPUは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

*5 接続局CPUがRCPUのCC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

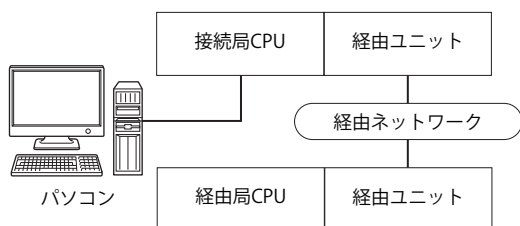
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActDestinationIONumber ^{*1}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5007			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 ・RCPU, RモーションCPU, QCPU(Qモード), LCP: 1(0x01) ・上記以外: 0(0x00)	対象局 ・RCPU, RモーションCPU, QCPU(Qモード), LCP: 1(0x01) ・上記以外: 0(0x00)
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニットI/Oアドレス	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3*4}	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActPassword	あき	接続局に設定されたリモートパスワード			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActStationNumber ^{*3*4}	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			MELSECNET/10を含まない: 0(0x00)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_RETHET(0x1002)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *4 Ethernetユニット(Qシリーズ対応E71およびMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。
 - ・ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQシリーズ対応E71およびMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
 - ・Qシリーズ対応E71およびMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定の「局番⇄IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇄IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか)を指定してください。

接続局がMELSEC iQ-RシリーズCPUユニットのEthernet通信(UDP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU				
RCPU	RCCPU	RモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(1) ^{*3}	○(1) ^{*1*3}	CC IE TSN	○(2)	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	○(2) ^{*2}	○(2)	×	×	○(2) ^{*5}
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			Ethernet	○(2) ^{*4}	×	○(2) ^{*4}	×	×
			シリアルコミュニケーション	○(3) ^{*4}	×	○(3) ^{*4}	×	×
			CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU	RCCPU	RモーションCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	○(1) ^{*3}	○(1) ^{*1*3}	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	○(2) ^{*4}	×	○(2) ^{*2*4}	×	×	×
			MELSECNET/H	○(2) ^{*4}	×	×	×	×	×
			Ethernet	○(2) ^{*4}	×	○(2) ^{*4}	×	×	×
			シリアルコミュニケーション	○(3) ^{*4}	×	○(3) ^{*4}	×	×	×
			CC-Link	○(4) ^{*4}	×	○(4) ^{*4}	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
WinCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Q モード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

*2 RCPU, LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*3 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

*4 RCCPUは、通信経路が未サポートのためアクセスできません。

*5 接続局CPUがRCPUのCC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

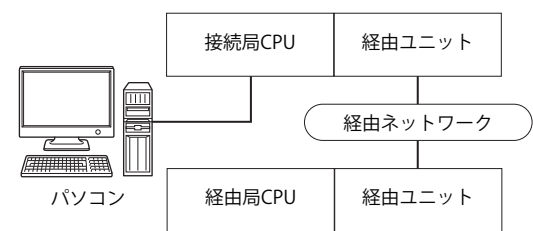
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActDestinationIONumber ^{*1}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 ・RCPU, RモーションCPU, QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) ・上記以外: 0(0x00)	対象局 ・RCPU, RモーションCPU, QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) ・上記以外: 0(0x00)
ActHostAddress	1.1.1.1	・IPアドレス指定通信時: 接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス ・IPアドレス指定なし直結通信時: 255.255.255.255			
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	・IPアドレス指定通信時: 5006 ・IPアドレス指定なし直結通信時: 5008			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニットI/Oアドレス	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3*4}	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActPassword	あき	接続局に設定されたリモートパスワード			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP(0x08)			
ActStationNumber ^{*3*4}	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			MELSECNET/10を含まない: 0(0x00)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	- IPアドレス指定通信時: UNIT_RETHET(0x1002) - IPアドレス指定なし直結通信時: UNIT_RETHET_DIRECT(0x1003)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 1: チャンネル1
 2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *4 Ethernetユニット(MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。
 ・ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
 ・MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定の「局番⇄IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇄IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか)を指定してください。

接続局がLHCPUのEthernet通信(TCP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
LHCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
LHCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

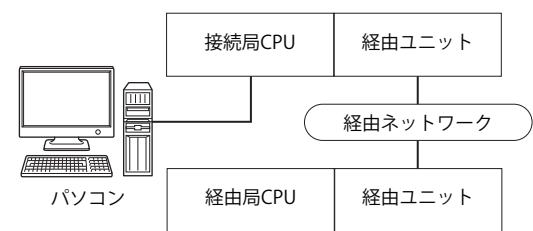
プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5007
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス
ActIONumber	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 1023(0x3FF)固定
ActPassword	あき	接続局に設定されたリモートパスワード
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)
ActThroughNetworkType	0(0x00)	• MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) • MELSECNET/10を含む: 1(0x01)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LHETHER(0x1002)

接続局がLHCPUのEthernet通信(UDP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経路局CPU					
LHCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経路局CPU					
LHCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

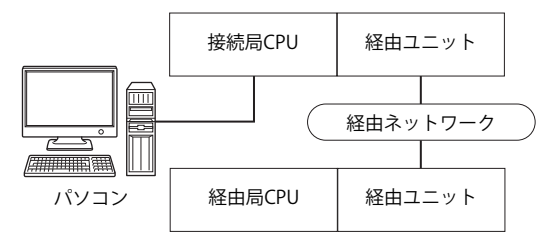
プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	- IPアドレス指定通信時: 5006 - IPアドレス指定なし直結通信時: 5008
ActHostAddress	1.1.1.1	- IPアドレス指定通信時: 接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス - IPアドレス指定なし直結通信時: 255.255.255.255
ActIONumber	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 1023(0x3FF)固定
ActPassword	あき	接続局に設定されたリモートパスワード
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP(0x08)
ActThroughNetworkType	0(0x00)	- MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) - MELSECNET/10を含む: 1(0x01)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	- IPアドレス指定通信時: UNIT_LHETHER(0x1002) - IPアドレス指定なし直結通信時: UNIT_LHETHER_DIRECT(0x1003)

接続局がFX5CPUのEthernet通信(TCP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○(2)*1*2	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○(3)	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

*2 FX5SCPUにはアクセスできません。

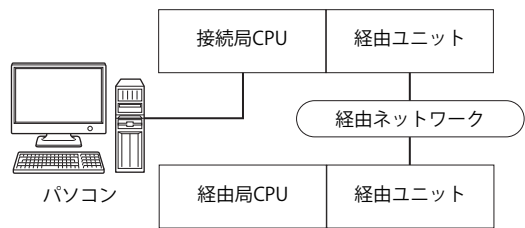
プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定		
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定		
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定		1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5562		
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)		0(0x00)
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)		0(0x00)
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス		
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)		1(0x01)
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)		接続局ユニット番号
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)
ActPassword	あき	接続局に設定されたリモートパスワード		
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	255(0xFF)
ActThroughNetworkType	0(0x00)	1(0x01)	0(0x00)	
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)		対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXVETHER(0x2001)		
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定		

接続局がFX5CPUのEthernet通信(UDP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
FX5CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○(2)*1*2	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○(3)	

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
FX5CPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

*2 FX5SCPUにはアクセスできません。

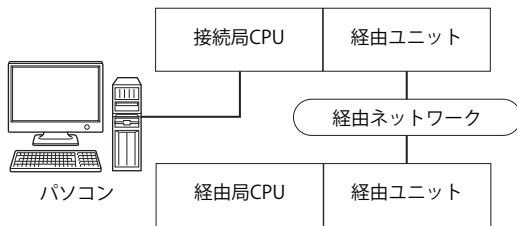
プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定		
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定		
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定		1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5560		
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)		0(0x00)
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)		0(0x00)
ActHostAddress	1.1.1.1	255.255.255.255 PC側のアダプタ選択を行う場合には、接続先IPアドレスの後にタブ文字とパソコン側IPアドレスを付与する		
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定		1(0x01)
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)		接続局ユニット番号
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定
ActPassword	あき	接続局に設定されたリモートパスワード		
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP(0x08)		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	1(0x01)	0(0x00)固定	
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXVETHER_DIRECT(0x2002)		
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)		

接続局がEthernetポート内蔵QCPUのEthernet通信(TCP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
QnUDE(H)CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU ^{*4}	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QnUDE(H)CPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2) ^{*1}	○(2) ^{*2}	○(2) ^{*1}	○(2) ^{*1}	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)	○(2)	×
	Ethernet	○(2)	×	×	○(2)	○(2)	×
	シリアルコミュニケーション	○(3) ^{*3}	×	○(3)	×	○(3)	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
QCCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU ^{*4}	LHCPU	FX5CPU
○(1) ^{*4*5*6}	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QCCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1) ^{*4*5*6}	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2) ^{*1}	○(2) ^{*2}	○(2) ^{*1}	○(2) ^{*1}	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)	○(2)	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
QモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*7	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
QモーションCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*7	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 RモーションCPU, Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*2 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*3 二重化CPUの場合, 基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

*4 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

*5 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

*6 QCCPUはMELSOFT直結接続に対応していないため, Ethernetポート直結接続ではアクセスできません。

*7 Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSが, マルチCPU構成時の2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

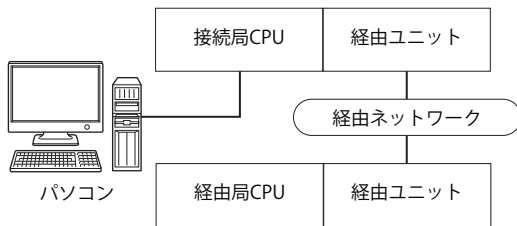
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5007			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3}	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActPassword	あき	接続局に設定されたりモートパスワード			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActStationNumber ^{*3}	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QNETHER(0x2C)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

接続局がEthernetポート内蔵QCPUのEthernet通信(UDP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
QnUDE(H)CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU*4	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QnUDE(H)CPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*1	○(2)*2	○(2)*1	○(2)*1	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)	○(2)	×
	Ethernet	○(2)	×	×	○(2)	○(2)	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)*3	×	○(3)	×	○(3)	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
QCCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU*4	LHCPU	FX5CPU
○(1)*4*5*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QCCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*4*5*6	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*1	○(2)*2	○(2)*1	○(2)*1	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)	○(2)	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
QモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*7	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
QモーションCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*7	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 RモーションCPU, Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*2 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*3 二重化CPUの場合, 基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

*4 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

*5 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

*6 QCCPUはMELSOFT直結接続に対応していないため, Ethernetポート直結接続ではアクセスできません。

*7 Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSが, マルチCPU構成時の2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

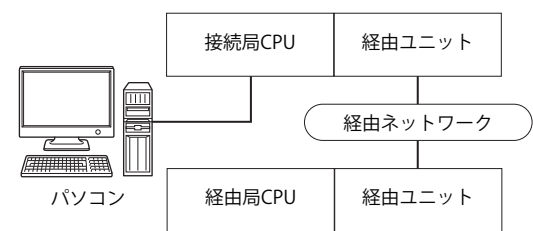
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	・ IPアドレス指定通信時: 5006 ・ IPアドレス指定なし直結通信時: 未使用			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	・ IPアドレス指定通信時: 接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス ・ IPアドレス指定なし直結通信時: 指定は無効			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 ・ QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) ・ 上記以外: 0(0x00)	対象局 ・ QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) ・ 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側經由ユニット I/Oアドレス	接続局側經由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3}	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActPassword	あき	接続局に設定されたりモートパスワード			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP(0x08)			
ActStationNumber ^{*3}	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	・ IPアドレス指定通信時: UNIT_QNETHER(0x2C) ・ IPアドレス指定なし直結通信時: UNIT_QNETHER_DIRECT(0x2D)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

接続局がEthernetポート内蔵LCPUのEthernet通信(TCP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Field*1	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*1	○(4)	○(4)*2	○(4)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(4)	×	○(4)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(2)*3	×	○(2)	×	×	×
	CC-Link	○(3)	○(3)	○(3)	×	×	×

*1 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
*3 二重化CPUの場合、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

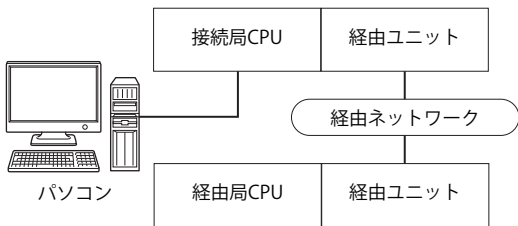
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5007			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 1023(0x3FF)固定	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActPassword	あき	接続局に設定されたリモートパスワード			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActStationNumber ^{*3}	255(0xFF)	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LNETHER(0x52)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

接続局がEthernetポート内蔵LCPUのEthernet通信(UDP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*1	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×
接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*1	○(4)	○(4)*2	○(4)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(4)	×	○(4)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(2)*3	×	○(2)	×	×	×
	CC-Link	○(3)	○(3)	○(3)	×	×	×

*1 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
*3 二重化CPUの場合、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	- IP アドレス指定通信時: 5006 - IP アドレス指定なし直結通信時: 5008			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	- IP アドレス指定通信時: 接続局側ユニットのホスト名またはIP アドレス - IP アドレス指定なし直結通信時: 255.255.255.255			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局 ・QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) ・上記以外: 0(0x00)	対象局 ・QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) ・上記以外: 0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 1023(0x3FF)固定	接続局側経由ユニット I/O アドレス	接続局側経由ユニット I/O アドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActPassword	あき	接続局に設定されたリモートパスワード			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP(0x08)			
ActStationNumber ^{*3}	255(0xFF)	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	- MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) - MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	・ IPアドレス指定通信時: UNIT_LNETHER(0x52) ・ IPアドレス指定なし直結通信時: UNIT_LNETHER_DIRECT(0x53)			
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

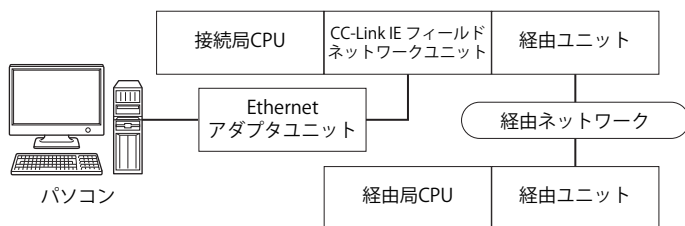
1: チャンネル1

2: チャンネル2

*3 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

接続局がEthernetアダプタユニットのEthernet通信(TCP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
QnUDE(H)CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
QnUDE(H)CPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*1	○(2)*2	×	×	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
	Ethernet	○(2)	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field*2	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*2	○(2)	○(2)*1	○(2)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*2 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

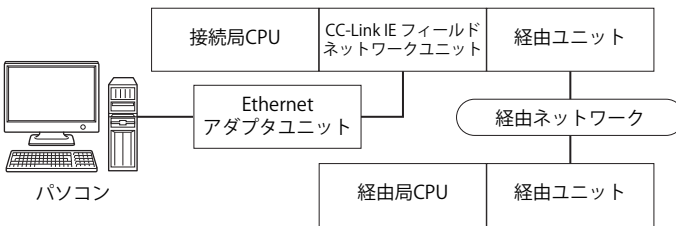
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	Ethernetアダプタユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3}	0(0x00)	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニットネットワークNo.	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニットネットワークNo.
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActStationNumber ^{*3}	255(0xFF)	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニット局番	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_NZ2GF_ETB(0x59)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(1)○(3)○(4)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは接続局側のCC-Link IEフィールドネットワークユニットのパラメータで設定した値を指定してください。
プロパティのパターンが○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

接続局がEthernetアダプタユニットのEthernet通信(UDP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
QnUDE(H)CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QnUDE(H)CPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*1	○(2)*2	×	×	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
	Ethernet	○(2)	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field*2	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
LCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*2	○(2)	○(2)*1	○(2)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*2 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

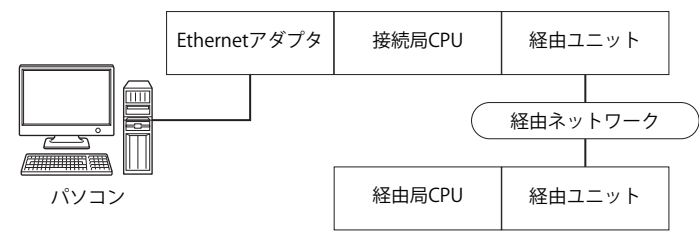
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	・IPアドレス指定通信時: Ethernetアダプタユニットのホスト名またはIPアドレス ・IPアドレス指定なし直結通信時: 指定は無効			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3}	0(0x00)	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニットネットワークNo.	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニットネットワークNo.
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP(0x08)			
ActStationNumber ^{*3}	255(0xFF)	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニット局番	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	・IPアドレス指定通信時: UNIT_NZ2GF_ETB(0x59) ・IPアドレス指定なし直結通信時: UNIT_NZ2GF_ETB_DIRECT(0x5A)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(1)○(3)○(4)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは接続局側のCC-Link IEフィールドネットワークユニットのパラメータで設定した値を指定してください。
プロパティのパターンが○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

接続局がEthernetアダプタのEthernet通信(TCP)(1)

接続先CPUがFXCPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 FX3SCPU, FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

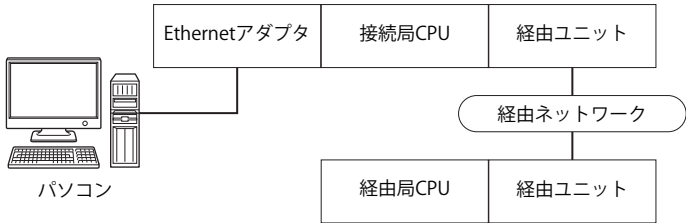
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名がIPアドレス
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXETHER

接続局がEthernetアダプタのEthernet通信(TCP)(2)

接続先CPUがFX5CPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 FX5UCPU, FX5UJCPUのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

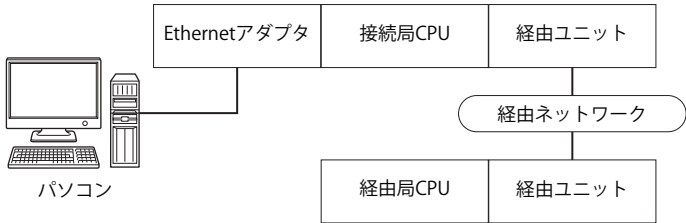
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5554固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP
ActPacketType	0x01(PACKET_PL1)	PACKET_PL1固定

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXVENET

接続局がEthernetアダプタのEthernet通信(UDP)(1)

接続先CPUがFXCPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 FX3SCPU, FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

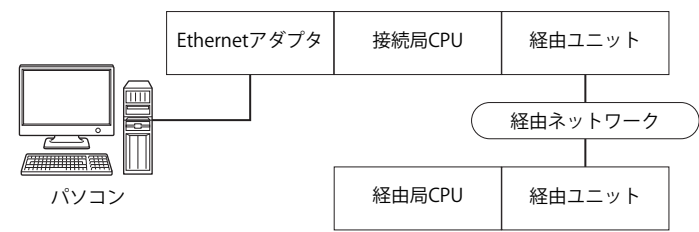
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXETHER_DIRECT

接続局がEthernetアダプタのEthernet通信(UDP)(2)

接続先CPUがFX5CPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 FX5UCPU, FX5UJCPUのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

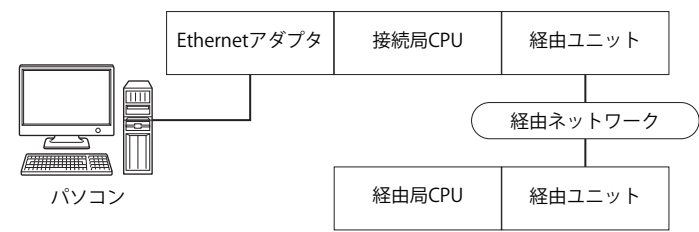
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5555固定
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP
ActPacketType	0x01(PACKET_PL1)	PACKET_PL1固定

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXVENET

接続局がEthernetアダプタのEthernet通信(UDP)(3)

接続先CPUがFX5CPUで直結通信の場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 FX5UCPU, FX5UJCPUのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

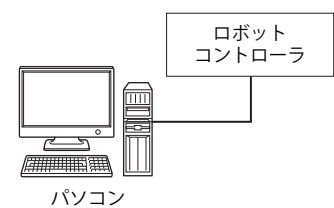
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5552固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	255.255.255.255 PC側のアダプタ選択を行う場合には、接続先IPアドレスの後にタブ文字とパソコン側IPアドレスを付与する
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXVENET_DIRECT

接続局がロボットコントローラのEthernet通信

構成



プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

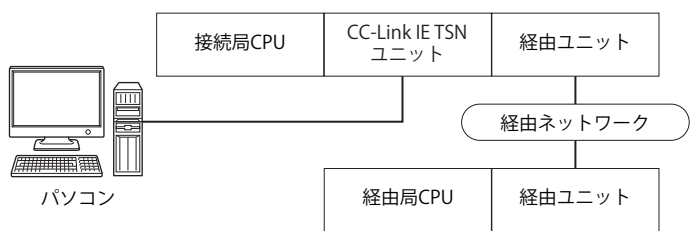
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	RC_PROTOCOL_TCPIP(0x02)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	ロボットコントローラ機種(0x013001)
ActPortNumber	1(PORT_1)	接続するポート番号(通常は10001を指定)
ActHostAddress	1.1.1.1	ロボットコントローラのホスト名またはIPアドレス
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActCpuTimeOut	0(0x00)	ms単位でユーザ任意
ActMultiDropChannelNumber	8(TRC_DTR_OR_RTS)	リトライ回数
ActMxUnitSeries	0(0x00)	2(0x02)

Point

ロボットコントローラ通信時は、プログラム設定タイプのコントロールは使用できません。
ユーティリティ設定タイプのコントロールを使用してください。

接続局がCC-Link IE TSNユニットのEthernet通信(TCP)

構成



10

アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	○(2)	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	○(3)	×	×	×	×	
	CC-Link	○(4)	×	×	×	×	
接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

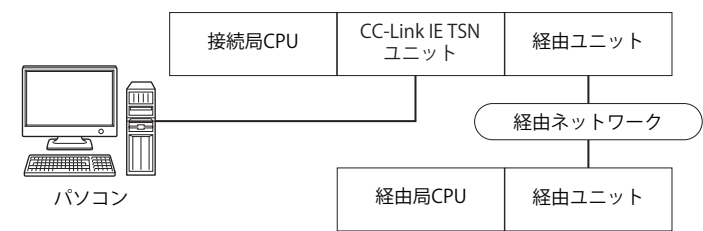
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber ^{*1}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5002			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3*4}	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側CC-Link IE TSNユニットネットワークNo.	接続局側CC-Link IE TSNユニットネットワークNo.
ActPassword	あき	接続局側のCC-Link IE TSNユニットに設定されたパスワード			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP			
ActPortNumber ^{*5}	1(PORT_1)	パソコン側ポート番号			
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	パソコン側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*6}	0(0x00)	パソコン側局番			
ActStationNumber ^{*3*4}	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側CC-Link IE TSNユニット局番	接続局側CC-Link IE TSNユニット局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_RJ71GN11(0x1006)			

- *1 対象局がモーションコントローラ、ロボットコントローラなどの場合、マルチCPU時の値を設定してください。
例: ロボットコントローラが2号機として構成されている場合→"0x3E1"を設定します。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
1: チャンネル1
2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *4 CC-Link IE TSNユニット経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。
・ ActNetworkNumber, ActStationNumberは対象局側のCC-Link IE TSNユニットのパラメータ設定で指定した値を指定してください。
・ CC-Link IE TSNユニットのパラメータ設定の「局番⇔IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇔IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか)を指定してください。
- *5 下記を指定してください。
0: パソコン内の空きポート番号を自動で割り当てます。
0以外の場合、Close関数実行後、再度Open関数実行時に、エラーが発生する場合があります。
エラーが発生する場合は、Close関数実行後、時間をおいてOpen関数を実行してください。
- *6 Ethernetの同一ループ内でのCC-Link IE TSNユニットに設定した局番と重複しないように、パソコン側の局番を指定してください。

接続局がCC-Link IE TSNユニットのEthernet通信(UDP)

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	○(2)	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	○(3)	×	×	×	×	
	CC-Link	○(4)	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 CC-Link IE TSNユニットへの直結接続によるアクセスは未サポートです。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber ^{*1}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5001			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	接続局側経由ユニット I/O アドレス	接続局側経由ユニット I/O アドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3*4}	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側CC-Link IE TSNユニットネットワークNo.	接続局側CC-Link IE TSNユニットネットワークNo.
ActPassword	あき	接続局側のCC-Link IE TSNユニットに設定されたパスワード			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP			
ActPortNumber ^{*5}	1(PORT_1)	IPアドレス指定通信時: パソコン側ポート番号			
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	パソコン側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*6}	0(0x00)	パソコン側局番			
ActStationNumber ^{*3*4}	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側CC-Link IE TSNユニット局番	接続局側CC-Link IE TSNユニット局番
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_RJ71GN11(0x1006)			

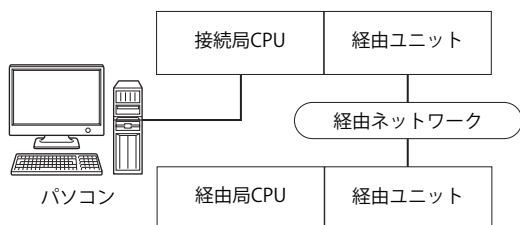
- *1 対象局がモーションコントローラ、ロボットコントローラなどの場合、マルチCPU時の値を設定してください。
例: ロボットコントローラが2号機として構成されている場合→"0x3E1"を設定します。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
1: チャンネル1
2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *4 CC-Link IE TSNユニット経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。
 - ・ ActNetworkNumber, ActStationNumberは対象局側のCC-Link IE TSNユニットのパラメータ設定で指定した値を指定してください。
 - ・ CC-Link IE TSNユニットのパラメータ設定の「局番⇄IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇄IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式, テーブル変換方式, 併用方式のいずれか)を指定してください。
- *5 接続局側CC-Link IE TSNユニットのEthernet/パラメータ設定内容が「自動応答方式」以外の場合、5001固定で指定してください。
接続局側CC-Link IE TSNユニットのEthernet/パラメータ設定内容が「自動応答方式」の場合、下記を指定してください。
0: パソコン内の空きポート番号を自動で割り当てます。
0以外: 指定ポート番号を使用してUDPソケットを生成します。
- *6 Ethernetの同一ループ内でのCC-Link IE TSNユニットに設定した局番と重複しないように、パソコン側の局番を指定してください。

10.3 CPU COM通信

接続局がFX5CPUのCPU COM通信

10

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
FX5CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○(2)*1*2
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○(3)*2

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
FX5CPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

*2 FX5SCPUにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

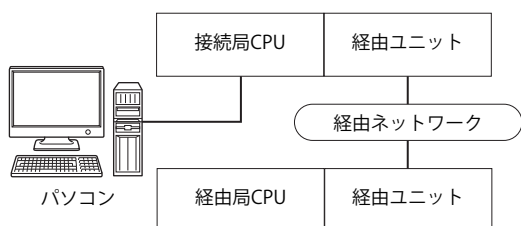
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200		
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる		
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDataBits	8(DATABIT_8)	8(DATABIT_8)固定		
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定		1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定		1(0x01)
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定		接続局ユニット番号
ActMultiDropChannelNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネット ワークNo.	0(0x00)固定
ActParity	1(ODD_PARITY)	1(ODD_PARITY)固定		
ActPassword	あき	NULL		
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL(0x04)		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(STOPBIT_ONE)固定		
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(NO_SUM_CHECK)固定		
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL		
ActTargetSimulator	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActThroughNetworkType	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXVCPU(0x2000)		

接続局がQCPU(Qモード)のCPU COM通信

構成

10



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Qモード)	QCCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(1) ^{*4}	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
QCPU (Qモード)	QCCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)	○(1) ^{*4}	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2) ^{*1}	○(2) ^{*2}	○(2) ^{*1}	○(2) ^{*1}	×
		MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)	○(2)	×
		Ethernet	○(2)	×	×	○(2)	○(2)	×
		シリアルコミュニケーション	○(3) ^{*5}	×	○(3)	×	○(3)	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	○(4) ^{*3}

*1 RモーションCPU, Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*2 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*3 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUかつ自ネットワークのみサポートしています。

*4 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

*5 二重化CPUの場合, 基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

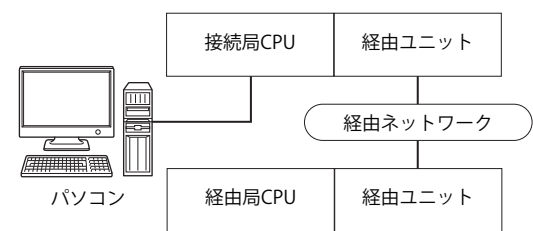
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)*1	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 ・ QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) ・ 上記以外: 0(0x00)	対象局 ・ QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) ・ 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber*2	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber*3	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL(0x04)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QNCPU(0x13)			

- *1 Ethernetユニット(Qシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。
 - ・ ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
 - ・ Qシリーズ対応E71のパラメータ設定の「局番⇄IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇄IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式, テーブル変換方式, 併用方式のいずれか)を指定してください。
- *2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2

接続局がLCPUCPUのCPU COM通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
LCPU		RCPU	RCCPU	RーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IETS	×	×	×	×	×	
	CC IE Field ^{*1}	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
LCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IETS	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field ^{*1}	○(4)	○(4) ^{*2}	○(4)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(4)	×	○(4)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(2) ^{*3}	×	○(2)	×	×	×
	CC-Link	○(3)	○(3)	○(3)	×	×	×

*1 LCPUCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*3 二重化CPUの場合、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200			
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる			
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	8(DATABIT_8)固定			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL固定			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局 ・ QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) ・ 上記以外: 0(0x00)	対象局 ・ QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) ・ 上記以外: 0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	0x01(PACKET_PLC1)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	1(ODD_PARITY)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL(0x04)			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(STOPBIT_ONE)固定			
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(NO_SUM_CHECK)固定			
ActThroughNetworkType	0(0x00)	• MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) • MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LNCPNU(0x50)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

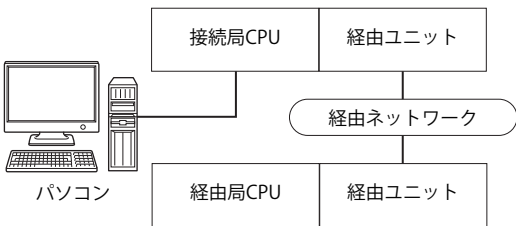
0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

1: チャンネル1

2: チャンネル2

接続局がQモーションCPUのCPU COM通信

構成



10

アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU QモーションCPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU QモーションCPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

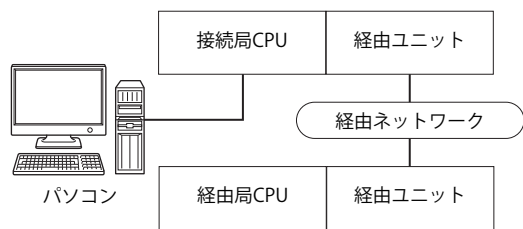
各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActIONumber	1023(0x3FF)	■マルチCPU時 • 管理CPU: 1023(0x3FF) • 2号機: 993(0x3E1) • 3号機: 994(0x3E2) • 4号機: 995(0x3E3)
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL(0x04)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QNMOTION(0x1C)

接続局がFXCPUのCPU COM通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	○(2)*1

*1 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

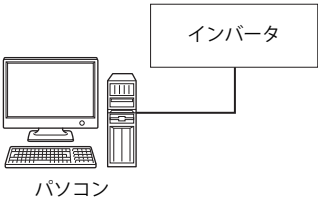
各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
		○(1)	○(2)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	• FX3S, FX3UC, FX3G(C), FX5U, FX5UJ: (BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200)	
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる	
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)	
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)	
ActIONumber	1023(0x3FF)	0(0x00)固定	接続局ユニット番号
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号	
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL(0x04)	
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXCPU(0x0F)	

接続局がインバータのCPU COM通信

構成



プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

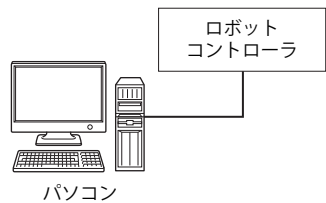
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActMxUnitSeries	0(0x00)	1(0x01)
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	COMM_RS232C(0x00)
ActStationNumber	255(0xFF)	インバータの局番(0~31)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	INV_A800(0x1E60)
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_4800, BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActCpuTimeOut	0(0x00)	10ms単位でユーザ任意
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	• CRLF_NONE(0): CR/LFなし • CRLF_CR(1): CRのみあり • CRLF_CRLF(2): CR/LFあり
ActDataBits	8(DATABIT_8)	• DATABIT_7 • DATABIT_8
ActParity	1(ODD_PARITY)	• NO_PARRITY • ODD_PARITY • EVEN_PARITY
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	• STOPBIT_ONE • STOPBIT_TWO

Point

インバータ通信時は、プログラム設定タイプのコントロールは使用できません。
ユーティリティ設定タイプのコントロールを使用してください。

接続局がロボットコントローラのCPU COM通信

構成



プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	RC_PROTOCOL_SERIAL(0x01)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	ロボットコントローラ機種(0x013001)
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	伝送速度
ActTimeOut	10000	受信タイムアウト時間(msec)
ActCpuTimeOut	0(0x00)	送信タイムアウト時間(msec)
ActDataBits	8(DATABIT_8)	• DATABIT_7 • DATABIT_8
ActParity	1(ODD_PARITY)	• NO_PARRITY • ODD_PARITY • EVEN_PARITY
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	• ONESTOPBIT(0) • ONE5STOPBITS(1) • TWOSTOPBITS(2)
ActMultiDropChannelNumber	0(0x00)	リトライ回数
ActThroughNetworkType	0(0x00)	有手順/無手順(0/1)
ActMxUnitSeries	0(0x00)	2(0x02)

Point

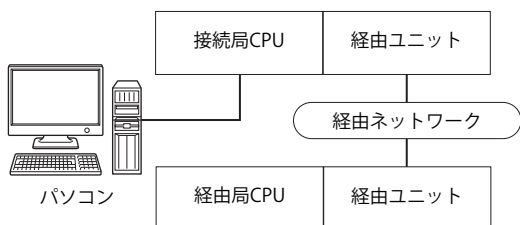
ロボットコントローラ通信時は、プログラム設定タイプのコントロールは使用できません。
ユーティリティ設定タイプのコントロールを使用してください。

10.4 CPU USB通信

接続局がRCPUのCPU USB通信

10

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
RCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	○(2)	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)*1	○(2)	×	×	○(2)*2
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	×	○(2)*1	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
	CC-Link	○(4)	×	○(4)	×	×	×

*1 RCP, LCPは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*2 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)*1	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber*2	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)	0(0x00)
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)	0(0x00)
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 ・ RCPU, QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) ・ 上記以外: 0(0x00)	対象局 ・ RCPU, QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) ・ 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber*2	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber*3	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USB			
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	1(PORT_1)固定			
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL 固定			
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定			
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)*1	○(3)	○(4)
ActThroughNetworkType	0(0x00)	- MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) - MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			MELSECNET/10を含まない: 0(0x00)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_RUSB			

*1 Ethernetユニット(MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

・ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。

・MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定の「局番⇄IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇄IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか)を指定してください。

*2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

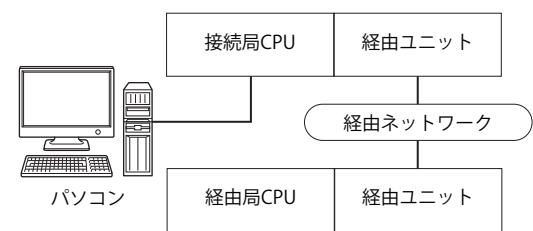
0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

1: チャンネル1

2: チャンネル2

接続局がRモーションCPUのCPU USB通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU RモーションCPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU RモーションCPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1*2	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。
*2 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

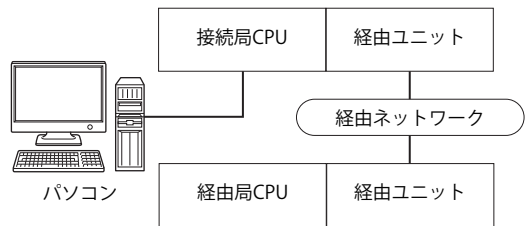
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActIntelligentPreference Bit	0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActMultiDropChannelNumber*1	0(0x00)	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USB
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_RUSB

*1 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

- 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
- 1: チャンネル1
- 2: チャンネル2

接続局がLHCPUのCPU USB通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
LHCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
LHCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

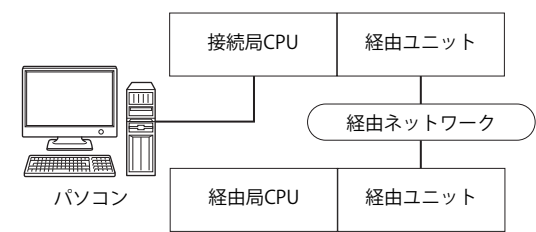
プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 1023(0x3FF)固定
ActMultiDropChannelNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USB
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActPortNumber	1(PORT_1)	1(PORT_1)固定
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL固定
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	• MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) • MELSECNET/10を含む: 1(0x01)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LHUSB

接続局がFX5CPUのCPU USB通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
FX5CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○(2)*2*3
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○(3)*3

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
FX5CPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 FX5UJCPU, FX5SCPUのみアクセス可能です。
*2 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。
*3 FX5SCPUにはアクセスできません。

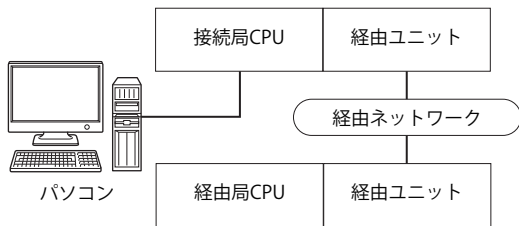
プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)		
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)		
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定		1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActDidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)	1(0x01)	0(0x00)
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)	1(0x01)	0(0x00)
ActHostAddress	1.1.1.1	0(0x00)		
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)		1(0x01)
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)		接続局ユニット番号
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)	対象局側ユニットネット ワークNo.	0(0x00)
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	0x01(PACKET_PLC1)固定		
ActPassword	あき	NULL		
ActPortNumber	1(PORT_1)	1(PORT_1)固定		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USB		
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	255(0xFF)
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)		
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)		
ActThroughNetworkType	0(0x00)	0(0x00)固定		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)		対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXVUSB		

接続局がQCPU(Qモード)のCPU USB通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU(Qモード)		RCPU	RCCPU	RモーショングCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QCPU(Qモード)		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーショングCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)* ¹	○(2)* ²	○(2)* ¹	○(2)* ¹	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)	○(2)	×
	Ethernet	○(2)	×	×	○(2)	○(2)	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)* ³	×	○(3)	×	○(3)	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	○(4)* ⁴

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
QCCPU		RCPU	RCCPU	RモーショングCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QCCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーショングCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)* ¹	○(2)* ²	○(2)* ¹	○(2)* ¹	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)	○(2)	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

- *1 RモーションCPU, Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
- *2 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
- *3 二重化CPUの場合, 基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。
- *4 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUかつ自ネットワークのみサポートしています。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)*1	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 ・ QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) ・ 上記以外: 0(0x00)	対象局 ・ QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) ・ 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber*2	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側ユニットI/O アドレス	接続局側ユニットI/O アドレス
ActMultiDropChannelNumber*3	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USB(0x0D)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QNUSB(0x16)			

*1 Ethernetユニット(Qシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。

- ・ ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
- ・ Qシリーズ対応E71のパラメータ設定の「局番⇄IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇄IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか)を指定してください。

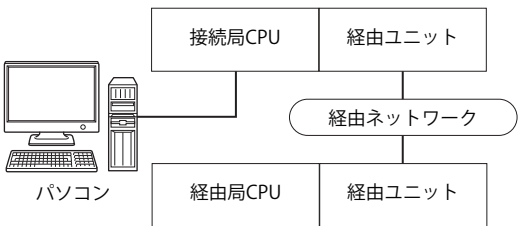
*2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

- 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
- 1: チャンネル1
- 2: チャンネル2

接続局がLCPUのCPU USB通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field ^{*1}	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
LCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field ^{*1}	○(4)	○(4) ^{*2}	○(4)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(4)	×	○(4)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(2) ^{*3}	×	○(2)	×	×	×
	CC-Link	○(3)	○(3)	○(3)	×	×	×

*1 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
*3 二重化CPUの場合、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_1 9200)	0(0x00)固定			
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL固定			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	0x01(PACKET_PLC1)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	1(PORT_1)固定			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USB(0x0D)			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(STOPBIT_ONE)固定			

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(NO_SUM_CHECK)固定			
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LNUSB(0x51)			

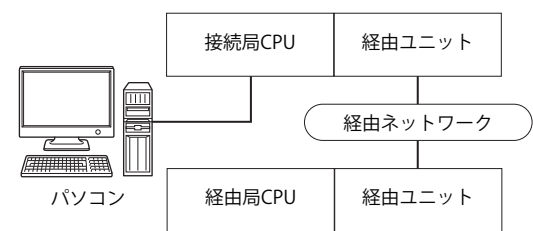
*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

- 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
- 1: チャンネル1
- 2: チャンネル2

接続局がQSCPUのCPU USB通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QSCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QSCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 QSCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

プロパティ一覧

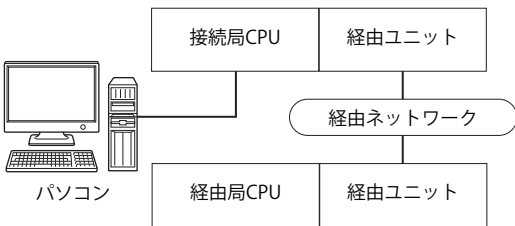
各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USB(0x0D)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QSUSB(0x29)

接続局がQモーションCPUのCPU USB通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU						
QモーションCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	×	

*1 Q172D, Q173D, Q172DS, Q173DSのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

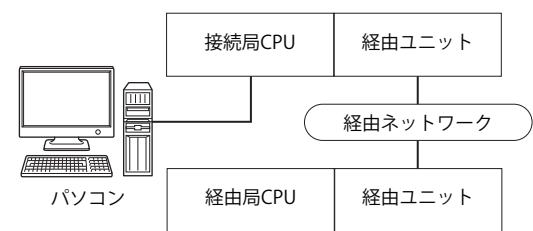
各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActIONumber	1023(0x3FF)	■マルチCPU時 - 管理CPU: 1023(0x3FF) 2号機: 993(0x3E1) 3号機: 994(0x3E2) 4号機: 995(0x3E3)
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USB(0x0D)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QNMOTIONUSB(0x1D)

接続局がFXCPUのCPU USB通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
FXCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	○(2)*1

*1 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

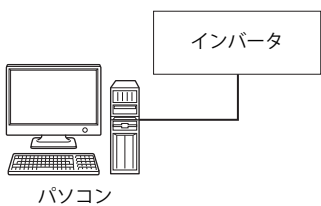
各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
		○(1)	○(2)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	1023(0x3FF)
ActIONumber	1023(0x3FF)	0(0x00)固定	接続局ユニット番号
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USB(0x0D)	
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXCPU(0x0F)	

接続局がインバータのCPU USB通信

構成



10

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

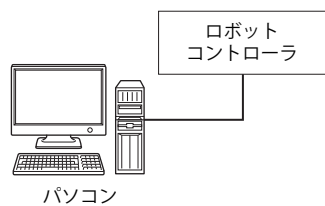
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActMxUnitSeries	0(0x00)	1(0x01)
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	COMM_USB(0x01)
ActStationNumber	255(0xFF)	インバータの局番(0〜31)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	INV_A800(0x1E60)固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActCpuTimeOut	0(0x00)	10ms単位でユーザ任意

Point

インバータ通信時は、プログラム設定タイプのコントロールは使用できません。
ユーティリティ設定タイプのコントロールを使用してください。

接続局がロボットコントローラのCPU USB通信

構成



プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	RC_PROTOCOL_USB(0x04)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	ロボットコントローラ機種(0x013001)
ActTimeOut	10000	受信タイムアウト時間(msec)
ActCpuTimeOut	0(0x00)	送信タイムアウト時間(msec)
ActMultiDropChannelNumber	0(0x00)	リトライ回数
ActMxUnitSeries	0(0x00)	2(0x02)

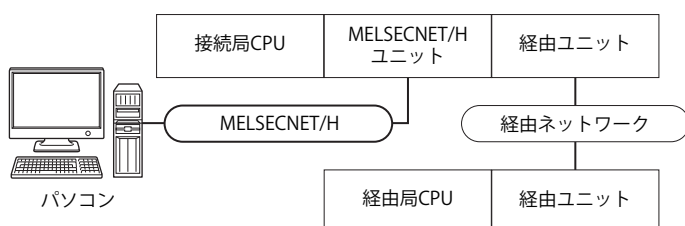
Point

ロボットコントローラ通信時は、プログラム設定タイプのコントロールは使用できません。
ユーティリティ設定タイプのコントロールを使用してください。

10.5 MELSECNET/H通信

構成

10



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

自ボード	接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU				
	QCPU (Qモード)	QSCPU	Qモーション CPU		RCPU	RCCPU	Rモーション CPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(2)	○(2)*1*5	○(2)*1*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×
				CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
				MELSECNET/H	×	×	×	×	×
				Ethernet	×	×	×	×	×
				シリアル コミュニケーション	×	×	×	×	×
				CC-Link	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU					
	QCPU (Qモード)	QSCPU	Qモーション CPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU*5	FXCPU
○(1)	○(2)	○(2)*1*5	○(2)*1*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
				CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	○(2)*1*2	×	×
				MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)*1	×	×
				Ethernet	○(2)	×	×	○(2)*1	×	×
				シリアル コミュニケーション	○(3)*4	×	○(3)*4	×	○(3)	×
				CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

自ボード	接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
	QCCPU			RCPU	RCCPU	Rモーション CPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(2)*6		CC IE TSN	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			シリアル コミュニケーション	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
	QCCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU ^{*5}	FXCPU
○(1)	○(2) ^{*6}	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアル コミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

*1 QSCPUおよびQモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*4 二重化CPUの場合, 基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

*6 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側經由ユニット I/O アドレス	接続局側經由ユニット I/O アドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側ユニットネットワークNo.	接続局側ユニットネットワークNo.
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側MELSECNET/Hボードのポート番号, PORT1~PORT4(1枚目~4枚目)			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_MNETH(0x0F)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	接続局側ユニット局番	接続局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_MNETHBOARD(0x1E)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

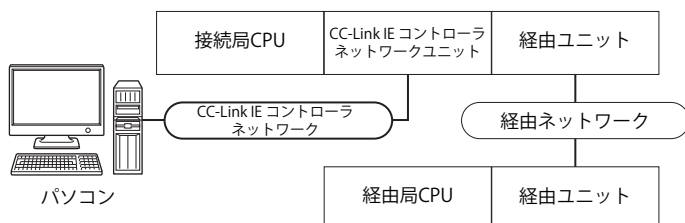
1: チャンネル1

2: チャンネル2

10.6 CC-Link IEコントローラネットワーク通信

接続局がRCPUのCC-Link IEコントローラネットワーク通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	RCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
×	○(2)	CC IE TSN	○(2)	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)* ¹	×	×	×	×
		CC-Link	○(4)	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
	RCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU* ²	FXCPU
×	○(2)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)* ¹	×	○(3)* ¹	×	×	×
		CC-Link	○(4)	×	○(4)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合、マルチドロップ接続ができないため、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

*2 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニット I/O アドレス	接続局側経由ユニット I/O アドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側ユニットネットワークNo.	接続局側ユニットネットワークNo.
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側CC-Link IEコントローラネットワークボードのポート番号, PORT1~PORT4(1枚目~4枚目)			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_MNETG(0x14)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	接続局側ユニット局番	接続局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_MNETGBOARD(0x2B)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

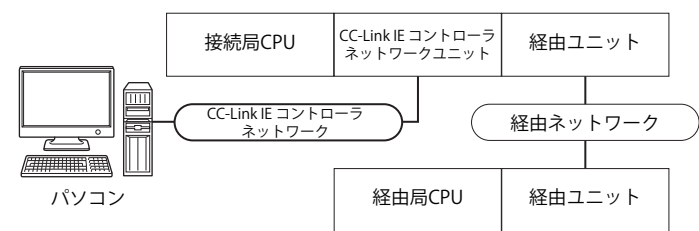
0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

1: チャンネル1

2: チャンネル2

接続局がQシリーズのCC-Link IEコントローラネットワーク通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

自ボード	接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU					
	QCPU (Qモード)	QSCPU	Qモーショ ンCPU		RCPU	RCCPU	Rモーショ ンCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	○(2)	○(2)*1*5	○(2)*1*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
				CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
				MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
				Ethernet	×	×	×	×	×	×
				シリアル コミュニケーション	×	×	×	×	×	×
				CC-Link	×	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU					
	QCPU (Qモード)	QSCPU	Qモーショ ンCPU		QCPU (Qモー ド)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーショ ンCPU*5	FXCPU
○(1)	○(2)	○(2)*1*5	○(2)*1*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
				CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	○(2)*1*2	×	×
				MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)*1	×	×
				Ethernet	○(2)	×	×	○(2)*1	×	×
				シリアル コミュニケーション	○(3)*4	×	○(3)	×	○(3)	×
				CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

自ボード	接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
	QCCPU			RCPU	RCCPU	Rモーショ ンCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(2)*6		CC IE TSN	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			シリアル コミュニケーション	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
	QCCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU ^{*5}	FXCPU
○(1)	○(2) ^{*6}	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケー ション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

*1 QSCPUおよびQモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*4 二重化CPUの場合, 基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

*6 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側經由ユニット I/O アドレス	接続局側經由ユニット I/O アドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側ユニットネットワークNo.	接続局側ユニットネットワークNo.
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側CC-Link IEコントローラネットワークボードのポート番号, PORT1~PORT4(1枚目~4枚目)			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_MNETG(0x14)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	接続局側ユニット局番	接続局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_MNETGBOARD(0x2B)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

1: チャンネル1

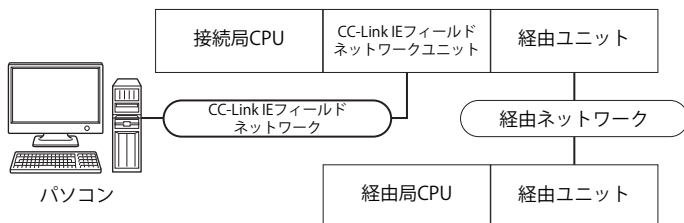
2: チャンネル2

10.7 CC-Link IEフィールドネットワーク通信

接続局がRCPUのCC-Link IEフィールドネットワーク通信

10

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	RCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
×	○(1)	CC IE TSN	○(1)	×	×	×	×
		CC IE Field	○(1)	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(1)	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(2)*1	×	×	×	×
		CC-Link	○(3)	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
	RCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
×	○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(2)*1	×	○(2)*1	×	×	×
		CC-Link	○(3)	×	○(3)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合、マルチドロップ接続ができないため、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニットI/Oアドレス	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側ユニットネットワークNo.	接続局側ユニットネットワークNo.
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側CC-Link IEフィールドネットワークボードのポート番号, PORT1~PORT4(1枚目~4枚目)		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_CCIEF(0x15)		
ActStationNumber	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	接続局側ユニット局番	接続局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_CCIEFBOARD(0x2F)		

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

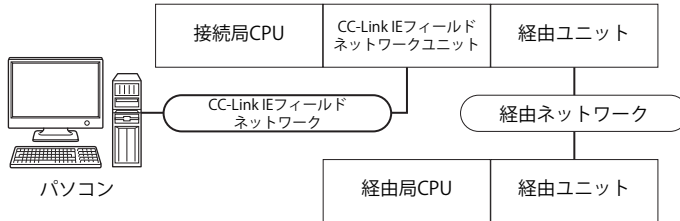
1: チャンネル1

2: チャンネル2

接続局がQCPU(Qモード)またはLCPUのCC-Link IEフィールドネットワーク通信

構成

10



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	QCPU(Qモード)		RCPU	RCCPU	Rモーシヨ ン CPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(2)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
	QCPU(Qモード)		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーシヨ ン CPU	FXCPU
○(1)	○(2)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*1	○(2)*2	×	×	×
		MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	LCPU		RCPU	RCCPU	Rモーシヨ ン CPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(2)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Field*2	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
	LCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーシヨ ン CPU	FXCPU
○(1)	○(2)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field*2	○(2)	×	○(2)	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

*1 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*2 LCPHは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側經由ユニット I/Oアドレス	接続局側經由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側ユニットネットワークNo.	接続局側ユニットネットワークNo.
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側CC-Link IEフィールドネットワークボードのポート番号、PORT1～PORT4(1枚目～4枚目)			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_CCIEF(0x15)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	接続局側ユニット局番	接続局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	- MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) - MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_CCIEFBOARD(0x2F)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャネルを使用

1: チャネル1

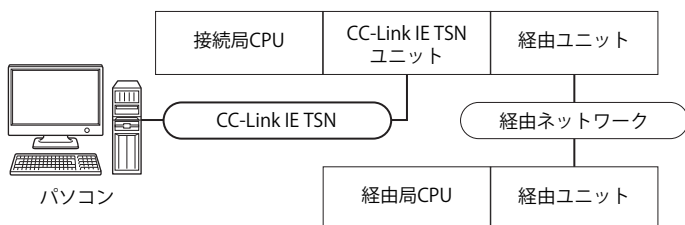
2: チャネル2

10.8 CC-Link IE TSN通信

接続局がRCPUのCC-Link IE TSN通信

10

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	RCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(2)	CC IE TSN	○(2)	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
	RCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)	○(2)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	×	○(2)*1	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
		○(1)	○(2)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側CC-Link IE TSNボードのポート番号, PORT1~PORT4(1枚目~4枚目)	
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_CCIEFSN	
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)	
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_CCIEFSNBOARD	

*1 I/Oアドレスは, 実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

1: チャンネル1

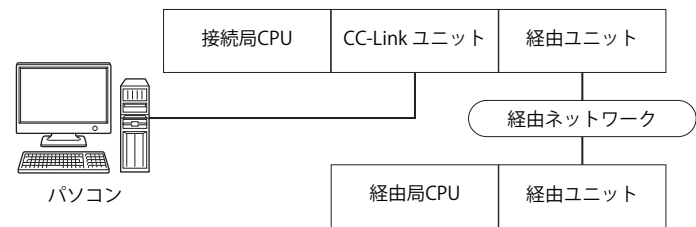
2: チャンネル2

10.9 CC-Link通信

接続局がRCPUのCC-Link通信

10

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	RCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
×	○(1)	CC IE TSN	○(2)	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
	RCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
×	○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	×	○(2)*1	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

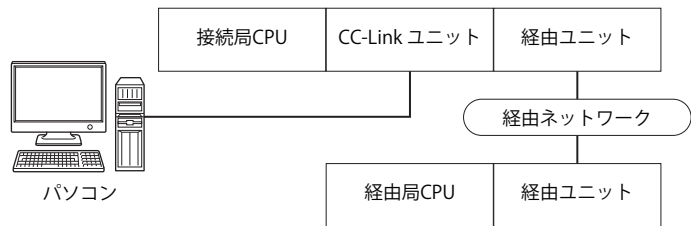
各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
		○(1)	○(2)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationIONumber	0(0x00)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	1023(0x3FF)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側CC-Link Ver.2ボードのポート番号, PORT1~PORT4(1枚目~4枚目)	
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_CCLINK(0x07)	
ActStationNumber	255(0xFF)	対象局側CC-Linkユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側CC-Linkユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_CCLINKBOARD(0x0C)	

接続局がLCPUのCC-Link通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
	LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(2)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
	LCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	○(2)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

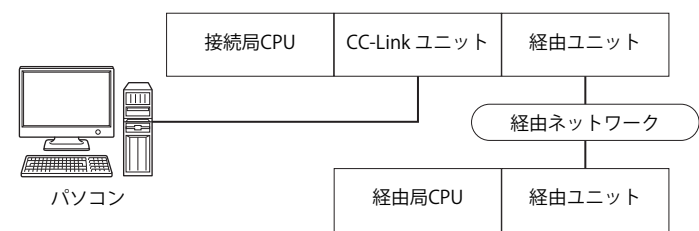
プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
		○(1)	○(2)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 1023(0x3FF)固定
ActIONumber	1023(0x3FF)	0(0x00)固定	1023(0x3FF)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側CC-Link Ver.2ボードのポート番号, PORT1~PORT4(1枚目~4枚目)	
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_CCLINK(0x07)	
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側CC-Linkユニット局番
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_CCLINKBOARD(0x0C)	

接続局がQシリーズのCC-Link通信

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

自ボード	接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
	QCPU (Qモード)	Qモーション CPU		RCPU	RCCPU	Rモーション CPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(2)	○(2) ^{*1*4}	CC IE TSN	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
	QCPU (Qモード)	Qモーション CPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)	○(2)	○(2) ^{*1*4}	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	○(3)	○(3) ^{*2}	○(3) ^{*3}	○(3) ^{*2}	○(3) ^{*2}	×
			MELSECNET/H	○(3)	○(3)	×	○(3)	○(3)	×
			Ethernet	○(3)	×	×	○(3)	○(3)	×
			シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
	QCCPU			RCPU	RCCPU	Rモーション CPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(2) ^{*5}		CC IE TSN	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

自ボード	接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
	QCCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)	○(2)* ⁵	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(3)	○(3)* ²	×	○(3)* ²	○(3)* ²	×
		MELSECNET/H	○(3)	○(3)	×	○(3)	○(3)	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*4 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

*5 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

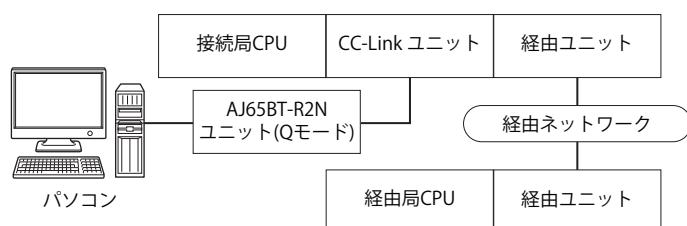
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActIONumber	1023(0x3FF)	0(0x00)固定	1023(0x3FF)固定	1023(0x3FF)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側CC-Link Ver.2ボードのポート番号, PORT1~PORT4(1枚目~4枚目)		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_CCLINK(0x07)		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側CC-Linkユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	接続局側CC-Linkユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_CCLINKBOARD(0x0C)		

10.10 CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信

構成

10



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU(Qモード)	QモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(2)*1*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
QCPU(Qモード)	QモーションCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	○(2)*1*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	○(2)*2	○(2)*2	×
		MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)	○(2)	×
		Ethernet	○(2)	×	×	○(2)	○(2)	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QCCPU	RCPU		RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*4		CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
QCCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)*4	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	○(2)*2	○(2)*2	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	○(2)	○(2)	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 QモーションCPUを経由して経路局CPUにアクセスできません。

*2 RモーションCPU, Q12DCCPU-V(基本機能モード), QSCPU, QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*3 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*4 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q26DHCCPU-LSは, 通信経路が未サポートのためアクセスできません。

*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200		
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番		
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる		
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActIOnumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側經由ユニットI/Oアドレス
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポートNo.		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL(0x04)		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_G4QNCPU(0x1B)		

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

10.11 GX Simulator2通信

アクセス可否

○: アクセス可能, ×: アクセス不可

対象局	接続先CPU										
	RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
他局	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○

プロパティ一覧

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActTargetSimulator	0(0x00)	プロパティ [ActTargetSimulator]を参照 174ページ プロパティの詳細
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_SIMULATOR2(0x30)

10.12 GX Simulator3通信

アクセス可否

○: アクセス可能, ×: アクセス不可

対象局	接続先CPU										
	RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
他局	○*1	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×	×

*1 対応しているCPUタイプを下記に示します。

接続先CPU	CPUタイプ
RCPU	R00, R01, R02, R04, R04EN, R08, R08EN, R08P, R08PSF, R08SF, R16, R16EN, R16P, R16PSF, R16SF, R32, R32EN, R32P, R32PSF, R32SF, R120, R120EN, R120P, R120PSF, R120SF
FX5CPU	FX5U, FX5UJ

プロパティ一覧

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)
ActHostAddress	1.1.1.1	ループバックアドレス(127.0.0.1)
ActIONumber	1023(0x3FF)	0(0x00)
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)
ActPassword	あき	0(0x00)
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)
ActStationNumber	255(0xFF)	対象局に該当するシステム番号
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	0(0x00)固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_SIMULATOR3(0x31)
ActTargetSimulator	0(0x00)	対象局に該当する機種番号

10.13 MT Simulator2通信

アクセス可否

○: アクセス可能, ×: アクセス不可

対象局	接続先CPU										
	RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
他局	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×

プロパティ一覧

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActTargetSimulator	0(0x00)	プロパティ [ActTargetSimulator]を参照 174ページ プロパティの詳細
ActCpuType	CPU_Q02CPU	対象局に該当するCPUタイプ(QモーションCPU)
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_SIMULATOR2(0x30)

10.14 MELSOFT Mirror通信

アクセス可否

○: アクセス可能, ×: アクセス不可

対象局	接続先CPU										
	RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
他局	○*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

*1 対応しているCPUタイプを下記に示します。

接続先CPU	CPUタイプ
RCPU	R04, R08, R08P, R16, R16P, R32, R32P, R120, R120P

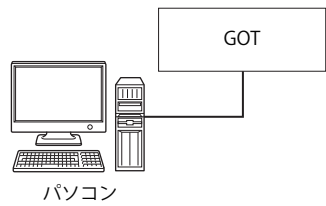
プロパティ一覧

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_RETHETHER_LCS(0x1008)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActMirrorURL	あき	接続するMELSOFT MirrorのURL
ActMirrorSystemID	1(0x01)	接続するMELSOFT MirrorのシステムID.
ActMirrorSlotNumber	0(0x00)	接続するMELSOFT MirrorのスロットNo.
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意

10.15 GOTゲートウェイデバイス通信

構成



プロパティ一覧

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
ActHostAddress	1.1.1.1	接続するGOTのホスト名またはIPアドレス
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_UDPIP(0x08)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_A900GOT(0x21)

10.16 GOTトランスペアレント通信

10

Point

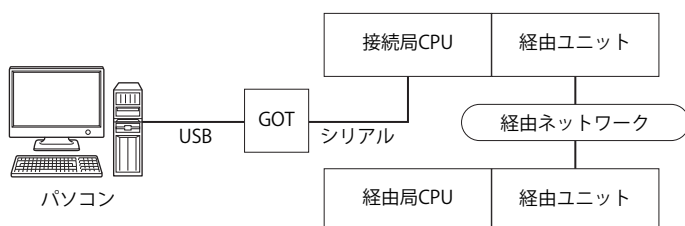
使用可能なシステム構成は、下記のマニュアルを参照してください。

📖使用するGOTの各接続マニュアル

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: 直結(1)

接続局がFX5CPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○(2)*1*2	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	○(3)*2	
接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

*2 FX5CPUにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

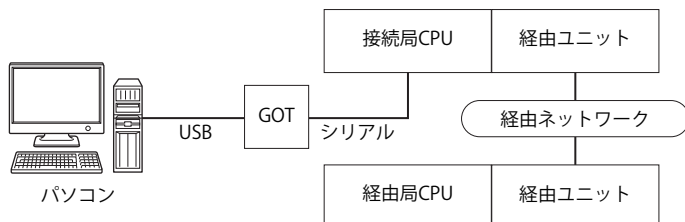
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)		
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)		
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)		
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)		1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActDidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)		
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)		
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL		
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)		1(0x01)
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)		接続局ユニット番号
ActMultiDropChannelNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1(0x01)		
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)		
ActPassword	Null	Null		
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)		
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)		
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)		
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	255(0xFF)
ActTargetSimulator	0(0x00)	0(0x00)		
ActThroughNetworkType	0(0x00)	0(0x00)		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)		対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXVCP(0x2005)		

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: 直結(2)

接続局がQCPU(Qモード), QモーションCPU, またはQCCPUの場合

構成

10



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU (Qモード)	Qモーション CPU	QCCPU		RCPU	RCCPU	Rモーション CPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*1	○(1)*2	○(1)*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			Ethernet	×	×	×	×	×
			シリアルコミュニケー ション	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU			経由ネットワーク	経由局CPU					
QCPU (Qモード)	Qモーション CPU	QCCPU		QCPU (Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)*1	○(1)*2	○(1)*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*3	○(2)*4	×	○(2)*3	×
			MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	○(2)	×
			Ethernet	○(2)	×	×	×	○(2)	×
			シリアルコミュニ ケーション	○(3)	×	○(3)	×	○(3)	×
			CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

*2 QモーションCPUを経由して経路局CPUにアクセスできません。

*3 RモーションCPU, Q12DCCPU-V(基本機能モード), QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*4 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側ユニットI/Oア ドレス	接続局側ユニットI/Oア ドレス
ActMultiDropChannelNum ber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネ ルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネッ トワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_ SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QNCPU(0x13)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

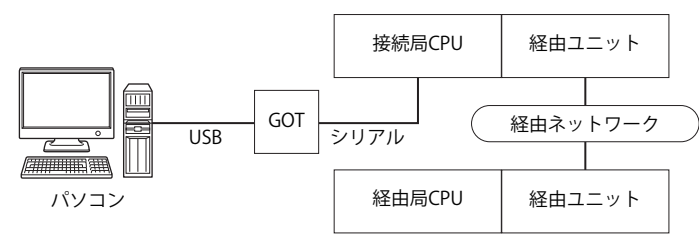
1: チャンネル1

2: チャンネル2

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: 直結(3)

接続局がLCPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Field*2	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*2	○(4)	○(4)*3	○(4)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(4)	×	○(4)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(2)	×	○(2)	×	○(2)	×
	CC-Link	○(3)	○(3)	○(3)	×	○(3)	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
*2 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

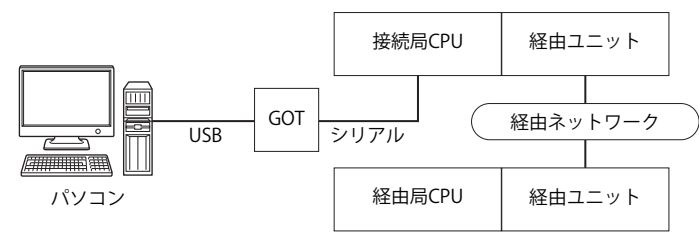
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_1 9200)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	0(0x00)固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL固定			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LNCPU(0x50)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: 直結(4)

接続局がFXCPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	○(2)*1

*1 FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

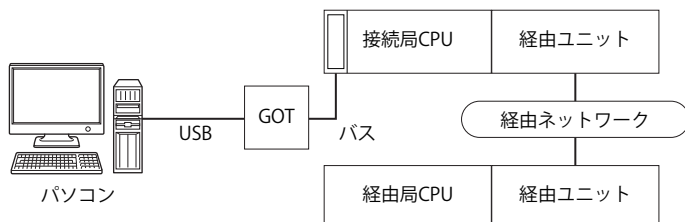
各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
		○(1)	○(2)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)	1023(0x3FF)固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	0(0x00)	1(0x01)固定
ActIONumber	1023(0x3FF)	0(0x00)	接続局ユニット番号
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)	
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)	対象局ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_FXCPU(0x0F)	

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: バス

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU				
QCPU (Qモード)	QモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*1	○(1)*2*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU					
QCPU (Qモード)	QモーションCPU		QCPU (Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	○(1)*2*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*3	○(2)*4	×	○(2)*3	×
		MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	○(2)	×
		Ethernet	○(2)	×	×	×	○(2)	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	○(3)	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU				
QCCPU			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)		CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QCCPU		QCPU (Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*3	○(2)*4	×	○(2)*3	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケー ション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

*2 QモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。

*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード)およびQモーションCPUは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*4 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*5 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActTimeOut ^{*3}	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_A900GOT(0x21)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

1: チャンネル1

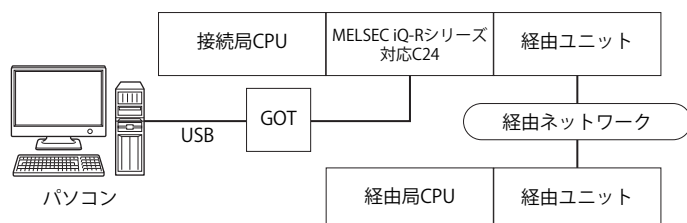
2: チャンネル2

*3 0～5000[ms]を指定した場合、5000msに丸められます。また、255000msより大きい値を設定した場合は、255000msに丸められますので注意してください。

パソコン側ポート:USB, GOT2000側ポート:USB, CPU側ポート:シリアルコミュニケーションユニット(1)

接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24のほかに経路ユニットが存在する場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU				
RCP	RモーションCPU		RCP	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(1)*1*3	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)*2	○(2)	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×

接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU					
RCP	RモーションCPU		QCP (Qモード)	QCCPU	LCP	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	○(1)*1*3	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	×	○(2)*2	×	×	×
		MELSECNET/H	○(2)	×	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
		CC-Link	○(4)	×	○(4)	×	×	×

*1 RモーションCPUを経由して経路局CPUにアクセスできません。

*2 RCP, LCPは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*3 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

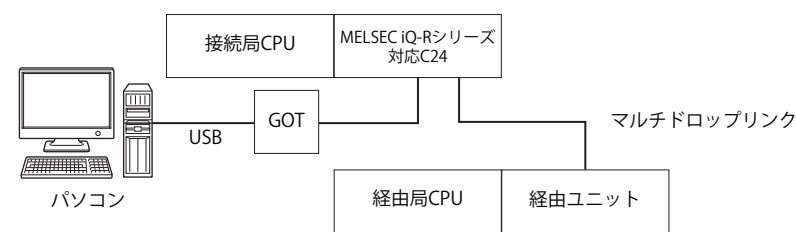
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)*1	○(3)	○(4)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber*2	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIONumber*2	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側經由ユニット I/Oアドレス	接続局側經由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber*3	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT			
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL固定			
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTSDTR)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定			
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_RJ71C24			

- *1 Ethernetユニット(MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。
 - ・ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
 - ・MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定の「MNET/10ルーチング情報」を設定してください。また、設定を行う際、「MNET/10ルーチング方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか)を指定してください。
- *2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2

パソコン側ポート:USB, GOT2000側ポート:USB, CPU側ポート:シリアルコミュニケーションユニット(2)

接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応C24で経由ユニットとマルチドロップリンクを行う場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
RCPU, RモーションCPU*1*4			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
独立モード*3	○(1)	シリアルコミュニケーション	○(2)	×	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU, RモーションCPU*1*4			QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
独立モード*3	○(1)	シリアルコミュニケーション	○(2)	×	○(2)	×	×	×

- *1 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。
- *2 二重化CPUの場合はアクセスできません。
- *3 独立モードは、パラメータを下記のとおりに設定した場合を示します。
 - ・CH1側: 伝送設定の動作設定=独立(0), 交信プロトコル設定=0
 - ・CH2側: 伝送設定の動作設定=独立(0)
- *4 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
		○(1)	○(2)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番	
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationIONumber ^{*1}	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT	
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1	
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定	
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定	
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL固定	
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定	
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定	
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定	
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定	
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定	
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定	
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)	
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_RJ71C24	

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャネルを使用

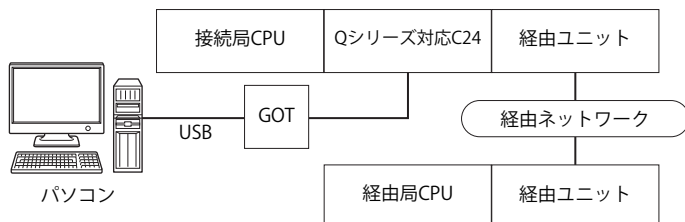
1: チャネル1

2: チャネル2

パソコン側ポート:USB, GOT2000側ポート:USB, CPU側ポート:シリアルコミュニケーションユニット(3)

接続局側Qシリーズ対応C24のほかに経路ユニットが存在する場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU				
QCPU (Qモード)	QモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*1	○(1)*2*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU					
QCPU (Qモード)	QモーションCPU		QCPU (Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	○(1)*2*5	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*3	○(2)*4	×	○(2)*3	×
		MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	○(2)	×
		Ethernet	○(2)	×	×	×	○(2)	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	○(3)	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	○(4)	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

*2 QモーションCPUを経由して経路局CPUにアクセスできません。

*3 RモーションCPU, Q12DCCPU-V(基本機能モード), QモーションCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*4 LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*5 マルチCPU構成時の, 2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QJ71C24(0x19)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

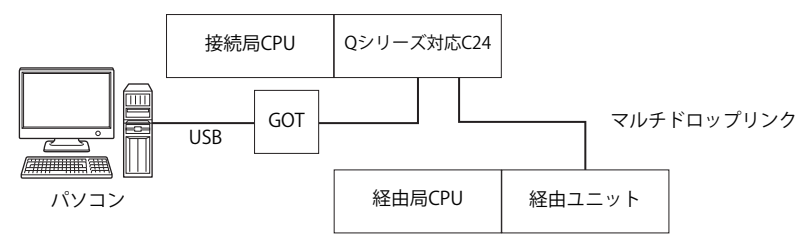
1: チャンネル1

2: チャンネル2

パソコン側ポート:USB, GOT2000側ポート:USB, CPU側ポート:シリアルコミュニケーションユニット(4)

接続局側Qシリーズ対応C24で経由ユニットとマルチドロップリンクを行う場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU(Qモード)*1			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
独立モード*2	○(1)	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
QCPU(Qモード)*1			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
独立モード*2	○(1)	シリアルコミュニケーション	○(2)	×	○(2)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

*2 独立モードは、パラメータを下記のとおりに設定した場合を示します。

- ・CH1側: 伝送設定の動作設定=独立(0), 交信プロトコル設定=0
- ・CH2側: 伝送設定の動作設定=独立(0)

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
		○(1)	○(2)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番	
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)	
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	
ActThroughNetworkType	0(0x00)	- MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) - MELSECNET/10を含む: 1(0x01)	
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_QJ71C24(0x19)	

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

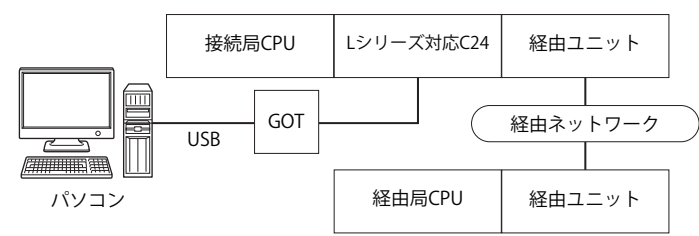
1: チャンネル1

2: チャンネル2

パソコン側ポート:USB, GOT2000側ポート:USB, CPU側ポート:シリアルコミュニケーションユニット(5)

接続局側Lシリーズ対応C24のほかに経路ユニットが存在する場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Field*2	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*2	○(4)	○(4)*3	○(4)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(4)	×	○(4)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(2)	×	○(2)	×	○(2)	×
	CC-Link	○(3)	○(3)	○(3)	×	○(3)	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
*2 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_1 9200)	0(0x00)固定			
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	0(0x00)固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	NULL固定			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LJ71C24(0x54)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャネルを使用

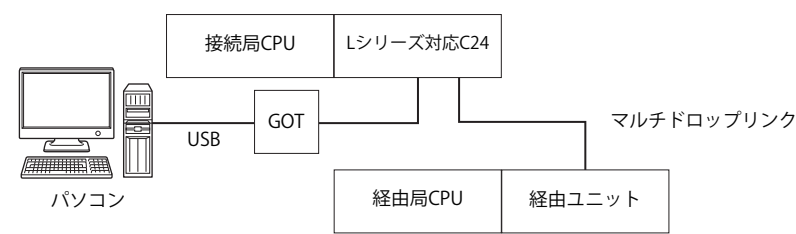
1: チャネル1

2: チャネル2

パソコン側ポート:USB, GOT2000側ポート:USB, CPU側ポート:シリアルコミュニケーションユニット(6)

接続局側Lシリーズ対応C24で経由ユニットとマルチドロップリンクを行う場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
LCPU			RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
独立モード*2	○(1)	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
LCPU			QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
独立モード*2	○(1)	シリアルコミュニケーション	○(2)	×	○(2)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

*2 独立モードは、パラメータを下記のとおりに設定した場合を示します。

- ・CH1側: 伝送設定の動作設定=独立(0), 交信プロトコル設定=0
- ・CH2側: 伝送設定の動作設定=独立(0)

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン	
		○(1)	○(2)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	接続局側ユニット局番	
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ	
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	接続局側経由ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)	
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	
ActThroughNetworkType	0(0x00)	- MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) - MELSECNET/10を含む: 1(0x01)	
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意	
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_LJ71C24(0x54)	

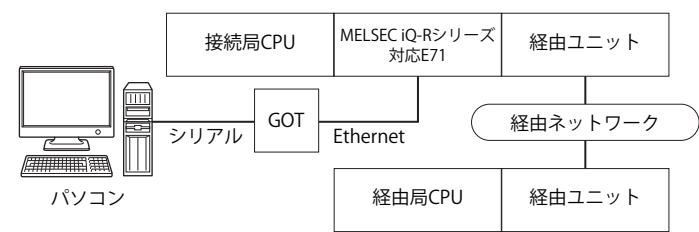
*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

- 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
- 1: チャンネル1
- 2: チャンネル2

パソコン側ポート: シリアル, GOT2000側ポート: シリアル, CPU側ポート: MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	○(2)	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケー ション	○(3)	×	×	×	×	
	CC-Link	○(4)	○(4)	×	×	×	

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
RCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(2)	×	○(2)	×	×	×
	シリアルコミュニケー ション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
	CC-Link	○(4)	×	○(4)	×	×	×

*1 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	BAUDRATE_9600, BAUDRATE_19200, BAUDRATE_38400, BAUDRATE_57600, BAUDRATE_115200			
ActConnectUnitNumber ^{*1}	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5001 OPS接続時 自局ポートNo. ^{*3}			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber ^{*2}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*4}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*5}	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71ネットワークNo.	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71ネットワークNo.
ActPortNumber	1(PORT_1)	パソコン側COMポート番号			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_SERIAL			
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1			
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	使用ケーブルによる			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	8(0x08)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	1(0x01)固定			
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定			
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActSourceNetworkNumber ^{*6}	0(0x00)	GOT側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*7}	0(0x00)	GOT側局番			
ActStationNumber ^{*5}	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71局番	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOT_RJ71EN71			

- *1 プロパティのパターンが○(2)の場合、接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のEthernet/パラメータで設定した接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71の局番を指定してください。
- *2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *3 二重化CPU接続時にOPS接続の機能を使用する場合は、ネットワークパラメータの「自局ポート番号」で設定したポートNo.を指定してください。
- *4 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 1: チャンネル1
 2: チャンネル2
- *5 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *6 対象局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のEthernet/パラメータ設定で、MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71に設定したMELSECNET/10用ネットワークNo.と同一のネットワークNo.を指定してください。
- *7 Ethernetの同一ループ内でのMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、GOT側の局番を指定してください。

10

接続局CPU MELSEC iQ-Rシリーズ 対応E71 経路ユニット

パソコン GOT 経路ネットワーク 経路局CPU 経路ユニット

USB Ethernet

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

*1 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。
*2 ネットワークを経由した経路とは通信出来ません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

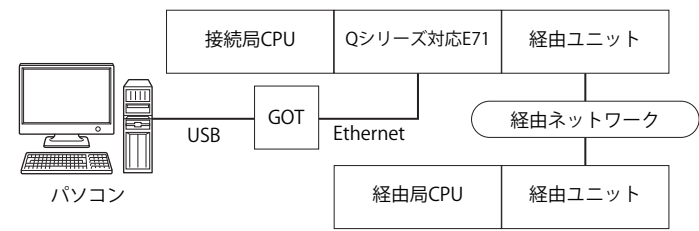
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActConnectUnitNumber ^{*1}	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5001 OPS接続時 自局ポートNo. ^{*3}			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber ^{*2}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*4}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*5}	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71ネットワークNo.	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71ネットワークNo.
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT			
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定			
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActSourceNetworkNumber ^{*6}	0(0x00)	GOT側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*7}	0(0x00)	GOT側局番			
ActStationNumber ^{*5}	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71局番	接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOT_RJ71EN71			

- *1 プロパティのパターンが○(2)の場合、接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のEthernet/パラメータで設定した接続局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71の局番を指定してください。
- *2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *3 二重化CPU接続時にOPS接続の機能を使用する場合は、ネットワークパラメータの「自局ポート番号」で設定したポートNo.を指定してください。
- *4 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *5 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *6 対象局側MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のEthernet/パラメータ設定で、MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71に設定したMELSECNET/10用ネットワークNo.と同一のネットワークNo.を指定してください。
- *7 Ethernetの同一ループ内でのMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、GOT側の局番を指定してください。

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Qシリーズ対応E71

構成



接続局のQシリーズ対応E71にリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。

アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU				
QCPU(Qモード)	QCCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*1	○(1)*4	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU		経路ネットワーク	経路局CPU					
QCPU(Qモード)	QCCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	○(1)*4	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	×	×	×
		MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
		Ethernet	○(2)	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
*3 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
*4 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

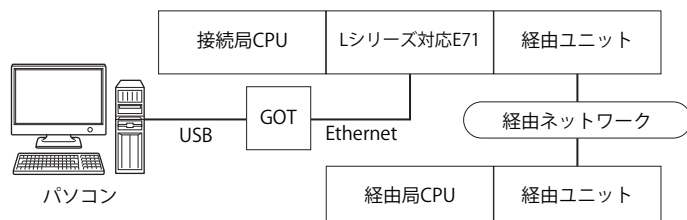
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5001			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3}	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側Qシリーズ対応E71ネットワークNo.	接続局側Qシリーズ対応E71ネットワークNo.
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	GOT側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*4}	0(0x00)	GOT側局番			
ActStationNumber ^{*3}	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側Qシリーズ対応E71局番	接続局側Qシリーズ対応E71局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOT_QJ71E71(0x40)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *4 Ethernetの同一ループ内でのQシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、GOT側の局番を指定してください。

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Lシリーズ対応E71

構成

10



接続局のLシリーズ対応E71にリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。

アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	
接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
LCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	×	×	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
	Ethernet	○(2)	○(2)	○(2)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)*4	○(3)*4	○(3)*4	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*3 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*4 二重化CPUの場合、マルチドロップ接続ができないため、基本ベースユニット上にあるシリアルコミュニケーションユニットにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

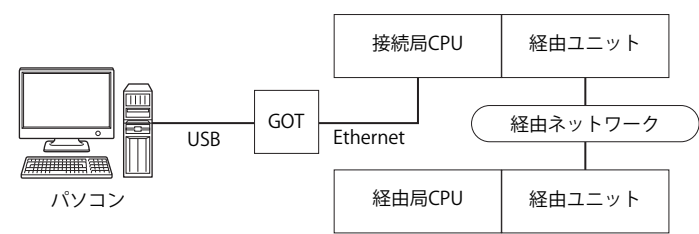
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_1 9200)	0(0x00)固定			
ActConnectUnitNumber ^{*1}	0(0x00)	0(0x00)固定	接続局側ユニット局番	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber ^{*2}	0(0x00)	5001 OPS接続時 自局ポートNo.			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIONumber ^{*3}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*4}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*5}	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側Lシリーズ対応E71ネットワークNo.	接続局側Lシリーズ対応E71ネットワークNo.
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)			
ActSourceNetworkNumber ^{*6}	0(0x00)	GOT側ネットワークNo.			
ActSourceStationNumber ^{*7}	0(0x00)	GOT側局番			
ActStationNumber ^{*5}	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側Lシリーズ対応E71局番	接続局側Lシリーズ対応E71局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOT_LJ71E71(0x5D)			

- *1 プロパティのパターンが○(2)の場合、接続局側Lシリーズ対応E71のEthernet パラメータで設定した接続局側Lシリーズ対応E71の局番を指定してください。
- *2 二重化CPU接続時にOPS接続の機能を使用する場合は、ネットワークパラメータの「自局ポート番号」で設定したポートNo.を指定してください。
- *3 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *4 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *5 プロパティのパターンが○(1)または○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。
- *6 対象局側Lシリーズ対応E71のEthernetパラメータ設定で、Lシリーズ対応E71に設定したMELSECNET/10用ネットワークNo.と同一のネットワークNo.を指定してください。
- *7 Ethernetの同一ループ内でのLシリーズ対応E71に設定した局番と重複しないように、GOT側の局番を指定してください。

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetポート(1)

接続局がRCPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU			経路ネットワーク	経由局CPU				
RCPU	RCCPU	RモーションCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	○(1)*3	○(1)*1*3	CC IE TSN	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	○(2)*2	○(2)	×	×	○(2)*4*5
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×
			Ethernet	○(2)	×	×	×	×
			シリアルコミュニケーション	○(3)	×	×	×	×
			CC-Link	○(4)	○(4)	×	×	○(4)*5

接続局CPU			経路ネットワーク	経由局CPU					
RCPU	RCCPU	RモーションCPU		QCPU(Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	○(1)*3	○(1)*1*3	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
			CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
			MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
			Ethernet	×	×	○(2)	×	×	×
			シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
			CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 RモーションCPUを経由して経由局CPUにアクセスできません。
*2 RCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
*3 マルチCPU構成時の、2号機以降の場合のみアクセス可能です。
*4 接続局CPUがRCPUのCC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。
*5 FX5CPUにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

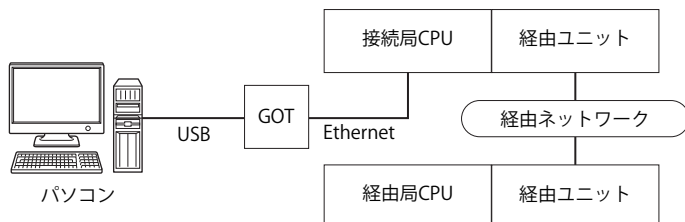
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)*1	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber*2	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 RCPU, QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 RCPU, QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber*2	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber*3	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber*4	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT			
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1			
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定			
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定			
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5006			
ActStationNumber*4	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			MELSECNET/10を含まない: 0(0x00)
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOT_RETHET			

- *1 Ethernetユニット(MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。
 - ・ ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
 - ・ MELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のパラメータ設定の「MNET/10ルーチング情報」を設定してください。また、設定を行う際、「MNET/10ルーチング方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式、テーブル変換方式、併用方式のいずれか)を指定してください。
- *2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *4 プロパティのパターンが○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetポート(2)

接続局がFX5CPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○(2)*1*2	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケー ション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○(3)*2	

接続局CPU	経路ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケー ション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

*2 FX5SCPUにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

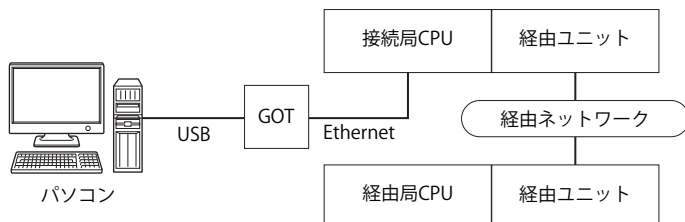
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)		
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)		
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)		
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)		1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5562		
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)		0(0x00)
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)		0(0x00)
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス		接続局CPUのIPアドレス
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)		1(0x01)
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)		接続局ユニット番号
ActMultiDropChannelNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)
ActPacketType	0x01(PACKET_PL1)	PACKET_PL1(0x01)		
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)		
ActPassword	Null	Null		
ActPortNumber	1(PORT_1)	1(0x01)		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)		
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)		
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)		
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	255(0xFF)
ActTargetSimulator	0(0x00)	0(0x00)		
ActThroughNetworkType	0(0x00)	0(0x00)		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)		対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOT_FXVETHER(0x2007)		

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetポート(3)

接続局がQCPU(モード)またはQCCPUの場合

構成

10



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU ^{*1}	経路ネットワーク	経由局CPU				
QnUDE(H)CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU ^{*1}	経路ネットワーク	経由局CPU					
QnUDE(H)CPU		QCPU(Qモード) ^{*2}	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2) ^{*3}	○(2) ^{*4}	×	×	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
	Ethernet	○(2)	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

接続局CPU ^{*1}	経路ネットワーク	経由局CPU				
QCCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU*1	経由ネットワーク	経由局CPU					
QCCPU		QCPU(Qモード)*2	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*3	○(2)*4	×	×	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

*1 接続局CPUにリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。

*2 二重化CPUの場合はアクセスできません。

*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*4 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

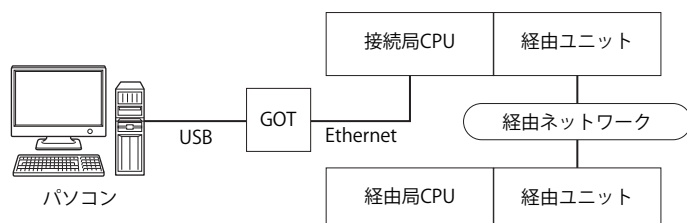
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)*1	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber*2	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber*3	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber*4	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)			
ActStationNumber*4	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOT_QNETHER(0x41)			

- *1 Ethernetユニット(Qシリーズ対応E71)経由のアクセスは、下記の事項に注意してください。
 - ・ActNetworkNumber, ActStationNumberは、対象局側のQシリーズ対応E71のパラメータ設定で設定した値を指定してください。
 - ・Qシリーズ対応E71のパラメータ設定の「局番⇄IP関連情報」を設定してください。また、設定を行う際、「局番⇄IP関連情報設定方式」は自動応答方式以外(IPアドレス算出方式, テーブル変換方式, 併用方式のいずれか)を指定してください。
- *2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *4 プロパティのパターンが○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetポート(4)

接続局がLCPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU ^{*1}	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Field ^{*3}	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU ^{*1}	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		QCPU (Qモード) ^{*2}	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field ^{*3}	○(4)	○(4) ^{*4}	○(4)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○(4)	×	○(4)	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(2)	×	○(2)	×	×	×
	CC-Link	○(3)	○(3)	○(3)	×	×	×

*1 接続局CPUにリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。

*2 二重化CPUの場合はアクセスできません。

*3 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*4 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

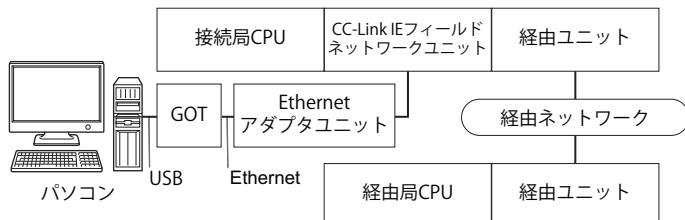
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_1 9200)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5006			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	接続局側ユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOT_LNETHER(0x55)			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2

パソコン側ポート:USB, GOT2000側ポート:USB, CPU側ポート: Ethernetアダプタユニット

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
QnUDE(H)CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
QnUDE(H)CPU		QCPU (Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	×	×	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
	Ethernet	○(2)	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Field*3	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		QCPU (Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*3	○(2)	×	○(2)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケー ション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*3 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	Ethernetアダプタユニットのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側経由ユニット I/O アドレス	接続局側経由ユニット I/O アドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*3}	0(0x00)	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニットネットワークNo.	対象局側ユニットネットワークNo.	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニットネットワークNo.	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニットネットワークNo.
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT(0x13)			
ActStationNumber ^{*3}	255(0xFF)	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニット局番	対象局側ユニット局番	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニット局番	接続局側CC-Link IEフィールドネットワークユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOT_NZ2GF_ETB(0x5B)			

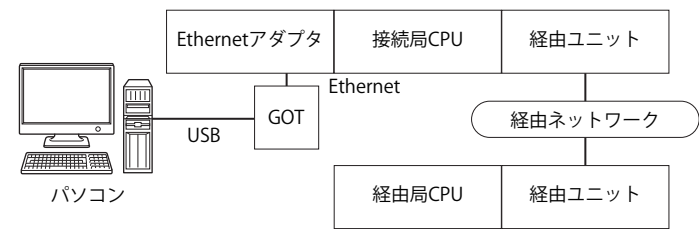
- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *3 プロパティのパターンが○(1)○(3)○(4)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のCC-Link IEフィールドネットワークユニットのパラメータで設定した値を指定してください。
プロパティのパターンが○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

パソコン側ポート:USB, GOT2000側ポート:USB, CPU側ポート: Ethernetアダプタ/Ethernetユニット

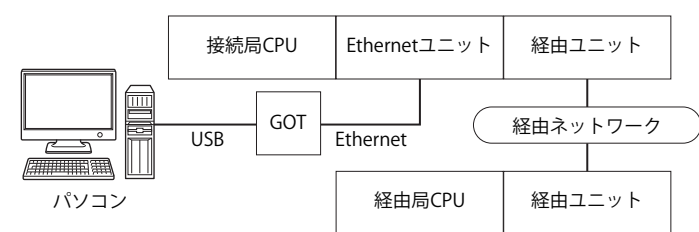
接続局がFXCPUの場合

構成

Ethernetアダプタ:FX3U-ENET-ADPの場合



Ethernetユニット:FX3U-ENET-Lの場合



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
FXCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
FXCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 FX3SCPU(FX3U-ENET-ADP), FX3G(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

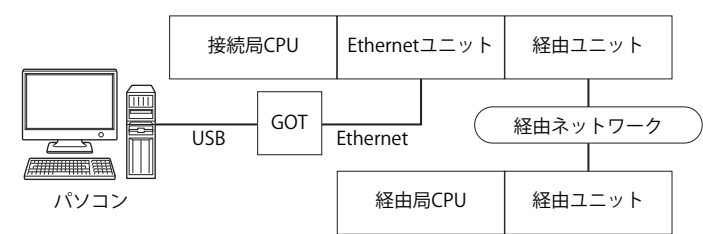
各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActHostAddress	1.1.1.1	FX3U-ENET-ADPユニットのホスト名またはIPアドレス
		FX3U-ENET-Lユニットのホスト名またはIPアドレス
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	FX3U-ENET-ADP: UNIT_GOT_FXETHER
		FX3U-ENET-L: UNIT_GOT_FXENET

パソコン側ポート: USB, GOT2000側ポート: USB, CPU側ポート: Ethernetユニット

接続先CPUがFX5CPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
FX5CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
FX5CPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 FX5UCPU, FX5UJCPUのみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

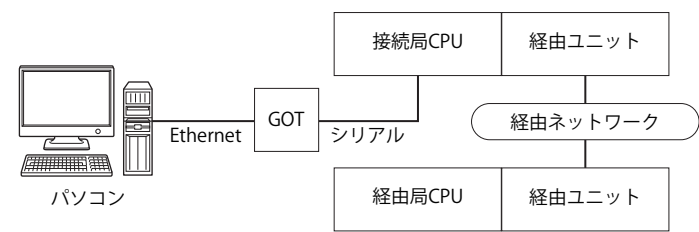
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	5554固定
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)(無効)
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)(無効)
ActHostAddress	1.1.1.1	接続先CPUのホスト名またはIPアドレス

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定
ActMultiDropChannelNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_USBGOT
ActPacketType	0x01(PACKET_PL1)	PACKET_PL1固定
ActPortNumber	1(PORT_1)	PORT_1
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	0(0x00)固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOT_FXVENET

パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアル(1)

接続局がFX5CPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU				
FX5CPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	○(2)*1*2
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	○(3)*2

接続局CPU	経由ネットワーク	経由局CPU					
FX5CPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 CC-Link IEフィールドネットワークのみアクセス可能です。

*2 FX5SCPUにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

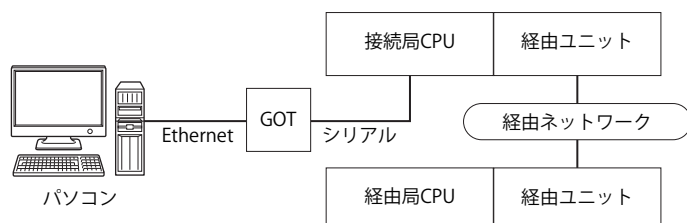
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン		
		○(1)	○(2)	○(3)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)		
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)		
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)		
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ		
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)		
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)		1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	GOTのポートNo.		
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)		0(0x00)
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)		0(0x00)
ActHostAddress	1.1.1.1	GOTのホスト名かIPアドレス		
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)		1(0x01)
ActIONumber	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)		接続局ユニット番号
ActMultiDropChannelNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)	対象局側ユニット ネットワークNo.	0(0x00)
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1(0x01)		
ActParity	1(ODD_PARITY)	1(0x01)		
ActPassword	Null	Null		
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)		
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)		
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)		
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)		
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)		
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)	対象局側ユニット局番	255(0xFF)
ActTargetSimulator	0(0x00)	0(0x00)		
ActThroughNetworkType	0(0x00)	0(0x00)		
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意		
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)		対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOTETHER_FXVCPU(0x2006)		

パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアル(2)

接続局がQCPU(Qモード)またはQCCPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU(Qモード)	QCCPU		RCPU	RCCPU	RモーシヨCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*1	○(1)*4	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケー シヨ	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
QCPU(Qモード)	QCCPU		QCPU (Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーシヨCPU	FXCPU
○(1)*1	○(1)*4	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	×	×	×
		MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケー シヨ	○(3)	×	○(3)	×	×	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*3 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

*4 Q24DHCCPU-V, Q24DHCCPU-LS, Q24DHCCPU-VG, Q24DHCCPU-LSIは、マルチCPU構成時の2号機以降の場合のみアクセス可能です。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	GOTのポート番号			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	GOTのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側ユニットI/O アドレス	接続局側ユニットI/Oア ドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネ ルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネッ トワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SE RIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOTETHER_QNCPU(0x56)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

1: チャンネル1

2: チャンネル2

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	GOTのポート番号			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	GOTのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	接続局側経由ユニット I/O アドレス	接続局側経由ユニット I/O アドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOTETHER_LNCPU(0x57)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

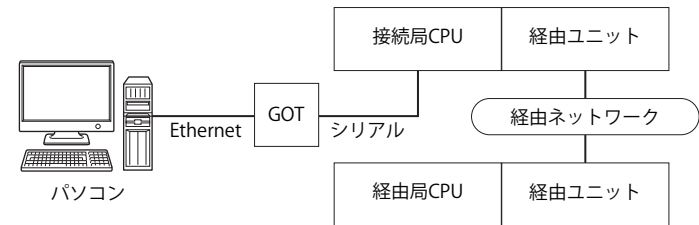
1: チャンネル1

2: チャンネル2

パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアル(4)

接続局がFXCPUの場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経路ネットワーク	経由局CPU					
FXCPU		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

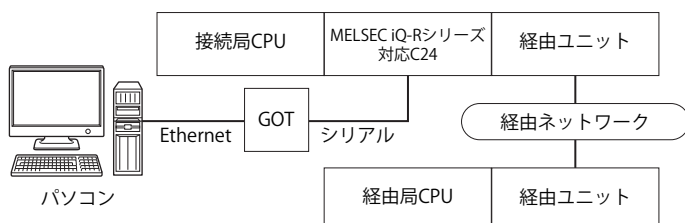
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDestinationPortNumber*1	0(0x00)	GOTのポート番号
ActHostAddress	1.1.1.1	GOTのホスト名かIPアドレス
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOTETHER_FXCPU

*1 ActPortNumberはGOT側で設定した値を指定してください。

パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(1)

接続局側がMELSEC iQ-Rシリーズ対応C24の場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
RCP		RCP	RCCP	RモーションCPU	LHCP	FX5CP
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(4)*1	○(4)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(2)	×	×	×	×
	CC-Link	○(3)	○(3)	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
RCP		QCP (Qモード)	QCCP	LCP	QSCP	QモーションCPU	FXCP
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(4)	×	○(4)*1	×	×	×
	MELSECNET/H	○(4)	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(2)	×	○(2)	×	×	×
	CC-Link	○(3)	×	○(3)	×	×	×

*1 RCP, LCPは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber ^{*1}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActDestinationPortNumber ^{*2}	0(0x00)	GOTのポート番号			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	GOTのホスト名かIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 RCPU, QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 RCPU, QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*3}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*4}	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットのネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCIP			
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1			
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定			
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定			
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定			
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定			
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定			
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定			
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定			
ActSourceNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActSourceStationNumber	0(0x00)	0(0x00)固定			
ActStationNumber ^{*4}	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番

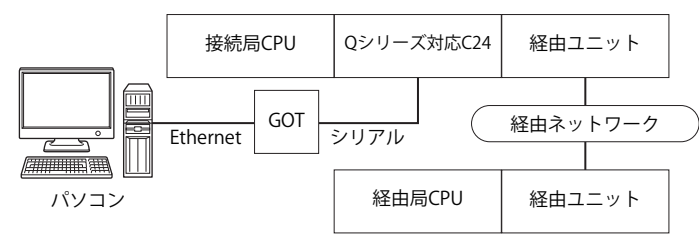
プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOTETHER_RJ71C24			

- *1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。
- *2 ActDestinationPortNumberはGOT側で設定した値を指定してください。
- *3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。
 - 0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用
 - 1: チャンネル1
 - 2: チャンネル2
- *4 プロパティのパターンが○(2)の場合、ActNetworkNumberおよびActStationNumberは対象局側のパラメータで設定した値を指定してください。

パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(2)

接続局側がQシリーズ対応C24の場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU				
QCPU(Qモード)	QCCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*1	○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU		経由ネットワーク	経由局CPU					
QCPU(Qモード)	QCCPU		QCPU (Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
		CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	×	×	×
		MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×
		シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
		CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。
*3 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	GOTのポート番号			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	GOTのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・ 制御系: 976(0x3D0) ・ 指定なし: 1023(0x3FF)	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOTETHER_QNCPU(0x56)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

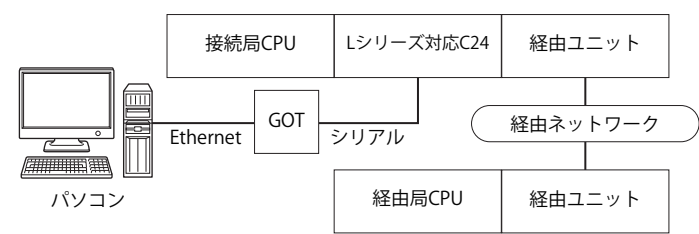
1: チャンネル1

2: チャンネル2

パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: シリアルコミュニケーションユニット(3)

接続局側がLシリーズ対応C24の場合

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Field*2	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
LCPU		QCPU (Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*2	○(4)	○(4)*3	○(4)	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(2)	×	○(2)	×	×	×
	CC-Link	○(3)	○(3)	○(3)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。
*2 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。
*3 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	GOTのポート番号			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	GOTのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*1}	1023(0x3FF)	1023(0x3FF)固定	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	接続局側経由ユニット I/Oアドレス	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3) ■二重化CPU時 ・制御系: 976(0x3D0) ・指定なし: 1023(0x3FF)
ActMultiDropChannelNumber ^{*2}	0(0x00)	0(0x00)固定	マルチドロップチャネルNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOTETHER_LNCPU(0x57)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャネルNo.は下記を指定してください。

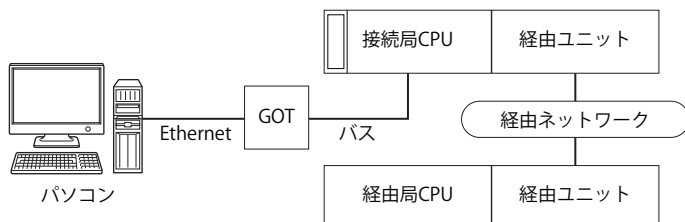
0: ユニットのデフォルトチャネルを使用

1: チャネル1

2: チャネル2

パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000側ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: バス

構成



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
QCPU(Qモード)		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
QCPU(Qモード)		QCPU(Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	QモーションCPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	×	×	×
	CC IE Field	○(2)	○(2)	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	○(3)	×	○(3)	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
QCCPU		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケーション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
QCCPU		QCPU (Qモード)*1	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	○(2)	○(2)*2	○(2)*3	×	×	×
	MELSECNET/H	○(2)	○(2)	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケー ション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○(4)	○(4)	○(4)	×	×	×

*1 二重化CPUの場合はアクセスできません。

*2 Q12DCCPU-V(基本機能モード)は、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークにはアクセスできません。

*3 LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークにはアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。

記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン			
		○(1)	○(2)	○(3)	○(4)
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ			
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側 ■シングルCPU時 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)
ActDestinationPortNumber	0(0x00)	GOTのポート番号			
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定	1(0x01)固定	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	GOTのホスト名またはIPアドレス			
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局 QCPU(Qモード), LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)	対象局 QCPU(Qモード), QCCPU, LCPU: 1(0x01) 上記以外: 0(0x00)
ActIONumber*1	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	対象局側 ■シングルCPU時 ・1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・接続号機: 1023(0x3FF) ・1号機: 992(0x3E0) ・2号機: 993(0x3E1) ・3号機: 994(0x3E2) ・4号機: 995(0x3E3)	接続局側ユニットI/Oアドレス	接続局側ユニットI/Oアドレス
ActMultiDropChannelNumber*2	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	マルチドロップチャンネルNo.	0(0x00)固定
ActNetworkNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	対象局側ユニットネットワークNo.	0(0x00)固定	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)			
ActStationNumber	255(0xFF)	255(0xFF)固定	対象局側ユニット局番	255(0xFF)固定	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	・ MELSECNET/10を含まない: 0(0x00) ・ MELSECNET/10を含む: 1(0x01)			
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意			
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定	0(0x00)固定	対象局側ユニット局番	対象局側ユニット局番
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOTETHER_QBUS(0x58)			

*1 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*2 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

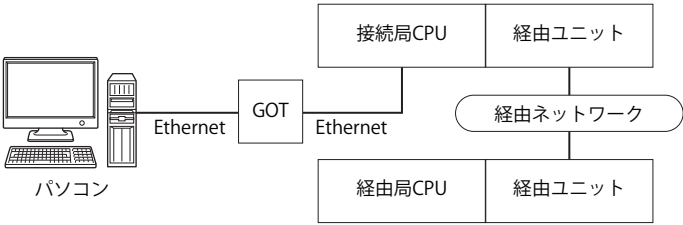
1: チャンネル1

2: チャンネル2

パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: Ethernetポート

構成

10



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
QCPU(Qモード)		RCPU	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU	
○(1)* ¹	CC IE TSN	×	×	×	×	×	
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	
	Ethernet	×	×	×	×	×	
	シリアルコミュニケー ション	×	×	×	×	×	
	CC-Link	×	×	×	×	×	

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
QCPU(Qモード)		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)* ¹	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケー ション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 Qn(U)(J)(P)(D)(E)(V)(H)の場合のみ動作します。QnPRHCPUは、未サポートのためアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber ^{*1}	0(0x00)	GOTのポート番号
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	GOTのホスト名またはIPアドレス
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*2}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)
ActMultiDropChannelNumber ^{*3}	0(0x00)	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*4}	0(0x00)	0(0x00)固定
ActPacketType	0x01(PACKET_PL1)	PACKET_PL1
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)/PROTOCOL_UDPIP(0x08)
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定
ActSourceNetworkNumber ^{*5}	0(0x00)	0(0x00)固定
ActSourceStationNumber ^{*6}	0(0x00)	0(0x00)固定
ActStationNumber ^{*4}	255(0xFF)	255(0xFF)固定
ActThroughNetworkType	0(0x00)	1(0x01)固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOTETHER_QN_ETHER(0x6F)

*1 GOT側で設定した値を指定してください。

*2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

1: チャンネル1

2: チャンネル2

*4 対象局側のパラメータ設定で設定した値を指定してください。

*5 接続局がEthernetポート、拡張設定(ネットワークNo.局番設定)ありの場合は、Ethernetポートに設定したネットワークNo.と同一のネットワークNo.を指定してください。

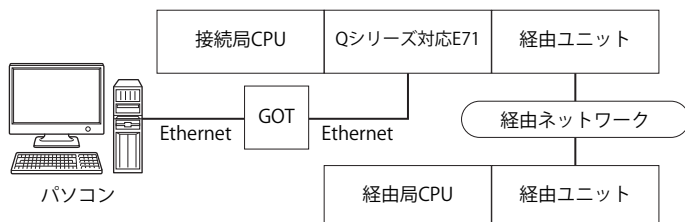
接続局がEthernetポート、拡張設定(ネットワークNo.局番設定)なしの場合は、GOTのEthernet設定で設定している接続局のネットワークNo.と同一のネットワークNo.を指定してください。ただし自局宛て設定(1NetworkNumber: 0x00,1StationNumber:0xFF)の場合は、1NetworkNumberと同じ0x00を設定してください。

*6 Ethernetの同一ネットワーク内でQJ71E71に設定した局番と重複しないようパソコン側の局番を指定してください。

パソコン側ポート: Ethernetボード, GOT2000ポート: Ethernetポート, CPU側ポート: Qシリーズ対応E71

構成

10



アクセス可否およびプロパティのパターン

○(n): アクセス可能(nはプロパティのパターン), ×: アクセス不可

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU				
QCPU(Qモード)		RCP	RCCPU	RモーションCPU	LHCPU	FX5CPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケー ション	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×

接続局CPU	経路ネットワーク	経路局CPU					
QCPU(Qモード)		QCPU (Qモード)	QCCPU	LCPU	QSCPU	Qモーション CPU	FXCPU
○(1)*1	CC IE TSN	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×
	シリアルコミュニケー ション	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×

*1 Qn(U)(J)(P)(D)(E)(V)(H)の場合のみ動作します。QnPRHCPUは、未サポートのためアクセスできません。

プロパティ一覧

各通信経路で設定するプロパティを下記に示します。
記載のないプロパティについては設定不要です。

プロパティ	デフォルト値	プロパティのパターン
		○(1)
ActBaudRate	19200(BAUDRATE_19200)	0(0x00)固定
ActConnectUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActControl	8(TRC_DTR_OR_RTS)	0(0x00)固定
ActCpuTimeOut	0(0x00)	0(0x00)固定
ActCpuType	34(CPU_Q02CPU)	対象局に該当するCPUタイプ
ActDataBits	8(DATABIT_8)	0(0x00)固定
ActDestinationIONumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActDestinationPortNumber ^{*1}	0(0x00)	GOTのポート番号
ActDidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActDsidPropertyBit	1(0x01)	1(0x01)固定
ActHostAddress	1.1.1.1	GOTのホスト名またはIPアドレス
ActIntelligentPreferenceBit	0(0x00)	0(0x00)固定
ActIONumber ^{*2}	1023(0x3FF)	■シングルCPU時 ・ 1023(0x3FF)固定 ■マルチCPU時 ・ 接続号機: 1023(0x3FF) ・ 1号機: 992(0x3E0) ・ 2号機: 993(0x3E1) ・ 3号機: 994(0x3E2) ・ 4号機: 995(0x3E3)
ActMultiDropChannelNumber ^{*3}	0(0x00)	0(0x00)固定
ActNetworkNumber ^{*4}	0(0x00)	対象局側ユニットネットワークNo.
ActPacketType	0x01(PACKET_PLC1)	PACKET_PLC1
ActParity	1(ODD_PARITY)	0(0x00)固定
ActPortNumber	1(PORT_1)	0(0x00)固定
ActProtocolType	0x04(PROTOCOL_SERIAL)	PROTOCOL_TCPIP(0x05)/PROTOCOL_UDPIP(0x08)
ActStopBits	0(STOPBIT_ONE)	0(0x00)固定
ActSumCheck	0(NO_SUM_CHECK)	0(0x00)固定
ActSourceNetworkNumber ^{*5}	0(0x00)	GOT側ネットワークNo.
ActSourceStationNumber ^{*6}	0(0x00)	GOT側局番
ActStationNumber ^{*4}	255(0xFF)	対象局側ユニット局番
ActThroughNetworkType	0(0x00)	1(0x01)固定
ActTimeOut	10000	ms単位でユーザ任意
ActUnitNumber	0(0x00)	0(0x00)固定
ActUnitType	0x13(UNIT_QNCPU)	UNIT_GOTETHER_QN_ETHER(0x6F)

*1 GOT側で設定した値を指定してください。

*2 I/Oアドレスは、実際のI/O先頭No.を16で割った値を指定してください。

*3 マルチドロップリンクするチャンネルNo.は下記を指定してください。

0: ユニットのデフォルトチャンネルを使用

1: チャンネル1

2: チャンネル2

*4 対象局側のパラメータ設定で設定した値を指定してください。

*5 QJ71E71のパラメータ設定でQJ71E71に設定したネットワークNo.と同一のネットワークNo.を指定してください。

*6 Ethernetの同一ネットワーク内でQJ71E71に設定した局番と重複しないようパソコン側の局番を指定してください。

11 関数

プログラミング時の注意事項、関数一覧、および関数の詳細について説明します。

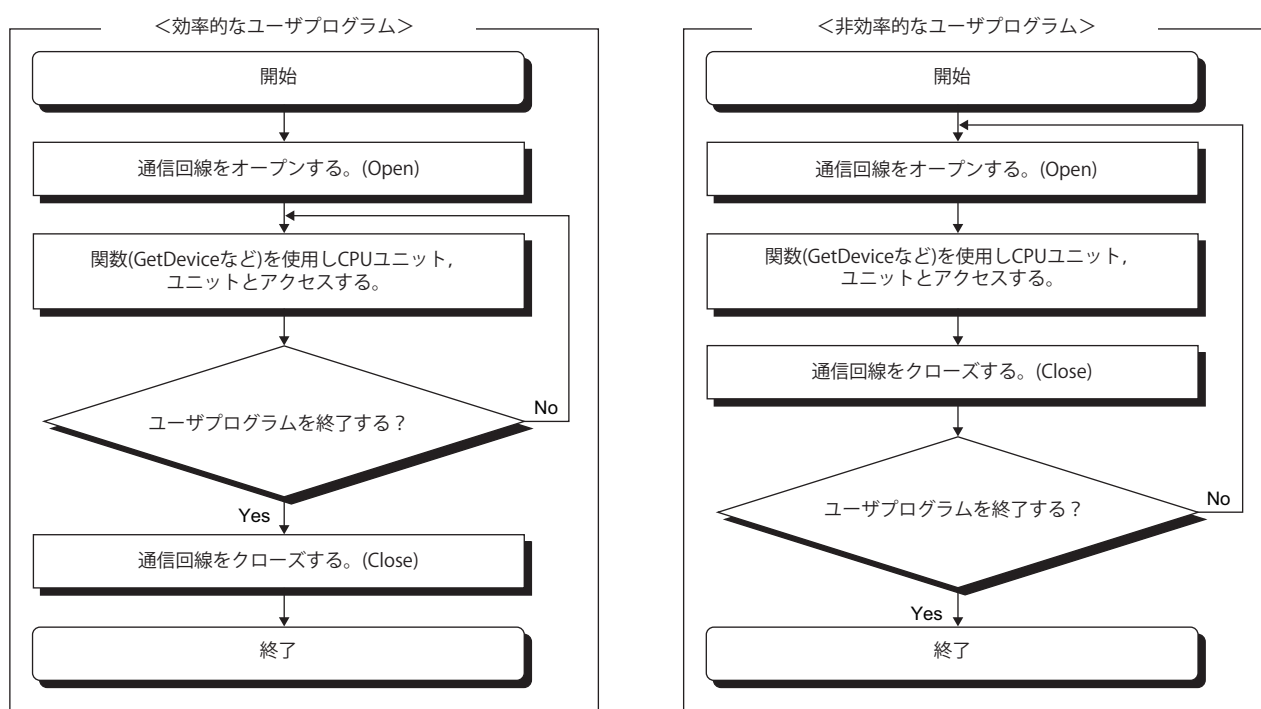
11.1 プログラミング時の注意事項

関数を使用してプログラム作成を行う場合の注意事項について説明します。
プログラム作成を開始する前に必ずお読みください。

11

Open(通信回線のオープン)について

Open関数は通信経路の確立、シーケンサ内部情報の取得などの処理を行うため、処理時間が長くなる場合があります。ユーザプログラムの速度性能をあげるため、効率的なプログラムを作成する必要があります。下記に効率的なユーザプログラムと非効率的なユーザプログラムの作成フローを示します。



LONG型の関数とSHORT型/INT型の関数の違い

MX Componentでは"デバイスの一括読出し", "デバイスの一括書込み", "デバイスのランダム読出し", "デバイスのランダム書込み", "デバイスデータの設定"および"デバイスデータの取得"を行うための関数としてLONG型の関数とSHORT型/INT型の関数の2種類を用意しています。

下記にLONG型の関数とSHORT型/INT型の関数との違いを示します。

■LONG型の関数

LONG型の関数は負のデバイス値を書込み/読出しする場合、ユーザプログラム内にてSHORT型/INT型への変換作業を行う必要があります。

負のデバイス値を書込み/読出しする場合は、SHORT型/INT型の関数を使用してください。

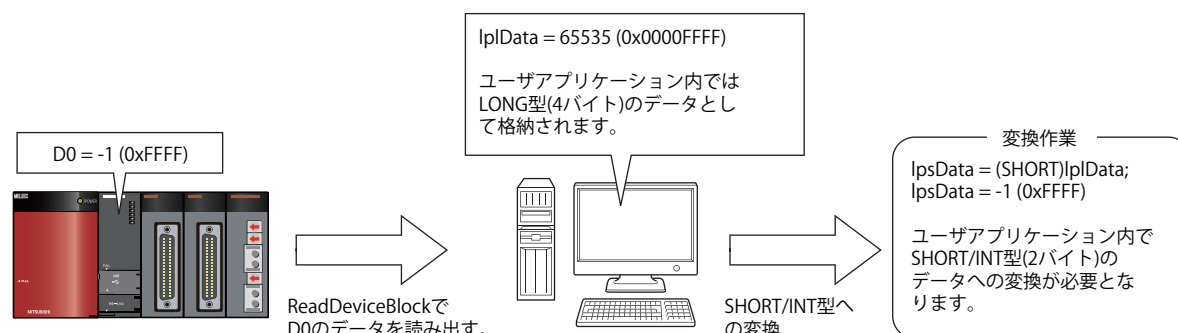
☞ 408ページ SHORT型/INT型の関数

対象関数	参照
ReadDeviceBlock	416ページ ReadDeviceBlock(デバイスの一括読出し)
WriteDeviceBlock	419ページ WriteDeviceBlock(デバイスの一括書込み)
ReadDeviceRandom	423ページ ReadDeviceRandom(デバイスのランダム読出し)
WriteDeviceRandom	423ページ ReadDeviceRandom(デバイスのランダム読出し)

対象関数	参照
SetDevice	430ページ SetDevice(デバイスデータの設定)
GetDevice	432ページ GetDevice(デバイスデータの取得)

例

ReadDeviceBlockで負の値が入ったデバイスデータを読み出す場合



■SHORT型/INT型の関数

SHORT型/INT型の関数は負のデバイス値を書込み/読出しする場合、書込み/読出しを行うデバイス値をそのまま使用することが可能です。(変換作業を行う必要はありません。)

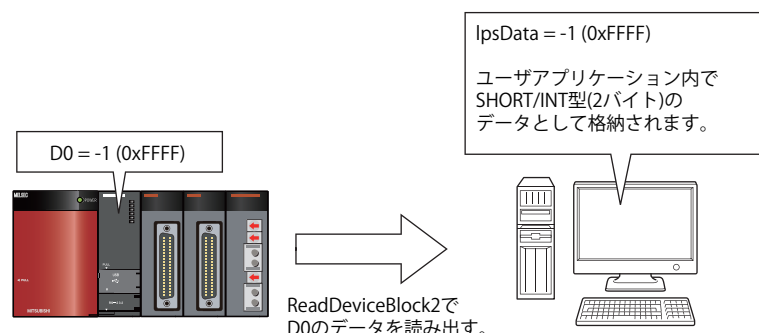
ダブルワードデバイスなどを扱う場合は、LONG型の関数を使用してください。

☞ 407ページ LONG型の関数

対象関数	参照
ReadDeviceBlock2	465ページ ReadDeviceBlock2(デバイスの一括読出し)
WriteDeviceBlock2	468ページ WriteDeviceBlock2(デバイスの一括書込み)
ReadDeviceRandom2	471ページ ReadDeviceRandom2(デバイスのランダム読出し)
WriteDeviceRandom2	474ページ WriteDeviceRandom2(デバイスのランダム書込み)
SetDevice2	477ページ SetDevice2(デバイスデータの設定)
GetDevice2	480ページ GetDevice2(デバイスデータの取得)

例

ReadDeviceBlock2で負の値が入ったデバイスデータを読み出す場合



マルチスレッドプログラミング時の注意事項

マルチスレッドプログラミングを行う際には、COMおよびActiveXコントロールの規約に従ってください。

詳細については、COMおよびActiveXコントロールの規約、参考書を参照してください。

Point

- MX Componentで使用するActiveXコントロールはSTAモデルです。
- インタフェースポインタを他のアパートメントに渡す場合、インタフェースポインタをマーシャリングする必要があります。
COM関数のCoMarshalInterThreadInterfaceInStream、CoGetInterfaceAndReleaseStreamを使用して同期をとってください。

RnSFCPU使用時の注意

セーフティモードの場合、下記の関数はRnSFCPUの安全デバイスに対して使用できません。

関数名	機能
WriteDeviceBlock	デバイスの一括書き込み
WriteDeviceRandom	デバイスのランダム書き込み
SetDevice	デバイスデータの設定
WriteDeviceBlock2	デバイスの一括書き込み
WriteDeviceRandom2	デバイスのランダム書き込み
SetDevice2	デバイスデータの設定
WriteBuffer	バッファメモリ書き込み

Point

使用できない関数を使用した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。

QSCPU使用時の注意

下記の関数はQSCPUに対して使用できません。

関数名	機能
WriteDeviceBlock	デバイスの一括書き込み
WriteDeviceRandom	デバイスのランダム書き込み
SetDevice	デバイスデータの設定
WriteBuffer	バッファメモリ書き込み
SetClockData	時計データ書き込み
SetCpuStatus	リモートコントロール
WriteDeviceBlock2	デバイスの一括書き込み
WriteDeviceRandom2	デバイスのランダム書き込み
SetDevice2	デバイスデータの設定

Point

使用できない関数を使用した場合は、エラーコード"0x010A42A0"(CPUアクセスパスワードが不一致)が返されます。

インバータ/ロボットコントローラ使用時の注意

.Netコントロールの関数およびプログラムで設定するコントロール(42ページ 使用するコントロールの把握)は、インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

Point

使用できない関数を使用した場合は、エラーコード"0xF0000007"(機能未サポートエラー)が返されます。

通信中のプロセスの強制終了について

複数のプロセスで同種のコントロールをオープンして通信を行っている場合、タスクマネージャなどによりプロセスを強制終了すると、他プロセスが通信関数実行部分で停止することがあります。

通信開始時のエラーについて

通信診断ボタンの押下時、モニタ開始時、各関数実行時などの通信開始時に、設定されたタイムアウト値以内に通信エラーが発生する場合があります。

これらは、タイムアウトエラー以前にエラーが検出された場合です。

(例: 通信ケーブルが接続されていない、シーケンサ電源OFF時など)

Ethernetユニット使用時の注意事項

- Openメソッド実行後、Closeメソッドを実行するまでに、Ethernetユニット装着局のシーケンススキャンタイム以上の間隔をおいてください。
- Closeメソッド実行後、再度Openメソッドを実行するまでに最低500ms以上間隔をおいてください。

コントロールについて

■CheckDeviceString

各ActコントロールにはCheckDeviceStringメソッドがありますが、使用しないでください。

■ActUMsgコントロール, ActUWzdコントロール

MX Componentをインストールすると、ActUMsgコントロールおよびActUWzdコントロールが登録されますが、使用しないでください。

11.2 関数一覧

各関数の機能と各コントロールで使用可能な関数の一覧を下記に示します。

関数名	機能	参照 ^{*1}
Open	通信回線のオープン	Act: 413ページ Open(通信回線のオープン) DataLogging: 485ページ Open(通信回線のオープン) Dot: 495ページ Open(通信回線のオープン)
Close	通信回線のクローズ	Act: 415ページ Close(通信回線のクローズ) DataLogging: 487ページ Close(通信回線のクローズ) Dot: 496ページ Close(通信回線のクローズ)
ReadDeviceBlock	デバイスの一括読出し(4バイトデータ)	Act: 416ページ ReadDeviceBlock(デバイスの一括読出し) Dot: 497ページ ReadDeviceBlock(デバイスの一括読出し)
WriteDeviceBlock	デバイスの一括書込み(4バイトデータ)	Act: 419ページ WriteDeviceBlock(デバイスの一括書込み) Dot: 503ページ WriteDeviceBlock(デバイスの一括書込み)
ReadDeviceRandom	デバイスのランダム読出し(4バイトデータ)	Act: 423ページ ReadDeviceRandom(デバイスのランダム読出し) Dot: 509ページ ReadDeviceRandom(デバイスのランダム読出し)
WriteDeviceRandom	デバイスのランダム書込み(4バイトデータ)	Act: 427ページ WriteDeviceRandom(デバイスのランダム書込み) Dot: 520ページ WriteDeviceRandom(デバイスのランダム書込み)
SetDevice	デバイス1点の設定(4バイトデータ)	Act: 430ページ SetDevice(デバイスデータの設定) Dot: 531ページ SetDevice(デバイスデータの設定)
GetDevice	デバイス1点のデータ取得(4バイトデータ)	Act: 432ページ GetDevice(デバイスデータの取得) Dot: 535ページ GetDevice(デバイスデータの取得)
ReadBuffer	バッファメモリの読出し	Act: 435ページ ReadBuffer(バッファメモリ読出し) Dot: 539ページ ReadBuffer(バッファメモリ読出し)
WriteBuffer	バッファメモリの書込み	Act: 439ページ WriteBuffer(バッファメモリ書込み) Dot: 541ページ WriteBuffer(バッファメモリ書込み)
GetClockData	CPUユニットの時計データ読出し	Act: 443ページ GetClockData(時計データ読出し) Dot: 543ページ GetClockData(時計データ読出し)
SetClockData	CPUユニットの時計データ書込み	Act: 448ページ SetClockData(時計データ書込み) Dot: 545ページ SetClockData(時計データ書込み)
GetCpuType	CPUユニット形名読出し	Act: 452ページ GetCpuType(CPUユニット形名読出し) Dot: 547ページ GetCpuType(CPUユニット形名読出し)
SetCpuStatus	CPUユニットのリモートRUN/STOP/PAUSE/RESET	Act: 454ページ SetCpuStatus(リモートコントロール) Dot: 548ページ SetCpuStatus(リモートコントロール)
EntryDeviceStatus ^{*2}	デバイスの状態監視登録	Act: 457ページ EntryDeviceStatus(デバイスの状態監視登録) Dot: 549ページ EntryDeviceStatus(デバイスの状態監視登録)
FreeDeviceStatus ^{*2}	デバイスの状態監視登録の解除	Act: 461ページ FreeDeviceStatus(デバイスの状態監視登録解除) Dot: 553ページ FreeDeviceStatus(デバイスの状態監視登録解除)
OnDeviceStatus ^{*2}	イベント告知	Act: 462ページ OnDeviceStatus(イベント告知) Dot: 554ページ OnDeviceStatus(イベント告知)
ReadDeviceBlock2	デバイスの一括読出し(2バイトデータ)	Act: 465ページ ReadDeviceBlock2(デバイスの一括読出し) Dot: 556ページ ReadDeviceBlock2(デバイスの一括読出し)
WriteDeviceBlock2	デバイスの一括書込み(2バイトデータ)	Act: 468ページ WriteDeviceBlock2(デバイスの一括書込み) Dot: 560ページ WriteDeviceBlock2(デバイスの一括書込み)
ReadDeviceRandom2	デバイスのランダム読出し(2バイトデータ)	Act: 471ページ ReadDeviceRandom2(デバイスのランダム読出し) Dot: 565ページ ReadDeviceRandom2(デバイスのランダム読出し)
WriteDeviceRandom2	デバイスのランダム書込み(2バイトデータ)	Act: 474ページ WriteDeviceRandom2(デバイスのランダム書込み) Dot: 574ページ WriteDeviceRandom2(デバイスのランダム書込み)
SetDevice2	デバイス1点の設定(2バイトデータ)	Act: 477ページ SetDevice2(デバイスデータの設定) Dot: 585ページ SetDevice2(デバイスデータの設定)
GetDevice2	デバイス1点のデータ取得(2バイトデータ)	Act: 480ページ GetDevice2(デバイスデータの取得) Dot: 589ページ GetDevice2(デバイスデータの取得)
GetErrorMessage	エラー内容と処置方法の取得	Msg: 483ページ GetErrorMessage(エラー内容と処置方法の取得)
ReadFirstFile	ファイル名/ディレクトリ名の検索	DataLogging: 488ページ ReadFirstFile(ファイル名/ディレクトリ名の検索)
ReadNextFile	ファイル名/ディレクトリ名の検索	DataLogging: 490ページ ReadNextFile(ファイル名/ディレクトリ名の検索)
ReadClose	検索の終了	DataLogging: 492ページ ReadClose(検索の終了)
GetFile	ロギングファイルの転送	DataLogging: 493ページ GetFile(ロギングファイルの転送)
Dispose	メモリの解放	Dot: 592ページ Dispose(メモリの解放)

- *1 Act: ActUtilType, ActUtilType64, ActProgType, ActProgType64,
DataLogging: ActDataLogging, ActDataLogging64, ActProgDataLogging, ActProgDataLogging64,
Dot: DotUtilType, DotUtilType64,
Msg: ActSupportMsg, ActSupportMsg64
- *2 VC++およびVBAではコントロールをフォームに貼り付けて使用する場合があります。オブジェクトを生成して使用する場合には対応していません。また、64ビット用コントロールについては、すべての開発言語で使用できません。
各コントロールの違いについては下記を参照ください。
-  44ページ ユーザプログラムへのコントロールの追加

Point

- 通信対象のCPUユニットがRnSFCPUの場合
安全シーケンサシステムを保護するため、バッファメモリに対する書き込み、セーフティモードでの安全デバイスに対する書き込みを行う関数は、実行するとエラーコードが返ります。
- 通信対象のCPUユニットがQSCPUの場合
安全シーケンサシステムを保護するため、バッファメモリに対する書き込み、デバイスに対する書き込み・設定、時計データの書き込みを行う関数は、実行するとエラーコードが返ります。

11.3 関数の詳細(Actコントロール用)

Open(通信回線のオープン)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

通信回線をオープンします。

書式

■VBA

lRet = object.Open()

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output

■Visual C++

lRet = object.Open()

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output

■Visual Basic .NET

lRet = object.Open()

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output

■Visual C#

iRet = object.Open()

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.Open(*lpRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	*lpRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

通信回線をオープンします。

Open関数用プロパティの設定値をもとに回線の接続を行います。

Point

- Open完了後にOpen関数用プロパティを変更しても、通信相手先の変更は行われません。通信設定の変更を行う場合は、1度通信回線をクローズした後、通信相手先の設定を行い再度通信回線をオープンしてください。
- Openする際に、ActCpuTypeプロパティに通信を行うCPUと異なるCPUタイプを入力した場合でも、Openが正常に終了することがあります。
このような場合、接続範囲、使用可能メソッドおよびデバイス範囲が狭まるなどの現象が発生します。
Openを行う際には、ActCpuTypeプロパティに正しいCPUタイプを設定してください。

Close(通信回線のクローズ)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

通信回線をクローズします。

書式

■VBA

lRet = object.Close()

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output

■Visual C++

lRet = object.Close()

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output

■Visual Basic .NET

lRet = object.Close()

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output

■Visual C#

iRet = object.Close()

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.Close(*lpRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	*lpRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

Open関数にて接続した回線をクローズします。

ReadDeviceBlock(デバイスの一括読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

デバイスの一括読出しを行います。

書式

■VBA

IRet = object.ReadDeviceBlock(szDevice, ISize, IData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Long	IData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C++

IRet = object.ReadDeviceBlock(szDevice, ISize, *IplData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Long	*IplData	読み出したデバイス値	Output

■Visual Basic .NET

IRet = object.ReadDeviceBlock(szDevice, iSize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	iSize	読出し点数	Input
Integer	iData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C#

iRet = object.ReadDeviceBlock(szDevice, iSize, out iData[0])

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
int	iSize	読出し点数	Input
int[n]	iData	読み出したデバイス値	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.ReadDeviceBlock(szDevice, ISize, *lplData, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	ISize	読出し点数	Input
LONG	*lplData	読み出したデバイス値	Output
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceにて指定したデバイスから、ISize(iSize)分のデバイス値を一括して読み出します。
- 読み出したデバイス値は、lData(lplDataまたはiData)に格納されます。
- lData(lplDataまたはiData)は、ISize(iSize)以上の配列を確保してください。

Point

- ISize(iSize)に指定できる最大読出し点数は、下記の満たす範囲です。
読出し開始デバイス番号 + 読出し点数 ≤ 最終デバイス番号
- ビットデバイス指定時は、デバイス番号は16の倍数が指定可能です。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。
- lData(lplDataまたはiData)は、ISize(iSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- ロングタイマの接点(LTS)、ロングタイマのコイル(LTC)、ロング積算タイマの接点(LSTS)、ロング積算タイマのコイル(LSTC)のデバイスの読出しはできません。ReadDeviceRandom関数、またはGetDevice関数を使用してください。

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■ビットデバイス指定時

(例) M0から16点単位で3点(3ワード分)読み出す。

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0～M15 ^{*1}
	M16～M31 ^{*1}
	M32～M47 ^{*1}

*1 デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

■ワードデバイス指定時

(例) D0から3点読み出す。

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
	D1
	D2

■FXCPUのCN200以降指定時

(例) CN200から6点読み出す。

FXCPUのCN200以降は、2点で2ワード読み出します。1点ではエラーとなります。

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	CN200のL
	CN200のH
	CN201のL
	CN201のH
	CN202のL
	CN202のH

■FDデバイス指定時(4ワードデバイス)

(例) FD0から6点読み出す。

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	FD0のLL
	FD0のLH
	FD0のHL
	FD0のHH
	FD1のLL
	FD1のLH

■ゲートウェイデバイスに割り付けられた8ビットデバイス

(例) EG0から4点読み出す。

(EG0～EG3に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000～E0007)が割り付けられている場合)

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	EG0
	(E0001) (E0000)
	EG1
	(E0003) (E0002)
	EG2
	(E0005) (E0004)
	EG3
	(E0007) (E0006)

■ダブルワードデバイス指定時

(例) LTN0から3点読み出す。

上位2バイト	下位2バイト
LTN0のH	LTN0のL
LTN1のH	LTN1のL
LTN2のH	LTN2のL

WriteDeviceBlock(デバイスの一括書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

デバイスの一括書込みを行います。

書式

■VBA

IRet = object.WriteDeviceBlock(szDevice, ISize, IData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Long	IData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C++

IRet = object.WriteDeviceBlock(szDevice, ISize, *lpIData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Long	*lpIData	書き込むデバイス値	Input

■Visual Basic .NET

IRet = object.WriteDeviceBlock(szDevice, iSize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	iSize	書込み点数	Input
Integer	iData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C#

iRet = object.WriteDeviceBlock(szDevice, iSize, ref iData[0])

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
int[n]	iData	書き込むデバイス値	Input

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.WriteDeviceBlock(szDevice, lSize, *lplData, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	lSize	書き込み点数	Input
LONG	*lplData	書き込むデバイス値	Input
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceにて指定したデバイスから、lSize(iSize)分のデバイス値を一括して書き込みます。
- 書き込むデバイス値を、lData(lplDataまたはiData)に格納します。
- lData(lplDataまたはiData)は、lSize(iSize)以上の配列を確保してください。

Point

- lSize(iSize)に指定できる最大書き込み点数は、下記の満たす範囲です。
書き込み開始デバイス番号 + 書き込み点数 ≤ 最終デバイス番号
- ビットデバイス指定時は、デバイス番号は16の倍数が指定可能です。
- lData(lplDataまたはiData)は、lSize(iSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- ロングタイマの接点(LTS)、ロングタイマのコイル(LTC)、ロング積算タイマの接点(LSTS)、ロング積算タイマのコイル(LSTC)のデバイスの書き込みはできません。WriteDeviceRandom関数、またはSetDevice関数を使用してください。
- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■ビットデバイス指定時

(例) M0から16点単位で3点(3ワード分)書き込む。

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0～M15 ^{*1}
	M16～M31 ^{*1}
	M32～M47 ^{*1}

*1 デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

■ワードデバイス指定時

(例) D0から3点書き込む。

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
	D1
	D2

■FXCPUのCN200以降指定時

(例) CN200から6点書き込む。

FXCPUのCN200以降は、2点で2ワード書き込みます。1点ではエラーとなります。

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	CN200のL
	CN200のH
	CN201のL
	CN201のH
	CN202のL
	CN202のH

■FDデバイス指定時(4ワードデバイス)

(例) FD0から6点書き込む。

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	FD0のLL
	FD0のLH
	FD0のHL
	FD0のHH
	FD1のLL
	FD1のLH

■ゲートウェイデバイスに割り付けられた8ビットデバイス

(例) EG0から4点書き込む。

(EG0～EG3に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000～E0007)が割り付けられている場合)

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	EG0
	(E0001) (E0000)
	EG1
	(E0003) (E0002)
	EG2
	(E0005) (E0004)
	EG3
	(E0007) (E0006)

■ダブルワードデバイス指定時

(例) LTN0から3点書き込む。

上位2バイト	下位2バイト
LTN0のH	LTN0のL
LTN1のH	LTN1のL
LTN2のH	LTN2のL

ReadDeviceRandom(デバイスのランダム読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

デバイスのランダム読出しを行います。

インバータ/ロボットコントローラのモニタタイプのランダム読出しを行います。

書式

■VBA

lRet = object.ReadDeviceRandom(szDeviceList, lSize, lData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名/モニタタイプ	Input
Long	lSize	読出し点数	Input
Long	lData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C++

lRet = object.ReadDeviceRandom(szDeviceList, lSize, *lpData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
CString	szDeviceList	デバイス名/モニタタイプ	Input
Long	lSize	読出し点数	Input
Long	*lpData	読み出したデバイス値	Output

■Visual Basic .NET

lRet = object.ReadDeviceRandom(szDeviceList, iSize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名/モニタタイプ	Input
Integer	iSize	読出し点数	Input
Integer	iData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C#

iRet = object.ReadDeviceRandom(szDeviceList, iSize, out iData[0])

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名/モニタタイプ	Input
int	iSize	読出し点数	Input
int[n]	iData	読み出したデバイス値	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.ReadDeviceRandom(szDeviceList, lSize, *lpData, *lpRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDeviceList	デバイス名/モニタタイプ	Input
LONG	lSize	読み出し点数	Input
LONG	*lpData	読み出したデバイス値	Output
LONG	*lpRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。
異常終了: 0以外を返します。(📖 607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceListにて指定したデバイス群/モニタタイプ群を、lSize(iSize)分のデバイス値/モニタタイプ分だけ読み出します。
- 読み出したデバイス値は、IData(lpDataまたはiData)に格納されます。
- デバイスリストに指定する文字列は改行記号で区切ってください。最終デバイスの後ろには改行記号は必要ありません。
(例)
Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbLf & "D1" & vbLf & "D2"
Visual C++使用時: D0¥nD1¥nD2
Visual C#使用時: D0¥nD1¥nD2
- IData(lpDataまたはiData)は、lSize(iSize)以上の配列を確保してください。
- モニタ可能な項目(モニタタイプ)は、下記を参照してください。
📖 156ページ アクセス可能デバイスおよびデバイスタイプ
- グローバルラベルにアクセスする場合は、szDeviceListにグローバルラベルを指定してください。また、使用可能なグローバルラベルのデータ型および指定点数については下記を参照してください。
📖 22ページ グローバルラベル名を指定したデータ取得

Point🔍

- lSize(iSize)に指定できる最大読み出し点数は、0x7FFFFFFF点までです。
- IData(lpDataまたはiData)は、lSize(iSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■下記のように指定した場合(点数は3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "M0" & vbCrLf & "D0" & vbCrLf & "K8M0"
 Visual C++使用時: M0¥nD0¥nK8M0
 Visual C#使用時: M0¥nD0¥nK8M0

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0
	D0
M16～M31*1	M0～M15*1

*1 デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

■FXCPUのCN200以降を含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

FXCPUのCN200以降は、ランダム読出しでは1点で2ワード分読み出します。

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbCrLf & "CN200" & vbCrLf & "D1"
 Visual C++使用時: D0¥nCN200¥nD1
 Visual C#使用時: D0¥nCN200¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
CN200のH	CN200のL
使用しません。(0が格納されます。)	D1

■FDを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbCrLf & "FD0" & vbCrLf & "D1"
 Visual C++使用時: D0¥nFD0¥nD1
 Visual C#使用時: D0¥nFD0¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
	FD0のLL
	D1

■EGを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている例を下記に示します。

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbLf & "EG0" & vbLf & "D1"
Visual C++使用時: D0¥nEG0¥nD1
Visual C#使用時: D0¥nEG0¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
	EG0
	(E0001)
	D1

■ダブルワードデバイスを指定した場合

Visual Basic .NET, VBA使用時: "LTN0" & vbLf & "LTN1" & vbLf & "LTN2"
Visual C++使用時: LTN0¥nLTN1¥nLTN2
Visual C#使用時: LTN0¥nLTN1¥nLTN2

上位2バイト	下位2バイト
LTN0のH	LTN0のL
LTN1のH	LTN1のL
LTN2のH	LTN2のL

■インバータのモニタタイプ(1, 2, 5)を指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "1" & vbLf & "2" & vbLf & "5"
Visual C++使用時: 1¥n2¥n5
Visual C#使用時: 1¥n2¥n5

上位2バイト	下位2バイト
1のH	1のL
2のH	2のL
5のH	5のL

■ロボットコントローラのモニタタイプ(223.102.A, 223.103.B)を指定した場合(点数は合計2点)

形式: (要求ID).(データタイプ).(引数)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "223.102.A" & vbLf & "223.103.B"
Visual C++使用時: 223.102.A¥n223.103.B
Visual C#使用時: 223.102.A¥n223.103.B

上位2バイト	下位2バイト
223.102.AのH	223.102.AのL
223.103.BのH	223.103.BのL

WriteDeviceRandom(デバイスのランダム書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

デバイスのランダム書込みを行います。

書式

■VBA

lRet = object.WriteDeviceRandom(szDeviceList, lSize, lData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	lSize	書込み点数	Input
Long	lData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C++

lRet = object.WriteDeviceRandom(szDeviceList, lSize, *lpData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
CString	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	lSize	書込み点数	Input
Long	*lpData	書き込むデバイス値	Input

■Visual Basic .NET

lRet = object.WriteDeviceRandom(szDeviceList, iSize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Integer	iSize	書込み点数	Input
Integer	iData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C#

iRet = object.WriteDeviceRandom(szDeviceList, iSize, ref iData[0])

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
int[n]	iData	書き込むデバイス値	Input

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.WriteDeviceRandom(szDeviceList, lSize, *lpData, *lpRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDeviceList	デバイス名	Input
LONG	lSize	書き込み点数	Input
LONG	*lpData	書き込むデバイス値	Input
LONG	*lpRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceListにて指定したデバイス群を、lSize(iSize)分のデバイス値だけ書き込みます。

- 書き込むデバイス値を、lData(lpDataまたはiData)に格納します。

- デバイスリストに指定する文字列は改行記号で区切ってください。

最終デバイスの後ろには改行記号は必要ありません。

(例)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbLf & "D1" & vbLf & "D2"

Visual C++使用時: D0¥nD1¥nD2

Visual C#使用時: D0¥nD1¥nD2

- lData(lpDataまたはiData)は、lSize(iSize)以上の配列を確保してください。

- グローバルラベルにアクセスする場合は、szDeviceListにグローバルラベルを指定してください。また、使用可能なグローバルラベルのデータ型および指定点数については下記を参照してください。

🔗 22ページ グローバルラベル名を指定したデータ取得

Point

- lSize(iSize)に指定できる最大書き込み点数は、0x7FFFFFFF点までです。
- lData(lpDataまたはiData)は、lSize(iSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- QモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■下記のように指定した場合(点数は3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "M0" & vbLf & "D0" & vbLf & "K8M0"

Visual C++使用時: M0¥nD0¥nK8M0

Visual C#使用時: M0¥nD0¥nK8M0

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0
	D0
M16~M31*1	M0~M15*1

*1 デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

■FXCPUのCN200以降を含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

FXCPUのCN200以降は、ランダム読出しでは1点で2ワード分読み出します。

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbLf & "CN200" & vbLf & "D1"
Visual C++使用時: D0¥nCN200¥nD1
Visual C#使用時: D0¥nCN200¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
CN200のH	CN200のL
使用しません。(0が格納されます。)	D1

■FDを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
	FD0のLL
	D1

■EGを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている例を下記に示します。

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbLf & "EG0" & vbLf & "D1"
Visual C++使用時: D0¥nEG0¥nD1
Visual C#使用時: D0¥nEG0¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
	EG0
	(E0001) (E0000)
	D1

■ダブルワードデバイスを指定した場合

Visual Basic .NET, VBA使用時: "LTN0" & vbLf & "LTN1" & vbLf & "LTN2"
Visual C++使用時: LTN0¥nLTN1¥nLTN2
Visual C#使用時: LTN0¥nLTN1¥nLTN2

上位2バイト	下位2バイト
LTN0のH	LTN0のL
LTN1のH	LTN1のL
LTN2のH	LTN2のL

SetDevice(デバイスデータの設定)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

デバイス1点の設定を行います。

書式

■VBA

lRet = object.SetDevice(szDevice, lData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Long	lData	設定データ	Input

■Visual C++

lRet = object.SetDevice(szDevice, lData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Long	lData	設定データ	Input

■Visual Basic .NET

lRet = object.SetDevice(szDevice, iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	iData	設定データ	Input

■Visual C#

iRet = object.SetDevice(szDevice, iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
int	iData	設定データ	Input

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.SetDevice(szDevice, lData, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	lData	設定データ	Input
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceにて指定したデバイス1点に対してIData(iData)で指定する操作を行います。
 - ビットデバイス設定時は、IData値(varData値またはiData値)の最下位のビットが有効となります。
 - グローバルラベルにアクセスする場合は、szDeviceにグローバルラベルを指定してください。また、使用可能なグローバルラベルのデータ型および指定点数については下記を参照してください。
- 22ページ グローバルラベル名を指定したデータ取得

Point

- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■ビットデバイス指定時

(例) M0

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0

■ワードデバイス指定時

(例) D0

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0

■ダブルワードデバイス指定時

(例) LTN0

上位2バイト	下位2バイト
LTN0のH	LTN0のL

■ダブルワードデバイス指定時(桁指定)

(例) K8M0

上位2バイト	下位2バイト
M16～M31*1	M0～M15*1

*1 デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

■FXCPUのCN200以降指定時

(例) CN200

上位2バイト	下位2バイト
CN200のH	CN200のL

■ゲートウェイデバイス指定時

(例) EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている場合

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	EG0
	(E0001) (E0000)

GetDevice(デバイスデータの取得)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

デバイス1点のデータを取得します。

インバータ/ロボットコントローラのモニタタイプ1点のデータを取得します。

書式

■VBA

IRet = object.GetDevice(szDevice, IData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名/モニタタイプ	Input
Long	IData	取得データ	Output

■Visual C++

IRet = object.GetDevice(szDevice, *lpIData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名/モニタタイプ	Input
Long	*lpIData	取得データ	Output

■Visual Basic .NET

IRet = object.GetDevice(szDevice, iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名/モニタタイプ	Input
Integer	iData	取得データ	Output

■Visual C#

iRet = object.GetDevice(szDevice, out iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名/モニタタイプ	Input
int	iData	取得データ	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.GetDevice(szDevice, *lpData, *lpRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名/モニタタイプ	Input
LONG	*lpData	取得データ	Output
LONG	*lpRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceにて指定した1点のデバイスのデータを、IData(lpDataまたはiData)に格納します。
- モニタ可能な項目(モニタタイプ)は、下記を参照してください。
 156ページ アクセス可能デバイスおよびデバイスタイプ
- グローバルラベルにアクセスする場合は、szDeviceにグローバルラベルを指定してください。また、使用可能なグローバルラベルのデータ型および指定点数については下記を参照してください。
 22ページ グローバルラベル名を指定したデータ取得

デバイス指定方法

デバイス/モニタタイプの指定方法を下記に示します。

■ビットデバイス指定時

(例) M0

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0

■ワードデバイス指定時

(例) D0

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0

■ダブルワードデバイス指定時

(例) LTN0

上位2バイト	下位2バイト
LTN0のH	LTN0のL

■ダブルワードデバイス指定時(桁指定)

(例) K8M0

上位2バイト	下位2バイト
M16～M31 ^{*1}	M0～M15 ^{*1}

*1 デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

■FXCPUのCN200以降指定時

(例) CN200

上位2バイト	下位2バイト
CN200のH	CN200のL

■ゲートウェイデバイス指定時

(例) EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている場合

上位2バイト	下位2バイト	
使用しません。(0が格納されます。)	EG0	
	(E0001)	(E0000)

■インバータのモニタタイプ指定時

(例) 2

上位2バイト	下位2バイト
1のH	1のL

■ロボットコントローラのモニタタイプ指定時

形式: (要求ID).(データタイプ).(引数)

(例) 223.102.A

上位2バイト	下位2バイト
223.102.AのH	223.102.AのL

ReadBuffer(バッファメモリ読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

インテリジェント機能ユニットのバッファメモリの値を読み出します。

書式

■VBA

IRet = object.ReadBuffer(IStartIO, IAddress, IReadSize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
Long	IStartIO	値を読み出すユニットの先頭I/O番号	Input
Long	IAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Long	IReadSize	読み出すサイズ	Input
Integer	iData(n)	バッファメモリから読み出した値	Output

■Visual C++

IRet = object.ReadBuffer(IStartIO, IAddress, IReadSize, *IpsData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
Long	IStartIO	値を読み出すユニットの先頭I/O番号	Input
Long	IAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Long	IReadSize	読み出すサイズ	Input
Short	*IpsData	バッファメモリから読み出した値	Output

■Visual Basic .NET

IRet = object.ReadBuffer(iStartIO, IAddress, iReadSize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
Integer	iStartIO	値を読み出すユニットのI/O番号	Input
Integer	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Integer	iReadSize	読み出すサイズ	Input
short	iData(n)	バッファメモリから読み出した値	Output

■Visual C#

iRet = object.ReadBuffer(iStartIO, IAddress, iReadSize, out sData[0])

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
int	iStartIO	値を読み出すユニットのI/O番号	Input
int	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
int	iReadSize	読み出すサイズ	Input
short[n]	sData	バッファメモリから読み出した値	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.ReadBuffer(lStartIO, lAddress, lReadSize, *lpsData, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	lStartIO	値を読み出すユニットの先頭I/O番号	Input
LONG	lAddress	バッファメモリのアドレス	Input
LONG	lReadSize	読み出すサイズ	Input
SHORT	*lpsData	バッファメモリから読み出した値	Output
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。
異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- lStartIO(iStartIO)に指定するユニットのI/O番号は、実際のI/O番号を16で割った値を指定してください。
FX5CPUの場合は、対象局側のユニット番号を指定してください。
- lStartIO(iStartIO)に指定した先頭I/O番号に位置するインテリジェント機能ユニットの、lAddress(iAddress)に指定されたバッファメモリアドレスのバッファ値をlReadSize(iReadSize)分読み出します。
- 接続局がFXCPUのCPU COM通信およびGX Simulator2通信を行う場合、ユニット先頭I/O番号には、特殊増設機器のブロックNo.(0〜7)を、バッファメモリアドレスには0〜32767を指定してください。
- iData(lpsDataまたはsData)は、lReadSize(iReadSize)以上の配列を確保してください。

Point

- RモーションCPUおよびQモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- iData(lpsDataまたはsData)は、lReadSize(iReadSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- QCPU(Qモード)に対してバッファメモリ読出し(ReadBuffer)を行う場合、Qシリーズ専用ユニットにしか読出し操作を行うことができません。また、QCPU(Qモード)の共有メモリからの読出し操作も行うことができません。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

通信経路の使用可否

通信経路の使用可否を下表に示します。

○: 使用可能, ×: 使用不可

通信経路		プロパティの設定		使用可否
		ActUnitType	ActProtocolType	
シリアルコミュニケーション通信	接続ユニットがMELSEC iQ-Rシリーズ対応C24	UNIT_RJ71C24	PROTOCOL_SERIAL	○
	接続ユニットがQシリーズ対応C24	UNIT_QJ71C24		○
	接続ユニットがLシリーズ対応C24	UNIT_LJ71C24		○
	接続ユニットがFX拡張ポート	UNIT_FX485BD		×
Ethernet通信		UNIT_RJ71EN71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	○
		UNIT_RJ71EN71_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_QJ71E71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_LJ71E71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RETHETHER	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RETHETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_FXVETHER	PROTOCOL_TCPIP	○
		UNIT_FXVETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_LNETHER	PROTOCOL_TCPIP	○
		UNIT_LNETHER, UNIT_LNETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_QNETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_QNETHER, UNIT_QNETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RJ71GN11	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_NZ2GF_ETB	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_NZ2GF_ETB, UNIT_NZ2GF_ETB_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_FXETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_FXETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
CPU COM通信	接続先CPUがFX5CPU	UNIT_FXVCPU	PROTOCOL_SERIAL	○
	接続先CPUがQCPU(Qモード)	UNIT_QNCPU		○
	接続先CPUがLCPU	UNIT_LNCP		○
	接続先CPUがQモーションCPU	UNIT_QNMOTION		×
	接続先CPUがFXCPU	UNIT_FXCPU		○*1
USB通信	接続先CPUがRCPU	UNIT_RUSB	PROTOCOL_USB	○
	接続先CPUがLHCPU	UNIT_LHUSB		○
	接続先CPUがFX5CPU	UNIT_FXVUSB		○
	接続先CPUがQCPU(Qモード)	UNIT_QNUSB		○
	接続先CPUがLCPU	UNIT_LNUSB		○
	接続先CPUがQSCPU	UNIT_QSUSB		○
	接続先CPUがQモーションCPU	UNIT_QNMOTIONUSB		×
	接続先CPUがFXCPU	UNIT_FXCPU		○
MELSECNET/H通信		UNIT_MNETHBOARD	PROTOCOL_MNETH	○*2
CC-Link IEコントローラネットワーク通信		UNIT_MNETGBOARD	PROTOCOL_MNETG	
CC-Link IEフィールドネットワーク通信		UNIT_CCIEFBOARD	PROTOCOL_CCIEF	
CC-Link IE TSN通信		UNIT_CCIETSNBOARD	PROTOCOL_CCIETSN	
CC-Link通信		UNIT_CCLINKBOARD	PROTOCOL_CCLINK	
CC-Linkシステム RS-232Cインターフェース通信		UNIT_G4QCPU	PROTOCOL_SERIAL	○
GX Simulator2通信		UNIT_SIMULATOR2	—	○
GX Simulator3通信(RCPU)		UNIT_SIMULATOR3		×
GX Simulator3通信(FX5CPU)				
MT Simulator2通信		UNIT_SIMULATOR2	—	×

通信経路	プロパティの設定		使用可否
	ActUnitType	ActProtocolType	
MELSOFT Mirror通信	UNIT_RETHETHER_LCS	—	○
GOTゲートウェイデバイス通信	UNIT_A900GOT	PROTOCOL_UDPIP	×
GOTトランスペアレント機能通信	UNIT_RJ71C24, UNIT_FXVCP, UNIT_QNCPU, UNIT_LNCP	PROTOCOL_SERIAL, PROTOCOL_USBGOT	○
	UNIT_FXCPU		○ ^{*1}
	UNIT_QJ71C24, UNIT_LJ71C24, UNIT_GOT_RJ71EN71, UNIT_GOT_QJ71E71, UNIT_GOT_LJ71E71, UNIT_GOT_RETHETHER, UNIT_GOT_QNETHETHER, UNIT_GOT_LNETHETHER, UNIT_A900GOT, UNIT_GOT_NZ2GF_ETB, UNIT_GOT_FXETHETHER, UNIT_GOT_FXENET		○
	UNIT_GOTETHER_RJ71C24, UNIT_GOTETHER_FXVCP, UNIT_GOTETHER_QNCPU, UNIT_GOTETHER_LNCP	PROTOCOL_TCPIP	○
	UNIT_GOTETHER_FXCPU		○ ^{*1}
	UNIT_GOTETHER_QBUS		○
	UNIT_GOTETHER_QN_ETHER		○
インバータ通信	—	COMM_RS232C, COMM_USB	×

*1 FX3U, FX3UC, FX3G, FX3GC以外のCPUはエラーが返ります。

*2 自ボードアクセス時はエラーが返ります。

WriteBuffer(バッファメモリ書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

インテリジェント機能ユニットのバッファメモリの値を書き込みます。

書式

■VBA

IRet = object.WriteBuffer(IStartIO, IAddress, IWriteSize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
Long	IStartIO	値を書き込むユニットの先頭I/O番号	Input
Long	IAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Long	IWriteSize	書き込むサイズ	Input
Integer	iData(n)	バッファメモリに書き込む値	Input

■Visual C++

IRet = object.WriteBuffer(IStartIO, IAddress, IWriteSize, *IpsData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
Long	IStartIO	値を書き込むユニットの先頭I/O番号	Input
Long	IAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Long	IWriteSize	書き込むサイズ	Input
Short	*IpsData	バッファメモリに書き込む値	Input

■Visual Basic .NET

IRet = object.WriteBuffer(iStartIO, iAddress, iWriteSize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
Integer	iStartIO	値を書き込むユニットのI/O番号	Input
Integer	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Integer	iWriteSize	書き込むサイズ	Input
short	iData(n)	バッファメモリに書き込む値	Input

■Visual C#

iRet = object. WriteBuffer (iStartIO, iAddress, iWriteSize, ref sData[0])

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
int	iStartIO	値を書き込むユニットのI/O番号	Input
int	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
int	iWriteSize	書き込むサイズ	Input
short[n]	sData	バッファメモリに書き込む値	Input

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.WriteBuffer(IStartIO, IAddress, IWriteSize, *lpsData, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	IStartIO	値を書き込むユニットの先頭I/O番号	Input
LONG	IAddress	バッファメモリのアドレス	Input
LONG	IWriteSize	書き込むサイズ	Input
SHORT	*lpsData	バッファメモリに書き込む値	Input
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

- IStartIO(iStartIO)に指定するユニットのI/O番号は、実際のI/O番号を16で割った値を指定してください。
FX5CPUの場合は、対象局側のユニット番号を指定してください。
- IStartIO(iStartIO)に指定した先頭I/O番号に位置するインテリジェント機能ユニットの、IAddress(iAddress)に指定されたバッファメモリアドレスのバッファ値をIWriteSize(iWriteSize)分書き込みます。
- 接続局がFXCPUのCPU COM通信およびGX Simulator2通信を行う場合、ユニット先頭I/O番号には、特殊増設機器のブロックNo.(0~7)を、バッファメモリアドレスには0~32767を指定してください。
- iData(lpsDataまたはsData)は、IWriteSize(iWriteSize)以上の配列を確保してください。

Point

- RモーションCPUおよびQモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- iData(lpsData, varData, またはsData)は、IWriteSize(varWriteSizeまたはiWriteSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- QCPU(Qモード)に対してバッファメモリ書き込み(WriteBuffer)を行う場合、Qシリーズ専用ユニットにしか書き込み操作を行うことができません。また、QCPU(Qモード)の共有メモリへの書き込み操作も行うことができません。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

通信経路の使用可否

通信経路の使用可否を下表に示します。

○: 使用可能, ×: 使用不可

通信経路		プロパティの設定		使用可否
		ActUnitType	ActProtocolType	
シリアルコミュニケーション通信	接続ユニットがMELSEC iQ-Rシリーズ対応C24	UNIT_RJ71C24	PROTOCOL_SERIAL	○
	接続ユニットがQシリーズ対応C24	UNIT_QJ71C24		○
	接続ユニットがLシリーズ対応C24	UNIT_LJ71C24		○
	接続ユニットがFX拡張ポート	UNIT_FX485BD		×
Ethernet通信		UNIT_RJ71EN71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	○
		UNIT_RJ71EN71_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_QJ71E71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_LJ71E71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RETHETHER	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RETHETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_FXVETHER	PROTOCOL_TCPIP	○
		UNIT_FXVETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	○
		UNIT_LNETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_LNETHER, UNIT_LNETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_QNETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_QNETHER, UNIT_QNETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RJ71GN11	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_NZ2GF_ETB	PROTOCOL_TCPIP	○
		UNIT_NZ2GF_ETB, UNIT_NZ2GF_ETB_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_FXETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_FXETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
CPU COM通信	接続先CPUがFX5CPU	UNIT_FXVCPU	PROTOCOL_SERIAL	○
	接続先CPUがQCPU(Qモード)	UNIT_QNCPU		○
	接続先CPUがLCPU	UNIT_LNCPU		○
	接続先CPUがQモーションCPU	UNIT_QNMOTION		×
	接続先CPUがFXCPU	UNIT_FXCPU		○*1
USB通信	接続先CPUがRCPU	UNIT_RUSB	PROTOCOL_USB	○
	接続先CPUがLHCPU	UNIT_LHUSB		○
	接続先CPUがFX5CPU	UNIT_FXVUSB		○
	接続先CPUがQCPU(Qモード)	UNIT_QNUSB		○
	接続先CPUがLCPU	UNIT_LNUSB		○
	接続先CPUがQSCPU	UNIT_QSUSB		×
	接続先CPUがQモーションCPU	UNIT_QNMOTIONUSB		×
	接続先CPUがFXCPU	UNIT_FXCPU		○
MELSECNET/H通信		UNIT_MNETHBOARD	PROTOCOL_MNETH	○*3
CC-Link IEコントローラネットワーク通信		UNIT_MNETGBOARD	PROTOCOL_MNETG	○
CC-Link IEフィールドネットワーク通信		UNIT_CCIEFBOARD	PROTOCOL_CCIEF	
CC-Link IE TSN通信		UNIT_CCIETSNBOARD	PROTOCOL_CCIETSN	
CC-Link通信		UNIT_CCLINKBOARD	PROTOCOL_CCLINK	
CC-Linkシステム RS-232Cインターフェース通信		UNIT_G4QCPU	PROTOCOL_SERIAL	○
GX Simulator2通信		UNIT_SIMULATOR2	—	○
GX Simulator3通信(RCPU)		UNIT_SIMULATOR3		×
GX Simulator3通信(FX5CPU)				
MT Simulator2通信		UNIT_SIMULATOR2	—	×

通信経路	プロパティの設定		使用可否
	ActUnitType	ActProtocolType	
MELSOFT Mirror通信	UNIT_RETHETHER_LCS	—	○
GOTゲートウェイデバイス通信	UNIT_A900GOT	PROTOCOL_UDPIP	×
GOTトランスペアレント機能通信	UNIT_RJ71C24, UNIT_FXVCPU, UNIT_QNCPU, UNIT_LNCPU	PROTOCOL_SERIAL, PROTOCOL_USBGOT	○
	UNIT_FXCPU		○ ^{*1}
	UNIT_QJ71C24, UNIT_LJ71C24, UNIT_GOT_RJ71EN71, UNIT_GOT_QJ71E71, UNIT_GOT_LJ71E71, UNIT_GOT_RETHETHER, UNIT_GOT_QNETHER, UNIT_GOT_LNETHER, UNIT_A900GOT, UNIT_GOT_NZ2GF_ETB, UNIT_GOT_FXETHER, UNIT_GOT_FXENET		○
	UNIT_GOTETHER_RJ71C24, UNIT_GOTETHER_FXVCPU, UNIT_GOTETHER_QNCPU, UNIT_GOTETHER_LNCPU	PROTOCOL_TCPIP	○
	UNIT_GOTETHER_FXCPU		○ ^{*1}
	UNIT_GOTETHER_QBUS		○
	UNIT_GOTETHER_QN_ETHER		○
	—	COMM_RS232C, COMM_USB	×
インバータ通信	—	COMM_RS232C, COMM_USB	×

*1 FX3U, FX3UC, FX3G, FX3GC以外のCPUはエラーが返ります。

*2 QSCPUにアクセス時は、エラー 0x010A42A0(アクセスパスワードが不一致)となります。

*3 自ボードアクセス時はエラーが返ります。

GetClockData(時計データ読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

CPUユニットの時計データから時間を読み出します。

書式

■VBA

IRet = object.GetClockData(iYear, iMonth, iDay, iDayOfWeek, iHour, iMinute, iSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
Integer	iYear	読み出した年の値	Output
Integer	iMonth	読み出した月の値	Output
Integer	iDay	読み出した日の値	Output
Integer	iDayOfWeek	読み出した曜日の値	Output
Integer	iHour	読み出した時間の値	Output
Integer	iMinute	読み出した分の値	Output
Integer	iSecond	読み出した秒の値	Output

■Visual C++

IRet = object.GetClockData(*IpsYear, *IpsMonth, *IpsDay, *IpsDayOfWeek, *IpsHour, *IpsMinute, *IpsSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
Short	*IpsYear	読み出した年の値	Output
Short	*IpsMonth	読み出した月の値	Output
Short	*IpsDay	読み出した日の値	Output
Short	*IpsDayOfWeek	読み出した曜日の値	Output
Short	*IpsHour	読み出した時間の値	Output
Short	*IpsMinute	読み出した分の値	Output
Short	*IpsSecond	読み出した秒の値	Output

■Visual Basic .NET

IRet = object.GetClockData(iYear, iMonth, iDay, iDayOfWeek, iHour, iMinute, iSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
short	iYear	読み出した年の値	Output
short	iMonth	読み出した月の値	Output
short	iDay	読み出した日の値	Output
short	iDayOfWeek	読み出した曜日の値	Output
short	iHour	読み出した時間の値	Output
short	iMinute	読み出した分の値	Output
short	iSecond	読み出した秒の値	Output

■Visual C#

hResult = object.GetClockData(out sYear, out sMonth, out sDay, out sDayOfWeek, out sHour, out sMinute, out sSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
short	sYear	読み出した年の値	Output
short	sMonth	読み出した月の値	Output
short	sDay	読み出した日の値	Output
short	sDayOfWeek	読み出した曜日の値	Output
short	sHour	読み出した時間の値	Output
short	sMinute	読み出した分の値	Output
short	sSecond	読み出した秒の値	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.GetClockData(*lpsYear, *lpsMonth, *lpsDay, *lpsDayOfWeek, *lpsHour, *lpsMinute, *lpsSecond, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
SHORT	*lpsYear	読み出した年の値	Output
SHORT	*lpsMonth	読み出した月の値	Output
SHORT	*lpsDay	読み出した日の値	Output
SHORT	*lpsDayOfWeek	読み出した曜日の値	Output
SHORT	*lpsHour	読み出した時間の値	Output
SHORT	*lpsMinute	読み出した分の値	Output
SHORT	*lpsSecond	読み出した秒の値	Output
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

- CPUユニットに正しい時計データが設定されていない場合、エラーが返ります。
- iYear(lpsYearまたはsYear)に格納される値は、RCPUおよびQCPU(Qモード)は西暦4桁、それ以外のCPUは西暦下2桁が返ります。
ただし、RCPUおよびQCPU(Qモード)は1980年から2079年までとなります。
- iDayOfWeek(lpsDayOfWeekまたはsDayOfWeek)に格納される値は、下記のとおりです。

値	曜日
0	日曜日
1	月曜日
2	火曜日
3	水曜日
4	木曜日
5	金曜日
6	土曜日

- RモーションCPUおよびQモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- FXCPUは、時計機能内蔵の機種で、時計データが読み出せます。
上記以外のFXCPUはエラーが返ります。
- 時計設定は転送時間分の誤差が生じますのでご注意ください。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

通信経路の使用可否

通信経路の使用可否を下表に示します。

○: 使用可能, ×: 使用不可

通信経路		プロパティの設定		使用可否
		ActUnitType	ActProtocolType	
シリアルコミュニケーション通信	接続ユニットがMELSEC iQ-Rシリーズ対応C24	UNIT_RJ71C24	PROTOCOL_SERIAL	○
	接続ユニットがQシリーズ対応C24	UNIT_QJ71C24		○
	接続ユニットがLシリーズ対応C24	UNIT_LJ71C24		○
	接続ユニットがFX拡張ポート	UNIT_FX485BD		○
Ethernet通信		UNIT_RJ71EN71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	○
		UNIT_RJ71EN71_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_QJ71E71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_LJ71E71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RETHETHER	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RETHETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_FXVETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_FXVETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_LNETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_LNETHER, UNIT_LNETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_QNETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_QNETHER, UNIT_QNETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RJ71GN11	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_NZ2GF_ETB	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_NZ2GF_ETB, UNIT_NZ2GF_ETB_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_FXETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_FXETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
CPU COM通信	接続先CPUがFX5CPU	UNIT_FXVCPU	PROTOCOL_SERIAL	○
	接続先CPUがQCPU(Qモード)	UNIT_QNCPU		○
	接続先CPUがLCPU	UNIT_LNCPUL		○
	接続先CPUがQモーションCPU	UNIT_QNMOTION		×
	接続先CPUがFXCPU	UNIT_FXCPU		○
USB通信	接続先CPUがRCPU	UNIT_RUSB	PROTOCOL_USB	○
	接続先CPUがLHCPU	UNIT_LHUSB		○
	接続先CPUがFX5CPU	UNIT_FXVUSB		○
	接続先CPUがQCPU(Qモード)	UNIT_QNUSB		○
	接続先CPUがLCPU	UNIT_LNUSB		○
	接続先CPUがQSCPU	UNIT_QSUSB		○
	接続先CPUがQモーションCPU	UNIT_QNMOTIONUSB		×
	接続先CPUがFXCPU	UNIT_FXCPU		○
MELSECNET/H通信		UNIT_MNETHBOARD	PROTOCOL_MNETH	○*1
CC-Link IEコントローラネットワーク通信		UNIT_MNETGBOARD	PROTOCOL_MNETG	
CC-Link IEフィールドネットワーク通信		UNIT_CCIEFBOARD	PROTOCOL_CCIEF	
CC-Link IE TSN通信		UNIT_CCIETSNBOARD	PROTOCOL_CCIETSN	
CC-Link通信		UNIT_CCLINKBOARD	PROTOCOL_CCLINK	
CC-Linkシステム RS-232Cインターフェース通信		UNIT_G4QCPU	PROTOCOL_SERIAL	○
GX Simulator2通信		UNIT_SIMULATOR2	—	○
GX Simulator3通信(RCPU)		UNIT_SIMULATOR3		
GX Simulator3通信(FX5CPU)				
MT Simulator2通信		UNIT_SIMULATOR2	—	×

通信経路	プロパティの設定		使用可否
	ActUnitType	ActProtocolType	
MELSOFT Mirror通信	UNIT_RETHETHER_LCS	—	○
GOTゲートウェイデバイス通信	UNIT_A900GOT	PROTOCOL_UDPIP	×
GOTトランスペアレント機能通信	UNIT_RJ71C24, UNIT_FXVCPU, UNIT_QNCPU, UNIT_LNCPU, UNIT_FXCPU, UNIT_QJ71C24, UNIT_LJ71C24, UNIT_GOT_RJ71EN71, UNIT_GOT_QJ71E71, UNIT_GOT_LJ71E71, UNIT_GOT_RETHETHER, UNIT_GOT_QNETHER, UNIT_GOT_LNETHER, UNIT_A900GOT, UNIT_GOT_NZ2GF_ETB, UNIT_GOT_FXETHER, UNIT_GOT_FXENET	PROTOCOL_SERIAL, PROTOCOL_USBGOT	○
	UNIT_GOTETHER_RJ71C24, UNIT_GOTETHER_FXVCPU, UNIT_GOTETHER_QNCPU, UNIT_GOTETHER_LNCPU, UNIT_GOTETHER_FXCPU, UNIT_GOTETHER_QBUS, UNIT_GOTETHER_QN_ETHER	PROTOCOL_TCPIP	
インバータ通信	—	COMM_RS232C, COMM_USB	×

*1 自ボードアクセス時はエラーが返ります。

SetClockData(時計データ書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

CPUユニットの時計データへ時間を書き込みます。

書式

■VBA

object.SetClockData(iYear, iMonth, iDay, iDayOfWeek, iHour, iMinute, iSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
Integer	iYear	書き込む年の値	Input
Integer	iMonth	書き込む月の値	Input
Integer	iDay	書き込む日の値	Input
Integer	iDayOfWeek	書き込む曜日の値	Input
Integer	iHour	書き込む時間の値	Input
Integer	iMinute	書き込む分の値	Input
Integer	iSecond	書き込む秒の値	Input

■Visual C++

lRet = object.SetClockData(sYear, sMonth, sDay, sDayOfWeek, sHour, sMinute, sSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
Short	sYear	書き込む年の値	Input
Short	sMonth	書き込む月の値	Input
Short	sDay	書き込む日の値	Input
Short	sDayOfWeek	書き込む曜日の値	Input
Short	sHour	書き込む時間の値	Input
Short	sMinute	書き込む分の値	Input
Short	sSecond	書き込む秒の値	Input

■Visual Basic .NET

lRet = object.SetClockData(iYear, iMonth, iDay, iDayOfWeek, iHour, iMinute, iSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output
short	iYear	書き込む年の値	Input
short	iMonth	書き込む月の値	Input
short	iDay	書き込む日の値	Input
short	iDayOfWeek	書き込む曜日の値	Input
short	iHour	書き込む時間の値	Input
short	iMinute	書き込む分の値	Input
short	iSecond	書き込む秒の値	Input

■Visual C#

lRet = object.SetClockData(sYear, sMonth, sDay, sDayOfWeek, sHour, sMinute, sSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	lRet	戻り値	Output

データ型	引数	内容	Input/Output
short	sYear	書き込む年の値	Input
short	sMonth	書き込む月の値	Input
short	sDay	書き込む日の値	Input
short	sDayOfWeek	書き込む曜日の値	Input
short	sHour	書き込む時間の値	Input
short	sMinute	書き込む分の値	Input
short	sSecond	書き込む秒の値	Input

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.SetClockData(sYear,sMonth, sDay, sDayOfWeek, sHour, sMinute, sSecond, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
SHORT	sYear	書き込む年の値	Input
SHORT	sMonth	書き込む月の値	Input
SHORT	sDay	書き込む日の値	Input
SHORT	sDayOfWeek	書き込む曜日の値	Input
SHORT	sHour	書き込む時間の値	Input
SHORT	sMinute	書き込む分の値	Input
SHORT	sSecond	書き込む秒の値	Input
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔍 607ページ エラーコード)

説明

- 設定する時計データが正しい値でない場合、エラーが返ります。
- iYear(sYear)に指定した値は、RCPUおよびQCPU(Qモード)は西暦4桁、それ以外のCPUは西暦下2桁が有効となります。ただし、RCPUおよびQCPU(Qモード)は1980年から2079までとなります。RCPUおよびQCPU(Qモード)以外のCPUで4桁を設定した場合はエラーとなります。
- iDayOfWeek(sDayOfWeek)に指定する値は、下記のとおりです。

値	曜日
0	日曜日
1	月曜日
2	火曜日
3	水曜日
4	木曜日
5	金曜日
6	土曜日

Point

- RモーションCPUおよびQモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- FXCPUは、時計機能内蔵の機種で、時計データが書き込めます。上記以外のFXCPUはエラーが返ります。
- 時計設定は転送時間分の誤差が生じますのでご注意ください。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

通信経路の使用可否

通信経路の使用可否を下表に示します。

○: 使用可能, ×: 使用不可

通信経路		プロパティの設定		使用可否
		ActUnitType	ActProtocolType	
シリアルコミュニケーション通信	接続ユニットがMELSEC iQ-Rシリーズ対応C24	UNIT_RJ71C24	PROTOCOL_SERIAL	○
	接続ユニットがQシリーズ対応C24	UNIT_QJ71C24		○
	接続ユニットがLシリーズ対応C24	UNIT_LJ71C24		○
	接続ユニットがFX拡張ポート	UNIT_FX485BD		○
Ethernet通信		UNIT_RJ71EN71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	○
		UNIT_RJ71EN71_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_QJ71E71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_LJ71E71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RETHETHER	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RETHETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_FXVETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_FXVETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_LNETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_LNETHER, UNIT_LNETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_QNETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_QNETHER, UNIT_QNETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RJ71GN11	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_NZ2GF_ETB	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_NZ2GF_ETB, UNIT_NZ2GF_ETB_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_FXETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_FXETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
CPU COM通信	接続先CPUがFX5CPU	UNIT_FXVCPU	PROTOCOL_SERIAL	○
	接続先CPUがQCPU(Qモード)	UNIT_QNCPU		○
	接続先CPUがLCPU	UNIT_LNCPU		○
	接続先CPUがQモーションCPU	UNIT_QNMOTION		×
	接続先CPUがFXCPU	UNIT_FXCPU		○
USB通信	接続先CPUがRCPU	UNIT_RUSB	PROTOCOL_USB	○
	接続先CPUがLHCPU	UNIT_LHUSB		○
	接続先CPUがFX5CPU	UNIT_FXVUSB		○
	接続先CPUがQCPU(Qモード)	UNIT_QNUSB		○
	接続先CPUがLCPU	UNIT_LNUSB		○
	接続先CPUがQSCPU	UNIT_QSUSB		×*1
	接続先CPUがQモーションCPU	UNIT_QNMOTIONUSB		×
	接続先CPUがFXCPU	UNIT_FXCPU		○
MELSECNET/H通信		UNIT_MNETHBOARD	PROTOCOL_MNETH	○*2
CC-Link IEコントローラネットワーク通信		UNIT_MNETGBOARD	PROTOCOL_MNETG	
CC-Link IEフィールドネットワーク通信		UNIT_CCIEFBOARD	PROTOCOL_CCIEF	
CC-Link IE TSN通信		UNIT_CCIETSNBOARD	PROTOCOL_CCIETSN	
CC-Link通信		UNIT_CCLINKBOARD	PROTOCOL_CCLINK	
CC-Linkシステム RS-232Cインターフェース通信		UNIT_G4QCPU	PROTOCOL_SERIAL	○
GX Simulator2通信		UNIT_SIMULATOR2	—	×
GX Simulator3通信(RCPU)		UNIT_SIMULATOR3		
GX Simulator3通信(FX5CPU)				
MT Simulator2通信		UNIT_SIMULATOR2	—	×

通信経路	プロパティの設定		使用可否
	ActUnitType	ActProtocolType	
MELSOFT Mirror通信	UNIT_RETHETHER_LCS	—	○
GOTゲートウェイデバイス通信	UNIT_A900GOT	PROTOCOL_UDPIP	×
GOTトランスペアレント機能通信	UNIT_RJ71C24, UNIT_FXVCPU, UNIT_QNCPU, UNIT_LNCPU, UNIT_FXCPU, UNIT_QJ71C24, UNIT_LJ71C24, UNIT_GOT_RJ71EN71, UNIT_GOT_QJ71E71, UNIT_GOT_LJ71E71, UNIT_GOT_RETHETHER, UNIT_GOT_QNETHER, UNIT_GOT_LNETHER, UNIT_A900GOT, UNIT_GOT_NZ2GF_ETB, UNIT_GOT_FXETHER, UNIT_GOT_FXENET	PROTOCOL_SERIAL, PROTOCOL_USBGOT	○
	UNIT_GOTETHER_RJ71C24, UNIT_GOTETHER_FXVCPU, UNIT_GOTETHER_QNCPU, UNIT_GOTETHER_LNCPU, UNIT_GOTETHER_FXCPU, UNIT_GOTETHER_QBUS, UNIT_GOTETHER_QN_ETHER	PROTOCOL_TCPIP	
インバータ通信	—	COMM_RS232C, COMM_USB	×

*1 QSCPUにアクセス時は、エラー 0x010A42A0(アクセスパスワードが不一致)となります。

*2 自ボードアクセス時はエラーが返ります。

GetCpuType(CPUユニット形名読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

CPUユニット, ネットワークボード, GOTの形名文字列および形名コード(16進)を読み出します。

書式

■VBA

lRet = object.GetCpuType(szCpuName, lCpuType)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
String	szCpuName	形名文字列	Output
Long	lCpuType	形名コード	Output

■Visual C++

lRet = object.GetCpuType(*szCpuName, *lCpuType)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
BSTR	*szCpuName	形名文字列	Output
Long	*lCpuType	形名コード	Output

■Visual Basic .NET

lRet = object.GetCpuType(szCpuName, lCpuType)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output
String	szCpuName	形名文字列	Output
Integer	lCpuType	形名コード	Output

■Visual C#

iRet = object.GetCpuType(out szCpuName, out iCpuType)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szCpuName	形名文字列	Output
int	iCpuType	形名コード	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.GetCpuType(*szCpuName *lCpuType, *lRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	*szCpuName	形名文字列	Output
LONG	*lCpuType	形名コード	Output
LONG	*lRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(📄 607ページ エラーコード)

説明

- 通信を行っているCPUユニットの形名文字列をszCpuNameに、形名コード(16進)をlCpuType(lpCpuTypeまたはiCpuType)に格納します。
- 形名文字列はUNICODEで返されます。
- 形名コードはユニット固有の値(16進)です。

SetCpuStatus(リモートコントロール)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

CPUユニットのリモート操作を行います。

書式

■VBA

IRet = object.SetCpuStatus(IOperation)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
Long	IOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE/RESET	Input

■Visual C++

IRet = object.SetCpuStatus(IOperation)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
Long	IOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE/RESET	Input

■Visual Basic .NET

IRet = object.SetCpuStatus(IOperation)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
Integer	IOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE/RESET	Input

■Visual C#

iRet = object.SetCpuStatus (iOperation)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
int	iOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE/RESET	Input

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.SetCpuStatus(IOperation, *IpIRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	IOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE/RESET	Input
LONG	*IpIRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

IOperation(iOperation)にて指定された操作を行います。

下記以外の値を指定するとエラーとなります。

値	操作
0	リモートRUN
1	リモートSTOP
2	リモートPAUSE
3	リモートRESET

Point

- FXCPUはCPUユニットとしてPAUSEスイッチを持たないため、SetCpuStatusでリモートPAUSEを指定するとエラーを返します。
- QモーションCPUへアクセスし、PAUSEを指定するとエラーが返ります。
- RモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。
- リモートRESETは、QCPU、LCPU、RCPU、LHCPU、およびFX5CPUでリモートRESETに対応している機種のみサポートしています。

通信経路の使用可否

通信経路の使用可否を下表に示します。

○: 使用可能, ×: 使用不可

通信経路		プロパティの設定		使用可否
		ActUnitType	ActProtocolType	
シリアルコミュニケーション通信	接続ユニットがMELSEC iQ-Rシリーズ対応C24	UNIT_RJ71C24	PROTOCOL_SERIAL	○
	接続ユニットがQシリーズ対応C24	UNIT_QJ71C24		○
	接続ユニットがLシリーズ対応C24	UNIT_LJ71C24		○
	接続ユニットがFX拡張ポート	UNIT_FX485BD		○*1*2
Ethernet通信		UNIT_RJ71EN71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	○
		UNIT_RJ71EN71_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_QJ71E71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_LJ71E71	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RETHETHER	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RETHETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_FXVETHER	PROTOCOL_TCPIP	○*1
		UNIT_FXVETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_LNETHER	PROTOCOL_TCPIP	○
		UNIT_LNETHER, UNIT_LNETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_QNETHER	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_QNETHER, UNIT_QNETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_RJ71GN11	PROTOCOL_TCPIP, PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_NZ2GF_ETB	PROTOCOL_TCPIP	
		UNIT_NZ2GF_ETB, UNIT_NZ2GF_ETB_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	
		UNIT_FXETHER	PROTOCOL_TCPIP	○*1
		UNIT_FXETHER_DIRECT	PROTOCOL_UDPIP	

通信経路		プロパティの設定		使用可否
		ActUnitType	ActProtocolType	
CPU COM通信	接続先CPUがFX5CPU	UNIT_FXVCPU	PROTOCOL_SERIAL	○*1
	接続先CPUがQCPU(Qモード)	UNIT_QNCPU		○
	接続先CPUがLCPU	UNIT_LNCPU		○
	接続先CPUがQモーションCPU	UNIT_QNMOTION		○
	接続先CPUがFXCPU	UNIT_FXCPU		○*1
USB通信	接続先CPUがRCPU	UNIT_RUSB	PROTOCOL_USB	○
	接続先CPUがLHCPU	UNIT_LHUSB		○
	接続先CPUがFX5CPU	UNIT_FXVUSB		○
	接続先CPUがQCPU(Qモード)	UNIT_QNUSB		○
	接続先CPUがLCPU	UNIT_LNUSB		○
	接続先CPUがQSCPU	UNIT_QSUSB		×*3
	接続先CPUがQモーションCPU	UNIT_QNMOTIONUSB		○
	接続先CPUがFXCPU	UNIT_FXCPU		○*1
MELSECNET/H通信		UNIT_MNETHBOARD	PROTOCOL_MNETH	○*4
CC-Link IEコントローラネットワーク通信		UNIT_MNETGBOARD	PROTOCOL_MNETG	
CC-Link IEフィールドネットワーク通信		UNIT_CCIEFBOARD	PROTOCOL_CCIEF	
CC-Link IE TSN通信		UNIT_CCIETSNBOARD	PROTOCOL_CCIETSN	
CC-Link通信		UNIT_CCLINKBOARD	PROTOCOL_CCLINK	
CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信		UNIT_G4QCPU	PROTOCOL_SERIAL	○
GX Simulator2通信		UNIT_SIMULATOR2	—	○
GX Simulator3通信(RCPU)		UNIT_SIMULATOR3		○*1
GX Simulator3通信(FX5CPU)				
MT Simulator2通信		UNIT_SIMULATOR2	—	○
MELSOFT Mirror通信		UNIT_RETHER_LCS	—	○
GOTゲートウェイデバイス通信		UNIT_A900GOT	PROTOCOL_UDPIP	×
GOTトランスペアレント機能通信	UNIT_RJ71C24, UNIT_QNCPU, UNIT_LNCPU		PROTOCOL_SERIAL, PROTOCOL_USBGOT	○
	UNIT_FXVCPU, UNIT_FXCPU			○*1
	UNIT_QJ71C24, UNIT_LJ71C24, UNIT_GOT_RJ71EN71, UNIT_GOT_QJ71E71, UNIT_GOT_LJ71E71, UNIT_GOT_RETHER, UNIT_GOT_QNETHER, UNIT_GOT_LNETHER, UNIT_A900GOT, UNIT_GOT_NZ2GF_ETB			○
	UNIT_GOT_FXETHER, UNIT_GOT_FXENET			○*1
	UNIT_GOTETHER_RJ71C24, UNIT_GOTETHER_QNCPU, UNIT_GOTETHER_LNCPU			○
	UNIT_GOTETHER_FXVCPU, UNIT_GOTETHER_FXCPU		○*1	
	UNIT_GOTETHER_QBUS		○	
	UNIT_GOTETHER_QN_ETHER		○	
	インバータ通信		—	COMM_RS232C, COMM_USB

*1 PAUSE指定を行うとエラーが返ります。

*2 FX3S, FX3U, FX3UC, FX3G, FX3GC以外のCPUはエラーが返ります。

*3 QSCPUにアクセス時は、エラー 0x010A42A0(アクセスパスワードが不一致)となります。

*4 自ボードアクセス時はエラーが返ります。

EntryDeviceStatus(デバイスの状態監視登録)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType

機能

状態監視を行うデバイスを登録します。

書式

■VBA

IRet = object.EntryDeviceStatus(szDeviceList, ISize, IMonitorCycle, IData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	登録デバイス名リスト	Input
Long	ISize	登録デバイス点数	Input
Long	IMonitorCycle	状態監視間隔時間	Input
Long	IData(n)	登録デバイス値リスト	Input

■Visual C++

IRet = object.EntryDeviceStatus (szDeviceList, ISize, IMonitorCycle, *lpIData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDeviceList	登録デバイス名リスト	Input
Long	ISize	登録デバイス点数	Input
Long	IMonitorCycle	状態監視間隔時間	Input
Long	*lpIData	登録デバイス値リスト	Input

■Visual Basic .NET

IRet = object.EntryDeviceStatus(szDeviceList, ISize, IMonitorCycle, IData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	登録デバイス名リスト	Input
Integer	ISize	登録デバイス点数	Input
Integer	IMonitorCycle	状態監視間隔時間	Input
Integer	IData(n)	登録デバイス値リスト	Input

■Visual C#

iRet = object.EntryDeviceStatus(szDeviceList, iSize, iMonitorCycle, ref iData[0])

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	登録デバイス名リスト	Input
int	iSize	登録デバイス点数	Input
int	iMonitorCycle	状態監視間隔時間	Input
int[n]	iData	登録デバイス値リスト	Input

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceListにて指定したISize(iSize)分のデバイス群が、IData(IplDataまたはiData)にて指定した状態であるかを確認します。

確認時間はIMonitorCycle(iMonitorCycle)にて指定します。

状態成立によりユーザプログラムのOnDeviceStatus関数を実行します。

- デバイスリストに指定する文字列は改行記号で区切ってください。

最終デバイスの後ろには改行記号は必要ありません。

(例)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbCrLf & "D1" & vbCrLf & "D2"

Visual C++使用時: D0¥nD1¥nD2

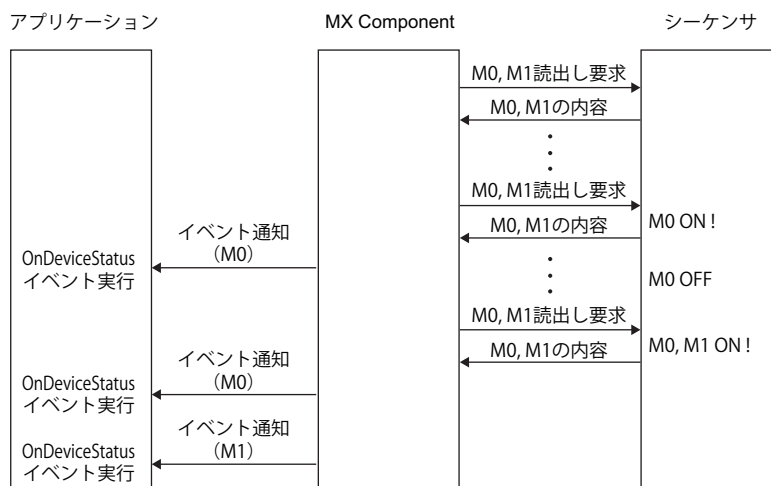
Visual C#使用時: D0¥nD1¥nD2

- ISize(iSize)に指定できる最大デバイス点数は、20点です。
- IMonitorCycle(iMonitorCycle)は1秒～1時間の範囲(1～3600の秒単位で設定)で指定してください。
これ以外の値を指定するとエラーとなります。
- 登録デバイス値リストを、IData(IplDataまたはiData)に格納します。

Point

- パソコン性能、実行中のアプリケーション負荷、シーケンサとの通信に要する時間などの条件により、指定の状態監視間隔時間に、デバイスの状態監視が行えない場合があります。また、コントロールの他の関数を同時に使用する場合も、指定の状態監視間隔時間でデバイスの状態監視ができない原因になります。
- IData(IplDataまたはiData)は、ISize(iSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- 状態監視中にEntryDeviceStatusを実行した場合は、エラーとなります。状態監視の条件を変更する場合は、FreeDeviceStatusを実行後、再度EntryDeviceStatusを実行してください。
- 複数デバイスが同時に状態変化した場合は、状態変化したごとに、OnDeviceStatusイベントが実行されます。

(例: M0を監視している場合)



- コントロールが定期的にデバイスランダム読出しを実行し、状態成立を確認する機能です。したがって、CPUユニットがデバイスの状態成立をMX Componentに通知する機能ではありません。そのため、指定の状態監視間隔時間によっては、コントロールがCPUユニットのデバイスの状態成立を確認できない場合があります。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

ワードデバイスを状態監視する場合の注意事項

ワードデバイスが負の値-1～-32768(FFFFH～8000H)になるのを状態監視する場合、EntryDeviceStatusの監視デバイス値は上位2バイトに「0」を格納した65535～32768(0000FFFFH～00008000H)を設定してください。

(例) D0が「-10」となるのを状態監視させる場合

「-10(FFFFFF6H)」の上位2バイトに「0」を格納した値「65526(0000FFF6H)」を監視デバイス値に設定してください。

CPUユニットのワードデバイスがWORD型であるのに対し、EntryDeviceStatusの監視デバイス値の型はLONG型であるため、CPUユニットの現在値とEntryDeviceStatusの監視デバイス値を比較した場合、同じ値にはならず上記の設定が必要になります。(ビットデバイスおよびダブルワードデバイス使用時は、本注意事項は該当しません。)

本注意事項についてのプログラミング例は下記を参照してください。

660ページ ワードデバイスを状態監視する場合のプログラミング例

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■下記のように指定した場合(点数は3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "M0" & vbLf & "D0" & vbLf & "K8M0"
 Visual C++使用時: M0¥nD0¥nK8M0
 Visual C#使用時: M0¥nD0¥nK8M0

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0
	D0
M16～M31 ^{*1}	M0～M15 ^{*1}

^{*1} デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

■FXCPUのCN200以降を含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

FXCPUのCN200以降は、ランダム読出しでは1点で2ワード分読み出します。

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbLf & "CN200" & vbLf & "D1"
 Visual C++使用時: D0¥nCN200¥nD1
 Visual C#使用時: D0¥nCN200¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
CN200のH	CN200のL
使用しません。(0が格納されます。)	D1

■FDを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbLf & "FD0" & vbLf & "D1"
 Visual C++使用時: D0¥nFD0¥nD1
 Visual C#使用時: D0¥nFD0¥nD1

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
	FD0のLL
	D1

■EGを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている例を下記に示します。

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbLf & "EG0" & vbLf & "D1"
Visual C++使用時: D0¥nEG0¥nD1
Visual C#使用時: D0¥nEG0¥nD1

上位2バイト	下位2バイト	
使用しません。(0が格納されます。)	D0	
	EG0	
	(E0001)	(E0000)
	D1	

■ダブルワードデバイスを指定した場合

Visual Basic .NET, VBA使用時: "LTN0" & vbLf & "LTN1" & vbLf & "LTN2"
Visual C++使用時: LTN0¥nLTN1¥nLTN2
Visual C#使用時: LTN0¥nLTN1¥nLTN2

上位2バイト	下位2バイト
LTN0のH	LTN0のL
LTN1のH	LTN1のL
LTN2のH	LTN2のL

FreeDeviceStatus(デバイスの状態監視登録解除)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType

機能

EntryDeviceStatusにて登録した、状態監視を行うデバイスを解除します。

書式

■VBA

lRet = object.FreeDeviceStatus()

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output

■Visual C++

iRet = object.FreeDeviceStatus()

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output

■Visual Basic .NET

lRet = object.FreeDeviceStatus()

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output

■Visual C#

iRet = object.FreeDeviceStatus()

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔍 607ページ エラーコード)

説明

EntryDeviceStatus関数にて設定した状態監視を行うデバイスを解除します。

Point

インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

OnDeviceStatus(イベント告知)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType

機能

EntryDeviceStatus関数にて登録したデバイス条件が成立時に実行します。

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■VBA

- イベントハンドラの生成

Private WithEvents object As objectLib.object

- イベントハンドラ

Private Sub object_OnDeviceStatus(szDevice, lData, lReturnCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
String	szDevice	条件成立したデバイス名	Input
Long	lData	条件成立したデバイス値	Input
Long	lReturnCode	条件チェック処理の戻り値	Input

■Visual Basic .NET

- イベントハンドラの生成

AddHandler object.OnDeviceStatus, AddressOf object_OnDeviceStatus

- イベントハンドラ

Private Sub object_OnDeviceStatus(szDevice, iData, iReturnCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
String	szDevice	条件成立したデバイス名	Input
Integer	iData	条件成立したデバイス値	Input
Integer	iReturnCode	条件チェック処理の戻り値	Input

- イベントハンドラの削除

RemoveHandler object.OnDeviceStatus, AddressOf object_OnDeviceStatus

■Visual C#

- イベントハンドラの生成

object.OnDeviceStatus += new objectLib._lobjectEvents_OnDeviceStatusEventHandler(object_OnDeviceStatus);

- イベントハンドラ

private void object_OnDeviceStatus(szDevice, iData, iReturnCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
String	szDevice	条件成立したデバイス名	Input
int	iData	条件成立したデバイス値	Input
int	iReturnCode	条件チェック処理の戻り値	Input

- イベントハンドラの削除

object.OnDeviceStatus -= new objectLib._lobjectEvents_OnDeviceStatusEventHandler(object_OnDeviceStatus);

書式(フォームに貼り付けて使用する場合)

■VBA

Private Sub object.OnDeviceStatus(szDevice, IData, IReturnCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
String	szDevice	条件成立したデバイス名	Input
Long	IData	条件成立したデバイス値	Input
Long	IReturnCode	条件チェック処理の戻り値	Input

■Visual C++

- イベントハンドラの生成
- フォームに貼り付けたコントロールのプロパティ⇒[管理イベント]タブからOnDeviceStatusイベントを追加する。
OnDeviceStatusイベント名: object_OnDeviceStatus
- イベントハンドラ

void object.OnDeviceStatus(szDevice, IData, IReturnCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
LPCTSTR	szDevice	条件成立したデバイス名	Input
Long	IData	条件成立したデバイス値	Input
Long	IReturnCode	条件チェック処理の戻り値	Input

■Visual Basic .NET

Private Sub object_OnDeviceStatus(ByVal sender As System.Object,
ByVal e As objectLib. _objectEvents_OnDeviceStatusEvent)

引数	内容	Input/Output
sender	イベントの発生元	Output
e	イベントのデータ	Output

eのメンバは下記のとおりです。

メンバ	内容
e.szDevice	条件成立したデバイス名
e.IReturnCode	条件成立したデバイス値
e.IData	条件チェック処理の戻り値

■Visual C#

private void object_OnDeviceStatus
(object sender,objectLib. _IActUtilTypeEvents_OnDeviceStatusEvent e)

引数	内容	Input/Output
sender	イベントの発生元	Output
e	イベントのデータ	Output

eのメンバは下記のとおりです。

メンバ	内容
e->szDevice	条件成立したデバイス名
e->IReturnCode	条件チェック処理の戻り値
e->IData	条件成立したデバイス値

戻り値

なし

説明

- EntryDeviceStatus関数にて登録したデバイス条件が、成立時にアプリケーションに対してイベントを通知します。
ユーザプログラム側にて本関数を実装することにより、登録されたデバイス条件成立時に、イベントを受けることができます。
- IDataには、EntryDeviceStatusにて登録したデバイス値が入ります。
(例) ワードデバイスで「-1」の値を監視している場合
EntryDeviceStatusで65535(0000FFFFH)を登録デバイス値として設定します。
CPUユニットの対象ワードデバイスが「-1」(FFFFH)の状態になると、OnDeviceStatusが実行され、IDataには(0000FFFFH)が入ります。

Point

- ユーザプログラム内で下記設定を行っている場合、EntryDeviceStatus関数で登録したデバイスの条件が成立してもOnDeviceStatusのイベントが発生しません。イベント発生待ちになった場合、下記設定が終了するまでコントロールに制御が戻らず、デバイス管理処理が停止しますので注意してください。
 - (1) Visual Basic .NET, VBA(Excel)で作成しているユーザプログラム
 - ・ユーザプログラム内でメッセージボックスを表示している。
 - ・ユーザプログラム内でInputBox/OutputBoxを表示している。
 - (2) Visual Basic .NET, Visual C++, Visual C#, およびVBA(Excel, Access)で作成しているユーザプログラム
 - ・ユーザプログラム内でSleep処理, WaitForSingleObject関数などの待機関数を使用している。
- "参照設定"の実装方法についてはサンプルプログラムを参考にしてください。
- 64ビット用ではフォームに貼り付けて使用する方法は利用できません。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

ReadDeviceBlock2(デバイスの一括読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

2バイトデータでデバイスの一括読出しを行います。

書式

■VBA

IRet = object.ReadDeviceBlock2(szDevice, ISize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Integer	iData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C++

IRet = object.ReadDeviceBlock2(szDevice, ISize, *lpsData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Long	ISize	読出し点数	Input
Short	*lpsData	読み出したデバイス値	Output

■Visual Basic .NET

IRet = object.ReadDeviceBlock2(szDevice, ISize, sData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	ISize	読出し点数	Input
short	sData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C#

iRet = object.ReadDeviceBlock2(szDevice, iSize, out sData[0])

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
int	iSize	読出し点数	Input
short[n]	sData	読み出したデバイス値	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.ReadDeviceBlock2(szDevice, lSize, *lpsData, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	lSize	読み出し点数	Input
SHORT	*lpsData	読み出したデバイス値	Output
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceにて指定したデバイスから、lSize(iSize)分のデバイス値をSHORT型のデータとして一括して読み出します。
- 読み出したデバイス値は、iData(lpsDataまたはsData)に格納されます。
- iData(lpsDataまたはsData)は、lSize(iSize)以上の配列を確保してください。

Point

- lSizeに指定できる最大読み出し点数は、下記の満たす範囲です。
読み出し開始デバイス番号 + 読み出し点数 ≤ 最終デバイス番号
- ビットデバイス指定時は、デバイス番号は16の倍数が指定可能です。
- iData(lpsDataまたはsData)は、lSize(iSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- ロングタイマの接点(LTS)、ロングタイマのコイル(LTC)、ロング積算タイマの接点(LSTS)、ロング積算タイマのコイル(LSTC)のデバイスの読み出しはできません。ReadDeviceRandom2関数、またはGetDevice2関数を使用してください。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■ビットデバイス指定時

(例) M0から16点単位で3点(3ワード分)読み出す。

2バイト
M0~M15*1
M16~M31*1
M32~M47*1

*1 デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

■ワードデバイス指定時

(例) D0から3点読み出す。

2バイト
D0
D1
D2

■FXCPUのCN200以降指定時

(例) CN200から6点読み出す。
FXCPUのCN200以降は、2点で2ワード読み出します。1点ではエラーとなります。

2バイト
CN200のL
CN200のH
CN201のL
CN201のH
CN202のL
CN202のH

■FDデバイス指定時(4ワードデバイス)

(例) FD0から6点読み出す。

2バイト
FD0のLL
FD0のLH
FD0のHL
FD0のHH
FD1のLL
FD1のLH

■ゲートウェイデバイスに割り付けられた8ビットデバイス

(例) EG0から4点読み出す。
(EG0～EG3に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000～E0007)が割り付けられている場合)

2バイト
EG0
(E0001)
(E0000)
EG1
(E0003)
(E0002)
EG2
(E0005)
(E0004)
EG3
(E0007)
(E0006)

■ダブルワードデバイス指定時

(例) LTN0から3点読み出す。

2バイト
LTN0のL
LTN1のL
LTN2のL

WriteDeviceBlock2(デバイスの一括書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

2バイトデータでデバイスの一括書込みを行います。

書式

■VBA

lRet = object.WriteDeviceBlock2(szDevice, lSize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Long	lSize	書込み点数	Input
Integer	iData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C++

lRet = object.WriteDeviceBlock2(szDevice, lSize, *lpsData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Long	lSize	書込み点数	Input
Short	*lpsData	書き込むデバイス値	Input

■Visual Basic .NET

lRet = object.WriteDeviceBlock2(szDevice, lSize, sData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	lSize	書込み点数	Input
short	sData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C#

iRet = object.WriteDeviceBlock2(szDevice, iSize, ref sData[0])

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
short[n]	sData	書き込むデバイス値	Input

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.WriteDeviceBlock2(szDevice, lSize, *lpsData, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	lSize	書き込み点数	Input
SHORT	*lpsData	書き込むデバイス値	Input
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceにて指定したデバイスから、lSize(iSize)分のデバイス値を一括して書き込みます。
- 書き込むデバイス値を、iData(lpsDataまたはsData)に格納します。
- iData(lpsDataまたはsData)は、lSize(iSize)以上の配列を確保してください。

Point

- lSize(iSize)に指定できる最大書き込み点数は、下記の満たす範囲です。
書き込み開始デバイス番号 + 書き込み点数 ≤ 最終デバイス番号
- ビットデバイス指定時は、デバイス番号は16の倍数が指定可能です。
- iData(lpsDataまたはsData)は、lSize(iSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- ロングタイマの接点(LTS)、ロングタイマのコイル(LTC)、ロング積算タイマの接点(LSTS)、ロング積算タイマのコイル(LSTC)のデバイスの書き込みはできません。WriteDeviceRandom2関数、またはSetDevice2関数を使用してください。
- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■ビットデバイス指定時

(例) M0から16点単位で3点(3ワード分)書き込む。

2バイト
M0～M15 ^{*1}
M16～M31 ^{*1}
M32～M47 ^{*1}

^{*1} デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

■ワードデバイス指定時

(例) D0から3点書き込む。

2バイト
D0
D1
D2

■FXCPUのCN200以降指定時

(例) CN200から6点書き込む。

FXCPUのCN200以降は、2点で2ワード書き込みます。1点ではエラーとなります。

2バイト	
CN200のL	
CN200のH	
CN201のL	
CN201のH	
CN202のL	
CN202のH	

■FDデバイス指定時(4ワードデバイス)

(例) FD0から6点書き込む。

2バイト	
FD0のLL	
FD0のLH	
FD0のHL	
FD0のHH	
FD1のLL	
FD1のLH	

■ゲートウェイデバイスに割り付けられた8ビットデバイス

(例) EG0から4点書き込む。

(EG0～EG3に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000～E0007)が割り付けられている場合)

2バイト	
EG0	
(E0001)	(E0000)
EG1	
(E0003)	(E0002)
EG2	
(E0005)	(E0004)
EG3	
(E0007)	(E0006)

■ダブルワードデバイス指定時

(例) LTN0から3点書き込む。

2バイト	
LTN0のL	
LTN1のL	
LTN2のL	

ReadDeviceRandom2(デバイスのランダム読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

2バイトデータでデバイスのランダム読出しを行います。

書式

■VBA

lRet = object.ReadDeviceRandom2(szDeviceList, lSize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	lSize	読出し点数	Input
Integer	iData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C++

lRet = object.ReadDeviceRandom2(szDeviceList, lSize, *lpsData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
CString	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	lSize	読出し点数	Input
Short	*lpsData	読み出したデバイス値	Output

■Visual Basic .NET

lRet = object.ReadDeviceRandom2(szDeviceList, lSize, sData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Integer	lSize	読出し点数	Input
short	sData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C#

iRet = object.ReadDeviceRandom2(szDeviceList, iSize, out sData[0])

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
int	iSize	読出し点数	Input
short[n]	sData	読み出したデバイス値	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.ReadDeviceRandom2(szDeviceList, ISize, *lpsData, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDeviceList	デバイス名	Input
LONG	ISize	読出し点数	Input
SHORT	*lpsData	読み出したデバイス値	Output
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

• szDeviceListにて指定したデバイス群を、ISize(iSize)分のデバイス値だけ読み出します。

• 読み出したデバイス値は、iData(lpsDataまたはsData)に格納されます。

• デバイスリストに指定する文字列は改行記号で区切ってください。

最終デバイスの後ろには改行記号は必要ありません。

(例)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbLf & "D1" & vbLf & "D2"

Visual C++使用時: D0¥nD1¥nD2

Visual C#使用時: D0¥nD1¥nD2

• iData(lpsDataまたはsData)は、ISize(iSize)以上の配列を確保してください。

• グローバルラベルにアクセスする場合は、szDeviceListにグローバルラベルを指定してください。また、使用可能なグローバルラベルのデータ型および指定点数については下記を参照してください。

🔗 22ページ グローバルラベル名を指定したデータ取得

Point

• ISize(iSize)に指定できる最大読出し点数は、0x7FFFFFFF点までです。

• iData(lpsDataまたはsData)は、ISize(iSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。

メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。

• ダブルワードデバイスを指定した場合、ReadDeviceRandom2関数では下位1ワード(2バイト)分のデータのみ格納されます。(エラーは発生しません。)

ダブルワードデバイスの読出しを行う場合は、ReadDeviceRandom関数またはGetDevice関数を使用してください。

• インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■下記のように指定した場合(点数は3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "M0" & vbLf & "D0" & vbLf & "K8M0"

Visual C++使用時: M0¥nD0¥nK8M0

Visual C#使用時: M0¥nD0¥nK8M0

2バイト

M0*1

D0

M0~M15*2

*1 読み出すデバイスは「M0」1点のみを対象とし、デバイス値は「0」または「1」が格納されます。

*2 デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

上位2バイトM16~M31は読み出されません。

■FXCPUのCN200以降を含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時:	"D0" & vbLf & "CN200" & vbLf & "D1"
Visual C++使用時:	D0¥nCN200¥nD1
Visual C#使用時:	D0¥nCN200¥nD1

2バイト
D0
CN200のL ^{*1}
D1

*1 FxCPUのCN200以降は、ReadDeviceRandom2では1点で指定デバイスのL(下位2バイト)を読み出します。
指定デバイスのH(上位2バイト)は読み出されません。

■FDを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時:	"D0" & vbLf & "FD0" & vbLf & "D1"
Visual C++ 使用時:	D0¥nFD0¥nD1
Visual C#使用時:	D0¥nFD0¥nD1

2バイト
D0
FD0のLL
D1

■EGを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている例を下記に示します。

Visual Basic .NET, VBA使用時:	"D0" & vbLf & "EG0" & vbLf & "D1"
Visual C++使用時:	D0¥nEG0¥nD1
Visual C#使用時:	D0¥nEG0¥nD1

2バイト	
D0	
EG0	
(E0001)	(E0000)
D1	

■ダブルワードデバイスを指定した場合

Visual Basic .NET, VBA使用時:	"LTN0" & vbLf & "LTN1" & vbLf & "LTN2"
Visual C++使用時:	LTN0¥nLTN1¥nLTN2
Visual C#使用時:	LTN0¥nLTN1¥nLTN2

2バイト
LTN0のL
LTN1のL
LTN2のL

WriteDeviceRandom2(デバイスのランダム書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

2バイトデータでデバイスのランダム書込みを行います。

書式

■VBA

IRet = object.WriteDeviceRandom2(szDeviceList, ISize, iData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Integer	iData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C++

IRet = object.WriteDeviceRandom2(szDeviceList, ISize, *IpsData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	IRet	戻り値	Output
CString	szDeviceList	デバイス名	Input
Long	ISize	書込み点数	Input
Short	*IpsData	書き込むデバイス値	Input

■Visual Basic .NET

IRet = object.WriteDeviceRandom2(szDeviceList, ISize, sData(0))

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
Integer	ISize	書込み点数	Input
short	sData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C#

iRet = object.WriteDeviceRandom2(szDeviceList, iSize, ref sData[0])

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDeviceList	デバイス名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
short[n]	sData	書き込むデバイス値	Input

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.WriteDeviceRandom2(szDeviceList, lSize, *lpsData, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDeviceList	デバイス名	Input
LONG	lSize	書き込み点数	Input
SHORT	*lpsData	書き込むデバイス値	Input
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceListにて指定したデバイス群を、lSize(iSize)分のデバイス値だけ書き込みます。
- 書き込むデバイス値を、iData(lpsDataまたはsData)に格納します。
- デバイスリストに指定する文字列は改行記号で区切ってください。最終デバイスの後ろには改行記号は必要ありません。

(例)

Visual Basic .NET, VBA使用時: "D0" & vbLf & "D1" & vbLf & "D2"

Visual C++使用時: D0¥nD1¥nD2

Visual C#使用時: D0¥nD1¥nD2

- iData(lpsDataまたはsData)は、lSize(iSize)以上の配列を確保してください。
- グローバルラベルにアクセスする場合は、szDeviceListにグローバルラベルを指定してください。また、使用可能なグローバルラベルのデータ型および指定点数については下記を参照してください。

🔗 22ページ グローバルラベル名を指定したデータ取得

Point

- lSize(iSize)に指定できる最大書き込み点数は、0x7FFFFFFF点までです。
- iData(lpsDataまたはsData)は、lSize(iSize)に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- ダブルワードデバイスを指定した場合、WriteDeviceRandom2関数では下位1ワード(2バイト)分のデータに書き込みを行い、上位1ワード(2バイト)分のデータには"0"を書込みます。
ダブルワードデバイスの書き込みを行う場合は、WriteDeviceRandom関数またはSetDevice関数を使用してください。
- QモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■下記のように指定した場合(点数は3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時:	"M0" & vbLf & "D0" & vbLf & "K8M0"
Visual C++使用時:	M0¥nD0¥nK8M0
Visual C#使用時:	M0¥nD0¥nK8M0

2バイト

M0*1

D0

M0～M15*2

*1 書き込むデバイスは「M0」1点のみを対象とし、デバイス値は設定する2バイトデータの最下位ビットが書き込む値となります。

*2 デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。

上位2バイトM16～M31には"0"が書き込まれます。

■FXCPUのCN200以降を含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時:	"D0" & vbLf & "CN200" & vbLf & "D1"
Visual C++使用時:	D0¥nCN200¥nD1
Visual C#使用時:	D0¥nCN200¥nD1

2バイト

D0

CN200のL*1

D1

*1 FXCPUのCN200以降は、WriteDeviceRandom2では1点で指定デバイスのL(下位2バイト)に書き込みを行います。

指定デバイスのH(上位2バイト)には"0"が書き込まれます。

■FDを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

Visual Basic .NET, VBA使用時:	"D0" & vbLf & "FD0" & vbLf & "D1"
Visual C++使用時:	D0¥nFD0¥nD1
Visual C#使用時:	D0¥nFD0¥nD1

2バイト

D0

FD0のLL

D1

■EGを含むデバイスを指定した場合(点数は合計3点)

EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている例を下記に示します。

Visual Basic .NET, VBA使用時:	"D0" & vbLf & "EG0" & vbLf & "D1"
Visual C++使用時:	D0¥nEG0¥nD1
Visual C#使用時:	D0¥nEG0¥nD1

2バイト

D0

EG0

(E0001)

(E0000)

D1

■ダブルワードデバイスを指定した場合

Visual Basic .NET, VBA使用時:	"LTN0" & vbLf & "LTN1" & vbLf & "LTN2"
Visual C++使用時:	LTN0¥nLTN1¥nLTN2
Visual C#使用時:	LTN0¥nLTN1¥nLTN2

2バイト

LTN0のL

LTN1のL

LTN2のL

SetDevice2(デバイスデータの設定)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

2バイトデータでデバイス1点の設定を行います。

書式

■VBA

lRet = object.SetDevice2(szDevice, iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	iData	設定データ	Input

■Visual C++

lRet = object.SetDevice2(szDevice, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Short	sData	設定データ	Input

■Visual Basic .NET

lRet = object.SetDevice2(szDevice, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Short	sData	設定データ	Input

■Visual C#

iRet = object.SetDevice2(szDevice, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
short	sData	設定データ	Input

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.SetDevice2(szDevice, sData, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
LONG	lData	設定データ	Input
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceにて指定したデバイス1点に対してiData(sData)で指定する操作を行います。
- ビットデバイス設定時は、iData値(sData値)の最下位のビットが有効となります。
- グローバルラベルにアクセスする場合は、szDeviceにグローバルラベルを指定してください。また、使用可能なグローバルラベルのデータ型および指定点数については下記を参照してください。

🔗 22ページ グローバルラベル名を指定したデータ取得

Point

- ダブルワードデバイスを指定した場合、SetDevice2関数では下位1ワード(2バイト)分のデータに書き込みを行い、上位1ワード(2バイト)分のデータには"0"を書き込みます。
ダブルワードデバイスの書き込みを行う場合は、WriteDeviceRandom関数またはSetDevice関数を使用してください。
- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■ビットデバイス指定時

(例) M0

2バイト

M0*1

*1 書き込むデバイスは「M0」1点のみを対象とし、デバイス値は設定する2バイトデータの最下位ビットが書き込む値となります。

■ワードデバイス指定時

(例) D0

2バイト

D0

■ダブルワードデバイス指定時

(例) LTN0

2バイト

LTN0のL

■ダブルワードデバイス指定時(桁指定)

(例) K8M0

2バイト

M0~M15*1

*1 デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。
上位2バイトM16~M31には"0"が書き込まれます。

■FXCPUのCN200以降指定時

(例) CN200

2バイト
CN200のL ^{*1}

*1 FXCPUのCN200以降は、SetDevice2では1点で指定デバイスのL(下位2バイト)に書き込みを行います。
指定デバイスのH(上位2バイト)には"0"が書き込まれます。

■ゲートウェイデバイス指定時

(例) EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている場合

2バイト
EG0
(E0001)
(E0000)

GetDevice2(デバイスデータの取得)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgType, ActUtilType
- 64ビット用: ActProgType64, ActUtilType64

機能

2バイトデータでデバイス1点のデータを取得します。

書式

■VBA

lRet = object.GetDevice2(szDevice, iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
Integer	iData	取得データ	Output

■Visual C++

lRet = object.GetDevice2(szDevice, *lpsData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
CString	szDevice	デバイス名	Input
Short	*lpsData	取得データ	Output

■Visual Basic .NET

lRet = object.GetDevice2(szDevice, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
short	sData	取得データ	Output

■Visual C#

iRet = object.GetDevice2(szDevice, out sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szDevice	デバイス名	Input
short	sData	取得データ	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.GetDevice2(szDevice, *lpsData, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	szDevice	デバイス名	Input
SHORT	*lpsData	取得データ	Output
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- szDeviceにて指定した1点のデバイスのデータを、iData(lpsDataまたはsData)に格納します。
- グローバルラベルにアクセスする場合は、szDeviceにグローバルラベルを指定してください。また、使用可能なグローバルラベルのデータ型および指定点数については下記を参照してください。

22ページ グローバルラベル名を指定したデータ取得

Point

- ダブルワードデバイスを指定した場合、GetDevice2関数では下位1ワード(2バイト)分のデータのみ格納されます。(エラーは発生しません。)
- ダブルワードデバイスの読出しを行う場合は、ReadDeviceRandom関数またはGetDevice関数を使用してください。
- インバータ通信/ロボットコントローラ通信時は使用できません。

デバイス指定方法

デバイスの指定方法を下記に示します。

■ビットデバイス指定時

(例) M0

2バイト

M0*1

*1 読み出すデバイスは「M0」1点のみを対象とし、デバイス値は「0」または「1」が格納されます。

■ワードデバイス指定時

(例) D0

2バイト

D0

■ダブルワードデバイス指定時

(例) LTN0

2バイト

LTN0のL

■ダブルワードデバイス指定時(桁指定)

(例) K8M0

2バイト

M0~M15*1

*1 デバイスの番号順に、下位ビットから格納されます。
上位2バイトM16~M31のデータは読み出されません。

■FXCPUのCN200以降指定時

(例) CN200

2バイト

CN200のL*1

*1 FXCPUのCN200以降は、GetDevice2では1点で指定デバイスのL(下位2バイト)を読み出します。
指定デバイスのH(上位2バイト)は読み出されません。

■ゲートウェイデバイス指定時

(例) EG0に8ビットデバイス(シャープ社製シーケンサのE0000, E0001)が割り付けられている場合

2バイト	
EG0	
(E0001)	(E0000)

GetErrorMessage(エラー内容と処置方法の取得)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActSupportMsg
- 64ビット用: ActSupportMsg64

機能

エラーコードに対するエラー内容および処置方法を取得します。

書式

■VBA

lRet = object.GetErrorMessage(lErrorCode, szErrorMessage)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
Long	lErrorCode	エラーコード	Input
String	szErrorMessage	エラーメッセージ	Output

■Visual C++

lRet = object.GetErrorMessage(lErrorCode, *lpszErrorMessage)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output
Long	lErrorCode	エラーコード	Input
BSTR	*lpszErrorMessage	エラーメッセージ	Output

■Visual Basic .NET

lRet = object.GetErrorMessage(lErrorCode, szErrorMessage)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output
Integer	lErrorCode	エラーコード	Input
String	szErrorMessage	エラーメッセージ	Output

■Visual C#

iRet = object.GetErrorMessage(iErrorCode, out szErrorMessage)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
int	iErrorCode	エラーコード	Input
String	szErrorMessage	エラーメッセージ	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.GetErrorMessage(lErrorCode, *lpszErrorMessage, *lplRetCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	lErrorCode	エラーコード	Input
BSTR	*lpszErrorMessage	エラーメッセージ	Output
LONG	*lplRetCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(📄 607ページ エラーコード)

説明

- IErrorCode(iErrorCode)にて指定したエラーコードのエラー内容および処置方法を読み出します。
- 読み出したエラー内容および処置方法はszErrorMessage(lpszErrorMessage)に格納されます。

Point

インバータ通信時は使用できません。

11.4 関数の詳細(Actコントロール用(ロギングファイル転送))

Open(通信回線のオープン)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgDataLogging, ActUtilDataLogging
- 64ビット用: ActProgDataLogging64, ActUtilDataLogging64

機能

通信回線をオープンします。

書式

■Visual C++

lRet = object.Open()

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output

■Visual Basic .NET

lRet = object.Open()

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output

■Visual C#

iRet = object.Open()

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.Open(*lplReturnCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	*lplReturnCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

Open関数用プロパティの設定値をもとに回線の接続を行います。

Point

- Open完了後にOpen関数用プロパティを変更しても、通信相手先の変更は行われません。通信設定の変更を行う場合は、1度通信回線をクローズした後、通信相手先の設定を行い再度通信回線をオープンしてください。
- Openする際に、ActCpuTypeプロパティに通信を行うCPUと異なるCPUタイプを入力した場合でも、Openが正常に終了することがあります。Openを行う際には、ActCpuTypeプロパティに正しいCPUタイプを設定してください。

Close(通信回線のクローズ)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgDataLogging, ActUtilDataLogging
- 64ビット用: ActProgDataLogging64, ActUtilDataLogging64

機能

通信回線をクローズします。

書式

■Visual C++

lRet = object.Close()

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	lRet	戻り値	Output

■Visual Basic .NET

lRet = object.Close()

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	lRet	戻り値	Output

■Visual C#

iRet = object.Close()

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.Close(*lplReturnCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	*lplReturnCode	通信関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

Open関数にて接続した回線をクローズします。

Point

- 本関数はOpen関数の呼び出し後にエラーが発生したとき、またはプログラムを終了するときに呼び出ししてください。

ReadFirstFile(ファイル名/ディレクトリ名の検索)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgDataLogging, ActUtilDataLogging
- 64ビット用: ActProgDataLogging64, ActUtilDataLogging64

機能

指定したディレクトリ内のファイルまたはディレクトリを検索します。

書式

■Visual C++

Ret = object.ReadFirstFile(srcDir, *srcFilename, *srcType)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	Ret	戻り値	Output
CString	srcDir	ディレクトリ名	Input
BSTR	*srcFileName	ファイル名またはディレクトリ名	Output
Long	*srcType	タイプ	Output

■Visual Basic .NET

Ret = object.ReadFirstFile(srcDir, srcFilename, srcType)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	Ret	戻り値	Output
String	srcDir	ディレクトリ名	Input
String	srcFileName	ファイル名またはディレクトリ名	Output
Integer	srcType	タイプ	Output

■Visual C#

Ret = object.ReadFirstFile(srcDir, out srcFilename, out srcType)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	Ret	戻り値	Output
String	srcDir	ディレクトリ名	Input
String	srcFileName	ファイル名またはディレクトリ名	Output
int	srcType	タイプ	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.ReadFirstFile(srcDir, *srcFilename, *srcType, *lpReturnCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	srcDir	ディレクトリ名	Input
BSTR	*srcFileName	ファイル名またはディレクトリ名	Output
LONG	*srcType	タイプ	Output
LONG	*lpReturnCode	関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

指定したディレクトリ内のファイルまたはディレクトリを検索します。

- 読みだしたファイル名またはディレクトリ名をsrcFileName に格納します。
- srcFileName がディレクトリまたはファイルのどちらであるかをsrcType に格納します。

ディレクトリの場合は下位より4ビット目に1を格納、ファイルの場合は0を格納します。

例:srcTypeが24 (0x18) の場合, ディレクトリであることを示します。

上位3バイト	下位1バイト						
0	0	0	0	1	1	0	0

例:srcTypeが16 (0x10) の場合, ファイルであることを示します。

上位3バイト	下位1バイト						
0	0	0	0	1	0	0	0

説明のないビットは使用しないでください。

- サブディレクトリ以下は検索しません。

Point

- 処理が完了するまで制御が戻りません。
- 重複して呼び出した場合、検索結果内容は上書きされます。
複数のディレクトリを検索する場合は、対象のディレクトリごとにコントロールを生成し使用してください。
- ロギングを停止した状態で本関数を使用してください。
- srcDirに指定する文字列の長さは188バイト以内にしてください。
- 検索結果は順序不定です。

ReadNextFile(ファイル名/ディレクトリ名の検索)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgDataLogging, ActUtilDataLogging
- 64ビット用: ActProgDataLogging64, ActUtilDataLogging64

機能

以前のReadFirstFileの検索結果から続けて他のファイルを検索します。

書式

■Visual C++

Ret = object.ReadNextFile(*srcFilename, *srcType)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	Ret	戻り値	Output
BSTR	*srcFileName	ファイル名またはディレクトリ名	Output
Long	*srcType	タイプ	Output

■Visual Basic .NET

Ret = object.ReadNextFile(srcFilename, srcType)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	Ret	戻り値	Output
String	srcFileName	ファイル名またはディレクトリ名	Output
Integer	srcType	タイプ	Output

■Visual C#

Ret = object.ReadNextFile(out srcFilename, out srcType)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	Ret	戻り値	Output
String	srcFileName	ファイル名またはディレクトリ名	Output
int	srcType	タイプ	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.ReadNextFile(*srcFilename, *srcType, *lpReturnCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	*srcFileName	ファイル名またはディレクトリ名	Output
LONG	*srcType	タイプ	Output
LONG	*lpReturnCode	関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

以前の ReadFirstFile の検索結果から、続けて、ほかのファイルを検索します。

- 読みだしたファイル名またはディレクトリ名を srcFileName に格納します。
- srcFileName がディレクトリまたはファイルのどちらであるかを srcType に格納します。
ディレクトリの場合は下位より4ビット目に1を格納、ファイルの場合は0を格納します。
説明のないビットは使用しないでください。

例: srcType が 24 (0x18) の場合、ディレクトリであることを示します。

上位3バイト	下位1バイト						
0	0	0	0	1	1	0	0

例: srcType が 16 (0x10) の場合、ファイルであることを示します。

上位3バイト	下位1バイト						
0	0	0	0	1	0	0	0

Point

- 処理が完了するまで制御が戻りません。
- ロギングを停止した状態で本関数を使用してください。
- 検索結果は順序不定です。

ReadClose(検索の終了)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgDataLogging, ActUtilDataLogging
- 64ビット用: ActProgDataLogging64, ActUtilDataLogging64

機能

検索を終了します。

書式

■Visual C++

Ret = object.ReadClose()

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	Ret	戻り値	Output

■Visual Basic .NET

Ret = object.ReadClose()

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	Ret	戻り値	Output

■Visual C#

Ret = object.ReadClose()

データ型	引数	内容	Input/Output
int	Ret	戻り値	Output

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.ReadClose(*lplReturnCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
LONG	*lplReturnCode	関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

検索を終了します。

- ディレクトリ, もしくは, ファイル名の検索結果を削除します。

Point

- 処理が完了するまで制御が戻りません。
- ロギングを停止した状態で本関数を使用してください。

GetFile(ロギングファイルの転送)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: ActProgDataLogging, ActUtilDataLogging
- 64ビット用: ActProgDataLogging64, ActUtilDataLogging64

機能

ロギングファイルの転送を行います。

書式

■Visual C++

Ret = object.GetFile(srcFileName, dstFileName)

データ型	引数	内容	Input/Output
Long	Ret	戻り値	Output
CString	srcFileName	転送元ファイル名	Input
CString	dstFileName	転送先ファイル名	Input

■Visual Basic .NET

Ret = object.GetFile(srcFileName, dstFileName)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	Ret	戻り値	Output
String	srcFileName	転送元ファイル名	Input
String	dstFileName	転送先ファイル名	Input

■Visual C#

Ret = object.GetFile(srcFileName, dstFileName)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	Ret	戻り値	Output
String	srcFileName	転送元ファイル名	Input
String	dstFileName	転送先ファイル名	Input

書式(オブジェクトを生成して使用する場合)

■Visual C++

hResult = object.GetFile(srcFileName, dstFileName, *lpReturnCode)

データ型	引数	内容	Input/Output
HRESULT	hResult	COMの戻り値	Output
BSTR	srcFileName	転送元ファイル名	Input
BSTR	dstFileName	転送先ファイル名	Input
LONG	*lpReturnCode	関数の戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

ロギングファイルの転送を行います。

- srcFileName にて指定したファイルを，dstFileNameにて指定した先に転送します。

Point

- 処理が完了するまで制御が戻りません。
- ロギングを停止した状態で本関数を使用します。
- srcFileNameに指定する文字列の長さは318バイト以内にしてください。
- dstFileName に指定する文字列の長さは259バイト以内にしてください。

11.5 関数の詳細(.Netコントロール用)

Open(通信回線のオープン)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

通信回線をオープンします。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.Open()

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output

■Visual C#

iRet = object.Open()

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

Open関数用プロパティの設定値をもとに回線の接続を行います。

Point

- Open完了後にOpen関数用プロパティを変更しても、通信相手先の変更は行われません。通信設定の変更を行う場合は、1度通信回線をクローズした後、通信相手先の設定を行い再度通信回線をオープンしてください。
- Openする際に、ActCpuTypeプロパティに通信を行うCPUと異なるCPUタイプを入力した場合でも、Openが正常に終了することがあります。
このような場合、接続範囲、使用可能メソッドおよびデバイス範囲が狭まるなどの現象が発生します。
Openを行う際には、ActCpuTypeプロパティに正しいCPUタイプを設定してください。

Close(通信回線のクローズ)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

通信回線をクローズします。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.Close()

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output

■Visual C#

iRet = object.Close()

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

Open関数にて接続した回線をクローズします。

ReadDeviceBlock(デバイスの一括読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

配列ラベルの一括読出しを行います。

書式

■Visual Basic .NET

`IRet = object.ReadDeviceBlock(szLabel, iSize, iData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Integer	iSize	読出し点数	Input
Integer	iData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C#

`iRet = object.ReadDeviceBlock(ref szLabel, iSize, ref iData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
Int	iRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
int	iSize	読出し点数	Input
int[n]	iData	読み出したデバイス値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(📄 607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabelで指定したデバイスから、読出し点数iSize分のデバイスを一括して読み出します。
- 読み出したデバイス値は、iDataに格納されます。
- 読み出したデバイス値iDataには、読出し点数iSize以上の配列を確保してください。

- 読出し点数に指定できる最大読出し点数は、0x7FFFFFFF点までで、下記を満たす範囲です。
読出し開始デバイス番号 + 読出し点数 ≤ 最終デバイス番号
- ビット型配列のラベルを指定する場合、デバイス番号は0または16の倍数のみ指定できます。
- ラベル名に指定しているデータ型に対応するワード数を読出し点数に指定してください。読み出したデバイス値には、読出し点数に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなどの重大な現象が発生するおそれがあります。
- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、読み出せません。
複数のラベル名に対応するデバイスが一部存在しない場合もエラーとなり、読み出せません。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。
- ロングタイマの接点(LTS)、ロングタイマのコイル(LTC)、ロング積算タイマの接点(LSTS)、ロング積算タイマのコイル(LSTC)のデバイスの読出しはできません。ReadDeviceRandom関数、またはGetDevice関数を使用してください。
- システムラベルVer.2を使用する場合、MX Componentのラベル管理ユーティリティで定義したデータ型とMELSOFT Navigatorで管理するデータ型は一致している必要があります。
データ型が一致していない場合、実際に読み出されるデータの長さが不正となったり、複数のラベルを指定した場合に読み出したデバイス値の配列とラベル名の対応がずれる場合があります。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, —: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	×	—
	要素数(1次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1]	×	—
	要素数(2次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
	要素数(3次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
構造体	なし	システムラベル名	×	—
		システムラベル名.構造体メンバ名	×	—
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	×	—
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	×	—
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	×	—
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	×	—

*1 配列要素は指定せず、システムラベル名のみ指定します。

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット^{*3}, ワード(符号付き), ダブルワード(符号付き), ワード(符号なし), ダブルワード(符号なし), 単精度実数, 倍精度実数, 文字列^{*1}, 文字列[Unicode]^{*2*}, 時間, タイマ, タイマ(符号なし), ロングタイマ^{*3}, カウンタ, カウンタ(符号なし), ロングカウンタ^{*3}, 積算タイマ, 積算タイマ(符号なし), ロング積算タイマ^{*3}

*1 半角32文字+NULLまで指定できます。

*2 32文字+NULLまで指定できます。

*3 システムラベルVer.1の場合は使用できません。

■読出し点数

読出し点数には、ラベルのデータ型によって下記の値を設定してください。

ラベル(配列)のデータ型	対応するワード数	指定する読出し点数
ビット	1	ラベルの配列要素数÷16(切上げ)
ワード(符号付き)	1	ラベルの配列要素数
ダブルワード(符号付き)	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
ワード(符号なし)	1	ラベルの配列要素数
ダブルワード(符号なし)	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
単精度実数	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
倍精度実数	4	ラベルの配列要素数×4
文字列	17	ラベルの配列要素数×17
文字列[Unicode]	33	ラベルの配列要素数×33
時間	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
タイマ, タイマ(符号なし), ロングタイマ, カウンタ, カウンタ(符号なし), ロングカウンタ, 積算タイマ, 積算タイマ(符号なし), ロング積算タイマ	1	ラベルの配列要素数

*1 ラベルにダブルワードデバイスを指定している場合はデバイス数(要素数)が1となります。

デバイス指定方法

読み出したデバイス値は、下記のように格納されます。

■ビットデバイス指定時

(例) M0から3点(3ワード分=48ビット分)読み出す。

・ラベル設定(データ型: ビット, 配列要素数: 48)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]~[2]	LABEL	ビット(0..47)	M0~M47

・読出し点数: 3

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	M0~M15 ^{*1}	LABEL[0]~LABEL[15]
	M16~M31 ^{*1}	LABEL[16]~LABEL[31]
	M32~M47 ^{*1}	LABEL[30]~LABEL[47]

*1 デバイスの番号順に下位ビットから格納されます。

■ワードデバイス指定時

(例) D0から3点(3ワード分)読み出す。

・ラベル設定(データ型: ワード, 配列要素数: 3)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]~[2]	LABEL	ワード(0..2)	D0~D2

・読出し点数: 3

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL[0]
	D1	LABEL[1]
	D2	LABEL[2]

■ダブルワード指定時(FXCPUのCN200以降の場合)

(例) CN200から6点(6ワード分=3ダブルワード分)読み出す。

FXCPUのCN200以降は、デバイス1点あたり読出し点数2点で上位(H)と下位(L)のデータを分けて読み出します。

読出し点数1点ではエラーとなります。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[5]	LABEL	ダブルワード(0..2)	CN200～CN202

・読出し点数: 6

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	CN200のL	LABEL[0]
	CN200のH	
	CN201のL	LABEL[1]
	CN201のH	
	CN202のL	LABEL[2]
	CN202のH	

■FDデバイス指定時(4ワードデバイス)

(例) FD0から8点(8ワード分)読み出す。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 2)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[7]	LABEL	ダブルワード(0..1)	FD0, FD1

・読出し点数: 8

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	FD0のLL	LABEL[0]
	FD0のLH	
	FD0のHL	
	FD0のHH	
	FD1のLL	LABEL[1]
	FD1のLH	
	FD1のHL	
	FD1のHH	

■ラベルがダブルワード配列でワードデバイス指定時

(例) D100から6点(6ワード分=3ダブルワード分)読み出す。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 3)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[5]	LABEL	ダブルワード(0..2)	D100～D105

・読出し点数: 6

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D100	LABEL[0]
	D101	
	D102	LABEL[1]
	D103	
	D104	LABEL[2]
	D105	

■ダブルワード型に1点で取得できるダブルワードデバイス指定時

(例) LZ0から2点(2ワード分)読み出す。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 2)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[1]	LABEL	ダブルワード(0..1)	LZ0～LZ1

・読み出し点数: 2

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
LZ0のH	LZ0のL	LABEL[0]
LZ1のH	LZ1のL	LABEL[1]

WriteDeviceBlock(デバイスの一括書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

配列ラベルの一括書込みを行います。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.WriteDeviceBlock(szLabel, iSize, iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Integer	iSize	書込み点数	Input
Integer	iData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C#

IRet = object.WriteDeviceBlock(ref szLabel, iSize, iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
int[n]	iData	書き込むデバイス値	Input

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabelで指定したデバイスから、書込み点数iSize分のデバイスを一括して書き込みます。
- 書き込むデバイス値は、iDataに格納します。
- 書き込むデバイス値iDataには、書込み点数iSize以上の配列を確保してください。

- 書込み点数に指定できる最大書込み点数は、下記の満たす範囲です。
書込み開始デバイス番号 + 書込み点数 ≤ 最終デバイス番号
- ビット型配列のラベルを指定する場合、デバイス番号は0または16の倍数のみ指定できます。
- ラベル名に指定しているデータ型に対応するワード数を書込み点数に指定してください。書き込むデバイス値には、書込み点数に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなどの重大な現象が発生するおそれがあります。
- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、書込みできません。
複数のラベル名に対応するデバイスが一部存在しない場合もエラーとなり、書込みできません。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。
- ロングタイマの接点(LTS)、ロングタイマのコイル(LTC)、ロング積算タイマの接点(LSTS)、ロング積算タイマのコイル(LSTC)のデバイスの書込みはできません。WriteDeviceRandom関数、またはSetDevice関数を使用してください。
- システムラベルVer.2を使用する場合、MX Componentのラベル管理ユーティリティで定義したデータ型とMELSOFT Navigatorで管理するデータ型は一致している必要があります。
データ型が一致していない場合、実際に読み出されるデータの長さが不正となったり、複数のラベルを指定した場合に読み出したデバイス値の配列とラベル名の対応がずれる場合があります。
- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, —: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	×	—
	要素数(1次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1]	×	—
	要素数(2次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
	要素数(3次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
構造体	なし	システムラベル名	×	—
		システムラベル名.構造体メンバ名	×	—
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	×	—
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	×	—
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	×	—
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	×	—

*1 配列要素は指定せず、システムラベル名のみ指定します。

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット^{*3}、ワード(符号付き)、ダブルワード(符号付き)、ワード(符号なし)、ダブルワード(符号なし)、単精度実数、倍精度実数、文字列^{*1}、文字列[Unicode]^{*2*}3、時間、タイマ、タイマ(符号なし)、ロングタイマ^{*3}、カウンタ、カウンタ(符号なし)、ロングカウンタ^{*3}、積算タイマ、積算タイマ(符号なし)、ロング積算タイマ^{*3}

*1 半角32文字+NULLまで指定できます。

*2 32文字+NULLまで指定できます。

*3 システムラベルVer.1の場合は使用できません。

■書込み点数

書込み点数にはラベルのデータ型によって、下記の値を設定してください。

ラベル(配列)のデータ型	対応するワード数	指定する書込み点数
ビット	1	ラベルの配列要素数÷16(切上げ)
ワード(符号付き)	1	ラベルの配列要素数
ダブルワード(符号付き)	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
ワード(符号なし)	1	ラベルの配列要素数
ダブルワード(符号なし)	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
単精度実数	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
倍精度実数	4	ラベルの配列要素数×4
文字列	17	ラベルの配列要素数×17
文字列[Unicode]	33	ラベルの配列要素数×33
時間	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
タイマ、タイマ(符号なし)、ロングタイマ、カウンタ、カウンタ(符号なし)、ロングカウンタ、積算タイマ、積算タイマ(符号なし)、ロング積算タイマ	1	ラベルの配列要素数

*1 ラベルにダブルワードデバイスを指定している場合はデバイス数(要素数)が1となります。

デバイス指定方法

書き込むデバイス値は、下記のように設定してください。

■ビットデバイス指定時

(例) M0から3点(3ワード分=48ビット)書き込む。

・ラベル設定(データ型: ビット, 配列要素数: 48)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]~[2]	LABEL	ビット(0..47)	M0~M47

・書き込み点数: 3

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	M0~M15 ^{*1}	LABEL[0]~LABEL[15]
	M16~M31 ^{*1}	LABEL[16]~LABEL[31]
	M32~M47 ^{*1}	LABEL[32]~LABEL[47]

*1 デバイスの番号順に下位ビットから格納します。

■ワードデバイス指定時

(例) D0から3点(3ワード分)書き込む。

・ラベル設定(データ型: ワード, 配列要素数: 3)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]~[2]	LABEL	ワード(0..2)	D0~D2

・書き込み点数: 3

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL[0]
	D1	LABEL[1]
	D2	LABEL[2]

■ダブルワード指定時(FXCPUのCN200以降)

(例) CN200から6点(6ワード分=3ダブルワード分)書き込む。

FXCPUのCN200以降は、デバイス1点あたり書き込み点数2点で上位(H)と下位(L)のデータを分けて書き込みます。

書き込み点数1点ではエラーとなります。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 3)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[5]	LABEL	ダブルワード(0..2)	CN200～CN202

・書き込み点数: 3

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	CN200のL	LABEL[0]
	CN200のH	
	CN201のL	LABEL[1]
	CN201のH	
	CN202のL	LABEL[2]
	CN202のH	

■FDデバイス指定時(4ワードデバイス)

(例) FD0から8点(8ワード分)書き込む。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 2)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[7]	LABEL	ダブルワード(0..1)	FD0, FD1

・書き込み点数: 8

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	FD0のLL	LABEL[0]
	FD0のLH	
	FD0のHL	
	FD0のHH	
	FD1のLL	LABEL[1]
	FD1のLH	
	FD1のHL	
	FD1のHH	

■ラベルがダブルワード配列でワードデバイス指定時

(例) D100から6点(6ワード分=3ダブルワード分)書き込む。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 3)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[5]	LABEL	ダブルワード(0..2)	D100～D105

・書き込み点数: 6

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D100	LABEL[0]
	D101	
	D102	LABEL[1]
	D103	
	D104	LABEL[2]
	D105	

■ダブルワード型に1点で取得できるダブルワードデバイス指定時

(例) LZ0から2点(2ワード分)書き込む。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 2)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[1]	LABEL	ダブルワード(0..1)	LZ0～LZ1

・書き込み点数: 2

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
LZ0のH	LZ0のL	LABEL[0]
LZ1のH	LZ1のL	LABEL[1]

ReadDeviceRandom(デバイスのランダム読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

デバイスのランダム読出しを行います。

書式

■Visual Basic .NET

`IRet = object.ReadDeviceRandom(szLabel, iSize, iData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Integer	iSize	読出し点数	Input
Integer	iData(n)	読み出したデバイス値	Output

`IRet = object.ReadDeviceRandom(szLabelList, iSize, iData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabelList(n)	ラベルリスト	Input
Integer	iSize	読出し点数	Input
Integer	iData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C#

`iRet = object.ReadDeviceRandom(ref szLabel, iSize, ref iData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
int	iSize	読出し点数	Input
int[n]	iData	読み出したデバイス値	Output

`iRet = object.ReadDeviceRandom(ref szLabelList, iSize, ref iData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
System.String[n]	szLabelList	ラベルリスト	Input
int	iSize	読出し点数	Input
int[n]	iData	読み出したデバイス値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabel(szLabellist)で指定したデバイス群を、読出し点数iSize分のデバイス値だけ読み出します。
- 読み出したデバイス値は、iDataに格納されます。
- 読み出したデバイス値iDataには、読出し点数iSize以上の配列を確保してください。

Point

- 読出し点数に指定できる最大読出し点数は、0x7FFFFFFF点までです。
- ラベル名に指定しているデータ型に対応するワード数を読出し点数に指定してください。読み出したデバイス値には、読出し点数に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなどの重大な現象が発生するおそれがあります。
- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、読み出せません。
複数のラベル名に対応するデバイスが一部存在しない場合もエラーとなり、読み出せません。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。
- 構造体は5階層まで定義できます。ただし、静的システムラベルは1階層目の構造体までのみ使用できます。
- システムラベルVer.2を使用する場合、MX Componentのラベル管理ユーティリティで定義したデータ型とMELSOFT Navigatorで管理するデータ型は一致している必要があります。
データ型が一致していない場合、実際に読み出されるデータの長さが不正となったり、複数のラベルを指定した場合に読み出したデバイス値の配列とラベル名の対応がずれる場合があります。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, -: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1]	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○	Integer/int (32ビット値)
構造体	なし	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名.構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1]	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)

*1 配列および構造体全体のデータを読み出します。

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット、ワード(符号付き)、ダブルワード(符号付き)、ワード(符号なし)、ダブルワード(符号なし)、単精度実数、倍精度実数、文字列^{*1}、文字列[Unicode]^{*2*4}、時間、タイマ^{*3}、タイマ(符号なし)^{*3}、ロングタイマ^{*3*4}、カウンタ^{*3}、カウンタ(符号なし)^{*3}、ロングカウンタ^{*3*4}、積算タイマ^{*3}、積算タイマ(符号なし)^{*3}、ロング積算タイマ^{*3*4}

*1 半角32文字+NULLまで指定できます。

*2 32文字+NULLまで指定できます。

*3 システムラベルVer.2のラベルを使用してアクセスする場合は、接点/コイル/現在値のそれぞれのデバイスに対応するシステムラベルVer.2のラベルを定義する必要があります。

*4 システムラベルVer.1の場合は使用できません。

■読出し点数

読出し点数にはラベルのデータ型によって、各要素に関する下記の値の和を設定してください。

ラベルのデータ型	指定する読出し点数 ^{*1}
ビット	1
ワード(符号付き)	1
ダブルワード(符号付き)	2 ^{*2}
ワード(符号なし)	1
ダブルワード(符号なし)	2 ^{*2}
単精度実数	2 ^{*2}
倍精度実数	4
文字列	17
文字列[Unicode]	33
時間	2 ^{*2}
タイマ、タイマ(符号なし)、ロングタイマ、カウンタ、カウンタ(符号なし)、ロングカウンタ、積算タイマ、積算タイマ(符号なし)、ロング積算タイマ	1
構造体	構造体メンバのデータ型に対応するワード数の合計値

*1 配列ラベルに対してラベル名のみ(要素指定なし)でアクセスする場合、読出し点数には本表の読出し点数と配列要素数との積を指定してください。

*2 ダブルワードデバイスを割り当てた基本データ型のラベルを単独で使用する場合は読出し点数は1となります。
ダブルワードデバイスを割り当てた構造体ラベルおよび複数ラベルを同時に取得する場合の読出し点数は2となります。

デバイス指定方法

読み出したデバイス値は、下記のように格納されます。

■ビットデバイス、ワードデバイス、および1点に取得されるダブルワード指定時

(例) M0, D0, D4, CN200, D10を合計6点読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	ビット	M0
LABEL2	ワード	D0
LABEL3	ワード	D4
LABEL4	ダブルワード	CN200
LABEL5	ワード	D10

・読み出し点数: 6

・読み出し方法

```
int iData[6]
String stLabelList[5] = {"LABEL1", "LABEL2", "LABEL3", "LABEL4", "LABEL5"}
ReadDeviceRandom(stLabelList, 6, iData)
```

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0
	D0
	D4
CN200のH*1	CN200のL*1
CN201のH*1	CN201のL*1
使用しません。(0が格納されます。)	D10

*1 1点で2ワード読み出します。Random関数でCN200がダブルワード型となっている場合は2デバイス分読み出します。

■ダブルワード型に1点で取得できるダブルワードデバイス指定時

(例) LZ0から2点読み出す。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 2)

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ダブルワード(0..1)	LZ0

・読み出し点数: 2

・読み出し方法

```
int iData[2]
ReadDeviceRandom("LABEL", 2, iData)
```

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
LZ0のH	LZ0のL
LZ1のH	LZ1のL

■文字列指定時

(例) D0から17点読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	文字列	D0

・読出し点数: 17

・読出し方法

```
int iData[17]
ReadDeviceRandom("LABEL",17,iData)
```

文字列へは変換されません。

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
	D1
	⋮
	D15
	D16

■ラベルで2ワード以上に相当するデータ型指定時

(例) ダブルワード，単精度実数，および時間型ラベルを指定して合計6点読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	ダブルワード	D0
LABEL2	単精度実数	D100
LABEL3	時間	D200

・読出し点数: 6

・読出し方法

```
String stLabelList[3] = {"LABEL1", "LABEL2", "LABEL3"}
int iData[6]
ReadDeviceRandom(stLabelList,6,iData)
```

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL1
	D1	
	D100	LABEL2
	D101	
	D200	LABEL3
	D201	

■倍精度実数およびワードデバイス指定時

(例) 倍精度実数, ワードデバイスを指定して合計5点読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	倍精度実数	D0
LABEL3	ワード	D200

・読み出し点数: 5

・読み出し方法

```
String stLabelList[2] = {"LABEL1", "LABEL2"}
int iData[5]
ReadDeviceRandom(stLabelList,5,iData)
```

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL1
	D1	
	D2	
	D3	
	D200	LABEL3

■配列型ラベル指定時

(例1)配列型ラベルを指定してビットデバイス(M0～M2)を3点読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ビット(0..2)	M0

・読み出し点数: 3

・読み出し方法

```
int iData[3]
ReadDeviceRandom("LABEL",3,iData)
```

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0
	M1
	M2

(例2)配列型ラベルを指定してワードデバイス(D0～D2)を3点読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ワード(0..2)	D0

・読み出し点数: 3

・読み出し方法

```
int iData[3]
ReadDeviceRandom("LABEL",3,iData)
```

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
	D1
	D2

(例3)配列型ラベルを指定してダブルワードデバイス(CN200～CN202)を3点読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ワード(0..2)	CN200

・読出し点数: 3

・読出し方法

```
int iData[3]
ReadDeviceRandom("LABEL",3,iData)
```

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
CN200のH	CN200のL
CN201のH	CN201のL
CN202のH	CN202のL

(例4)配列型ラベルを指定して6点(6ワード分=3ダブルワード分)読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ダブルワード(0..2)	D0

・読出し点数: 6

・読出し方法

```
int iData[6]
ReadDeviceRandom("LABEL",6,iData)
```

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL[0]
	D1	
	D2	
	D3	LABEL[1]
	D4	
	D5	
	D6	LABEL[2]

(例5)配列型ラベルを指定して文字列型で51点(D0～D50)読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	文字列(0..2)	D0

・読出し点数: 51

・読出し方法

```
int iData[51]
ReadDeviceRandom("LABEL",51,iData)
```

文字列型の文字変換は行われませんのでユーザプログラム内での変換が必要です。

・読み出したデバイス値

index	上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
[0]	使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL[0]
[1]		D1	
⋮		⋮	
[16]		D16	LABEL[1]
[17]		D17	
[18]		D18	
⋮		⋮	LABEL[2]
[33]		D33	
[34]		D34	
[35]		D35	LABEL[2]
⋮		⋮	
[50]		D50	

■構造体型ラベル指定時

(例1) 構造体型ラベルを指定して読み出す。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ワード
	LABEL3	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT.LABEL1	M0
STRUCT.LABEL2	D0
STRUCT.LABEL3	W0

ラベル名のみでアクセスする場合

・読出し点数: 3(構造体各メンバの読出し点数の合計が3のため)

・読出し方法

```
int iData[3]
ReadDeviceRandom("STRUCT",3,iData)
```

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0
	D0
	W0

ラベル名+メンバ名でアクセスする場合

・読出し点数: 2(構造体の読出し点数1のメンバを2つ指定するため)

・読出し方法

```
String stLabelList[3] = {"STRUCT.LABEL1","STRUCT.LABEL2"}
int iData[2]
ReadDeviceRandom(stLabelList,2,iData)
```

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0
	D0

(例2) 構造体型ラベルを指定して読み出す。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ダブルワード
	LABEL3	倍精度実数
	LABEL4	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT.LABEL1	D0.0
STRUCT.LABEL2	D1
STRUCT.LABEL3	D3
STRUCT.LABEL4	D7

・読出し点数: 8(構造体各メンバの読出し点数の合計が8のため)

・読出し方法

```
int iData[8]  
ReadDeviceRandom("STRUCT",8,iData)
```

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0.0	STRUCT.LABEL1
	D1	STRUCT.LABEL2
	D2	
	D3	STRUCT.LABEL3
	D4	
	D5	
	D6	
	D7	STRUCT.LABEL4

■構造体と配列を組み合わせたラベル指定時

(例) 構造体型の配列、および構造体配列型ラベルを指定して読み出す。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ワード(0..1)
	LABEL3	ダブルワード
	LABEL4	文字列
	LABEL5	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT[0].LABEL1	M0
STRUCT[0].LABEL2[0]	D0
STRUCT[0].LABEL2[1]	D1
STRUCT[0].LABEL3	D2
STRUCT[0].LABEL4	D4
STRUCT[0].LABEL5	D21
STRUCT[1].LABEL1	M1
STRUCT[1].LABEL2[0]	D22
STRUCT[1].LABEL2[1]	D23
STRUCT[1].LABEL3	D24
STRUCT[1].LABEL4	D26
STRUCT[1].LABEL5	D43

・読出し点数: 46(構造体各メンバの読出し点数の合計が23で、要素数2の配列のため)

・読出し方法

```
int iData[46]
ReadDeviceRandom("STRUCT",46,iData)
または
String stLabelList[2] = {"STRUCT[0]","STRUCT[1]"}
ReadDeviceRandom(stLabelList,46,iData)
```

・読み出したデバイス値

index	上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
[0]	使用しません。(0が格納されます。)	M0	STRUCT[0].LABEL1
[1]		D0	STRUCT[0].LABEL2[0]
[2]		D1	STRUCT[0].LABEL2[1]
[3]		D2	STRUCT[0].LABEL3
[4]		D3	
[5]	⋮	D4	STRUCT[0].LABEL4
[6]		⋮	
[21]		D20	
[22]		D21	STRUCT[0].LABEL5
[23]		M1	STRUCT[1].LABEL1
[24]	⋮	D22	STRUCT[1].LABEL2[0]
[25]		D23	STRUCT[1].LABEL2[1]
[26]		D24	STRUCT[1].LABEL3
[27]		D25	
[28]		D26	STRUCT[1].LABEL4
[29]	⋮	⋮	
[44]		D42	
[45]		D43	STRUCT[1].LABEL5

WriteDeviceRandom(デバイスのランダム書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

デバイスのランダム書込みを行います。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.WriteDeviceRandom(szLabel, iSize, iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Integer	iSize	書込み点数	Input
Integer	iData(n)	書き込むデバイス値	Input

IRet = object.WriteDeviceRandom(szLabelList, iSize, iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabelList(n)	ラベルリスト	Input
Integer	iSize	書込み点数	Input
Integer	iData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C#

iRet = object.WriteDeviceRandom(ref szLabel, iSize, ref iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
int[n]	iData	書き込むデバイス値	Input

iRet = object. WriteDeviceRandom(ref szLabelList, iSize, ref iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
System.String[n]	szLabelList	ラベルリスト	Input
int	iSize	書込み点数	Input
int[n]	iData	書き込むデバイス値	Input

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabel(szLabellist)で指定したデバイス群を、書き込み点数iSize分のデバイス値だけ書き込みます。
- 書き込むデバイス値を、iDataに格納します。
- 書き込むデバイス値iDataには、書き込み点数iSize以上の配列を確保してください。

Point

- 書き込み点数に指定できる最大書き込み点数は、0x7FFFFFFF点までです。
- ラベル名に指定しているデータ型に対応するワード数を書込み点数に指定してください。書き込むデバイス値には、書き込み点数に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなどの重大な現象が発生するおそれがあります。
- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、書き込めません。
複数のラベル名に対応するデバイスが一部存在しない場合もエラーとなり、書き込めません。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。
- QモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- システムラベルVer.2を使用する場合、MX Componentのラベル管理ユーティリティで定義したデータ型とMELSOFT Navigatorで管理するデータ型は一致している必要があります。
データ型が一致していない場合、実際に読み出されるデータの長さが不正となったり、複数のラベルを指定した場合に読み出したデバイス値の配列とラベル名の対応がずれる場合があります。
- 構造体は5階層まで定義できます。ただし、静的システムラベルは1階層目の構造体までのみ使用できます。
- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, -: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1]	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○	Integer/int (32ビット値)
構造体	なし	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名.構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1]	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○ ^{*1}	Integer/int (32ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)

*1 配列および構造体全体のデータを書き込みます。

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット、ワード(符号付き)、ダブルワード(符号付き)、ワード(符号なし)、ダブルワード(符号なし)、単精度実数、倍精度実数、文字列^{*1}、文字列[Unicode]^{*2*4}、時間、タイマ^{*3}、タイマ(符号なし)^{*3}、ロングタイマ^{*3*4}、カウンタ^{*3}、カウンタ(符号なし)^{*3}、ロングカウンタ^{*3*4}、積算タイマ^{*3}、積算タイマ(符号なし)^{*3}、ロング積算タイマ^{*3*4}

- *1 半角32文字+NULLまで指定できます。
- *2 32文字+NULLまで指定できます。
- *3 システムラベルVer.2のラベルを使用してアクセスする場合は、接点/コイル/現在値のそれぞれのデバイスに対応するシステムラベルVer.2のラベルを定義する必要があります。
- *4 システムラベルVer.1の場合は使用できません。

■書込み点数

書込み点数にはラベルのデータ型によって、各要素に関する下記の値の和を設定してください。

ラベルのデータ型	指定する書込み点数 ^{*1}
ビット	1
ワード(符号付き)	1
ダブルワード(符号付き)	2 ^{*2}
ワード(符号なし)	1
ダブルワード(符号なし)	2 ^{*2}
単精度実数	2 ^{*2}
倍精度実数	4
文字列	17
文字列[Unicode]	33
時間	2 ^{*2}
タイマ、タイマ(符号なし)、ロングタイマ、カウンタ、カウンタ(符号なし)、ロングカウンタ、積算タイマ、積算タイマ(符号なし)、ロング積算タイマ	1
構造体	構造体メンバのデータ型に対応するワード数の合計値

- *1 配列ラベルに対してラベル名のみ(要素指定なし)でアクセスする場合、書込み点数には本表の書込み点数と配列要素数との積を指定してください。
- *2 ダブルワードデバイスを割り当てた基本データ型のラベルを単独で使用する場合は書込み点数は1となります。
ダブルワードデバイスを割り当てた構造体ラベルおよび複数ラベルを同時に書き込む場合の書込み点数は2となります。

デバイス指定方法

書き込むデバイス値は、下記のように設定してください。

■ビットデバイス、ワードデバイス、および1点に取得されるダブルワード指定時

(例) M0, D0, CN200, D10を1点ずつ書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	ビット	M0
LABEL2	ワード	D0
LABEL3	ワード	D4
LABEL4	ダブルワード	CN200
LABEL5	ワード	D10

・書き込み点数: 6

・書き込み方法

```
stLabelList = {"LABEL1", "LABEL2", "LABEL3", "LABEL4", "LABEL5"}
```

```
int iData[6]
```

```
WriteDeviceRandom(stLabelList, 6, iData)
```

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0
	D0
	D4
CN200のH ^{*1}	CN200のL ^{*1}
CN201のH ^{*1}	CN201のL ^{*1}
使用しません。(0が格納されます。)	D10

*1 1点で2ワード書き込みます。Random関数で、CN200がダブルワード型の場合は2デバイス分書き込みます。

■ダブルワード型に1点で取得できるダブルワードデバイス指定時

(例) LZ0から2点書き込む。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 2)

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ダブルワード(0..1)	LZ0

・書き込み点数: 2

・書き込み方法

```
int iData[2]
```

```
WriteDeviceRandom("LABEL", 2, iData)
```

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
LZ0のH	LZ0のL
LZ1のH	LZ1のL

■文字列指定時

(例) D0から17点書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	文字列	D0

・書き込み点数: 17

・書き込み方法

```
int iData[17]
WriteDeviceRandom ("LABEL",17,iData)
```

文字列へは変換されません。

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
	D1
	D2
	⋮
	D14
	D15
	D16

■ラベルで2ワード以上に相当するデータ型指定時

(例) ダブルワード, 単精度実数, および時間型ラベルを指定して書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	ダブルワード	D0
LABEL2	単精度実数	D100
LABEL3	時間	D200

・書き込み点数: 6

・書き込み方法

```
String stLabelList[3] = {"LABEL1", "LABEL2", "LABEL3"}
int iData[6]
WriteDeviceRandom(stLabelList,6,iData)
```

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL1
	D1	
	D100	LABEL2
	D101	
	D200	LABEL3
	D201	

■倍精度実数およびワードデバイス指定時

(例) 倍精度実数，ワードデバイスを指定して合計5点書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	倍精度実数	D0
LABEL3	ワード	D200

・書き込み点数: 5

・書き込み方法

```
String stLabelList[2] = {"LABEL1","LABEL3"}
int iData[5]
WriteDeviceRandom(stLabelList,5,iData)
```

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL1
	D1	
	D2	
	D3	
	D200	LABEL3

■配列型ラベル指定時

(例1)配列型ラベルを指定してビットデバイス(M0～M2)を3点書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ビット(0..2)	M0

・書き込み点数: 3

・書き込み方法

```
int iData[3]
WriteDeviceRandom("LABEL",3,iData)
```

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0
	M1
	M2

(例2)配列型ラベルを指定してワードデバイス(D0～D2)を3点書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ワード(0..2)	D0

・書き込み点数: 3

・書き込み方法

```
int iData[3]
WriteDeviceRandom("LABEL",3,iData)
```

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	D0
	D1
	D2

(例3)配列型ラベルを指定してダブルワードデバイス(CN200～CN202)を3点書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ワード(0..2)	CN200

・書き込み点数: 3

・書き込み方法

```
int iData[3]
WriteDeviceRandom("LABEL",3,iData)
```

文字列型の文字変換は行われませんのでユーザプログラム内での変換が必要です。

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
CN200のH	CN200のL
CN201のH	CN201のL
CN202のH	CN202のL

(例4)配列型ラベルを指定して6点(6ワード分=3ダブルワード分)書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ダブルワード(0..2)	D0

・書き込み点数: 6

・書き込み方法

```
int iData[6]
WriteDeviceRandom("LABEL",6,iData)
```

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL[0]
	D1	
	D2	
	D3	LABEL[1]
	D4	
	D5	
		LABEL[2]

(例5)配列型ラベルを指定して文字列型で51点(D0～D50)書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	文字列(0..2)	D0

・書き込み点数: 51

・書き込み方法

```
int iData[51]
WriteDeviceRandom("LABEL",51,iData)
```

文字列型の文字変換は行われませんのでユーザプログラム内での変換が必要です。

・書き込むデバイス値

index	上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
[0]	使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL[0]
[1]		D0	
⋮		⋮	
[16]		D16	LABEL[1]
[17]		D17	
⋮		⋮	
[33]		D33	LABEL[2]
[34]		D34	
⋮		⋮	
[50]		D50	

■構造体型ラベル指定時

(例1) 構造体型ラベルを指定して書き込む。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ワード
	LABEL3	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT.LABEL1	M0
STRUCT.LABEL2	D0
STRUCT.LABEL3	W0

ラベル名のみでアクセスする場合

・書き込み点数: 3(構造体各メンバの書き込み点数の合計が3のため)

・書き込み方法

```
int iData[3]  
WriteDeviceRandom("STRUCT",3,iData)
```

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0
	D0
	W0

ラベル名+メンバ名でアクセスする場合

・書き込み点数: 2(構造体の書き込み点数1のメンバを2つ指定するため)

・書き込み方法

```
String stLabelList[2] = {"STRUCT.LABEL1","STRUCT.LABEL2"}  
int iData[2]  
WriteDeviceRandom(stLabelList,2,iData)
```

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト
使用しません。(0が格納されます。)	M0
	D0

(例2) 構造体型ラベルを指定して書き込む。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ダブルワード
	LABEL3	倍精度実数
	LABEL4	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT.LABEL1	D0.0
STRUCT.LABEL2	D1
STRUCT.LABEL3	D3
STRUCT.LABEL4	D7

・書き込み点数: 8(構造体各メンバの書き込み点数の合計が8のため)

・書き込み方法

```
int iData[8]
WriteDeviceRandom("STRUCT",8,iData)
```

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0.0	STRUCT.LABEL1
	D1	STRUCT.LABEL2
	D2	
	D3	STRUCT.LABEL3
	D4	
	D5	
	D6	
	D7	STRUCT.LABEL4

■構造体と配列を組み合わせたラベル指定時

(例) 構造体型の配列、および構造体配列型ラベルを指定して書き込む。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ワード(0..1)
	LABEL3	ダブルワード
	LABEL4	文字列
	LABEL5	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT[0].LABEL1	M0
STRUCT[0].LABEL2[0]	D0
STRUCT[0].LABEL2[1]	D1
STRUCT[0].LABEL3	D2
STRUCT[0].LABEL4	D4
STRUCT[0].LABEL5	D21
STRUCT[1].LABEL1	M1
STRUCT[1].LABEL2[0]	D22
STRUCT[1].LABEL2[1]	D23
STRUCT[1].LABEL3	D24
STRUCT[1].LABEL4	D26
STRUCT[1].LABEL5	D43

・書き込み点数: 46(構造体各メンバの書き込み点数の合計が23で、要素数2の配列のため)

・書き込み方法

```
int iData[46]
WriteDeviceRandom("STRUCT",46,iData)
または
String stLabelList[2]={"STRUCT[0]","STRUCT[1]"}
WriteDeviceRandom(stLabelList,46,iData)
```

・書き込むデバイス値

index	上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
[0]	使用しません。(0が格納されます。)	M0	STRUCT[0].LABEL1
[1]		D0	STRUCT[0].LABEL2[0]
[2]		D1	STRUCT[0].LABEL2[1]
[3]		D2	STRUCT[0].LABEL3
[4]		D3	
[5]		D4	STRUCT[0].LABEL4
⋮		⋮	
[21]		D20	
[22]		D21	STRUCT[0].LABEL5
[23]		M1	STRUCT[1].LABEL1
[24]		D22	STRUCT[1].LABEL2[0]
[25]		D23	STRUCT[1].LABEL2[1]
[26]		D24	STRUCT[1].LABEL3
[27]		D25	
[28]		D26	STRUCT[1].LABEL4
⋮		⋮	
[44]		D42	
[45]		D43	STRUCT[1].LABEL5

SetDevice(デバイスデータの設定)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

デバイス1点の設定を行います。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.SetDevice(szLabel, iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Integer	iData	書き込むデバイス値	Input

■Visual C#

iRet = object.SetDevice(ref szLabel, iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
int	iData	書き込むデバイス値	Input

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabelで指定したデバイス1点に対して、書き込むデバイス値iDataの値を書き込みます。
- ビットデバイス設定時は、書き込むデバイス値iDataの最下位のビットが有効となります。

Point

- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、書き込みません。
- ダブルワードデバイスを指定した場合、ダブルワード型で2ワード書き込みます。
2ワード以上になるデータ型にダブルワードデバイス以外を指定した場合、本関数では下位1ワード(2バイト)分のデータに書き込みを行います。(上位2バイトの値は保証できません。)
- 2ワード分以上のデバイスを書き込む場合は、WriteDeviceRandom関数を使用してください。
- システムラベルVer.2でデバイスを指定せずラベルメモリを使用する場合はワード2点の扱いになります。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。
- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, —: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○	Integer/int (32ビット値)
構造体	なし	システムラベル名	×	—
		システムラベル名.構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	×	—
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット, ワード(符号付き), ダブルワード(符号付き)*¹, ワード(符号なし), ダブルワード(符号なし)*¹, 単精度実数*¹, 倍精度実数*¹, 文字列*¹, 文字列[Unicode]*¹*², 時間*¹, タイマ, タイマ(符号なし), ロングタイマ*², カウンタ, カウンタ(符号なし), ロングカウンタ*², 積算タイマ, 積算タイマ(符号なし), ロング積算タイマ*²

*¹ 先頭デバイスの下位2バイトのみ書き込めます。2ワード分以上のデバイスを書き込む場合はWriteDeviceRandom関数を使用してください。

*² システムラベルVer.1の場合は使用できません。

デバイス指定方法

書き込むデバイス値は、下記のように設定してください。

■ビットデバイス指定時

(例) M0を書き込む。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	ビット	M0

・書き込み点数: 1

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	M0	LABEL

■ワードデバイス指定時

(例) D0を書き込む。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	ワード	D0

・書き込み点数: 1

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL

■ダブルワード指定時(1点で2ワード書き込みできるダブルワードデバイスの場合)

(例) CN200を書き込む。

FXCPUのCN200以降は、4バイト書き込みます。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	ダブルワード	CN200

・書き込み点数: 1

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
CN200のH	CN200のL	LABEL

■ダブルワード指定時(1点で2ワード書き込みできないデバイスの場合)

(例) D0を指定して書き込む。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABELW	ダブルワード	D0

・書き込み点数: 1

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。	D0*1	LABELW

*1 下位から順に2バイト書き込みます。システムラベルVer.2の場合は上位2バイトは不定値となります。

■ラベルで2ワード以上に相当するデータ型指定時

(例) 文字列型ラベルを指定して書き込む。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	文字列	D0

・書き込み点数: 1

・書き込むデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。	D0*1	LABEL

*1 下位から順に2バイト書き込みます。システムラベルVer.2の場合は上位2バイトは不定値となります。

GetDevice(デバイスデータの取得)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

デバイス1点のデータを取得します。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.GetDevice(szLabel, IData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Integer	iData	読み出したデバイス値	Output

■Visual C#

IRet = object.GetDevice(ref szLabel, ref iData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
int	iData	読み出したデバイス値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabelで指定したデバイス1点のデータを、読み出したデバイス値iDataに格納します。

Point

- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、読み出せません。
- 読み出したデバイス値には、4バイトのメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなどの重大な現象が発生するおそれがあります。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, —: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○	Integer/int (32ビット値)
構造体	なし	システムラベル名	×	—
		システムラベル名.構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	×	—
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット, ワード(符号付き), ダブルワード(符号付き)*¹, ワード(符号なし), ダブルワード(符号なし)*¹, 単精度実数*¹, 倍精度実数*¹, 文字列*¹, 文字列[Unicode]*¹*², 時間*¹, タイマ, タイマ(符号なし), ロングタイマ*², カウンタ, カウンタ(符号なし), ロングカウンタ*², 積算タイマ, 積算タイマ(符号なし), ロング積算タイマ*²

*¹ 先頭デバイスの下位2/バイトのみ読み出せます。

2ワード分以上のデバイスを読み出す場合はReadDeviceRandom関数を使用してください。

ただし1点で取得可能なダブルワードデバイスを指定した場合は、ダブルワード型で上位2/バイトも読み出されます。

*² システムラベルVer.1の場合は使用できません。

デバイス指定方法

読み出したデバイス値は、下記のように格納されます。

■ビットデバイス指定時

(例) M0を読み出す。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	ビット	M0

・読み出し点数: 1

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	M0*1	LABEL

*1 読み出すデバイスは「M0」1点のみを対象とし、デバイス値は「0」または「1」が格納されます。

■ワードデバイス指定時

(例) D0を読み出す。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	ワード	D0

・読み出し点数: 1

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL

■ダブルワード指定時(1点で2ワード読み出せるダブルワードデバイスの場合)

(例) CN200を読み出す。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	ダブルワード	CN200

・読み出し点数: 1

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
CN200のH	CN200のL*1	LABEL

*1 FXCPUのCN200以降は、4バイト読み出します。

■ダブルワード指定時(1点で2ワード読み出せないデバイスの場合)

(例) D0を指定して読み出す。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABELW	ダブルワード	D0

・読み出し点数: 1

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0*1	LABELW

*1 下位から順に2バイト読み出します。

■ラベルで2ワード以上に相当するデータ型指定時

(例) 文字列型ラベルを指定して読み出す。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	文字列	D0

・読み出し点数: 1

・読み出したデバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0 ^{*1}	LABEL

*1 下位から順に2バイト読み出します。

ReadBuffer(バッファメモリ読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

インテリジェント機能ユニットのバッファメモリの値を読み出します。

書式

■Visual Basic .NET

`iRet = object.ReadBuffer(iStartIO, iAddress, iReadSize, sData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	iRet	戻り値	Output
Integer	iStartIO	値を読み出すユニットのI/O番号	Input
Integer	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Integer	iReadSize	読み出すサイズ	Input
Short	sData(n)	バッファメモリから読み出した値	Output

■Visual C#

`iRet = object.ReadBuffer(iStartIO, iAddress, iReadSize, sData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
int	iStartIO	値を読み出すユニットのI/O番号	Input
int	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
int	iReadSize	読み出すサイズ	Input
short[n]	sData	バッファメモリから読み出した値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- iStartIOに指定するユニットのI/O番号は、実際のI/O番号を16で割った値を指定してください。
FX5CPUの場合は、対象局側のユニット番号を指定してください。
- iStartIOに指定した先頭I/O番号に位置するインテリジェント機能ユニットの、iAddressに指定されたバッファメモリアドレスのバッファ値をiReadSize分読み出します。
- 接続局がFXCPUのCPU COM通信およびGX Simulator2通信を行う場合、ユニット先頭I/O番号には、特殊増設機器のブロックNo.(0～7)を、バッファメモリアドレスには0～32767を指定してください。
- sDataは、iReadSize以上の配列を確保してください。

Point

- RモーションCPUおよびQモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- iDataは、iReadSizeに指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- QCPU(Qモード)に対してバッファメモリ読出し(ReadBuffer)を行う場合、Qシリーズ専用ユニットにしか読出し操作を行うことができません。また、QCPU(Qモード)の共有メモリからの読出し操作も行うことができません。

通信経路の使用可否

下記を参照ください。

📖 437ページ 通信経路の使用可否

WriteBuffer(バッファメモリ書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

インテリジェント機能ユニットのバッファメモリの値を書き込みます。

書式

■Visual Basic .NET

`IRet = object.WriteBuffer(iStartIO, iAddress, iWriteSize, sData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
Integer	iStartIO	値を書き込むユニットのI/O番号	Input
Integer	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
Integer	iWriteSize	書き込むサイズ	Input
Short	sData(n)	バッファメモリに書き込む値	Input

■Visual C#

`iRet = object. WriteBuffer (iStartIO, iAddress, iWriteSize, sData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
int	iStartIO	値を書き込むユニットのI/O番号	Input
int	iAddress	バッファメモリのアドレス	Input
int	iWriteSize	書き込むサイズ	Input
short[n]	sData	バッファメモリに書き込む値	Input

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- iStartIOに指定するユニットのI/O番号は、実際のI/O番号を16で割った値を指定してください。
FX5CPUの場合は、対象局側のユニット番号を指定してください。
- iStartIOに指定した先頭I/O番号に位置するインテリジェント機能ユニットの、iAddressに指定されたバッファメモリアドレスのバッファ値をiWriteSize分書き込みます。
- 接続局がFXCPUのCPU COM通信およびGX Simulator2通信を行う場合、ユニット先頭I/O番号には、特殊増設機器のブロックNo.(0～7)を、バッファメモリアドレスには0～32767を指定してください。
- sDataは、iWriteSize以上の配列を確保してください。

Point

- RモーションCPUおよびQモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- sDataは、iReadSizeに指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- QCPU(Qモード)に対してバッファメモリ読出し(ReadBuffer)を行う場合、Qシリーズ専用ユニットにしか読出し操作を行うことができません。また、QCPU(Qモード)の共有メモリからの読出し操作も行うことができません。

通信経路の使用可否

下記を参照ください。

☞ 441ページ 通信経路の使用可否

GetClockData(時計データ読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

CPUユニットの時計データから時間を読み出します。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.GetClockData(sYear, sMonth, sDay, sDayOfWeek, sHour, sMinute, sSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
Short	sYear	読み出した年の値	Output
Short	sMonth	読み出した月の値	Output
Short	sDay	読み出した日の値	Output
Short	sDayOfWeek	読み出した曜日の値	Output
Short	sHour	読み出した時間の値	Output
Short	sMinute	読み出した分の値	Output
Short	sSecond	読み出した秒の値	Output

■Visual C#

hResult = object.GetClockData

(ref sYear, ref sMonth, ref sDay, ref sDayOfWeek, ref sHour, ref sMinute, ref sSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
short	sYear	読み出した年の値	Output
short	sMonth	読み出した月の値	Output
short	sDay	読み出した日の値	Output
short	sDayOfWeek	読み出した曜日の値	Output
short	sHour	読み出した時間の値	Output
short	sMinute	読み出した分の値	Output
short	sSecond	読み出した秒の値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- CPUユニットに正しい時計データが設定されていない場合、エラーが返ります。
- sYearに格納される値は、RCPUおよびQCPU(Qモード)は西暦4桁、それ以外のCPUは西暦下2桁が返ります。
ただし、RCPUおよびQCPU(Qモード)は1980年から2079年までとなります。
- sDayOfWeekに格納される値は、下記のとおりです。

値	曜日
0	日曜日
1	月曜日
2	火曜日
3	水曜日
4	木曜日
5	金曜日
6	土曜日

Point

- RモーションCPUおよびQモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- FXCPUは、時計機能内蔵の機種で、時計データが読み出せます。
上記以外のFXCPUはエラーが返ります。
- 時計設定は転送時間分の誤差が生じますのでご注意ください。
- 通信経路の使用可否については、[443ページ GetClockData\(時計データ読出し\)](#)に記載の一覧表を参照してください。

通信経路の使用可否

下記を参照ください。

[446ページ](#) 通信経路の使用可否

SetClockData(時計データ書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

CPUユニットの時計データへ時間を書き込みます。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.SetClockData(sYear, sMonth, sDay, sDayOfWeek, sHour, sMinute, sSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
Short	sYear	書き込む年の値	Input
Short	sMonth	書き込む月の値	Input
Short	sDay	書き込む日の値	Input
Short	sDayOfWeek	書き込む曜日の値	Input
Short	sHour	書き込む時間の値	Input
Short	sMinute	書き込む分の値	Input
Short	sSecond	書き込む秒の値	Input

■Visual C#

IRet = object.SetClockData(sYear, sMonth, sDay, sDayOfWeek, sHour, sMinute, sSecond)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
short	sYear	書き込む年の値	Input
short	sMonth	書き込む月の値	Input
short	sDay	書き込む日の値	Input
short	sDayOfWeek	書き込む曜日の値	Input
short	sHour	書き込む時間の値	Input
short	sMinute	書き込む分の値	Input
short	sSecond	書き込む秒の値	Input

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- 設定する時計データが正しい値でない場合、エラーが返ります。
- sYearに指定した値は、RCPUおよびQCPU(Qモード)は西暦4桁、それ以外のCPUは西暦下2桁が有効となります。
ただし、RCPUおよびQCPU(Qモード)は1980年から2079までとなります。
RCPUおよびQCPU(Qモード)以外のCPUで4桁を設定した場合はエラーとなります。
- sDayOfWeekに指定する値は、下記のとおりです。

値	曜日
0	日曜日
1	月曜日
2	火曜日
3	水曜日
4	木曜日
5	金曜日
6	土曜日

Point

- RモーションCPUおよびQモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- FXCPUは、時計機能内蔵の機種で、時計データが書き込めます。
上記以外のFXCPUはエラーが返ります。
- 時計設定は転送時間分の誤差が生じますのでご注意ください。
- 通信経路の使用可否については、[📖 448ページ SetClockData\(時計データ書込み\)](#)に記載の一覧表を参照してください。
- 自ボードアクセス時はエラーが返ります。

通信経路の使用可否

下記を参照ください。

[📖 450ページ 通信経路の使用可否](#)

GetCpuType(CPUユニット形名読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

CPUユニット, ネットワークボード, GOTの形名文字列および形名コード(16進)を読み出します。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.GetCpuType(szCpuName, ICpuType)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szCpuName	形名文字列	Output
Integer	ICpuType	形名コード	Output

■Visual C#

iRet = object.GetCpuType (ref szCpuName, ref iCpuType)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szCpuName	形名文字列	Output
int	iCpuType	形名コード	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- 通信を行っているCPUユニットの形名文字列をszCpuNameに, 形名コード(16進)をiCpuTypeに格納します。
- 形名文字列はUNICODEで返されます。
- 形名コードはユニット固有の値(16進)です。

SetCpuStatus(リモートコントロール)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

CPUユニットのリモート操作を行います。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.SetCpuStatus(IOperation)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
Integer	IOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE/RESET	Input

■Visual C#

iRet = object.SetCpuStatus (iOperation)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
int	iOperation	リモートRUN/STOP/PAUSE/RESET	Input

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

iOperationにて指定された操作を行います。

下記以外の値を指定するとエラーとなります。

値	操作
0	リモートRUN
1	リモートSTOP
2	リモートPAUSE
3	リモートRESET

Point

- FXCPUはCPUユニットとしてPAUSEスイッチを持たないため、SetCpuStatusでリモートPAUSEを指定するとエラーを返します。
- QモーションCPUへアクセスし、PAUSEを指定するとエラーが返ります。
- RモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- 通信経路の使用可否については、 454ページ SetCpuStatus(リモートコントロール)に記載の一覧表を参照してください。
- リモートRESETは、QCPU, LCPU, RCPU, LHCPU, およびFX5CPUでリモートRESETに対応している機種のみサポートしています。

通信経路の使用可否

下記を参照ください。

455ページ 通信経路の使用可否

EntryDeviceStatus(デバイスの状態監視登録)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType

機能

状態監視を行うデバイスを登録します。

書式

■Visual Basic .NET

`iRet = object.EntryDeviceStatus(szLabelList, iSize, iMonitorCycle, iData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	iRet	戻り値	Output
String	szLabelList(n)	登録ラベル名リスト	Input
Integer	iSize	登録デバイス点数	Input
Integer	iMonitorCycle	状態監視間隔時間	Input
Integer	iData(n)	登録デバイス値リスト	Input

■Visual C#

`iRet = object.EntryDeviceStatus(szLabelList, iSize, iMonitorCycle, iData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
System.String[n]	szLabelList	登録ラベル名リスト	Input
int	iSize	登録デバイス点数	Input
int	iMonitorCycle	状態監視間隔時間	Input
int[n]	iData	登録デバイス値リスト	Input

戻り値

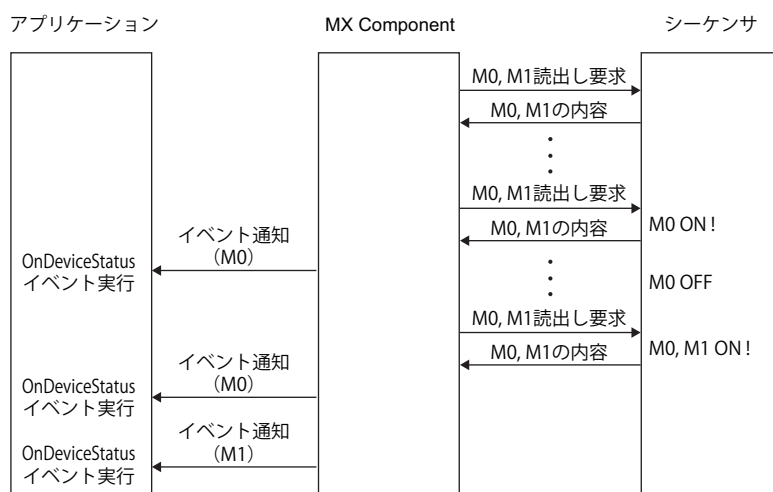
正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

- szLabelListにて指定したiSize分のデバイス群が、iDataにて指定した状態であることを確認します。確認時間はiMonitorCycleにて指定します。
状態成立によりユーザプログラムのOnDeviceStatus関数を実行します。
- iSizeに指定できる最大デバイス点数は、20点です。
- iMonitorCycleは1秒～1時間の範囲(1～3600の秒単位で設定)で指定してください。
これ以外の値を指定するとエラーとなります。
- 登録デバイス値リストを、iDataに格納します。

- パソコン性能、実行中のアプリケーション負荷、シーケンサとの通信に要する時間などの条件により、指定の状態監視間隔時間に、デバイスの状態監視が行えない場合があります。
また、コントロールの他の関数を同時に使用する場合も、指定の状態監視間隔時間でデバイスの状態監視ができない原因になります。
- iDataは、iSizeに指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなど重大な現象が発生するおそれがあります。
- 状態監視中にEntryDeviceStatusを実行した場合は、エラーとなります。
状態監視の条件を変更する場合は、FreeDeviceStatusを実行後、再度EntryDeviceStatusを実行してください。
- 複数デバイスが同時に状態変化した場合は、状態変化したことに、OnDeviceStatusイベントが実行されます。
(例: M0を監視している場合)



- コントロールが定期的にデバイスランダム読出しを実行し、状態成立を確認する機能です。
したがって、CPUユニットがデバイスの状態成立をMX Componentに通知する機能ではありません。
そのため、指定の状態監視間隔時間によっては、コントロールがCPUユニットのデバイスの状態成立を確認できない場合があります。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。

ワードデバイスを状態監視する場合の注意事項

ワードデバイスが負の値-1～-32768(FFFFH～8000H)になるのを状態監視する場合、EntryDeviceStatusの監視デバイス値は上位2バイトに「0」を格納した65535～32768(0000FFFFH～00008000H)を設定してください。

(例) D0が「-10」となるのを状態監視させる場合

「-10(FFFFFF6H)」の上位2バイトに「0」を格納した値「65526(0000FFF6H)」を監視デバイス値に設定してください。

CPUユニットのワードデバイスがWORD型であるのに対し、EntryDeviceStatusの監視デバイス値の型はLONG型であるため、CPUユニットの現在値とEntryDeviceStatusの監視デバイス値を比較した場合、同じ値にはならず上記の設定が必要になります。(ビットデバイスおよびダブルワードデバイス使用時は、本注意事項は該当しません。)

本注意事項についてのプログラミング例は下記を参照してください。

☞ 660ページ ワードデバイスを状態監視する場合のプログラミング例

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, —: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○	Integer/int (32ビット値)
構造体	なし	システムラベル名	×	—
		システムラベル名.構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	×	—
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	○	Integer/int (32ビット値)

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット、ワード(符号付き)、ワード(符号なし)

デバイス指定方法

登録するデバイス値は、下記のように設定してください。

■ビットデバイスおよびワードデバイス指定時

(例) M0とD0を1点ずつ登録する。

・ラベル設定

szLabelList	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL1	ビット	M0
[1]	LABEL2	ワード	D0

・登録デバイス点数: 2

・登録デバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	M0	LABEL1
	D0	LABEL2

■FXCPUのCN200以降指定時

(例) CN200を含めて3点登録する。

・ラベル設定

szLabelList	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL1	ワード	D0
[1]	LABEL2	ワード	CN200
[2]	LABEL3	ワード	D1

・登録デバイス点数: 3

・登録デバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL1
CN200のH	CN200のL ^{*1}	LABEL2
使用しません。(0が格納されます。)	D1	LABEL3

*1 FXCPUのCN200以降は、4バイト登録できます。

■FDデバイス指定時(4ワードデバイス)

(例) FD0を含めて3点登録する。

・ラベル設定

szLabelList	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL1	ワード	D0
[1]	LABEL2	ワード	FD0
[2]	LABEL3	ワード	D1

・登録デバイス点数: 3

・登録デバイス値

上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
使用しません。(0が格納されます。)	D0	LABEL1
	FD0のLL ^{*1}	LABEL2
	D1	LABEL3

*1 下位2バイトのみ登録できます。指定デバイスのHH, HL, LH(上位6バイト)は登録できません。

FreeDeviceStatus(デバイスの状態監視登録解除)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType

機能

EntryDeviceStatusにて登録した、状態監視を行うデバイスを解除します。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.FreeDeviceStatus()

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output

■Visual C#

iRet = object.FreeDeviceStatus()

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

EntryDeviceStatus関数にて設定した状態監視を行うデバイスを解除します。

OnDeviceStatus(イベント告知)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType

機能

EntryDeviceStatus関数にて登録したデバイス条件が成立時に実行します。

書式

■Visual Basic .NET

- イベントハンドラの生成

AddHandler object.OnDeviceStatus, AddressOf object_OnDeviceStatus

- イベントハンドラ

Private Sub object_OnDeviceStatus(ByVal sender As System.Object,
ByVal e As MITSUBISHI.Component.DeviceStatusEventArgs)

引数	内容	Input/Output
sender	イベントの発生元	Output
e	イベントのデータ	Output

eのメンバは下記のとおりです。

メンバ	内容
e.szDevice	条件成立したラベル名
e.IData	条件成立したデバイス値
e.IReturnCode	条件チェック処理の戻り値

- イベントハンドラの削除

RemoveHandler object.OnDeviceStatus, AddressOf object_OnDeviceStatus

■Visual C#

- イベントハンドラの生成

object.OnDeviceStatus += new MITSUBISHI.Component.DotUtilType.DeviceStatusEventHandler (object_OnDeviceStatus);

- イベントハンドラ

private void object_OnDeviceStatus(object sender, MITSUBISHI.Component.DeviceStatusEventArgs e)

引数	内容	Input/Output
sender	イベントの発生元	Output
e	イベントのデータ	Output

eのメンバは下記のとおりです。

メンバ	内容
e.szDevice	条件成立したラベル名
e.IData	条件成立したデバイス値
e.IReturnCode	条件チェック処理の戻り値

- イベントハンドラの削除

object.OnDeviceStatus -= new MITSUBISHI.Component.DotUtilType.DeviceStatusEventHandler(object_OnDeviceStatus);

戻り値

なし

説明

- EntryDeviceStatus関数にて登録したデバイス条件が、成立時にアプリケーションに対してイベントを通知します。
ユーザプログラム側にて本関数を実装することにより、登録されたデバイス条件成立時に、イベントを受けることができます。
- IDataには、EntryDeviceStatusにて登録したデバイス値が入ります。
(例) ワードデバイスで「-1」の値を監視している場合
EntryDeviceStatusで65535(0000FFFFH)を登録デバイス値として設定します。
CPUユニットの対象ワードデバイスが「-1」(FFFFH)の状態になると、OnDeviceStatusが実行され、IDataには(0000FFFFH)が入ります。

11

Point

ユーザプログラム内で下記の設定を行っている場合、EntryDeviceStatus関数で登録したデバイスの条件が成立してもOnDeviceStatusのイベントが発生しません。

イベント発生待ちになった場合、下記の設定が終了するまで.Netコントロールに制御が戻らず、デバイス管理処理が停止しますので注意してください。

- Visual Basic .NETで作成しているユーザプログラム
ユーザプログラム内でメッセージボックスを表示している場合
ユーザプログラム内でInputBox/OutputBoxを表示している場合
- Visual Basic .NETおよびVisual C#で作成しているユーザプログラム
ユーザプログラム内でSleep処理、WaitForSingleObject関数などの待機関数を使用している場合

ReadDeviceBlock2(デバイスの一括読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

2バイトデータで配列ラベルの一括読出しを行います。

書式

■Visual Basic .NET

`IRet = object.ReadDeviceBlock2(szLabel, iSize, sData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Integer	iSize	読出し点数	Input
Short	sData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C#

`iRet = object.ReadDeviceBlock2(ref szLabel, iSize, ref sData)`

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
int	iSize	読出し点数	Input
short[n]	sData	読み出したデバイス値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(🔗 607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabelで指定したデバイスから、読出し点数iSize分のデバイスを一括して読み出します。
- 読み出したデバイス値は、sDataに格納されます。
- 読み出したデバイス値sDataには、読出し点数iSize以上の配列を確保してください。

Point🔑

- 読出し点数に指定できる最大読出し点数は、下記の満たす範囲です。
読出し開始デバイス番号 + 読出し点数 ≤ 最終デバイス番号
- ビット型配列のラベルを指定する場合、デバイス番号は0または16の倍数のみ指定できます。
- ラベル名に指定しているデータ型に対応するワード数を読出し点数に指定してください。
読み出したデバイス値には、読出し点数に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなどの重大な現象が発生するおそれがあります。
- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、読み出せません。
複数のラベル名に対応するデバイスが一部存在しない場合もエラーとなり、読み出せません。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。
- ロングタイマの接点(LTS), ロングタイマのコイル(LTC), ロング積算タイマの接点(LSTS), ロング積算タイマのコイル(LSTC)のデバイスの読出しはできません。ReadDeviceRandom2関数, またはGetDevice2関数を使用してください。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, —: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	×	—
	要素数(1次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1]	×	—
	要素数(2次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
	要素数(3次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
構造体	なし	システムラベル名	×	—
		システムラベル名.構造体メンバ名	×	—
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	×	—
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	×	—
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	×	—
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	×	—

*1 配列要素は指定せず、システムラベル名のみ指定します。

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット^{*3}, ワード(符号付き), ダブルワード(符号付き), ワード(符号なし), ダブルワード(符号なし), 単精度実数, 倍精度実数, 文字列^{*1}, 文字列[Unicode]^{*2*}, 時間, タイマ, タイマ(符号なし), ロングタイマ^{*3}, カウンタ, カウンタ(符号なし), ロングカウンタ^{*3}, 積算タイマ, 積算タイマ(符号なし), ロング積算タイマ^{*3}

*1 半角32文字+NULLまで指定できます。

*2 32文字+NULLまで指定できます。

*3 システムラベルVer.1の場合は使用できません。

■読出し点数

読出し点数にはラベルのデータ型によって、下記の値を設定してください。

ラベル(配列)のデータ型	対応するワード数	指定する読出し点数
ビット	1	ラベルの配列要素数÷16(切上げ)
ワード(符号付き)	1	ラベルの配列要素数
ダブルワード(符号付き)	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
ワード(符号なし)	1	ラベルの配列要素数
ダブルワード(符号なし)	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
単精度実数	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
倍精度実数	4	ラベルの配列要素数×4
文字列	17	ラベルの配列要素数×17
文字列[Unicode]	33	ラベルの配列要素数×33
時間	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
タイマ, タイマ(符号なし), ロングタイマ, カウンタ, カウンタ(符号なし), ロングカウンタ, 積算タイマ, 積算タイマ(符号なし), ロング積算タイマ	1	ラベルの配列要素数

*1 ラベルにダブルワードデバイスを指定している場合はデバイス数(要素数)が1となります。

デバイス指定方法

読み出したデバイス値は、下記のように格納されます。

■ビットデバイス指定時

(例) M0から3点(3ワード分=48ビット)読み出す。

・ラベル設定(データ型: ビット, 配列要素数: 48)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]~[2]	LABEL	ビット(0..47)	M0~M47

・読出し点数: 3

・読み出したデバイス値

2バイト	対応ラベル
M0~M15 ^{*1}	LABEL[0]~LABEL[15]
M16~M31 ^{*1}	LABEL[16]~LABEL[31]
M32~M47 ^{*1}	LABEL[30]~LABEL[47]

*1 デバイスの番号順に下位ビットから格納されます。

■ワードデバイス指定時

(例) D0から3点読み出す。

・ラベル設定(データ型: ワード, 配列要素数: 3)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]~[2]	LABEL	ワード(0..2)	D0~D2

・読出し点数: 3

・読み出したデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0	LABEL[0]
D1	LABEL[1]
D2	LABEL[2]

■FXCPUのCN200以降指定時

(例) CN200から6点(6ワード分=3ダブルワード分)読み出す。

FXCPUのCN200以降は、デバイス1点あたり読出し点数2点で上位(H)と下位(L)のデータを分けて読み出します。

読出し点数1点ではエラーとなります。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 3)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[5]	LABEL	ダブルワード(0..2)	CN200～CN202

・読出し点数: 6

・読み出したデバイス値

2バイト	対応ラベル
CN200のL	LABEL[0]
CN200のH	
CN201のL	LABEL[1]
CN201のH	
CN202のL	LABEL[2]
CN202のH	

■FDデバイス指定時(4ワードデバイス)

(例) FD0から8点読み出す。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 2)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[7]	LABEL	ダブルワード(0..1)	FD0, FD1

・読出し点数: 8

・読み出したデバイス値

2バイト	対応ラベル
FD0のLL	LABEL[0]
FD0のLH	
FD0のHL	
FD0のHH	
FD1のLL	LABEL[1]
FD1のLH	
FD1のHL	
FD1のHH	

■ダブルワード型でダブルワードデバイス指定時

(例) LZ0から2点読み出す。

・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 2)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[1]	LABEL	ダブルワード(0..1)	LZ0～LZ1

・読出し点数: 6

・読み出したデバイス値

2バイト	対応ラベル
LZ0のL	LABEL[0]
LZ1のL	LABEL[1]

WriteDeviceBlock2(デバイスの一括書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

2バイトデータで配列ラベルの一括書込みを行います。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.WriteDeviceBlock2(szLabel, iSize, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Integer	iSize	書込み点数	Input
Short	sData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C#

iRet = object.WriteDeviceBlock2(ref szLabel, iSize, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
short[n]	sData	書き込むデバイス値	Input

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabelで指定したデバイスから、書込み点数iSize分のデバイスを一括して書き込みます。
- 書き込むデバイス値は、sDataに格納します。
- 書き込むデバイス値sDataには、書込み点数iSize以上の配列を確保してください。

- 書込み点数に指定できる最大書込み点数は、下記の満たす範囲です。
書込み開始デバイス番号 + 書込み点数 ≤ 最終デバイス番号
- ビット型配列のラベルを指定する場合、デバイス番号は0または16の倍数のみ指定できます。
- ラベル名に指定しているデータ型に対応するワード数を書込み点数に指定してください。書き込むデバイス値には、書込み点数に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなどの重大な現象が発生するおそれがあります。
- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、書込みできません。
複数のラベル名に対応するデバイスが一部存在しない場合もエラーとなり、書込みできません。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。
- ロングタイマの接点(LTS)、ロングタイマのコイル(LTC)、ロング積算タイマの接点(LSTS)、ロング積算タイマのコイル(LSTC)のデバイスの読出しはできません。WriteDeviceRandom2関数、またはSetDevice2関数を使用してください。
- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, —: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	×	—
	要素数(1次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1]	×	—
	要素数(2次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
	要素数(3次元)	システムラベル名 ^{*1}	○	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
構造体	なし	システムラベル名	×	—
		システムラベル名.構造体メンバ名	×	—
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	×	—
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	×	—
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	×	—
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	×	—

*1 配列要素は指定せず、システムラベル名のみ指定します。

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット^{*3}, ワード(符号付き), ダブルワード(符号付き), ワード(符号なし), ダブルワード(符号なし), 単精度実数, 倍精度実数, 文字列^{*1}, 文字列[Unicode]^{*2*}, 時間, タイマ, タイマ(符号なし), ロングタイマ^{*3}, カウンタ, カウンタ(符号なし), ロングカウンタ^{*3}, 積算タイマ, 積算タイマ(符号なし), ロング積算タイマ^{*3}

*1 半角32文字+NULLまで指定できます。

*2 32文字+NULLまで指定できます。

*3 システムラベルVer.1の場合は使用できません。

■書込み点数

書込み点数にはラベルのデータ型によって、下記の値を設定してください。

ラベル(配列)のデータ型	対応するワード数	指定する書込み点数
ビット	1	ラベルの配列要素数÷16(切上げ)
ワード(符号付き)	1	ラベルの配列要素数
ダブルワード(符号付き)	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
ワード(符号なし)	1	ラベルの配列要素数
ダブルワード(符号なし)	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
単精度実数	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
倍精度実数	4	ラベルの配列要素数×4
文字列	17	ラベルの配列要素数×17
文字列[Unicode]	33	ラベルの配列要素数×33
時間	2 ^{*1}	ラベルの配列要素数×2 ^{*1}
タイマ, タイマ(符号なし), ロングタイマ, カウンタ, カウンタ(符号なし), ロングカウンタ, 積算タイマ, 積算タイマ(符号なし), ロング積算タイマ	1	ラベルの配列要素数

*1 ラベルにダブルワードデバイスを指定している場合はデバイス数(要素数)が1となります。

デバイス指定方法

書き込むデバイス値は、下記のように設定してください。

■ビットデバイス指定時

(例) M0から3点(3ワード分=48ビット)書き込む。

・ラベル設定(データ型: ビット, 配列要素数: 48)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]~[2]	LABEL	ビット(0..47)	M0~M47

・書込み点数: 3

・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
M0~M15 ^{*1}	LABEL[0]
M16~M31 ^{*1}	LABEL[1]
M32~M47 ^{*1}	LABEL[2]

*1 デバイスの番号順に下位ビットから格納します。

■ワードデバイス指定時

(例) D0から3点書き込む。

・ラベル設定(データ型: ワード, 配列要素数: 3)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]~[2]	LABEL	ワード(0..2)	D0~D2

・書込み点数: 3

・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0	LABEL[0]
D1	LABEL[1]
D2	LABEL[2]

■FXCPUのCN200以降指定時

(例) CN200から6点(6ワード分=3ダブルワード分)書き込む。
FXCPUのCN200以降は、デバイス1点あたり書き込み点数2点で上位(H)と下位(L)のデータを分けて書き込みます。
書き込み点数1点ではエラーとなります。
・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 3)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[5]	LABEL	ダブルワード(0..2)	CN200～CN202

・書き込み点数: 6
・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
CN200のL	LABEL[0]
CN200のH	
CN201のL	LABEL[1]
CN201のH	
CN202のL	LABEL[2]
CN202のH	

■FDデバイス指定時(4ワードデバイス)

(例)FD0から8点(8ワード分)読み出す。
・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 2)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[7]	LABEL	ダブルワード(0..1)	FD0, FD1

・書き込み点数: 8
・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
FD0のLL	LABEL[0]
FD0のLH	
FD0のHL	
FD0のHH	
FD1のLL	LABEL[1]
FD1のLH	
FD1のHL	
FD1のHH	

■ラベルがダブルワード配列でワードデバイス指定時

(例) D0から6点(6ワード分=3ダブルワード分)書き込む。
・ラベル設定(データ型: ダブルワード, 配列要素数: 3)

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]～[5]	LABEL	ダブルワード(0..2)	D0～D5

・書き込み点数: 6
・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0	LABEL[0]
D1	
D2	LABEL[1]
D3	
D4	LABEL[2]
D5	

ReadDeviceRandom2(デバイスのランダム読出し)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

2バイトデータでデバイスのランダム読出しを行います。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.ReadDeviceRandom2(szLabel, iSize, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Integer	iSize	読出し点数	Input
Short	sData(n)	読み出したデバイス値	Output

IRet = object.ReadDeviceRandom2(szLabelList, iSize, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabelList(n)	ラベルリスト	Input
Integer	iSize	読出し点数	Input
Short	sData(n)	読み出したデバイス値	Output

■Visual C#

iRet = object.ReadDeviceRandom2(ref szLabel, iSize, ref sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Int	iRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
int	iSize	読出し点数	Input
short[n]	sData	読み出したデバイス値	Output

iRet = object.ReadDeviceRandom2(ref szLabelList, iSize, ref sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Int	iRet	戻り値	Output
System.String[n]	szLabelList	ラベルリスト	Input
int	iSize	読出し点数	Input
short[n]	sData	読み出したデバイス値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabel(szLabelList)で指定したデバイス群を、読出し点数iSize分のデバイス値だけ読み出します。
- 読み出したデバイス値は、sDataに格納されます。
- 読み出したデバイス値sDataには、読出し点数iSize以上の配列を確保してください。

Point

- 読出し点数に指定できる最大読出し点数は、0x7FFFFFFF点までです。
- ラベル名に指定しているデータ型に対応するワード数を読出し点数に指定してください。読み出したデバイス値には、読出し点数に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなどの重大な現象が発生するおそれがあります。
- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、読み出せません。
複数のラベル名に対応するデバイスが一部存在しない場合もエラーとなり、読み出せません。
- ダブルワードデバイスを指定した場合、本関数では下位1ワード(2バイト)分のデータのみ格納されます。(エラーは発生しません。)ダブルワードデバイスの読出しを行う場合は、ReadDeviceRandom関数またはReadDeviceBlock関数を使用してください。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。
- 構造体は5階層まで定義できます。ただし、静的システムラベルは1階層目の構造体までのみ使用できません。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, -: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1]	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○	Short/short (16ビット値)
構造体	なし	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名.構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1]	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)

*1 配列および構造体全体のデータを読み出します。

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット、ワード(符号付き)、ダブルワード(符号付き)、ワード(符号なし)、ダブルワード(符号なし)、単精度実数、倍精度実数、文字列^{*1}、文字列[Unicode]^{*2*4}、時間、タイマ^{*3}、タイマ(符号なし)^{*3}、ロングタイマ^{*3*4}、カウンタ^{*3}、カウンタ(符号なし)^{*3}、ロングカウンタ^{*3*4}、積算タイマ^{*3}、積算タイマ(符号なし)^{*3}、ロング積算タイマ^{*3*4}

*1 半角32文字+NULLまで指定できます。

*2 32文字+NULLまで指定できます。

*3 システムラベルVer.2のラベルを使用してアクセスする場合は、接点/コイル/現在値のそれぞれのデバイスに対応するシステムラベルVer.2のラベルを定義する必要があります。

*4 システムラベルVer.1の場合は使用できません。

■読出し点数

読出し点数にはラベルのデータ型によって、各要素に関する下記の値の和を設定してください。

ラベルのデータ型	指定する読出し点数 ^{*1}
ビット	1
ワード(符号付き)	1
ダブルワード(符号付き)	2 ^{*2}
ワード(符号なし)	1
ダブルワード(符号なし)	2 ^{*2}
単精度実数	2 ^{*2}
倍精度実数	4
文字列	17
文字列[Unicode]	33
時間	2 ^{*2}
タイマ、タイマ(符号なし)、ロングタイマ、カウンタ、カウンタ(符号なし)、ロングカウンタ、積算タイマ、積算タイマ(符号なし)、ロング積算タイマ	1
構造体	構造体メンバのデータ型に対応するワード数の合計値

*1 配列ラベルに対してラベル名のみ(要素指定なし)でアクセスする場合、読出し点数には本表の読出し点数と配列要素数との積を指定してください。

*2 ダブルワードデバイスを割り当てた基本データ型のラベルを単独で使用する場合は読出し点数は1となります。
ダブルワードデバイスを割り当てた構造体ラベルおよび複数ラベルを同時に取得する場合の読出し点数は2となります。

デバイス指定方法

読み出したデバイス値は、下記のように格納されます。

■FXCPUのCN200以降またはダブルワードデバイス指定時

(例) CN200を含めて4点読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	ワード	D0
LABEL2	ダブルワード	CN200
LABEL3	ワード	D1

・読み出し点数: 4

・読み出し方法

```
short iData[4]
String stLabelList[3] = {"LABEL1", "LABEL2", "LABEL3"}
ReadDeviceRandom2(stLabelList, 4, iData)
```

・読み出したデバイス値

2バイト
D0
CN200のL ^{*1}
CN201のL ^{*1}
D1

*1 1点で2ワード読み出します。

■配列型ラベル指定時

(例1)配列型ラベルを指定してビットデバイス(M0～M2)を3点読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ビット(0..2)	M0

・読み出し点数: 3

・読み出し方法

```
short sData[3]
ReadDeviceRandom2("LABEL", 3, sData)
```

・読み出したデバイス値

2バイト
M0
M1
M2

(例2)配列型ラベルを指定してワードデバイス(D0～D2)を3点読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ワード(0..2)	D0

・読み出し点数: 3

・読み出し方法

```
short sData[3]
ReadDeviceRandom2("LABEL", 3, sData)
```

・読み出したデバイス値

2バイト
D0
D1
D2

(例3)配列型ラベルを指定してダブルワードデバイス(CN200～CN202)を3点読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ワード(0..2)	CN200

・読出し点数: 3

・読出し方法

```
short sData[3]  
ReadDeviceRandom2("LABEL",3,sData)
```

・読み出したデバイス値

2バイト
CN200のL
CN201のL
CN202のL

(例4)配列型ラベルを指定して6点(6ワード分=3ダブルワード分)読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ダブルワード(0..2)	D0

・読出し点数: 6

・読出し方法

```
short sData[6]  
ReadDeviceRandom2("LABEL",6,sData)
```

・読み出したデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0	LABEL[0]
D1	
D2	
D3	LABEL[1]
D4	
D5	LABEL[2]

(例5)配列型ラベルを指定して文字列型で51点(D0～D50)読み出す。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	文字列(0..2)	D0

・読出し点数: 51

・読出し方法

```
short sData[51]  
ReadDeviceRandom2("LABEL",51,sData)
```

文字列型の文字変換は行われませんのでユーザプログラム内での変換が必要です。

・読み出したデバイス値

index	2バイト	対応ラベル
[0]	D0	LABEL[0]
[1]	D1	
⋮	⋮	
[16]	D16	LABEL[1]
[17]	D17	
⋮	⋮	
[33]	D33	LABEL[2]
[34]	D34	
⋮	⋮	
[50]	D50	

■構造体型ラベル指定時

(例1) 構造体型ラベルを指定して読み出す。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ワード
	LABEL3	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT.LABEL1	M0
STRUCT.LABEL2	D0
STRUCT.LABEL3	W0

ラベル名のみでアクセスする場合

・読出し点数: 3(構造体各メンバの読出し点数の合計が3のため)

・読出し方法

```
short sData[3]
ReadDeviceRandom2("STRUCT",3,sData)
```

・読み出したデバイス値

2バイト
M0
D0
W0

ラベル名+メンバ名でアクセスする場合

・読出し点数: 2(構造体の読出し点数1のメンバを2つ指定するため)

・読出し方法

```
String stLabelList[2] = {"STRUCT.LABEL1","STRUCT.LABEL2"}
short sData[2]
ReadDeviceRandom2(stLabelList,2,sData)
```

・読み出したデバイス値

2バイト
M0
D0

(例2) 構造体型ラベルを指定して読み出す。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ダブルワード
	LABEL3	倍精度実数
	LABEL4	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT.LABEL1	D0.0
STRUCT.LABEL2	D1
STRUCT.LABEL3	D3
STRUCT.LABEL4	D7

・読出し点数: 8(構造体各メンバの読出し点数の合計が8のため)

・読出し方法

```
short sData[8]
ReadDeviceRandom2("STRUCT",8,sData)
```

・読み出したデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0.0	STRUCT.LABEL1
D1	STRUCT.LABEL2
D2	
D3	
D4	
D5	STRUCT.LABEL3
D6	
D7	
	STRUCT.LABEL4

■構造体と配列を組み合わせたラベル指定時

(例) 構造体型の配列、および構造体配列型ラベルを指定して読み出す。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ワード(0..1)
	LABEL3	ダブルワード
	LABEL4	文字列
	LABEL5	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT[0].LABEL1	M0
STRUCT[0].LABEL2[0]	D0
STRUCT[0].LABEL2[1]	D1
STRUCT[0].LABEL3	D2
STRUCT[0].LABEL4	D4
STRUCT[0].LABEL5	D21
STRUCT[1].LABEL1	M1
STRUCT[1].LABEL2[0]	D22
STRUCT[1].LABEL2[1]	D23
STRUCT[1].LABEL3	D24
STRUCT[1].LABEL4	D26
STRUCT[1].LABEL5	D43

・読みし点数: 46(構造体各メンバの読みし点数の合計が23で、要素数2の配列のため)

・読みし方法

```
short iData[46]
```

```
ReadDeviceRandom2("STRUCT",46,iData)
```

または

```
String stLabelList[2] = {"STRUCT[0]","STRUCT[1]"};
```

```
ReadDeviceRandom2(stLabelList,46,iData)
```

読み出したデバイス値

index	2バイト	対応ラベル
[0]	M0	STRUCT[0].LABEL1
[1]	D0	STRUCT[0].LABEL2[0]
[2]	D1	STRUCT[0].LABEL2[1]
[3]	D2	STRUCT[0].LABEL3
[4]	D3	
[5]	D4	STRUCT[0].LABEL4
⋮	⋮	
[21]	D20	
[22]	D21	STRUCT[0].LABEL5
[23]	M1	STRUCT[1].LABEL1
[24]	D22	STRUCT[1].LABEL2[0]
[25]	D23	STRUCT[1].LABEL2[0]
[26]	D24	STRUCT[1].LABEL3
[27]	D25	
[28]	D26	STRUCT[1].LABEL4
⋮	⋮	
[44]	D42	
[45]	D43	STRUCT[1].LABEL5

WriteDeviceRandom2(デバイスのランダム書込み)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

2バイトデータでデバイスのランダム書込みを行います。

書式

■Visual Basic .NET

Ret = object.WriteDeviceRandom2(szLabel, iSize, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Integer	iSize	書込み点数	Input
Short	sData(n)	書き込むデバイス値	Input

Ret = object.WriteDeviceRandom2(szLabelList, iSize, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabelList(n)	ラベルリスト	Input
Integer	iSize	書込み点数	Input
Short	sData(n)	書き込むデバイス値	Input

■Visual C#

iRet = object.WriteDeviceRandom2(szLabel, iSize, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
int	iSize	書込み点数	Input
short[n]	sData	書き込むデバイス値	Input

iRet = object. WriteDeviceRandom2(szLabelList, iSize, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
System.String[n]	szLabelList	ラベルリスト	Input
int	iSize	書込み点数	Input
short[n]	sData	書き込むデバイス値	Input

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabelで指定したデバイス群を、書き込み点数iSize分のデバイス値だけ書き込みます。
- 書き込むデバイス値を、sDataに格納します。
- 書き込むデバイス値sDataには、書き込み点数iSize以上の配列を確保してください。

Point

- 書き込み点数に指定できる最大書き込み点数は、0x7FFFFFFF点までです。
- ラベル名に指定しているデータ型に対応するワード数を書込み点数に指定してください。書き込むデバイス値には、書き込み点数に指定した点数分のメモリエリアを用意してください。メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなどの重大な現象が発生するおそれがあります。
- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、書き込めません。
複数のラベル名に対応するデバイスが一部存在しない場合もエラーとなり、書き込めません。
- ダブルワードデバイスを指定した場合、本関数では下位1ワード(2バイト)分のデータに書き込みを行い、上位1ワード(2バイト)分のデータには"0"を書き込みます。
ダブルワードデバイスを書き込む場合は、WriteDeviceRandom関数またはWriteDeviceBlock関数を使用してください。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。
- QモーションCPUへアクセスを行うと、エラーが返ります。
- 構造体は5階層まで定義できます。ただし、静的システムラベルは1階層目の構造体までのみ使用できます。
- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, -: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1]	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○	Short/short (16ビット値)
構造体	なし	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名.構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1]	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2]	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○ ^{*1}	Short/short (16ビット値)
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)

*1 配列および構造体全体のデータを書き込みます。

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット、ワード(符号付き)、ダブルワード(符号付き)、ワード(符号なし)、ダブルワード(符号なし)、単精度実数、倍精度実数、文字列*1、文字列[Unicode]*2*4、時間、タイマ*3、タイマ(符号なし)*3、ロングタイマ*3*4、カウンタ*3、カウンタ(符号なし)*3、ロングカウンタ*3*4、積算タイマ*3、積算タイマ(符号なし)*3、ロング積算タイマ*3*4

*1 半角32文字+NULLまで指定できます。

*2 32文字+NULLまで指定できます。

*3 システムラベルVer.2のラベルを使用してアクセスする場合は、接点/コイル/現在値のそれぞれのデバイスに対応するシステムラベルVer.2のラベルを定義する必要があります。

*4 システムラベルVer.1の場合は使用できません。

■書込み点数

書込み点数にはラベルのデータ型によって、各要素に関する下記の値の和を設定してください。

ラベルのデータ型	指定する書込み点数*1
ビット	1
ワード(符号付き)	1
ダブルワード(符号付き)	2*2
ワード(符号なし)	1
ダブルワード(符号なし)	2*2
単精度実数	2*2
倍精度実数	4
文字列	17
文字列[Unicode]	33
時間	2*2
タイマ、タイマ(符号なし)、ロングタイマ、カウンタ、カウンタ(符号なし)、ロングカウンタ、積算タイマ、積算タイマ(符号なし)、ロング積算タイマ	1
構造体	構造体メンバのデータ型に対応するワード数の合計値

*1 配列ラベルに対してラベル名のみ(要素指定なし)でアクセスする場合、書込み点数には本表の書込み点数と配列要素数との積を指定してください。

*2 ダブルワードデバイスを割り当てた基本データ型のラベルを単独で使用する場合は書込み点数は1となります。
ダブルワードデバイスを割り当てた構造体ラベルおよび複数ラベルを同時に書き込む場合の書込み点数は2となります。

デバイス指定方法

書き込むデバイス値は、下記のように設定してください。

■FXCPUのCN200以降またはダブルワードデバイス指定時

(例) CN200を含めて4点書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	ワード	D0
LABEL2	ダブルワード	CN200
LABEL3	ワード	D1

・書き込み点数: 4

・書き込み方法

```
short sData[4]
String stLabelList[3] = {"LABEL1", "LABEL2", "LABEL3"}
WriteDeviceRandom2(stLabelList, 4, sData)
```

・書き込むデバイス値

2バイト
D0
CN200のL ^{*1*2}
CN201のL ^{*1*2}
D1

*1 FXCPUのCN200以降およびダブルワードデバイスは、SetDevice2では1点で指定デバイスの下位2バイトのみ書き込みます。

*2 下位2バイトのみ書き込みます。指定デバイスのH(上位2バイト)は書き込みません。

■文字列指定時

(例) D0から17点書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	文字列	D0

・書き込み点数: 17

・書き込み方法

```
short sData[17]
WriteDeviceRandom2("LABEL", 17, sData)
```

文字列へは変換されません。

・書き込むデバイス値

2バイト
D0
D1
D2
⋮
D14
D15
D16

■ラベルで2ワード以上に相当するデータ型指定時

(例) ダブルワード，単精度実数，および時間型ラベルを指定して合計6点書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	ダブルワード	D0
LABEL2	単精度実数	D100
LABEL3	時間	D200

・書き込み点数: 6

・書き込み方法

```
String stLabelList[3] = {"LABEL1", "LABEL2", "LABEL3"}
short sData[6]
WriteDeviceRandom2(stLabelList,6, sData)
```

・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0	LABEL1
D1	
D100	LABEL2
D101	
D200	LABEL3
D201	

■倍精度実数およびワードデバイス指定時

(例) 倍精度実数，ワードデバイスを指定して合計5点書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL1	倍精度実数	D0
LABEL3	ワード	D200

・書き込み点数: 5

・書き込み方法

```
String stLabelList[2] = {"LABEL1","LABEL3"}
short sData[5]
WriteDeviceRandom2(stLabelList,5, sData)
```

・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0	LABEL1
D1	
D2	
D3	
D200	LABEL3

■配列型ラベル指定時

(例1)配列型ラベルを指定してビットデバイス(M0～M2)を3点書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ビット(0..2)	M0

・書き込み点数: 3

・書き込み方法

```
short sData[3]  
WriteDeviceRandom2("LABEL",3,sData)
```

・書き込むデバイス値

2バイト
M0
M1
M2

(例2)配列型ラベルを指定してワードデバイス(D0～D2)を3点書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ワード(0..2)	D0

・書き込み点数: 3

・書き込み方法

```
short sData[3]  
WriteDeviceRandom2("LABEL",3,sData)
```

・書き込むデバイス値

2バイト
D0
D1
D2

(例3)配列型ラベルを指定して6点(6ワード分=3ダブルワード分)書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	ダブルワード(0..2)	D0

・書き込み点数: 6

・書き込み方法

```
short sData[6]
WriteDeviceRandom2("LABEL",6, sData)
```

・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0	LABEL[0]
D1	
D2	
D3	LABEL[1]
D4	
D5	
D6	LABEL[2]
D7	
D8	

(例4)配列型ラベルを指定して文字列型で34点(D0～D33)書き込む。

・ラベル設定

ラベル名	データ型	デバイス
LABEL	文字列(0..1)	D0

・書き込み点数: 34

・書き込み方法

```
short sData[34]
WriteDeviceRandom2("LABEL",34, sData)
```

文字列型の文字変換は行われませんのでユーザプログラム内での変換が必要です。

・書き込むデバイス値

index	2バイト	対応ラベル
[0]	D0	LABEL[0]
[1]	D1	
⋮	⋮	
[16]	D16	
[17]	D17	LABEL[1]
[18]	D18	
⋮	⋮	
[33]	D33	

■構造体型ラベル指定時

(例1) 構造体型ラベルを指定して書き込む。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ワード
	LABEL3	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT.LABEL1	M0
STRUCT.LABEL2	D0
STRUCT.LABEL3	W0

ラベル名のみでアクセスする場合

・書き込み点数: 3(構造体各メンバの書き込み点数の合計が3のため)

・書き込み方法

```
short sData[3]  
WriteDeviceRandom2("STRUCT",3,sData)
```

・書き込むデバイス値

2バイト
M0
D0
W0

ラベル名+メンバ名でアクセスする場合

・書き込み点数: 2(構造体の書き込み点数1のメンバを2つ指定するため)

・書き込み方法

```
String stLabelList[2] = {"STRUCT.LABEL1","STRUCT.LABEL2"}  
short sData[2]  
WriteDeviceRandom2(stLabelList,2,sData)
```

・書き込むデバイス値

2バイト
M0
D0

(例2) 構造体型ラベルを指定して書き込む。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ダブルワード
	LABEL3	倍精度実数
	LABEL4	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT.LABEL1	D0.0
STRUCT.LABEL2	D1
STRUCT.LABEL3	D3
STRUCT.LABEL4	D7

・書き込み点数: 8(構造体各メンバの書き込み点数の合計が8のため)

・書き込み方法

```
short sData[8]  
WriteDeviceRandom2("STRUCT",8,sData)
```

・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0.0	STRUCT.LABEL1
D1	
D2	
D3	STRUCT.LABEL2
D4	
D5	
D6	
D7	STRUCT.LABEL3

■構造体と配列を組み合わせたラベル指定時

(例) 構造体型の配列、および構造体配列型ラベルを指定して書き込む。

・構造体設定

構造体名	メンバ名	データ型
STRUCT	LABEL1	ビット
	LABEL2	ワード(0..1)
	LABEL3	ダブルワード
	LABEL4	文字列
	LABEL5	ワード

・ラベル設定

ラベル名	デバイス
STRUCT[0].LABEL1	M0
STRUCT[0].LABEL2[0]	D0
STRUCT[0].LABEL2[1]	D1
STRUCT[0].LABEL3	D2
STRUCT[0].LABEL4	D4
STRUCT[0].LABEL5	D21
STRUCT[1].LABEL1	M1
STRUCT[1].LABEL2[0]	D22
STRUCT[1].LABEL2[1]	D23
STRUCT[1].LABEL3	D24
STRUCT[1].LABEL4	D26
STRUCT[1].LABEL5	D43

・書き込み点数: 46(構造体各メンバの書き込み点数の合計が23で、要素数2の配列のため)

・書き込み方法

```
short sData[46]
WriteDeviceRandom2("STRUCT",46,sData)
または
String stLabelList[2] = {"STRUCT[0]","STRUCT[1]"}
WriteDeviceRandom2(stLabelList,46,sData)
```

・書き込むデバイス値

index	上位2バイト	下位2バイト	対応ラベル
[0]	使用しません。(0が格納されます。)	M0	STRUCT[0].LABEL1
[1]		D0	STRUCT[0].LABEL2[0]
[2]		D1	STRUCT[0].LABEL2[1]
[3]		D2	STRUCT[0].LABEL3
[4]		D3	
[5]	⋮	D4	STRUCT[0].LABEL4
[21]		D20	
[22]		D21	STRUCT[0].LABEL5
[23]		M1	STRUCT[1].LABEL1
[24]		D22	STRUCT[1].LABEL2[0]
[25]	⋮	D23	STRUCT[1].LABEL2[1]
[26]		D24	STRUCT[1].LABEL3
[27]		D25	
[28]		D26	STRUCT[1].LABEL4
[44]		D42	
[45]		D43	STRUCT[1].LABEL5

SetDevice2(デバイスデータの設定)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

2バイトデータでデバイス1点の設定を行います。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.SetDevice2(szLabel, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Short	sData	書き込むデバイス値	Input

■Visual C#

iRet = object.SetDevice2(ref szLabel, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
short	sData	書き込むデバイス値	Input

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabelで指定したデバイス1点に対して、書き込むデバイス値sDataの値を書き込みます。
- ビットデバイス設定時は、書き込むデバイス値sDataの最下位のビットが有効となります。

Point

- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、書き込みません。
- FXCPUのCN200以降などの1点で書き込みできるダブルワードデバイス指定時以外でダブルワードデバイスを指定した場合、本関数では下位1ワード(2バイト)分のデータに書き込みます。ダブルワードデバイスを書き込む場合は、WriteDeviceRandom関数または WriteDeviceBlock関数を使用してください。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。
- RnSFCPUのセーフティモードで安全デバイスに対して実行した場合は、エラーコード"0x010A42A5"(セーフティモードでは実施できない操作を行った)が返されます。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, —: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○	Short/short (16ビット値)
構造体	なし	システムラベル名	×	—
		システムラベル名.構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	×	—
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット, ワード(符号付き), ダブルワード(符号付き)*¹, ワード(符号なし), ダブルワード(符号なし)*¹, 単精度実数*¹, 倍精度実数*¹, 文字列, 文字列[Unicode]*¹*², 時間*¹, タイマ, タイマ(符号なし), ロングタイマ*², カウンタ, カウンタ(符号なし), ロングカウンタ*², 積算タイマ, 積算タイマ(符号なし), ロング積算タイマ*²

*¹ 先頭デバイスの下位2バイトのみ書き込みます。

2ワード分以上のデバイスを書き込みたい場合はWriteDeviceRandom関数を使用してください。

*² システムラベルVer.1の場合は使用できません。

デバイス指定方法

書き込むデバイス値は、下記のように設定してください。

■ビットデバイス指定時

(例) M0を書き込む。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	ビット	M0

・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
M0*1	LABEL

*1 書き込むデバイスは「M0」1点のみを対象とし、デバイス値は設定する2バイトデータの最下位ビットが書き込む値となります。

■ワードデバイス指定時

(例) D0を書き込む。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	ワード	D0

・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0	LABEL

■FXCPUのCN200以降指定時(1点で2ワード書き込みできるダブルワードデバイスの場合)

(例) CN200を書き込む。

FXCPUのCN200以降は、4バイト書き込みます。

下位2バイトのみ値を設定できます。

指定デバイスのH(上位2バイト)には"0"が書き込まれます。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	ダブルワード	CN200

・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
CN200のL	LABEL

■ダブルワード指定時(1点で2ワード書き込みできないデバイスの場合)

(例) D0を指定して書き込む。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABELW	ダブルワード	D0

・書き込み点数: 1

・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0*1	LABELW

*1 下位から順に2バイト書き込みます。

■ラベルで2ワード以上に相当するデータ型指定時

(例) 文字列型ラベルを指定して書き込む。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABELW	文字列	D0

・書き込むデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0*1	LABELW

*1 下位から順に2バイト書き込みます。

GetDevice2(デバイスデータの取得)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 32ビット用: DotUtilType
- 64ビット用: DotUtilType64

機能

2バイトデータでデバイス1点のデータを取得します。

書式

■Visual Basic .NET

IRet = object.GetDevice2(szLabel, sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
Integer	IRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
Short	sData	読み出したデバイス値	Output

■Visual C#

iRet = object.GetDevice2(ref szLabel, ref sData)

データ型	引数	内容	Input/Output
int	iRet	戻り値	Output
String	szLabel	ラベル名	Input
short	sData	読み出したデバイス値	Output

戻り値

正常終了: 0を返します。

異常終了: 0以外を返します。(607ページ エラーコード)

説明

- ラベル名szLabelで指定したデバイス1点のデータを、読み出したデバイス値sDataに格納します。

Point

- ラベル名に対応するデバイスが存在しない場合はエラーとなり、読み出せません。
- 読み出したデバイス値には、2バイトのメモリエリアを用意してください。
メモリエリアがない場合は、アプリケーションエラーなどの重大な現象が発生するおそれがあります。
- 2ワード分以上のラベルを指定した場合、本関数では下位 1ワード (2バイト) 分のデータのみ格納されます。(エラーは発生しません。)2ワード分以上のラベルの読出しを行う場合は、ReadDeviceRandom関数または ReadDeviceBlock関数を使用してください。
- ビットデバイスの桁指定およびインデックス修飾は、使用できません。

ラベル指定方法

ラベルの指定方法を、下記に示します。

システムラベル名には下記の型分類、配列要素、ラベルのデータ型を指定できます。

プログラム内でシステムラベル名を指定する場合、下記の書式を使用してください。

○: 指定可, ×: 指定不可, —: 該当なし

ラベル管理ユーティリティ上でのラベル定義		プログラム内でのラベル指定方法		
型分類	配列要素	ラベル名の書式	指定可否	データ型
基本データ	なし	システムラベル名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	○	Short/short (16ビット値)
構造体	なし	システムラベル名	×	—
		システムラベル名.構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(1次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1]	×	—
		システムラベル名[n1].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(2次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2]	×	—
		システムラベル名[n1][n2].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)
	要素数(3次元)	システムラベル名	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3]	×	—
		システムラベル名[n1][n2][n3].構造体メンバ名	○	Short/short (16ビット値)

■データ型

ラベルには、下記のデータ型が指定できます。

ビット, ワード(符号付き), ダブルワード(符号付き)*¹, ワード(符号なし), ダブルワード(符号なし)*¹, 単精度実数*¹, 倍精度実数*¹, 文字列*¹, 文字列[Unicode]*¹*², 時間*¹, タイマ, タイマ(符号なし), ロングタイマ*², カウンタ, カウンタ(符号なし), ロングカウンタ*², 積算タイマ, 積算タイマ(符号なし), ロング積算タイマ*²

*¹ 先頭デバイスの下位2バイトのみ読み出せます。

2ワード以上のデバイスを読み出したい場合はReadDeviceRandom関数を使用してください。

*² システムラベルVer.1の場合は使用できません。

デバイス指定方法

読み出したデバイス値は、下記のように格納されます。

■ビットデバイス指定時

(例) M0を読み出す。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	ビット	M0

・読み出したデバイス値

2バイト	対応ラベル
M0*1	LABEL

*1 読み出すデバイスは「M0」1点のみを対象とし、デバイス値は「0」または「1」が格納されます。

■ワードデバイス指定時

(例) D0を読み出す。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	ワード	D0

・読み出したデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0	LABEL

■ラベルで2ワード以上に相当するデータ型指定時

(例) 文字列型ラベルを指定して読み出す。

・ラベル設定

szLabel	ラベル名	データ型	デバイス
[0]	LABEL	文字列	D0

・読み出したデバイス値

2バイト	対応ラベル
D0*1	LABEL

*1 先頭デバイスに下位2バイトのみ読み出します。

Dispose(メモリの解放)

使用可能コントロール

下記のコントロールで使用可能です。

- 64ビット用: DotUtilType64

機能

64ビット用のコントロール(DotUtilType64_Server.exe)を終了します。

書式

■Visual Basic .NET

object.Dispose()

■Visual C#

object.Dispose()

戻り値

なし

説明

- 64ビットアクセスのために使用しているコントロール(DotUtilType64_Server.exe)を終了します。

Point

DotUtilTypeのインスタンスを破棄する前に必ず実行してください。実行しない場合、DotUtilType64_Server.exeを終了することができません。

12 サンプルプログラム

MX Componentインストール時に登録されるサンプルプログラムについて説明します。

注意事項

- サンプルプログラムは、インストール時に(インストールフォルダ)\Samplesに格納されます。サンプルプログラムを実行する際は、任意のフォルダにコピーしてから使用してください。VC++のサンプルを使用する場合は、include ファイルもコピーしてください。
- サンプルプログラムはユーザプログラムを作成する際に、参考にしていただくために添付しています。これらは、お客様の責任においてご使用ください。

■サンプルプログラムをビルドしたときのエラーについて

- 「System.Runtime.InteropServices.COMExceptionはハンドルされませんでした。」というエラーが発生した場合、MX Componentを使用したプログラムを作成するときのターゲットCPUに"x86"(32ビット)を指定してください。
- 64ビットプログラムからMX Componentを使用する場合、64ビット用コントロールを使用してください。

サンプルプログラム一覧

MX Componentインストール時に(インストールフォルダ)\Samples内に登録されるサンプルプログラム一覧を下記に示します。

■対応言語: Visual Basic.NET

フォルダ名	サンプルプログラム名	対象コントロール	参照
Vb.Net\Act	Visual Studio 2019: Act_2019.sln Visual Studio 2022: Act_2022.sln	ActUtilType ActProgType ActSupportMsg ActUtilType64 ActProgType64 ActSupportMsg64	595ページ Act_2019.sln, Dot_2019.sln
Vb.Net\ActDataLogging	Visual Studio 2019: ActDataLogging_2019.sln Visual Studio 2022: ActDataLogging_2022.sln	ActUtilDataLogging ActProgDataLogging ActUtilDataLogging64 ActProgDataLogging64	598ページ ActDataLogging_2019.sln
Vb.Net\Dot	Visual Studio 2019: Dot_2019.sln Visual Studio 2022: Dot_2022.sln	DotUtilType DotUtilType64	595ページ Act_2019.sln, Dot_2019.sln

■対応言語: Visual C#

フォルダ名	サンプルプログラム名	対象コントロール	参照
Vcs.NET\Act	Visual Studio 2019: Act_2019.sln Visual Studio 2022: Act_2022.sln	ActUtilType ActProgType ActSupportMsg ActUtilType64 ActProgType64 ActSupportMsg64	595ページ Act_2019.sln, Dot_2019.sln
Vcs.NET\ActDataLogging	Visual Studio 2019: ActDataLogging_2019.sln Visual Studio 2022: ActDataLogging_2022.sln	ActUtilDataLogging ActProgDataLogging ActUtilDataLogging64 ActProgDataLogging64	598ページ ActDataLogging_2019.sln
Vcs.NET\Dot	Visual Studio 2019: Dot_2019.sln Visual Studio 2022: Dot_2022.sln	DotUtilType DotUtilType64	595ページ Act_2019.sln, Dot_2019.sln

■対応言語: Visual C++

フォルダ名	サンプルプログラム名	対象コントロール	参照
Vc\Act	Visual Studio 2019: Act_2019.sln Visual Studio 2022: Act_2022.sln	ActUtilType ActProgType ActSupportMsg ActUtilType64 ActProgType64 ActSupportMsg64	595ページ Act_2019.sln, Dot_2019.sln
Vc\ActDataLogging	Visual Studio 2019: ActDataLogging_2019.sln Visual Studio 2022: ActDataLogging_2022.sln	ActUtilDataLogging ActProgDataLogging ActUtilDataLogging64 ActProgDataLogging64	598ページ ActDataLogging_2019.sln

■対応言語: VBA(Access)

フォルダ名	サンプルプログラム名	対象コントロール	参照
VBA\Access	EarlyBind用: ActTest_EarlyBind.accdb ^{*1} LateBind用: ActTest_LateBind.accdb ^{*2}	ActUtilType ActProgType ActSupportMsg	599ページ Access用 (ActTest_EarlyBind.accdb, ActTest_LateBind.accdb, ActTest64.accdb)
	LateBind用: ActTest64.accdb ^{*2}	ActUtilType64 ActProgType64 ActSupportMsg64	599ページ Access用 (ActTest_EarlyBind.accdb, ActTest_LateBind.accdb, ActTest64.accdb)

*1 フォームに貼り付けて使用する場合のサンプルです。

*2 オブジェクトを生成して使用する場合のサンプルです。

■対応言語: VBA(Excel)

フォルダ名	サンプルプログラム名	対象コントロール	参照
VBA\Excel	EarlyBind用およびLateBind用: ActUtilType.xlsm ^{*1*2}	ActUtilType ActSupportMsg	603ページ Excel用 (ActUtilType.xlsm, ActUtilType64.xlsm, ActProgType.xlsm, ActProgType64.xlsm)
	EarlyBind用およびLateBind用: ActProgType.xlsm ^{*1*2}	ActProgType	
	LateBind用: ActUtilType64.xlsm ^{*2}	ActUtilType64 ActSupportMsg64	603ページ Excel用 (ActUtilType.xlsm, ActUtilType64.xlsm, ActProgType.xlsm, ActProgType64.xlsm)
	LateBind用: ActProgType64.xlsm ^{*2}	ActProgType64	

*1 フォームに貼り付けて使用する場合のサンプルです。

*2 オブジェクトを生成して使用する場合のサンプルです。

12.1 Visual Basic.NET, Visual C#, Visual C++

Act_2019.sln, Dot_2019.sln

画面表示

12

表示内容

フレーム	選択/入力項目	内容
Control	ActUtilType, ActProgType ^{*1}	使用するコントロールを選択します。
	LogicalStationNumber	通信設定ユーティリティにて通信設定を行った論理局番を入力します。
	Password	パスワードが必要なCPUを使用している場合、パスワードを入力します。
	[Open]ボタン	通信回線をオープンします。
	[Close]ボタン	通信回線をクローズします。
Get/Set	DeviceName/LabelName ^{*2}	デバイス取得/設定を行うデバイス名/ラベル名を入力します。
	DeviceData	デバイス設定を行うデバイス値を入力します。
	[GetDevice2]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄に入力されたデータでGetDevice2を実行し、デバイスデータをCPUユニットから取得します。 ^{*3}
	[SetDevice2]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄および"DeviceData"欄に入力されたデータでSetDevice2を実行し、デバイスデータをCPUユニットに設定します。
	[GetDevice]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄に入力されたデータでGetDeviceを実行し、デバイスデータをCPUユニットから取得します。 ^{*3}
	[SetDevice]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄および"DeviceData"欄に入力されたデータでSetDeviceを実行し、デバイスデータをCPUユニットに設定します。

フレーム	選択/入力項目	内容
Random Read/Write	DeviceName/LabelName ^{*2}	ランダム読出し/書込みを行うデバイス名/ラベル名を入力します。
	DeviceSize	ランダム読出し/書込みを行うデバイスの点数を入力します。
	DeviceData	ランダム書込みを行うデバイス値を入力します。
	[ReadDeviceRandom2]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄および"DeviceSize"欄に入力されたデータでReadDeviceRandom2を実行し、デバイスデータをCPUユニットから取得します。 ^{*3}
	[WriteDeviceRandom2]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄、"DeviceSize"欄および"DeviceData"欄に入力されたデータでWriteDeviceRandom2を実行し、デバイスデータをCPUユニットに設定します。
	[ReadDeviceRandom]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄および"DeviceSize"欄に入力されたデータでReadDeviceRandomを実行し、デバイスデータをCPUユニットから取得します。 ^{*3}
	[WriteDeviceRandom]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄、"DeviceSize"欄および"DeviceData"欄に入力されたデータでWriteDeviceRandomを実行し、デバイスデータをCPUユニットに設定します。
Block Read/Write	DeviceName/LabelName ^{*2}	一括読出し/書込みを行うデバイス名/ラベル名を入力します。
	DeviceSize	一括読出し/書込みを行うデバイスの点数を入力します。
	DeviceData	一括書込みを行うデバイス値を入力します。
	[ReadDeviceBlock2]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄および"DeviceSize"欄に入力されたデータでReadDeviceBlock2を実行し、デバイスデータをCPUユニットから取得します。 ^{*3}
	[WriteDeviceBlock2]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄、"DeviceSize"欄および"DeviceData"欄に入力されたデータでWriteDeviceBlock2を実行し、デバイスデータをCPUユニットに設定します。
	[ReadDeviceBlock]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄および"DeviceSize"欄に入力されたデータでReadDeviceBlockを実行し、デバイスデータをCPUユニットから取得します。 ^{*3}
	[WriteDeviceBlock]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄、"DeviceSize"欄および"DeviceData"欄に入力されたデータでWriteDeviceBlockを実行し、デバイスデータをCPUユニットに設定します。
Status Entry/Free ^{*4}	DeviceName/LabelName ^{*2}	デバイス状態監視を行うデバイス名/ラベル名を入力します。
	DeviceSize	デバイス状態監視のデバイス点数を入力します。
	MonitorCycle	デバイス状態監視の状態監視間隔時間を入力します。
	DeviceData	デバイス監視の登録デバイス値を入力します。
	[EntryDeviceStatus]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄、"DeviceSize"欄、"MonitorCycle"欄、および"DeviceData"欄に入力されたデータでEntryDeviceStatusを実行し、デバイス監視登録を行います。
	[FreeDeviceStatus]ボタン	EntryDeviceStatusにて登録した、状態監視を行うデバイスを解除します。
Output	ReturnCode	各メソッド(関数)の実行結果を表示します。
	Data	読み出したデバイス値を表示します。
Message	Code	メッセージコードを入力します。
	[GetErrorMessage]ボタン	同フレーム内の"Code"欄に入力されたデータでGetErrorMessageを実行し、メッセージを取得します。 ^{*3}
CpuType	[GetCpuType]ボタン	GetCpuTypeを実行し、CPUユニットから形名文字列と形名コード(16進)を取得します。 ^{*3}
Status	Status	設定するリモートコントロールを入力します。
	[SetCpuStatus]ボタン	同フレーム内の"Status"欄に入力されたデータでSetCpuStatusを実行し、リモートコントロールをCPUユニットに設定します。
Clock	Year	CPUユニットに設定する年を入力します。
	Month	CPUユニットに設定する月を入力します。
	Day	CPUユニットに設定する日を入力します。
	Week	CPUユニットに設定する曜日を入力します。
	Hour	CPUユニットに設定する時を入力します。
	Minute	CPUユニットに設定する分を入力します。
	Second	CPUユニットに設定する秒を入力します。
	[GetClockData]ボタン	CPUユニットから時計データを取得します。 ^{*3}
	[SetClockData]ボタン	同フレーム内の"Year"欄、"Month"欄、"Day"欄、"Week"欄、"Hour"欄、"Minute"欄および"Second"欄に入力されたデータで、CPUユニットに時計データを設定します。

フレーム	選択/入力項目	内容
Buffer Read/Write	I/OAddress	バッファメモリ読出し/書込みを行うI/Oアドレスを入力します。
	BufferAddress	バッファメモリ読出し/書込みを行うアドレスを入力します。
	BufferSize	バッファメモリ読出し/書込みを行うサイズを入力します。
	BufferData	バッファメモリ読出し/書込みを行うデータを入力します。
	[ReadBuffer]ボタン	同フレーム内の"I/OAddress"欄, "BufferAddress"欄および"BufferSize"欄に入力されたデータでReadBufferを実行し, デバイスデータをCPUユニットから取得します。 ^{*3}
	[WriteBuffer]ボタン	同フレーム内の"I/OAddress"欄, "BufferAddress"欄, "BufferSize"欄および"BufferData"欄に入力されたデータでWriteBufferを実行し, デバイスデータをCPUユニットに設定します。
Sample Using Timer	DeviceName/LabelName ^{*2}	読み出しを行うデバイス名/ラベル名を入力します。
	[Start]ボタン	同フレーム内の"DeviceName"("LabelName")欄に入力されたデータで, ReadDeviceRandomを実行し, デバイスデータをCPUユニットから取得します。 ^{*3} ReadDeviceRandomは, [Stop]ボタンをクリックするまで5秒に1度実行されます。
	[Stop]ボタン	同フレーム内の[Start]ボタンで開始された処理を終了します。

*1 Act_2019.slnのみ表示されます。Dot_2019.slnでは表示されません。

*2 Act_2019.slnの場合はDeviceName, Dot_2019.slnの場合はLabelNameが表示されます。

*3 取得結果は"Output"フレームの"Data"欄に表示されます。

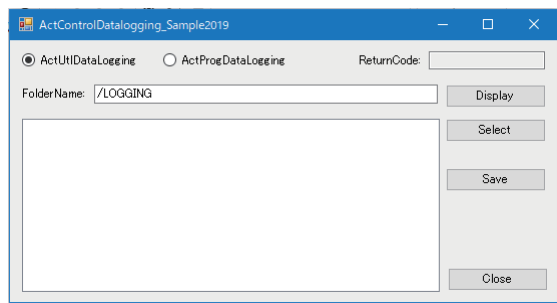
*4 Visual C++のサンプルプログラムでは表示されません。

操作手順

1. "Control"項目で使用するコントロール(ActUtilTypeまたはActProgType)を選択します。
2. "LogicalStationNumber"欄に論理局番を入力します。
3. [Open]ボタンをクリックし, 通信回線をオープンします。
4. 各項目でメソッド(関数)の引数となるデータを入力後, メソッド(関数)のボタンをクリックし, 関数を実行します。
"Output"項目の"Data"欄に読み出したデバイス値を, "ReturnCode"欄に各メソッド(関数)の実行結果を表示します。
5. "Control"項目で[Close]ボタンをクリックし, 通信回線をクローズします。

ActDataLogging_2019.sln

画面表示



表示内容

項目	内容
ActUtilDataLogging / ActProgDataLogging	使用するコントロールを選択します。
ReturnCode	各メソッドの実行結果を表示します。
FolderName	アクセスするフォルダ名を入力します。
[Display]ボタン	"ファイルリスト"欄に表示されている内容を更新します。
[Select]ボタン	"ファイルリスト"欄で選択したフォルダ名を"FolderName"に反映します。ファイル名を選択している場合、ロギングファイルをパソコンに保存します。
[Save]ボタン	"名前を付けて保存"画面を表示します。"ファイルの種類"は、テキストファイル(*.txt)のみ選択できます。
[Close]ボタン	サンプルプログラムを終了します。
ファイルリスト	"フォルダ名"欄に指定したパス内のファイル/フォルダを一覧で表示します。フォルダの場合、フォルダ名の先頭はスラッシュ「/」で始まります。

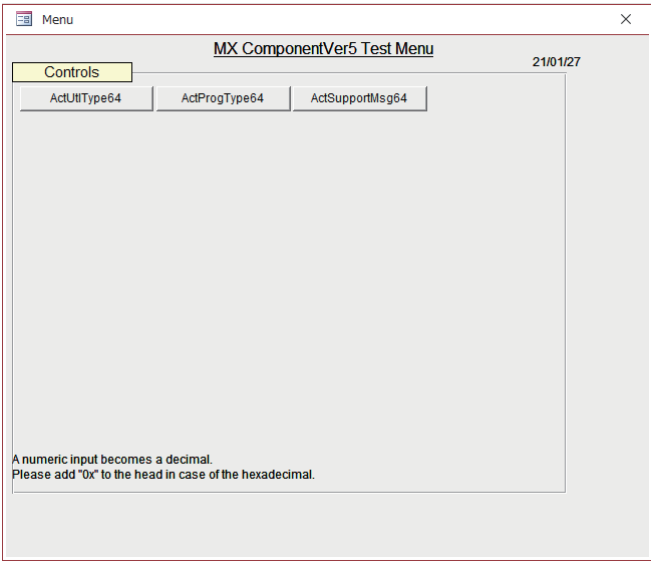
12.2 VBA

Access, Excel用のVBAサンプルプログラムについて説明します。

Access用(ActTest_EarlyBind.accdb, ActTest_LateBind.accdb, ActTest64.accdb)

メニュー画面

画面表示



表示内容

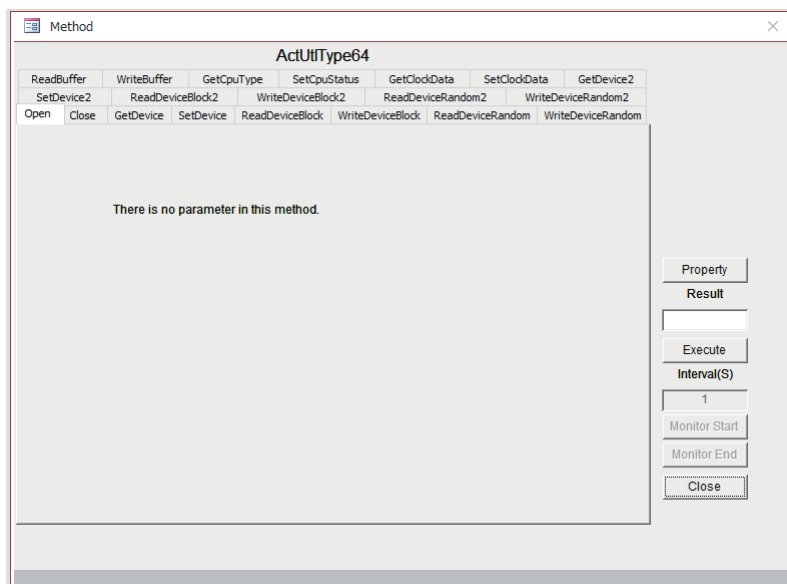
項目名	内容
[ActUtilType]ボタン*1	ActUtilTypeコントロール用(ActUtilType64コントロール用)のMethod画面を開きます。
[ActUtilType64]ボタン*2	
[ActProgType]ボタン*1	ActProgTypeコントロール用(ActProgType64コントロール用)のMethod画面を開きます。
[ActProgType64]ボタン*2	
[ActSupportMsg]ボタン*1	ActSupportMsgコントロール用(ActSupportMsg64コントロール用)のMethod画面を開きます。
[ActSupportMsg64]ボタン*2	

*1 ActTest_EarlyBind.accdb, ActTest_LateBind.accdb使用時

*2 ActTest64.accdb使用時

Method画面

画面表示



表示内容

タブ名	項目	内容
—	[Property]ボタン	プロパティを設定します。
—	Result	各メソッド(関数)の実行結果を表示します。
—	[Execute]ボタン	選択中のタブのメソッド(関数)を実行します。
—	Interval(S)	モニタする時間間隔(秒)が表示されます。
—	[Monitor Start]ボタン	ReadDeviceBlock/ReadDeviceBlock2のモニタを開始します。"Interval(S)"欄の時間が経過することにメソッド(関数)を実行し、データを取得します。
—	[Monitor End]ボタン	ReadDeviceBlock/ReadDeviceBlock2のモニタを終了します。
—	[Close]ボタン	メニュー画面に戻ります。
Open	—	—
Close	—	—
GetDevice, GetDevice2	Device Name	デバイス取得を行うデバイス名を入力します。
	Device Data	取得したデバイス値を表示します。
SetDevice, SetDevice2	Device Name	デバイス設定を行うデバイス名を入力します。
	Device Data	デバイス設定を行うデバイス値を入力します。
ReadDeviceRandom, ReadDeviceRandom2	Device Name	ランダム読出しを行うデバイス名を入力します。
	Device Points	ランダム読出しを行うデバイスの点数を入力します。
	Data file name	読み出したデータを保存する場合、保存先のバイナリファイル名を指定します。
	Dump	チェックボックスにチェックが入っている場合、読み出したデータを表示します。
WriteDeviceRandom, WriteDeviceRandom2	Device Name	ランダム書込みを行うデバイス名を入力します。
	Device Points	ランダム書込みを行うデバイスの点数を入力します。
	Written device value	ランダム書込みを行うデバイス値を入力します。指定データ以外を選択することで、データの自動入力が可能です。
ReadDeviceBlock, ReadDeviceBlock2	Device Name	一括読出しを行うデバイス名を入力します。
	Device Points	一括読出しを行うデバイスの点数を入力します。
	Data file name	読み出したデータを保存する場合、保存先のバイナリファイル名を指定します。
	Dump	チェックボックスにチェックが入っている場合、読み出したデータを表示します。

タブ名	項目	内容
WriteDeviceBlock, WriteDeviceBlock2	Device Name	一括書き込みを行うデバイス名を入力します。
	Device Points	一括書き込みを行うデバイスの点数を入力します。
	Written device value	ランダム書き込みを行うデバイス値を入力します。指定データ以外を選択することで、データの自動入力が可能です。
EntryDeviceStatus ^{*1}	Device Name	デバイス状態監視を行うデバイス名を入力します。
	Points	デバイス状態監視のデバイス点数を入力します。
	Interval	デバイス状態監視の状態監視間隔時間を入力します。
	Device value	デバイス監視の登録デバイス値を入力します。
FreeDeviceStatus ^{*1}	—	—
GetCpuType	PLC CPU type	取得したCPU形名を表示します。
	PLC CPU type code	取得したCPU固有コードを表示します。
SetCpuStatus	Operation	設定するリモートコントロールを入力します。
GetClockData, SetClockData	Year	CPUユニットに設定する年を入力/表示します。
	Month	CPUユニットに設定する月を入力/表示します。
	Day	CPUユニットに設定する日を入力/表示します。
	WeekDay	CPUユニットに設定する曜日を入力/表示します。
	Hour	CPUユニットに設定する時を入力/表示します。
	Minute	CPUユニットに設定する分を入力/表示します。
	Second	CPUユニットに設定する秒を入力/表示します。
ReadBuffer	First I/O address	バッファメモリ読出しを行うI/Oアドレスを入力します。
	Buffer memory address	バッファメモリ読出しを行うアドレスを入力します。
	Read size	バッファメモリ読出しを行うサイズを入力します。
	Data file name	読み出したデータを保存する場合、保存先のバイナリファイル名を指定します。
	Dump	チェックボックスにチェックが入っている場合、読み出したデータを表示します。
WriteBuffer	First I/O address	バッファメモリ書き込みを行うI/Oアドレスを入力します。
	Buffer memory address	バッファメモリ書き込みを行うアドレスを入力します。
	Write size	バッファメモリ書き込みを行うサイズを入力します。
	Values written to buffer memory	バッファメモリ書き込みを行うデバイス値を入力します。指定データ以外を選択することで、データの自動入力が可能です。

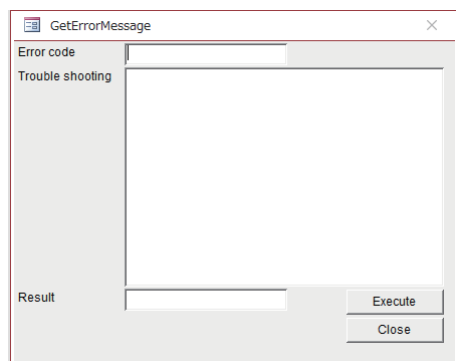
^{*1} ActTest_EarlyBind.accdb使用時にのみ表示されます。

操作手順

1. [Property]ボタンをクリックし、プロパティを設定します。
2. [Open]タブを選択し、[Execute]ボタンをクリックし、通信回線をオープンします。
3. 実行するメソッド(関数)のタブを選択し、引数となるデータを入力後、[Execute]ボタンをクリックします。
"Dump"にチェックが入っている場合は画面下部に読み出したデバイス値を表示します。
"Result"欄には各メソッド(関数)の実行結果を表示します。
4. [Close]タブを選択し、[Execute]ボタンをクリックし、通信回線をクローズします。

GetErrorMessage画面

画面表示

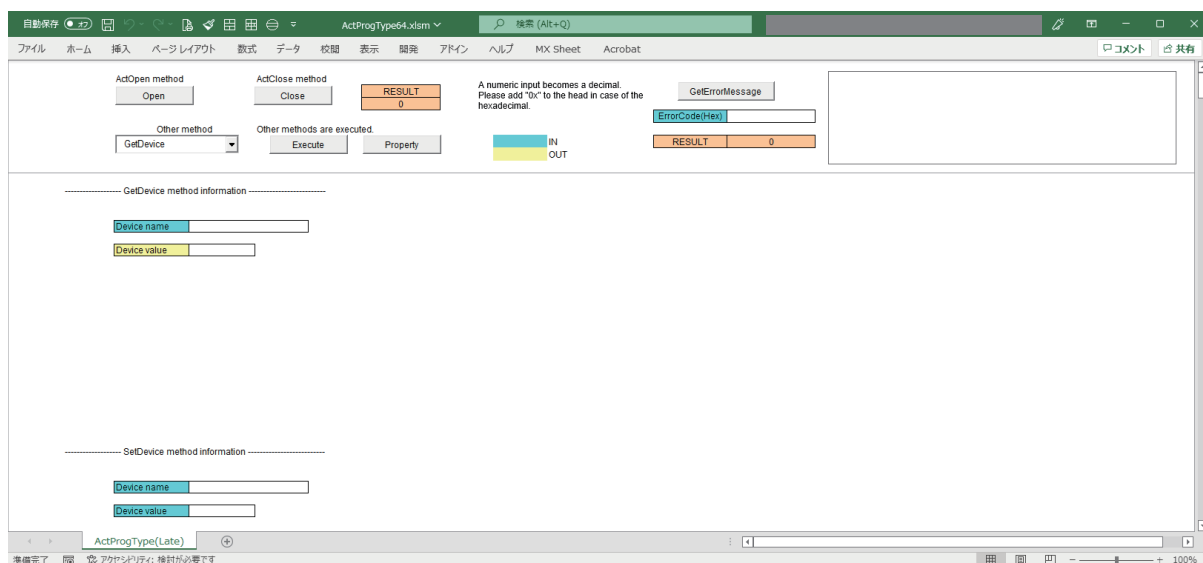


表示内容

項目名	内容
Error code	メッセージコードを入力します。
Trouble shooting	取得したメッセージを表示します。
Result	GetErrorMessageの実行結果を表示します。
[Execute]ボタン	"Error code"欄に入力されたデータでGetErrorMessageを実行します。
[Close]]ボタン	メニュー画面に戻ります。

Excel用(ActUtilType.xlsm, ActUtilType64.xlsm, ActProgType.xlsm, ActProgType64.xlsm)

画面表示



表示内容

メソッド(関数)	項目	内容
Open	[Open]ボタン	通信回線をオープンします。
Close	[Close]ボタン	通信回線をクローズします。
—	RESULT	各メソッド(関数)の実行結果を表示します。
—	Other method	コンボボックスで選択したメソッド(関数)の位置までセルが移動します。
—	[Execute]ボタン	コンボボックスで選択中のメソッド(関数)を、入力データをもとに実行します。
—	[Property]ボタン	ActUtilType/ActProgTypeのプロパティ値を設定します。
—	Result	各メソッド(関数)の実行結果を表示します。
GetDevice, GetDevice2	Device name	デバイス取得を行うデバイス名を入力します。
	Device value	取得したデバイス値を表示します。
SetDevice, SetDevice2	Device name	デバイス設定を行うデバイス名を入力します。
	Device value	デバイス設定を行うデバイス値を入力します。
ReadDeviceRandom, ReadDeviceRandom2	Device name	ランダム読出しを行うデバイス名を入力します。
	Points	ランダム読出しを行うデバイスの点数を入力します。
	Data file name	読み出したデータを保存する場合、保存先のバイナリファイル名を指定します。
	Dump	チェックボックスにチェックが入っている場合、読み出したデータを表示します。
WriteDeviceRandom, WriteDeviceRandom2	Device name	ランダム書込みを行うデバイス名を入力します。
	Points	ランダム書込みを行うデバイスの点数を入力します。
	Device value	ランダム書込みを行うデバイス値を入力します。指定データ以外を選択することで、データの自動入力が可能です。

メソッド(関数)	項目	内容
ReadDeviceBlock, ReadDeviceBlock2	Device name	一括読出しを行うデバイス名を入力します。
	Points	一括読出しを行うデバイスの点数を入力します。
	Data file name	読み出したデータを保存する場合、保存先のバイナリファイル名を指定します。
	Dump	チェックボックスにチェックが入っている場合、読み出したデータを表示します。
	Interval(sec)	モニタする時間間隔(秒)を入力します。
	Start monitor	メソッド(関数)のモニタを開始します。"モニタ間隔(s)"欄の時間が経過するとメソッド(関数)を実行し、データを取得します。
WriteDeviceBlock, WriteDeviceBlock2	Device name	一括書き込みを行うデバイス名を入力します。
	Points	一括書き込みを行うデバイスの点数を入力します。
	Device value	ランダム書き込みを行うデバイス値を入力します。指定データ以外を選択することで、データの自動入力が可能です。
EntryDeviceStatus* ¹	Device name	デバイス状態監視を行うデバイス名を入力します。
	Points	デバイス状態監視のデバイス点数を入力します。
	Interval(sec)	デバイス状態監視の状態監視間隔時間(秒)を入力します。
	Device value	デバイス監視の登録デバイス値を入力します。
OnDeviceStatus* ¹	Device and value to which condition consists.	OnDeviceStatusイベントの結果を表示します。
FreeDeviceStatus* ¹	—	—
GetCpuType	CPU type	取得したCPU形名を表示します。
	CPU type code	取得したCPU固有コードを表示します。
SetCpuStatus	Operation	設定するリモートコントロールを入力します。
GetClockData, SetClockData	Year	CPUユニットに設定する年を入力/表示します。
	Month	CPUユニットに設定する月を入力/表示します。
	Day	CPUユニットに設定する日を入力/表示します。
	Day-of-week	CPUユニットに設定する曜日を入力/表示します。
	Hour	CPUユニットに設定する時を入力/表示します。
	Minute	CPUユニットに設定する分を入力/表示します。
	Second	CPUユニットに設定する秒を入力/表示します。
ReadBuffer	First I/O address	バッファメモリ読出しを行うI/Oアドレスを入力します。
	Buffer memory address	バッファメモリ読出しを行うアドレスを入力します。
	Read size	バッファメモリ読出しを行うサイズを入力します。
	Data file name	読み出したデータを保存する場合、保存先のバイナリファイル名を指定します。
	Dump	チェックボックスにチェックが入っている場合、読み出したデータを表示します。
WriteBuffer	First I/O address	バッファメモリ書き込みを行うI/Oアドレスを入力します。
	Buffer memory address	バッファメモリ書き込みを行うアドレスを入力します。
	Write size	バッファメモリ書き込みを行うサイズを入力します。
	Device value	バッファメモリ書き込みを行うデバイス値を入力します。指定データ以外を選択することで、データの自動入力が可能です。
GetErrorMessage	[GetErrorMessage]ボタン	"ErrorCode(Hex)"に入力されたデータをもとに、GetErrorMessageを実行します。取得したメッセージをボタンの右のテキストに出力します。
	ErrorCode(Hex)	メッセージコードを入力します。
	RESULT	GetErrorMessageの実行結果を表示します。

*1 フォームに貼り付けて使用する場合(EarlyBind)にのみ表示されます。

Point

フォームに貼り付けて使用する場合(EarlyBind)とオブジェクトを生成して使用する場合(LateBind)は、Excelの[アドイン]タブ⇒[Select the binding]⇒[Early binding]/[Late binding]で切り替えてください。

操作手順

1. [Property]ボタンをクリックし、プロパティを設定します。
2. [Open]ボタンをクリックし、通信回線をオープンします。
3. "Other method"項目で実行するメソッド(関数)を選択し、メソッド(関数)の引数となるデータを入力後、[Execute]ボタンをクリックします。
"Dump"にチェックが入っている場合は読み出したデバイス値を表示します。
"RESULT"欄には各メソッド(関数)の実行結果を表示します。

MEMO

13 エラーコード

各コントロールが返すエラーコードおよびCPU、ユニット、ネットワークボードが返すエラーコードについて説明します。

13.1 エラーコード一覧

エラーコードを下記に示します。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x00000000	正常終了	-
0x01010002	タイムアウトエラー	• プロパティのタイムアウトの値を見直してください。 • 通信設定ユーティリティにて設定し直してください。 • CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 • 一度Closeし、再度Openを行ってください。 • プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01010005	伝文エラー	• システムのノイズを確認してください。 • プロパティのタイムアウトの値を見直してください。 • 通信設定ユーティリティにて設定し直してください。 • CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 • 一度Closeし、再度Openを行ってください。 • プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01010010	PC No.エラー 指定の局番では通信ができなかった。	• 通信設定ユーティリティにて設定した局番をチェックしてください。 • ActStationNumberに設定した局番を確認してください。
0x01010011	モードエラー 未サポートコマンドであった。	• 正しいCPUタイプが設定されているか確認してください。 • CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 • プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • MX Componentを再インストールしてください。 • 弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x01010012	特殊ユニット指定エラー	• 特殊ユニットの指定アドレスをチェックしてください。
0x01010013	他データエラー 何らかの原因で通信できない。	• システム構成が未サポートの構成でないか確認してください。 • 正しいCPUタイプが設定されているか確認してください。 • プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • 弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x01010018	リモート要求エラー 通信中の経路とは別の経路で、リモート操作が実行中である。	• 別経路で実行中のリモート操作を解除してください。
0x01010020	リンクエラー リンク交信が行えなかった。	• 通信相手または管理局(マスタ局)、通信経路中の局に対して、リセット操作が行われていないか確認してください。 • ネットワークパラメータの設定が正しく行われているか確認してください。
0x01010021	特殊ユニットバスエラー 対象の特殊ユニットが応答しない。	• 対象の特殊ユニットを修理、または交換してください。 • プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • MX Componentを再インストールしてください。 • 弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x01800001	ノーコマンドエラー メソッドがサポートしていない。	• 該当メソッドはサポートしていないため、使用しないでください。
0x01800002	メモリロックエラー	• プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • パソコン用インタフェースボードを使用している場合は、パソコンの最小ワーキングセット領域を大きくしてください。^{*1}
0x01800003	メモリ確保エラー	• プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • 他のプログラムを終了し、空きメモリを確保してください。 • パソコン用インタフェースボードを使用している場合は、パソコンの最小ワーキングセット領域を大きくしてください。^{*1}
0x01800004	DLLロードエラー	• プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • 他のプログラムを終了し、空きメモリを確保してください。 • MX Componentを再インストールしてください。
0x01800005	リソース確保エラー	• プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • 他のプログラムを終了し、空きメモリを確保してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01801001	リソースタイムアウトエラー 時間内にリソースの取得が行えなかった。	- 他オブジェクトが通信完了後、再度、実行してください。 - タイムアウト時間を長くして、再度、実行してください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。
0x01801002	多重回線オープンエラー	プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01801003	オープン未実行	
0x01801004	オープンタイプエラー	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x01801005	指定ポートエラー	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。
0x01801006	指定ユニットエラー	- 使用しているシステム構成と通信設定ユーティリティの設定内容、または設定したプロパティ値が一致しているか確認してください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x01801007	指定CPUエラー	- ActCpuTypeに設定したCPUタイプを確認してください。 - システム構成が未サポートの構成でないか確認してください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - ActPacketTypeに設定したパケットタイプを確認してください。
0x01801008	対象局アクセスエラー	対象局を見直してください。
0x01801009	レジストリオープン失敗 レジストリのデータキーのオープン処理に失敗した。	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x0180100A	パケットタイプエラー 指定のパケットタイプが間違っている。	- ActPacketTypeを見直してください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。
0x0180100B	プロトコルタイプエラー 指定のプロトコルが間違っている。	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x0180100C	レジストリ検索失敗	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。
0x0180100D	GetProcAddress失敗	
0x0180100E	DLL未ロードエラー	
0x0180100F	他Object実行中 排他制御中で、メソッドを実行できない。	ある程度の時間をおいてから再度実行してください。
0x01802001	デバイスエラー メソッドに指定したデバイス文字列が、不正なデバイス文字列である。	デバイス名を見直してください。
0x01802002	デバイス番号エラー メソッドに指定したデバイス文字列の番号が、不正なデバイス番号である。	デバイス番号を見直してください。
0x01802003	プログラムタイプエラー	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x01802004	サムチェックエラー 受信したデータのサムチェック値が異常である。	- ユニット側のサムチェック設定を確認してください。 - コントロールのサムチェック用プロパティを確認してください。 - ケーブルを確認してください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。
0x01802005	サイズエラー メソッドに指定した点数が不正である。	- メソッドに指定した点数を確認してください。 - CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。
0x01802006	ブロックNo.エラー メソッドで指定したデバイス文字列のブロック指定の番号が不正である。	メソッドで指定したデバイス文字列のブロック指定の番号を見直してください。
0x01802007	受信データエラー 受信したデータが異常なデータである。	- CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 - ケーブルを確認してください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01802008	ライトプロテクトエラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x01802009	パラメータ読み出しエラー	
0x0180200A	パラメータ書き込みエラー	
0x0180200B	PCタイプ不一致 プロパティに設定したCPUタイプおよび通信設定ユーティリティで設定したCPUタイプが、通信相手のCPUとタイプが一致しない。	
0x0180200C	要求キャンセルエラー 要求が途中でキャンセルされた。	
0x0180200D	ドライブ名エラー 指定したドライブ名が間違っている。	
0x0180200E	先頭ステップエラー 指定した先頭ステップ番号が間違っている。	
0x0180200F	パラメータタイプエラー パラメータタイプが間違っている。	
0x01802010	ファイル名エラー ファイル名が間違っている。	
0x01802011	ステータスエラー 登録/解除/設定ステータスが間違っている。	
0x01802012	詳細条件区分エラー	
0x01802013	ステップ条件エラー	
0x01802014	ビットデバイス条件エラー	
0x01802015	パラメータ設定エラー	
0x01802016	局番指定エラー メソッドが指定の局番に対する操作をサポートしていない。	・局番を見直してください。 ・未サポートメソッドを実行していないか確認してください。 ・CPU、ユニットなどシステム構成を見直してください。
0x01802017	キーワードエラー	
0x01802018	読み書きフラグエラー	
0x01802019	リフレッシュ方式エラー	
0x0180201A	バッファアクセス方式エラー	
0x0180201B	起動モード/停止モードエラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x0180201C	書き込み時計データエラー 書き込み指定した時計データに誤りがあるため、正常に書き込めない。	
0x0180201D	時計データRUN中書き込みエラー 時計データの書き込みに失敗した。 CPUユニットがRUN中であるため、時計データを書き込めない。	・CPUユニットをSTOP状態にしてください。
0x0180201E	ROM運転エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x0180201F	トレース中エラー トレース中にできない操作を行った。	
0x01802020	先頭I/O番号エラー メソッドで指定した先頭I/O番号が不正な値である。	
0x01802021	先頭アドレスエラー メソッドで指定したバッファアドレスが不正な値である。	・メソッドに指定する先頭I/O番号の値を確認してください。 ・GPP機能にて、CPUユニットのパラメータ(I/O割付)を確認してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01802022	パターンエラー	
0x01802023	SFCブロックNo.エラー	
0x01802024	SFCステップNo.エラー	
0x01802025	ステップNo.エラー	
0x01802026	データエラー	
0x01802027	システムデータエラー	
0x01802028	TC設定値個数エラー	
0x01802029	クリアモードエラー	
0x0180202A	シグナルフローエラー	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x0180202B	バージョン管理エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x0180202C	モニタ未登録エラー	
0x0180202D	PIタイプエラー	
0x0180202E	PINo.エラー	
0x0180202F	PI個数エラー	
0x01802030	シフトエラー	
0x01802031	ファイルタイプエラー	
0x01802032	指定ユニットエラー	
0x01802033	エラーチェックフラグエラー	
0x01802034	ステップRUN運転エラー	
0x01802035	ステップRUNデータエラー	
0x01802036	ステップRUN中エラー	
0x01802037	E2ROMに対するプログラムRUN中書き込みエラー	
0x01802038	時計データ読出し/書き込みエラー 時計素子を持たないCPUユニットに対して時計データ読出し/書き込みメソッドを実行した。	・時計データ読出し/書き込みを実行しないでください。
0x01802039	トレース未完了エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x0180203A	登録クリアフラグエラー	
0x0180203B	操作エラー	
0x0180203C	局数エラー	
0x0180203D	ループ回数指定エラー	
0x0180203E	取得データ選択エラー	
0x0180203F	SFCサイクル数エラー	
0x01802040	モーションCPUエラー	
0x01802041	モーションCPU通信エラー	
0x01802042	定時実行時間設定エラー	
0x01802043	機能数エラー	
0x01802044	システム情報指定エラー	
0x01802045	登録条件未成立エラー	
0x01802046	機能No.エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x01802047	RAM運転エラー	
0x01802048	ブート元ROM運転エラー	
0x01802049	ブート元転送モード指定エラー	
0x0180204A	メモリ不足エラー	
0x0180204B	バックアップドライブROMエラー	
0x0180204C	ブロックサイズエラー	
0x0180204D	RUN中脱着エラー	
0x0180204E	ユニット登録済みエラー	
0x0180204F	パスワード登録データフルエラー	
0x01802050	パスワード未登録エラー	
0x01802051	リモートパスワードエラー	
0x01802052	IPアドレスエラー	
0x01802053	タイムアウト値範囲外エラー	・CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。
0x01802054	命令サーチ未検出エラー	
0x01802055	トレース実行種別エラー	
0x01802056	バージョンエラー	
0x01802057	トラッキングケーブルエラー トラッキングケーブルが異常である。 CPUユニットの状態が異常である。	
0x0180205C	キーワードプロテクトエラー CPUユニットがキーワードプロテクトによりアクセス禁止になっている。	・キーワードを解除してから再度実行してください。
0x0180205D	キーワード解除失敗 指定したキーワードが間違っている。	・正しいキーワードを指定してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x0180205E	キーワードプロテクト失敗 CPUユニットがコマンドを受け付けなかった。	・再度実行するか、CPUユニットの電源を再投入してください。
0x0180205F	キーワード登録失敗 指定したキーワードに使用できない文字が含まれている。	・正しいキーワードを指定してください。
0x01802060	キーワード削除失敗 指定したキーワードが間違っている。	
0x01802062	受信パケットCRCチェックエラー 受信パケットのデータに対するCRCチェックでエラーが発生した。	・再度通信処理を実行してください。
0x01802063	受信パケットCRCチェックエラー 受信パケットのデータファイル全体に対するCRCチェックでエラーが発生した。	
0x01802064	FXシーケンサ接続エラー	・再度通信処理を実行してください。
0x01802070	RUN中書き込みプログラムエラー RUN中書き込み対象のプログラムがCPUユニットに存在しない。	・CPUユニットをSTOP状態にしてから書き込みを実行してください。
0x01802071	Ether直結通信複数応答受信エラー Ether直結通信時に複数の応答を受信した。	・パソコンとCPUユニットが1対1で接続されているか確認してください。
0x01802072	Ether直結通信時通信エラー Ether直結通信時に他のパソコンからCPUユニットに対して通信が行われているため通信ができない。	
0x01802073	CPUユニット検索応答エラー CPUユニット検索で検索可能な最大数以上の応答があった。	・ネットワーク上に存在するCPUユニットを1024台以下にしてください。
0x01802074	二重化システム他系接続時診断エラー	・現在接続していない方のCPUユニットにケーブルを差しかえてください。 ・二重化CPU指定を自系にしてください。
0x01808001	2重オープンエラー Open状態で、Openメソッドを実行した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・Open以外のメソッドを実行してください。
0x01808002	チャネル番号指定エラー プロパティを設定したポート番号および通信設定ユーティリティで設定したポート番号が不正な値である。	・プロパティのポート番号に正しい値を設定してください。 ・通信設定ユーティリティで通信設定を再度行ってください。
0x01808003	ドライバ未起動 ネットワークボードのドライバが起動されていない。	・ドライバを起動してください。
0x01808004	オーバーラップイベント生成エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x01808005	MUTEX生成エラー 排他制御を行うためのMUTEXの作成に失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。
0x01808006	Socketオブジェクト生成エラー Socketオブジェクトが作成できなかった。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x01808007	Socket生成エラー Socketの生成に失敗した。	・同一のポート番号を使用したアプリケーションを起動していないか確認してください。 ・プロパティのポート番号値を変更してリトライしてください。 ・通信設定ユーティリティにてポート番号の値を変更してリトライしてください。 ・IPアドレスの各オクテットの先頭が0から始まっていないか確認してください。 ・Ethernetボードおよびプロトコル設定をOSのコントロールパネルで行ってください。 ・アプリケーション起動時に、右クリックで「管理者として実行」を選択してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x01808008	ポート接続エラー コネクションの確立に失敗した。 相手先が応答しない。	・プロパティのIPアドレスおよびポート番号の値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにてポート番号の値を見直してください。 ・CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808009	COMポートハンドルエラー COMポートのハンドルを取得できない。 COMポートオブジェクトのコピーができない。 SOCKETオブジェクトのコピーができない。	・COMポートを使用しているアプリケーションがないか確認してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x0180800A	バッファサイズ設定エラー COMポートのバッファサイズの設定に失敗した。	- COMポートを使用しているアプリケーションがないか確認してください。 - COMポート設定をOSのコントロールパネルで行ってください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x0180800B	DCB値取得エラー COMポートのDCB値の取得に失敗した。	
0x0180800C	DCB設定エラー COMポートのDCB値の設定に失敗した。	
0x0180800D	タイムアウト値設定エラー COMポートのタイムアウト値の設定に失敗した。	- プロパティのタイムアウトの値を見直してください。 - 通信設定ユーティリティにてタイムアウトの値を見直してください。 - COMポートを使用しているアプリケーションがないか確認してください。 - COMポート設定をOSのコントロールパネルで行ってください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x0180800E	共有メモリオープンエラー 共有メモリのオープン処理に失敗した。	- GX Simulatorが起動しているか確認してください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808101	2重クローズエラー	プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808102	ハンドルクローズエラー COMポートのハンドルのクローズに失敗した。	
0x01808103	ドライバクローズエラー ドライバのハンドルのクローズに失敗した	
0x01808104	オーバーラップイベントクローズエラー	
0x01808105	Mutexハンドルクローズエラー	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x01808106	COMポートハンドルクローズエラー	
0x01808201	送信エラー データ送信に失敗した。	- CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 - COMポート設定をOSのコントロールパネルで行ってください。 - Ethernetボードおよびプロトコルの設定をコントロールパネルで行ってください。 - メソッドをリトライしてください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808202	送信データサイズエラー データ送信に失敗した。	プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808203	キュークリアエラー COMポートのキューのクリアに失敗した。	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - 一度Closeし、再度Openを行ってください。
0x01808301	受信エラー データ受信に失敗した。	- CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 - プロパティのタイムアウトの値を見直してください。 - 通信設定ユーティリティにてタイムアウトの値を見直してください。 - メソッドをリトライしてください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808302	未送信エラー	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x01808303	オーバーラップイベント取得エラー	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x01808304	受信バッファサイズ不足 受信データがシステムで用意した受信バッファサイズよりも大きいデータであった。	プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808401	コントロールエラー COMポートの通信制御の変更に失敗した。	
0x01808402	信号線制御エラー	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x01808403	信号線指定エラー COMポートの通信制御の変更に失敗した。	プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808404	オープン未実行	- オープンを実行してください。 - プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808405	通信パラメータエラー プロパティのデータビットおよびストップビットの組合わせが不正である。	- プロパティのデータビットおよびストップビットの値を見直してください。 - 通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x01808406	伝送速度値指定エラー プロパティの伝送速度が不正である。	- プロパティの伝送速度の値を見直してください。 - 通信設定ユーティリティにて再度設定してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01808407	データ長エラー プロパティのデータビットの値が不正である。	・プロパティのデータビットの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x01808408	パリティ指定エラー プロパティのパリティの値が不正である。	・プロパティのパリティの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x01808409	ストップビット指定エラー プロパティのストップビットの値が不正である	・プロパティのストップビットの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x0180840A	通信制御設定エラー プロパティのコントロールの値が不正である。	・プロパティのコントロールの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x0180840B	タイムアウトエラー タイムアウト時間を経過したが、データの受信ができなかった。	・プロパティのタイムアウトの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。 ・CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 ・Pingコマンドで通信できるか確認してください。 ・メソッドをリトライしてください。 ・一度Closeし、再度Openを行ってください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x0180840C	コネクトエラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x0180840D	2重コネクトエラー	
0x0180840E	アタッチ失敗 ソケットオブジェクトのアタッチに失敗した。	
0x0180840F	信号線状態取得失敗 COMポートの信号線状態の取得に失敗した。	
0x01808410	CD信号線OFF 通信相手のCD信号がOFF状態である。	・CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808411	パスワード不一致エラー	・プロパティのリモートパスワードを確認してください。
0x01808412	TEL通信エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x01808501	USBドライバロードエラー USBドライバのロードに失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・USBドライバのインストールを確認してください。
0x01808502	USBドライバコネクトエラー USBドライバのコネクトに失敗した。	
0x01808503	USBドライバ送信エラー データの送信に失敗した。	・CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。
0x01808504	USBドライバ受信エラー データの受信に失敗した。	・USB設定をOSのコントロールパネル(デバイスマネージャ)で行ってください。 ・メソッドをリトライしてください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808505	USBドライバタイムアウトエラー	・タイムアウト時間を見直してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x01808506	USBドライバ初期化エラー USBドライバの初期化に失敗した。	・USB設定をOSのコントロールパネル(デバイスマネージャ)で行ってください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x01808507	USBその他のエラー データ送受信に関するエラーが発生した。	・一度ケーブルを抜いた後、再度接続してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。
0x01809000	GX Works2未インストールエラー GX Simulator2のインストールパスの検索でエラーが発生した。	・GX Works2をインストールしてください。
0x01809001	GX Simulator2未起動エラー GX Simulator2が起動していない。	・GX Simulator2を開始してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01809002	GX Simulator2起動エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x01809003	GX Simulator2起動タイムアウトエラー	
0x01809004	GX Simulator2停止エラー	
0x01809005	GX Simulator2起動エラー	
0x01809007	GX Simulator2停止エラー	
0x01809008	GX Simulator2起動エラー 同時に起動できるシミュレーション数の上限に達したため、起動できなかった。	
0x01809009	GX Simulator2起動エラー 1つしか起動できないプロジェクトのシミュレーションが起動済みである。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x01809010	GX Simulator2起動情報不正エラー GX Simulator2起動情報を取得するためのメモリ領域を確保できなかったためエラーが発生した。	
0x01809021	GX Simulator2起動エラー 同時に起動できるシミュレーション数の上限に達したため、起動できなかった。	
0x01809022	GX Simulator2起動エラー 既にFXCPUのプロジェクトのシミュレーションが開始されているため、他のCPUのシミュレーションが開始できなかった。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x02000001	点数オーバーエラー モニタリングサーバに登録した点数が多すぎる。	・モニタ登録した点数を減らしてください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x02000002	共有メモリ作成エラー 共有メモリの作成に失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x02000003	共有メモリアクセスエラー	
0x02000004	メモリ確保エラー モニタリングサーバのメモリ確保に失敗した。	・他アプリケーションを終了してください。 ・システムのメモリを増加してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x02000005	デバイス未登録エラー モニタ登録が行われていない。	・モニタリングサーバに対してモニタ登録を行ってください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x02000006	モニタリングサーバ起動エラー モニタリングサーバを起動していない。	・モニタリングサーバを起動してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x02000010	デバイス値未取得エラー モニタリングがまだ完了していない。	・一定時間経過後、再度、取得をしてください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x03000001	コマンド未サポート コマンドを未サポートである。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x03000002	メモリロックエラー メモリのロックに失敗した。	
0x03000003	メモリ確保エラー メモリの確保に失敗した。	
0x03000004	DLL読出しエラー DLLの読出しに失敗した。	
0x03000005	リソース確保エラー リソースの確保に失敗した。	
0x03010001	ファイル作成エラー ファイルの作成に失敗した。	
		・HDの空き容量を確認します。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動します。 ・MX Componentを再インストールします。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x03010002	ファイルオープンエラー ファイルのオープンに失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x03010003	バッファサイズエラー 指定したバッファのサイズが不正/不十分である。	
0x03010004	SIL構文エラー SIL構文が間違っている。	
0x03010005	ファイル名エラー 指定したファイル名が長すぎる。	・ファイル名を短くしてください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x03010006	ファイルなしエラー 指定したファイルが存在しない。	・ファイル名を確認してください。 ・ファイルがあるかどうか、確認してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x03010007	ファイル構造エラー 指定したファイル内のデータ構造が間違っている。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x03010008	ファイルありエラー 指定したファイルは既に存在する。	・ファイル名を確認してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x03010009	ファイルなしエラー 指定したファイルは存在しない。	
0x0301000A	ファイル削除エラー 指定したファイルが削除できない。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x0301000B	二重オープンエラー 指定プロジェクトを二重オープンした。	
0x0301000C	ファイル名エラー 指定したファイル名が間違っている。	・ファイル名を確認してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x0301000D	ファイル読出しエラー ファイルの読出しに失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x0301000E	ファイル書き込みエラー ファイルの書き込みに失敗した。	
0x0301000F	ファイルシークエラー ファイルのシークに失敗した。	
0x03010010	ファイルのクローズエラー ファイルのクローズに失敗した。	
0x03010011	フォルダ生成エラー フォルダの作成に失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x03010012	ファイルコピーエラー ファイルのコピーに失敗した。	
0x03010013	プロジェクトパスエラー プロジェクトのパスの長さが間違っている。	
0x03010014	プロジェクトタイプエラー プロジェクトタイプが間違っている。	
0x03010015	ファイルタイプエラー ファイルタイプが間違っている。	
0x03010016	サブファイルタイプエラー サブファイルタイプが間違っている。	
0x03010017	ディスク容量不足エラー ディスクの容量が不足している。	
0x03020002	二重オープンエラー DBProductを二重オープンした。	
0x03020003	未オープンエラー DBProductがオープンされていない。	
0x03020004	Extractエラー DBProductがExtractされていない。	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x03020010	パラメータエラー DBProductのパラメータが間違っている。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x03020011	言語エラー 言語パラメータが間違っている。	
0x03020012	メーカー指定エラー メーカーパラメータが間違っている。	
0x03020013	ユニット指定エラー ユニットパラメータが間違っている。	
0x03020014	SQL/パラメータエラー DBProductのSIL, SQL/パラメータが間違っている。	
0x03020015	SIL構文エラー DBProductのSIL構文が間違っている。	
0x03020016	フィールドキー入力エラー 入力されたフィールドキーが間違っている。	
0x03020050	レコードデータ構文エラー DBProductのレコードデータ再構築に失敗した。	
0x03020060	レコードデータ取得エラー DBProductのレコードデータ取得に失敗した。	
0x03020061	最終レコードエラー 最終レコードであるため、次のレコードを取得できない。	
0x03FF0000	初期化エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x03FF0001	未初期化エラー	
0x03FF0002	二重初期化エラー	
0x03FF0003	ワークスペース初期化エラー	
0x03FF0004	データベース初期化エラー	
0x03FF0005	レコードセット初期化エラー	
0x03FF0006	データベースクローズエラー	
0x03FF0007	レコードセットクローズエラー	
0x03FF0008	データベース未オープンエラー データベースがオープンされていない。	
0x03FF0009	レコードセット未オープンエラー レコードセットがオープンされていない。	
0x03FF000A	テーブル初期化エラー TtableInformationテーブルの初期化に失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x03FF000B	テーブル初期化エラー TfieldInformationテーブルの初期化に失敗した。	
0x03FF000C	テーブル初期化エラー TrelationInformationテーブルの初期化に失敗した。	
0x03FF000D	テーブル初期化エラー Tlanguageテーブルの初期化に失敗した。	
0x03FF000E	テーブル初期化エラー Tmakerテーブルの初期化に失敗した。	
0x03FF000F	テーブル初期化エラー TOpenDatabaseテーブルの初期化に失敗した。	
0x03FF0010	フィールド値エラー	
0x03FF0011	フィールド値エラー	
0x03FF0012	終了エラー DBの終了処理に失敗した。	
0x03FF0100	レコード移動エラー レコードの移動に失敗した。	
0x03FF0101	レコードカウント取得エラー レコードカウントの取得に失敗した。	
0x03FF0110	フィールド値取得エラー フィールド値の取得に失敗した。	
0x03FF0111	フィールド値設定エラー フィールド値の設定に失敗した。	
0x03FFFFFF	その他エラー	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04000001	ノーコマンドエラー 指定のCPUタイプでは処理が行えない。	• ActCpuTypeに設定したCPUタイプを確認してください。 • システム構成が未サポートの構成でないか確認してください。 • プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • MX Componentを再インストールしてください。
0x04000002	メモリロックエラー メモリのロックに失敗した。	• プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • MX Componentを再インストールしてください。
0x04000003	メモリ確保エラー メモリの確保に失敗した。	• 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x04000004	内部サーバDLLロードエラー 内部サーバの起動に失敗した。	• MX Componentのインストールファイルが削除または移動されていないか確認してください。 • プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • MX Componentを再インストールしてください。
0x04000005	リソース確保エラー 必要なリソースが確保できなかった。	• プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • MX Componentを再インストールしてください。
0x04000006	メインオブジェクトロードエラー ファイルの読出しに失敗した。	• 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x04000007	変換テーブルロードエラー テーブルデータの読出しに失敗した。	
0x04000100	中間コードサイズ不正エラー	
0x04010001	中間コード無変換エラー 変換した1命令のマシンコードが256/バイトを超えた。	
0x04010002	中間コード終了エラー 変換元の中間コードエリアが途中で終了した。	
0x04010003	中間コード不足エラー 変換元の中間コードが足りない。	
0x04010004	中間コードデータエラー 変換元の中間コードが不正である。変換できないコードがある。	
0x04010005	中間コード構成エラー 中間コードのステップ数が不正である。	• プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 • MX Componentを再インストールしてください。
0x04010006	ステップ数エラー コメント中間コードのステップ数が不正である。	• 弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x04010007	マシンコード格納領域不足エラー マシンコード格納領域が不足している。	
0x04010008	その他のエラー (中間コード→マシンコード変換中に発生したその他のエラー)	
0x04011001	マシンコード無変換エラー 変換した1命令の中間コードが256/バイトを超えた。	
0x04011002	マシンコード終了エラー 変換元のマシンコードエリアが途中で終了した。	
0x04011003	マシンコード異常変換元のマシンコードが異常で変換できない。	
0x04011004	中間コード格納領域不足エラー 中間コード格納領域が不足している。	
0x04011005	その他エラー (マシンコード→中間コード変換中に発生したその他のエラー)	
0x04020001	テキストコード無変換エラー 変換した1命令の中間コードが256/バイトを超えた。	
0x04020002	入力なしエラー 入力されたリストコードが足りない。	
0x04020003	命令エラー 変換元のリストコードの命令名が不正である。	
0x04020004	デバイスエラー 変換元のリストコードのデバイス名が不正である。	
0x04020005	デバイスNo.エラー 変換元のリストコードのデバイスNo.が範囲外である。	
0x04020006	変換エラー 変換元のリストコードが認識できないコードである。	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04020007	テキストデータエラー 変換元のリストコードが不正である。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x04020008	SFC動作出力エラー SFCの動作出力命令が不正である。	
0x04020009	SFC移行条件エラー SFCの移行条件命令が不正である。	
0x0402000A	行間ステートメントエラー 行間ステートメント入力不正である。	
0x0402000B	PIステートメントエラー PIステートメントの入力が不正である。	
0x0402000C	ノートエラー ノートの入力が不正である。	
0x0402000D	コメントエラー コメントの入力が不正である。	
0x0402000E	その他エラー (リスト→中間コード変換中に発生したその他のエラー)	
0x04021001	中間コード無変換エラー 変換した1命令のリストコードが256バイトを超えた。	
0x04021002	中間コードエリアオーバーエラー 変換元の中間格納領域が終了した。	
0x04021003	命令エラー 変換元の中間コードの命令が不正である。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x04021004	デバイスエラー 変換元の中間コードのデバイスが不正である。	
0x04021005	中間コードエラー 変換元の中間コード構成が不正である。	
0x04021006	リスト格納領域不足エラー 変換したリストコードを格納する領域が不足している。	
0x04021007	その他エラー (中間コード→リスト変換中に発生したその他のエラー)	
0x04030001	無変換エラー 変換した中間コード格納領域が不足している。	
0x04030002	回路作成不良エラー キャラクタメモリの回路がシーケンスとして完成していない。	
0x04030003	指定回路サイズオーバー 指定回路が大きすぎる。	
0x04030004	折り返し回路不正エラー 折り返し回路の元と先の整合性があっていない。 折り返し回路の設定が多すぎる。	
0x04030005	その他エラー (キャラクタメモリ→中間コード変換中に発生したその他のエラー)	
0x04031001	無変換エラー 指定したキャラクタメモリの縦・横サイズが不正である。	
0x04031002	命令コード異常エラー 変換元の命令中間コードが不正である。	
0x04031003	回路作成不良エラー シーケンス回路に変換できない。END命令がない。	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04031004	指定回路サイズオーバーエラー 指定回路が大きすぎる。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x04031005	致命的エラー 致命的エラーが発生した。	
0x04031006	格納ブロック数不足エラー 変換したキャラクタメモリ回路のブロック数分の格納領域がない。	
0x04031007	回路ブロックサーチエラー 回路ブロックの途中でデータが途切れている。	
0x04031008	その他エラー (中間コード→キャラクタメモリ変換中に発生したその他のエラー)	
0x04040001	CADデータエラー変換元CADデータがない。 CADデータのフォーマットが間違っている。	
0x04040002	出力データエラー 入力CADデータタイプと出力データタイプが不整合である。	
0x04040003	ライブラリロードエラー ライブラリのロードに失敗した。	
0x04040004	格納領域確保エラー 変換後データの格納領域が不足している。	
0x04040005	END命令なしエラー 変換元データにEND命令がない。	
0x04040006	命令コード異常 変換元CADデータに命令コード異常がある。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x04040007	デバイスNo.エラー デバイスNo.が範囲外である。	
0x04040008	ステップNo.エラー ステップNo.が範囲外である。	
0x04040009	指定回路サイズオーバーエラー 1回路ブロックが大きすぎる。	
0x0404000A	折り返し回路エラー 折り返し回路が不正である。	
0x0404000B	回路作成不良エラー 回路データが不正である。	
0x0404000C	SFCデータエラー 変換元SFCデータが不正である。	
0x0404000D	リストデータエラー 変換元リストデータが不正である。	
0x0404000E	コメントデータエラー 変換元コメントデータが不正である。	
0x0404000F	ステートメントエラー 変換元ステートメントデータが不正である。	
0x04040010	その他エラー (CADコード→中間コード変換中に発生したその他のエラー)	
0x04041001	中間コードデータエラー 変換元中間コードデータがない。中間コードのフォーマットが間違っている。	
0x04041002	CADデータタイプエラー 入力データタイプと出力CADデータタイプが不整合である。	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04041003	ライブラリエラー ライブラリのロードに失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x04041004	入力データ不足エラー 変換元データが不足している。	
0x04041005	格納領域不足エラー 変換後CADデータ格納領域が不足している。	
0x04041006	END命令なしエラー 変換元データにEND命令がない。	
0x04041007	命令コード異常エラー 変換元データに命令コード異常がある。	
0x04041008	デバイスNo.エラー デバイスNo.が範囲外である。	
0x04041009	ステップNo.エラー ステップNo.が範囲外である。	
0x0404100A	指定回路サイズオーバーエラー 1回路ブロックが大きすぎる。	
0x0404100B	折り返し回路エラー 折り返し回路が不正である。	
0x0404100C	回路作成不良エラー 回路データが不正である。	
0x0404100D	SFCデータエラー 変換元SFCデータが不正である。	
0x0404100E	リストデータエラー 変換元リストデータが不正である。	
0x0404100F	コメントデータエラー 変換元コメントデータが不正である。	
0x04041010	ステートメントエラー 変換元ステートメントデータが不正である。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x04041011	その他エラー (中間コード→CADコード変換中に発生したその他のエラー)	
0x04050001	指定文字列異常エラー デバイス文字列が不正である。	
0x04050002	デバイス点数エラー デバイス点数が範囲外である。	
0x04050003	その他エラー (デバイス文字列→デバイス中間コード変換中に発生したその他のエラー)	
0x04051001	デバイス名エラー デバイス中間コードの区分指定が不正である。	
0x04051002	デバイス名エラー 拡張指定デバイス中間コードの区分指定が不正である。	
0x04051003	その他エラー (デバイス中間コード→デバイス文字列変換中に発生したその他のエラー)	
0x04052001	指定文字列異常エラー デバイス文字列が不正である。	
0x04052002	デバイス点数エラー デバイス点数が範囲外である。	
0x04052003	その他エラー (デバイス文字列→デバイス表現コード変換中に発生したその他のエラー)	
0x04053001	デバイス表現エラー デバイス中間コードの指定区分が不正である。	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04053002	デバイス表現エラー 拡張指定デバイス中間コードの区分指定が不正である。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x04053003	デバイス表現エラー デバイス修飾部指定が不正である。	
0x04053004	デバイス表現エラー 拡張デバイス修飾部指定が不正である。	
0x04053005	その他エラー (デバイス表現コード→デバイス文字列変換中に発生したその他のエラー)	
0x04064001	デバイス中間コード異常エラー デバイス中間コードが不正である。	
0x04064002	その他エラー (デバイス中間コード→デバイス名変換中に発生したその他のエラー)	
0x04065001	デバイス名異常エラー デバイス中間コードの区分指定が不正である。	
0x04065002	デバイス名異常エラー 拡張指定デバイス中間コードのコード区分指定が不正である。	
0x04065003	その他エラー (デバイス名→中間コード変換中に発生したその他のエラー)	
0x04066001	デバイス中間コードエラー デバイス中間コードが不正である。	
0x04066002	その他エラー (デバイス中間コード→デバイス表現変換中に発生したその他のエラー)	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x04067001	デバイス表現エラー デバイス中間コードの区分指定が不正である。	
0x04067002	デバイス表現エラー 拡張指定デバイス中間コードの区分指定が不正である。	
0x04067003	デバイス表現エラー デバイス修飾部指定が不正である。	
0x04067004	デバイス表現エラー 拡張デバイス修飾部指定が不正である。	
0x04067005	その他エラー (デバイス表現→デバイス中間コード変換中に発生したその他のエラー)	
0x04070001	共通データ変換エラー デバイスコメント変換の入力データが不正である。	
0x04070002	共通データ不足 変換元のデータが足りない。	
0x04070003	格納エリア不足 変換データを格納するエリアが不足している。	
0x04071001	CPUデータ変換エラー デバイスコメント変換の入力データが不正である。	
0x04071002	CPUデータ不足エラー 変換元のデータが足りない。	
0x04071003	格納エリア不足エラー 変換データを格納するエリアが不足している。	
0x04072001	オープンエラー 変換オブジェクトの生成に失敗した。	
0x04072002	CPUタイプエラー 指定したCPUタイプが存在しない。	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04072003	無変換エラー 変換オブジェクトが存在しない。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x04072004	入力データエラー 入力データが不正である。	
0x04073001	プログラム共通データ変換エラー	
0x04073002	プログラム共通データ変換エラー	
0x04073101	プログラムCPUデータ変換エラー	
0x04074001	パラメータ共通データエラー	
0x04074002	ネットワークパラメータ共通データエラー パラメータブロックは存在するが、中のデータがセットされていない。	
0x04074101	パラメータCPUデータエラー	
0x04074102	ネットワークパラメータCPUデータエラー パラメータブロックは存在するが、中のデータはセットされていない。	
0x04074103	オフセットエラー	
0x04074201	ネットワークタイプ指定エラー 指定CPUではサポートされていないネットワークタイプである。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x04074202	パラメータブロックNo.エラー 指定パラメータブロックNo.のブロックは存在しない。	
0x04074203	パラメータブロック内容エラー 指定CPUでサポートしている内容と異なる。	
0x04074204	パラメータブロック情報エラー 存在しないブロックNo.が指定された。	
0x04074205	デフォルトパラメータブロック異常 存在しないブロックNo.が指定された。	
0x04074301	共通パラメータブロック変換エラー	
0x04074302	共通パラメータブロックNo.1001エラー RUN-PAUSE設定有無フラグの値が不正である。	
0x04074303	共通パラメータブロックNo.1003エラー	
0x04074304	共通パラメータブロックNo.1008エラー	
0x04074305	共通パラメータブロックNo.1100エラー	
0x04074306	共通パラメータブロックNo.2001エラー 存在しないデバイス中間コードが指定された。	
0x04074307	共通パラメータブロックNo.3000エラー	
0x04074308	共通パラメータブロックNo.3002エラー	
0x04074309	共通パラメータブロックNo.3004エラー アナンシェータ表示モードの設定が不正である。	
0x0407430A	共通パラメータブロックNo.4000エラー I/O割付データが作成されていない。	
0x0407430B	共通パラメータブロックNo.5000エラー 指定ネットワークはサポートされていない。	
0x0407430C	共通パラメータブロックNo.5001エラー 他局アクセス時有効ユニットNo.を設定していない。	
0x0407430D	共通パラメータブロックNo.5002エラー	
0x0407430E	共通パラメータブロックNo.5003エラー	
0x0407430F	共通パラメータブロックNo.5NM0エラー	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04074310	共通パラメータブロックNo.5NM1エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x04074311	共通パラメータブロックNo.5NM2エラー	
0x04074312	共通パラメータブロックNo.5NM3エラー	
0x04074313	共通パラメータブロックNo.6000エラー	
0x04074314	共通パラメータブロックNo.FF18エラー リンクパラメータ容量を設定していない。	
0x04074315	共通パラメータブロックNo.FF25エラー 演算回路チェックを設定していない。	
0x04074316	共通パラメータブロックNo.FF30エラー サンプリングトレースデータが作成されていない。	
0x04074317	共通パラメータブロックNo.FF31エラー ステータスラッチデータが作成されていない。	
0x04074318	共通パラメータブロックNo.FF42エラー タイマ処理点数が設定されていない。	
0x04074319	共通パラメータブロックNo.FF30エラー 指定拡張タイマ用設定値デバイスが存在しない。	
0x0407431A	共通パラメータブロックNo.FF44エラー	
0x0407431B	共通パラメータブロックNo.FF45エラー	
0x0407431C	共通パラメータブロックNo.FF60エラー ターミナル設定が設定されていない。	
0x0407431D	共通パラメータブロックNo.FF70エラー ユーザ開放領域が設定されていない。	
0x04074401	CPUパラメータブロック変換エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x04074402	CPUパラメータブロックNo.1001エラー	
0x04074403	CPUパラメータブロックNo.1003エラー	
0x04074404	CPUパラメータブロックNo.1008エラー	
0x04074405	CPUパラメータブロックNo.1100エラー	
0x04074406	CPUパラメータブロックNo.2001エラー	
0x04074407	CPUパラメータブロックNo.3000エラー	
0x04074408	CPUパラメータブロックNo.3002エラー	
0x04074409	CPUパラメータブロックNo.3004エラー	
0x0407440A	CPUパラメータブロックNo.4000エラー	
0x0407440B	CPUパラメータブロックNo.5000エラー 指定ネットワークタイプはサポートされていない。	
0x0407440C	CPUパラメータブロックNo.5001エラー	
0x0407440D	CPUパラメータブロックNo.5002エラー	
0x0407440E	CPUパラメータブロックNo.5003エラー	
0x0407440F	CPUパラメータブロックNo.5NM0エラー 指定ネットワークタイプはサポートされていない。	
0x04074410	CPUパラメータブロックNo.5NM1エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x04074411	CPUパラメータブロックNo.5NM2エラー 指定ネットワークタイプはサポートされていない。	
0x04074412	CPUパラメータブロックNo.5NM3エラー	
0x04074413	CPUパラメータブロックNo.6000エラー	
0x04074414	CPUパラメータブロックNo.FF18エラー	
0x04074415	CPUパラメータブロックNo.FF25エラー	
0x04074416	CPUパラメータブロックNo.FF30エラー	
0x04074417	CPUパラメータブロックNo.FF31エラー	
0x04074418	CPUパラメータブロックNo.FF42エラー	
0x04074419	CPUパラメータブロックNo.FF43エラー	
0x0407441A	CPUパラメータブロックNo.FF44エラー	
0x0407441B	CPUパラメータブロックNo.FF45エラー	
0x0407441C	CPUパラメータブロックNo.FF60エラー	
0x0407441D	CPUパラメータブロックNo.FF70エラー	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04075001	共通データ変換エラー デバイスメモリ設定部変換に失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x04075002	共通データ変換エラー デバイスメモリデータ部変換に失敗した。	
0x04075003	共通データ変換エラー デバイスメモリデータ部が存在しなかった。	
0x04075101	CPUデータ変換エラー デバイスメモリ設定部変換に失敗した。	
0x04075102	CPUデータ変換エラー デバイスメモリデータ部変換に失敗した。	
0x04076001	共通データ変換エラー デバイスコメント設定部変換に失敗した。	
0x04076002	共通データ変換エラー デバイスコメントデータ部変換に失敗した。	
0x04076101	CPUデータ変換エラー デバイスコメント設定部変換に失敗した。	
0x04076102	CPUデータ変換エラー デバイスコメントデータ部変換に失敗した。	
0x04077001	共通データ変換エラー サンプリングトレース設定部変換に失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x04077002	共通データ変換エラー サンプリングトレースデータ部変換に失敗した。	
0x04077101	CPUデータ変換エラー サンプリングトレース設定部変換に失敗した。	
0x04077102	CPUデータ変換エラー サンプリングトレースデータ部変換に失敗した。	
0x04078001	共通データ変換エラー ステータスラッチ設定部変換に失敗した。	
0x04078002	共通データ変換エラー ステータスラッチデータ部変換に失敗した。	
0x04078101	CPUデータ変換エラー ステータスラッチ設定部変換に失敗した。	
0x04078102	CPUデータ変換エラー ステータスラッチデータ部変換に失敗した。	
0x04079101	CPUデータ変換エラー エラー履歴変換に失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x0407A101	CPUデータ変換エラー ファイル一覧変換に失敗した。	
0x0407B101	CPUデータ変換エラー エラー情報変換に失敗した。	
0x0407C001	間接アドレス→デバイス名変換エラー デバイス名格納領域が確保されていない。	
0x0407C002	デバイス名→間接アドレス変換エラー 間接アドレス格納領域が確保されていない。	
0x0407C003	間接アドレス→デバイス表現変換エラー デバイス表現格納エリアが確保されていない。	
0x0407C004	デバイス表現→間接アドレス変換エラー 間接アドレス格納エリアが確保されていない。	
0x0407C005	間接アドレス→デバイス文字列変換エラー デバイス文字列格納領域が確保されていない。	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x0407C006	デバイス文字列→間接アドレス変換エラー 間接アドレス格納領域が確保されていない。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x0407C007	中間コード→デバイス名変換エラー デバイス名格納領域が確保されていない。	
0x0407C008	デバイス名→中間コード変換エラー 中間コード格納領域が確保されていない。	
0x0407C009	中間コード→デバイス表現変換エラー デバイス表現格納領域が確保されていない。	
0x0407C00A	デバイス表現→中間コード変換エラー 中間コード格納領域が確保されていない。	
0x0407C00B	中間コード→間接アドレス変換エラー 間接アドレス格納領域が確保されていない。	
0x0407C00C	間接アドレス→中間コード変換エラー 中間コード格納領域が確保されていない。	
0x0407C00D	CPUタイプエラー 指定したCPUタイプはサポートしていない。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x0407C00E	デバイス文字列エラー 指定したデバイスはサポートしていない。	
0x0407C00F	デバイス文字列エラー 指定したデバイス文字列、種別が不正である。	
0x0407C010	デバイスエラー 指定デバイスは、指定CPUでサポートしていない。	
0x0407C011	CPUタイプエラー 指定したCPUはサポートしていない。	
0x0407C012	デバイス範囲外エラー	
0x0407D001	共通データ変換エラー SFCトレース条件設定部変換エラー	
0x0407D002	共通データ変換エラー SFCトレースデータ部変換エラー	
0x0407D101	CPUデータ変換エラー SFCトレース条件設定部変換エラー	
0x0407D102	CPUデータ変換エラー SFCトレースデータ部変換エラー	
0x04080001	中間コード区分範囲外エラー 指定した中間コード区分が範囲外である。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口にご連絡してください。
0x04080002	拡張指定中間コード区分範囲外エラー 指定した拡張指定中間コード区分が範囲外である。	
0x04080003	デバイス点数チェックなしエラー デバイス点数チェックをしないデバイスである。	
0x04090001	GPPプロジェクトエラー 指定したCPUタイプとGPPプロジェクトタイプが不整合である。	
0x04090002	ファイルタイプエラー 指定したGPPプロジェクトタイプとファイルタイプが不整合である。	
0x04090010	変換元GPPデータ不足 変換元データが存在しない。 変換元データサイズの指定が不正である。	
0x04090011	変換データ格納領域不足 エラー変換データ格納領域が不足している。	
0x04090012	変換元GPPデータエラー 変換元GPPデータが不正である。	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x04090110	変換元データ不足エラー 変換元データが存在しない。 変換元データサイズの指定が不足している。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x04090111	変換データ格納領域不足エラー 変換データ格納領域が不足している。	
0x04090112	変換元データエラー 変換元データが不正である。	
0x040A0001	中間コード格納領域不足 変換後データの格納領域が不足している。	
0x040A0002	SFC付属情報格納領域不足	
0x040A0003	変換エラー	
0x040A0004	非SFCプログラムエラー	
0x040A1001	ステップ未使用・動作出力なしエラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x040A1002	ステップNo.範囲外エラー	
0x040A1003	ステップ未使用・動作出力なしエラー	
0x040A1004	移行No.範囲外エラー	
0x040A1005	最大数オーバーエラー	
0x040A1006	マイコンプログラム容量エラー	
0x040A1007	非SFCプログラムエラー	
0x040B0001	中間コード格納領域不足 変換後データの格納領域が不足している。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x040B0002	変換エラー	
0x040B1001	ステップ開始位置テーブル作成失敗	
0x040B1002	ステップ情報読出し失敗	
0x040B1003	ステップNo.エラー	
0x040B1004	動作出力・移行条件中間コード読出失敗エラー	
0x040B1005	内部ワークエリア確保失敗エラー	
0x040B1006	キャラクタメモリX軸方向最大値設定エラー	
0x040B1007	内部ワークエリア不足エラー	
0x040B1008	スタックオーバーフロー、キャラクタメモリ異常	
0x040B1009	格納ブロック数不足エラー	
0x040B100A	非SFCプログラムエラー	
0x04FFFFFF	その他のエラー	
0x10000001	ノーコマンドエラー	
0x10000002	MX Componentの通信用DLLの起動に失敗した。	
0x10000003	Openに失敗した。(DiskDrive)	
0x10000004	2重Openエラー	
0x10000005	ファイルアクセスエラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x10000006	フォルダ名不正エラー	
0x10000007	ファイルアクセス禁止エラー	
0x10000008	Diskフルエラー	
0x10000009	ファイル削除エラー	
0x1000000A	ファイル名不正エラー	
0x1000000C	他アプリケーションまたは他スレッドがリクエスト実行中のため実行に失敗した。	
0x1000000D	フォルダ作成エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0x1000000E	フォルダ/ファイルタイプエラー	
0x1000000F	オフセットアドレスエラー	
0x10000010	リクエストキャンセル キャンセル処理が発生した。	
0x10000011	メモリ確保エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。
0x10000012	オープン未実行	

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x10000013	アタッチ未実行エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x10000014	オブジェクト無効エラー	
0x10000015	リクエストキャンセル失敗エラー	
0x10000016	ステータス読出し失敗エラー	
0x10000017	指定サイズ(デバイス数)が不正。	・メソッドに指定した点数を確認してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x10000018	登録デバイスがない。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x10000019	データセット未実行	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x1000001A	読出し未実行エラー	
0x1000001B	作成フラグ不正エラー	
0x1000001C	オペレーションオーバーアクセス	
0x1000001D	デバイス重複エラー	
0x1000001E	レジストリ検索を失敗した。	
0x1000001F	ファイルタイプエラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x10000020	デバイスメモリ種別エラー	
0x10000021	プログラム範囲エラー	
0x10000022	TELタイプエラー	
0x10000023	TELアクセスエラー	
0x10000024	キャンセルフラグタイプエラー	
0x10000030	多重デバイス登録エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x10000031	未登録デバイスエラー	・指定デバイスの内容を見直してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・他のプログラムを終了し、空きメモリを確保してください。
0x10000032	指定デバイスエラー	
0x10000033	指定デバイス範囲エラー	
0x10000034	ファイル書込みエラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x10000040	サーバ起動に失敗した。	
0x10000041	サーバ停止エラー サーバ停止に失敗した。	
0x10000042	サーバ二重起動エラー	
0x10000043	サーバ未起動エラー	
0x10000044	リソースタイムアウトエラー	
0x10000045	サーバタイプエラー	
0x10000046	サーバアクセス失敗エラー	
0x10000047	サーバアクセス実施済みエラー	
0x10000048	シミュレータ起動失敗	
0x10000049	シミュレータ終了失敗	
0x1000004A	シミュレータ未起動エラー	
0x1000004B	シミュレータタイプエラー	
0x1000004C	シミュレータ未サポートエラー	
0x1000004D	シミュレータ二重起動エラー	
0x1000004E	共有メモリ未起動エラー	
0x10000055	GX Simulator3未起動エラー	・GX Simulator3を開始してください。
0x10000059	タイムアウトエラー	・プロパティのタイムアウトの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて設定し直してください。 ・CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 ・一度Closeし、再度Openを行ってください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x1000005A	システムNo.の指定が不正である。	・システムNo.を見直してください。
0x1000007E	MELSOFT Mirrorへのアクセスに失敗	・一度Closeし、再度Openを行ってください。 ・MELSOFT Mirrorを起動しているパソコンおよびネットワークの状態を確認してください。
0x8001000C	設定可能範囲外のデータが指定された。	・プロパティの値を見直してください。
0x80010016		・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x80010101	タイムアウトエラー	・プロパティのタイムアウトの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて設定し直してください。 ・ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 ・一度Closeし、再度Openを行ってください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x80020001	データのタイプが不正である。	・プロパティの値を見直してください。
0x80020002	データの範囲が不正である。	・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x80030001	通信ポートの指定が不正である。	・プロパティの通信ポートの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x80030002	伝送速度の指定が不正である。	・プロパティの伝送速度の値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x80030003	データビット長の指定が不正である。	・プロパティのデータビットの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x80030004	パリティの指定が不正である。	・プロパティのパリティの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x80030005	ストップビット長の指定が不正である。	・プロパティのストップビットの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x80030006	待ち時間の指定が不正である。	・プロパティの待ち時間の値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x80030007	CR/LF有無の指定が不正である。	・プロパティのCR/LFの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x80030008	タイムアウトの指定が不正である。	・プロパティのタイムアウトの値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x80030009	局番の指定が不正である。	・プロパティの局番の値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x8003000A	USB通信設定が不正である。	・プロパティの値を見直してください。
0x8003000B	USB機種コードが不正である。	・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x8003000C	USB通信で局番の重複を検出した。	・プロパティの局番の値を見直してください。 ・通信設定ユーティリティにて再度設定してください。
0x80200107	通信エラー	・同じメソッドを再度実行してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x80200203	メモリ確保エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・他のプログラムを終了し、空きメモリを確保してください。
0x80201001	指定CPUエラー	・ActCpuTypeに設定したCPUタイプを確認してください。 ・システム構成が未サポートの構成でないか確認してください。
0x80201101	オープン済みエラー オープン状態でOpen メソッドを実行した。	・通信対象CPUを変更する場合は、Close後、Openメソッドを実行してください。
0x80201104	DLLロードエラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・他のプログラムを終了し、空きメモリを確保してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。
0x80201106	通信オブジェクト生成エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。
0x80201201	未オープンエラー Openメソッドを実行していない。	・Openメソッドを実行後、該当メソッドを実行してください。
0x80201203	メモリ確保エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x80204203	メモリ確保エラー	・他のプログラムを終了し、空きメモリを確保してください。
0x80205203	メモリ確保エラー	
0x80205001	指定CPUエラー	・ActCpuTypeに設定したCPUタイプを確認してください。 ・システム構成が未サポートの構成でないか確認してください。
0x80209501	MT Simulator2起動エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x80209502	MT Simulator2起動エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x80209503	MT Simulator2通信エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x80209504	MT Simulator2起動エラー 同時に起動できるシミュレーション数の上限に達したため、起動できなかった。	・MT Simulator2を終了後リトライしてください。
0x80209505	MT Simulator2停止エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x80209506	MT Simulator2停止エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。
0x8020950F	MT Simulator2停止エラー MT Simulator2を起動していない。	・MT Simulator2 を開始後リトライしてください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x80209510	MT Simulator2起動エラー MT Simulator2を起動していない。	・ MT Simulator2を開始後リトライしてください。
0x80209516	MT Simulator2起動エラー MT Works2未インストールである。	・ MT Works2をインストールしてください。
0x80209518	MT Simulator2起動エラー 指定した号機番号が使用済みである。	・ 指定した号機番号のMT Simulator2を終了後、実行してください。
0x80209519	送信データ不正エラー	・ 引数を見直してください。
0x8020951C	MT Simulator2起動エラー MT Simulator2が終了処理中である。	・ MT Simulator2終了後にリトライしてください。
0x8020951D	MT Simulator2起動エラー Open済みである。	・ Close後にリトライしてください。
0x8020951E	MT Simulator2 未Openエラー	・ 弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0x8020951F	MT Simulator2起動エラー Open済みである。	・ Close後にリトライしてください。
0x80206004	リモート要求エラー	・ 本体スイッチをRunとし、テストモードを終了して再度実行してください。
0x8020A104	DLLロードエラー	・ プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・ 他のプログラムを終了し、空きメモリを確保してください。 ・ MX Componentを再インストールしてください。
0x8020A203	メモリ確保エラー	・ プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・ 他のプログラムを終了し、空きメモリを確保してください。
0x80A00101	未オープンエラー Openメソッドを実行していない。	・ Openメソッドを実行後、該当メソッドを実行してください。
0x80A00104	オープン済みエラー オープン状態でOpenメソッドを実行した。	・ 通信対象CPUを変更する場合は、Close後、Openメソッドを実行してください。
0x80A00105	引数のデータタイプが不正。	・ 引数に使用しているデータタイプを確認してください。
0x80A00106	引数のデータ範囲が不正	・ 引数に使用している値を確認してください。
0x80A00107	ノーコマンドエラー	・ メソッドがサポートしていません。
0x80A00109	データソースがオープンできない	・ ケーブルの接続を確認してください。
0x80A0010C	ロボットコントローラからの回答のフォーマットが不正	・ ノイズ対策を行ってください。
0xF0000001	ライセンスなしエラー パソコンにライセンスが与えられていない。	・ ライセンスキーFDにて、パソコンにライセンスを与えてください。
0xF0000002	設定データ読み出しエラー 論理局番の設定データ読み出しに失敗した。	・ 正しい論理局番を指定してください。 ・ 通信設定ユーティリティにて、論理局番を設定してください。
0xF0000003	オープン済みエラー オープン状態でOpenメソッドを実行した。	・ 通信対象CPUを変更する場合は、Close後、Openメソッドを実行してください。
0xF0000004	未オープンエラー Openメソッドを実行していない。	・ Openメソッドを実行後、該当メソッドを実行してください。
0xF0000005	初期化エラー MX Component内部保持のオブジェクトの初期化に失敗した。	・ プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・ MX Componentを再インストールしてください。
0xF0000006	メモリ確保エラー MX Component内部メモリの確保に失敗した。	・ プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・ 他のプログラムを終了し、空きメモリを確保してください。
0xF0000007	機能未サポートエラー メソッドがサポートしていない。	・ 該当メソッドはサポートしていないため、使用しません。
0xF1000001	文字コード変換エラー 文字コードの変換(UNICODE→ASCIIコード、またはASCIIコード→UNICODE)に失敗した。	・ メソッドで指定した文字列を確認してください。 ・ CPUユニットから取得したASCII文字列が異常です。 ・ CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 ・ プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・ GetCpuTypeメソッドをリトライしてください。
0xF1000002	先頭I/O番号エラー 指定した先頭I/O番号が不正な値である。 一致する先頭I/O番号が存在しない。	・ メソッドに指定する先頭I/O番号の値を確認してください。 ・ GPP機能にて、CPUユニットのパラメータ(I/O割付)を確認してください。
0xF1000003	バッファアドレスエラー 指定したバッファアドレスが不正な値である。バッファアドレスが範囲外である。	・ メソッドに指定したバッファアドレスの値を確認してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0xF1000004	バッファ読み出しサイズエラー バッファ読み出しを行った結果、指定サイズの取得ができなかった。	・再Open処理を行ってください。 ・CPUユニット、ユニットの設定およびケーブル状態などのシステムを見直してください。 ・リトライしてください。 ・プログラムを終了してください。
0xF1000005	サイズエラー 読み出し/書き込みメソッドで指定したサイズが異常である。 読み出し/書き込み先頭+サイズが、デバイスまたはバッファのエリアを越えている。	・メソッドに指定したサイズを確認してください。
0xF1000006	オペレーションエラー リモート操作で指定したオペレーションが異常な値である。	・メソッドに指定したオペレーション指定の値を確認してください。
0xF1000007	時計データエラー 時計データが異常である。	・メソッドに指定した時計データを確認してください。 ・CPUユニットの時計データに正しい時計データを設定してください。
0xF1000008	監視デバイス登録数オーバー EntryDeviceStatusメソッドで登録したデバイス点数が0点以下だった。 EntryDeviceStatusメソッドで登録したデバイス点数が20点より多かった。	・EntryDeviceStatusメソッドで登録するデバイス点数を1点以上20点以下にしてください。
0xF1000009	監視デバイスデータ登録済みエラー	・FreeDeviceStatusメソッドで登録解除を行った後、再度EntryDeviceStatusメソッドを実行してください。
0xF1000010	デバイス状態監視処理の起動に失敗した。 デバイス状態監視処理の終了に失敗した。	・EntryDeviceStatusメソッドにて、デバイス状態監視処理の起動/終了を再実行してください。
0xF1000011	VARIANT引数のデータタイプが間違っている。	・VARIANT引数に指定したデータタイプを見直してください。 ・配列変数のサイズは十分か確認してください。 ・各メソッドで指定されたデータタイプを設定しているか確認してください。
0xF1000012	デバイス状態監視間隔時間の範囲が、1秒から1時間(1～3600)以外の値である。	・デバイス状態監視時間を1～3600の間を指定してください。
0xF1000013	Connect済みエラー 同一オブジェクトでConnect実行後Connectを実行した。	・Disconnectメソッド実行後、Connectを実行してください。
0xF1000014	電話番号不正エラー 電話番号に、設定可能文字"0123456789-#*"以外の文字が含まれている。	・電話番号を設定し直して、再度Connectを行ってください。
0xF1000015	排他制御失敗エラー Connect実行時、およびDisconnect実行時に排他制御処理に失敗した。	・他のオブジェクトがConnectもしくは、Disconnect実行中である場合は、Connect/Disconnectメソッドが完了後、失敗したメソッド(Connect/Disconnect)を再度、実行してください。 ・自オブジェクトのみがConnect/Disconnectの処理を行っている場合は、以下の処理を行ってください。 ・プログラムを終了してください。 ・パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。
0xF1000016	電話回線接続中エラー MX Componentを使用したアプリケーション以外のアプリケーションで既に電話回線接続中である。	・電話回線接続中のアプリケーションで電話回線切断後、再度Connectを実行してください。
0xF1000017	電話回線未接続中エラー 電話回線が接続中ではない。 Connectを実行し、一度は電話回線接続中になったが、何らかの理由により電話回線が切断された。	・Connectメソッドが失敗した場合 Disconnect実行後、再度Connectを実行してください。 ・Connect以外のメソッドで失敗した場合 Disconnect実行後、再度Connectを実行し、電話回線接続する。電話回線接続後、失敗したメソッドを実行してください。
0xF1000018	電話番号なしエラー 電話番号が設定されていない。 接続方式が自動(コールバック番号指定時)、コールバック接続(番号指定時)、コールバック要求(番号指定時)時には、電話番号もしくは、コールバック番号が設定されていない。	・プログラム設定タイプの場合は、プロパティ ActDialNumberに電話番号を設定してください。 (接続方式が自動(コールバック番号指定時)、コールバック接続(番号指定時)、コールバック要求(番号指定時)時には、プロパティ ActDialNumber、プロパティ ActCallbackNumberに電話番号を設定してください。) ・ユーティリティ設定タイプの場合は、ウィザードで、電話番号を設定してください。 (接続方式が自動(コールバック番号指定時)、コールバック接続(番号指定時)、コールバック要求(番号指定時)時には、電話番号、コールバック番号を設定してください。)
0xF1000019	未Closeエラー Open中にDisconnectを実行した。	・Closeを実行してから、再度Disconnectを実行してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0xF100001A	電話回線接続先不一致エラー すでに電話回線接続中であるポートを使用して、現在接続中の電話番号と異なる電話番号に対して、Connectを実行した。(接続方式がコールバック受信の場合は、コールバック受信以外の接続方式とは電話番号が異なるとみならず。)	- すでに電話回線接続中である電話番号以外の電話番号に対して、接続を行う場合は、一度接続中である電話回線に対してDisconnectを実行し、電話回線を切断した後、Connectを実行してください。 - コールバック受信で回線接続する場合は、同じポートで先に実行するConnectの接続方式をコールバック受信にしてください。
0xF100001B	コントロール種別不一致エラー すでに電話回線Tel接続中であるオブジェクトとは異なるコントロール種別のオブジェクトがConnectを実行した。	現在電話回線接続中のオブジェクトでDisconnectを実行し、電話回線を切断した後、再度Connectを実行してください。
0xF100001C	未Disconnectエラー 実際に電話回線の接続を行ったオブジェクトがDisconnectを実行したときに、他のオブジェクトでConnect中のものがある。	Connect中のオブジェクトにおいて、すべてDisconnectを実行後、再度実際に電話回線接続を行ったオブジェクトでDisconnectを実行してください。
0xF100001D	未Connectエラー Connectを実行せずにOpenを実行した。もしくは、Disconnectを実行した。	- Connectを実行してから再度Openを実行してください。 - Connectを実行してから再度Disconnectを実行してください。
0xF100001E	致命的エラー	- プログラムを終了してください。 - パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口に連絡してください。
0xF100001F	Open時設定エラー Connect時に使用した電話番号、ポート番号の設定値とOpen時に設定している値が異なる。 接続方式の指定が誤っている。	- 電話番号、ポート番号を確認してください。 - 接続方式を確認してください。
0xF1000020	GX Simulator3未起動エラー	GX Simulator3を開始してください。
0xF1000021	データなしエラー 指定したファイルのサイズが0である。	ファイルを確認してください。
0xF1000022	ファイルサイズエラー 指定したファイルのサイズが大きすぎる。	ファイルを確認してください。
0xF1000023	ファイル入出力エラー ファイルの保存でエラーが発生した。	ファイル名を確認してください。
0xF1000024	ファイルが見つからないエラー ファイルがこれ以上見つからない。	検索を終了してください。
0xF1000025	ファイル名のエラー ファイル名が長すぎる。 転送元ディレクトリ名は188/バイト以内 転送元ファイル名は318/バイト以内 転送先ファイル名は259/バイト以内	ファイル名を確認してください。
0xF2000002	接続先のTELがエラー応答した。 以下の原因が考えられる。 通信エラーが発生した。	- プログラム設定タイプの場合は、プロパティの設定値を確認してください。 - ユーティリティ設定タイプの場合は、ウィザードでの設定内容を確認してください。
0xF2000003	不正なデータを受信した。 以下の原因が考えられる。 ノイズによる誤伝文を受信した。	- リトライしてください。 - 通信相手の機器を確認してください。
0xF2000004	モデムから応答がない。 以下の原因が考えられる。 モデム異常。 電話番号設定ミス。	- モデムの状態を確認してください。 - 電話番号を確認してください。 - 上記2点を確認しても問題がある場合は、プログラム設定タイプでは、プロパティ (ActConnectionCDWaitTimeなどの時間を設定するプロパティ) の値を、ユーティリティ設定タイプではウィザードで設定した詳細設定の内容を変更してください。
0xF2000005	回線が切断していない可能性がある。	電話回線を確認してください。
0xF2000006	パソコン側モデムがATコマンドを受け付けなかった。 以下の原因が考えられる。 対応していないATコマンドを指定している。 モデムの異常。	- 設定したATコマンドの内容を確認してください。 - モデムの状態を確認してください。
0xF2000007	モデムが標準のエスケープコマンドに正常応答しない。	- モデムを確認してください。 - タイムアウトの値が短すぎないか確認してください。(5000ms以上推奨。)
0xF2000009	モデムが回線切断コマンドに正常応答しない。	モデムを確認してください。
0xF200000A	相手先が着信しなかった。 相手先のモデムの着信設定が間違っている。 話し中である。 電話番号が間違っている。	- 相手先のモデムの着信設定を確認してください。 - 相手先が話し中でないか確認してください。 - 電話番号を確認してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0xF200000B	コールバック受信待ちがタイムアウトになった。	・コールバック受信待ちタイムアウト (ActCallbackReceptionWaitingTimeOut)の時間を長くし、再度Connect 実行してください。
0xF200000C	QJ71C24/CMOユニットのパスワードが解除できなかった。	・プロパティ ActPasswordにパスワード設定後、再度失敗したメソッドを実行してください。
0xF2010001	コールバック回線切断待ち時間が0～180秒以外である。 コールバック実施ディレイ時間が0～1800秒以外である。 電話番号が62文字より大きい。	・コールバック回線切断待ち時間が0～180秒以内であるか確認してください。 ・コールバック実施ディレイ時間が0～1800秒以内であるか確認してください。 ・電話番号が62文字以内であるか確認してください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0xF2010002	QJ71C24/CMOが指定の接続方式を受け付けなかった。 以下の原因が考えられる。 接続方式の違い。 コールバック用電話番号の違い。	・QJ71C24/CMO側の設定と、MX Componentで設定した内容が統一されているか確認してください。
0xF2010003	QJ71C24/CMOは「自動(コールバック固定時/番号指定時)」での接続を許可していない。	・QJ71C24/CMOの設定を確認してください。
0xF2100005	回線切断していない可能性がある。	・モデムと回線に異常がない場合は、プログラム設定タイプではプロパティ (ActConnectionCDWaitTimeなどの時間を設定するプロパティ)の値を、ユーティリティ設定タイプではウィザードで設定した詳細設定の内容を変更してください。
0xF2100006	モデムが初期化ATコマンドを受け付けなかった。	・プログラム設定タイプでは、プロパティ ActATCommandの設定を変更してください。 ・ユーティリティ設定タイプでは、ウィザードで設定したATコマンドを変更してください。
0xF2100007	パソコン側モデムがエスケープコマンドに応答しない。	・パソコン側モデムに異常がない場合は、プログラム設定タイプでは、プロパティ (ActConnectionCDWaitTimeなどの時間を設定するプロパティ)の値を、ユーティリティ設定タイプではウィザードで設定した詳細設定の内容を変更してください。
0xF2100008	パソコン側の送信データに対し、モデムからの応答がなかった。	・プログラム設定タイプではプロパティ (ActConnection CDWaitTimeなどの時間を設定するプロパティ)の値を、ユーティリティ設定タイプではウィザードで設定した詳細設定の内容を変更してください。
0xF21000**	モデムからの応答がない。 以下の原因が考えられる。 モデム異常。 電話番号設定ミス。	・モデムの状態を確認してください。 ・電話番号を確認してください。 ・上記2点を確認しても問題がある場合は、プログラム設定タイプでは、プロパティ (ActConnectionCDWaitTimeなどの時間を設定するプロパティ)の値を、ユーティリティ設定タイプではウィザードで設定した詳細設定の内容を変更してください。
0xF202****	通信に失敗しました。 ステータスにより以下の原因が考えられる。 通信タイムオーバー (ケーブル断線、指定 ポート未サポート、COMポート指定ミス) モデムの電源がOFFしている。	・ケーブルが断線していないか確認してください。 ・指定ポートが未サポートでないか確認してください。 ・正しいCOMポートを設定しているか確認してください。 ・モデムの電源がOFFしていないか確認してください。 ・さらに詳細なトラブルシュートについては、上位4桁を「0x0180」に置き換えたエラーコードに対する内容を参照してください。 例: 「0xF202480B」の場合 「0x0180480B」のエラーコードを参照ください。
0xF3000001	ラベルエラー メソッドに指定したラベル文字列が、不正なラベル文字列である。	・ラベル名を見直してください。 ・ラベル管理ユーティリティを起動して、システムラベル情報を確認してください。 ・各関数のラベル名の書式を参照し、正しい書式を使用しているか確認してください。
0xF3000002	ラベル管理サービス未起動エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・ラベル管理ユーティリティを起動して、システムラベル情報を確認してください。
0xF3000003	MMSサービス未起動エラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。
0xF3000004	システムラベルデータの最新化中	・リトライしてください。
0xF3000005	ラベル処理タイムアウトエラー	・リトライしてください。 ・システムラベルの登録数を減らしてください。
0xF3000006	MUTEX取得エラー 排他制御を行うためのMUTEXの取得に失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0xF4000001～ 0xF400000F	64ビットコントロールエラー	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0xF4000010～ 0xF4000012	64ビットコントロールアクセスエラー	・Closeメソッドを実行後、再度Openメソッドを実行してください。 ・DotUtilType64コントロールに最後にアクセスしてから、10分以上経過していないか確認してください。 ・一度の処理で扱うデータ量を減らしてください。 ・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。 ・弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
0xF4001001	未オープンエラー Openメソッドを実行していない。	Openメソッドを実行後、該当メソッドを実行してください。
0xF4001002	オープン済みエラー オープン状態でOpenメソッドを実行した。	通信対象CPUを変更する場合は、Close後にOpenメソッドを実行してください。
0xF4001003	レジストリ検索を失敗した。	・プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 ・他のプログラムを終了し、空きメモリを確保してください。 ・MX Componentを再インストールしてください。
0xFF000001	MX Component体験版エラー MX Component体験版の期限切れ。	・MX Component体験版をアンインストールし製品版をインストールするか、または再度体験版をインストールしてください。

*1 パソコンの最小ワーキングセット領域を大きくする方法については、パソコンボードの下記マニュアルを参照してください。

📖 MELSECデータリンクライブラリリファレンスマニュアル

・ロボットコントローラ用のエラーコード

エラーコード	エラー内容	処置方法
100	ENQ リトライ回数オーバ	・ノイズ対策を行ってください。
101		
102	NACK リトライ回数オーバ	
103	異常な長さの伝文	
104	受信タイムアウト	・ケーブルの接続を確認してください。
105	DSR 信号未検出	
106	接続が切断された	
107	送信タイムアウト	・ケーブルの接続を確認してください。 ・Open を実行してください。
108	シーケンス番号不正	・ノイズ対策を行ってください。
200	付属DLL が見つからない	・再インストールしてください。

13.2 CPU, ユニット, ネットワークボードが返すエラーコード

CPU, ユニットおよびネットワークボードが返すエラーコードについて説明します。

Point

☞ 634ページ エラーコード一覧のとおりエラーコードが返らない場合があります。
はじめに☞ 634ページ エラーコード確認時の注意事項を確認してください。

エラーコード一覧

CPU, ユニットおよびネットワークボードがエラーを検出した場合は、下記表に示すエラーコードが返ってきます。
上位2バイトがエラー検出ユニットを示しており、下位2バイトがエラー検出ユニットの返すエラーコードを示しています。
エラーの詳細については、エラーコードに対応するCPU, ユニットまたはネットワークボードのマニュアルを参照ください。

エラーコード	エラー検出ユニット
0x01010000~0x0101FFFF *1*2	モーションコントローラCPU
0x01070000~0x0107FFFF *1	CC-Link IEコントローラネットワークボード, MELSECNET/Hボード, CC-Link Ver.2ボード
0x01090000~0x0109FFFF *1	FXCPU
0x010A0000~0x010AFFFF *1	QCPU(Qモード), QSCPU, RCP, FX5CPU
0x010B0000~0x010BFFFF *1	Qシリーズ対応C24
0x010C0000~0x010CFFFF *1	Qシリーズ対応E71
0x010D0000~0x010DFFFF *1	パソコンCPUユニット
0x010F0000~0x010FFFFF *1	GOT

*1 ポイントを参照してください。

*2 ☞ 607ページ エラーコード一覧にもエラーコードを記載しています。

エラーコード確認時の注意事項

CPU, ユニットおよびネットワークボードが返すエラーコード確認時の注意事項を以下に示します。

■プロパティ設定ミス

使用しているシステム構成と設定したプロパティ値が一致しない場合、上位2バイトが正しいエラー検出ユニットを示しません。

例えば、QCPU(Qモード)に対して、ActCpuTypeにFXCPUのプロパティ値を設定している場合では、上位2バイトはFXCPUがエラー検出ユニットとなる場合があります。

このような場合は、システム構成と設定した全プロパティの値を確認の上、再度通信を行ってください。

また、ActUtilTypeコントロールを使用している場合は、通信設定ユーティリティの設定内容を確認ください。

■他局アクセス時

他局アクセス時には、使用している経路ユニット(CC-Link IEコントローラネットワーク, MELSECNET/H, CC-Link, シリアルコミュニケーション通信, Ethernetユニット)のエラーコードが、下位2バイトに入る場合があります。

このような場合には、エラー検出ユニットを示す上位2バイトが必ずしもエラー発生したユニットと一致しない場合がありますので、システム構成を確認の上、使用しているCPU, 経路ネットワークユニットおよびネットワークボードのマニュアルも合わせてご確認ください。

ラベル名の指定ミス

システムラベルVer.2が存在しない、システムラベルVer.2に対応するデバイスの読み/書き中に他からシステムラベルVer.2情報に変更された場合など、CPU 側の問題でラベル関連エラーが発生した場合、下表に示すエラーコードが返ります。

エラーコード	エラー内容	処置方法
0x01802001	ラベル情報エラー	- システムラベル指定の場合は、ラベル管理ユーティリティでシステムラベル名に割り付けたグローバルラベル名を見直してください。 - CPUにグローバルラベルが存在するか確認してください。
0x010A4000～0x010A4FFF	エラー内容、処置方法については、下記マニュアルを参照してください。 MELSEC iQ-R CPUユニットユーザーズマニュアル(応用編)	

13.3 HRESULT型のエラーコード

通常、ActiveXコントロールはHRESULT型の戻り値を返します。Actコントロールも同様です。カスタムI/Fを使用の場合、メソッドAPIの戻り値に相当します。

ディスパッチI/Fを使用の場合、HRESULT型の戻り値は例外処理を行うことで取得できます。

ActコントロールのHRESULT型の戻り値を以下に示します。

戻り値	終了状態	内 容
S_OK	正常終了	関数処理が正常に終了しました。
S_FALSE	正常終了	関数処理(ActiveXコントロールとしての)は正常終了しましたが、操作(シーケンサへのアクセス)は失敗しました。
E_POINTER	異常終了	関数に渡されたポインタが異常です。
E_OUTOFMEMORY	異常終了	メモリ確保またはオブジェクト作成に失敗しました。
E_FAIL	異常終了	不特定のエラーが発生しました。

Point

ディスパッチI/Fは、HRESULT型の戻り値を取得するための例外処理を行っていない場合、ActコントロールからE_POINTER(E_XXXXX定義の戻り値)などが返ったときにOSレベルでエラーダイアログを表示します。

13.4 イベントビューアに表示されるエラーコード

MX ComponentがWindowsのイベントビューアに表示するエラーコードについて説明します。

MX Componentでは、ラベル情報を管理するために、MMS(システムラベルデータベース)サービスとラベル管理サービスを使用します。

ラベル管理サービスでエラーが発生した場合、イベントビューアのシステムログにエラー内容が表示されます。

MX Componentのラベル管理サービスに関するエラーは、イベントビューアのソース欄に「MXLabelService」と表示されます。

エラーと処置方法を以下に示します。

イベントID	エラーメッセージ	処置方法
3	MMS Service not started.	- MMS(システムラベルデータベース)サービスが起動完了するまでしばらくお待ちください。起動完了しない場合は、プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。
5	MXLabelService error.(%1,%2) please perform one of the followings. -Re-start Personal computer. -Re-install the application and try again.	- プログラムを終了し、パソコンを再起動してください。 - MX Componentを再インストールしてください。 - 弊社、電話技術相談窓口ご連絡してください。

付録

付1 以前のバージョンからの変更点

バージョンアップにともなう追加/変更点を示します。

対応バージョン	項目	内容	参照
Version 5.000A	コントロール	64ビット用に対応しました。 - DotSupportMsgコントロールをActSupportMsgコントロールに統合しました。	—
	関数	64ビット用に対応しました。	407ページ 関数
	動作環境	OSはWindows 10にのみ、対応しました。	•  MX Component Version 5インストール手順書
	開発ソフトウェア	下記ソフトウェアにのみ、対応しました。 - Visual Studio 2019 - Microsoft Excel 2019 - Microsoft Access 2019	
	生産中止品への対応	生産中止品を未サポートにしました。	—
	通信形態	下記の通信形態を未サポートにしました。 - Qシリーズバス通信 - GX Simulator通信 - モデム通信	29ページ サポートする通信経路
	インストールフォルダ	デフォルトのインストール先を"C:\MELSEC"から"C:\Program Files\MELSOFT"に変更しました。	—
	マニュアル	e-Manualに対応しました。	—
Version 5.002C	ユニット	FX5-ENET, FX5-ENET/IPに対応しました。	34ページ ユニット
	通信経路	下記の通信経路を追加しました。 - 接続先CPUがFX5CPUのEthernet通信(Ethernetアダプタを使用) - 接続先CPUがFX5CPUのGOTトランスペアレント通信(Ethernetアダプタを使用)	200ページ Ethernet通信 329ページ GOTトランスペアレント通信
	開発ソフトウェア	下記ソフトウェアに対応しました。 - Microsoft Excel for Microsoft 365 - Microsoft Access for Microsoft 365	•  MX Component Version 5インストール手順書
Version 5.003D	ユニット	FX5S, FX5-CCLGN-MSに対応しました。	34ページ ユニット
	動作環境	Windows11に対応しました。	•  MX Component Version 5インストール手順書
	開発ソフトウェア	下記ソフトウェアに対応しました。 - Visual Studio 2022 - Microsoft Excel 2021 - Microsoft Access 2021	
Version 5.004E	ユニット	R64MTCPU, WinCPU, L32HCPUに対応しました。	34ページ ユニット
	動作環境	Windows 10 IoT Enterprise 2019 LTSCに対応しました。	•  MX Component Version 5インストール手順書
	通信経路	接続局がRCPUのCC-Link IEコントローラネットワーク通信およびCC-Link IEフィールドネットワーク通信において、MELSEC iQ-RシリーズのCC-Link IE TSN, CC-Link IEコントローラネットワーク, CC-Link IEフィールドネットワーク, およびEthernetを経由したアクセスに対応しました。	306ページ CC-Link IEコントローラネットワーク通信 311ページ CC-Link IEフィールドネットワーク通信
Version 5.006G	ユニット	RJ71GN11-SX, NZ81GN11-T2, NZ81GN11-SXに対応しました。	34ページ ユニット
	通信経路	CC-Link IE TSNボード(NZ81GN11-T2, NZ81GN11-SX)を使用した通信に対応しました。	315ページ CC-Link IE TSN通信
Version 5.007H	通信経路	MELSEC iQ-Rシリーズの二重化CPUにおいて、制御系へのアクセスに対応しました。	200ページ 接続局がMELSEC iQ-Rシリーズ対応E71のEthernet通信(TCP) 306ページ 接続局がRCPUのCC-Link IEコントローラネットワーク通信 642ページ RnPCPU(二重化モード)またはRnPSFCPUの場合
		MELSOFT Mirrorのシミュレーション機能を使用した通信に対応しました。	327ページ MELSOFT Mirror通信

対応バージョン	項目	内容	参照
Version 5.008J	動作環境	Windows Server 2022およびWindows Server 2019に対応しました。	📖 MX Component Version 5インストール手順書
	Actコントロール	グローバルラベルを使用したデータのアクセスに対応しました。	22ページ グローバルラベル名を指定したデータ取得
Version 5.009K	動作環境	下記に対応しました。 - Windows 11 (Pro for Workstations, IoT Enterprise 2024) - Windows Server 2025	📖 MX Component Version 5インストール手順書
	開発ソフトウェア	下記ソフトウェアに対応しました。 - Microsoft Excel 2024 - Microsoft Access 2024	

付2 ルーティングパラメータの考え方

ルーティング機能とは、多階層システムにおいてCPUユニットの局が他のネットワークNo.の局へトランジェント伝送する機能です。

ルーティング機能を実行するには、"ルーティングパラメータ"を設定し、ネットワークNo.とブリッジの役割を行う局の対応付けが必要です。

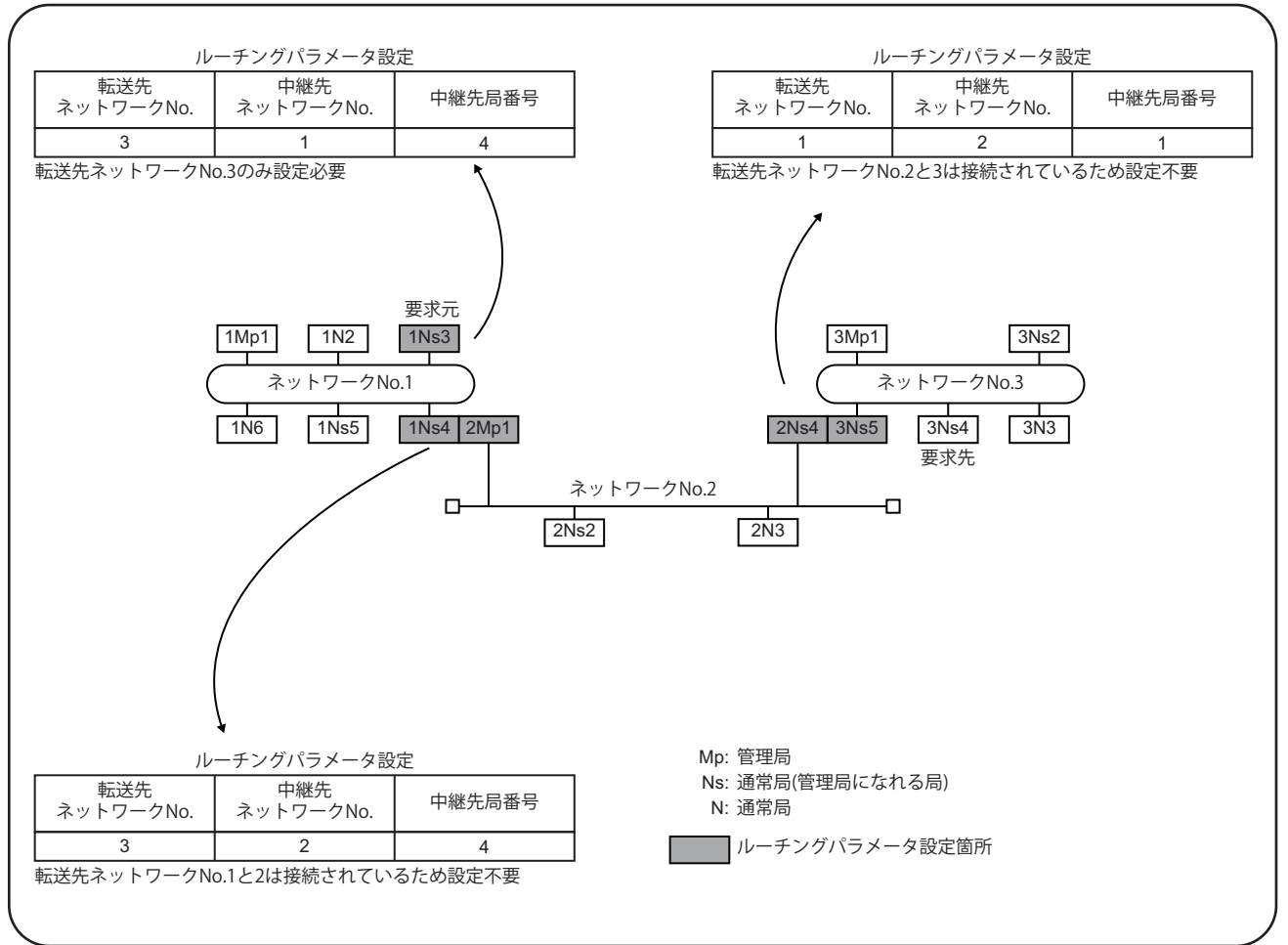
ルーティングパラメータの設定

■CPUユニットの要求元と中継局の設定

ルーティングパラメータは、CPUユニットの要求元と中継局に設定が必要です。

- ・要求元には、要求先へ行くための設定が必要です。
- ・中継局には、要求元から要求先へ行くための設定と、要求先から要求元へ行くための設定が必要です。
- ・要求先には設定が不要です。

たとえば、下図の1Ns3から3Ns4に対してトランジェント伝送するためには、トランジェント伝送を実行する1Ns3とブリッジの役割をする1Ns4および2Mp1のCPUユニット、2Ns4および3Ns5のCPUユニットにルーティングパラメータの設定が必要です。



■"転送先ネットワークNo."の設定

CPUユニットには、最大16個の"転送先ネットワークNo."が設定できます。

自局が要求元になったり、自局を経由して他局へアクセスできたりするのは、16種類のネットワークNo.です。

ルーチングパラメータの設定箇所と内容

トランジェント伝送を行う場合、システムによりルーチングパラメータの設定箇所が異なります。

■2階層システム

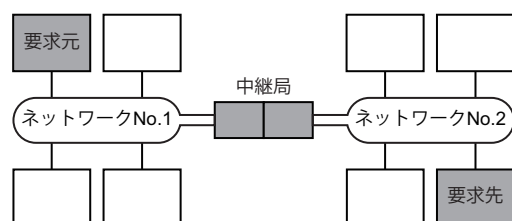
同一ネットワーク内へのトランジェント伝送のため、ルーチングパラメータは設定不要です。



■多階層1(2つのネットワーク)

要求元の局にのみルーチングパラメータを設定します。^{*1}

要求元には、要求先(ネットワークNo.2)へ行くための内容を設定します。



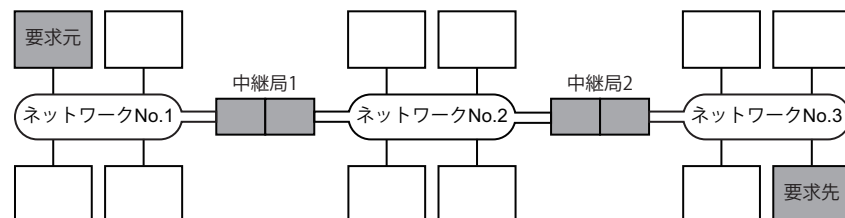
■多階層2(3つのネットワーク)

要求元と中継局にルーチングパラメータを設定します。^{*1}

要求元には、要求先(ネットワークNo.3)へ行くための内容を設定します。

中継局1には、要求先(ネットワークNo.3)へ行くための内容を設定します。

中継局2には、要求元(ネットワークNo.1)へ行くための内容を設定します。



■多階層3(4つ以上のネットワーク)

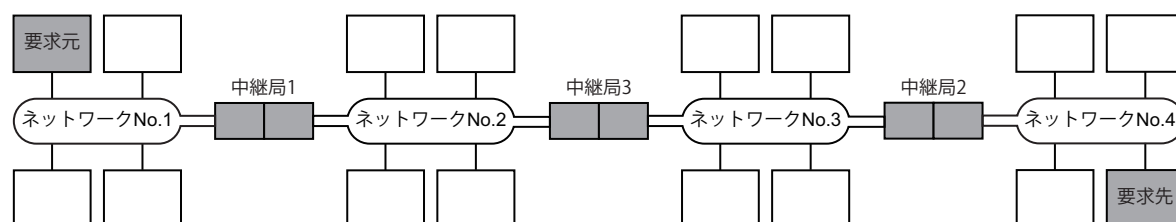
要求元と中継局にルーチングパラメータを設定します。^{*1}

要求元には、要求先(ネットワークNo.4)へ行くための内容を設定します。

中継局1(要求元に一番近い中継局)には、要求先(ネットワークNo.4)へ行くための内容を設定します。

中継局2(要求先に一番近い中継局)には、要求元(ネットワークNo.1)へ行くための内容を設定します。

中継局3(中継局1と中継局2以外の中継局)には、要求先(ネットワークNo.4)と要求元(ネットワークNo.1)へ行くための内容を設定します。



^{*1} Ethernetに接続されたパソコンが要求元の場合について示します。

要求元へのルーチングパラメータの設定は不要です。

中継局には、要求先へ行くためのルーチングパラメータの設定(MELSEC iQ-Rシリーズの場合はルーチング設定)が必要です。

下記のマニュアルを参照し設定してください。

📖 MELSEC-Q/L Ethernetインタフェースユニットユーザーズマニュアル (応用編)

📖 MELSEC iQ-R CPUユニットユーザーズマニュアル(応用編)

付3 マルチCPUシステムについて

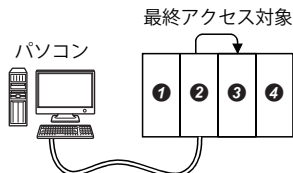
マルチCPUの号機指定は、最終アクセス局に対してのみ有効となります。

また、アクセス局の経由ユニットの非管理CPUへアクセスする場合は、自局、すべての中継局およびアクセス局の経由ユニットとQCPU(Qモード)を機能バージョンBのユニットにしてください。

CPU COM通信の場合

例

CPUユニットの3号機(0x3E2)を指定してアクセスした場合は、**③**のCPUに対してアクセスします。



- ①: QCPU(Qモード) 1号機
- ②: QCPU(Qモード) 2号機
- ③: QCPU(Qモード) 3号機
- ④: QCPU(Qモード) 4号機

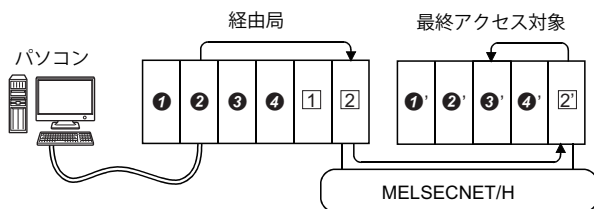
CPU COM通信(MELSECNET/H経由)の場合

例

CPUユニットの3号機(0x3E2), ネットワーク番号: 2, 局番: 2を指定してアクセスした場合は、**③'**のCPUに対してアクセスします。

経由局に対しては、CPU号機指定はできません。

したがって、下記の場合にネットワーク番号: 1に対してアクセスしても、**②**のCPUに管理されたネットワーク番号は"2"しか存在しないため、エラーとなります。



- ①: QCPU(Qモード) 1号機
- ②: QCPU(Qモード) 2号機
- ③: QCPU(Qモード) 3号機
- ④: QCPU(Qモード) 4号機

- [1]: ①が管理するMELSECNET/Hユニット(ネットワーク番号: 1, 局番: 1)
- [2]: ②が管理するMELSECNET/Hユニット(ネットワーク番号: 2, 局番: 1)
- [2']: ②'が管理するMELSECNET/Hユニット(ネットワーク番号: 2, 局番: 2)

付4 Q00UJCPU, Q00UCPU, Q01UCPU使用時のネットワークユニットの装着可能台数について

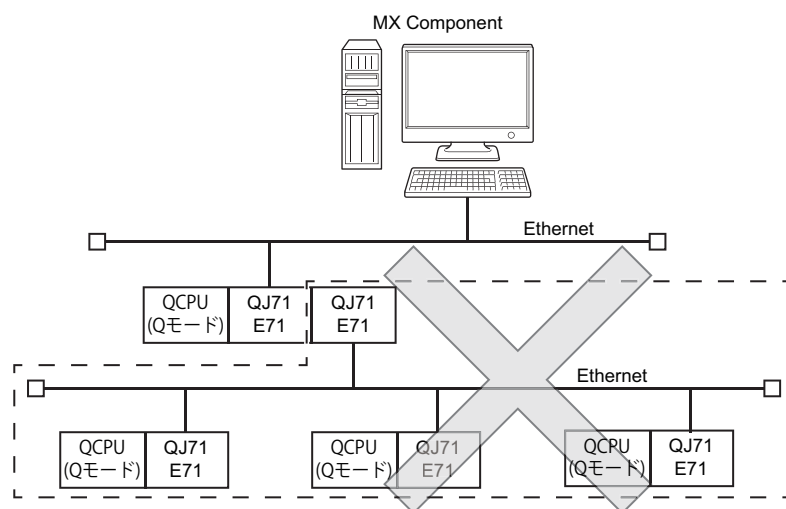
Q00UJCPU, Q00UCPU, Q01UCPU使用時に接続できるネットワークユニットの装着可能台数を下記に示します。

ネットワークユニット	装着可能台数
MELSECNET/Hユニット	1台
Ethernetユニット	1台
CC-Linkユニット(機能/バージョンB以降品)	2台
CC-Link IEコントローラネットワークユニット	1台

したがって、下記のようなシステムは構築することができません。

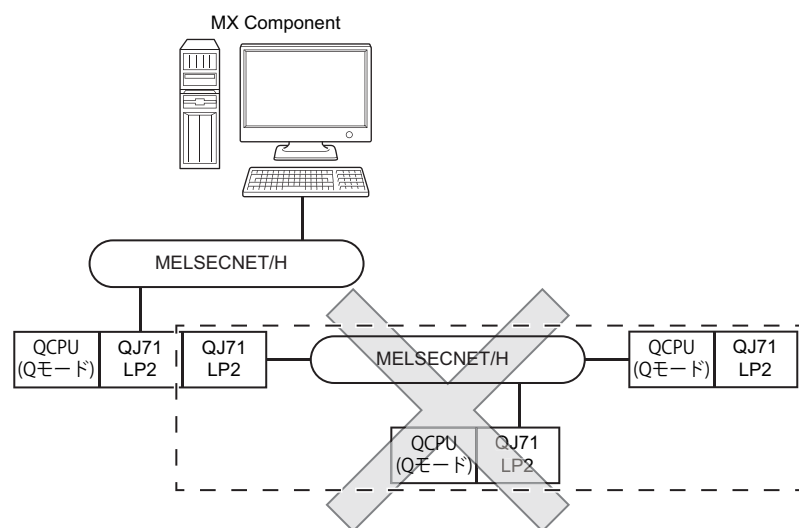
例

Ethernetユニットは装着可能台数が1台のため、破線部のシステム構築はできません。



例

MELSECNET/Hユニットは装着可能台数が1台のため、破線部のシステム構築はできません。



付5 二重化CPUへの対応について

MX Componentの二重化CPUへの対応について説明します。

RnPCPU(二重化モード)またはRnPSFCPUの場合

二重化CPU指定

MELSEC iQ-Rシリーズの二重化CPU指定では、「制御系」、「指定なし」のいずれかを選択して、対応する二重化CPUにアクセスすることができます。

「制御系」選択時は制御系に接続し、系切替えに追従して制御系へのアクセスを継続します。

通信経路を自動切替えする条件については、下記を参照してください。

643ページ 経路切替えが行われる条件

「指定なし」選択時は従来と同様に、接続先のCPUユニットに接続します。

二重化CPU指定の設定は、ユーティリティ設定タイプの通信設定ウィザードによるものと、プログラム設定タイプのコントロールのプロパティによるものがあります。

MX Componentが二重化CPUシステムにアクセスしている場合、どちらの系にアクセスしているかを判断するには、下記の特殊リレーをモニタしてください。

■A系/B系のどちらであるかを確認するとき

二重化システムのA系/B系を示します。

トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しません。

特殊リレー	A系	B系	系未決定
SM1632(A系判別フラグ)	ON	OFF	OFF
SM1633(B系判別フラグ)	OFF	ON	OFF

■運転系状態を確認するとき

CPUユニットの運転状態を示します。

トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しません。

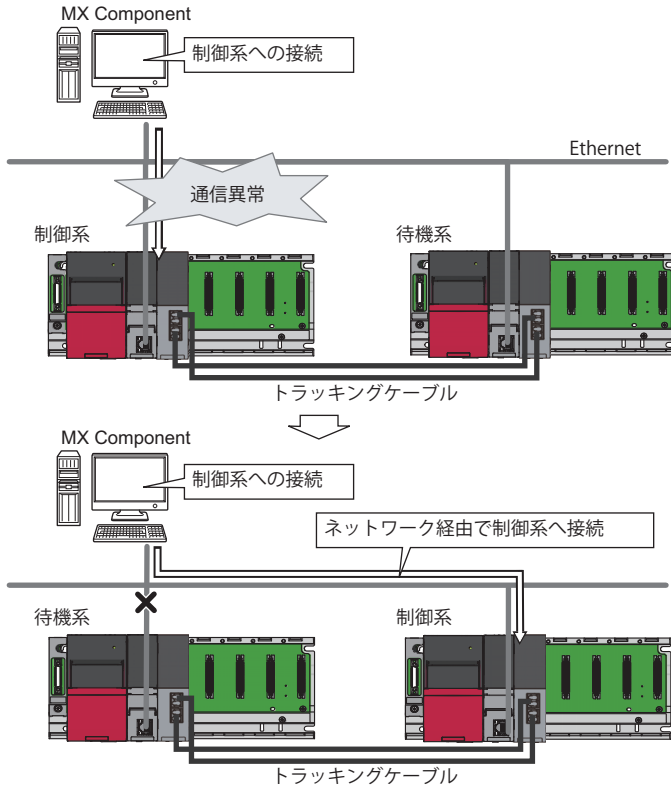
特殊リレー	制御系	待機系	系未決定
SM1634(制御系判別フラグ)	ON	OFF	OFF
SM1635(待機系判別フラグ)	OFF	ON	OFF

系切替えが発生したときの動作

通信異常の有無により、下記のように系切替え後の制御系へのアクセスを継続します。
Ethernet接続時の例を下記に示します。

例

通信異常が発生したとき



付

Point

通信異常の発生から制御系へ接続して通信を開始するまでに、時間がかかる場合があります。

通信経路の自動切替え

EthernetおよびCC-Link IEコントローラネットワークに接続されている二重化CPUに対してアクセスしている場合、通信異常が発生すると通信経路を自動的に切り替え、制御系へのアクセスを継続します。

この通信経路の自動切替えを以下、「経路切替え」と言います。

なお、経路切替えに関連する特殊レジスタについては、下記を参照してください。

📖 MELSEC iQ-R CPUユニットユーザーズマニュアル(応用編)

■経路切替えが行われる条件

下記の条件でアクセスしているときは、通信異常が発生しても経路切替えにより、二重化CPUへのアクセスが継続されます。

- Ethernet接続の場合

対応ユニット: RJ71EN71

項目		アクセスの継続が可能な条件
シーケンサの運転モード		バックアップモード
MX Componentの通信設定	IPアドレス	制御系IPアドレス ^{*1}
	通信プロトコル	TCP
	二重化CPU指定	制御系

^{*1} 制御系IPアドレスの詳細は、下記を参照してください。

📖 MELSEC iQ-R Ethernetユーザーズマニュアル(応用編)

- CC-Link IEコントローラネットワーク接続の場合

対応ユニット: RJ71GP21-SX

項目		アクセスの継続が可能な条件
シーケンサの運転モード		バックアップモード
MX Componentの通信設定	局番	A系またはB系の局番
	二重化CPU指定	制御系

QnPRHの場合

二重化CPU指定

Qシリーズの二重化CPU指定では、「制御系」、「指定なし」のいずれかを選択して、対応する二重化CPUにアクセスすることができます。

「制御系」選択時は制御系に接続し、系切替えに追従して制御系へのアクセスを継続します。

「指定なし」選択時は従来と同様に、接続先のCPUユニットに接続します。

二重化CPU指定の設定は、ユーティリティ設定タイプの通信設定ウィザードによるものと、プログラム設定タイプのコントロールのプロパティによるものがあります。

MX Componentが二重化CPUシステムにアクセスしている場合、どちらの系にアクセスしているかを判断するには、下記の特殊リレーをモニタしてください。

■A系/B系のどちらであることを確認するとき

二重化システムのA系/B系を示します。

トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しません。

特殊リレー	A系	B系	系未決定(TRK.CABLE ERR.(エラーコード: 6120)発生時)
SM1511(A系判別フラグ)	ON	OFF	OFF
SM1512(B系判別フラグ)	OFF	ON	OFF

■運転系状態を確認するとき

CPUユニットの運転状態を示します。

トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しません。

特殊リレー	制御系	待機系	系未決定(TRK.CABLE ERR.(エラーコード: 6120)発生時)
SM1515(制御系判別フラグ)	ON	OFF	OFF
SM1516(待機系判別フラグ)	OFF	ON	OFF

付

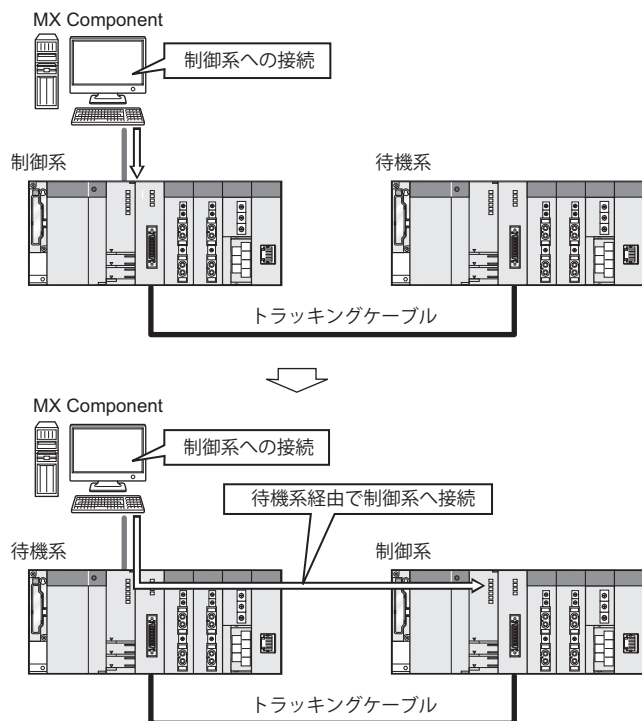
系切替えが発生したときの動作

「制御系」を選択して二重化CPUにアクセスしているときに系切替えが発生した場合は、次のようにアクセスを継続します。

■MELSECNET/H, Ethernet, CC-Link IEコントローラネットワーク以外で接続している場合

系切替え後の制御系へのアクセスを継続します。

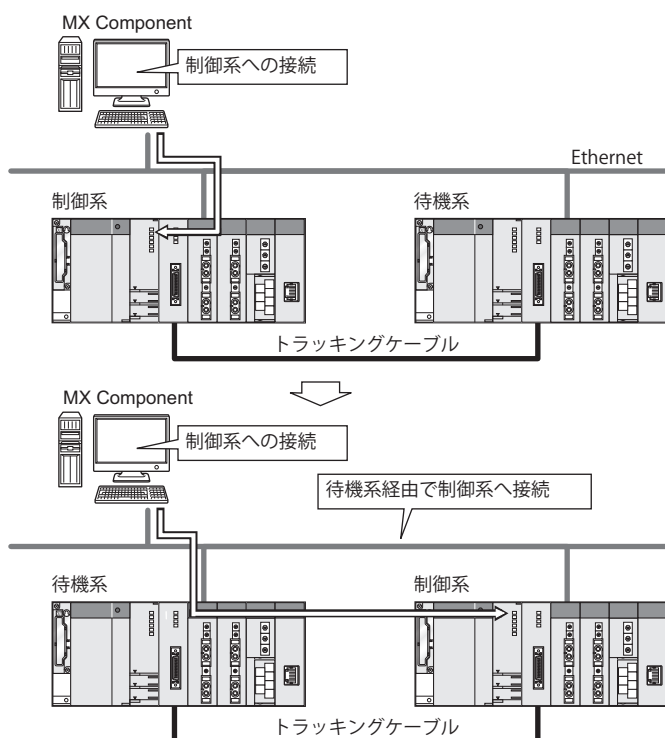
CPU直結時の例を下記に示します。



■MELSECNET/H, Ethernet, CC-Link IEコントローラネットワークに接続している場合
通信異常の有無により、下記のように系切替え後の制御系へのアクセスを継続します。
Ethernet接続時の例を下記に示します。

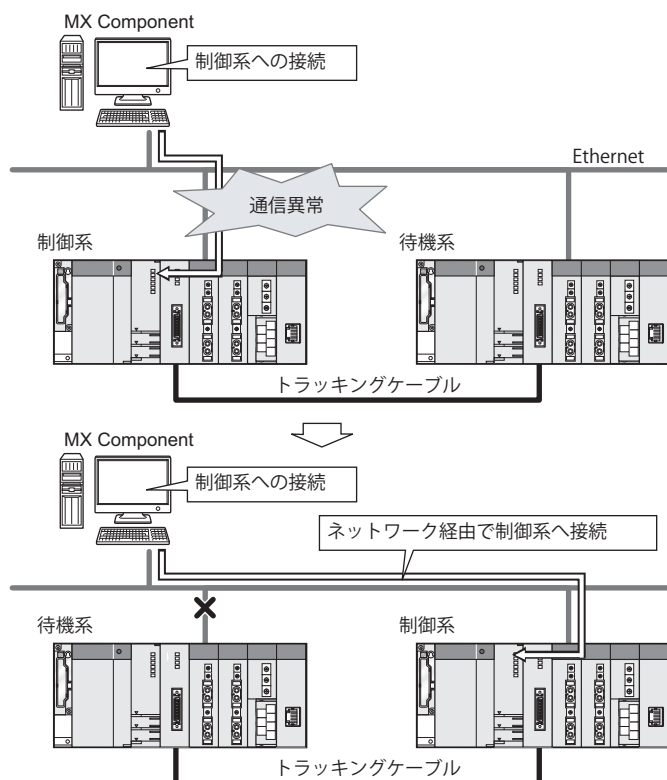
例

通信が正常に行われているとき



例

通信異常が発生したとき



Point

Ethernet接続の場合、通信異常の発生から制御系へ接続して通信を開始するまでに、時間がかかる場合があります。

通信経路の自動切替え

制御系指定でMELSECNET/H, Ethernet, CC-Link IEコントローラネットワークに接続されている二重化CPUに対してアクセスしている場合、通信異常が発生すると通信経路を自動的に切り替え、制御系へのアクセスを継続します。

この通信経路の自動切替えを以下、「経路切替え」と言います。

経路切替えが行われる条件、経路切替え発生有無の確認方法と経路切替えによるアクセス例を下記に示します。

■経路切替えが行われる条件

下記の条件でアクセスしているときは、通信異常が発生しても経路切替えにより、二重化CPUへのアクセスが継続されます。

—	アクセスの継続が可能な条件
運転モード	バックアップモード、セパレートモード*1
二重化CPU指定	制御系

*1 セパレートモードの場合、制御系の電源OFF/リセット時にはシステムによる系切替えは行われません。

ただし、通信を開始時にトラッキング異常が発生していた場合、その後にトラッキングが復旧しても、経路切替えによる制御系へのアクセスの継続は行われません。

どちらか一方の二重化CPUが電源OFFまたはリセット状態も含まれます。

■経路切替え発生有無の確認方法

二重化CPU指定で通信している場合、通信異常の発生による経路切替えで通信が継続されているか否かを推測することができます。

モニタする特殊リレー・特殊レジスタと推測される経路切替えの可能性について、下記に示します。

SM1600*1	SD1590*2	SD1690*2	経路切替えの発生の可能性	参照
OFF	いずれかが0以外		ネットワークユニットからの系切替え要求が検出されたため、経路切替えが行われた可能性があります。	650ページ 経路切替えによるアクセス例 通信異常で系切替えが発生した場合
ON	0	0	他系異常が発生しているため、経路切替えが行われた可能性があります。	650ページ 経路切替えによるアクセス例 待機系異常が発生した場合
ON	いずれかが0以外		他系異常が発生している、もしくはネットワークユニットからの系切替え要求が検出されたため経路切替えが行われた可能性があります。	650ページ 経路切替えによるアクセス例 通信異常で系切替えが発生した場合、待機系異常が発生した場合

*1 SM1600がONしていても、トラッキングケーブル経由でCPUにアクセスしていない場合は、経路切替えは発生しません。

*2 Ethernetに接続されている二重化CPUに対して、SM1600, SD1590, SD1690により経路切替えの発生の有無を推測するときは、GX Works2のネットワークパラメータの二重化設定で下記の項目をチェックしてください。

断線検出で系切替え要求を発行する

通信異常で系切替え要求を発行する

上記特殊リレーと特殊レジスタの状態をもとに下記の確認を行い、異常の要因を取り除いてください。

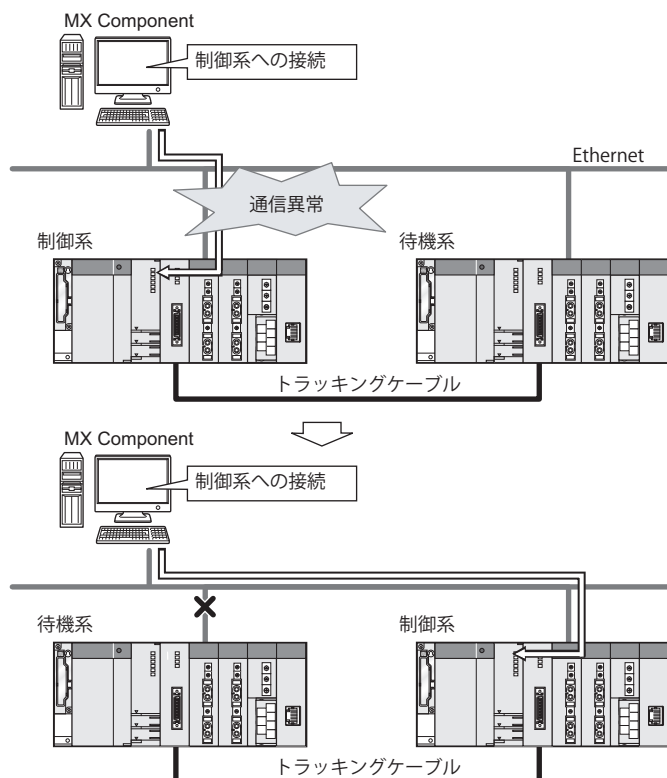
- ・二重化CPUでエラーが発生していないか。
- ・トラッキングケーブルの状態、およびトラッキングケーブルが正しく接続されているか。
- ・該当ネットワークユニットでエラーが発生していないか、および該当ネットワークユニットが接続されているネットワークでエラーが発生していないか。

■経路切替えによるアクセス例

Ethernet接続にて制御系へアクセスしている場合の経路切替えの例を下記に示します。

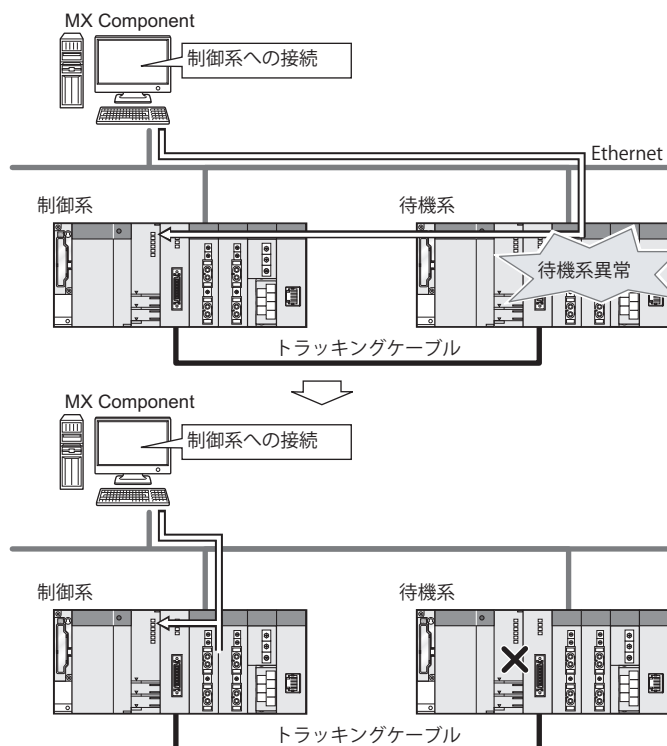
例

通信異常で系切替えが発生した場合



例

待機系異常が発生した場合



- 通信を開始する時点で相手先指定の二重化CPUに対して通信異常が発生している場合は、経路切替えが行われません。(通信エラーとなります。)
- Ethernet接続の場合、通信異常の発生から制御系へ接続して通信を開始するまでに、時間がかかる場合があります。
- 通信異常が発生している場合は、下記を参照し、通信の障害を取り除いてください。

☞ 649ページ 経路切替え発生有無の確認方法

☞ 650ページ 経路切替えによるアクセス例

経路切替えの発生の有無を推測するときにモニタする特殊リレー，特殊レジスタ

経路切替えの発生の有無を推測するときにモニタする特殊リレー，特殊レジスタの詳細を示します。

番号	名称	内容	内容詳細
SM1600	他系異常フラグ	OFF: 異常なし ON: 異常あり	• 二重化システム用エラーチェックでエラーが生じればONします。(SD1600のいずれかのビットONでONします。) • 以後、異常がなくなればOFFします。
SD1590	自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	• 自系のネットワークユニットからの系切替え要求が発行されたユニットNo.ごとに下記ビットがONします。 • ユーザにより該当ユニットの異常を取り除いたあと、システムにてOFFします。 • 他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.はSD1690を参照します。
SD1690	他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	• 他系のネットワークユニットからの系切替え要求が発行されたユニットNo.ごとに下記ビットがONします。 • ユーザにより該当ユニットの異常を取り除いたあと、システムにてOFFします。 • 自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.はSD1590を参照します。

組合せ可否表

Qシリーズの二重化増設ベースユニット(Q65WRB)経由の通信をサポートします。

組合せの可否を下記に示します。

○: 使用可能, ×: 使用不可

品名	形名	機能バージョン	組合せ可否	
			基本ベース装着の場合	増設ベース装着の場合
MELSECNET/Hユニット	QJ71LP21-25	D以降	○	×
	QJ71LP21S-25	D以降	○	×
	QJ71LP21G	D以降	○	×
	QJ71BR11	D以降	○	×
	QJ72LP25-25	—	×	×
	QJ72LP25G	—	×	×
	QJ72BR15	—	×	×
	QJ71LP21	—	×	×
Ethernetユニット	QJ71E71	—	×	×
	QJ71E71(N1)-B2	D以降	○	○
	QJ71E71(N1)-B5	D以降	○	○
	QJ71E71-100	D以降	○	○
モデムユニット	QJ71CMO	B以降	×	○
シリアルコミュニケーションユニット	QJ71C24N	—	×	○
	QJ71C24N-R2	—	×	○
	QJ71C24N-R4	—	×	○
CC-Linkユニット	QJ61BT11N	—	○ ^{*1}	○
CC-Link IEコントローラネットワークユニット	QJ71GP21-SX	D以降	○	×
	QJ71GP21S-SX	D以降	○	×

*1 シリアルNo.の上5桁が06052未満の場合は使用できません。

付6 ラベル名で使⽤できない文字列

予約語

予約語は、ラベル名として使用できません。

予約語の一覧を下記に示します。

カテゴリ	文字列
クラス識別子	VAR, VAR_RETAIN, VAR_ACCESS, VAR_CONSTANT, VAR_CONSTANT_RETAIN, VAR_INPUT, VAR_INPUT_RETAIN, VAR_OUTPUT, VAR_OUTPUT_RETAIN, VAR_IN_OUT, VAR_IN_EXT, VAR_EXTERNAL, VAR_EXTERNAL_CONSTANT, VAR_EXTERNAL_CONSTANT_RETAIN, VAR_EXTERNAL_RETAIN, VAR_GLOBAL, VAR_GLOBAL_CONSTANT, VAR_GLOBAL_CONSTANT_RETAIN, VAR_GLOBAL_RETAIN
データ型	BOOL, BYTE, INT, SINT, DINT, LINT, UINT, USINT, UDINT, ULINT, WORD, DWORD, LWORD, ARRAY, REAL, LREAL, TIME, STRING, TIMER, COUNTER, RETENTIVETIMER, POINTER, ビット, ワード[符号なし]/ビット列[16ビット], ダブルワード[符号なし]/ビット列[32ビット], ワード[符号付き], ダブルワード[符号付き], 単精度実数, 倍精度実数, 文字列, 時間, タイマ, カウンタ, 積算タイマ, ポインタ
データタイプ階層	ANY, ANY_NUM, ANY_BIT, ANY_REAL, ANY_INT, ANY_DATE ANY_SIMPLE, ANY16, ANY32
デバイス名	X, Y, D, M, T, B, C, F, L, P, V, Z, W, I, N, U, J, K, H, E, A, SD, SM, SW, SB, FX, FY, DX, DY, FD, TR, BL, SG, VD, ZR, ZZ
デバイスとして認識される文字列 (デバイス名+数字)	X0など
ST演算子	NOT, MOD (,), -
IL演算子	LD, LDN, ST, STN, S, S1, R, R1, AND, ANDN, OR, ORN, XOR, XORN, ADD, SUB, MUL, DIV, GT, GE, EQ, NE, LE, LT, JMP, JMPC, JMPCN, CAL, CALC, CALCN, RET, RETC, RETCN LDI, LDP, LDF, ANI, ANDP, ANDF, ANB, ORI, ORP, ORF, ORB, MPS, MRD, MPP, INV, MEP, MEF, EGP, EGF, OUT(H), SET, RST, PLS, PLF, FF, DELTA(P), SFT(P), MC, MCR, STOP, PAGE, NOP, NOPLF
SFC命令	SFCP, SFCPEND, BLOCK, BEND, TRANL, TRANO, TRANA, TRANC, TRANCA, TRANOA, SEND, TRANOC, TRANOCA, TRANCO, TRANCOC, STEPn, STEPD, STEPSC, STEPSE, STEPST, STEPPr, STEPc, STEPg, STEPI, STEPID, STEPISC, STEPISE, STEPIST, STEPIR, TRANJ, TRANOJ, TRANOCJ, TRANCJ, TRANCOJ, TRANCOJC
STコードボディ	RETURN, IF, THEN, ELSE, ELSIF, END_IF, CASE, OF, END_CASE, FOR, TO, BY, DO, END_FOR, WHILE, END_WHILE, REPEAT, UNTIL, END_REPEAT, EXIT, TYPE, END_TYPE, STRUCT, END_STRUCT, RETAIN, VAR_ACCESS, END_VAR, FUNCTION, END_FUNCTION, FUNCTION_BLOCK, END_FUNCTION_BLOCK, STEP, INITIAL_STEP, END_STEP, TRANSITION, END_TRANSITION, FROM, UNTILWHILE
応用関数のファンクション名	AND_E, NOT_Eなどの応用関数のファンクション名
応用関数のファンクションブロック名	CTD, CTUなどの応用関数のファンクションブロック名
記号	/, ¥, *, ?, <, >, , ", :, [,], ,, =, +, %, ', ~, @, {, }, &, ^, ., タブ文字 ; !, #, \$, `
日付時刻リテラル	DATE, DATE_AND_TIME, DT, TIME, TIME_OF_DAY, TOD
その他	ACTION, END_ACTION, CONFIGURATION, END_CONFIGURATION, CONSTANT, F_EDGE, R_EDGE, AT, PROGRAM, WITH, END_PROGRAM, TRUE, FALSE, READ_ONLY, READ_WRITE, RESOURCE, END_RESOURCE, ON, TASK, EN, ENO, BODY_CCE, BODY_FBD, BODY_IL, BODY_LD, BODY_SFC, BODY_ST, END_BODY, END_PARAMETER_SECTION, PARAM_FILE_PATH, PARAMETER_SECTION, SINGLE, RETAIN, INTERVAL
K1～K8で始まる文字列	K1AAAなど
ラダー言語でのステートメント	;FB BLK START, ;FB START, ;FB END, ;FB BLK END, ;FB IN, ;FB OUT, ;FB_NAME, ;INSTANCE_NAME, ;FB, ;INSTANCE
共通命令	MOVなど
Windows予約語	COM1, COM2, COM3, COM4, COM5, COM6, COM7, COM8, COM9, LPT1, LPT2, LPT3, LPT4, LPT5, LPT6, LPT7, LPT8, LPT9, AUX, CON, PRN, NUL
サロゲートペア	0xD800～0xDBFF, 0xDC00～0xDFFF
制御コード	U+0000～U+001F, U+0080～U+009F, U+00A0～U+00BF, U+FFFE, U+FFFF
環境依存文字	

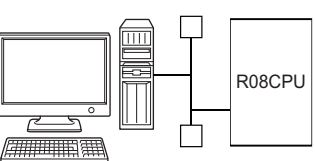
付

その他、ラベル使用時の注意事項

- システムラベルVer.1のラベルでは、33文字以上の文字列は使用できません。
- システムラベルVer.2のラベルでは、257文字以上の文字列は使用できません。
(システムラベルリスト名では33文字以上、構造体名では247文字以上の文字列は使用できません。)
- 半角カナ文字は使用できません。
- スペースは使用できません。
- 先頭文字に半角の数字は使用できません。
- ラベル名の太文字、小文字は区別されません。
- _(アンダーバー)は、ラベル名の先頭および最後には使用できません。
また、連続する_(アンダーバー)は、データ名およびラベル名には使用できません。
- ビットデバイスの桁付は使用できません。
- インデックス修飾は使用できません。
- バッファメモリは指定できません。
- ラベル登録時に、デバイスチェックを行いません。

付7 性能

下記のシステム構成における各性能を示します。

イメージ図	項目		内容
 Ethernet	パソコン	OS	Windows 10 Enterprise (64ビット版)
		CPU	Intel Core i5-4590(3.30GHz)
		メモリ	16GB
	対象CPU		R08CPU(パソコンと対象CPUは1対1で接続)
	通信経路		TCP/IP
	システムラベル登録数		1000件

MX Component(コントロール)の性能

時間性能

デバイスおよびラベルの読み込み/書き込み性能を示します。

処理/ラベル登録数		処理時間(ms)				
		デバイス	システムラベルVer.1		システムラベルVer.2	
			1回目	2回目	1回目	2回目
一括読み出し	1ワード(1ラベル)	5.9	230.5	10.7	174.4	12.5
	960ワード(1ラベル)	12.3	227.3	17.3	182.0	19.8
	12288ワード(1ラベル)	157.9	353.5	164.5	330.3	166.9
一括書き込み	1ワード(1ラベル)	5.6	218.1	11.0	177.5	12.0
	960ワード(1ラベル)	17.6	232.0	22.6	189.9	24.6
	12288ワード(1ラベル)	161.4	367.7	170.1	327.3	171.6
ランダム読み出し	1ワード(1ラベル)	5.6	31.0	4.5	40.8	5.0
	128ワード(128ラベル)	24.1	1802.7	38.2	2381.9	45.3
	256ワード(256ラベル)	42.3	3550.2	136.3	4866.6	169.8
ランダム書き込み	1ワード(1ラベル)	5.0	26.2	4.3	38.5	5.0
	128ワード(128ラベル)	30.5	1817.0	41.8	2334.5	47.0
	256ワード(256ラベル)	52.6	3550.1	140.2	4799.8	166.1

メモリ性能

DotUtilTypeコントロールのキャッシュメモリ使用量を示します。

処理		メモリ使用量(KB)	
		システムラベルVer.1	システムラベルVer.2
一括読み出し	1000ラベル	(160)*1	(160)*1
一括書き込み			
ランダム読み出し			
ランダム書き込み			

*1 ()内は理論値です。
 キャッシュサイズ(バイト)=160×使用したシステムラベル数
 160(バイト)=システムラベルあたりのキャッシュデータのサイズ
 システムラベル数=累計1000件の異なるシステムラベルを指定

ラベル管理サービスの性能

時間性能

ラベル管理サービスの時間性能を示します。

処理	システムラベル定義	処理時間(ms)
パソコン起動時のサービスによるメモリ展開処理	構造体型のシステムラベル	4101
	構造体型以外のシステムラベル	6161
システムラベルデータの最新化	構造体型のシステムラベル	5064
	構造体型以外のシステムラベル	7081

メモリ性能

ラベル管理サービスのメモリ使用量(ワーキングセット)を示します。

・測定条件: システムラベル登録数: 1000件

システムラベル定義	メモリ使用量(KB)	
	システムラベルVer.1	システムラベルVer.2
構造体型のシステムラベル	30256	30268
構造体型以外のシステムラベル	31604	32156

Point

測定条件のシステムラベル登録数は、構造体型以外の場合と、構造体型の場合で計算式が異なります。

- ・構造体型以外の場合: システムラベル登録数=ラベル管理ユーティリティで登録したシステムラベル数
- ・構造体型の場合: システムラベル登録数=(1+構造体要素数)×ラベル管理ユーティリティで登録したシステムラベル数

構造体型のシステムラベル登録数: 1000件については、構造体要素が9つの構造体型のシステムラベルを100件定義して、 $(1+9) \times 100 = 1000$ 件としています。

ラベル管理ユーティリティの性能

時間性能

ラベル管理ユーティリティの時間性能を示します。

処理	システムラベル定義	処理時間(秒)	
		システムラベルVer.1	システムラベルVer.2
ラベルスペースの変更(読出し)	構造体型のシステムラベル	7.2	6.2
	構造体型以外のシステムラベル	7.7	8.0
ラベルスペースの保存	構造体型のシステムラベル	8.7	6.8
	構造体型でないシステムラベル	9.2	9.1
インポート	構造体型のシステムラベル	0.9	0.6
	構造体型でないシステムラベル	0.8	0.9
エクスポート	構造体型のシステムラベル	0.8	0.9
	構造体型でないシステムラベル	0.8	0.9

「ラベルスペースの保存」の処理時間は、システムラベルの登録数が増えるほど保存前のチェック処理に時間がかかるようになるため、登録数の増加率以上に処理時間が増加します。

メモリ性能

ラベル管理ユーティリティのメモリ使用量(ワーキングセット)を示します。

・測定条件: システムラベル登録数: 1000件

システムラベル定義	メモリ使用量(KB)	
	システムラベルVer.1	システムラベルVer.2
システムラベル未定義	4108	4316
構造体型のシステムラベル	8608	7500
構造体型以外のシステムラベル	12872	12256

付

DISK占有サイズ

ラベル管理ユーティリティが生成するシステムラベルデータベースのDISK占有サイズを下記に示します。

システムラベル定義	DISK占有サイズ(KB)	
	システムラベルVer.1	システムラベルVer.2
ラベル未定義(システムラベル登録数: 0件)	1756	24
構造体型のシステムラベル(システムラベル登録数: 1000件)	2310	89
構造体型以外のシステムラベル(システムラベル登録数: 1000件)	2370	246

Point

測定条件のシステムラベル登録数は、構造体型以外の場合と、構造体型の場合で計算式が異なります。

- 構造体型以外の場合: システムラベル登録数=ラベル管理ユーティリティで登録したシステムラベル数
- 構造体型の場合: システムラベル登録数=(1+構造体要素数)×ラベル管理ユーティリティで登録したシステムラベル数

構造体型のシステムラベル登録数: 1000件については、構造体要素が9つの構造体型のシステムラベルを100件定義して、(1+9)×100=1000件としています。

付8 USBドライバのインストール

CPUユニットとUSB通信を行うには、USBドライバのインストールが必要です。

操作手順

1. パソコンとCPUユニットをUSBケーブルで接続し、CPUユニットの電源を入れてください。
2. Windowsのデバイスマネージャーで"不明なデバイス"を右クリックして"ドライバーの更新"をクリックします。
3. "ドライバーの更新"画面で、"コンピューターを参照してドライバーを検索"を選択し、次の画面でMX Component Version 5をインストールしたフォルダーの"Easysocket\USBDrivers"を指定します。

インストール時にインストールフォルダーを変更していない場合は下記となります。

- 64ビットOS: C:\Program Files (x86)\MELSOFT\Easysocket\USBDrivers
- 32ビットOS: C:\Program Files\MELSOFT\Easysocket\USBDrivers

なお、複数のMELSOFT製品をインストールしている場合、最初にインストールした製品のフォルダー内の"Easysocket\USBDrivers"を指定してください。

"Easysocket\USBDrivers"が存在しない場合、エクスプローラーで"USBDrivers"を検索してください。

"ユニバーサル シリアルバス コントローラー"に"MITSUBISHI Easysocket Driver"が表示されたらインストール成功です。

付9 ワードデバイスを状態監視する場合のプログラミング例

EntryDeviceStatusにて、ワードデバイスが負の値になるのを監視させる場合のプログラミング例について説明します。

Visual Basic .NETを使用する場合

Visual Basic .NETを使用し、D0が-10、D1が0、D2が10になるのを監視する場合のプログラミング例を以下に示します。

```
Dim szDevice As String           '監視するデバイスリスト
Dim lInputData(2) As Long        '設定する値
Dim lEntryData(2) As Long        'EntryDeviceStatus の引数に設定する値
Dim lReturnCode As Long          'EntryDeviceStatus 戻り値
Dim lCount As Long               'ループ用カウンタ
'監視するデバイスリストにD0, D1, D2 を設定する。
szDevice = "D0" + vbLf + "D1" + vbLf + "D2"
'D0に対する監視するデバイス値「-10」を設定する。
lInputData(0) = -10
'D1に対する監視するデバイス値「0」を設定する。
lInputData(1) = 0
'D2に対する監視するデバイス値「10」を設定する。
lInputData(2) = 10
'設定する値が負の値である場合は、EntryDeviceStatus に
'設定する値に変換するため、上位2バイトに「0」を格納する。
'デバイス点数分ループする。
For lCount = 0 To 2
    '設定する値が負の値の場合
    If lInputData(lCount) < 0 Then
        '上位2バイトに「0」を格納するため、65535(0000FFFF[hex])でマスクする。
        lEntryData(lCount) = lInputData(lCount) And 65535
    Else
        '設定する値が正の値である場合、そのままの値をlEntryDataに代入する。
        lEntryData(lCount) = lInputData(lCount)
    End If
Next
'EntryDeviceStatusを実行する。
lReturnCode = AxActUtilType1.EntryDeviceStatus(szDevice, 3, 5, lEntryData(0))
```

■lData=-1の場合

```
Private Sub AxActUtilType1_OnDeviceStatus(ByVal szDevice As String, ByVal lData As Long, ByVal lReturnCode As Long)
Dim lCheckData As Long           'EntryDeviceStatusで、設定した値(上位2バイトに0を格納する前の値)
'条件成立したデバイス値がWORD型の負の値(32767(7FFF[Hex])より大きい)である場合
If lData > 32767 Then
    '上位2バイトに「0」が格納されているため、FFFF0000[Hex]との
    '論理和をとることにより、LONG型の負の値に変換する。
    lCheckData = lData Or &HFFFF0000
Else
    '条件成立したデバイス値が正の値である場合、そのままの値をlCheckDataに代入する。
    lCheckData = lData
End If
End Sub
```

Visual C++を使用する場合

Visual C++を使用し、D0が-10、D1が0、D2が10になるのを監視する場合のプログラミング例を以下に示します。

```
CString szDevice;           // 監視するデバイスリスト
LONG lInputData[3];         // 設定する値
LONG lEntryData[3];         // EntryDeviceStatusの引数に設定する値
LONG lReturnCode;           // EntryDeviceStatus用返り値
LONG lCount;                // ループ用カウンタ
// 監視するデバイスリストにD0, D1, D2を設定する。
szDevice = "D0\\nD1\\nD2";
// D0に対する監視するデバイス値「-10」を設定する。
lInputData[0] = -10;
// D1に対する監視するデバイス値「0」を設定する。
lInputData[1] = 0;
// D2に対する監視するデバイス値「10」を設定する。
lInputData[2] = 10;

// 設定する値が負の値である場合は、EntryDeviceStatusに
// 設定する値に変換するため、上位2バイトに「0」を格納する。
// デバイス点数分ループする。
for(lCount = 0; lCount <= 2; lCount++) {
    // 設定する値が負の値の場合
    if (lInputData[lCount] < 0) {
        // 上位2バイトに「0」を格納するため、0x0000FFFFでマスクする。
        lEntryData[lCount] = lInputData[lCount] & 0x0000FFFF;
    }
    // 設定する値が正の値の場合
    else {
        // そのままの値をlEntryDataに代入する。
        lEntryData[lCount] = lInputData[lCount];
    }
}

//EntryDeviceStatusを実行する。
lReturnCode = m_Actutltype.EntryDeviceStatus(szDevice, 3, 5, lEntryData);
```

■lData=-1の場合

```
void CSampleDlg::OnDeviceStatusActutltype1(LPCTSTR szDevice, long lData, long lReturnCode)
{
    LONG lCheckData;          //EntryDeviceStatusで、設定した値(上位2バイトに0を格納する前の値)
    // 条件成立したデバイス値がWORD型の
    // 負の値(7FFF[Hex]より大きい)である場合
    if(lData > 0x7FFF){
        // 上位2バイトに「0」が格納されているため、FFFF0000[Hex]との
        // 論理和をとることにより、LONG型の負の値に変換する。
        lCheckData = lData | 0xFFFF0000;
    }
    else {
        // 条件成立したデバイス値が正の値である場合
        // そのままの値をlCheckDataに代入する。
        lCheckData = lData;
    }
}
```

Visual C#を使用する場合

Visual C#を使用し、D0が-10、D1が0、D2が10になるのを監視する場合のプログラミング例を以下に示します。

```
String szDevice;           // 監視するデバイスリスト
int[] iInputData = new int[3]; // 設定する値
int[] iEntryData = new int[3]; // EntryDeviceStatusの引数に設定する値
int iReturnCode;           // EntryDeviceStatus用返り値
int iCount;                // ループ用カウンタ
// 監視するデバイスリストにD0, D1, D2を設定する。
szDevice = "D0\nD1\nD2";
// D0に対する監視するデバイス値「-10」を設定する。
iInputData[0] = -10;
// D1に対する監視するデバイス値「0」を設定する。
iInputData[1] = 0;
// D2に対する監視するデバイス値「10」を設定する。
iInputData[2] = 10;

// 設定する値が負の値である場合は、EntryDeviceStatusに
// 設定する値に変換するため、上位2バイトに「0」を格納する。
// デバイス点数分ループする。
for(iCount = 0; iCount <= 2; iCount++) {
    // 設定する値が負の値の場合
    if (iInputData[iCount] < 0) {
        // 上位2バイトに「0」を格納するため、0x0000FFFFでマスクする。
        iEntryData[iCount] = iInputData[iCount] & 0x0000FFFF;
    }
    // 設定する値が正の値の場合
    else {
        // そのままの値をiEntryDataに代入する。
        iEntryData[iCount] = iInputData[iCount];
    }
}
axActUtilType1.ActLogicalStationNumber = 0;
iReturnCode = axActUtilType1.Open();
// EntryDeviceStatusを実行する。
iReturnCode = axActUtilType1.EntryDeviceStatus(szDevice, 3, 5, ref iEntryData[0]);
```


付10 タイムアウト時間について

MX ComponentではActコントロール内のActTimeOutプロパティに設定した値とは別の時間でタイムアウトが発生する場合があります。

各状態でのタイムアウト時間について説明します。

タイムアウトエラーでリトライする場合

通信を行いタイムアウトエラーが発生した場合、Actコントロール内部でタイムアウトの処理を最大3回繰り返すことがあります。

その際はタイムアウトが発生するまでに設定したタイムアウト値の最大3倍の時間がかかります。

受信データエラーでリトライする場合

通信を行い受信データエラーが発生した場合、Actコントロール内部で送受信のリトライ処理を最大3回繰り返すことがあります。

その際は関数が正常終了または異常終了するまでに設定したタイムアウト値の最大3倍の時間がかかります。

Actコントロール内部の固定時間でタイムアウトが発生する場合

MX Componentでは、Open関数を実行する際にパソコンとシーケンサシステムとの間で正常に接続されているかを確認するための通信を行います。

上記通信を行う場合、Actコントロール内部の固定タイムアウト時間(1000ms～4500ms)を使用します。

ただし、上記通信を行っている間にエラーが発生した場合、タイムアウトエラー以外のエラーが発生することがあります。

付11 トラブルシューティング

MX Componentを使用する上で発生するエラーの内容、およびトラブルシューティングについて説明します。

インストーラ実行時に自己登録されない場合

ローカルセキュリティポリシーの「ユーザーアカウント制御」の一部ポリシーについては、正しくインストールができなくなる設定があります。

下記のポリシーの設定を確認してください。

■アプリケーションのインストールを検出し、昇格をプロンプトする

[有効]を設定してください。

[無効]にすると、インストールの途中で自己登録エラーが発生する場合があります。

■署名され検証された実行ファイルのみを昇格する

[無効]を設定してください。

[有効]にすると、署名のない実行ファイルが実行できなくなるため、インストーラが正しく起動できなくなります。

■標準ユーザーに対する昇格時のプロンプトの動作

[セキュリティで保護されたデスクトップで資格情報を要求する]、または[資格情報を要求する]を設定してください。

[昇格の要求を自動的に拒否する]を設定すると昇格ができなくなり、インストーラが正しく起動できなくなります。

CPUユニット関連

■USB通信時

CPUユニットと交信中にUSBケーブルの脱着、CPUユニットのリセットおよび電源のOFF/ONを頻繁に行うと、交信エラーが発生し復旧しない場合があります。

その場合は、USBケーブルを一度完全に抜いて5秒以上経過後に再度装着してください。

なお、本操作後も初回交信時にエラーとなる場合がありますが、2回目以降は正常に機能します。

■CPUユニットの時計データについて

- QCPU(Qモード)、LCPU、およびFXCPUでは、CPUユニットがRUN状態でも時計データの設定が可能です。
- QCPU(Qモード)およびLCPUは、時計設定用デバイス"SM1028"のON/OFF状態に関係なく設定を行えます。
- FXCPUは、時計機能内蔵の機種で時計データが設定できます。
- 時計設定は、転送時間分の誤差が生じますのでご注意ください。

Ethernetユニット使用時

■TCP/IPコネクション確立中のCPUユニットリセット

MX Componentを使用してTCP/IPコネクション確立中(Open中)にCPUユニットをリセットすると、それ以降の通信時に通信エラーや受信エラーが発生します。

その場合は、MX Componentを使用するアプリケーション内でクローズ処理をしたあと、再度オープン処理を行ってください。

■Ethernetユニットの対象先生存確認開始間隔について

パソコンからクローズ処理(Close)を実行しても、Ethernetユニットがクローズ処理(Close)を実行しない場合があります。このような原因の1つに、ケーブルの断線があげられます。

Ethernetユニットがクローズ処理(Close)を実行しない状態でパソコンからオープン処理(Open)を実行しても、Ethernetユニットが対象先生存確認を行い、Ethernetユニットのクローズ処理(Close)を実行するまでは、パソコンからのオープン処理(Open)は正常終了しません。

パソコンからオープン処理(Open)を早期に終了させたい場合は、Ethernetユニットの対象先生存確認間隔を短く設定してください。

(Ethernetユニットの対象先生存確認開始間隔は、デフォルトでは10分となっています。)

■Ethernetユニットの交換

Ethernet通信を行っている際、デバッグや故障などによりEthernetユニットを交換した場合は、他ノード(パソコン)側の再起動が必要となります。

(Ethernetアドレス(MACアドレス)が機器ごとに異なっているためです。)

■Qシリーズ対応Ethernetユニット使用時の同時アクセスについて

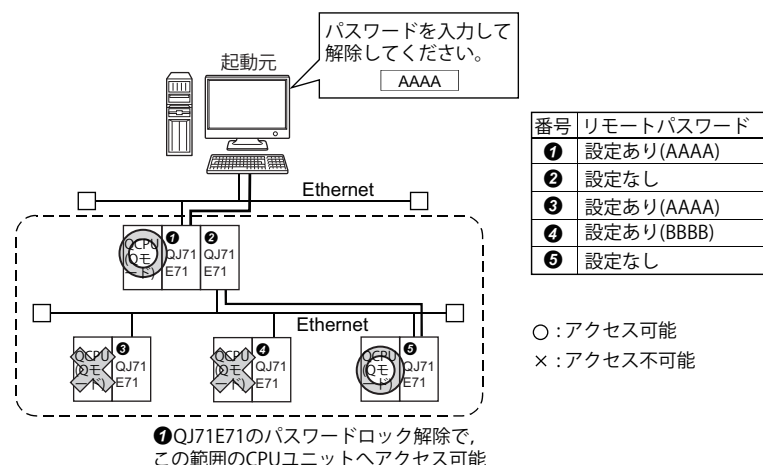
複数のパソコンから同一ユニットにTCP/IPプロトコルを用いて同時に通信を行う場合は、下記の条件を満たしてください。

- ・ シリアルNo.の上5桁が"02122"以降で機能バージョンB以降のQシリーズ対応E71ユニット(QJ71E71-100を除く)を使用する。
- ・ GX Works2を使用して、Ethernetパラメータの[オープン方式]を"MELSOFT接続"に設定する。

■QJ71E71使用時のパスワードロック解除について

遠隔操作によりパスワードロックを解除できる範囲は、接続対象局までです。

下位階層側にもパスワードが設定されていると、下位の階層のCPUユニットと交信することはできません。



■Ethernet通信について

- ・ Ethernet通信(プロトコルがTCP/IPの場合)にCPUダウンまたはEthernetユニットのリセットが発生すると、通信回線が切断されます。

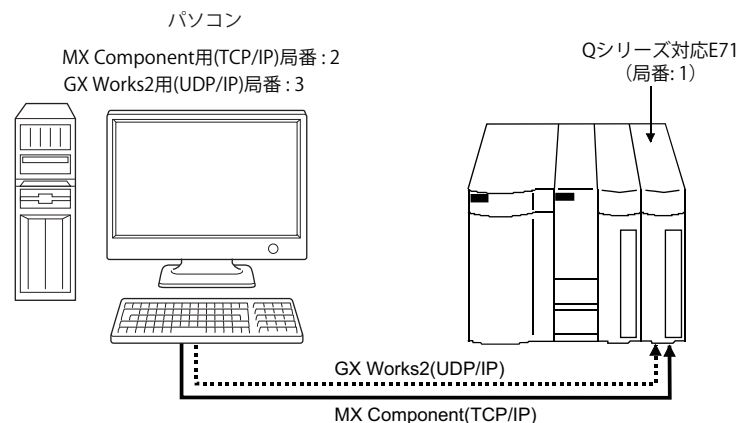
その場合は回線クローズ処理(Close)を実行後、再オープン処理(Open)を行ってください。

- ・ 1台のパソコンから2種類の通信方式(プロトコル)を使用して1台のQシリーズ対応E71にアクセスを行う場合、TCP/IP用局番とUDP/IP用局番の2通りを設定する必要があります。

ただし、MX Component Version 3以降とシリアル番号"05051"以降のQシリーズ対応E71を使用する場合は、TCP/IP用局番およびUDP/IP用局番を別々に設定する必要はありません。

例

MX ComponentがTCP/IP、GX Works2がUDP/IPを使用する場合



MX Component用(TCP/IP)局番とGX Works2用(UDP/IP)局番は、異なる局番に設定してください。
同一局番に設定すると、Ethernetユニット側でエラーが発生します。

通信時

■通信時にソケット生成エラー (0x01808007)が発生する場合

No.	条件	対処方法
1	GT SoftGOTを使用している場合	アプリケーション起動時に、右クリックで[管理者として実行]を選択してください。
2	上記No.1で解決しない場合	- 他のアプリケーションによって使用されているポート番号と異なる番号を、パソコン側で使用するポート番号に設定してください。 - 指定したIPアドレスの各オクテットの先頭が、0から始まっていないか確認してください。各オクテットの先頭を0に設定すると、対象のオクテットの値は8進数として処理されます。
3	上記No.1, 2で解決しない場合	下記項目を確認し、弊社、電話技術相談窓口へお問い合わせください。 - システム構成(接続先のシーケンサ形名、ユニットの形名、使用ネットワーク) - パソコンの名称(メーカー名)、CPU、メモリサイズ - OS、エディション、32ビット/64ビット - MX Componentのバージョン - 現象が発生するMX Componentの関数と引数 - 通信設定ユーティリティの設定内容 - 現象の発生頻度と発生手順

通信設定ユーティリティの設定保存時

■通信設定ユーティリティで設定を保存するときに発生するエラーとその対処方法について

エラーメッセージ	対処方法	注意事項
システム情報の更新に失敗しました。 - 操作権限がない可能性があります。管理者権限のあるユーザで実行してください。 - アプリケーションが動作する環境が壊れている可能性があります。再度インストールを行ってください。	Windowsのスタートで"MELSOFT"から"通信設定ユーティリティ"を選択し、右クリックで[管理者として実行]を選択し、アプリケーションを起動してください。	ラベル管理ユーティリティ実行時は、管理者権限で動作します。 ユーザーアカウント制御(UAC)の設定により動作が異なります。

Visual C++でフォームに貼り付けて使用する際に、ヘッダファイルが正しく作成されない場合

Visual Studio2019のバージョンにより、Visual C++でフォームに貼り付けて使用する際に、ヘッダファイルが正しく作成されない場合があります。

正しく作成されない場合は、"[ユーザ指定フォルダ]\Act\Include"に格納されている下記のヘッダファイルで、作成されたファイルを上書きしてください。

使用するコントロール	ヘッダファイル
ActUtilType	actutltype.h
ActUtilDataLogging	actutldatalogging.h
ActSupportMsg	actsupportmsg.h
ActProgType	actprogtype.h
ActProgDataLogging	actprogdatalogging.h

Visual Studio .NET を使用して、コントロールを使用するための設定でエラーが発生した場合

コントロールを使用するための設定で、エラーが発生することがあります。
対処方法は、下記のPointを参照してください。

Point

.NET Framework 4/.NET Framework 4.5/.NET Framework 4.6を使用したアプリケーションを作成する場合(下記は.NET Framework 4の例です。)アプリケーションの.exeファイルを含むフォルダに、下記の内容を記述したアプリケーション構成ファイル(app.config)を追加してください。

詳細についてはVisual Studioのヘルプを参照してください。

```
<configuration>
<startup useLegacyV2RuntimeActivationPolicy="true">
<supportedRuntime version="v4.0"/>
</startup>
</configuration>
```

コントロールをフォームに貼り付けて使用する場合

Point

- Visual C++ .NET/Visual Basic .NET/Visual C#のプロジェクトを使用する場合
"参照設定"に下記のライブラリが追加されます。

ActProgTypeの場合: ActProgTypeLib

ActUtilTypeの場合: ActUtilTypeLib

ActSupportMsgの場合: ActSupportMsgLib

DotUtilTypeの場合: MITSUBISHI.Component.DotUtilType

DotSupportMsgの場合: MITSUBISHI.Component.DotSupportMsg

各ライブラリのプロパティで"相互運用型の埋め込み"を"False"にしてください。

付

Visual C++を使用して、ユーザプログラムを作成するときにリンクエラーが発生した場合

1つのプログラムに.Netコントロール(DotUtilType)とActコントロール(ActUtilType)を同時に貼り付けて使用すると、リンクエラーが発生します。

対処方法は下記のとおりです。

アプリケーション構成ファイルの追加手順

1. [プロジェクト]⇒[新しい項目の追加]を選択します。
2. [インストール済み]⇒[Visual C++]⇒[ユーティリティ]を選択します。
3. "構成ファイル(app.config)"を選択し、[追加]をクリックします。
4. アプリケーション構成ファイル(app.config)に下記の内容を記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<configuration>
  <startup useLegacyV2RuntimeActivationPolicy="true">
    <supportedRuntime version="v4.0"/>
  </startup>
</configuration>
```

5. [プロジェクト]⇒[プロパティ]を選択します。
6. [構成プロパティ]⇒[ビルド イベント]⇒[ビルド後のイベント]を選択します。
7. "コマンド ライン"に"copy app.config"\$(TargetPath).config""を設定します。

コントロールの貼り付け手順

対処方法は、下記のPointを参照してください。

Point

1つのプログラムに.Netコントロール(DotUtilType)とActコントロール(ActUtilType)を同時に貼り付けて使用する場合、ソリューションエクスプローラーの[プロジェクト]⇒[プロパティ]メニューから下記の操作を実施してください。

- ① [共通プロパティ]⇒[Frameworkと参照]を選択する。
- ② "参照"の"名前"から"ActUtilTypeLib"を選択し、"ビルドプロパティ"の"参照アセンブリの出力"の設定を"False"に変更する。
- ③ "参照"の"名前"から"Interop.ActUtilTypeLib.1.0"を選択し、"ビルドプロパティ"の"参照アセンブリの出力"の設定を"False"に変更する。
- ④ [OK]をクリックし、設定の変更を反映する。

GX Simulator3との通信時に未起動エラーが発生した場合

MX Component Version 4.15R以前の設定をインポートしてGX Simulator3通信を行った場合、GX Simulator3未起動エラー(0xF1000020)が発生します。

対処方法は下記のとおりです。

ユーティリティ設定タイプのコントロールを使用している場合

シミュレータのポート番号を基準値5500で計算し、その値を通信設定ユーティリティで再設定してください。

- ポート番号=5500+システムNo.×10+号機No. (システムNo.=1, 号機No.=1 の場合, 5511=5500+1×10+1)

プログラム設定タイプのコントロールを使用している場合

シミュレータのポート番号を基準値5500で計算し、その値をコントロールのプロパティに渡すように変更してください。

- ポート番号=5500+システムNo.×10+号機No. (システムNo.=1, 号機No.=1 の場合, 5511=5500+1×10+1)

付12 従来品との相違点および互換性

MX ComponentのVersion 4とVersion 5の相違点，および互換性について示します。

Version 5.000A以降のバージョンで追加，変更になった機能については下記を参照してください。

📖 636ページ 以前のバージョンからの変更点

Point

MX Component Version 5で対応しなくなった開発環境や通信経路などを使用したい場合は，MX Component Version 4を使用してください。

ただし，MX Component Version 4は，MX Component Version 5と同じパソコンにインストールできません。

MX Component Version 5をアンインストールしてから，インストールしてください。

また，MX Component Version 4を使用する場合は，FAサイトにて当社製品の脆弱性についての最新の情報を確認し，必要な対策を実施してください。

MX Component Version 4は，MX Component Version 5のDVDに格納されています。

MX Component Version 4との比較

開発環境

MX ComponentのVersion 4とVersion 5の開発環境の差異を示します。

項目		MX Component Version 4	MX Component Version 5
OS ^{*1}	Windows	Microsoft Windows 10 Microsoft Windows 8.1 Microsoft Windows 8 Microsoft Windows 7 Microsoft Windows Vista Microsoft Windows XP	Microsoft Windows 11 IoT Enterprise 2024 Microsoft Windows 11 Microsoft Windows 10 IoT Enterprise 2019 Microsoft Windows 10 IoT Enterprise 2016 Microsoft Windows 10 Microsoft Windows Server 2025 Microsoft Windows Server 2022 Microsoft Windows Server 2019
プログラミング言語 ^{*1}	Visual Basic .NET	Microsoft Visual Studio 2017 Visual Basic Microsoft Visual Studio 2015 Visual Basic Microsoft Visual Studio 2013 Visual Basic Microsoft Visual Studio 2012 Visual Basic Microsoft Visual Studio 2010 Visual Basic Microsoft Visual Studio 2008 Visual Basic Microsoft Visual Studio 2005 Visual Basic	Microsoft Visual Studio 2022 Visual Basic Microsoft Visual Studio 2019 Visual Basic
	Visual C++	Microsoft Visual Studio 2017 Visual C++ Microsoft Visual Studio 2015 Visual C++ Microsoft Visual Studio 2013 Visual C++ Microsoft Visual Studio 2012 Visual C++ Microsoft Visual Studio 2010 Visual C++ Microsoft Visual Studio 2008 Visual C++ Microsoft Visual Studio 2005 Visual C++	Microsoft Visual Studio 2022 Visual C++ Microsoft Visual Studio 2019 Visual C++
	Visual C#	Microsoft Visual Studio 2017 Visual C# Microsoft Visual Studio 2015 Visual C# Microsoft Visual Studio 2013 Visual C# Microsoft Visual Studio 2012 Visual C# Microsoft Visual Studio 2010 Visual C# Microsoft Visual Studio 2008 Visual C# Microsoft Visual Studio 2005 Visual C#	Microsoft Visual Studio 2022 Visual C# Microsoft Visual Studio 2019 Visual C#
	VBA	Microsoft Excel 2019(32ビット版) Microsoft Excel 2016(32ビット版) Microsoft Excel 2013(32ビット版) Microsoft Excel 2010(32ビット版) Microsoft Excel 2007 Microsoft Excel 2003	Microsoft Excel for Microsoft 365(64ビット版) Microsoft Excel 2024(32ビット版/64ビット版) Microsoft Excel 2021(32ビット版/64ビット版) Microsoft Excel 2019(32ビット版/64ビット版)
		Microsoft Access 2019(32ビット版) Microsoft Access 2016(32ビット版) Microsoft Access 2013(32ビット版) Microsoft Access 2010(32ビット版) Microsoft Access 2007 Microsoft Access 2003	Microsoft Access for Microsoft 365(64ビット版) Microsoft Access 2024(32ビット版/64ビット版) Microsoft Access 2021(32ビット版/64ビット版) Microsoft Access 2019(32ビット版/64ビット版)
	VBScript	テキストエディタおよび市販のHTMLツール	非対応

*1 OSおよびプログラミング言語の詳細は下記を参照してください。

- ・MX Component Version 4:  MX Component Version 4 オペレーティングマニュアル
- ・MX Component Version 5:  MX Component Version 5 インストール手順書

付

通信経路

MX ComponentのVersion 4とVersion 5の通信経路の差異を示します。

Point

使用するOSにより通信の可否が異なります。また、使用可能なボードおよびドライバにもバージョンの制約がある場合があります。

詳細は、下記を参照してください。

- 29ページ サポートする通信経路
- 34ページ ユニット

○: 通信可, ×: 通信不可

通信経路	MX Component Version 4*1	MX Component Version 5
シリアルコミュニケーション通信	○	○
Ethernet通信	○	○
CPU COM通信	○	○
CPU USB通信	○	○
MELSECNET/H通信	○	○*2*3
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	○	○*2*3
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	○	○*2*3
CC-Link IE TSN通信	×	○*2*3
CC-Link通信	○	○*2*3
CC-Linkシステム RS-232インタフェース通信	○	○
Qシリーズバス通信(パソコンCPUユニット使用時のみ)	○	×
GX Simulator通信	○	×
GX Simulator2通信	○	○
GX Simulator3通信	○	○
MT Simulator2通信	○	○
MELSOFT Mirror通信	×	○
モデム通信	○	×
GOTゲートウェイデバイス通信	○	○
GOTトランスペアレント通信	○	○
インバータCOM通信	○	○
インバータUSB通信	○	○
ロボットコントローラCOM通信	○	○*3
ロボットコントローラUSB通信	○	○*3
ロボットコントローラEthernet通信	○	○*3

*1 使用するOSにより通信の可否が異なります。(📖MX Component Version 4 オペレーティングマニュアル)

*2 Windows 10 Education使用時は未サポートです。

*3 Windows 10 IoT Enterprise 2016 LTSB使用時は64ビット版未サポートです。

接続可能機種

MX ComponentのVersion 4とVersion 5の接続可能機種の差異を示します。

○: 対応, ×: 非対応

分類	シリーズ	MX Component Version 4	MX Component Version 5
CPU	RCPU	○	○
	RCCPU	○	○
	RモーションCPU	○	○
	LHCPU	○	○
	FX5CPU	○	○
	QCPU(Qモード)	○	○ ^{*1}
	LCPU	○	○
	QCCPU	○	○
	QSCPU	○	○
	QモーションCPU	○	○ ^{*2}
	FXCPU(FX3CPU) ^{*3}	○	○
	FXCPU(FX0CPU～FX2CPU) ^{*4}	○	×
GOT	GOT1000	○	×
	GOT2000	○	○
インバータ	A800	○	○
ロボットコントローラ	CR750	○	○
	CRnD-700	○	○
シミュレータ	GX Simulator	○	×
	GX Simulator2	○	○
	GX Simulator3	○	○
	MT Simulator2	○	○

*1 ベーシックモデルQCPU, ハイパフォーマンスモデルQCPU, プロセスCPUはサポートしていません。

*2 Q172CPU, Q173CPU, Q172HCPU, Q173HCPUはサポートしていません。

*3 FX3SCPU, FX3GCPU, FX3GCCPU, FX3UCPU, FX3UCCPU

*4 FX0CPU, FX0SCPU, FX0NCP, FX1CPU, FX1NCP, FX1NCCPU, FX1SCPU, FX2CPU, FX2CCPU, FX2NCP, FX2NCCPU

付

コントロールの比較

MX ComponentのVersion 3, Version 4, およびVersion 5のコントロールの相違点を示します。

Actコントロール

■プログラム設定タイプ

MX Component Version 3		MX Component Version 4		MX Component Version 5	
32ビット	64ビット	32ビット	64ビット	32ビット	64ビット*1
ActCCBD	—	ActProgType	—	ActProgType	ActProgType64
ActCCG4A	—		—		
ActCCG4Q	—		—		
ActCCG4QnA	—		—		
ActCCIEFADPTCP	—		—		
ActCCIEFADPUDP	—		—		
ActCCIEFBD	—		—		
ActFX485BD	—		—		
ActFXCPU	—		—		
ActFXCPUUSB	—		—		
ActFXENETTCP	—		—		
ActGOT	—		—		
ActGOTTRSP	—		—		
ActLCPU	—		—		
ActLCPUTCP	—		—		
ActLCPUUDP	—		—		
ActLCPUUSB	—		—		
ActLJ71C24	—		—		
ActLLT	—		—		
ActMnet10BD	—		—		
ActMnet2BD	—		—		
ActMnetGBD	—		—		
ActMnetHBD	—		—		
ActQCPUA	—		—		
ActQCPUQ	—		—		
ActQCPUQBus	—		—		
ActQCPUQUSB	—		—		
ActQJ71C24	—		—		
ActQJ71E71TCP	—		—		
ActQJ71E71UDP	—		—		
ActQnACPU	—		—		
ActQNUDECPUTCP	—		—		
ActQNUDECPUUDP	—		—		
ActSIM	—		—		

MX Component Version 3		MX Component Version 4		MX Component Version 5	
32ビット	64ビット	32ビット	64ビット	32ビット	64ビット ^{*1}
ActMLCCBD	—	ActMLProgType	—	—	—
ActMLCCG4A	—		—	—	—
ActMLCCG4Q	—		—	—	—
ActMLCCG4QnA	—		—	—	—
ActMLCCIEFADPTCP	—		—	—	—
ActMLCCIEFADPUDP	—		—	—	—
ActMLCCIEFBD	—		—	—	—
ActMLFX485BD	—		—	—	—
ActMLFXCPU	—		—	—	—
ActMLFXCPUUSB	—		—	—	—
ActMLFXNETTCP	—		—	—	—
ActMLGOT	—		—	—	—
ActMLGOTTRSP	—		—	—	—
ActMLLCPU	—		—	—	—
ActMLLCPUTCP	—		—	—	—
ActMLLCPUUDP	—		—	—	—
ActMLLCPUUSB	—		—	—	—
ActMLLJ71C24	—		—	—	—
ActMLLLT	—		—	—	—
ActMLMnet10BD	—		—	—	—
ActMLMnet2BD	—		—	—	—
ActMLMnetGBD	—		—	—	—
ActMLMnetHBD	—		—	—	—
ActMLQCPUA	—		—	—	—
ActMLQCPUQ	—		—	—	—
ActMLQCPUQBus	—		—	—	—
ActMLQCPUQUSB	—		—	—	—
ActMLQJ71C24	—		—	—	—
ActMLQJ71E71TCP	—		—	—	—
ActMLQJ71E71UDP	—		—	—	—
ActMLQnACPU	—		—	—	—
ActMLQNUDECPUTCP	—		—	—	—
ActMLQNUDECPUUDP	—		—	—	—
ActMLSIM	—		—	—	—
ActFXCPUTEL	—	—	—	—	—
ActLJ71C24TEL	—	—	—	—	—
ActQ6TEL	—	—	—	—	—
ActQJ71C24TEL	—	—	—	—	—
ActSupport	—	ActSupportMsg	—	ActSupportMsg	ActSupportMsg64
ActMLSupport	—	ActMLSupportMsg	—	—	—
ActACPU	—	—	—	—	—
ActAFBD	—	—	—	—	—
ActAJ71C24	—	—	—	—	—
ActAJ71E71TCP	—	—	—	—	—
ActAJ71E71UDP	—	—	—	—	—
ActAJ71QC24	—	—	—	—	—
ActAJ71QE71TCP	—	—	—	—	—
ActAJ71QE71UDP	—	—	—	—	—
ActAJ71UC24	—	—	—	—	—
ActAnUBD	—	—	—	—	—
ActMLACPU	—	—	—	—	—
ActMLAFBD	—	—	—	—	—

MX Component Version 3		MX Component Version 4		MX Component Version 5	
32ビット	64ビット	32ビット	64ビット	32ビット	64ビット*1
ActMLAJ71C24	—	—	—	—	—
ActMLAJ71E71TCP	—	—	—	—	—
ActMLAJ71E71UDP	—	—	—	—	—
ActMLAJ71QC24	—	—	—	—	—
ActMLAJ71QE71TCP	—	—	—	—	—
ActMLAJ71QE71UDP	—	—	—	—	—
ActMLAJ71UC24	—	—	—	—	—
ActMLAnUBD	—	—	—	—	—
ActA6TEL	—	—	—	—	—
ActAJ71QC24TEL	—	—	—	—	—
—	—	ActProgDataLogging	—	ActProgDataLogging	ActProgDataLogging64

*1 フォームに貼り付けて使用する方法は使用できません。

■ユーティリティ設定タイプ

MX Component Version 3		MX Component Version 4		MX Component Version 5	
32ビット	64ビット	32ビット	64ビット	32ビット	64ビット*1
ActEasyIF	—	ActUtilType	—	ActUtilType	ActUtilType64
ActMLEasyIF	—	ActMLUtilType	—	—	—
—	—	ActUtilDataLogging	—	ActUtilDataLogging	ActUtilDataLogging64

*1 フォームに貼り付けて使用する方法は使用できません。

.Netコントロール

■ユーティリティ設定タイプ

MX Component Version 3		MX Component Version 4		MX Component Version 5	
32ビット	64ビット	32ビット	64ビット	32ビット	64ビット*1
—	—	DotUtilType	—	DotUtilType	DotUtilType64
—	—	DotSupportMsg	—	ActSupportMsg*2	ActSupportMsg64

*1 フォームに貼り付けて使用する方法は使用できません。

*2 DotSupportMsgのコントロールは、Version 5.000AでActSupportMsgに統合しました。

置き換えについて

MX Component Version 4で作成したプログラムや通信設定は、MX Component Version 5に流用できます。

インストール

MX Component Version 5は、MX Component Version 4、MX Component Version 3と同じパソコンにインストールできます。

MX Component Version 4、MX Component Version 3をアンインストールしてから、インストールしてください。

プログラムの流用

MX Component Version 5には、MX Component Version 4のコントロールが含まれています。

このため、MX Component Version 4のコントロールを使用して作成したプログラムは、MX Component Version 5で動作します。

通信設定の流用

MX Component Version 4の設定ファイル(ACTファイル)を、MX Component Version 5の通信設定ユーティリティでインポートしてください。(64ページ インポート)

MX Component Version 4およびMX Component Version 5のコントロールで使用できます。

■エクスポート/インポート

通信設定のエクスポート/インポートを使用してMX Component Version 4の通信設定およびシステムラベルをMX Component Version 5に流用できます。

通信設定およびシステムラベルの対応表は、下記のとおりです。

エクスポート	インポート	
	MX Component Version 4	MX Component Version 5
MX Component Version 4	○	○
MX Component Version 5	×	○

付

コントロールの使用方法

■32ビットで使用する場合

MX Component Version 4のDotSupportMsgコントロールをMX Component Version 5で使用する場合は、ActSupportMsgコントロールに置き換えてください。

上記以外のMX Component Version 4のコントロールは、MX Component Version 5で、そのまま使用可能です。

■64ビットで使用する場合

- MX Component Version 4のコントロールをオブジェクトを生成して使用していた場合

64ビット用のコントロールに置き換えることで、MX Component Version 5で使用可能です。(674ページ コントロールの比較)

例

DotSupportMsg → ActSupportMsg64

- MX Component Version 4のコントロールをフォームに貼り付けて使用していた場合

MX Component Version 5では、フォームに貼り付けて使用することはできません。

オブジェクトを生成して使用方法に変更してください。

- Visual Basic .NET, Visual C#: 48ページ オブジェクトを生成して使用する場合
- Visual C++: 51ページ オブジェクトを生成して使用する場合

関数索引

C

Close(通信回線のクローズ) 415,487,496

D

Dispose(メモリの解放) 592

E

EntryDeviceStatus(デバイスの状態監視登録) 457,549

F

FreeDeviceStatus(デバイスの状態監視登録解除).....
461,553

G

GetClockData(時計データ読出し) 443,543
GetCpuType(CPUユニット形名読出し) 452,547
GetDevice(デバイスデータの取得) 432,535
GetDevice2(デバイスデータの取得) 480,589
GetErrorMessage(エラー内容と処置方法の取得) . 483
GetFile(ロギングファイルの転送) 493

O

OnDeviceStatus(イベント告知) 462,554
Open(通信回線のオープン) 413,485,495

R

ReadBuffer(バッファメモリ読出し) 435,539
ReadClose(検索の終了) 492
ReadDeviceBlock(デバイスの一括読出し) ... 416,497
ReadDeviceBlock2(デバイスの一括読出し) .. 465,556
ReadDeviceRandom(デバイスのランダム読出し)
423,509
ReadDeviceRandom2(デバイスのランダム読出し) ...
471,565
ReadFirstFile(ファイル名/ディレクトリ名の検索) 488
ReadNextFile(ファイル名/ディレクトリ名の検索) 490

S

SetClockData(時計データ書込み) 448,545
SetCpuStatus(リモートコントロール) 454,548
SetDevice(デバイスデータの設定) 430,531
SetDevice2(デバイスデータの設定) 477,585

W

WriteBuffer(バッファメモリ書込み) 439,541
WriteDeviceBlock(デバイスの一括書込み) .. 419,503
WriteDeviceBlock2(デバイスの一括書込み) . 468,560
WriteDeviceRandom(デバイスのランダム書込み)
427,520
WriteDeviceRandom2(デバイスのランダム書込み) ...
474,574

改訂履歴

*取扱説明書番号は、本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

改訂年月	*取扱説明書番号	改訂内容
2021年4月	SH(名)-082394-A	初版
2021年11月	SH(名)-082394-B	■追加・修正箇所 総称/略称, 2.1節, 2.4節, 5.1節, 9.1節, 9.2節, 10.2節, 10.14節, 11.2節, 12章, 13.1節, 付1, 付12, 付13, 商標
2022年3月	SH(名)-082394-C	■追加・修正箇所 2.1節, 付1, 付13
2022年10月	SH(名)-082394-D	■追加・修正箇所 用語, 総称/略称, 2.1節, 2.4節, 9.1節, 9.2節, 10.2節, 10.3節, 10.4節, 10.14節, 11.2節, 11.5節, 12章, 13章, 付1, 付13
2023年5月	SH(名)-082394-E	■追加・修正箇所 2.1節, 2.4節, 6.1節, 8.1節, 9.2節, 付1, 付13
2023年10月	SH(名)-082394-F	■追加・修正箇所 総称/略称, 2.2節, 2.3節, 2.4節, 2.5節, 4章, 5.1節, 6.16節, 8.1節, 8.2節, 9.2節, 10.8節, 11.2節, 11.3節, 11.5節, 13.1節, 付1, 付12
2024年4月	SH(名)-082394-G	■追加・修正箇所 2.2節, 2.3節, 2.5節, 5.1節, 6.13節, 8.1節, 9.1節, 9.2節, 10.2節, 10.6節, 10.14節, 11.3節, 13.1節, 付1, 付5, 付12
2024年12月	SH(名)-082394-H	■追加・修正箇所 1.2節, 1.3節, 2.1節, 3.1節, 4.2節, 4.3節, 7.1節, 9.2節, 10.2節, 11.3節, 付1, 付12
2025年8月	SH(名)-082394-I	■追加・修正箇所 2.1節, 付1, 付12

本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については、当社は一切その責任を負うことができません。

© 2021 MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

保証について

ご使用に際しましては、以下の製品保証内容をご確認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

1. 無償保証期間と無償保証範囲

無償保証期間中に、製品に当社側の責任による故障や瑕疵（以下併せて「故障」と呼びます）が発生した場合、当社はお買い上げいただきました販売店または当社サービス会社を通じて、無償で製品を修理させていただきます。

ただし、国内および海外における出張修理が必要な場合は、技術者派遣に要する実費を申し受けます。

また、故障ユニットの取替えに伴う現地再調整・試運転は当社責務外とさせていただきます。

【無償保証期間】

製品の無償保証期間は、お客様にてご購入後またはご指定場所に納入後 36 ヶ月とさせていただきます。

ただし、当社製品出荷後の流通期間を最長 6 ヶ月として、製造から 42 ヶ月を無償保証期間の上限とさせていただきます。

また、修理品の無償保証期間は、修理前の無償保証期間を超えて長くなることはありません。

【無償保証範囲】

(1) 一次故障診断は、原則として貴社にて実施をお願い致します。

ただし、貴社要請により当社、または当社サービス網がこの業務を有償にて代行することができます。この場合、故障原因が当社側にある場合は無償と致します。

(2) 使用状態・使用方法、および使用環境などが、取扱説明書、ユーザーズマニュアル、製品本体注意ラベルなどに記載された条件・注意事項などに従った正常な状態で使用されている場合に限定させていただきます。

(3) 無償保証期間内であっても、以下の場合には有償修理とさせていただきます。

① お客様における不適切な保管や取扱い、不注意、過失などにより生じた故障およびお客様のハードウェアまたはソフトウェア設計内容に起因した故障。

② お客様にて当社の了解なく製品に改造などの手を加えたことに起因する故障。

③ 当社製品がお客様の機器に組み込まれて使用された場合、お客様の機器が受けている法的規制による安全装置または業界の通念上備えられているべきと判断される機能・構造などを備えていれば回避できたと認められる故障。

④ 取扱説明書などに指定された消耗部品が正常に保守・交換されていれば防げたと認められる故障。

⑤ 消耗部品（バッテリー、リレー、ヒューズなど）の交換。

⑥ 火災、異常電圧などの不可抗力による外部要因および地震、雷、風水害などの天変地異による故障。

⑦ 当社出荷当時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障。

⑧ その他、当社の責任外の場合またはお客様が当社責任外と認めた故障。

2. 生産中止後の有償修理期間

(1) 当社が有償にて製品修理を受け付けることができる期間は、その製品の生産中止後 7 年間です。

生産中止に関しましては、当社テクニカルニュースなどにて報じさせていただきます。

(2) 生産中止後の製品供給（補用品も含む）はできません。

3. 海外でのサービス

海外においては、当社の各地域 FA センターで修理受付をさせていただきます。ただし、各 FA センターでの修理条件などが異なる場合がありますのでご了承ください。

4. 機会損失、二次損失などへの保証責務の除外

無償保証期間の内外を問わず、以下については当社責務外とさせていただきます。

(1) 当社の責に帰すことができない事由から生じた障害。

(2) 当社製品の故障に起因するお客様での機会損失、逸失利益。

(3) 当社の予見の有無を問わず特別の事情から生じた損害、二次損害、事故補償、当社製品以外への損傷。

(4) お客様による交換作業、現地機械設備の再調整、立上げ試運転その他の業務に対する補償。

5. 製品仕様の変更

カタログ、マニュアルもしくは技術資料などに記載の仕様は、お断りなしに変更させていただく場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

以 上

サービスのお問い合わせ

修理・サービスに関するお問い合わせはこちらにお問い合わせください。

三菱電機システムサービス株式会社

北日本支社		(022) 353-7814	北陸支店		(076) 252-9519
北海道支店		(011) 890-7515	関西支社		(06) 6458-9728
首都圏第2支社		(03) 3454-5521	京滋機器サービスステーション		(075) 874-3614
神奈川機器サービスステーション		(045) 938-5420	姫路機器サービスステーション		(079) 269-8845
関越機器サービスステーション		(048) 708-5910	中四国支社		(082) 285-2111
新潟機器サービスステーション		(025) 241-7261	岡山機器サービスステーション		(086) 242-1900
中部支社		(052) 722-7601	四国支店		(087) 831-3186
静岡機器サービスステーション		(054) 287-8866	九州支社		(092) 483-8208

商標

Intelは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの登録商標または商標です。

Javaは、オラクルおよびその関連会社の登録商標です。

Microsoft, Microsoft Access, Excel, Visual Basic .NET, Visual C++, Visual C#, Visual Studio, Windows, Windows Vista, およびWindows XPは、マイクロソフトグループの企業の商標です。

本文中における会社名、システム名、製品名などは、一般に各社の登録商標または商標です。

本文中で、商標記号(™, ®)は明記していない場合があります。

著作権

SPREAD

Copyright © 2004 FarPoint Technologies, Inc.

VSFlexGrid8 Pro

Copyright © 2008 ComponentOne LLC.

三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部	〒100-8310	東京都千代田区丸の内2-7-3 (東京ビル)	(03) 3218-2606
関東機器営業部	〒330-6034	さいたま市中央区新都心11-2 (明治安田生命さいたま新都心ビル)	(048) 600-5835
新潟支店	〒950-8504	新潟市中央区東大通2-4-10 (日本生命新潟ビル)	(025) 241-7227
神奈川機器営業部	〒220-8118	横浜市西区みなとみらい2-2-1 (横浜ランドマークタワー)	(045) 224-2624
北海道支社	〒060-8693	札幌市中央区大通西3-11 (北洋ビル)	(011) 212-3792
東北支社	〒980-0013	仙台市青葉区花京院1-1-20 (花京院スクエア)	(022) 216-4546
北陸支社	〒920-0031	金沢市広岡3-1-1 (金沢パークビル)	(076) 233-5502
中部支社	〒450-6423	名古屋市中村区名駅3-28-12 (大名古屋ビルヂング)	(052) 565-3314
豊田支店	〒471-0034	豊田市小坂本町1-5-10 (矢作豊田ビル)	(0565) 34-4112
関西支社	〒530-8206	大阪市北区大深町4-20 (グランフロント大阪タワーA)	(06) 6486-4122
中国支社	〒730-8657	広島市中区中町7-32 (ニッセイ広島ビル)	(082) 248-5348
四国支社	〒760-8654	高松市寿町1-1-8 (日本生命高松駅前ビル)	(087) 825-0055
九州支社	〒810-8686	福岡市中央区天神2-12-1 (天神ビル)	(092) 721-2247

三菱電機 FA

検索

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa

メンバー
登録無料!

インターネットによる情報サービス「三菱電機FAサイト」

三菱電機FAサイトでは、製品や事例などの技術情報に加え、トレーニングスクール情報や各種お問い合わせ窓口をご提供しています。また、メンバー登録いただくとマニュアルやCADデータ等のダウンロード、eラーニングなどの各種サービスをご利用いただけます。

仕様・機能に関するお問い合わせ

製品ごとにお問い合わせを受け付けております。
三菱電機FAサイト - 仕様・機能に関するお問い合わせ
www.MitsubishiElectric.co.jp/fa/contact-us/spec/



本マニュアル対象機種の電話技術相談窓口

音声ガイダンスに従って「お客様相談内容に関する代理店、商社への提供可否」の回答後、機種選択番号を入力してください。
「お客様相談内容に関する代理店、商社への提供可否」の回答後であれば、ガイダンスの途中で機種選択番号を入力できます。

対象機種	共通電話番号	機種選択番号	受付時間※1
MELSOFT通信支援ソフトウェアツール	052-712-2444	2→4	月曜～木曜 9:00～19:00 金曜 9:00～17:00 (祝日を除く)

お問い合わせの際には、今一度電話番号をお確かめの上、お掛け間違いのないようお願いいたします。

※1: 春季・夏季・年末年始の休日を除く

ORIGINAL INSTRUCTIONS

SH(名)-082394-I(2508)

形名: MXCV5-R-J

2025年8月作成

本マニュアルは、お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。
本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。